

海外果樹農業情報 No.171

2024-6

海外の果樹産業ニュース 2024 年度下期版

2025 年 3 月

公益財団法人 中央果実協会
[JAPAN FRUIT ASSOCIATION]

本書の内容について、ご質問やお気づきの点がありましたら、
下記あてにご連絡下さるようお願いいたします。

公益財団法人 中央果実協会 情報部

〒100-0011 千代田区内幸町 1-2-1 日土地内幸町ビル 2 階

【電 話】 03-6910-2922 (代)

【F A X】 03-6910-2923

序 文

果樹農業を取り巻く国際化の進展に伴い、我が国の果樹産業は外国産果実及びその加工品等との競争が激化しており、一方で果実の輸出促進の努力が行われています。

このような我が国の果樹産業を取り巻く環境の変化に対応した関係機関・団体等からの海外果樹関係の情報ニーズの高まりを踏まえ、当協会では農林水産省補助事業「果樹農業生産力増強総合対策」における調査研究等事業の一環として、海外における果実及びその加工品等の生産・流通事情等に関する情報の収集・提供を行うことにより、我が国果樹産業の振興・活性化並びに果実の需給と価格の安定及び輸出の振興に資することとしています。

具体的には、特定のテーマを対象とした調査報告書及び果樹全般についてのFAO(国連食糧農業機関)の生産貿易統計データ等を元とした報告書を取りまとめて刊行するほか、海外の果樹産業を扱う雑誌、新聞、ウェブサイトから我が国果樹産業に密接に関係する記事や公表資料を翻訳し関係者に提供しています。

この度は2024年11月から2025年2月に翻訳・提供したニュースを取りまとめ刊行することといたしました。また、本書は当協会ウェブサイトにもカラー版を掲載しています。

本書が最近の世界の果樹産業事情を理解する上で少しでもお役に立てば幸いです。

なお、本書の翻訳責任は当協会にあることを申し添えます。

2025年3月

公益財団法人 中央果実協会

理事長 村上 秀徳

目 次

274. 米国カリフォルニア州 カンキツグリーニング病検疫規制地域を拡大	1
275. ブラジル 柑橘類地帯の雨が2025年の供給回復への期待をもたらす	1
276. ニューージーランドの落葉果実事情(リンゴ)	2
277. オーストラリア 果汁価格が上昇し柑橘類を後押し.....	9
278. 南アフリカ ブドウは熱波で収量減だが輸出は依然として楽観的	9
279. 米国 裁判所はサクランボ「新品種」を既存品種と同じと判断	10
280. ニューージーランド 9月の寒波でキウイのシーズンは不透明に.....	10
281. 中国 赤ブドウの輸出実績が悪化し品種更新の必要性	11
282. エジプトの落葉果実事情(ブドウ)	12
283. 南アフリカの落葉果実事情(リンゴ、ブドウ)	16
284. 中国の落葉果実事情(リンゴ、ナシ、ブドウ)	25
285. 韓国の落葉果実事情(ナシ).....	33
286. 中南米等世界のリンゴ産業の概要.....	37
287. 南アフリカ グレープフルーツの輸出実績	38
288. メキシコ ブルーベリーの生産量が増加	38
289. カナダの落葉果実事情(リンゴ)	39
290. ペルーの落葉果実事情(ブドウ).....	44
291. スペイン 暴風雨の被害は柑橘類シーズンを止めない	49
(関連記事)スペイン バレンシア州の洪水の農業被害は10億ユーロ超	50
292. オーストラリア モモ、アンズ、スモモ等の出荷が本格化.....	51
293. ペルー ブルーベリーの輸出が急増し過去の記録と予測を上回る.....	52
294. エジプト 今年は高品質のクレメンタインを供給	53
295. 南アフリカ アボカドは世界市場の課題に直面	53
296. 米国カリフォルニア州産柑橘類 輸出市場では引き続き逆風.....	54
297. タイ 日本の需要拡大がパイナップル輸出を後押し.....	54
298. トルコ ザクロを世界に戦略的に輸出.....	55
(関連記事)トルコ ザクロのシーズンは低価格で困難に.....	55
299. 南部アフリカ 柑橘類の輸出は地域内の需要と貿易上の課題で減少.....	56
300. フィリピン パナマ病対策でバナナ産業への支援を強化.....	57
301. 米国カリフォルニア州 生食用ブドウの生産量が力強く回復	57
302. 中国の生鮮ナシ輸出	58
303. ペルーと香港が自由貿易協定に調印.....	59
304. 韓国 済州島のマンダリン業界は亜熱帯作物で気候問題に適応.....	59
305. ゼスプリのキウイは北半球産に移行.....	60
306. フィリピン 日本のアボカド市場へのアクセス拡大に成功	60
307. 世界柑橘類機関の北半球年間生産量予測は約9%減少	61
308. ペルー チャンカイの巨大港が操業を開始.....	62
309. ペルー ベトナム向けマンダリン輸出にゴーサイン.....	62
310. 米国カリフォルニア州 クレメンタインの供給が増加	63
311. トルコ リンゴの生産量が異常気象で5年ぶりの低水準	64
312. スペインの洪水と減収で柑橘類とオレンジ果汁の供給が混乱	65
313. タイ ニューージーランド産リンゴとキウイフルーツの需要の高まり.....	65
314. ゼスプリはゴールド/レッドキウイの強い需要を予測.....	66
315. ふじリンゴのゲノムマッピングでスパータイプの鍵遺伝子が明らかに	66
316. 米国フロリダ大学 カンキツグリーニング病抵抗性品種を発表.....	67
(関連記事)ブラジル 新産地のグリーニング病対策に殺虫剤が有効.....	67

317. ペルー ブドウ輸出シーズン序盤の状況と見通し.....	68
318. イタリア ブドウ品種の権利侵害に対する法的勝利.....	69
319. ペルー 道路封鎖が生食用ブドウの輸出に影響.....	70
320. 中国山西省 シャインマスカットの品質は安定、供給は過剰.....	70
321. 世界の柑橘類主要輸出国の概要(2023年).....	71
322. スペイン カキのシーズン終盤の供給が減少の予想.....	72
323. チリ 生食用ブドウのシーズンが始まる.....	73
324. 中国 パートナーシップが合法的ブドウ栽培を支援し知的財産を保護.....	74
325. 米国ワシントン州 リンゴのシーズン後半は一部の品種で増収.....	75
326. 世界のブルーベリー生産量は増加するも輸出量は12%減少.....	76
327. フィリピン パイナップル輸出が急増.....	76
328. 南アフリカの果実輸出が回復.....	77
329. ゼスプリ生産者はゴールドキウイの北半球での拡大を「圧倒的に」支持.....	79
330. 米国フロリダ州 オレンジ出荷量が33%減少の予測.....	80
331. ブラジル 2024-25年度オレンジ出荷量の最新予測は2億2,300万箱.....	82
332. 南アフリカ 生食用ブドウの出荷開始が遅れ、輸出は微増の予測.....	83
333. 世界の落葉果実事情と市場動向(リンゴ、ブドウ、ナシ).....	84
334. 米国ワシントン州 2024年のリンゴとサクランボは正常化.....	91
335. 米国カリフォルニア州 カンキツグリーニング病検疫規制地域を拡大.....	91
336. チリ ブドウ輸出に占める新品種のシェアが増加.....	92
337. 南アフリカ 2024年のリンゴ、ナシの輸出見込み.....	92
338. チリの柑橘類事情(レモン).....	93
339. ペルーの柑橘類事情(マンダリン、タンジェリン).....	97
340. 南アフリカの柑橘類事情(オレンジ、グレープフルーツ、ソフト柑橘、果汁).....	104
341. 南米産ブドウ 米国市場がリード、アジア市場は軟調.....	118
342. 韓国 気候変動対策として東北部でのリンゴ栽培の拡大を計画.....	119
343. ニュージーランド 2024年のキウイ輸出額は史上最高の35億NZドル.....	119
344. エジプト産柑橘類の需要は強いが供給は減少.....	120
345. ブラジルの柑橘類事情(オレンジ、オレンジ果汁)修正版.....	121
346. ペルー ブルーベリー輸出量は当初の予測より4.1%増加.....	133
347. 南アフリカ 生食用ブドウ輸出が23%増加.....	134
348. ブラジル チリと日本へのハスアボカド輸出に向け準備中.....	135
349. 南アフリカ産リンゴがタイへのアクセスを回復し、輸出機会を拡大.....	135
350. メキシコ ベリー類の生産と輸出が減速.....	136
351. トルコの柑橘類事情(タンジェリン/マンダリン).....	137
352. トルコ 柑橘類とザクロの良好な年.....	141
353. ニュージーランド リンゴの収穫開始はやや早くなる予想.....	141
354. 韓国の柑橘類事情(タンジェリン/マンダリン).....	142
355. EUの柑橘類事情(オレンジ、オレンジ果汁).....	147
356. オーストラリアの柑橘類事情(オレンジ、ソフト柑橘類).....	152
357. 中国の柑橘類事情(タンジェリン/マンダリン).....	160
358. オーストラリア 多様な生鮮果実の世界的需要が拡大.....	163
359. 中国重慶市 東南アジアへの柑橘類の輸出を拡大.....	164
360. 中国 ブルーベリー品種の知的財産保護の取り組みを開始.....	164
361. ブラジル オレンジの価格は2024年に史上最高を記録.....	165
362. 米国フロリダ州 大手農業企業が柑橘類事業の閉鎖を発表.....	166
363. タイ パイナップルはより良い睡眠の自然な助け.....	166
364. 米国 リンゴ産地は増大する気候変動の課題に直面.....	167

365. 米国フロリダ州 シーズン後半のバレンシアオレンジへ移行開始.....	168
366. 英国 ナドルコット・プロテクションが別の大手小売業者に法的措置.....	168
367. 米国フロリダ州 カンキツグリーンング病と戦う新しいアプローチ.....	169
368. 世界のオレンジ市場(抜粋).....	170
369. 香港 米国産農産物の輸出機会を開拓.....	172
370. 米国カリフォルニア州 ネーブルオレンジの収穫が最盛期.....	174
371. 米国 リンゴの貯蔵量が減少.....	175
372. フィリピン TR4と天候の影響でバナナ輸出4位に転落.....	175
373. 中国山西省 税関の合理化と市場開拓で果実輸出を拡大.....	176
374. アジア域内コンテナ指数は6%下落するも前年同期比では56%の上昇.....	176
375. 米国カリフォルニア州 南部の山火事と風で農場に被害.....	177
376. 南半球の柑橘類は2024年の出荷が減少.....	178
377. ブラジル オレンジは2025-26年度も供給不足の可能性.....	179
378. 南アフリカ リンゴとナシの輸出シーズンは前向きの予報.....	179
379. ニュージーランド産リンゴ、オーストラリア産ブドウ等のアジア向け輸出.....	180
380. 世界のリンゴ市場(抜粋).....	181
381. ペルー 今シーズン8千万箱のブドウを輸出する可能性.....	183
382. マレーシア 旧正月を前にマンダリンの残留農薬を検査.....	183
383. 米国カリフォルニア州 カーン郡での国境警備隊の強制捜査に懸念.....	184
384. 米国フロリダ州産オレンジ グリーンング病と気候問題で低い収穫量.....	185
(関連記事)米国 柑橘類出荷予測 1月.....	186
385. 世界の柑橘類事情と市場動向.....	187
386. 中国 ゼスプリが偽装キウイフルーツの取り締まりを強化.....	195
387. ニュージーランド 早生リンゴがアジア向けに輸出開始.....	196
388. ニュージーランド ルビーレッド・キウイの輸出が2倍に.....	196
389. 南アフリカ リンゴとナシの生産者は今シーズンについて楽観的.....	197
390. 南アフリカ タイのリンゴ市場へのアクセスを取り戻す.....	198
391. 台湾 マレーシア等にポンカンを輸出.....	198
392. チリ 2024年の柑橘類輸出量は約40万トン.....	199
393. タイ 2024年の果実・果実加工品輸出実績は83億ドルを見込む.....	200
394. ニュージーランド リンゴ・ナシ産業が初めて10億NZドルを突破.....	201
395. 果実・野菜の摂取量の不足が生物学的老化を加速.....	202
396. 南半球のリンゴ・ナシ年間収穫量予測.....	203
397. 米国フロリダ州 2024-25年度の柑橘類生産量は減少の予測.....	204
(関連記事)米国 柑橘類出荷予測 2月.....	205
398. ニュージーランド キウイフルーツの収穫が始まる.....	206
399. EU 果実と野菜のプラスチック包装禁止について議論.....	207
400. 新興国で知的財産の尊重意識が高まる.....	208
401. メキシコ 2025年のブルーベリーを生産量は9%減少.....	209
402. 米国 来るべき関税への備え方.....	210
(関連記事)米国カリフォルニア州 提案された関税の州農業への影響.....	211
403. ベトナム 果実・野菜の輸入は中国産と米国産に牽引されて24%増加.....	212
404. オーストラリア ブドウは好天が続けば良い年に.....	212
405. チリ 90年以上にわたる果実輸出の将来の課題.....	213
406. ペルー ブドウのシーズンは力強く回復し過去最高の輸出で終了へ.....	214
407. 米国カリフォルニア州 柑橘類の輸出シーズンは低調.....	215
408. 米国 リンゴの貯蔵量が前年比5%減少.....	215
409. 米国 有機農産物と慣行栽培品の価格差が縮小.....	216

410. 米国の研究 ブドウの摂取が筋肉の遺伝子発現の改善等に関連	217
411. オーストラリア 輸出の伸びが園芸生産額の記録更新を後押し	218
412. カナダ 農産物に対する米国の関税	220
413. ニューージーランド キウイフルーツの記録的な収穫量を確信	222
414. 米国フロリダ州 柑橘類産業を守る新しい非営利団体が発足	223
415. 米国の研究 柑橘類の摂取がうつ病リスクの20%低下に関連	223
416. 米国農務省 2034年までの果実・ナッツ類の生産見通し	224
417. ペルー ブルーベリー輸出額が史上最高を達成	225
418. チリ ブルーベリー輸出が市場の変化の中で7%増加	225
419. オーストラリア 高温により和ナシはより甘く、シーズンは短くなる	226
420. 世界のマンダリン市場(要約のみ抜粋)	226
421. ニューージーランド 果実と野菜の輸出が回復	227

(ご利用上の留意事項)

- 記事の出典はすべて各媒体の電子版です。
- 文中の「フォントの小さいカッコ書き」及び「フォントの小さいですます体」は訳者による注記です。
- 文中の固有名詞(人名、会社名、団体名、品種名等)の日本語表記は、一般的に確定しているものを除き仮訳です。
- 翻訳記事は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品等を推奨するものではありません。

274. 米国カリフォルニア州 カンキツグリーニング病検疫規制地域を拡大

[米国農務省動植物検疫局通知 DA-2024-43 2024年11月1日\(4日送信\)](#)

件名: APHISはカリフォルニア州のカンキツグリーニング病 (HLB) 検疫規制地域を拡大

宛先: 州、部族及び準州の農業規制当局担当官

以下は直ちに発効する。米国農務省動植物検疫局 (APHIS) は、カリフォルニア州食品農業局 (CDFA) と協力し、*Candidatus Liberibacter asiaticus* によって引き起こされるカンキツグリーニング病 (黄龍病; HLB) の同州内の検疫規制地域を拡大する。拡大される地域は、オレンジ郡とリバーサイド郡の約31平方マイルである。APHISは、オレンジ、リバーサイド両郡の住宅地から採取された植物組織のサンプルからカンキツグリーニング病が検出されたためにこの措置を講じるものである。この拡大の影響を受ける商業的柑橘類園地はリバーサイド郡の約3エーカーである。

APHISは、カリフォルニア州の検疫規制地域からの規制対象物品の州間移動に安全対策を適用している。これらの措置は、CDFAが2024年10月22日に定めた州内の検疫と並行して行われる。この措置は、HLBが米国の非感染地域に広がるのを防ぐために必要なものである。

カリフォルニア州の検疫規制地域の具体的な変更内容は、[APHISカンキツグリーニング病ウェブサイト](#)に掲載されている。APHISは、おつてこの変更を連邦官報に掲載する。(連絡先等省略)

(訳注: 1平方マイル=約2.59平方キロメートル、1エーカー=約0.405ヘクタール)

275. ブラジル 柑橘類地帯の雨が2025年の供給回復への期待をもたらす

[Cepea 2024年11月1日](#)

セペア、2024年11月1日 - 果汁業界最大のオレンジ産地であるサンパウロ州とトリアングロミネイロ地域 (ミネスジェライス州の三角地帯) の柑橘類地帯では、10月下旬に通常の降雨と穏やかな天候が記録された。これは、雨不足と高温の影響を受けていた果樹にいくらかの助けとなった。

2024/25年度シーズン - 降雨が再開したものの、現在収穫されているオレンジは低い品質を示している。それでも、10月の雨は、まだ樹上に残っている果実の品質を向上させる可能性がある。今年のオレンジの収穫は6月に始まり、12月または来年の1月に終了すると見られることは留意に値する。タヒチライム (収穫の最盛期は11月から12月の間に始まる) に関しては、現在は果実の生育が標準を下回っているため、気象条件が成熟に有利に働く可能性がある。

輸出 - Comex Stat (ブラジル政府の貿易統計) によると、2024/25年度産のこれまで (2024年7月~9月) のオレンジ果汁の出荷でブラジルの輸出業者が得た収益は合計9億530万米ドルで、前シーズンの同時期 (6億3,610万米ドル) と比較して42.3%増加した。

一方、ブラジルのオレンジ果汁の輸出量は、2023/24年度産以来確認されているように、減少を続けている。2024年の7月から9月までにブラジルは20万7,500トンのオレンジ果汁を出荷し、これは2023年の同時期と比較して27%少なかった。

輸出量が少ないことは供給の制約に関係している。悪天候により5シーズン連続で生産が妨げられ、その結果、果汁の在庫が逼迫している。

セペア - サンパウロ大学農学部応用経済高等研究センター

276. ニュージーランドの落葉果実事情(リンゴ)

米国農務省GAINレポート 2024年11月1日

これは米国農務省海外農業局ウェリントン事務所(ニュージーランド)が作成した「落葉果実年次報告書」のエグゼクティブサマリー及びリンゴの項(一部省略)を翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要約

2024/25販売年度(年度)におけるニュージーランドのリンゴ栽培面積は、2023年2月のサイクロンガブリエルによって被害を受けた面積が回復し、1万1,100ヘクタールへと大幅に増加するものと予測される。リンゴ部門は、主要産地のホークスベイ地方とギズボーン地方で大規模な洪水、土砂・瓦礫の流入、強風、地表の湛水により被害を受けた。サイクロン被害からの復旧は進んでいるが、営農コストの上昇と債務返済が引き続きリンゴ産業の成長にコスト圧力をかけている。

当事務所は、2024/25年度のリンゴの生産量を56万トンと予測する。これは、楽観的な天候見通し、農業システムの革新、利用可能な季節労働者の増加を前提としている。また、近年植えられた栽培面積が成園化し、高い収量を達成している。

当事務所はまた、2024/25年度に38万トンと好調な輸出を予測しており、これが実現すれば2020年以来の高水準となる。近い将来の輸出の優先順位としては、ベトナム、中国等のアジア市場、及び米国、英国に引き続き注力すると予想される。インドは、人口が増加し、より健康的な食品が求められる中、リンゴの消費量の増加が続いているため、ニュージーランドの輸出業者にとっての成長市場になると予想される。

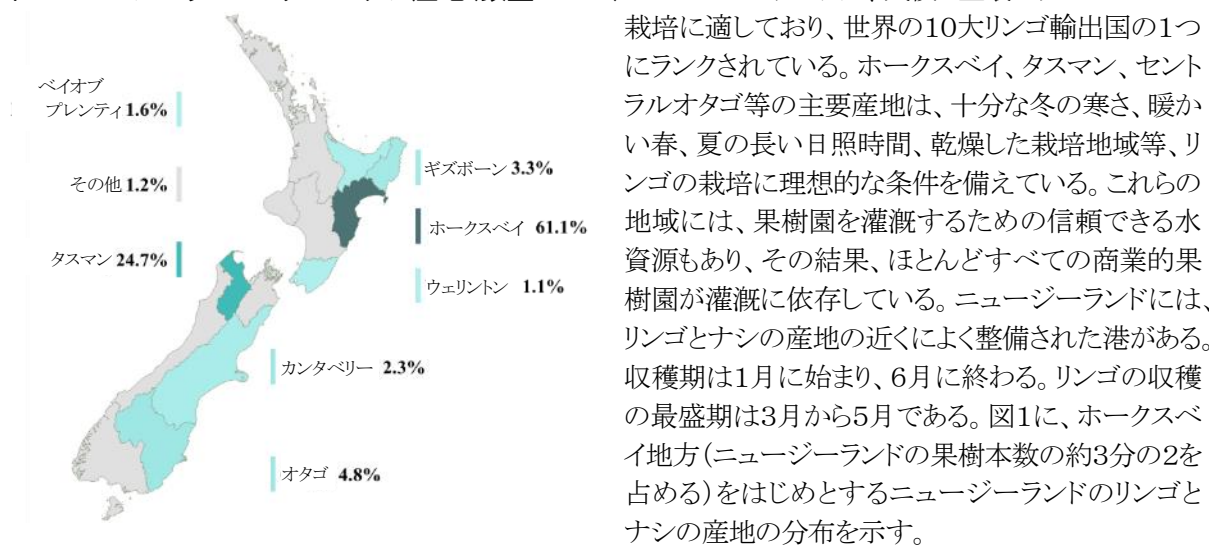
2023/24年度の1月から9月の輸出量は前年比で10%以上増加した。年の最初の8カ月が経過した時点で、輸出量は既に前年の合計を上回っている。メディアは最近、今年度の年間総輸出額が史上最高となり、10億NZドル(6億米ドル)を超える可能性があると報じている。

注: 販売年度(年度)は、7月1日から翌年の6月30日までを指す。このレポートで使用するニュージーランドドル(NZドル)と米ドルの為替レートは、1.00NZドル = 0.60米ドルである。

訳注: この販売年度の注記は、米国農務省海外農業局が一般的に採用している北半球諸国(米国とメキシコを除く)のリンゴの販売年度に関するものであり、以下の表1に示されたニュージーランドの販売年度と一致しません。

背景

図1 ニュージーランドのリンゴ・ナシ産地(数量ベース) ニュージーランドは、気候と土壌がリンゴとナシの栽培に適しており、世界の10大リンゴ輸出国の1つにランクされている。ホークスベイ、タスマン、セントラルオタゴ等の主要産地は、十分な冬の寒さ、暖かい春、夏の長い日照時間、乾燥した栽培地域等、リンゴの栽培に理想的な条件を備えている。これらの地域には、果樹園を灌漑するための信頼できる水資源もあり、その結果、ほとんどすべての商業的果樹園が灌漑に依存している。ニュージーランドには、リンゴとナシの産地の近くによく整備された港がある。収穫期は1月に始まり、6月に終わる。リンゴの収穫の最盛期は3月から5月である。図1に、ホークスベイ地方(ニュージーランドの果樹本数の約3分の2を占める)をはじめとするニュージーランドのリンゴとナシの産地の分布を示す。



出典: ニュージーランド統計庁、当事務所

サイクロンガブリエル

北島の園芸産地の一部は2022/23年度シーズンにサイクロンヘイル及びガブリエルを含む悪天候の影響を受けた。政府はサイクロンガブリエルを1968年以降に国内を襲った最も致命的な気象現象の一つと呼んだ。強風と豪雨により大規模な地滑りや洪水が発生し、リンゴ産業では果樹園やインフラが広範囲に破壊され、広大な地域で大量の土砂が堆積した(図2)。サイクロンガブリエルは、ホークスベイ、ギズボーン両地方の果樹園面積の約半分と、この地域に援助物資を供給しているネーピア港に影響を与えた。全国の落葉果樹作物の大部分がこれらの地域にあるため、被害面積も集中している。リンゴとナシの営農への損害を受けて、政府の支援金が第一次産業省(MPI)と業界の代表団体であるニュージーランド・リンゴ・ナシ協会(NZAP)を通じて生産者に提供され、課税が軽減された。

図2 サイクロンガブリエルの被害を受けたリンゴ園



出典: ヘイスティングス地区議会

<リンゴ>

表1 ニュージーランドのリンゴの生産需給統計

リンゴ(生鮮)	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2023年1月		2024年1月		2025年1月	
販売年度の始まり ニュージーランド	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	11,000	11,400	9,200	11,100	0	11,100
収穫面積(ヘクタール)	8,900	8,900	9,000	10,000	0	10,450
商業的生産量(トン)	440,000	485,000	480,000	525,000	0	560,000
非商業的生産量(トン)	3,000	3,000	3,000	3,000	0	3,000
生産量合計(トン)	443,000	488,000	483,000	528,000	0	563,000
輸入量(トン)	200	154	300	200	0	200
総供給量(トン)	443,200	488,154	483,300	528,200	0	563,200
国内消費量(トン)	134,200	179,109	153,300	188,200	0	183,200
輸出量(トン)	309,000	309,045	330,000	340,000	0	380,000
総仕向量(トン)	443,200	488,154	483,300	528,200	0	563,200

公式データは、[PSD Online Advanced Query](https://psd.mpi.govt.nz/psd/online-advanced-query) からアクセスできる。

栽培面積及び収穫面積

2024/25年度の見通し

当事務所は、MPIとNZAPが発表した推定値に基づき、2024/25年度のリンゴの栽培面積は1万1,100ヘクタールから大幅に減少し(原文のまま。「大幅に減少」が表1と一致しません)、収穫面積は10,450ヘクタールと予測する。これは、サイクロンガブリエル後の投資と復旧により生産力が回復した面積があるためである。しかし、ホークスベイ地方では、依然として復旧できない面積及び生産力を回復するに当たって将来の悪天候による被害を受ける危険性のある面積が存在する。

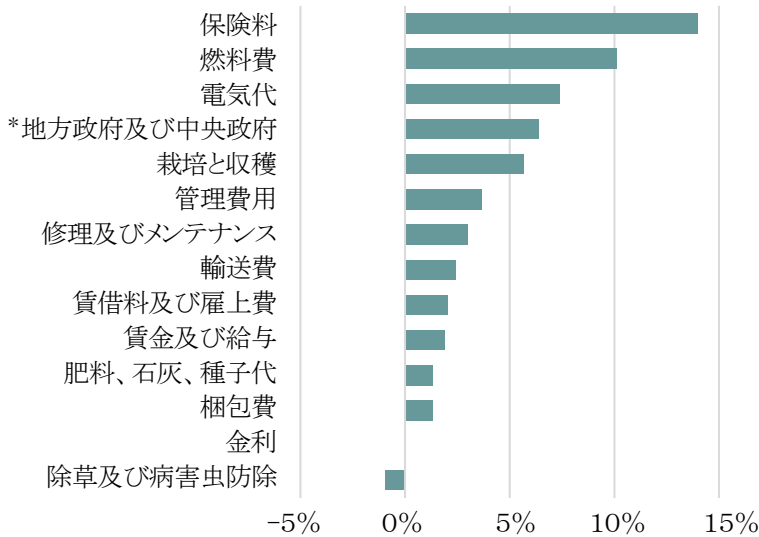
一 サイクロンガブリエルからの復旧

ネーピア地域(ホークスベイ地方)とギズボーン地方の生産者達は、損傷した果樹園を復旧/修復するかどうかを決定するプロセスにある。リンゴとナシの果樹園の再建のための果樹及びその植栽、支持構造物、灌漑システム、並びに園地の整備に要する費用は、1ヘクタール当たり18万~25万NZドル(10万8千~15万米ドル)と推定される。リンゴの苗木を得るためのリードタイムが2~3年かかることもあり、果樹が結果するまでにはさらにリードタイムがある。そのため、相当の園地面積が将来も復旧しないか、生産を再開するまでに少なくとも数年かかる可能性がある。

一 農場でのコストの上昇

リンゴ及びナシの生産者等の園芸事業者の農場におけるコストの上昇は、引き続き運営費を圧迫している。2023/24年度第2四半期を前年同期と比較したニュージーランドの園芸事業の主要経費のインフレ率を図3に示す。サイクロン後の保険料は、業界で最も高い上昇率(14%)を示している。

図3 園芸農場の主要投入コストの上昇率 2023/24年度第2四半期の前年同期比



出典: ニュージーランド統計局

* 訳注: 災害に伴う減税措置(2023年4月~2024年3月)が終了したためと思われます。

業界関係者の説明では、サイクロンで被害を受けた果樹やインフラの一部は保険を掛けることができなかつたため、生産者は改植や修復のための資金を自ら調達する必要があったという。さらに、保険料の高騰と負債の増加に伴い、生産者はより多くのリスクにさらされること(補償内容の引き下げ)を決断している。

一 園芸事業への貸付

多くの生産者は、果樹園の復旧及びその他の営農への投資のために銀行から借り入れを行った。ニュージーランド準備銀行(RBNZ)が同国の公定キャッシュレート(OCR 米国の連邦資金金利に相当する)を2008年の世界金融危機以来の高い水準に設定したため、過去18カ月間、債務返済はニュージーランドの農業にとって大きな課題であった。RBNZは2024年9月と10月に、OCRを4.75%まで引き下げた。

RBNZによると、2024年8月現在、園芸事業に対する国内の銀行融資総額は79億NZドル(47億4千万米ドル)であった。2017年以降、酪農、畜産、穀物生産者への融資の合計が複利年率(CAGR)-0.39%で減少したのに対し、園芸生産者への融資総額は同10.64%で増加している。

2023/24年度の実績

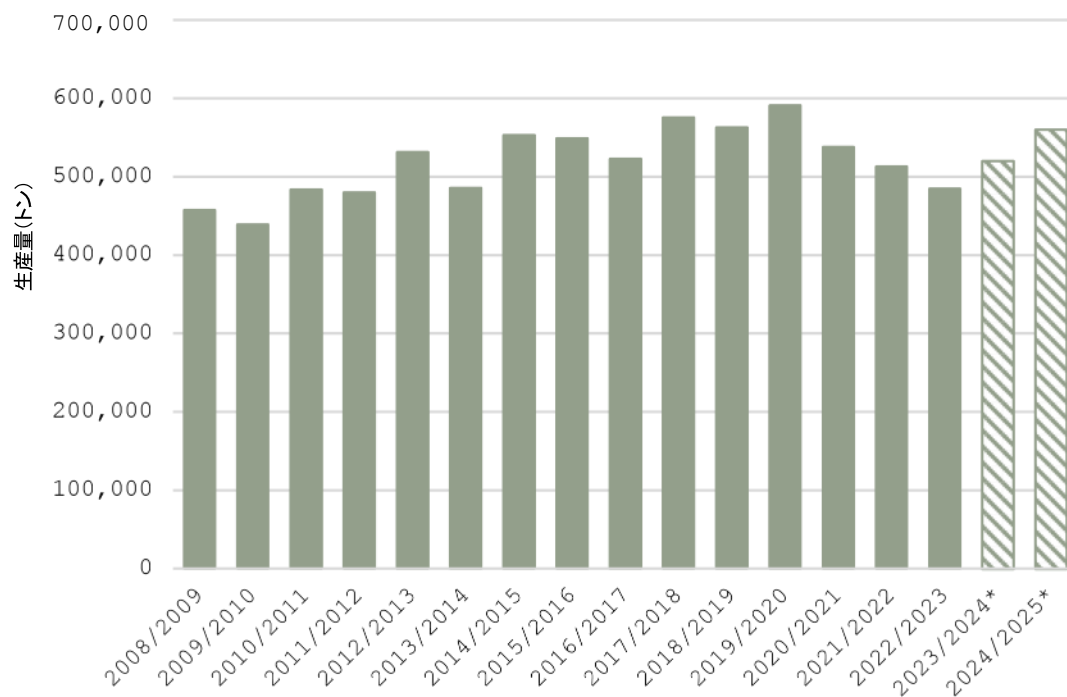
当事務所は、2023/24年度の栽培面積を米国農務省公式推計値から1万1,100ヘクタールに、収穫面積を1万ヘクタールに上方修正した。この改訂は、MPIの最新のレポートである「第一次産業の状況見通し」(SOPI)で発表されたデータに基づくものである。このレポートは、収穫後の2024年6月に発表され、データはNZAPから提供された。サイクロンガブリエルによる被害から18カ月が経過した現在、業界はこれまでに栽培を続けることが可能な地域とそうでない地域を評価することができた。なお、タスマン地方とバイオブレンティ地方では新植された園地や、成園化した園地も見られる。

生産

2024/25年度の見通し

当事務所は、被災地における収量の回復と近年新植された果樹の成木化に注目し、2024/25年度の生産量を56万トンと予測する(図5)。これが実現すれば、全国の収穫量の原状復帰に向けた大幅な回復となる。この予測は、前向きな法改正、楽観的な天候の見通し、及び最近の技術革新を反映している。

図5 ニュージーランドのリンゴ生産量



出典: 米国農務省公式推計、*は当事務所の予測

一 季節労働者確保の可能性

過去のシーズンには、コロナ禍による政府の国境制限によって外国人労働者の確保が制約され、国内の園芸作物の収量に大きな影響を与えた。業界は現在、国境制限がなくなり、ワーキングホリデービザの外国人も戻っていることから、労働力確保の見通しについてはより楽観的になっている。

認定季節雇用主(RSE)制度は、園芸・ブドウ栽培業界で国内の労働者が足りない場合に、季節労働のための労働者を海外から募集することを認める政府の政策である。これは通常、太平洋の国々からの雇用であり、リンゴの収穫労働に不可欠な要素である。政府は2024年8月に、労働者数の上限を1万9,500人から2万750人に引き上げると発表した。新政権は選挙に先立ち、上限を5年間で年間3万8千人に増やす政策案を発表していた。

一 楽観的な天候の見通し

国立水・大気研究所(NIWA)の科学者達は、今後数カ月はホークスベイ地方で雨が少ないと予測している。現在樹上で育っている2024/25年度産の果実に関して、これはリンゴ生産者にとって前向きな見通しである。それは、ほとんどの商業的果樹園が灌漑を利用しており、水供給が制限されない限り、雨の少ないシーズンは問題にならないためである。

一 技術革新とバイオテクノロジー

ここ数年、多くの果樹園や梱包施設が技術的に進歩し、また労働力をより効果的に管理するための自動化に多額の投資を行ってきた。その他の技術革新は、意思決定と果実の品質管理の改善を目的としている。梱包施設は、選別格付け用のカメラ技術と、梱包、積み上げ、パレット積み用のロボット工学に投資している。生産者は近年、果樹園の仕事をより簡単かつ効率的なものにするために、作業台車(プラットフォーム)の技術に多額の投資を行っている。

新政権は、バイオテクノロジーの使用に向けて現行の法律の改正に取り組んでいる。選挙に先立ち、多数派の与党は「バイオテクノロジーの活用」と題する報告書を発表した。具体的な参考文献は、リンゴ業界の回復のための考えられる利点を強調している。また、この報告書は、果樹が完全な商業生産に到達するまでの期間を数年短縮する進行中の研究にも言及している。法律改正は2025年の早い時期に予定されている。

2023/24年度の実績

当事務所は、予測生産量を米国農務省の公式推計値から52万5千トンに引き上げた。これは、サイクロンガブリエルの被害が予想以上に回復したことによるものである。今年はエルニーニョ現象に見舞われ、その結果、東部地域、特に園芸が盛んな地域では好ましい乾燥した状態となった。業界からは、この生産量の増加は、サイクロンの前に密植された果樹の成木化の結果でもあるとのコメントが寄せられている。

消費量

2024/25年度の見通し

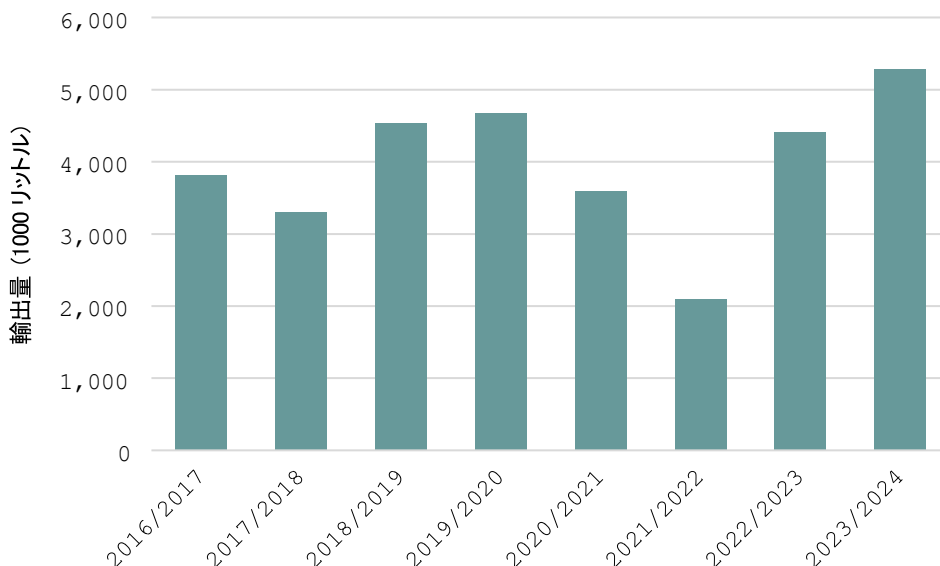
当事務所は、前年に引き続き生産量の回復を反映し、2024/25年度の国内消費量(加工用を含む)を18万3,200トンと予測する。国内市場での生鮮消費量は従来から7万4千トン以内で安定しており、残りは加工用の増加に向けられている。

近年、ニュージーランドは、全般的及び食料価格に対するインフレ圧力の高まりに直面しており、家計支出が逼迫している。現在、政府の報告書では、インフレ率の指標である消費者物価指数(CPI)の上昇の減速、すなわちインフレ圧力の低下が強調されている。これは、次の販売年度まで続く予想される。果実の価格は、輸入品の消費に伴って様々な果実が季節によって出入りするため、毎年常に変動が激しい。

2023/24年度の実績

当事務所は、国内消費量(加工用を含む)を米国農務省の公式推計値から18万8,200トンに上方修正した。これは、1月から9月にかけてのリンゴ果汁の輸出量が多いことを反映している(図8)。当事務所は、最初の9カ月のデータに基づいて、リンゴ果汁の輸出量が740万リットルを超える可能性があると推計する。これは年間輸出量として最大となる。これらのリンゴ果汁の生産と輸出の増加は、果樹園の再建によるものであり、輸出市場向けにはサイズが小さ過ぎるリンゴが増えているため、果汁用に利用されている。最後に強調するのは国内市場の食品価格に対するインフレ圧力であり、これは国内消費者の購買力を制限している。現在のデータは、インフレ圧力が緩和していることを示しており、通常はこれによって国内の消費者の果実や野菜の購買力が向上する。

図8 ニュージーランドのリンゴ果汁の世界への輸出量(1月~9月)



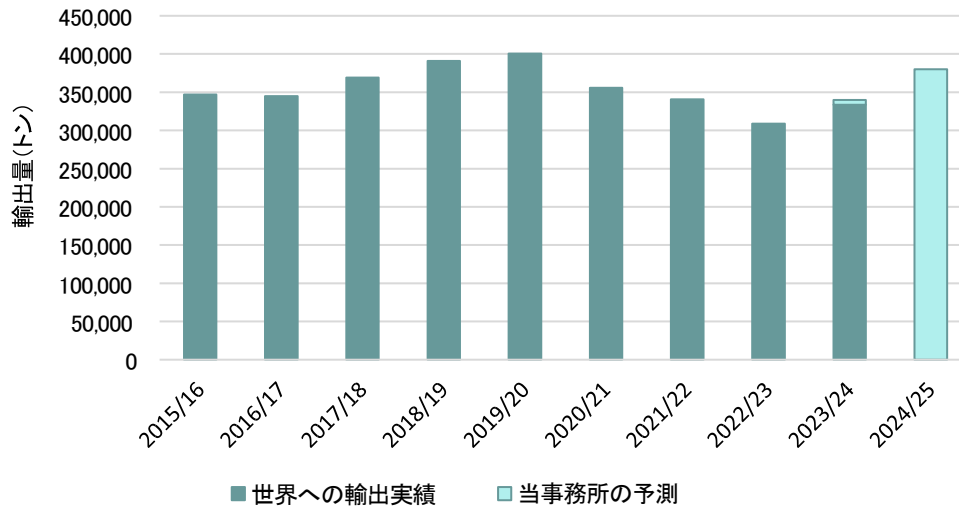
出典: Trade Data Monitor LLC

輸出

2024/25年度の見通し

当事務所は、2024/25年度の輸出量を、前年度の修正予測より4万トン多い38万トンと予測する(図9)。これは、MPIが最新のSOPI報告書で発表した同年度の予測と一致している。実現すれば、これは2019/20年度以降で最高の輸出量となり、史上3番目に多いリンゴの年間輸出量となる。見通し得る近い将来の輸出の優先順位としては、ベトナム、中国等のアジア市場、及び米国、英国に注力するものと予想される。インドは、人口が増加し、より健康的な食品が求められる中、リンゴの消費量の増加が続いているため、ニュージーランドの輸出業者にとっての成長市場になると予想される。

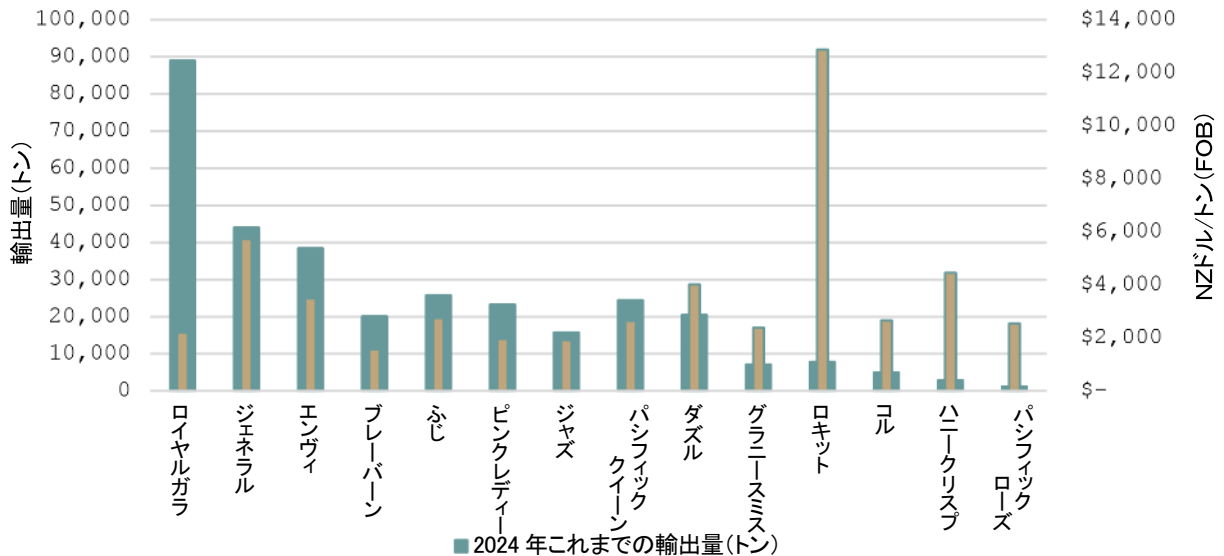
図9 ニュージーランドの年間リンゴ輸出量及び予測



出典: Trade Data Monitor LLC、当事務所

ロイヤルガラは、2023/24年度の輸出で最も重要な品種である。一方、エンヴィ、ダズル、新品種ロケット等の輸出需要の増加により、トン当たりの単価が上昇している(図10)。生産者からのコメントは、現在、被害を受けた果樹園の再建と金利の上昇により、農場出荷段階の収益が将来の品種の選択において重要な決定要素になるとしている。その結果、業界では既にブレーバーン等の品種の栽培面積が減少している。同品種は2011/12年度には全国の栽培面積の22%を占めていたが、2023/24年度にはわずか6%になった。

図10 2024年のニュージーランドのリンゴの品種別輸出量及び単価(1月～8月)

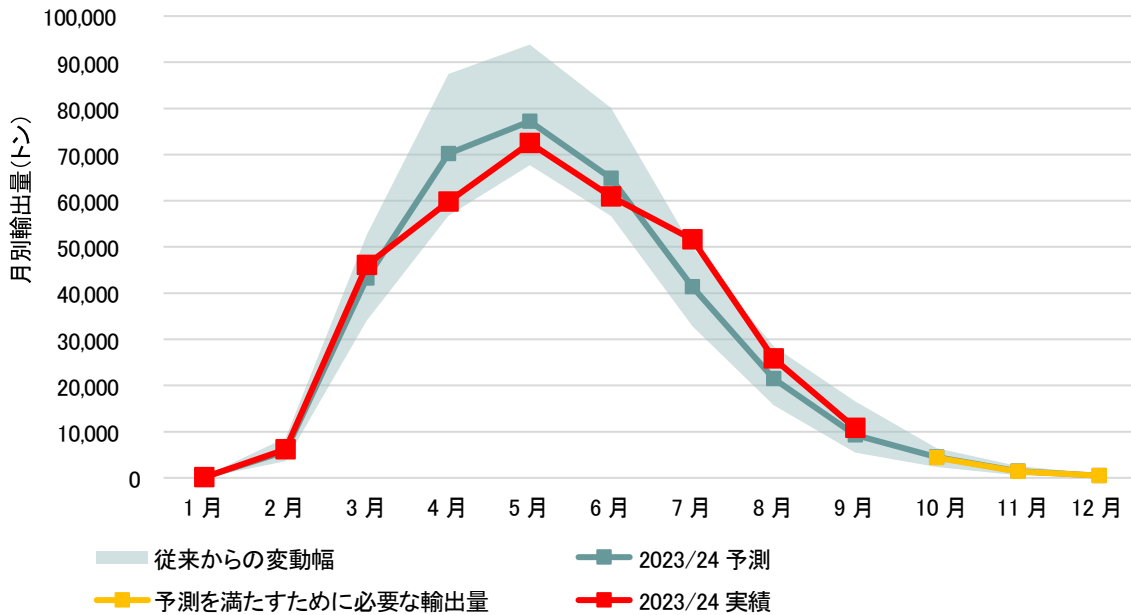


出典: Trade Data Monitor LLC
訳注: 「ジェネラル」は詳細不明

2023/24年度の実績

当事務所は、リンゴの予測輸出量を米国農務省の公式推計値から34万トンに修正した。業界は、ニュージーランド産リンゴの需要は、成長市場である中国、台湾、インド等のアジア市場での強い需要により増加していると説明している。業界はまた、欧州連合、トルコ、チリ等世界の他の供給国は、気候的な問題と土地利用の変化により輸出が減少しているとコメントしている。2023/24年度の1月から9月の輸出量は前年比で10%以上増加した。年の最初の8カ月が経過した時点で、輸出量は既に前年の合計を上回っている(図11)。メディアは最近、今年度の年間総輸出額が10億NZドル(6億米ドル)を超え、史上最高となる可能性があるとして報じている。

図11 ニュージーランドの月別リンゴ輸出量と予測



出典: Trade Data Monitor LLC、当事務所

ネーピア港は従来から世界市場へのリンゴ輸出の主要拠点であり、輸出量の61%を占めている。2022/23年度には、同港が災害救援に使用されたため輸出港に大きな変化が見られ、タウランガ港のリンゴ輸出量が30%増加した。2023/24年度には、ネーピア港は過去の平均と同様にリンゴ輸出量の60%強を出荷した。年初来これまでに、中国はニュージーランド産リンゴの輸入を52%増やし、最大の輸入国に復帰した。現在、中国のニュージーランド産リンゴの消費量は、最初の9カ月で6万3,153トンと過去よりも多い(表2)。

表2 ニュージーランドのリンゴ輸出統計

輸出先国	数量(トン) 暦年					1月~9月		変動率
	2019	2020	2021	2022	2023	2023	2024	
世界合計	390,942	400,397	355,799	340,762	309,044	301,955	333,772	10.54%
中国	45,015	38,098	35,423	53,304	41,954	41,363	63,153	52.68%
ベトナム	25,874	32,157	33,677	47,223	44,743	43,755	39,881	-8.85%
台湾	20,858	26,596	29,135	31,183	28,984	28,586	30,996	8.43%
英国	43,299	39,569	32,549	21,892	22,241	21,908	29,328	33.87%
インド	17,068	22,163	28,148	18,074	19,314	19,122	28,614	49.64%
タイ	32,890	23,501	20,940	22,486	22,926	21,698	22,223	2.42%
米国	33,883	28,379	24,433	23,949	26,239	26,222	18,743	-28.52%
欧州連合	51,846	53,183	43,007	35,042	30,789	30,789	24,806	-19.43%
アラブ首長国連邦	14,198	19,163	15,880	14,059	12,625	12,342	14,015	13.56%
香港	19,010	16,018	13,953	12,381	14,032	12,914	12,667	-1.91%
その他	87,001	101,570	78,654	61,169	45,197	43,256	49,346	14.08%

出典: Trade Data Monitor LLC

277. オーストラリア 果汁価格が上昇し柑橘類を後押し

[FreshPlaza 2024年11月4日](#)

果汁不足の中で価格が上昇し、世界市場の変化がオーストラリアの柑橘類を後押し

オレンジ果汁飲料の価格が上昇していることに気づいたならば、それは生産コストの上昇と世界市場のダイナミクスが国内価格に影響を与えているためである。この状況は、輸入濃縮果汁に依存している果汁飲料会社にとっては課題を提起しているが、オーストラリアの柑橘類生産者にとっては改善されたシナリオを提示している。サンレイシア地域の柑橘類生産者であるティム・ヴァンデンバーグ氏の場合、COVID-19、ウクライナ戦争及び賃金上昇によるコストの増加に直面しているにもかかわらず、世界的な果汁価格の上昇により果実の品質と収益性が著しく改善した。

世界の濃縮オレンジ果汁市場では、米国フロリダ州やブラジルなどの主要産地に影響を与える病害や干ばつにより世界の濃縮果汁の供給が大幅に減少し、価格が高騰している。これにより、オーストラリアの果汁飲料会社にはより多くの国内産果実を調達するよう圧力がかかり、果汁飲料の価格設定に影響を与えている。例えば、南オーストラリア州の果汁飲料会社であるニッピース社では、2リットルのオレンジ果汁製品の価格が18カ月で20%上昇した。このようなコスト圧力にもかかわらず、果汁飲料の需要は依然として堅調である。国内の生産者にとっては、特に近年の悪天候と生産物の品質低下による損失に直面した後で、現在の市場環境は収益の改善につながっている。

出典: [ABC News](#)

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

278. 南アフリカ ブドウは熱波で収量減だが輸出は依然として楽観的

[FreshPlaza 2024年11月4日](#)

南アフリカのブドウ生産者達は、極端な天候条件のため、輸出用の収穫量の減少に直面している。リンポポ州のロスコップバレー地区では、最近ブドウの出荷シーズンが始まったが、雹害が発生している。こうした問題にもかかわらず、この地域は概ね前向きな見通しを維持している。しかし、国内の他の主要ブドウ産地では、特に南アフリカ産食用ブドウに対するヨーロッパの需要が高まる中、猛暑に対する懸念が高まっている。

国内で最も広大な生食用ブドウ産地である北ケープ州のオレンジリバーバレー地域では、10月初旬に数日間にわたって気温が40°Cを超え、一部のブドウ園では落花が見られた。この現象は、環境ストレス、特に過度の暑さによって、花が植物から落ちる現象であり、その結果、着果数が少なくなり、収量が減少する。暑さによる推定10%の収量の低下が予想されるにもかかわらず、楽観的な見方が続いている。ディッペンナールチョイス社のアルウィン・ディッペンナール氏は、「今シーズンのブドウの最初の生産見通しでは、この地域の収穫量は2,440万箱で昨年をわずかに上回ったが、道のりはまだ長い」とコメントしている。

ブドウの出回り量が世界的に減少する中、ヨーロッパ市場での南アフリカ産ブドウの需要は高まっている。多くのバイヤーが既に今シーズンの産物を確保しようとしており、早い時期の暑さの問題にもかかわらず高品質を期待している。オレンジリバーバレー地域からの最初の出荷は今後2週間以内に始まると見られ、11月中旬までには収穫の最盛期が予想される。

出典: [The South African](#)

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

279. 米国 裁判所はサクランボ「新品種」を既存品種と同じと判断

[FreshPlaza 2024年11月4日](#)

裁判所はサクランボの「グローリー」と「スタックカート」を同一と判断し、知的財産権を支持

ワシントン州東部地方裁判所による最近の判決で、「グローリー」として知られるサクランボは、カナダ農業・農産食品省が以前に確立した品種である「スタックカート」と同じであると判定された。

この決定は、新たな発見だとして「グローリー」の特許を取得したワシントン州の果樹園主ゴードン・グッドウィン氏と、係争中のサクランボを無許可で流通・販売したとされるヴァンウェル種苗会社及びモンソン果実会社に関与する法的紛争の結果として下されたものである。

この訴訟は、果実育種の知的財産を管理するサマーランドバラエティ社(SVC)の研究チームによる遺伝子解析とゲノムシーケンシングの助けを借りて終結した。提示されたDNAの証拠に対する異議申し立てがあったものの、裁判所はその証拠を信用できると判断し、「グローリー」と「スタックカート」は確かに同じサクランボであると断定した。

SVCの統括マネージャーであるショーン・ベアズ氏は、結果に対する満足を表明し、カナダ農業・農産食品省の果樹開発プログラムとそれに貢献した人々の知的財産権を保護することの重要性を強調した。この判決は、果樹育種分野における投資とイノベーションを保護するというコミットメントを際立たせるものである。

出典: [Castanet](#)

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

280. ニュージーランド 9月の寒波でキウイのシーズンは不透明に

[FreshPlaza 2024年11月5日](#)

寒波が花の発達に影響し、ニュージーランドのキウイフルーツ・シーズンは不透明に

ニュージーランドの素晴らしいキウイフルーツ・シーズンに対する当初の興奮は、9月の寒さが一部の生産者の花の発達に影響を与えたことを受けて収束した。前のシーズンには31億NZドル(約2,800億円)相当の1億9,700万箱という記録破りの出荷量を達成したが、次の秋(3~5月頃)の収穫については、ベイオブプレンティ、ギズボーン両地方をはじめとして果樹園全体で着花数にばらつきがあるため、不確実な状況となっている。

フルーシオン園芸会社のコンサルタントであるサンディ・スカロー氏は、一部の果樹園で花芽の形成が中断され、着花がまだらになったことを観察した。このばらつきは、9月の寒さに遭遇した際の花芽の発達段階の違いに起因している。

ベイオブプレンティ地方の果樹園主であるデビッド・ジェンセン氏は、同氏の2つの果樹園が平均以下の着花数を示しており、果実の収量が前年に比べて30%減少する可能性があるとして、今シーズンの不安定性を指摘した。しかし、同氏は果実のサイズが大きくなる可能性があり、それによって収量の損失の一部を取り戻せるかも知れないと述べた。

これらの課題はあるものの、生育期間はこの先まだ長いと、業界は依然として希望を持っている。最終的な果実の収量とサイズへの寒さの影響は、まだ完全にはわかっていない。

出典: [RNZ](#)

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

281. 中国 赤ブドウの輸出実績が悪化し品種更新の必要性

[FreshPlaza 2024年11月5日](#)

一部のニッチな果実は輸出市場で人気

中国産ブドウの輸出シーズンは終わりに近づいており、依然として赤ブドウが主な輸出品種となっている。

ブドウの輸出に豊富な経験を持つ陝西和沃輸出入有限公司のカイル・ツェン氏は、「今年、中国の一部の主要赤ブドウ産地では、生産量の減少、市場需要の減退、及び輸出量と輸出単価の両方の低下を経験した」と述べている。同氏が、今シーズンのブドウの輸出実績についての考察を提供する。(以下「」は同氏の話)

「雲南省、甘粛省、新疆ウイグル自治区など、一部の主要な赤ブドウ産地では収量が減少し、全般的な品質は前の年ほどではなかった。海外への販売も減少した。これは、品質が期待に応えていないことや、市場の低迷によりバイヤーを十分に惹きつけられなかったことが一因である。さらに、赤ブドウ品種は長年にわたって輸出されており、消費者の関心が薄れている。近年、ブドウの輸出量は次第に減少している。品種を更新することで、輸出を後押しできるかも知れない。」

「出荷量の減少にもかかわらず、価格は上昇していない。それどころか、輸出価格は下落し、近年に比べて約15～20%低くなっている。国内市場がブドウの主な消費地であるが、昨年の後半以降はこれも低迷している。販売の低迷は在庫の滞留につながっており、ブドウの品質に影響を与えた。」

同社の輸出先市場は、インド、バングラデシュ、東南アジア等である。「中国の赤ブドウは、収穫時期と品種の点でこれらの市場を補完するため、有利性がある。しかし、供給業者が増え、品種の更新が限られることで、競争力は低下している。弊社は、輸出向け品種を多様化し、これらの市場により適したブドウの探求に取り組んでいる。」

輸出市場の変化について、同氏は、過去2年間で東南アジアの購買力が低下し、低価格な果実が好まれていると指摘した。インドとバングラデシュの市場は比較的堅調さを維持しているものの、今年のバングラデシュの景気後退は輸入需要に影響を与えた。

「弊社の戦略の一つは、カキやスモモなど、高品質でニッチな果実を中国から輸出することである。これらの果実は消費者に目新しさを感じさせ、その輸出量は赤ブドウのような大量に輸出される果実の減少をほぼ補っている。」

同社の輸出品目は、ブドウ、柑橘類、スモモ、キウイ、カキ等であり、主な市場はインド、バングラデシュ、東南アジア、中東等である。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

282. エジプトの落葉果実事情(ブドウ)

米国農務省GAINレポート 2024年11月5日

これは米国農務省海外農業局カイロ事務所(エジプト)が作成した「落葉果実年次報告書」を翻訳したものであり(一部省略)、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

概要

エジプトの2024/25販売年度(年度)(2024年10月～2025年9月)の生食用ブドウ生産量は、159万トンに増加すると予測される。エジプトの生食用ブドウの輸出量は、生産量と品質が向上した新品種により、5.7%(18万5千トン)増加すると予測される。さらに、2024年8月12日のエジプト中央植物検疫局(CAPQ)の公式声明(後述)は、生産と貿易の両方への多大な貢献となった。

生産

エジプトの2024/25年度の生食用ブドウ生産量は、前年度より2万トン多い159万トンと予測される。これは主に収穫面積が増加(1千ヘクタール増)するとともに、新しい生食用ブドウ品種が導入され、栽培方法の改善(点滴灌漑及び保護栽培)により果実の品質が向上したことによるものである。そのため、全可溶性固形物(TSS)含量¹の改善にもつながっている。

ブドウは、柑橘類に次いで国内で最も広く栽培されている果実であり、北から南まで全国に広がっている。エジプトの早生ブドウ品種の収穫期は5月下旬に始まり9月に終わる。一方、晩生品種の収穫は6月下旬に始まり11月に終わる。

ナイルデルタ地帯のエジプト農業は、「オールドランド」と呼ばれる地域での小規模農業が主流で、伝統的な栽培方法や(管理された)洪水による地表灌漑が特徴となっている。「ニューランド」は、比較的最近になって造成された農地である。ニューランドは、250万エーカー(100万ヘクタール)以上をカバーし、最新の灌漑技術を使用して主に輸出市場に専念している。

エジプトの生食用ブドウ産地

1. ナイルデルタ流域農業(オールドランド農業)

ナイルデルタでは、大部分が小規模農場(栽培規模は通常1.5ヘクタール未満)である。その生産物のほとんどは国内市場向けであり、国内の品種(ファユミー、ロウミアアマル等)に集中する傾向がある。なお、これらの小規模生産者は、投入コストの増加、農地の断片化、都市化という課題に直面している。

2. 砂漠造成地農業(ニューランド農業)

砂漠地帯に造成された農場は、輸出に焦点を当て完全に統合されたアグリビジネスであることが多い。これらの近代的な農場は、傾向として、最大4千ヘクタールまたはそれ以上の大規模であり、主にテクノロジー主導の生産方法、高度なコールドチェーン冷蔵施設、及び大規模な自動梱包施設を使用する。ヌバリア地域(地図1)は、砂漠地帯に造成された農地での生産の大部分を占めており、エジプトのブドウ総生産量の約65%を占めている。輸出は価値が高いため、エジプトの企業はブドウ生産を拡大し続けている。さらに、耐乾性品種と点滴灌漑システムが使用されるため、水の入手可能性はブドウ産地では問題にならない。

地図1 ベヒラ県ヌバリア地域



出典: 米国農務省海外農業局国際生産評価課

1. 可溶性固形物(TSS)の大部分が糖類であるため、TSSとブ릭スの用語はほぼ同じ意味で使用される。

表1 エジプトで栽培される主な生食用ブドウ品種

品 種 名	性 質	収穫時期
フレームシードレス	赤ブドウ、早生品種	5月中旬～6月上旬
クリムゾン	赤ブドウ、早生品種	8月中旬
レッドグローブ	赤ブドウ、晩生品種	7月中旬
アーリースイート	白ブドウ、早生品種	5月中旬
トンプソンシードレス	白ブドウ、中生品種	7月中旬
スペリア	白ブドウ、早生品種	5月中旬～6月上旬
オータムローヤル	黒ブドウ、晩生品種	7月中旬～8月上旬
プライムシードレス	緑ブドウ、早生品種	5月中旬～6月
ティムコ	種無し赤ブドウ、晩生品種	8月下旬

出典: FAO エジプトのブドウバリューチェーンにおける食品ロス分析-2021

大規模な生産者達は、土壌や環境条件への適合性が評価された新しい品種を常に探し求めている。生産者達は、収量の増加と品質の向上、及び貯蔵寿命の延長(特に中生及び晩生品種)に注力している。また、大規模な輸出農場は、輸出競争力を維持するために、海外市場、特にEU及び英国の輸入要件を満たすことに熱心に取り組んでいる。

エジプトの生食用ブドウの植え付けと収穫の時期

エジプトの気候は生食用ブドウの生産に最適である。温暖な冬、暑い夏、そして年間を通じて霜が降りない暖かい生育日数が多いため、生育期間中のブドウの木には最適な条件が与えられる。2024年の生食用ブドウの生育シーズンの天候は、サイズ、重量及び色の点で白と赤の両方の品種が非常に高品質になることに貢献した。しかし、過度の暑さと干ばつは依然として生食用ブドウ生産者にとっての懸念事項である。

植え付けの時期は2月の第1週に始まる。挿し木はピートモスと砂の混合物で満たされた黒いポリエチレン袋に植えられ、野外に移植されるまで温室に保管される。ブドウの木は3年目から結実する。

植物の新品種の保護に関する国際条約への加入

エジプトは、2019年12月に植物新品種の開発を奨励する「植物の新品種の保護に関する国際条約」(UPOV条約)の76番目の加盟国となった。エジプトは、UPOVに加盟したことで、新しい優れた植物品種を普及及び開発することができるようになった。さらに、これによりエジプトは他のUPOV加盟国が持つ新しい植物品種へのアクセスが改善され、さまざまな作物の輸出を促進することができるようになった。また、登録されたエジプトの品種を搾取や盗難から保護するのにも役立つ。UPOVへの参加は、新品種の果実や野菜へのアクセスを改善するのに役立ち、業界が海外市場での競争力を高めることを促進し、エジプトが国内で進める育種プログラムを増やすように促した。

消費

2024/25年度の生鮮ブドウの国内消費量は、前年よりわずかに多い141万トンと予測される。消費の増加は、主に人口増加と近隣諸国、特にスーダンからの移民の増加によるものである。エジプトのブドウの国内消費は、主に国内生産と、マンゴー(これも主要な夏の作物である)等の他の果実と比較して競争力のある価格によって支えられている。さらに、エジプト産のブドウはより甘く、エジプトの人々にとってより魅力的であるため、国内の消費者の間でより人気がある。また、消費者は、輸入されたブドウよりも競争力のある価格で、様々な国内産の品種を簡単に購入することができる。

国内のブドウ市場は、産品を輸出しない生産者や、輸出契約を履行した後に製品の一部を地元市場に出荷する輸出業者にとって重要な市場である。エジプト、特に農村部においては、今でも青空市場が生食用ブドウの主要な販売経路である。青空市場でのブドウの販売は、ほとんどが密閉容器を使わずに青果で販売されるため、季節の影響を受ける。

地元の市場や自家消費のために生食用ブドウを栽培する生産者は、多少の擦り傷や打撲痕を許容するが、ハイエンド市場に対しては品質基準を満たすためより多くの注意が払われている。

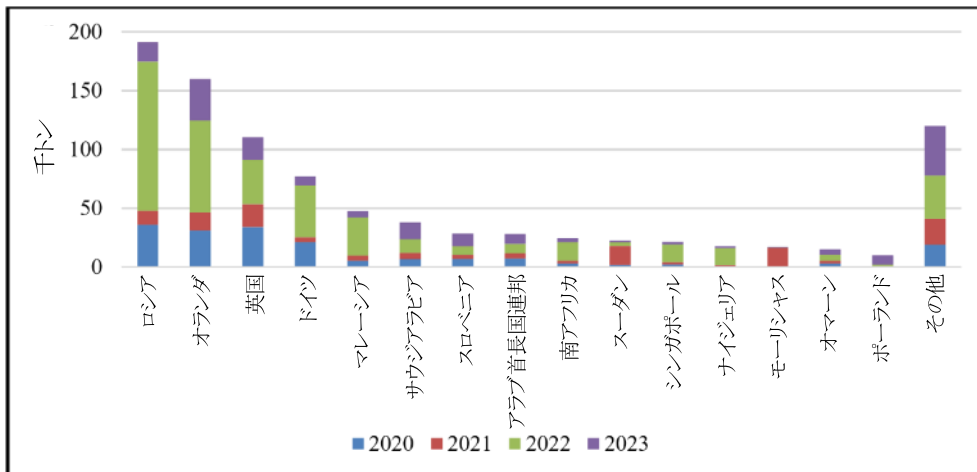
貿易

2024/25年度の生鮮ブドウの輸出量は、前年比5.7%増の18万5千トンと予測される。輸出量の増加は、輸出志向の農場に適した品種の品質が向上したことに牽引されている。輸出の増加はまた、主要な輸出先における消費者の嗜好に対する理解が深まり、それらの市場でより高い基準を確立することによっても推進されている。生産コストの上昇、インフレ、トラック輸送コストの高騰(他の農産物を輸出するためのトラック使用との競合)にもかかわらず、生食用ブドウの輸出業者らは、2023/24年度の主要市場での地位を確保するために、品質の向上に注力した。

貨物輸送の課題に対処するため、エジプト政府(GOE)は民間のパートナーとともに、EU市場へのアクセス拡大を促進するためのコールドチェーン物流の開発に投資している。そのためGOEは、ダミエッタ港(エジプト)とトリエステ港(イタリア)の間で週420台のトラックを輸送できるロールオン/ロールオフ(Ro-Ro)システムによる青果物やその他の商品の輸送に関する協定をイタリアと締結した²。その結果、トリエステとダミエッタの間の商品の輸送時間は60時間に短縮され、隔週で運航されている³。

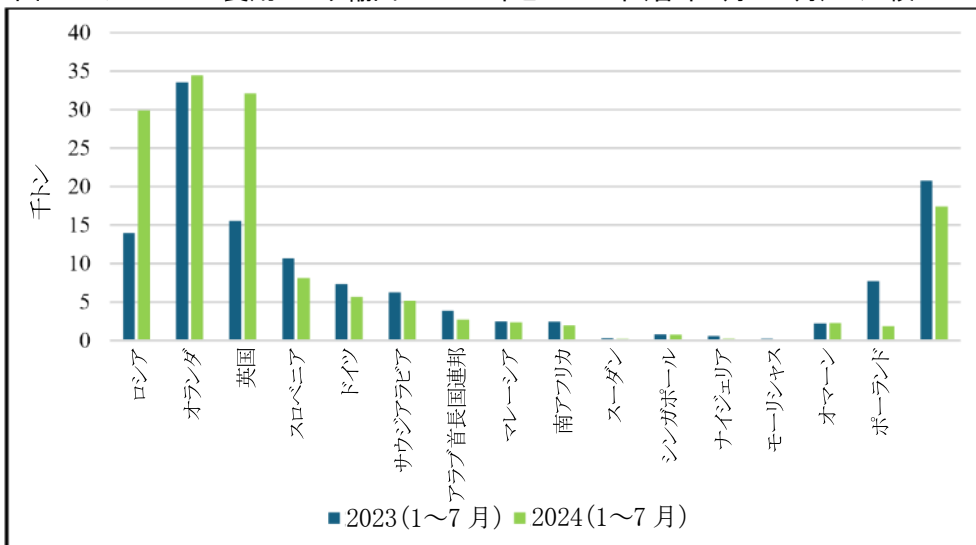
エジプトの生食用ブドウ輸出は、主要市場(ロシア、英国、EU等)の需要の増加と、エジプト産ブドウの糖度、サイズ、色、味の改善により、過去4年間で増加した。2020年から2023年にかけての輸出先上位5カ国は、ロシア、オランダ、英国、ドイツ、マレーシアであった(図1)。

図1 エジプト産生食用ブドウの主な輸出先



出典: Trade Data Monitor, LLC

図2 エジプトの生食用ブドウ輸出 2023年と2024年(各年1月~6月)の比較

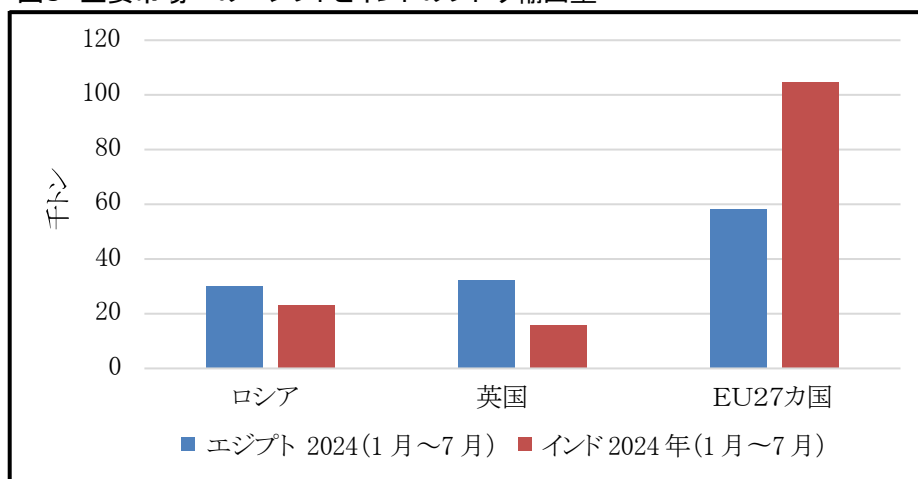


出典: Trade Data Monitor, LLC

2024年(1月～6月)のエジプトの輸出量は、2023年の同時期と比較して12.7%増加した。この増加は、エジプト産ブドウの主要市場であるロシアと英国への輸出が大幅に増加したことに起因しており、インド及びスペインとの競争が少なかった(図2)。

昨年のフーシ派の船舶攻撃による紅海危機のため、喜望峰廻りの長い輸送時間(目的地によっては30日から40日にも及ぶ)に加え、コンテナや貨物の輸送コストが増加し、輸出業者は極東へのブドウの輸送を躊躇した。一方、紅海危機は、インドから英国及びロシアへの生食用ブドウの輸出に影響を与えた(図3)。インドは、EU、ロシア、英国の市場において、エジプトの主要な競争相手である。ただし、この競争は主に品種と着荷の時期に依存する。

図3 主要市場へのエジプトとインドのブドウ輸出量



出典: Trade Data Monitor LLC

政策

エジプト中央植物検疫局(CAPQ)は2024年8月12日に、エジプトのUPOV加盟(2019年)及び通達(2022年)第29号(ブドウ輸出農場の登録及びコードの取得並びにブドウ品種の植物衛生及び知的財産(IP)権に関する証明書発行に関する指示)に関連する公式声明を発表した。公式声明(付録1)は、ブドウ品種の知的財産権を保護するためのさらなる手続きを定めている。その結果、知的財産権の侵害が疑われる場合は、サプライチェーンのどの段階でもサンプルが収集され、DNAフィンガープリントがCAPQのラボに持ち込まれて、IP保護規制への準拠が確保される。(以下、付録(アラビア語)の内容説明省略)

エジプトの生食用ブドウの生産需給統計

ブドウ(生鮮、生食用)	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2022年10月号		2023年10月		2024年10月号	
販売年度の始まり	ブドウ		ブドウ		ブドウ	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	75,600	75,600	76,000	76,000	0	76,000
収穫面積(ヘクタール)	71,400	71,400	71,800	72,000	0	73,000
商業的生産量(トン)	1,560,000	1,560,000	1,568,000	1,573,000	0	1,593,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	1,560,000	1,560,000	1,568,000	1,573,000	0	1,593,000
輸入量(トン)	2,000	2,000	2,000	2,000	0	2,000
総供給量(トン)	1,562,000	1,562,000	1,570,000	1,575,000	0	1,595,000
生鮮国内消費量(トン)	1,392,000	1,392,000	1,400,000	1,400,000	0	1,410,000
輸出量(トン)	170,000	170,000	170,000	175,000	0	185,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	1,562,000	1,562,000	1,570,000	1,575,000	0	1,595,000

公式データには、[PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

283. 南アフリカの落葉果実事情(リンゴ、ブドウ)

米国農務省GAINレポート 2024年11月6日

これは米国農務省海外農業局プレトリア事務所(南アフリカ)が作成した「落葉果実年次報告書」のリンゴ及びブドウの項の一部を翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

<リンゴ(生鮮)>

西ケープ州は南アフリカ最大のリンゴ産地であり、東ケープ州と合わせてリンゴ生産量の95%以上を占めている(図1)。フリーステート州、ムプマランガ州及びリンボポ州を中心としてもっと北に位置している産地は、小さいながらも成長している。南アフリカのリンゴの収穫は通常1月に始まり5月まで続き、2月から4月までの間に収穫のピークがある。CA貯蔵により、国内市場と国際市場の両方に一年を通じて出荷することができる。主に輸出市場で販売されるクラス1の果実は通常、約9カ月間CA貯蔵され、その後、短い期間(3カ月)普通の大気(RA)の貯蔵庫で保管される。調査研究、市場情報、市場開発等のサービスの提供を通じて生産者を支援する業界団体である「ホルトグロ」(Hortgro)は、リンゴとナシ(及び核果類)の生産者を代表している。

図1 南アフリカの落葉果樹産地の地図



出典: Hortgro

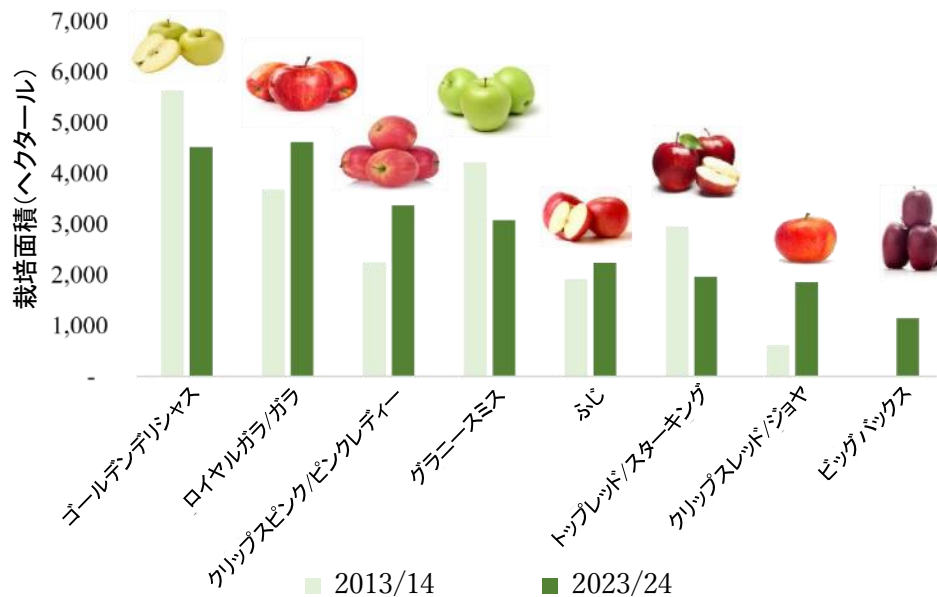
南アフリカのリンゴ生産は8つの品種が支配的であり、栽培面積の約91%を占めている。選択される品種(図2)は、主に南アフリカの輸出市場における消費者の需要によって決定される。しかし、過去5年間の植栽は、収穫量を改善したいという生産者の願望によっても推進されてきた。青リンゴの栽培面積は、特にゴールデンデリシャスやグラニースミス等の品種で、長年にわたって減少している。嗜好はロイヤルガラ、クリップスピンク、ふじ、クリップスレッドに移っている。ビッグボックス(Bigbucks)品種は、中国、インド等の市場で好評なため、最近の新植では好んで植えられている。

栽培面積

当事務所は2024/25年度の南アフリカのリンゴ栽培面積を、2023/24年度と同じ2万5,100ヘクタールと予測する。生産者は、近年実施されている計画停電のため、代替エネルギー源の設置に力を注いできた(当事務所の報告書「[南アフリカ：負荷制限\(計画停電\)と食品サプライチェーンへの経済的負担](#)」を参照)。この代替エネルギー源への顕著なシフトは、栽培面積拡大への投資を制限しているようである。さらに、国営電力会社であるエスコム社は、2024年4月に電気料金を13%引き上げ、さらに36%の引き上げを提案しており、承認されれば2025年に実施される予定である。電気料金の値上げは、灌漑、梱包、冷蔵の電力供給を

今でも全国の送電網に依存している生産者に影響を与えると見られる。また、生産者達は、輸出可能な果実の品質を向上させるために、防電ネットへの投資に力を入れている。

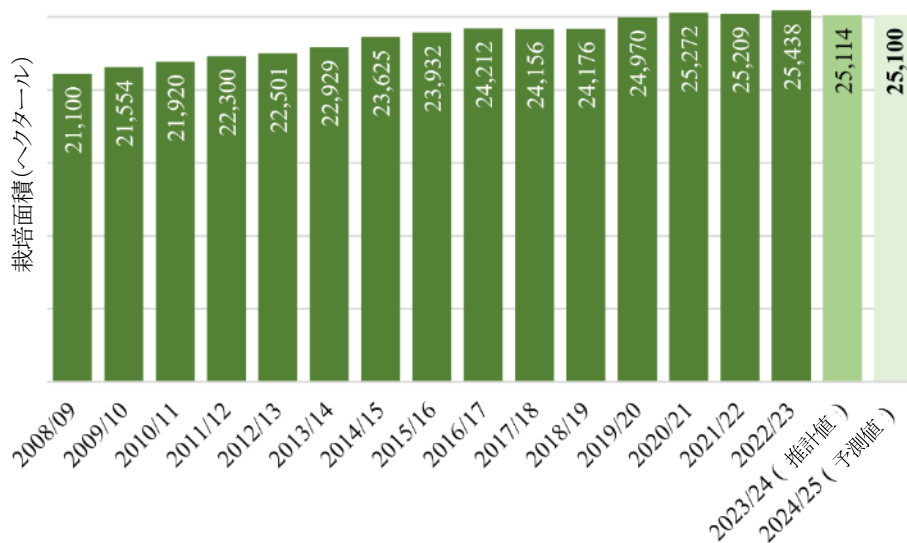
図2 リンゴの品種別栽培面積(ヘクタール)



出典：2013年及び2023年のHortgro 果樹センサスのデータを用いて当事務所が作成

2023/24年度の栽培面積は、収穫量を増やすための新品種への新植及び改植が少なく、1%減少した。(図3)。ケープタウン港での物流上の課題、鉄道の不調、気象パターンの変化、国内市場の低迷、加工能力と冷蔵能力の制約など、いくつかの要因が面積縮小の要因となった。2024年のホルトグロのセンサスによると、最も減少した地域は東ケープ州(34%)、北部諸州(24%)及び西ケープ州のピケバーグ地区(13%)である。生産者が栽培面積の拡大を控え、古い果樹園を伐根した結果、樹齢0~3年の果樹は16%減少し、25年以上の果樹は2%減少した。樹齢0~3年の果樹の栽培面積が減少したのは、一部の果樹が成木化したことと、改植のペースが遅いためである。業界の最新の統計によると、2022/23年度の栽培面積は、以前の推計値よりもわずかに多く、2万5,438ヘクタールとなっている。

図3 南アフリカのリンゴ栽培面積



出典：Hortgro のデータを用いて当事務所が作成

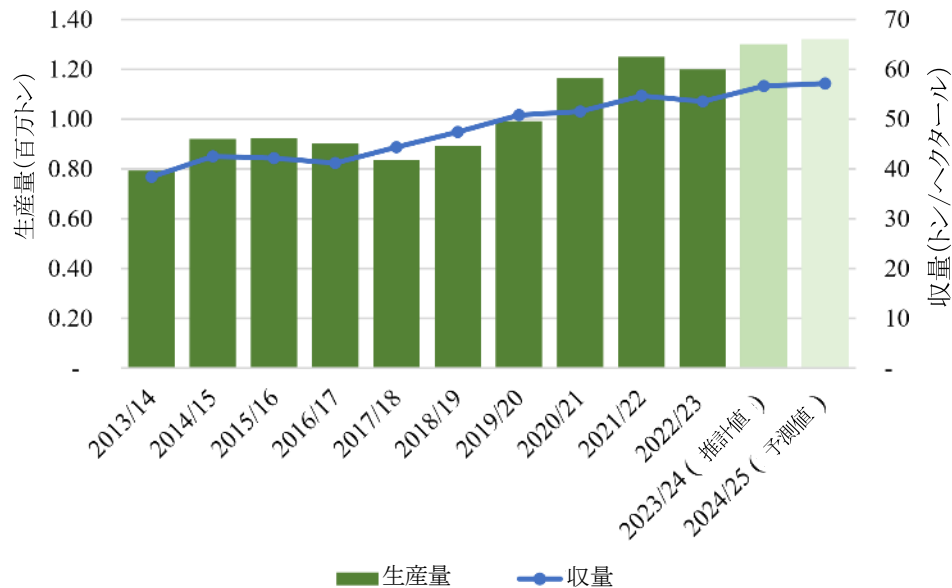
生産

当事務所は、2024/25年度のリンゴ生産量は2023/24年度から2%増加すると予測する。寒くて雨の多い2024年の冬の数カ月が生産に資すると予想される。また、産地では冬季に十分な雨が降り、夏季の灌漑用水の供給を確保した。さらに、若い果樹の成木化は、2024/25年度の全体的な生産量の増加を支える。

当事務所は、雹害を受けた2022/23年度の実績に比べ、2023/24年度の実績が8%改善したと推定する。生産量の伸びは、冬の好条件と若い果樹の成木化に支えられた。西ケープ州は2024年4月上旬に強風と大雨に見舞われたが、ほとんどの果実は収穫された。当事務所の情報提供者らは、風によって損傷または吹き飛ばされた果実は極一部だけであったと報告した。寒い天候は、赤・ピンク系リンゴの晩生品種の着色を助けた。当事務所の情報提供者らはさらに、生産量の伸びは、栽培面積の傾向を反映してビッグボックス、クリップスレッド及びガラを生産によって支えられていると報告している。

当事務所は、最新のデータに基づき、2022/23年度の実績を生産量を120万トンに若干上方修正した。2022/23年度の実績は、西ケープ州のリンゴ産地、特にセレス、ラングルーフ両地域が雹の影響を受けたため前年度に比べて4%減少した。降雹によりリンゴの出荷量が減少し、果実は物理的な被害を受けた。

図4 南アフリカのリンゴ生産量



出典: Hortgro のデータを用いて当事務所が作成

輸出

当事務所は、輸出可能なリンゴの生産量の増加により、2024/25年度のリンゴの輸出量は前年比2%増で史上最高の71万トンと予測する。リンゴは伝統的にケープタウン港から出荷されている。当事務所の情報提供者らは、設備の故障による港の非効率性が、特に早生品種の輸送に影響を与えていると見ているが、一部の古い設備の交換計画が2025年半ばまでに実行される予定である。業界は、果実の輸送に関連するリスクを管理するため、港湾当局と引き続き協議している。南アフリカは、リンゴ生産量の約53%を95カ国以上に輸出している。

当事務所は、2023/24年度の輸出量は、生産量の増加により12%回復したと推定する。ケープタウン港の問題のため、一部の輸出業者はリンゴをトラックでポートエリザベス港に輸送し、そこから出荷することを選択した。当事務所の情報提供者らは、輸出はガラ、クリップスレッド、ビッグボックス等のバイカラーの赤リンゴ及びピンクレディー品種の伸びによって推進されていると報告している。

アフリカ諸国への輸出は、主に需要の増加(特にピンクレディー、ガラ、ゴールドデンドリシャス)、これらの市場での限られた競争、及び最適でない取り扱い条件に耐えるリンゴの性質によって推進されている。しかし、アフリカ諸国への輸出は、貿易コストの高さと物流上の課題によって制限されている。南アフリカは、欧州連

合(EU)と英国の両方と自由貿易協定を結んでおり、これらの市場での免税輸出の恩恵を受けている。

アフリカとヨーロッパの市場は従来から堅調であったが、成長は主にアジアへの輸出の増加によって牽引されると予想される。南アフリカのインド向けリンゴ輸出は、インド政府が南アフリカ産のリンゴとナシの輸出に対して輸送中の低温処理を承認した結果、2022/23年度に約30%増加し、2023/24年度の1月から8月の期間に65%増加した。インドに輸出されている主なリンゴ品種は、ロイヤルガラとビッグボックスである。

表1 南アフリカの生鮮リンゴ輸出量

順位	輸出先国	1月～12月				1月～8月		
		2021/22 (トン)	2022/23 (トン)	2022/23 シェア	2022→23 増加率	2022/23 (トン)	2023/24 (トン)	2023→24 増加率
1	英国	77,948	69,201	11%	-11%	63,627	72,642	14%
2	ナイジェリア	56,937	44,628	7%	-22%	28,518	24,038	-16%
3	バングラデシュ	38,008	42,427	7%	12%	39,449	34,143	-13%
4	マレーシア	37,413	38,969	6%	4%	26,432	23,891	-10%
5	アラブ首長国連邦	34,791	37,283	6%	7%	35,258	40,555	15%
6	ベトナム	23,783	24,409	4%	3%	17,448	17,460	0%
7	オランダ	21,786	23,391	4%	7%	21,377	27,390	28%
8	インド	17,470	22,712	4%	30%	22,502	37,119	65%
9	セネガル	22,772	20,576	3%	-10%	13,399	13,682	2%
10	ケニア	17,558	18,393	3%	5%	11,147	14,078	26%
11	中国	13,223	16,290	3%	23%	15,161	14,654	-3%
...	62 米国	112	482	0%	330%	464	241	-48%
	その他	263,302	248,493	41%	-6%	180,418	222,277	23%
	世界	625,102	607,256	100%	-3%	475,200	542,170	14%

出典: Trade Data Monitor, LLC のデータを用いて当事務所が作成

表3 南アフリカの生鮮リンゴの生産需給統計

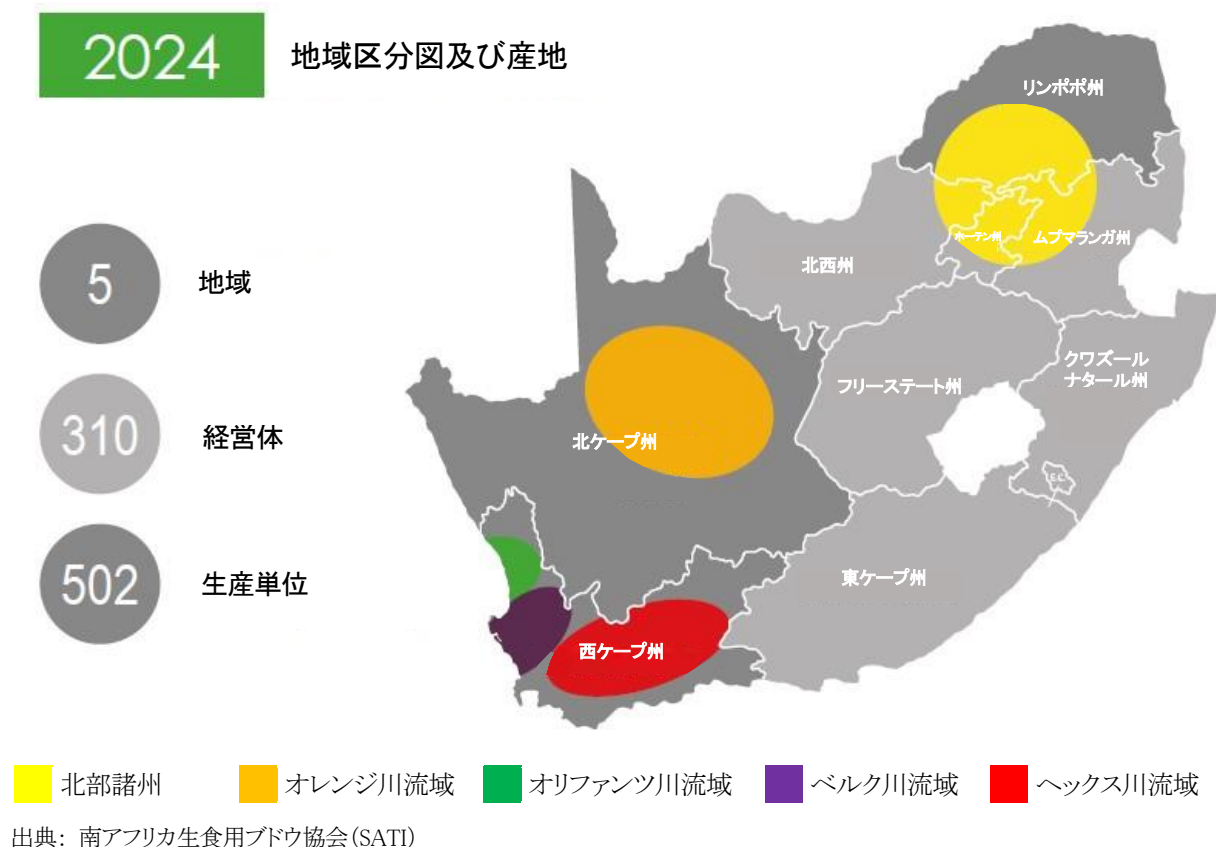
リンゴ(生鮮)	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2023年1月		2024年1月		2025年1月	
販売年度の始まり	2023年1月		2024年1月		2025年1月	
南アフリカ共和国	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	25,277	25,438	25,300	25,114	0	25,100
収穫面積(ヘクタール)	21,500	22,400	23,500	22,950	0	23,090
結果樹本数(千本)	33,700	33,900	33,800	33,500	0	33,400
未結果樹本数(千本)	3,000	2,920	2,000	2,000	0	1,990
果樹本数合計(千本)	36,700	36,820	35,800	35,500	0	35,390
商業的生産量(トン)	1,150,000	1,200,000	1,225,000	1,300,000	0	1,320,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	1,150,000	1,200,000	1,225,000	1,300,000	0	1,320,000
輸入量(トン)	50	47	30	55	0	50
総供給量(トン)	1,150,050	1,200,047	1,225,030	1,300,055	0	1,320,050
国内消費量(トン)	542,750	592,791	575,030	620,055	0	610,050
輸出量(トン)	607,300	607,256	650,000	680,000	0	710,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	1,150,050	1,200,047	1,225,030	1,300,055	0	1,320,050

公式データは [PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

<生食用ブドウ(生鮮)>

南アフリカの生食用ブドウの主な産地は、西ケープ州のヘックス川流域(32%)、ベルク川流域(23%)、オリファンツ川流域(6%)、北ケープ州のオレンジ川流域(29%)、及び北部諸州(10%)等である(図10)。南アフリカ生食用ブドウ生産者協会(SATI)は、生食用ブドウ生産者の利益を代表し、支援している。

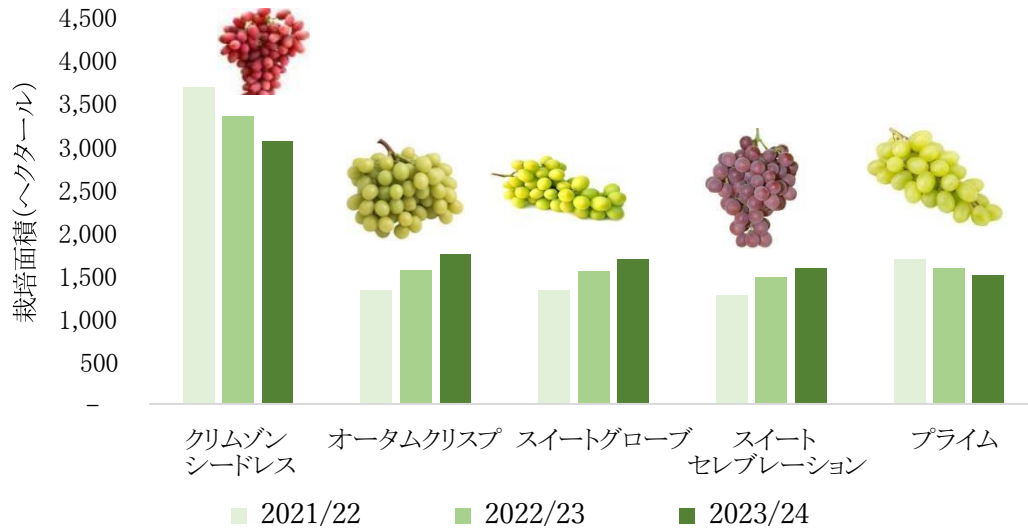
図10:南アフリカの生食用ブドウ産地の地図



南アフリカ生食用ブドウ協会(SATI)の果樹センサス(2024年)によると、生食用ブドウの栽培面積の大部分が樹齢3~9年(57%)で、次いで樹齢10~15年(20%)となっている。2023/24年度の樹齢2年未満の若いブドウの栽培面積は、栽培面積全体の減少を反映して27%減の2,120ヘクタールとなった。南アフリカの生食用ブドウの品種構成は、過去10年で大きく変化した。消費者が種無しブドウを好むことから、種無しの生食用ブドウ品種の生産が伸びる一方で、種有り品種は減少している。現在、種有りの生食用ブドウは生産量の6%未満である。

栽培されている上位5つの品種は、クリムゾンシードレス(16%)、オータムクリस्प(9%)、スイートグローブ(9%)、スイートセレブレーション(8%)、プライム(8%)である。図11に示したこれらの栽培品種は、総栽培面積の50%を占めている。

図11 主な生食用ブドウ品種の栽培面積(ヘクタール)

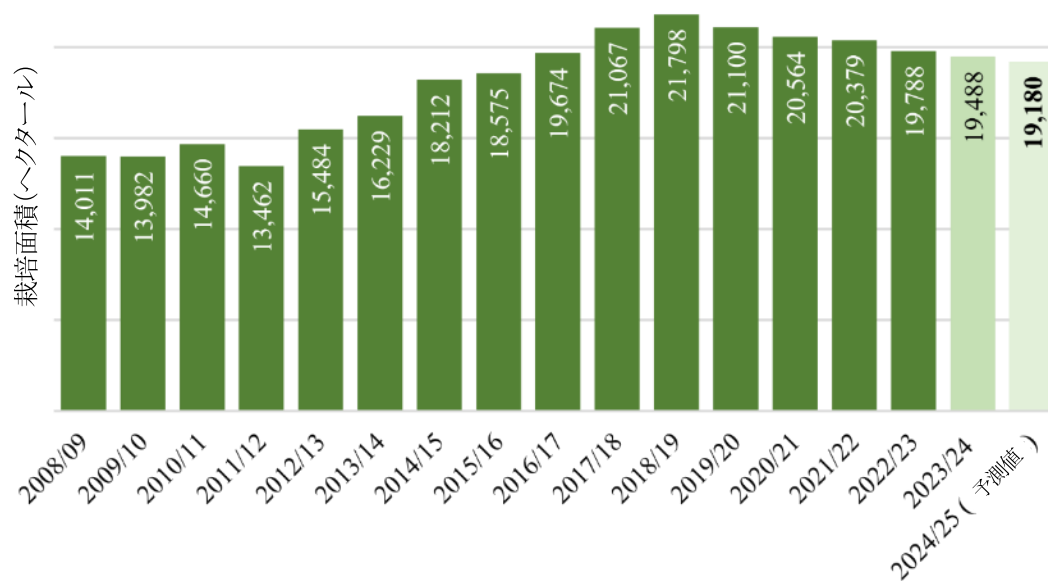


出典: SATI のデータに基づき当事務所が作成

栽培面積

当事務所は、2024/25年度の生食用ブドウの栽培面積を、2023/24年度と比較して2%減の1万9,180ヘクタールと予測する。生産者は、古い品種をより新しい多収性品種に置き換えている。栽培面積は2018/19年度以降、減少傾向を示しており、年平均2%減少している。栽培面積の減少傾向は、2012/13年度から2018/19年度にかけて主に輸出収益の増加により生食用ブドウの栽培面積が急激に増加した後に起きているものである(図12)。南アフリカの生食用ブドウは主に輸出されているため、非効率的な港湾運営と道路網の劣化は、南アフリカの生食用ブドウ生産者の収益性を低下させ、この産業への新たな投資を制約する。生産者はまた、生産物を非効率なケープタウン港に代えてポートエリザベス港から輸出するためのルート変更にかかる追加コストを負担している。

図12 南アフリカの生食用ブドウの栽培面積



出典: SATI のデータに基づき当事務所が作成

2023/24年度の栽培面積は、2022/23年度に比べて2%減の1万9,488ヘクタールと推定される。オリファンツ川流域(+1%)を除くすべての産地で、栽培面積がわずかに減少した(北部諸州 -8%、ヘックス川流域 -2%、ベルク川流域 -1%、オレンジ川流域 -1%)。肥料や農薬のコストは安定したが、ロシア・ウクライナ紛争前の価格水準を上回っている。業界団体のSATIによると、生産者にとって最大の直接コストは人件費であり、これは直接費全体の約55%を占めている。南アフリカ雇用労働省が発表した2024年3月1日からの新たな全国最低賃金は時給27.58ランド(1.48ドル)で、前年の25.42ランド(1.36ドル)より8%高い。

2022/23年度の栽培面積は3%減の1万9,788ヘクタールであった。北部諸州は、気象条件の変化と生産コストの増加により、栽培面積が最も減少した。

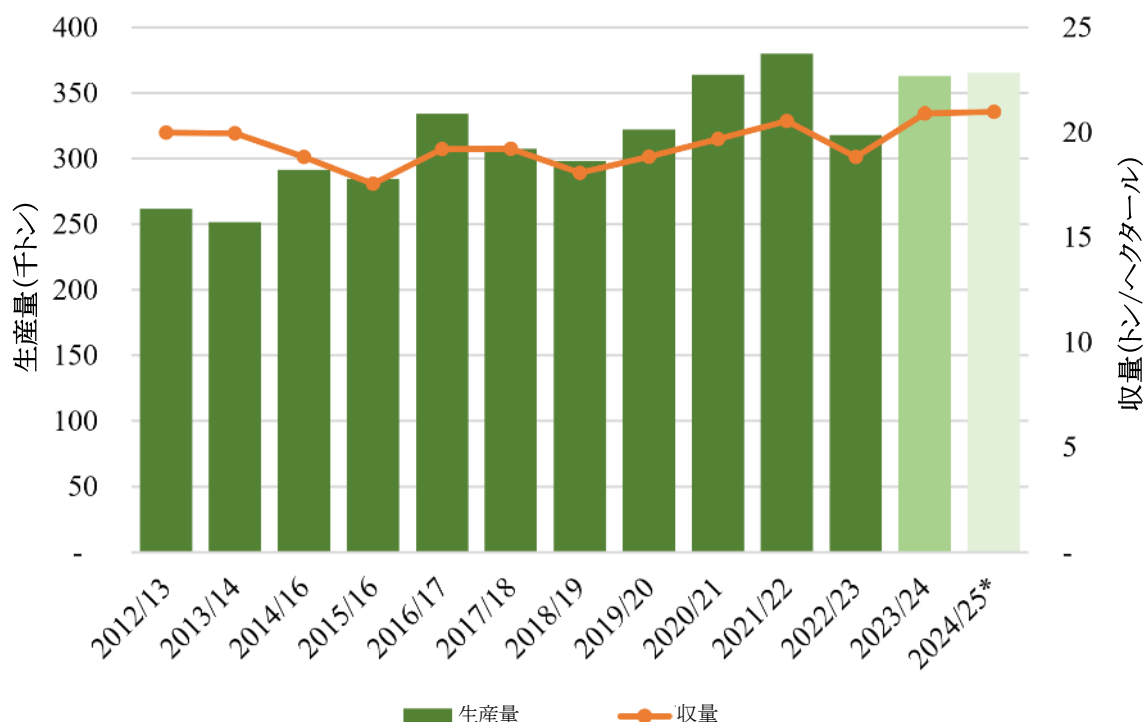
生産

当事務所は、通常の天候条件と新しい品種の成木化を前提に、南アフリカの2024/25年度の生食用ブドウの生産量を、2023/24年度と比較して1%微増の36万5千トンと予測する。2024年の冬の寒さは、果粒のサイズ、色、品質を支えるのに十分であった。さらに、冬季の降雨によりダムの水位が上昇し、灌漑用水の利用が確実になった。当事務所の情報提供者らは、大半の地域では生食用ブドウの生産量は収量の改善によりわずかに増加するか、平均を維持すると予想されるが、北部諸州では栽培面積の減少傾向を反映して生産量が減少する可能性が高いと報告している。

当事務所は、2023/24年度の生食用ブドウの生産量を2022/23年度に比べて14%増となる36万3千トンと推定する。多収性新品种が成木化するほか、ヘックス川流域を除くすべての産地でシーズン中に良好な天候条件が見られ、生産量と品質の向上に寄与した。ヘックス川流域の産地では局地的な雹害が報告されたが、全国的な生食用ブドウの生産量に大きな影響を与えるものではなかった。2023/24年度の出荷シーズンは、天候パターンの変化や、ヘックス川流域の産地でのシーズン中盤から終盤の雨の影響により、通常より約2週間早く終了した。このため、晩生品種の生産量は通常よりも少なくなった。

生食用ブドウの生産量は、2021/22年度に過去最高の38万トン記録した後、2022/23年度には16%減の31万8千トンとなった(図13)。これは、オレンジ川流域を始めとする栽培面積の微減と悪天候によるものである。

図13 南アフリカの生食用ブドウ生産量



出典: SATI のデータに基づき当事務所が作成 *当事務所の予測値

輸出

当事務所は、2024/25年度の生食用ブドウの生産量に緩やかな伸びが見込まれることから、輸出量を前年比1%の微増と予測する。港湾の物流については、特にケープタウン港のコンテナターミナル(CTCT)と多目的ターミナル(CTMPT)の設備の輸出シーズン中の不足と故障により、引き続き輸出にリスクをもたらすものと予想する。

2023/24年度の生食用ブドウの輸出量は、生産量の回復により17%増加した。2023/24年度に最も輸出された品種は、全体的な生産量を反映して、クリムゾンシードレス、スイートグローブ、スイートセレブレーション、プライム及びオータムクリスプであった。従来から南アフリカ産生食用ブドウの大部分の輸出に使用されてきたケープタウン港は、2023/24年度には前年度と比較して天候関連の輸出の混乱が少なかった。当事務所の情報提供者らの報告によると、天候に起因する遅延は、2023年2月の254時間と比較して、2024年2月には105時間に過ぎなかった。しかし、輸出シーズンはケープタウン港の別の問題によって脅かされた。同港では、出荷シーズンの序盤にクレーンが故障し、輸出のピーク時には設備の不足により遅延が発生した。これらの遅延は、2023/24年度の総輸出量には大きな影響を与えなかったが、品質の低下、シーズン序盤のプレミアム価格の逸失及び契約上のタイムリーな配送の不履行等により、利益率に影響を与えた。

ケープタウン港の問題を軽減するため、生産者らは2023/24年度の生鮮ブドウ輸出の約10.6%をポートエリザベス港に迂回させる必要があった。さらに、従来からケープタウン港を経由して輸出を行っているナミビアの輸出業者も、生鮮ブドウ輸出の約21%をナミビアのウォルビスベイ港から出荷した。ケープタウンの港湾管理者、政府及び果実業界は、輸出シーズンを通して港湾の生産性と準備状況を定期的に見直し、必要に応じて是正措置を実施するために定期的に協議を行った。

当事務所は9月にウォルビスベイを訪れ、冷蔵倉庫を増設し、南アフリカ産生食用ブドウの輸出を増やす計画について調査した。当事務所は、2024/25年度には、北部諸州からの南アフリカ産ブドウとともに、より多くのナミビア産ブドウがウォルビスベイ港から出荷されると予想する。

西ケープ州で生産された輸出用ブドウの一部は、ポートエリザベス港から出荷される。これにより、特にピークシーズンにケープタウン港への圧力がいくらか緩和されることが期待される。ケープタウン港では古い設備の一部を2025年に交換する計画があるが、生産性の向上は2025/26年度の輸出シーズンまで実現されない可能性がある。

2022/23年度の生食用ブドウの輸出量は、生産量の減少と港湾での課題により、2021/22年度と比較して16%減少した。

ヨーロッパは南アフリカの生食用ブドウの主要な輸出市場であり、2023/24年度の生食用ブドウの総輸出量の約78%を占めている。オランダは、ヨーロッパ市場への輸入窓口として、南アフリカの生食用ブドウの最大の輸出市場であり、総輸出量の40%以上を占めている。南アフリカは、競合する他の南半球の輸出国よりもヨーロッパへの輸送距離が短く、EU及び英国との特惠貿易協定の恩恵を受けている。アジア、中東、アフリカへの輸出も大きく伸びる可能性があり、南アフリカの生食用ブドウ産業の中核的な重点分野である。

2023/24年度の米国への輸出量は、2022/23年度と比較して73%増加した。南半球の一部の国では、輸出可能な生産量に影響を与える悪天候に見舞われた。これにより、南アフリカは米国への輸出量を増やす機会を得た。米国に輸出される生食用ブドウは種無しであり、主な品種はスイートグローブ、オータムクリスプ、スイートセレブレーション、セーブルシードレス等である。

表8 南アフリカの生食用ブドウ輸出量

輸出先国	2022/23(トン)	2023/24(トン)	2023/24 シェア	増減率
欧州連合	154,406	191,484	58%	24%
英国	57,557	65,709	20%	14%
中東	20,320	20,431	6%	1%
カナダ	14,441	11,672	4%	-19%
東南アジア	14,169	11,196	3%	-21%
中国・香港	8,153	6,683	2%	-18%
アフリカ	4,171	6,427	2%	54%
ロシア	3,728	6,163	2%	65%
米国	3,460	5,987	2%	73%
インド洋の島国	1,407	4,889	1%	247%
その他	1,443	2,141	1%	48%
合計	283,255	332,782	100%	17%

出典: SATI のデータに基づき当事務所が作成

表11 南アフリカの生食用ブドウの生産需給統計

ブドウ(生食用、生鮮) 販売年度の始まり	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2022年10月		2023年10月		2024年10月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
南アフリカ						
栽培面積(ヘクタール)	19,788	19,788	19,500	19,488	0	19,180
収穫面積(ヘクタール)	18,000	18,000	18,200	17,368	0	17,400
商業的生産量(トン)	318,000	318,000	370,000	363,000	0	365,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	318,000	318,000	370,000	363,000	0	365,000
輸入量(トン)	10,900	10,907	9,000	10,100	0	9,000
総供給量(トン)	328,900	328,907	379,000	373,100	0	374,000
生鮮国内消費量(トン)	43,900	45,652	39,000	40,318	0	39,400
輸出量(トン)	285,000	283,255	340,000	332,782	0	334,600
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	328,900	328,907	379,000	373,100	0	374,000

公式データは [PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

284. 中国の落葉果実事情(リンゴ、ナシ、ブドウ)

米国農務省GAINレポート 2024年11月6日

これは米国農務省海外農業局北京事務所(中国)が作成した「落葉果実年次報告書」の一部を翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

<リンゴ>

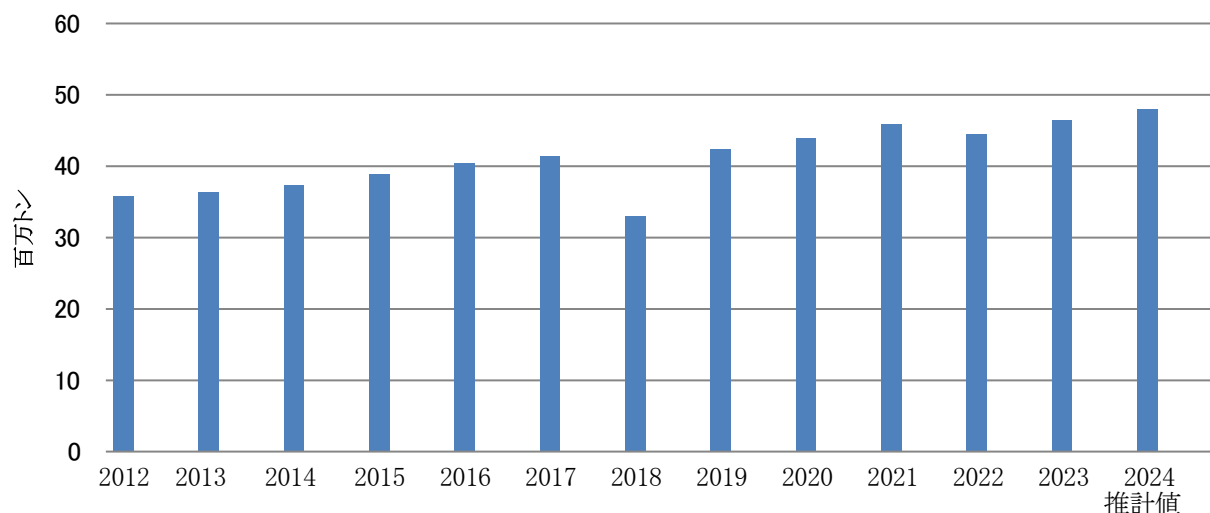
表1 中国の生鮮リンゴの生産需給統計

リンゴ(生鮮)	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
販売年度の始まり	2022年7月		2023年7月		2024年7月	
中国	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	1,955,800	1,955,800	1,935,000	1,928,460	0	1,910,000
収穫面積(ヘクタール)	0	0	0	0	0	0
結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
未結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計(千本)	0	0	0	0	0	0
商業的生産量(トン)	44,500,000	44,500,000	45,000,000	46,500,000	0	48,000,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	44,500,000	44,500,000	45,000,000	46,500,000	0	48,000,000
輸入量(トン)	95,300	95,300	85,000	87,800	0	105,000
総供給量(トン)	44,595,300	44,595,300	45,085,000	46,587,800	0	48,105,000
国内消費量(トン)	43,820,900	43,820,300	44,215,000	45,676,800	0	47,005,000
輸出量(トン)	774,400	775,000	870,000	911,000	0	1,100,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	44,595,300	44,595,300	45,085,000	46,587,800	0	48,105,000

生産

当事務所は、中国の2024/25販売年度(年度、7月～翌年6月)のリンゴ生産量を、2023/24年度の当事務所の改訂推計値から3%強の増加となる4,800万トンと推定する。開花期の降雨と一部の産地での夏の気温上昇を除けば、2024年はこれまでのところ大きな異常気象はなく、これがリンゴの生産量増加の主な要因である。好天のほか、多収性品種や園芸技術による生産性の向上に収量の低い古い果樹の伐採が加わり、栽培面積の緩やかな減少を埋め合わせる以上のものとなった。

図1 中国のリンゴ生産量

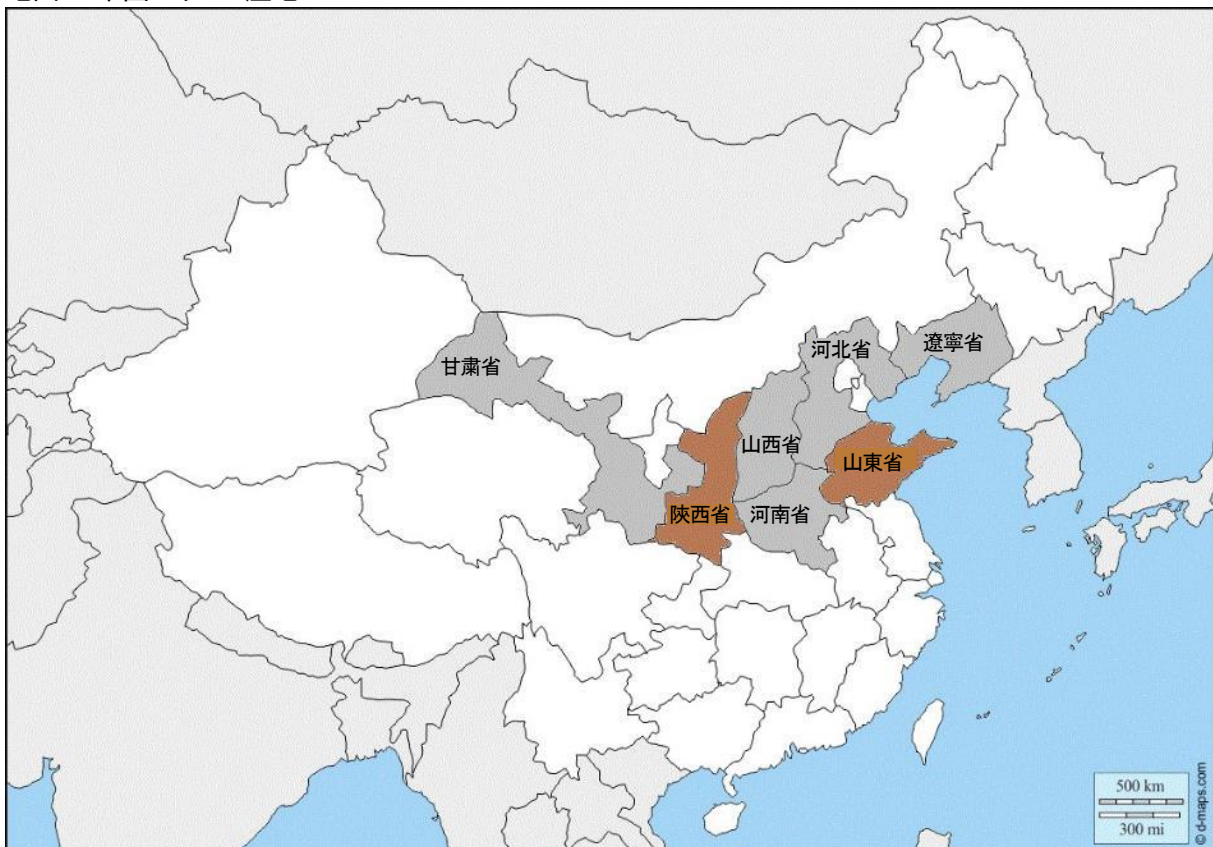


出典: 国家統計局(NBS)、当事務所

3番目に大きな産地である甘粛省のリンゴの収穫量は、春の霜が着果に深刻な影響を与えた2023/24年度の減収から回復した。当事務所は、第1位と第4位のリンゴ産地である陝西省と山西省での現地調査において、これら2つの省が裏年に当たるため、今年はリンゴの収穫量が少なくなる可能性が高いことを観察した。さらに、結果樹が少なく、これもこれらの州の生産量に影響を与える。山東省と遼寧省は、第2位と第6位のリンゴ産地であり、リンゴ生産量の緩やかな増加が見込まれる。河北省、四川省等、他の主要な産地のリンゴの収穫量は、わずかに改善する可能性がある。一方、リンゴの品質は、ほとんどの産地での良好な生育条件により、全般的に前年よりも改善している。取引業者らは、等級の高いリンゴのシェアが前年に比べて大幅に増加すると報告している。当事務所は、業界の予想に沿って生産量予測を上方修正した。当事務所は、この国のリンゴ生産量は今後も比較的安定するものと予想する。

当事務所は、2024/25年度のリンゴの栽培面積はさらにやや減少すると推定する。国務院が、基本的な農地での果実の生産を禁止する「農地の『非穀物』への転換防止と穀物生産の安定化に関する見解」を発表したのを受けて、この国のリンゴ栽培面積は2020年に減少し始めた。基本的な農地にある果樹園は穀物農場や油糧種子等の他の戦略的商品作物の生産に転換する必要がある。地方政府は、特に平野部の果樹生産者に対して、補助金等で穀物生産への切り替えを支援している。例えば、陝西省の一部の県政府は、果樹園を穀物農場に転換するために、果樹生産者に対して1ヘクタール当たり7,500人民元(1,056ドル)の補助金を提供した。それに加えて、リンゴ栽培は収益性が低くなっている。一部の生産者は、低品質で効率の悪い果樹園をより収益性の高い作物に切り替えている。他のケースでは、単に高齢であるという理由で、トウモロコシ等労働集約度の低い作物の栽培を選択した生産者もいる。リンゴを生産する上位7省すべてで、リンゴの栽培面積は減少しているか、横ばいである。栽培面積の拡大が進んでいるのは、特産リンゴの開発が進んでいる雲南省と四川省だけである。

地図1 中国のリンゴ産地



茶色 = 中国の生産量の20%以上(陝西省、山東省)
 灰色 = 5%～10%(甘粛省、山西省、河南省、遼寧省、河北省)
 出典：中国統計年鑑(2023年データ)

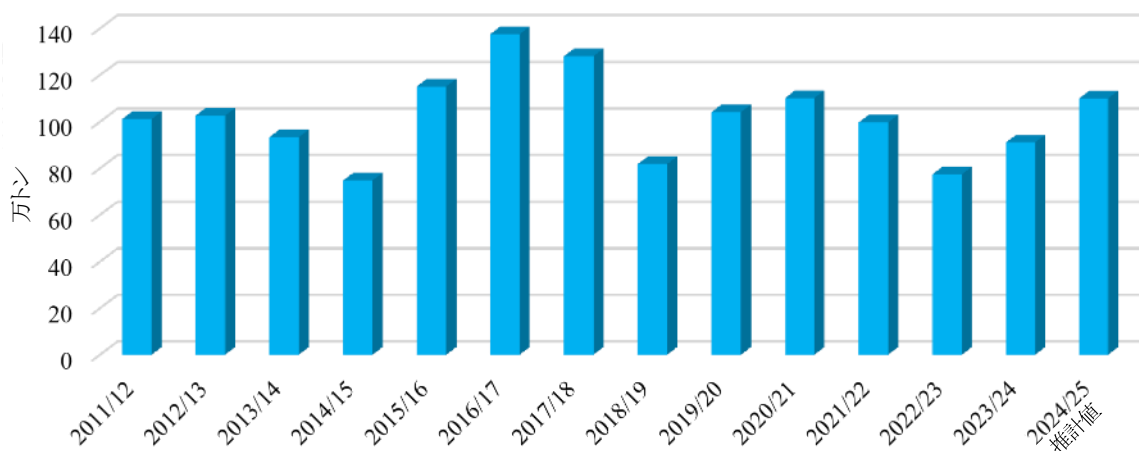
中国の研究者は、色や成熟期の異なる新しいリンゴ品種を積極的に開発している。これまでに、多くの新品種が主要な産地に導入されて植えられた。例えば、雲南省では「紅琇之吻」という実が締まりサクサク感のある品種が植えられており、香り、食味、糖度に優れていることで知られている。しかし、魯麗、維納斯黄金、秦脆、瑞雪、瑞陽、瑞香紅等の新品種の栽培面積と生産量は依然として低迷している。生産者は、果樹園の改植による経済的損失を最小限に抑えるため、リンゴの木をこれらの新しいリンゴ品種に段階的に転換し、消費者がどのように反応するかを見守っている。しかし、果樹園や品種をアップグレードするには莫大な投資と技術が必要であり、大部分の小規模生産者にはその余裕がない。10月下旬に収穫される晩生のふじ品種は、依然として中国のリンゴ生産の大半、すなわち中国で生産されるリンゴ全体の70%以上を占めている。残りの30%のうち大部分は、7月から9月の間に収穫されるガラ等の早生及び中期の品種である。

主要なリンゴ産地の省や県では、地方政府が研修セミナーを開催したり、実証ほを設置したりして、近代的な生産技術の普及を推進している。例えば、矮化密植栽培の方式を採用することで土地利用効率と収量を大幅に改善できる。同時に、この技術は作業の機械化を容易にし、人件費を削減する。水と肥料を同時に施用できる点滴灌漑システムも、効率を大幅に向上させ無駄を削減した。また、このほかの技術的進歩としては、病害虫を防除する生物学的防除技術や、果樹園の環境をリアルタイムで監視・制御するための情報技術やビッグデータの利用等がある。地方政府は、生産者が果樹園のインフラ整備をはじめとする最新の技術を採用するための補助金を提供してきたが、このタイプの支援は一定の規模要件を満たす大規模な農場を対象としている。中国の果樹栽培やその他の農業生産が直面している最大の課題は依然として労働力であるが、高齢化と賃金の上昇が徐々に進行しており、発展の度合いが進んだ地域では労働力が不足している。山東大学が晩生で袋掛けの要らないリンゴ品種の開発に成功したことは注目に値する。果実の肥大の初期段階での袋掛けは病害虫の影響を減らし、見た目の美しい果実が得られるため、中国では依然として一般的だが、労働集約的な農法である。労働力不足は、この農法をさらにコストのかかるものになっている。

輸出

当事務所は、中国のリンゴ輸出は、国内供給の増加と価格の低下により、2024/25年度も引き続き増加すると予測する。東南アジア市場までは輸送コストが低く、中国とASEANの自由貿易協定(FTA)の下で関税がゼロであるため、中国産生鮮リンゴは優位性がある。以前は、中国産の果実は主に国内市場で売られていたが、ベトナム等一部の東南アジア諸国では中国産の果実が主要なスーパーマーケットに入荷していると地元メディアが報じている。中央アジアとロシアへの生鮮リンゴの輸出も急速に増加している。中国産青果物の輸出は、政府がCOVID-19に関連する物流制限を解除した後の2023/24年度に本格的に始まった。

図4 中国の年度別リンゴ輸出量(7月～6月)



出典: Trade Data Monitor, LLC、当事務所

<ナシ>

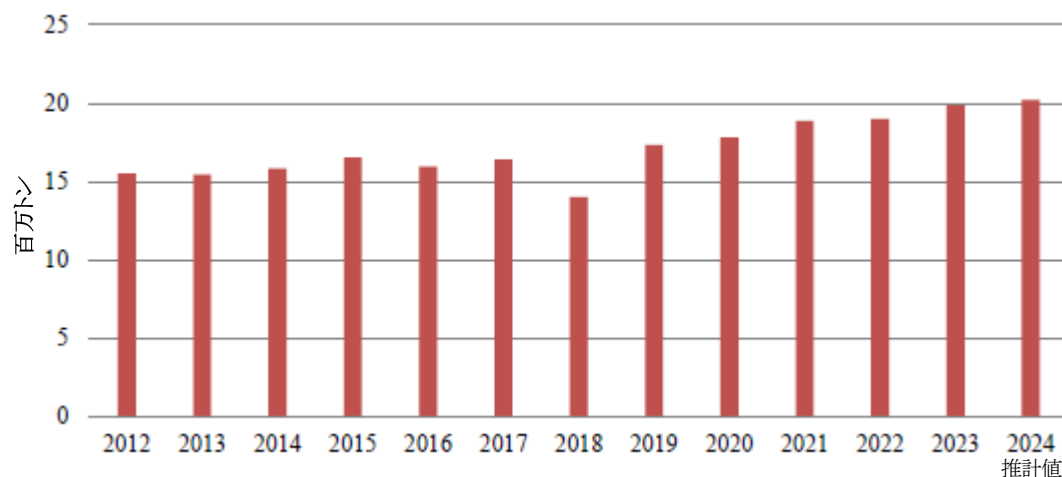
表2 中国のナシの生産需給統計

ナシ(生鮮)	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
販売年度の始まり	2022年7月		2023年7月		2024年7月	
中国	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	913,000	913,000	904,000	904,000	0	900,000
収穫面積(ヘクタール)	0	0	0	0	0	0
結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
未結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計(千本)	0	0	0	0	0	0
商業的生産量(トン)	19,000,000	19,260,000	19,600,000	19,850,000	0	20,200,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	19,000,000	19,260,000	19,600,000	19,850,000	0	20,200,000
輸入量(トン)	16,500	16,500	15,000	11,500	0	12,000
総供給量(トン)	19,016,500	19,276,500	19,615,000	19,861,500	0	20,212,000
国内消費量(トン)	18,606,900	18,866,900	19,050,000	19,256,500	0	19,552,000
輸出量(トン)	409,600	409,600	565,000	605,000	0	660,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	19,016,500	19,276,500	19,615,000	19,861,500	0	20,212,000

生産

当事務所は、2024/25年度(7月～6月)の中国のナシ生産量を2,020万トンと推定する。これは2023/24年度の改訂推計値から約2%の増加となる。今年の夏の乾燥した天候により、陝西省と山西省ではナシの供給量がわずかに減少する可能性がある。最大の産地である河北省を含む他の主要なナシ生産省では、今年の豊作を見込んでいる。良好な生育条件により、果実の品質は全般的に前年よりも改善する。しかし、貿易関係者らは、7月と8月の過度の降雨が山東省のナシの風味を低下させたと推測している。公式統計を反映し、2022/23年度と2023/24年度のナシの生産量を上方修正した。

図5 中国のナシ生産量



出典：国家統計局(NBS)、当事務所

当事務所は、中国が2020年に農地利用の規制を開始したことを受けて、2024/25年度のナシの栽培面積がさらに減少すると予想する(上述のリンゴ生産の項を参照)。さらに、陝西省では2023年の過度の降雨により発生した病害に起因する経済的損失のため、多くの生産者がナシの木を除去した。他の一部の生産者は、果実栽培を行うには高齢であるため、ナシ園をトウモロコシ農場に転換した。ナシは中国で広く栽培されているが、主に8つの省に集中しており、その生産量は国全体の70%近くを占めている(地図2)。

ナシの品質は、主に農業技術の向上により近年著しく向上している。山東省の果樹生産者によると、果実の風味を高めるため、有機肥料の施用や雑草マルチ技術の適用等の土壌改良対策を採用する果樹園が増えている。さらに、研究者らは、消費者の好みに対応するために、秋月、翠冠梨等の新しい品種を開発または導入した。伝統的な鴨梨と雪梨は徐々に需要が衰退している。しかし、中国の生産者は、必要な農業技術を習得せずに、トレンドを追いかけて、市場で好まれる品種を植える傾向がある。たとえば、数年前に秋月が高値で販売されたとき、多くの小規模果実生産者がナシを秋月に置き換えた。その結果、秋月の生産は急速に拡大したが、果実の品質は低下した。中国の生産者は、主にアジア系のナシ品種(果汁が多く果肉が硬い)を植えており、洋ナシ品種(食感が柔らかい)は少ない。

地図2 中国のナシ産地



オレンジ色 = 中国の生産量の10%~20%(河北省)

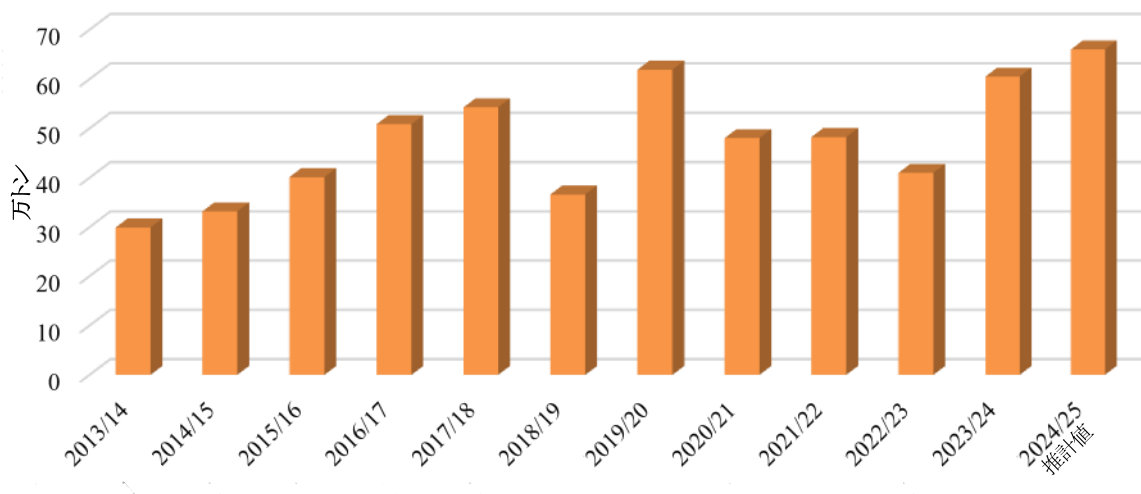
黄色 = 5%~10%(新疆ウイグル自治区、山西省、河南省、安徽省、山東省、遼寧省、陝西省)

出典：中国統計年鑑(2023年データ)

輸出

当事務所は、中国の2024/25年度(7月~6月)のナシの輸出は、国内供給量の増加と価格の低下により、改善すると予想する。物流と包装の改善を活用して、中国は近隣市場、主にASEAN諸国、キルギス、ロシアへのナシの輸出を着実に増加させている。

図8 中国の年度別ナシ輸出量(7月～6月)



出典: Trade Data Monitor, LLC、当事務所

<ブドウ>

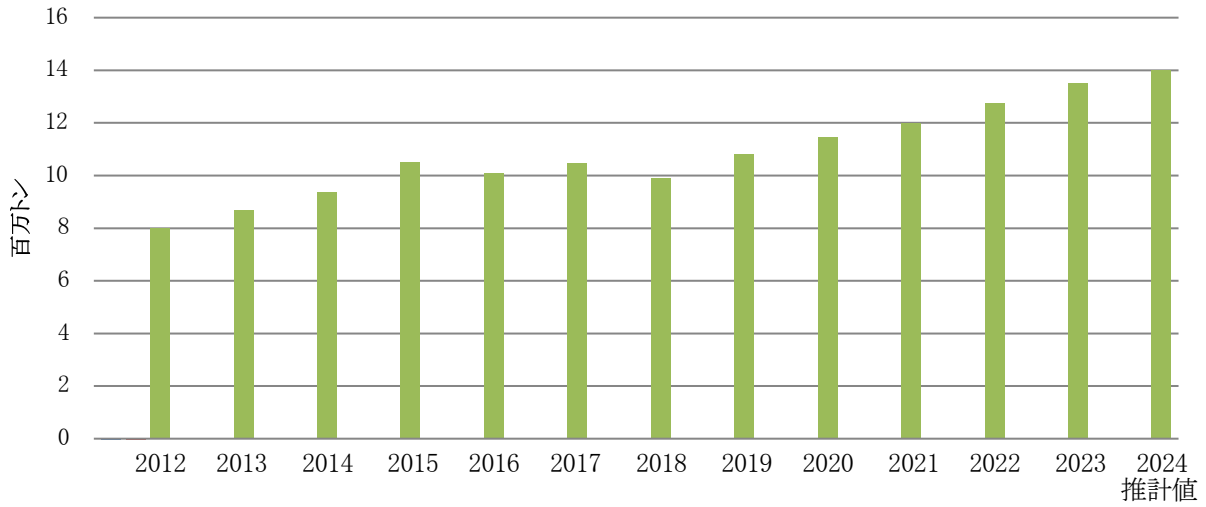
表3 中国の生食用ブドウの生産需給統計

ブドウ(生食用、生鮮)	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	販売年度の始まり		販売年度の始まり		販売年度の始まり	
	2022年6月		2023年6月		2024年6月	
中国	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	730,000	730,000	728,000	728,000	0	725,000
収穫面積(ヘクタール)	0	0	0	0	0	0
商業的生産量(トン)	12,750,000	12,750,000	13,500,000	13,500,000	0	14,200,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	12,750,000	12,750,000	13,500,000	13,500,000	0	14,200,000
輸入量(トン)	175,700	175,700	135,000	118,500	0	85,000
総供給量(トン)	12,925,700	12,925,700	13,635,000	13,618,500	0	14,285,000
国内消費量(トン)	12,536,800	12,536,800	13,145,000	13,119,900	0	13,665,000
輸出量(トン)	388,900	388,900	490,000	498,600	0	620,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	12,925,700	12,925,700	13,635,000	13,618,500	0	14,285,000

生産

当事務所は、中国の2024/25年度(6月～5月)の生食用ブドウの生産量を、前年比5%増の1,420万トンと推定する。今年は、主要なブドウ産地で果実の生育期間中に目立った異常気象は報告されていない。ブドウの品質は概ね良好であるが、河南省と安徽省の果実生産者らによると、この地域では夏の雨が続いたため風味に影響が出ている。当事務所は、中国の生食用ブドウの生産量は近い将来、着実に増加すると予想する。栽培面積の減少にもかかわらず、収量の改善に役立つ農業技術の向上に牽引され、生食用ブドウの生産量は引き続き増加すると予想される。ブドウは、農業界以外から多くの投資を受けてきた。裕福な投資家らは、数年以内に大きな収益を生み出す可能性に惹かれて、ブドウの比較的短い収穫サイクルに引き付けられている。これにより、生産が増加する一方で、価格に下押し圧力がかかっている。

図8 中国の生食用ブドウ生産量



出典: Trade Data Monitor, LLC、当事務所

当事務所は、中国の2024/25年度のブドウ栽培面積はわずかに減少すると推定する。山東省、河北省、遼寧省等の伝統的なブドウ生産省の一部の生産者は、生産コスト、特に人件費が高いため、ブドウの栽培面積を減らしている。陝西省の生産者らによると、ブドウ栽培、特に新品種の栽培には高度な技術とより多くの投資が必要なため、ブドウの生産コストは一般的にリンゴやナシよりも高い。

地図3 中国のブドウ産地



紫 = 中国の生産量の20%以上(新疆ウイグル自治区)
 グレー = 5%~10%(河北省、山東省、雲南省、陝西省、河南省、遼寧省)
 出典: 中国統計年鑑(2023年データ)

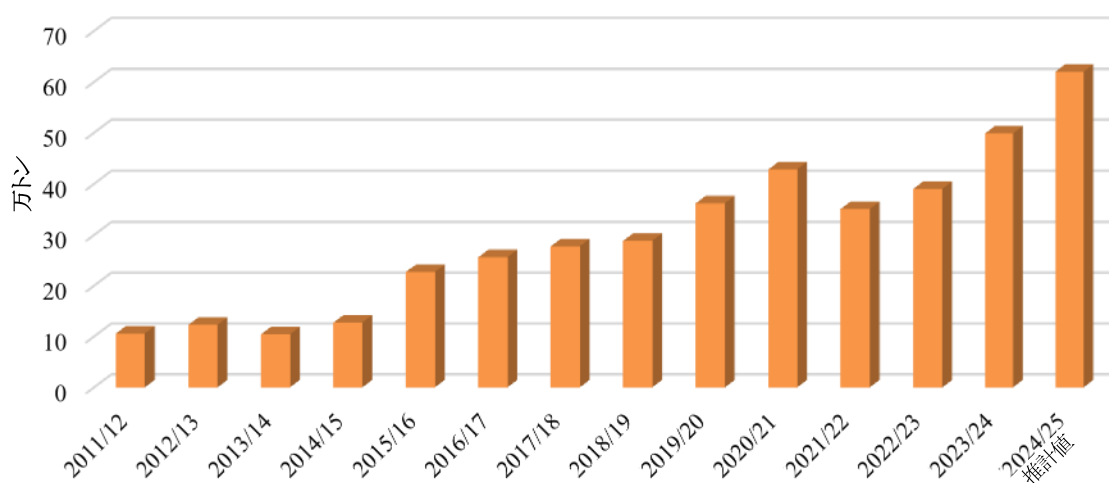
例えば、サンシャインマスカット(原文のまま)の生産者は、望ましいサイズと形状の果粒を得るために、生育の初期の段階で果房を調整する技術者を雲南省から雇う必要がある。また、ほとんどのブドウ産地では、病害虫の発生を防ぐために、生産者はブドウ園を覆う雨よけを作る必要がある。最も重要なことは、ブドウの風味を改善したい場合、生産者は有機肥料を使用する必要があるということである。さらに、品質の確保や出荷シーズンの延長のために、温室で栽培されるブドウが増加している。報告によると、生食用ブドウの栽培面積の33%、生産量の28%は温室で栽培されている。

新しいブドウ品種は主に種無し品種であり、消費者の好みに応じて最近導入または開発されたものである。例えば、サンシャインマスカットは、レッドグローブ、巨峰等の伝統的なブドウ品種の市場シェアを急速に奪った。新品種のニーナクイーンも登場し、ブドウ生産者の間で支持を得ている。ニーナクイーンは、鮮やかな色の赤ブドウ品種で、繊細で柔らかい果肉と豊かな花の香りが特徴であり、熟期は中生から晩生である。この品種は食味と風味で伝統的なブドウ品種を凌駕し、市場で非常に人気のあるブドウ品種となった。しかし、山東省のブドウ生産者らによると、ニーナクイーンの栽培に必要な農業技術は従来のブドウよりもはるかにレベルが高く、苗木は簡単に入手できない。ぶどうの生産は中国全土に広がっているが、そのほとんどが7つの省に集中している(地図3)。生食用ブドウは5月から10月の間に収穫されるが、貯蔵技術の改善と施設栽培により、供給シーズンは長くなっている。

輸出

当事務所は、中国の2024/25年度のブドウ輸出量は、国内産ブドウの価格低下により大幅に増加すると推定する。輸送時間の短縮と大幅な品質向上を活かして、中国の業者は東南アジアの主要市場、特に隣接するタイとベトナムへの生鮮ブドウの出荷を増やしてきた。また、中国から中央アジア(キルギス)やロシアへのブドウ輸出が急速に増加している。

図10 中国の年度別生食用ブドウ輸出量(6月~5月)



出典: Trade Data Monitor, LLC、当事務所

285. 韓国の落葉果実事情(ナシ)

米国農務省GAINレポート 2024年11月6日

これは米国農務省海外農業局ソウル事務所(韓国)が作成した「落葉果実年次報告書」の一部を翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

概要

韓国の2024/25販売年度(年度)のナシの生産量は、前年比べて低い病害虫発生率と好天に支えられ、10.2%増の20万2千トンと予測される。この生産量は過去5年間の平均に近く、天候上の問題(熱波、熱帯夜等)により引き起こされた日焼け、裂果、果実の小玉化により、さらなる収量の回復は妨げられた。生鮮果実の価格は2024年の大半を通じて高止まりしていたが、ナシやその他の国産果実の収穫が始まって以降は安定している。輸出量は、主に生産量の増加により33%増の2万5千トンに達すると見込まれる。

2023/24年度の生産量については、2023年を通しての悪天候による収量減少の全容を裏付ける公式データに基づき、18万3,300トンに下方修正した。

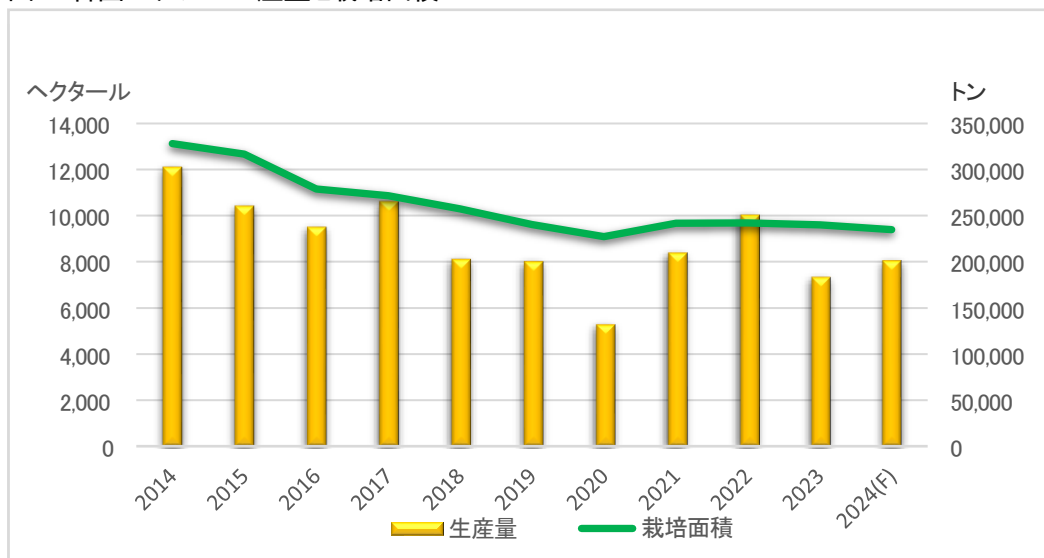
生産

2024/25年度(7月～6月)の韓国のナシの生産量は、2023/24年度の18万4千トンから10.2%増となる20万2千トンと予測される。これは、過去5年間の平均である19万8千トンにかなり近い。ナシの栽培面積は2.5%減少したが、開花期、生育期、収穫期の天候条件が良く、病害虫の発生が少なかったため、収穫量は前年比べて大幅に回復した。特に好天による着果量の増加により、2024/25年度のナシの収量は、2023/24年度の10アール当たり1,913kgに対し、12.7%増の2,150kgと予測される。

2024年のナシ(東洋ナシ)の生育条件は、4月の開花期の遅霜や収穫期の台風等の悪天候のために大きな被害を受けた前年と比べて概ね良好であった。2024年は前年と比べて病害虫の発生は減少したものの、8月と9月に気温が高く降水量が少なかったため果実の生育が妨げられ、日焼けや裂果等の問題につながった。これらの結果、ナシの総生産量は、5年平均の水準にかろうじて達するものと予想される。

さらに、2024/25年度には、夏の猛暑が長引いたことと記録的な回数の熱帯夜により果実の肥大が制限されたため、全体的に果実のサイズが小さくなると予想される。熱帯夜は、夜間の気温が摂氏25度を超えることを言う。韓国は2024年に熱帯夜の回数が過去最多となり、また熱帯夜の連続記録も最長となって9月上旬まで続いた。

図1 韓国のナシの生産量と栽培面積



資料: 韓国統計庁(KOSIS)、韓国農村経済研究院(KREI)

(F)は予測値

韓国の主要なナシ産地の中で、中部地域(京畿道、忠清道(忠清北道・南道)、尚州市(慶尚北道))では、夏の暑さに続き9月の降雨量が多かったため、裂果の問題が見られた。南部の産地(全羅北道・南道)では、一部の生産者が夏季の高温による深刻な日焼け被害を受けた。これらによる減収のため、当事務所の2024/25年度のナシ生産量の推定値は、韓国の生産者協同組合が9月に発表した予測を下回る。

2023/24年度の韓国のナシ生産量は、2022/23年度の25万1千トンに対し27%の急減となる18万4千トンを記録した。この大幅な減少の主な原因は、2023年4月の開花期の低温による花芽の損傷であり、受粉不良と着果率の低下につながった。その結果、果樹当たりの着果数が減少した。さらに、開花期の悪天候により、形の悪い果実の発生率が高くなり、市場に出せるナシの出荷量がさらに減少した。

韓国のナシ栽培面積は2000年以降徐々に減少しているが、過去5年間は9千ヘクタール以上を維持している。近年、韓国のナシ生産量の変動は、栽培面積の減少のほか、収量に大きな影響を与える天候条件の変化や病虫害の発生等にも影響されている。天候要因の中では、開花期の低温と収穫前の台風がナシの生産に最も大きな影響を与えた。これらの悪天候は、2010年以降、2～3年ごとに繰り返し発生しており、直近では2020年と2023年に発生した。進行する気候変動によってもたらされる課題を解決するため、国内のナシ産業は、園地内の防霜ファンの設置や耐病性品種の開発等の緩和策に投資している。

今後、農業人口の高齢化や産地周辺の都市開発等の要因によりナシの栽培面積の減少が続くため、韓国のナシ生産量は徐々に減少することが予想される。しかし、農業技術の進歩と新しいナシ品種の開発は、収量の増加に貢献し、栽培面積の減少の影響をある程度緩和するのに役立つ可能性がある。新品種の導入と成熟した果樹園での管理方法の改善の組合せにより収量が増加し、栽培面積の減少にもかかわらず、ナシの総生産量を維持している。

栽培面積

2024/25年度の韓国のナシ栽培面積は、2023/24年度の9,607ヘクタールから2.5%減となる9,367ヘクタールと推定される。韓国農村経済研究院(KREI)によると、国内におけるナシ新品種の普及と、火傷病の事後検査期間を経過した園地における新植により、ナシの若い果樹の栽培面積は前年比で約7%増加した。他方、全栽培面積の90%以上を占める成木化したナシの栽培面積は、火傷病の発生、農業人口の高齢化及び都市開発により、約3%減少したと推定される。

2023/24年度については、ナシ栽培面積の地域分布は全羅道(北道・南道)が37%を占め、次いで忠清道(北道・南道)が26%、慶尚道(北道・南道)が20%、江原道/京畿道が18%であった。(原文のまま。表1のデータから算出されるパーセンテージと一致しない。)

表1 韓国の地域別ナシ栽培面積(単位: ヘクタール)

道	2022/23	2023/24	2024/25	増減率(%)
	栽培面積(ha)	栽培面積(ha)	栽培面積(ha)	
京畿道	1,530	1,488	1,458	-2.0
忠清北道	232	187	171	-8.6
忠清南道	1,991	2,127	2,134	0.3
慶尚北道	1,005	986	970	-1.6
慶尚南道	492	475	475	0
全羅南道	2,729	2,710	2,686	-0.9
全羅北道	819	788	717	-9.0
その他	884	846	756	-10.6
合計	9,680	9,607	9,367	-2.5

出典: 韓国統計庁

2023/24年度の韓国の東洋ナシの栽培面積は「新高」品種が支配的であり、総栽培面積の85%を占めた。「ウォンファン」品種が4%を占め、他の品種は合わせて11%であった。「新高」の栽培面積シェアは、2015/16年度と比較して約2%減少した。国産品種を普及させる政府の取組みの結果、「新高」から「シンファ」、「チャンジヨ」、「ファサン」等の新品種に移行する農園が次第に増加している。

しかし、栽培面積の大きな変化は見込めない。これは、高齢化が進んでいる多くのナシ生産者が新しい品種の採用に消極的であり、特にナシが主に韓国の2つの主要な伝統的祝日(秋夕:9月または10月及び旧正月:1月または2月)に消費されることから「新高」が依然としてその優れた貯蔵特性により好まれているためである。

2000年以降、韓国のナシの総栽培面積は、農家所得の減少、生産者の高齢化及びナシ産地周辺の都市化により、徐々に減少する傾向にある。2000年から2020年にかけて、栽培面積は年平均5%減少し、2020年以降は9千ヘクタール前後で横ばいである。最近では、国産ナシ品種の普及が古木の減少を補っている。ただし、新品种の急速な拡大はいくつかの課題を提起している。一つには、伝統的な「新高」は、栽培に非常に手間がかかるものの、その優れた味と貯蔵性で知られている。さらに、東洋ナシは日常的に消費する果実ではなく、主に特別な贈答品用の果実と認識されているため、他の果実と比較してナシの販売上の可能性が限られていることが新しい品種の普及を遅らせる可能性がある。

表2 韓国の品種別ナシ栽培面積(単位:ヘクタール)

暦年	新高	ウオンファン	その他	合計
2015	10,544	732	1,388	12,664
2016	9,429	646	1,269	11,164
2017	9,426	525	949	10,861
2018	8,902	484	917	10,303
2019	8,250	461	904	9,615
2020	7,733	436	922	9,091
2021	8,282	445	948	9,675
2021	8,282	445	948	9,675
2022	8,258	438	984	9,680
2023	8,195	432	980	9,607

出典: 韓国統計庁

輸出

2024/25年度の韓国の生鮮ナシの輸出量は、主に国内の生産量の増加により、前年の1万9千トンから33%増となる2万5千トンに達すると予測される。生鮮ナシの輸出量は、国内のナシ総生産量の約12~13%を占めると予想される。韓国の生鮮ナシの3つの主要な輸出市場は、米国、台湾、ベトナムであり、これらの国を合わせると生鮮ナシの総輸出量のほぼ90%を占めている。

米国は依然として韓国の生鮮ナシの最大の輸出市場であり、2023/24年度の総輸出量の48%を占めている。この期間に米国に輸出された生鮮ナシは合計9,077トンで、これは主にナシの生産量全体の減少により、前年の輸出量の1万1,161トンに比べて19%の減少となる。台湾は2番目に大きな輸出先としてランクされ、2023/24年度の韓国の台湾向け輸出量は合計5,578トンで、生鮮ナシの総輸出量の30%を占めた。この数字は、前年(1万1,082トン)から50%の大幅な減少を示している。さらに、ベトナムは総輸出量の11%を占め、同期間に2,083トンが出荷され、前年(4,514トン)から54%減少した。

近年、韓国の生鮮ナシの輸出は、国内のナシ生産の変化に応じて変動してきたが、2000年以降は緩やかな増加を示している。2020年には韓国のナシ輸出は、生産量の減少とCOVID-19のパンデミックにより、前年比で大幅に減少した。しかし、2022/23年度の実生産量は25万1千トンに達し、輸出量は合計2万9,500トンと大きく増加した。

韓国の生鮮ナシの輸出は、全国の主要産地にある13の統合輸出施設を通じて行われる。韓国のナシ業界によると、生産者の協同組合は、2033年までに年間3万4千トンの生鮮ナシの輸出を組織目標にしている。

現在、毎年平均1万トンの韓国産生鮮ナシが米国に輸出されている。2025年3月から、韓国のナシ輸出業界は、検疫検査のプロセスに追加のオプションを導入し、現在の米国農務省動植物検疫局(APHIS)による事前審査制度と並行して、韓国農林畜産食品部(MAFRA)農林畜産検疫本部(APQA)の韓国人検査官による検査を可能にする。しかし、韓国のナシ業界は、米国での通関手続き中に問題や追加費用が発生する可能性への懸念から、引き続き既存の検疫制度を好むことが予想される。

表4 韓国のナシの生産需給統計

ナシ(生鮮) 販売年度の始まり 韓国	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2022年7月		2023年7月		2024年7月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	9,680	9,680	9,607	9,607	0	9,367
収穫面積(ヘクタール)	0	0	0	0	0	0
結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
未結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計(千本)	0	0	0	0	0	0
商業的生産量(トン)	251,093	251,093	200,100	183,300	0	202,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	251,093	251,093	200,100	183,300	0	202,000
輸入量(トン)	0	0	0	0	0	0
総供給量(トン)	251,093	251,093	200,100	183,300	0	202,000
国内消費量(トン)	221,593	221,632	180,100	164,515	0	177,000
輸出量(トン)	29,500	29,461	20,000	18,785	0	25,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	251,093	251,093	200,100	183,300	0	202,000

公式データは [PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

表5 韓国のナシの生産状況^{1/}

年	面積(ha)	生産量(トン)	収量(kg/10アール)
2016	11,164	238,014	2,132
2017	10,861	265,757	2,447
2018	10,303	203,166	1,972
2019	9,615	200,732	2,088
2020	9,091	132,580	1,458
2021	9,675	210,293	2,174
2022	9,680	251,093	2,594
2023	9,607	183,802	1,913
2024 ^{2/}	9,367	202,000	2,157

1/ 暦年ベース

2/ 韓国農村経済研究院(KRED)による速報値

出典: 韓国統計庁(KOSIS)

表9 韓国の月別ナシ輸出量(単位:トン)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2018	5,110	2,029	2,533	1,411	543	118	17	2,991	2,719	5,532	5,673	4,250
2019	3,119	878	1,062	485	276	27	2	4,658	3,251	5,720	5,873	5,359
2020	2,626	1,525	1,231	567	195	12	28	1,230	4,359	4,393	4,486	2,904
2021	1,109	333	236	35	10	6	3	2,746	3,091	4,946	5,095	4,231
2022	1,787	635	913	352	103	61	21	4,119	2,890	4,786	5,087	5,439
2023	1,450	2,206	2,212	662	397	193	77	2,805	2,988	3,581	4,762	3,110
2024	1,078	293	99	3	1	0	0	3,453	-	-	-	-

出典: 韓国税関及び韓国貿易協会

表10 韓国のナシ輸出(東洋ナシ)

国名: 韓国						
品目: 生鮮ナシ(HS0808.30) 単位:トン、千米ドル						
輸出先	2021/22 (2021年7月~2022年6月)		2022/23 (2022年7月~2023年6月)		2023/24 (2023年7月~2024年6月)	
	輸出量	輸出額	輸出量	輸出額	輸出量	輸出額
米国	9,076	33,666	11,161	38,472	9,077	32,330
台湾	9,798	28,474	11,082	24,277	5,578	16,358
香港	564	1,843	641	1,692	405	1,278
ベトナム	2,905	7,639	4,514	9,240	2,083	5,749
カナダ	344	1,321	508	1,773	604	2,151
その他	1,359	4,230	1,555	4,667	1,038	3,722
総計	24,046	77,173	29,461	80,121	18,785	61,588

出典: 韓国税関及び韓国貿易協会

286. 中南米等世界のリンゴ産業の概要

FreshFruitPortal 2024年11月6日

アイコンサルティング (iQonsulting) 社の事業マネージャーであるカミラ・ミランダ氏は、チリで開催されたフルーツトレード2024で、中南米のリンゴ市場についての詳細な分析について講演した。同氏は、様々な国のリンゴ市場の現状について論じ、この果実の世界的な重要性を強調した。(以下「」は同氏の発言)

同氏は、世界中で480万ヘクタールのリンゴ栽培面積があり、そのうち97%が北半球に存在し、南半球はわずか3%であると説明した。中国はリンゴの最大の生産国の1つであるが、国内の消費量が多いため、輸出では目立っていない。

「チリには2万9千ヘクタールの栽培面積があるが、これは面積的には減少している。ただし、絶えず品種が変動している。」

同氏は、リンゴは手頃な価格で広く入手でき、食べやすく、多くの栄養上の利点があるため、世界的に非常に人気があると指摘した。

輸出 同氏は、イタリアが世界最大のリンゴ輸出国であり、大規模な国内市場を持ち、輸出は近隣諸国ばかりか中南米諸国の一部にまで及んでいることを強調した。イタリアは現在、ゴールドデリシャスを中心である。「2023年のシーズンは、天候の問題により2.9%縮小したが、イタリアは全世界で輸出されるリンゴの中で11%のシェアを占めている。」

ポーランドは第2位の輸出国であるが、「従来からのリンゴ品種に特化しており、新しい品種の導入にはそれほど力を入れていない」。

中国は、世界最大のリンゴ生産国であるにもかかわらず、輸出国としては第3位である。

同氏は、チリを世界のリンゴ輸出で7位にランク付けた。「チリは世界一の輸出国ではないが、ガラとピンクレディーの2つの品種の最大の輸出国であり、グラニースミスでは第3位である。」

チリの輸出はガラ品種が中心で、ふじとピンクレディーがこれに次ぎ、ハニークリスプとゴールド系品種もシーズンを通じて輸出されている。

市場 価格について論じる中で同氏は、北米市場では2023年に、1.60ドル/kgに達する有利な価格が見られたと指摘した。「それは価格の面で厳しい現状とは正反対である。昨シーズンは良い価格であった。」

同氏は、米国は今年、リンゴの収穫量が普通ではなかったと指摘した。「米国からの供給が大量にあり、それが価格を押し下げた。」

ヨーロッパでの価格は約1.08ドル/kgで、極東や中南米市場の約1.03ドル/kgとほぼ同程度となっていると同氏は報告した。

「これら3つの市場の輸出価格は非常に近い。しかし、中南米市場はチリに近いいため、輸出コストが低く、戦略的にはるかに有利である。」

同氏は、チリの輸出にとっての中南米市場の重要性を強調した。「中南米向けの輸出は昨シーズン5%増加した。これは主にチリのリンゴの主要市場であるブラジルのおかげであり、コロンビアとエクアドルがそれに続いた。」

同氏はさらに、品種についてはチリではガラ、レッドデリシャス、ふじの各品種が減少していると説明した。ピンクレディーは安定しており、アンブロシア、ハニークリスプ、エンヴィイは増加した。

「米国への全輸出量の25%はハニークリスプで、今年は厳しい年であるにもかかわらず、良い価格で推移した。中国向け輸出量の28%は非常に甘いアンブロシア品種である。」

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

287. 南アフリカ グレープフルーツの輸出実績

FreshPlaza 2024年11月6日

CGA柑橘類サミット2025はグレープフルーツ輸出の課題と回復を重視

当初の予測(3月中旬に作成)では、輸出用グレープフルーツの梱包数量は、昨年の1,300万箱から約14%増となる1,480万箱(17kg/箱)と見込まれていた。これは、過去数年間に北部地域で見られた乾燥状態からの回復に基づくものである。この推定値では、収穫量が2022年シーズンと同程度になるとも予想されていた。この2024年の推定出荷量には、加工用に仕向けられる数量(PP級やクラス3)が含まれている。

最終的に梱包された箱数は1,270万箱で、予測を約14%下回った。この減少は、果実の小玉化、色付きの問題、国内での良好な果汁価格など、いくつかの予測不能な要因によるものであった。最大の産地であるレツィテレ地域では400万箱で、予測を20%下回った。ホドスプルート地域では330万箱で予測を12%下回り、アンダーバーグ地域では予測を16%下回る160万箱であった。

赤肉系グレープフルーツはサイズ40、45、50が多く、白肉系グレープフルーツはサイズ45、40、50が多かった。今シーズンの梱包のピークは第16週(4月半ば)から第21週(5月下旬)で、平均梱包率は1週間当たり97万箱であった。

欧州連合(EU)は依然として南アフリカ産グレープフルーツの最大の市場であり、約8万3千トンを入力した。中国の南アフリカ産グレープフルーツの輸入量は、2023年の3万4千トンから2024年には3万6千トンに増加した。この増加は、主に中国に輸出されるPP級(加工用)果実の割合が増えたことによるものである。また、ロシアの輸入量も2万トンから2万2千トンに増加し、日本(2024年は1万9千トン)をわずかに上回った。そして最後に米国が1万トンで、これらが上位5つの市場である。

288. メキシコ ブルーベリーの生産量が増加

FreshPlaza 2024年11月7日

メキシコの2024年のブルーベリー生産量は干ばつにもかかわらず増加する見込み

米国農務省のブルーベリー年次報告書(同省メキシコ事務所が任意提出)では、2024年のメキシコのブルーベリー生産量は2023年に比べて8%増となる8万1千トンに達すると予測している。この増加は、十分な水供給と輸出需要の増加によるものである。メキシコが干ばつに直面しているにもかかわらず、ベリー業界は、効率的な灌漑技術、私有の貯水池、及び多額の運営資金のおかげで、3年に及ぶ水不足の影響を緩和する態勢を整えている。さらに、干ばつに強い多収性新品種の採用も進んでいる。

2023年産の生産量は、革新的な栽培方法、新品種の導入、及び旺盛な輸出需要による成長を反映して8万181トンと推定され、2023/24年度シーズンの輸出量は6万7,474トンを記録した。輸出のピークは4月で、1万7,406トンが出荷された。10月から1月にかけての低価格のペルー産との競争に対抗するため、メキシコの生産者は2024年の収穫開始を2月上旬に延期した。これは、出荷量に影響を与える可能性がある。

2024/25年度シーズンを見据えると、今シーズンと比較して輸出量が10%減少すると予測される。それにもかかわらず、ベリー類はT-MEC貿易協定の下で米国とカナダへの無税アクセスの恩恵を受けており、依然としてメキシコの主要な輸出農産物である。米国はメキシコのブルーベリー輸出の約97%を占めている。メキシコのベリー類輸出の中ではイチゴが54.5%で最も多く、ラズベリー、ブラックベリー、ブルーベリー、及びベリーの混合品がそれに続く。

国内市場の強化に向けた取り組みが続いているため、輸出量の減少傾向は必ずしも業界の衰退を示すものではない。このセクターへの真の影響を知るためには、輸出と国内市場の両方の出荷フローを分析することが必要かも知れない。

出典: [Blueberries Consulting](#)

289. カナダの落葉果実事情(リンゴ)

米国農務省GAINレポート 2024年11月7日

これは米国農務省海外農業局オタワ事務所(カナダ)が作成した「落葉果実年次報告書」のリンゴの項の一部を翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

表1 カナダの生鮮リンゴの生産需給統計

注: 「当事務所今回推計」は当事務所の推計であり、米国農務省の公式データではない。

リンゴ 生鮮 カナダ	2022/2023		2023/2024		2024/2025*	
	販売年度は7月～翌年6月					
	米国農務省 公式	当事務所 今回推計	米国農務省 公式	当事務所 今回推計	米国 農務省 公式	当事務所 今回推計
生産量	376,023	377,814	365,000	363,592	0	382,000
輸入量	184,900	184,894	170,000	163,872	0	160,000
総供給量	560,923	562,708	535,000	527,464	0	542,000
国内消費量	498,523	500,303	480,000	470,132	0	480,000
輸出量	62,400	62,405	55,000	57,332	0	62,000
総仕向量	560,923	562,708	535,000	527,464	0	542,000

単位はトン / *は当事務所の予測値

生産

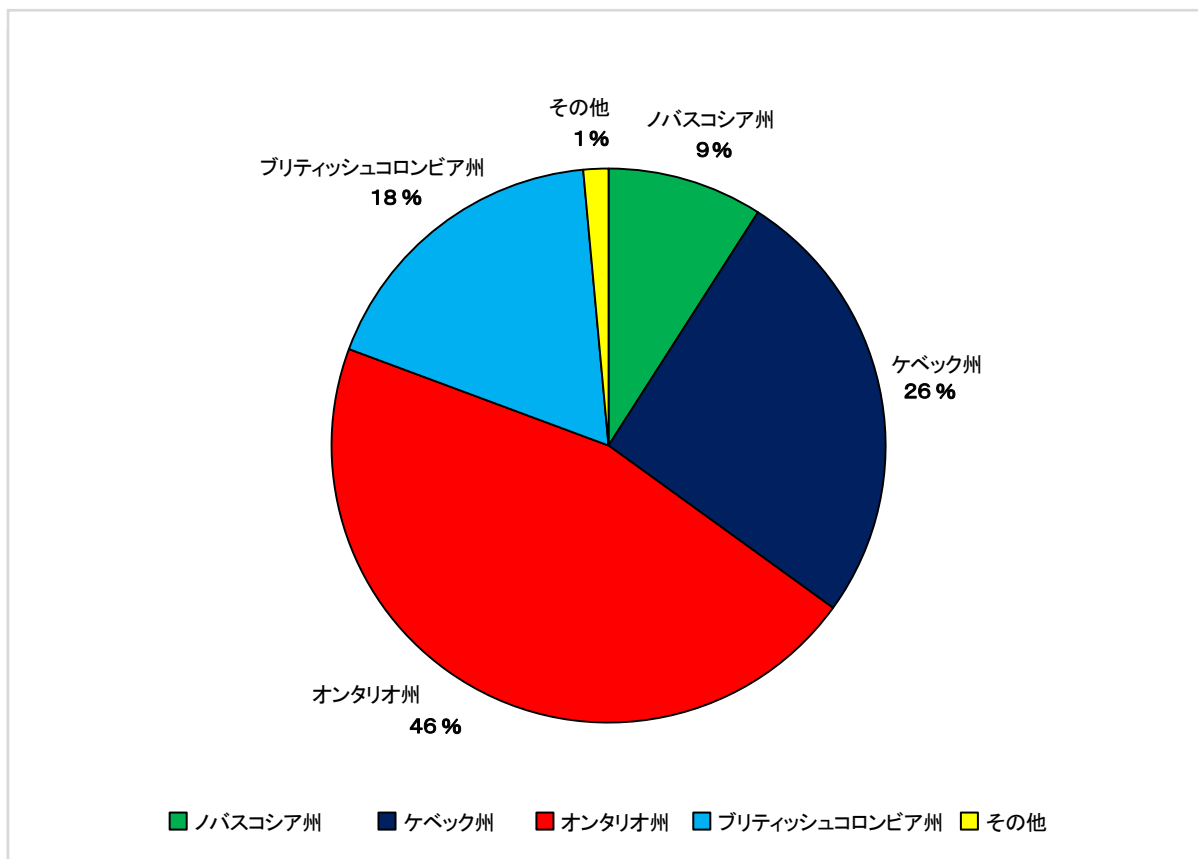
当事務所は、2024/25年度のカナダのリンゴ生産量が5%増加すると予測する。初期の収穫量予測では、カナダの生産量は6.5%増加し、地域別ではオンタリオ州、ケベック州、ブリティッシュコロンビア州では2023/24年度よりも増加するが、沿海諸州ではノバスコシア州で減少し、ニューブランズウィック州では横ばいと予測されていた。オンタリオ州、ケベック州、ブリティッシュコロンビア州は、カナダの主要なリンゴ生産州であり、通常、カナダの生産量の約90%を占めている。

オンタリオ州は、カナダのリンゴの総栽培面積の3分の1以上とリンゴ生産量の半分近くを占めている。密植栽培により、1エーカー当たりの収量が多い。オンタリオ州の多くの産地で降った大量の雨は、サイズと色の良好なリンゴの収穫に繋がると報告されている。ただし、一部の地域での過剰な水分量の結果として、最終的な収穫量は2023/24年度に比べてわずかに減少する可能性がある。地域差はあるものの、霜と雹がオンタリオ州全体の作柄に大きな影響を与えたとの報告はない。

リンゴは保存が利くため、2023/24年度の米国ワシントン州産リンゴの豊作は、今でもその影響が続いている。価格は抑制されており、少なくとも1月までは低い水準で推移すると予想されている。7月の貯蔵量レポートでは、オンタリオ州の貯蔵庫に大量の在庫が残っており、2023年7月の貯蔵量データを約90%上回った。

2023年に連邦と州の連携の下で発表された資金供与は、一部の栽培面積をより持続可能な品種や変化する消費者の嗜好に合った品種に転換することを支援している。

図2 カナダの州別リンゴ出荷量(2023年)



出典: カナダ統計庁

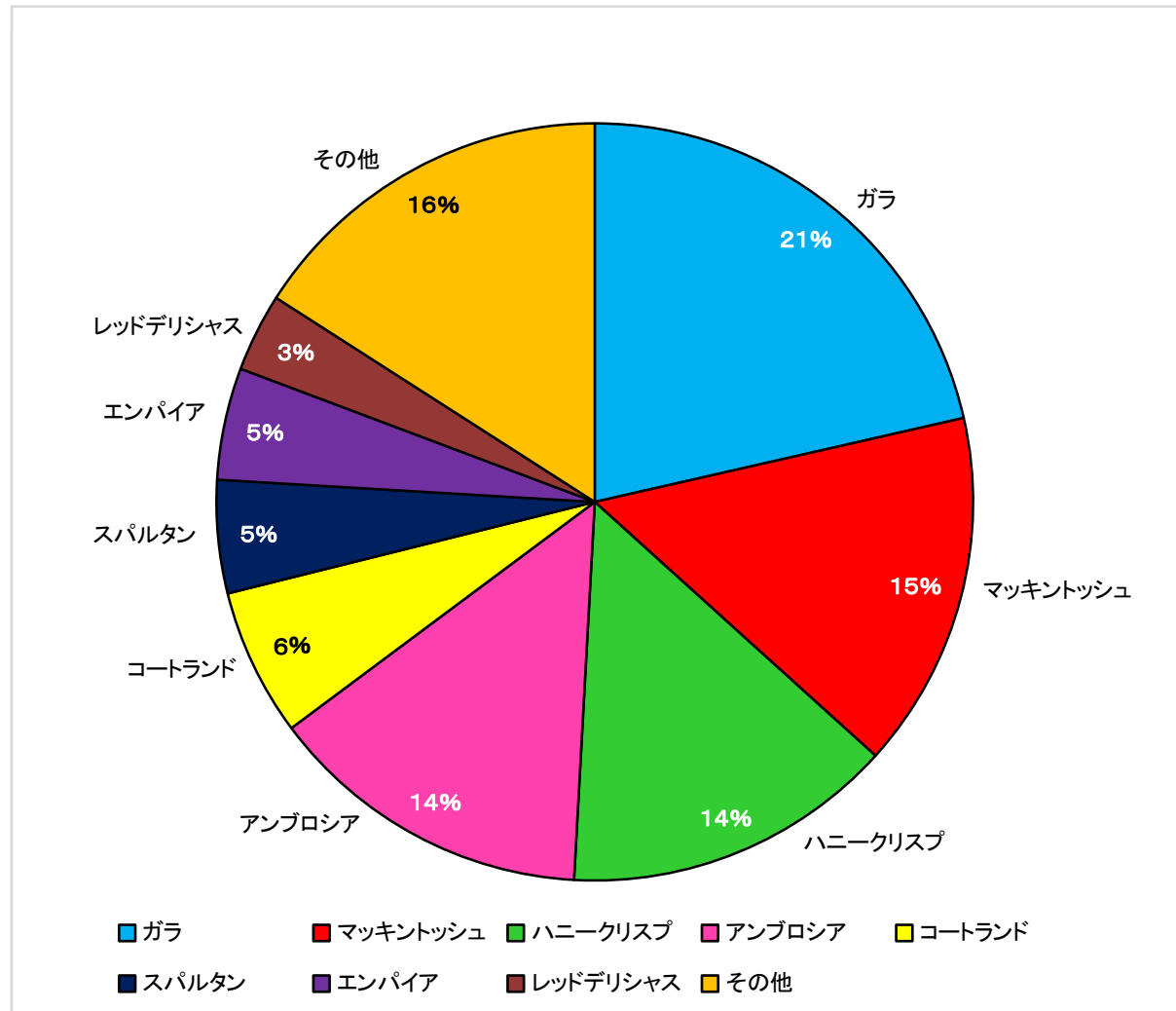
ケベック州の2024/25年度のリンゴの収穫量は、前年度の生産に悪影響を及ぼした霜害からの回復により、大幅に増加すると予測される。雹害が限定的であったことと時宜を得た降雨により、収穫量は5年平均を大きく上回り、過去15年間で最大となることが予想される。ケベック州の生産者らは引き続き、園地を近代化し、アンブロシア、ハニークリスピー、ガラ等消費者に好まれる品種の栽培を増やす機会を模索している。ケベック州はカナダで最大のマッキントッシュ品種の栽培面積を有するが、この品種は青果用としてはもはや消費者に人気がない。収穫量を考慮すると貯蔵が課題になる可能性があり、結果的に、より多くのリンゴが加工に仕向けられるか、州外に移出されると見られる。オンタリオ州の作柄は、生産量としては平均的であるが、サイズと色は良好であると予想される。一部の産地では適切な時期に降雨があったが、他の地域では過度に雨が多かった。ブリティッシュコロンビア州のリンゴの収穫量は平均的と予想されており、リンゴの木は2024年1月の寒波をナシやブドウよりもうまく乗り切った。

初期の見通しでは、2023/24年度のブリティッシュコロンビア州の生産量は増加すると予想されていたが、現在は平均程度に留まると予測される。2021年のヒートドームや近年のその他の悪天候の影響が依然として続いており、果樹の生産性を抑圧している可能性がある。ブリティッシュコロンビア州の産地では、2024年に極端な寒波に見舞われ、ベリー類やブドウの収穫量が激減したが、リンゴ園は健闘した。ただし、生産物は量的には平均程度であるが、果実のサイズと品質には問題がある。

さらに、州内のCA貯蔵庫を有する梱包出荷業者の1つであるブリティッシュコロンビア果樹協同組合が、7月に即刻の閉鎖を発表した。この閉鎖により、多くの生産者は、次の収穫のための梱包出荷業者を失い、CA貯蔵庫が利用できなくなった。伝えられるところによると、生産者らは他の業者の梱包ラインへのアクセスは確保できるが、CA貯蔵へのアクセスが問題になる。一部の生産者は、米国ワシントン州の貯蔵庫へのアクセスを確保しようとする可能性があり、ワシントン州の不作はそれを容易にするかも知れない。

現在、CA貯蔵のオプションが限られているため、生産者がリンゴを長期貯蔵する能力が不足しており、2024年の年末までに大量のリンゴが販売される可能性がある。そうなれば、2025年1月以降、ブリティッシュコロンビア州の小売業者と消費者の需要を満たすために輸入の必要性が高まると見られる。2024年末までの市場での販売量の増加も、引き続き価格に悪影響を及ぼす。

図3 カナダのリンゴの品種別推計生産量シェア(2023年)

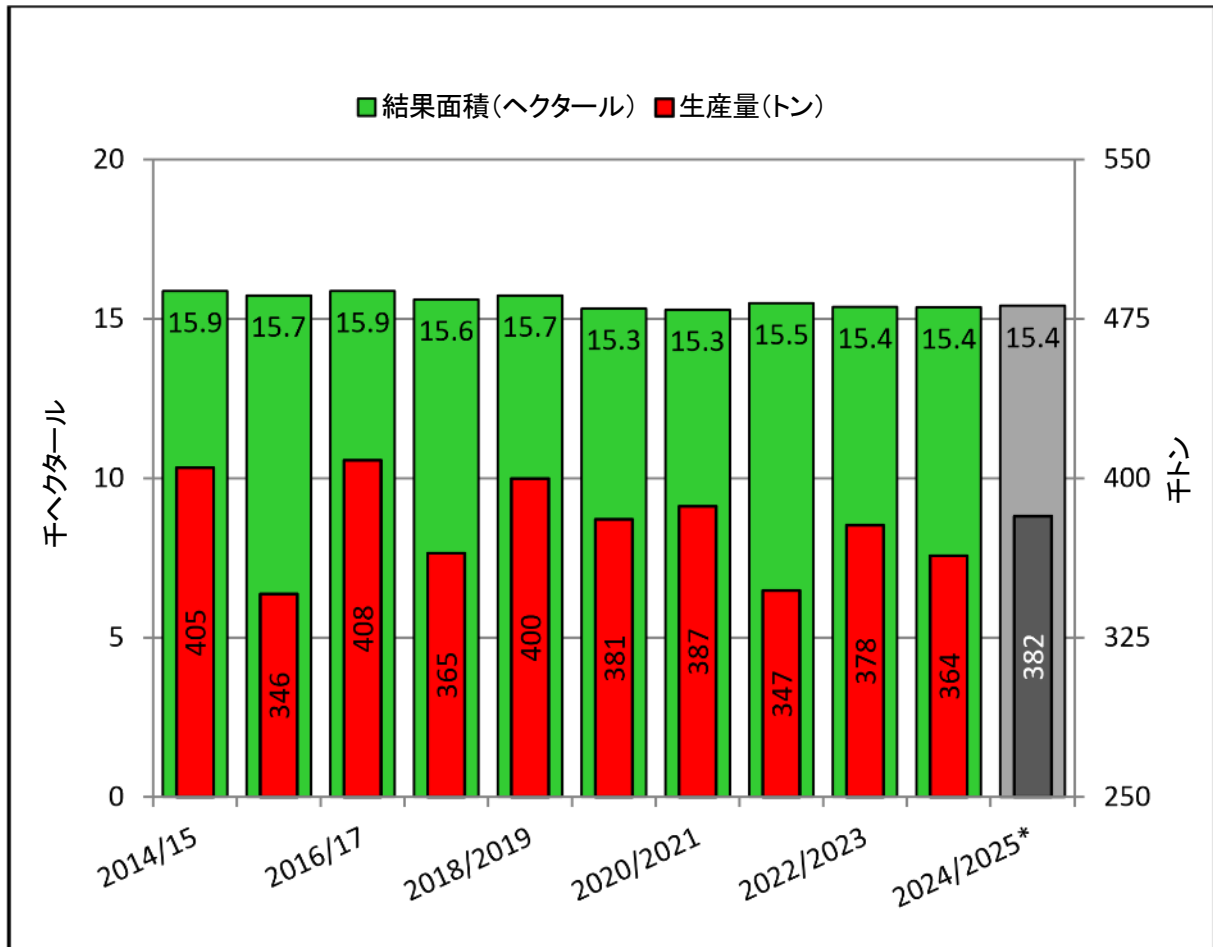


出典: カナダ果実野菜生産者協会 早期作柄予測調査

当事務所は、2024/25年度の栽培面積を横ばいと予測する。ブリティッシュコロンビア州のリンゴ生産の問題を考慮すると、同州の栽培面積は今後数年間減少が続く可能性があるが、2024/25年度は横ばいと予測する。近年の気象現象による他の品目への被害を踏まえ、果実業界は同州の将来の生産について検討している。高い地代と生産コストの上昇に価格の低迷が加わって、リンゴ業界を圧迫し続けている。国内の他の地域の栽培面積の変化は、2024/25年度には差し引きで増減が無いと予想され、古い果樹園が改植され、マッキントッシュに代わってアンブロシア、ガラ、ハニークリスピの栽培面積が増えると予想する。

労働力の確保は業界にとって引き続き課題であり、一方カナダの消費者は、全般的なインフレを上回る食品の価格上昇など、生活費の上昇に対して引き続き懸念を示している。小売業者や生産者は、消費者のためにコストを低く抑えるというプレッシャーに直面しているが、生産コストが高騰する中、生産者は効率を改善する方法を見つける必要があり、さもなければ生産コストの増加によって収益が減少する可能性がある。

図4 カナダのリンゴ結果面積と生産量



出典: カナダ統計庁 / *は当事務所の予測

輸出

カナダの生鮮リンゴの輸出量が生産量に占める割合は、2019/20年度以降増加した。生産量に占める輸出量の割合はかつては約10パーセントであったが、過去5年間の平均は13%であり、過去3年間では15%を超えている。カナダ国内の加工能力が限られているため、品質上の問題が多い年には、輸出に仕向けられる加工用のリンゴが増加する。オンタリオ州のリンゴの品質が高いこととケベック州のリンゴが大量にあることから、当事務所は2024/25年度のカナダのリンゴ輸出量は8%増加すると予測する。生産量全体に占める輸出の割合は、比較的安定的に推移すると見られる。

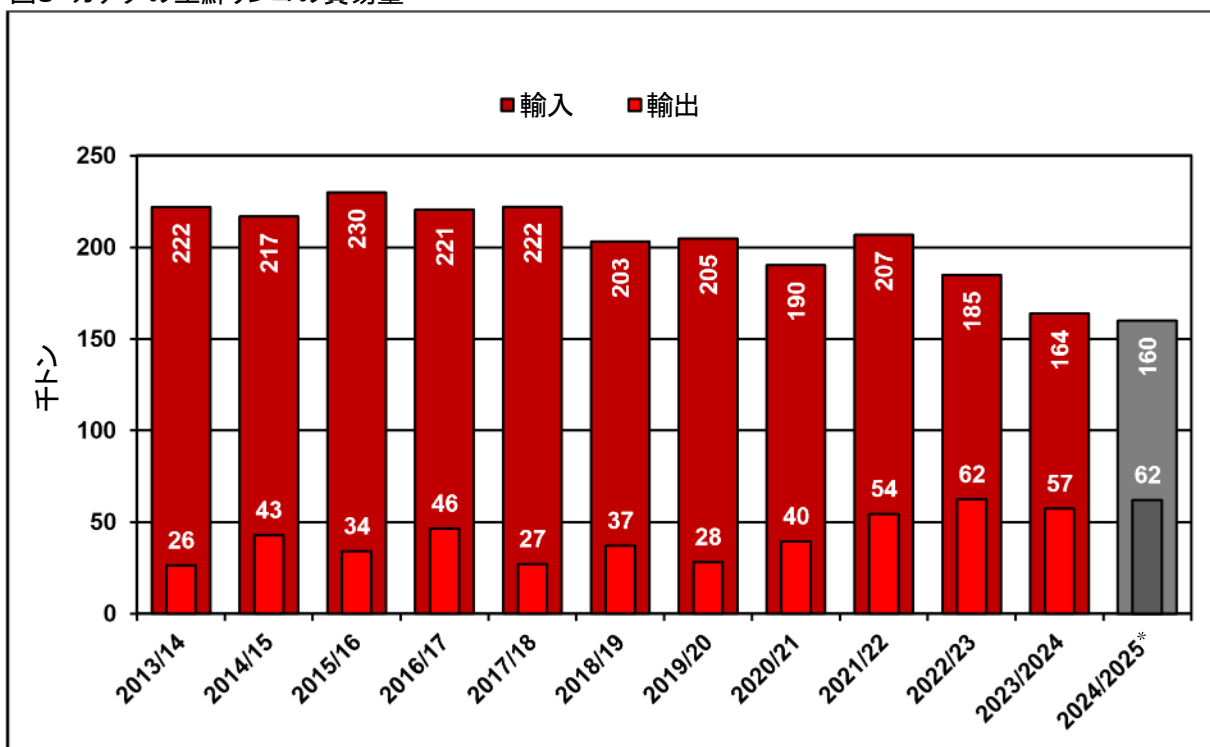
カナダは、環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定(CPTPP)への参加により現在無税となっているベトナムへの輸出量を引き続き増やすべきである。また、米国の収穫量の減少により、通常は米国の輸出市場である一部の外国市場における品不足をカナダの輸出業者が埋める機会を得る可能性もある。カナダとインドの間の地政学的な緊張と、米国からインドへのリンゴ輸出に対する追加関税の撤廃により、カナダはインドで得ていた利益を失った。これは2024/25年度も続くと見られる。地理的に近接していることから、米国は引き続きカナダの輸出にとって重要な市場であると考えられる。

表3 カナダの生鮮リンゴ輸出量

		カナダ 生鮮リンゴの輸出量					
		販売年度: 7月～6月/数量(トン)					
		2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24
世界		37,072	28,177	39,536	54,475	62,405	57,332
	加工用	20,320	15,445	20,534	20,071	24,064	19,641
	その他	16,752	12,732	19,001	34,404	38,341	37,691
米国		22,896	14,802	20,887	21,548	24,771	22,430
	加工用	14,560	10,382	15,770	16,392	20,223	15,967
	その他	8,335	4,420	5,118	5,156	4,548	6,464
ベトナム		2,220	5,051	9,608	8,645	23,365	31,692
インド		0	0	0	2,702	4,198	1,170
キューバ		3,367	5,787	975	1,564	1,210	646
その他の国		8,589	2,537	8,066	22,718	13,059	2,564

出典: Trade Data Monitor

図8 カナダの生鮮リンゴの貿易量



出典: Trade Data Monitor / *当事務所の予測

290. ペルーの落葉果実事情(ブドウ)

米国農務省GAINレポート2024年度11月8日

これは米国農務省海外農業局リマ事務所(ペルー)が作成した「落葉果実年次報告書」を翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

概要

ペルーの2024/25年度のブドウ生産量は、前年比2%増の79万トンと予測される。この増加は、総栽培面積の48%を占める北部沿岸地域の天候条件の改善によるものである。2024/25年度の生食用ブドウの国内消費量は国際価格の上昇により昨年より少ない17万トンと予測される。ペルーの2024/25年度のブドウ輸出量は、前年比17%増の62万トンに達すると予測される。米国は引き続き最大の輸出市場である。

表1 チリの生食用ブドウの生産需給統計

ブドウ(生鮮、生食用) 販売年度の始まり ペルー	2022/23		2023/24		2024/25	
	2022年10月		2023年10月		2024年10月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	34,000	34,000	35,000	35,000		35,500
収穫面積(ヘクタール)	32,000	32,000	33,000	33,000		33,500
商業的生産量(トン)	645,000	645,000	654,500	654,500		670,000
非商業的生産量(トン)	121,000	121,000	121,000	121,000		120,000
生産量合計(トン)	766,000	766,000	775,500	775,500		790,000
輸入量(トン)	20	15	300	83		70
総供給量(トン)	766,020	766,015	775,800	775,583		790,070
生鮮国内消費量(トン)	144,120	144,015	250,800	246,583		170,070
輸出量(トン)	621,900	622,000	525,000	529,000		620,000
市場からの隔離(トン)						
総仕向量(トン)	766,020	766,015	775,800	775,583		790,070

生産

ペルーの2024/25販売年度(年度、10月～翌年9月)の生産量は、天候に恵まれ前年比2%増の79万トンと予想される。生産量の増加が見込まれるのは、昨シーズンの極端な暖冬と大雨で深刻な打撃を受けたペルー北部(ピウラ県)の収穫量の増加によるものである。

ペルーの生食用ブドウの産地は、太平洋に沿って北から南に広がっている。海岸沿いの砂漠的な環境のため、日々の気温は一貫して9℃～30℃で、1日12時間の日照時間が一年中あり、ブドウ生産に理想的な地域となっている。これらの条件と、収穫技術と精密灌漑への投資により、ペルーはブドウの生育期間が近隣諸国よりも55%短い。

ペルーが初めて生食用ブドウの生産を開始したのは、1990年代後半に主要な戦略的経済セクターの1つとして農業に賭けた時であった。ペルーは過去20年間で、複数の貿易協定、水供給インフラ、及び砂漠を生産性の高い農地に変える能力を備え、農業投資先として成長した。

2023/24年度の生育期間は、異常な気象条件(大雨と熱波)の影響を大きく受け、収穫量が減少した。国の北部(ピウラ、ランバイエケ、ラリベルタスの各県)で生産が深刻な影響を受け、前年と比較して生産量が30%減少したと報告されている。同様の状況は、エルニーニョに起因する悪天候が収穫に影響を与え不作をもたらした2017/18年度にも見られた。一方、今年度の収穫は、天候の改善により昨年度よりもかなり良くなると予想される。

ペルーのブドウ生産者らは、農園での水の効率的な利用を確保しながら、変化する気象条件に適応してきた。さらに、ライセンス制のブドウ品種により、一般的なブドウ品種と比較して生産性と競争力が向上した。

図1 イカ県のブドウ生産(2024年度10月上旬)



出典: 当事務所

ブドウの産地は主にイカ県(49%)とピウラ県(37%)に所在している。その他の産地は、ランバイエケ(6%)、ラリベルタ(5%)、アレキパ(3%)の各県にある。総栽培面積は3万5,500ヘクタールと推定される。ペルーの収穫期は10月に始まり、北から南へ収穫が移動し、4月に終わる。革新的な技術の進歩により、ピウラ県の生食用ブドウは、3月～4月と11月～12月の年2回収穫することができる。

図2 ペルーのブドウ産地



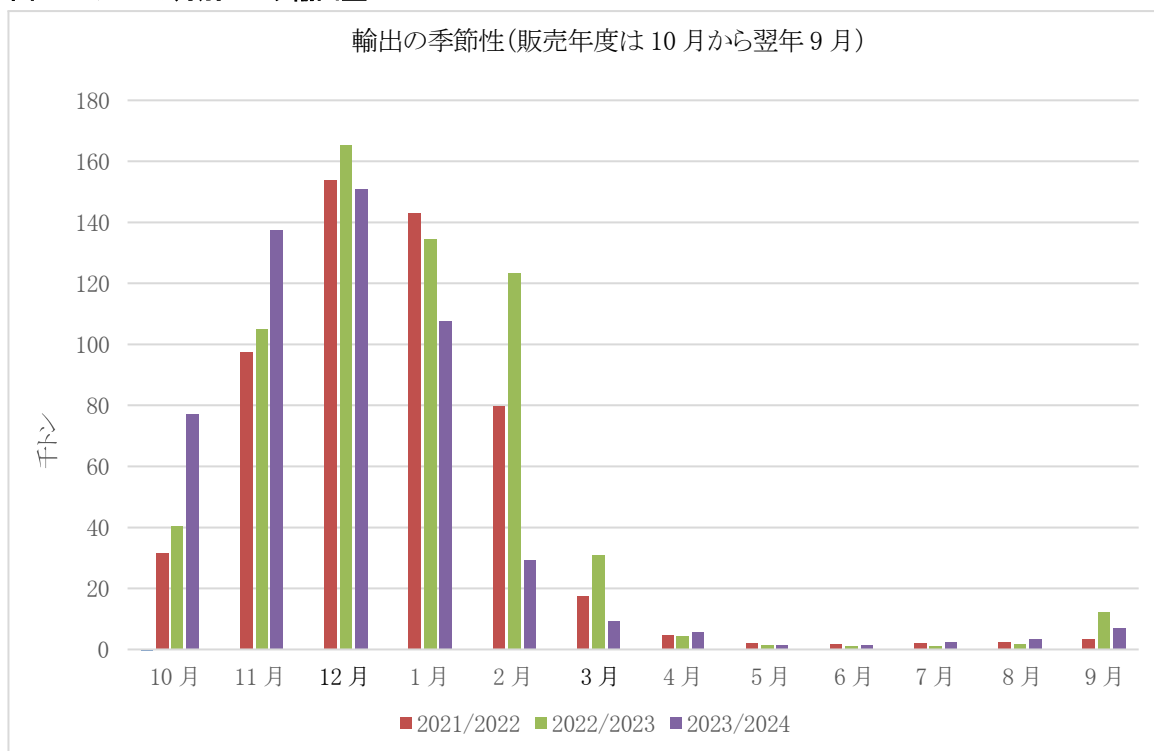
出典: ペルー農業省(MIDAGRI)

従来から白及び赤/黒の種無しブドウ品種は、全国各地で均等に栽培されてきた。輸出向けに最も人気のある5つのブドウ品種は、スイートグローブ(22%)、レッドグローブ(16%)、オータムクリスプ(14%)、アリソン(7%)、スイートセレブレーション(5%)である。現在、生食用ブドウの75%がライセンス制を採用しており、従来からの品種は25%で、この業界が市場主導型で、近代的かつ対応が迅速であることを示している。

さらに、ピスコ(ペルー特産のスピリッツ)用のブドウとしては、ケブランタ、ネグラクリオラ、モラール、ウビーナ等の非芳香性の品種と、イタリア、モスカテル、アルビージャ、トロンテル等の芳香性の品種がある。ワイン用の品種としては、ペルーには、ボルゴナブラック及びホワイト、カベルネソーヴィニオン、シャルドネ、マルベック、メルロー、モスカテル、モラー、シラー、タナ、ピノヴェルド、ピノワール等、30品種がある。

ブドウは、ブルーベリーに次いで、ペルーで農園を設置するのに最もコストのかかる作物の1つである。ペルーのブドウ作は、土地代を除いて1ヘクタール当たり約5万ドルの初期投資が必要である。生産コストの約30%が土壌の準備と灌漑システム、25%がトレリスの設置、14%が植物自体、4%が剪定と栽培管理に充てられる。これは、小規模農家にとっては大きな支出である。しかし、価値の高い品種の生産への投資は、かなりの収益をもたらす可能性がある。栽培管理が必要で労働集約的な作物であるブドウ産業は、ペルーの農業部門で多くの雇用を生み出している。イカ県等の生産量の多い産地では、労働力に対する安定した需要により、ブドウ生産は年間を通じて雇用の場を提供することができる。

図3 ペルーの月別ブドウ輸出量



出典: ペルー税関(SUNAT)

消費

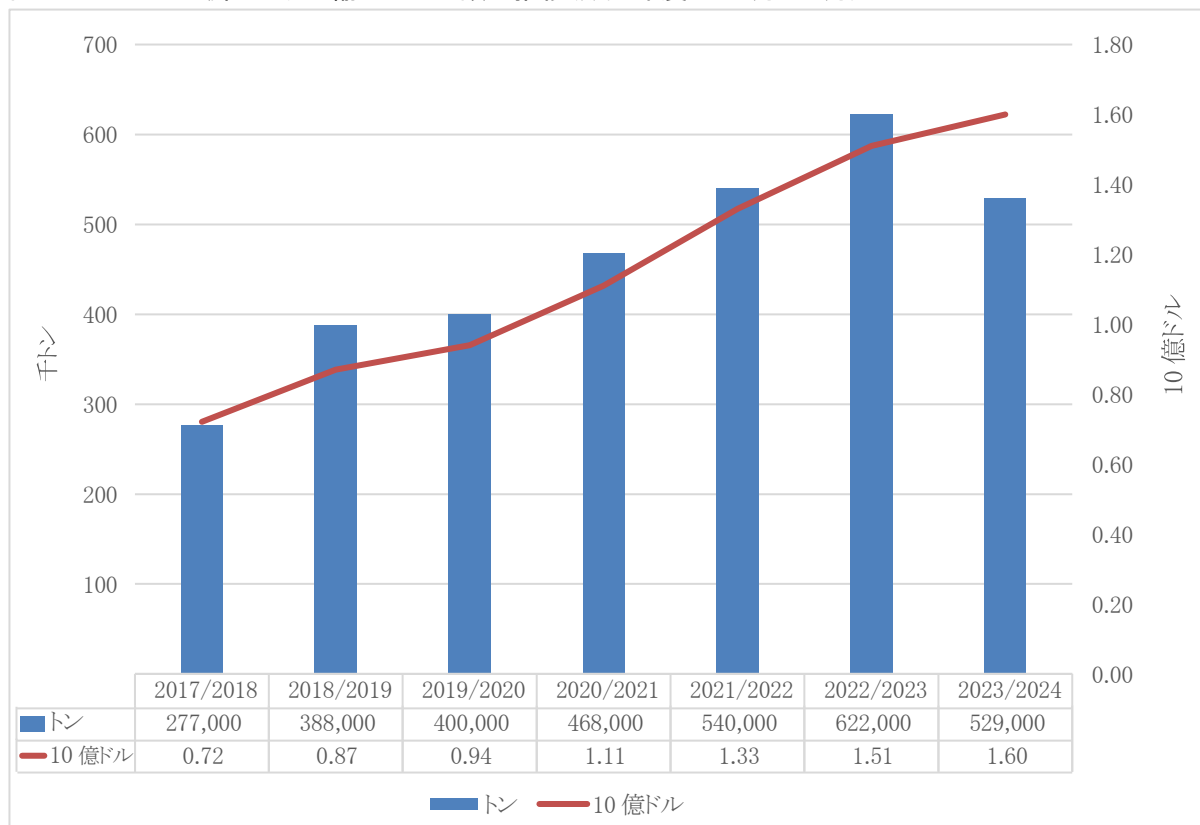
2024/25年度の生食用ブドウの国内消費量は、前年比30%減の17万1千トンと予測される。国内のブドウ市場は、価格が国際市場よりも大幅に低いため、生産者にとっては二次的な市場である。種無し白ブドウが、引き続き国内市場で大勢を占めている。

ピスコ(ペルー特産のスピリッツ)産業はブドウのもう一つの重要な消費形態である。2023暦年のピスコの生産量は730万リットルと推定され、悪天候と社会不安の影響を受けて30%減少した。米国、スペイン、日本、オランダが、ペルー産ピスコの最大の消費国である。ピスコの輸出は1千万ドルの市場である。リマ県とイカ県が、ピスコ製造の90%を占めている。

貿易

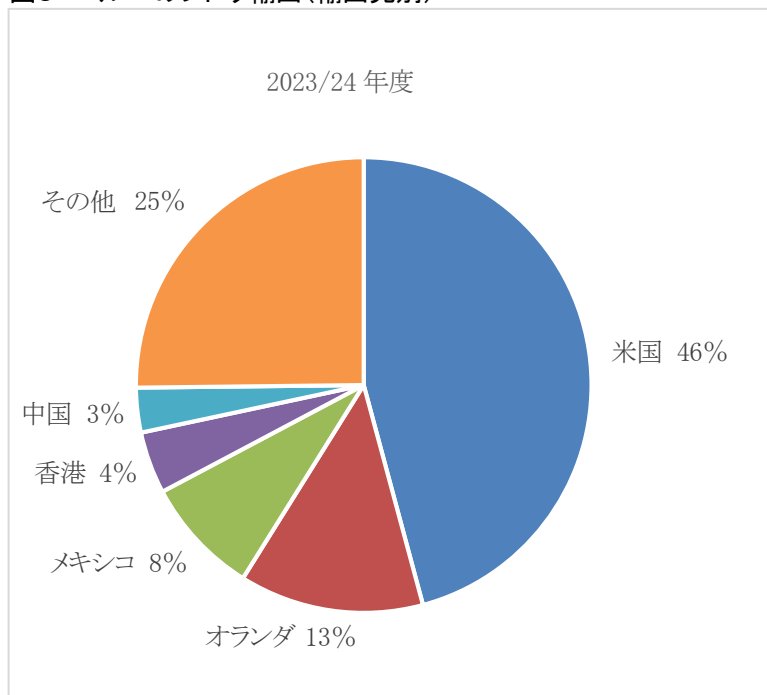
当事務所は、2024/25年度の輸出量が前年比17%増で史上最高の62万トンに達すると予測する。2023/24年度の最大の輸出先は輸出量24万4千トン(3%減)の米国で、次いでオランダが7万トン(7%減)、メキシコが4万5千トン(21%増)であった。

図4 ペルーの生鮮ブドウの輸出量と金額の推移(販売年度は10月～9月)



出典：ペルー税関(SUNAT)

図5 ペルーのブドウ輸出(輸出先別)



出典：ペルー税関(SUNAT)

2023年(暦年)には、生鮮ブドウがペルーの農産物輸出額でトップであった。2023/24年度の輸出額は前年比6%増の16億ドルに達した。輸出市場でのブドウ価格は、1トン当たり平均3,100ドルであった。2017/18年度以降、ペルーの生食用ブドウの輸出は年率14%で増加している。

ペルーの生鮮ブドウの輸出先は、上位5各国で輸出の73%を占めている。メキシコはペルーの生鮮ブドウの3番目に大きな市場であり、成長している。ペルー北部の産地から出荷される生鮮ブドウは、総輸出量の40%を占めているが、2022/23年度から30%減少した。ライセンス制の生鮮ブドウ品種が総輸出量の77%、伝統的なブドウ品種が23%を占めており、生食用ブドウビジネスの中心的な要素として、品種に関する確固たる傾向を示している。

政策

ペルーは21の二国間及び市場圏との貿易協定に署名しており、その中には米国、中国、欧州連合が含まれるものもある。これらの協定は、PROVID(ペルー最大のブドウ協会)及びSENASA(ペルー国政府の農業衛生植物検疫庁)の活動と相まって、ペルーのブドウが53もの市場(2023/24年度現在)に参入することを可能にした。

2024/25年度には、ペルー産のブドウは間もなく8年ぶりにエクアドルに輸出される。ペルーは現在、オーストラリア、フィリピン、チリ、イスラエルの市場開放に取り組んでいる。

新しく改装されたピスコ市(イカ県)の港は、2023年11月上旬にイカ、アレキパ両県に毎週のエクスプレスサービスを開始した。ピスコ港は、パナマの積み替えハブ経由でイカ県と米国(サバンナ、フィラデルフィア、ロサンゼルス)、メキシコ(マンサニージョ)、カナダ(バンクーバー)、北ヨーロッパ(オランダのロッテルダム及びベルギー(原文はフランス)のアントワープ)を結んでいる。平均所要日数は、フィラデルフィアまで12日、メキシコまで18日、ロサンゼルスまで22日、ロッテルダムまで20日、バンクーバーまで30日である。

同港は、9千~1万1千TEU(20フィートコンテナ相当)の船(新パナマックス規格)が利用できる。これにより、時間を節約し、輸送コストを削減し、輸送中のブドウの品質を保持する。ピスコ港の近代化プロジェクトは、完了までに5年の歳月と2億5千万ドルの投資を必要とした。2023/24年度のピスコ港からの生鮮ブドウ輸出量は40%増加し、他方パイタ港とカヤオ港はそれぞれ31%及び36%減少した。

2024/25年度の生育期間には、2024年11月14日に開港予定の多目的港であるチャンカイ港が、取扱量と貯蔵量の点でペルーの主要港として取って代わる可能性がある。公式情報によると、チャンカイ港はアジアへの輸送時間を短縮し、ペルーの対外貿易の競争力を高める。また、ブラジルからの輸送日数を12日間短縮する(No. 205参照)ため、同国はチャンカイ港をアジアに到達するための貿易回廊として検討している。

291. スペイン 暴風雨の被害は柑橘類シーズンを止めない

[FreshFruitPortal 2024年11月8日](#)

柑橘類管理委員会は低気圧がスペインの柑橘類シーズンを止めることはないとしている

スペインのオレンジとマンダリンの輸出の80%を扱う柑橘類管理委員会 (CGC) は、最近の大雨による生産への被害は深刻だが、2つの地区に局地的に限定されており、果実のかなりの部分が回収可能と見込まれると報告している。

同委員会のプレスリリースによると、バレンシア州のすべての倉庫は稼働しており、欧州連合への出荷の継続が保証されている。リリースは「収穫、調製、商業的流通の業務は再開されており、課題はあるものの比較的通常どおりに進んでいる」としている。

DANA (Depresión Aislada en Niveles Altos (上層の孤立低気圧)) として知られる暴風雨は、10月29日にバレンシア州の広い地域を襲い、壊滅的な洪水を引き起こした。大雨はほぼ1週間続き、北は同州のカステリオン県、南はアンダルシア州の柑橘類産地であるセビリア、ウエルバ、カディスの各県などにも広がった。

CGCのインマクラダ・サンフェリウ会長は、「この2週間、農業部門が直面した莫大な損失に加えて、洪水後には収穫作業ができず、園地へのアクセスや果実の輸送が困難になったため、柑橘類の出荷シーズンが遅くなった。スペインの柑橘類輸出の80%、国内市場の60~70%を占めるメンバーと連絡を取ったところ、現在、バレンシア州のすべての梱包施設は完全に稼働しており、ヨーロッパの小売業者へのマンダリンとオレンジの供給を確保している」と説明した。

CGCは、バレンシア州内の主要な農業組織の評価と同じく、主な被害は農業インフラ、農地へのアクセス、及び設備(貯水池、配水管、井戸、壁、フェンス等)に影響を与えていると指摘している。

状況は依然として深刻だが、柑橘類果樹園の最も大きな被害はラリベラアルタ、ラリベラバハの両郡とロスセラノス郡のペドラルバ町に集中している。バレンシア県内のこのほかの主要な産地であるラサフォル、カンブデモルヴェドレ、カンブデトゥリアの各郡及び北オルタ、南オルタ、西オルタの各郡の一部、さらに南のラコステラ郡などでは雨による被害は軽微であった。

バレンシア県の他の地域、カステリオン県とアリカンテ県の大部分(以上バレンシア州)、アンダルシア州及びムルシア州の柑橘類産地では、降雨はむしろ恩恵をもたらしており、多くの種類の柑橘類が育ち、2年間の深刻な干ばつの影響を緩和するのに役立っている。

サンフェリウ氏は、「被害を受けた園地のほとんどはまだ泥に覆われているが、一度アクセスできるようになれば、果実のかなりの部分が青果としての販売や果汁への加工のために収穫される可能性がある。これは最近の記憶の中で最も破壊的な部類の嵐だが、CGCは、この業界がそのような状況を管理する上でかなりの経験を有していることを強調したい。我々の梱包施設は、EU向けの一貫した品質の供給を確保するために必要な技術と専門知識を備えている」と述べた。

輸送の課題

影響を受けていない地域からの集荷は別として、スペインの柑橘類輸出部門の主な障害はバレンシア県内の物流状況である。バレンシア市のバイパス自動車道を含む重要なインフラへの被害は大きく、主要な自動車道の一部は依然として閉鎖されている。昨日、大型車両の規制が一部解除され、バレンシア環状道路では応急修理が進んでおり、交通の流れを助けるための迂回路がまもなく完成する見込みである。

道路渋滞に対応して、CGCは当局に対し、柑橘類など生鮮食品の優先的な通行路を確立するよう求めている。委員会は、「スペインとヨーロッパにおける COVID-19の制限と検疫の経験は、これが実行可能な緊急解決策であることを示している」としている。

(関連記事) スペイン バレンシア州の洪水の農業被害は10億ユーロ超

[FreshFruitPortal 2024年11月8日](#)

バレンシア州農業生産者協会(AVA-ASAJA)の当初の見積もりによると、今世紀最悪の嵐は、バレンシア州の農業部門に10億9千万ユーロ(11億7千万ドル)を超える損失をもたらした。

被害は壊滅的であり、農作物、農場、農業インフラ、機械、車両、牧場、苗畑に影響を与えたとされている。地滑りにより、農場全体が消滅したものもあると同協会は報告している。

同協会は、収穫前の農作物への被害を合計2億7,800万ユーロ(2億9,900万ドル)と推定しており、柑橘類が1億9,200万ユーロ(2億600万ドル)で最も大きな被害を受け、次いでカキ(5,400万ユーロ/5,800万ドル)、野菜(2,480万ユーロ/2,700万ドル)、アボカド(720万ユーロ/770万ドル)となっている。早生品種のマンダリンとカキをはじめとして、これらの作物の多くは収穫の最盛期であった。

さらに深刻なのは、農業インフラの損失で、4億8,600万ユーロ(5億2,300万ドル)と推定される。これには、農道の2億6千万ユーロ(2億8千万ドル)、灌漑インフラ(貯水池、送水本管、井戸等)の1億2千万ユーロ(1億2,900万ドル)、温室の1,500万ユーロ(1,600万ドル)、局地的な灌漑設備のある農地の5,400万ユーロ(5,800万ドル)、建物の2,500万ユーロ(2,700万ドル)及び壁、フェンス、囲いの1,200万ユーロ(1,300万ドル)が含まれる。

根が窒息した圃場は営農活動を維持するために改植が必要で、その被害は8,550万ユーロ(9,200万ドル)に上る。同様に、洪水によって浸食され、土層改良と改植が必要な区画は合計5,940万ユーロ(6,400万ドル)の損害を被った。

今回の上層低気圧(DANA)による農業機械及び農業用車両の損失は、合計1千万ユーロ(1,100万ドル)である。畜産施設も大きな被害を受けており、損失は2,050万ユーロ(2,200万ドル)を超えている。

このほか、同協会の関連団体であるバレンシア州花き・植木・園芸技術専門家協会(ASFPLANT)は、観葉植物、インフラ、設備及び施設の破壊により、1億5千万ユーロ(1億6,100万ドル)の損失を報告している。

集中豪雨は、川や溪谷の氾濫、降雹、ハリケーン並みの暴風(一部は竜巻)と相まって、バレンシア州の9つの地域に広がる3万3,728ヘクタールの農地に影響を与えたとして、AVA-ASAJA は詳細を伝えている。最も被害が大きかった地域は、ラリベラアルタ(10,866ヘクタール)、南オルタ(5,394ヘクタール)、ラリベラバハ(5,128ヘクタール)、ウティエルレケナ(5,007ヘクタール)及びラオヤデブニョール(2,403ヘクタール)である。その他の被災地域は、カンパデトゥリア(1,865ヘクタール)、ロスセラノス(1,549ヘクタール)、バレンシア(1,417ヘクタール)及びラサフォル(99ヘクタール)である。

未収穫の作物に関しては、柑橘類が1万5,908ヘクタール、カキが3,327ヘクタール、野菜が1,149ヘクタール、観用植物・苗木が603ヘクタール、アボカドが150ヘクタール、合計2万1,137ヘクタールとなっている。

穀物、ワイン用ブドウ、アーモンド、イナゴマメ、オリーブなどの天水栽培の作物は、ほとんどがすでに収穫されていた。灌漑作物では果樹、夏野菜、コメ等が収穫されていた。しかし、洪水がコメ産業に与える悪影響、特にアルプフェラ自然公園(灌漑用水の水源でもある)への廃棄物の堆積の可能性が懸念される。

AVA-ASAJA は、多くの区画が完全に浸水し、作物の損失だけでなく、根の窒息による樹体の潜在的な被害をもたらし、伐根する必要が生じる可能性があるとして報告した。冠水した野菜の場合は全損である。また、多くの農場への取り付け道路が破壊されており、未収穫の農産物の一部が市場に届かない可能性がある。

292. オーストラリア モモ、アンズ、スモモ等の出荷が本格化

[FreshPlaza 2024年11月11日](#)

オーストラリアの夏果実のシーズンは、好調かつ早期のスタートを切り、高品質な作物の強気の予測が報告されている。オーストラリアのほとんどの地域で、暖かく乾燥した気象条件のおかげで収穫が通常より約2週間早く始まり、生産者は収穫に最適な状態の果実を摘んでいる。

オーストラリア夏果実協会のトレバー・ランドフォードCEOは、「オーストラリアの夏果実は、主にモモ、ネクタリン、アンズ、スモモで構成されており、収穫の約2～4週間前に急速に肥大する。全国に400の夏果実生産者があり、最大5千人の農場主/常時雇用従業員と、最大1万5千人の臨時雇用の季節労働者がいる」と説明する。(以下、特記するまで「」は同CEOの話)

何千トンもの夏果実が国内で販売されるほか、消費者がオーストラリアの果実を高く評価しているアジアを中心に海外市場に輸出されている。

「オーストラリアの夏果実シーズンは、素晴らしいスタートを切り、早生のモモ、ネクタリン、アンズ、スモモの収穫が本格化している。シーズンは通常10月下旬から11月上旬頃に始まるが、今年は多くの生産者がすでに数週間前から果実の収穫を始めていた。これは主に、暑くて乾燥した春と夏のような気温で始まった好ましい天候条件によるものである。この状況が続けば、引き続き豊作が期待される。」

「多くの生産者が、果実は全般的に非常に大きく、甘い風味、明るい色、しっかりとした硬さがあると言っている。これらはすべて消費者から高く評価される要素である。初夏の果実の品種の多くは国内市場向けとされており、すでに全国の店頭に並んでいるが、さらに、多くの果実が中東やアジア中の主要な輸出市場にも出荷されているのを見るのは喜ばしいことである。」

「すべての兆候が、ほとんどの地域で来年の4月頃まで、プレミアムな果実がたくさん穫れる長い収穫シーズンを享受できるということを示している。」

同協会のディーン・モーペス会長は、現在の天候条件が続けば、生産者は果実の味が良く収量の高いシーズンを期待できると述べた。(以下「」は同会長の話)

「すべての地域の生産者との話し合いや最近の現地訪問から、生産者が今シーズンの果実が素晴らしいものになると勇気づけられ、自信を持っていることは明らかである。シーズンはかなり早く、収穫量は申し分なく、早生品種の風味は今年の糖度を上回っている。」

「高品質の素晴らしい果実を提供するために業界は多大な努力が払っており、これにより、シーズン初期の販売チャンスをつかむことができた。この実りある収穫は、特にオーストラリアでの夏果実の絶大な人気と、様々な輸出市場への貴重なアクセスを考えると、生産者にとって朗報である。」

「多くの地域で近年のシーズンに比べて雨が少なかったことを考えると、今年は夏果実の消費者にとって、素晴らしい食体験を提供するオーストラリア産果実を楽しめるエキサイティングな年になりつつある。」

執筆者：ニコラ・マクレガー

293. ペルー ブルーベリーの輸出が急増し過去の記録と予測を上回る

[FreshPlaza 2024年11月11日](#)

ペルーのブルーベリー産業は、近年の高い生産量を上回ることで、回復を顕示した。この成果は、品質と生産性の向上をもたらした優れた品種の導入によるものである。市場における業界の存在も強化され、今では年間の大部分をカバーしている。

ペルーのブルーベリー生産者輸出業者協会(Proarándanos)によると、2024/25年度出荷シーズンの第43週まで(10月26日まで)に、ペルーは世界中に15万3,609トンのブルーベリーを輸出し、これは前年度に比べて44%多く、最近の予測を9%上回った。

輸出量のうち、13万7,424トンは慣行栽培のブルーベリーであり、前年比45%増で、10月の予測を9%上回った。有機ブルーベリーの出荷量も1万6,185トンに増加し、前年より38%多く、予測を9%上回った。

企業別の貢献度では、カンポソル社が1万9,372トンでトップとなり、総輸出の13%を占めた。その他の大きく貢献した企業は、1万4,928トンのアグロビジョンペルー社、1万4,010トンのコンプレホ農産業会社、1万1,344トンのホルティフルーツペルー社、8,195トンのアグロベリーペルー社等である。

輸出量の約52%にあたる7万9,491トンは特定の企業に属しておらず、これは輸出量のかかなりの部分が小規模生産者のものであったことを示唆している。

エルニーニョ現象による課題を克服し、ペルー産ブルーベリーは米国市場での地位を取り戻した。今シーズンは8万1,471トンが米国に出荷され、昨シーズンの数値を52%、予測を10%上回った。

米国市場に入荷するブルーベリーの品種は多様で、未分類の新品種が30%で最も多く、ベンチュラ、ピロクシ、セコヤポップ、ロシオ、セコヤビューティーがそれに続いた。

フィラデルフィア港がペルー産ブルーベリーの米国への主要な輸入港であり、ポートワイニーミ、マイアミ、ロングビーチの各港及びニューヨークのジョン・F・ケネディ国際空港がそれに続く。

(ペルーの産地では)ラリベルタ県が米国への主要な輸出産地であり、ランバイエケ、イカ、リマの各県がそれに続き、ブルーベリーの輸出地域が幅広いことを示している。

全体として、ペルーのブルーベリー産業の堅調な業績は、製品の量と質の両方の成長に向けた持続可能で有望な未来を示している。

出典: [Blueberries Consulting](#)

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

294. エジプト 今年は高品質のクレメンタインを供給

[FreshPlaza 2024年11月11日](#)

エジプト産のクレメンタインは、他の競合輸出国が大きな困難に直面している間に市場に入荷する。ジャナフレッシュ社の開発マネージャーであるイブラヒム・ガダラー氏によると、「今年、エジプトは高品質のクレメンタインを求めて訪れるべき場所である。」(以下「」は同氏の話)

「我々は従来から、クレメンタイン部門で世界の様々なプレーヤーとの激しい競争に直面している。しかし、近年、気候変動の結果として、競合する原産国が困難を経験している。今シーズンはこれがさらに当てはまり、スペインの洪水やモロッコの干ばつが需要と供給のダイナミクスに影響を与えている。これはもちろん我々にとって助けとなるが、エジプトの輸出量に大きな変化があるとは思わない。」

「クレメンタイン部門では、エジプトの業者は量よりも質を重視している。このため、個人的には、自然な年間成長率が維持されると見ている。現在の競争の状況は、市場シェア獲得の機会を生み出すだろうが、何よりも公正な価格を獲得することが重要である。忘れてはならないのは、エジプトにいる我々もまた、リソースの制約や物流上の困難などの課題に直面していることである。」

「エジプトは、今シーズン、高品質のクレメンタインを一貫して出荷できる数少ない原産国の1つであり、輸出業者の観点からは、市場の数量不足を埋めようとするのではなく、品質基準を反映した価格設定を行うことが最善である。シーズンの始まりは、昨シーズンと比べてこの選択を信じる十分な理由を与えている。」

ガダラー氏によると、今シーズンのエジプト産では品種の選択に大きな変化はない。「エジプトで最も多く栽培されているソフト柑橘類は、ハニーモーコット、フリーモント及びミラヴである。これらよりは少ないがミネオーラも入手できる。弊社では、クレメンタインが年間販売量の15~20%を占めており、出荷期間は11月から2025年4月までである。」

執筆者: ユーネス・ベンサイド

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

295. 南アフリカ アボカドは世界市場の課題に直面

[FreshPlaza 2024 年11月12日](#)

南アフリカのアボカドは世界市場の課題に直面しており、解決策を求めている

ムプマランガ州ホワイトリバー市で開催された亜熱帯果実生産者協会(Subtrop)のマーケティングシンポジウムでは、業界の専門家が世界市場で南アフリカ産アボカドが直面している課題について議論した。同国は2,050万箱(4kg/箱)のアボカドを輸出し、35億ランド(約300億円)の経済的貢献があった。市場アクセスの進展にもかかわらず、食料農業政策局のトレイシー・デイビッツ氏は、不均一な輸入関税の問題を強調した。インドでは、南アフリカは30%の輸入関税が課せられるが、タンザニアは無税アクセスの恩恵を受けている。

同協会のデレック・ドンキンCEOは、南アフリカ産アボカドに厳しい処理要件を課しているインド及び中国と関税引き下げ交渉を行い、植物検疫障壁に対処する必要性を強調した。日本は2°Cで19日間の低温処理を求めているため、南アフリカ産アボカドの日本向けの輸出期間が限定されている。ドンキン氏はまた、国内産業を保護するために自由貿易協定に代わる案を模索することの重要性についても言及した。

同協会と果実生産者協会(Fruit SA)は、国際競争力を強化するために、輸入農業資材のコストを削減する方法を研究している。農業ビジネス会議所(Agbiz)のワンディレ・シロボ氏は、現在世界の農産物貿易の半分を占めるBRICS+ブロック内で貿易を拡大することの潜在的な利点を指摘した。同氏は、世界的な保護主義の傾向の中でBRICS+内で拡大する貿易機会を活用するため、インド、中国、エジプト、アラブ首長国連邦等主要国との輸入関税引き下げ交渉に注力することを提唱した。

出典: [Farmer's Weekly](#)

296. 米国カリフォルニア州産柑橘類 輸出市場では引き続き逆風

[FreshPlaza 2024 年11月13日](#)

カリフォルニア州の2024/25年度シーズンの開幕は、楽観的な見方に包まれている。コーチェラバレーとサンホアキンバレーの今シーズンのレモンは、現在収穫され出荷中である。全体として、同州のレモンの収穫量は昨シーズンよりも増加すると予想されている。過去数年間、世界のレモン市場は過剰供給の影響を受けているが、生産者達は最近の不採算な年に比べてより良いシーズンに期待している。

ネーブル種は梱包の3週目にあり、収穫のペースは毎週上がっている。オーテンリース社のダニエル・カス氏は、「収穫量は昨年より多く、果実の品質は昨シーズンより大幅に改善している」と言う(以下「」は同氏の話)。昨シーズンは大玉の果実が主流であったが、今年はネーブル種とカラカラオレンジの両方でサイズが小さいようだ。「小玉の果実が過剰に供給されるのを防ぐために、収穫を適切に管理することが重要である。」サイズが小さくても生産量は昨シーズンを10~15%上回ると同氏は予想している。バレンシア種のオレンジは今シーズンの収穫を終えたが、需要と供給のバランスが良かった。

種なしマンダリンは収穫と梱包が始まったばかりだが、ウンシュウミカンなど種の有る早生マンダリンも現在出荷されている。マンダリンも昨シーズンに比べて生産量が多く、その一部は園地の成園化によるものである。マンダリンは2023/24年度に好成績を収めたが、今シーズンも北米の柑橘類業界の重要な牽引役として、再度の好成績が期待されている。

暑い夏 「柑橘類の生育期間は全般的に素晴らしかった。」カリフォルニア州では通常どおり夏は非常に暑く、乾燥した天候であった。「記憶に残る中で最も暑い部類の夏であったが、天候が果樹に適度のストレスを与え、果実の過度の肥大を防ぎ、糖度を押し上げた。」10月末にはようやく涼しくなり、州内は日中の暖かさ、夜の涼しさ、雨の少なさといった素晴らしい柑橘類を育てる典型的な天候に恵まれている。「すべての品種の品質は、夏から秋にかけてのこれらの理想的な生育条件の恩恵を受けている。」現在、収穫条件も理想的である。雨や霧は収穫を遅らせる傾向があるが、通常、そのような状況は12月から3月にかけて発生する。

国内需要は堅調だが コロナ禍以降、国内市場の需要は引き続き堅調である。「世界中の輸出市場では相変わらず逆風に直面しているため、力強い国内事業は生産者にとって非常に重要である。」価格の上昇と為替レートの悪化などいくつかの要因が米国産柑橘類の海外需要を損なっている。関税もまた、米国の柑橘類にとって不利である。さらに、この業界は、困難な物流チェーンと、従来米国産の市場であったアジアへの供給をめぐる世界的な競争激化の影響を受けている。中国産柑橘類の品質向上と出荷量の増加も、同国における米国産柑橘類の需要を妨げている。「米国産柑橘類を高く評価するハイエンドの消費者からは安定した需要があるが、大衆市場からの大量の需要は他の選択肢を求めている。」

執筆者: マリーケ・ヘムズ (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

297. タイ 日本の需要拡大がパイナップル輸出を後押し

[FreshPlaza 2024 年11月13日](#)

日本のパイナップル市場は成長を遂げており、消費者の間では生鮮パイナップルが好まれている。日本の年間消費量は、果汁、缶詰、乾燥パイン等を含め18万トンを超えている。気候がパイナップルの栽培に適さないため、日本はパイナップルの大部分を輸入しており、タイは主要な供給国である。タイと日本の経済連携協定(JTEPA)は、タイ産パイナップル等農産物の貿易上の利益に関する交渉を促進するものである。

(スリサンパン商務副大臣一行は最近、)日本最大の卸売市場である大田市場を訪れ、市場の管理やオークションのプロセスについて理解を深めた。今回の訪問は、タイにおける農業マーケティング戦略を強化し、日本におけるタイ産農産物のプレゼンスを拡大するために極めて重要である。また、タイ産果実・野菜の日本への輸出増についての議論の契機となる。「フアイムン・パイナップル」が日本の地理的表示制度で登録されたことは、タイの農産物の品質の高さを強調し、国際市場での存在感を高めるものである。

出典: [Thaiger](#)

298. トルコ ザクロを世界に戦略的に輸出

[FreshPlaza 2024 年11月13日](#)

エーゲ海地方生鮮果実・野菜輸出業者協会の会長であるハイルディン・オジャック氏は、トルコの輸出動向を詳しく説明し、1月から10月までの期間におけるトルコ産ザクロの主要輸入国としてのイラクの役割の重要性を指摘した(訳注: この記事の出典はイラクのメディア)。同氏は、世界のザクロ市場におけるトルコの重要な地位 - 生産と輸出の両面で - を強調した。トルコは年間約70万トンを生産し、世界の5大生産国のひとつであると同氏は述べた。さらに、同国のザクロの輸出も注目に値し、年間15万~20万トンを輸出して、上位10カ国以内にランクされている。

上記の期間に、トルコは世界の61カ国にザクロを出荷した。ロシア連邦は2,100万ドル相当を購入する最大の輸入国であり、イラクが輸入総額2千万ドルの僅差で続いた。その他の主要な輸入国は、ドイツ、英国、ウクライナ等で、輸入額はそれぞれ1,450万ドル、750万ドル及び550万ドルであった。このような輸出先の多様化は、ヨーロッパ、中東、アジアなど、様々なグローバル市場での存在感を強化するトルコの戦略的アプローチを際立たせている。

出典: [IRAQI News](#)

(関連記事)トルコ ザクロのシーズンは低価格で困難に

[FreshPlaza 2024年11月8日](#)

ザクロはコスト上昇とインフレで利益が上げるのが難しい

トルコの青果物輸出業者アラナル社で販売コーディネーターを務めるイギット・ギョキギット氏は、十分な量と良好な品質にもかかわらずザクロ市場は難しい状況にあるとして、「トルコのザクロのシーズンは約2カ月前に始まった。ザクロの需要も好調である。しかし実際のところ、今年の市場は価格設定の面で非常に厳しい状況にある。国内のインフレ率は過去数十年に比べて高く、これがコストを劇的に押し上げた。一方、外貨からトルコリラへの為替レートの上昇率は、インフレ率よりも低い。したがって、我々の利益率は現在、非常に低い水準に低下している」と述べた。(以下「」は同氏の話)

同氏は、トルコ産ザクロの需要について不満はないが、価格の面で期待を叶えるのは難しいと説明する。「現在の需要は我々にとって満足のいくものである。ドイツ、英国、太平洋アジア地域、さらにはカナダなど、世界中のビジネスパートナーが弊社のザクロを手に入れたがっている。しかし、特に弊社の主要市場であるヨーロッパでは、ザクロのシーズンが販促活動から始まった。これによって、今シーズンは価格が低いという取引先の期待が固まった。すでに高インフレによるコスト増加を抑えるのに苦労しているため、取引先に対してすべて販促価格で対応することはますます困難である。」

全体として、今年の生産は堅調で満足のいくものであったが、これは天候に恵まれたためでもあると同氏は述べている。「今年のザクロの生産量は大変良い。市場には高品質のトルコ産ザクロが出ている。数量的には、ここ数年で最高のシーズンの1つであると言えるだろう。これは、今シーズンはザクロに悪影響を与えるような天候がなかったことも一因と言えるかもしれない。収穫前の天候が良かったため、ザクロの品質が良くなった。表面の傷の割合や色の状態は、通常の年よりも良い。」

トルコの輸出業者は全般的に好調なシーズンを過ごしているものの、コストとインフレの課題は顕著であると同氏は強調する。「トルコは世界で最も優れたザクロ生産国のひとつである。このため、多くのザクロ生産者と輸出業者がいるにもかかわらず、すべての企業が市場に参入する余地は常にある。前述のとおり、今年は量と質の面で良いシーズンとなっているが、トルコの輸出業者にとって、収益性が今年最も困難な課題である。ある程度の利益を得てシーズンを終えることを期待しているであろう輸出業者にとって、現在の価格はもはや対応不能だと思うので、輸出価格は今後数日のうちに上昇すると予想している。」(以下、同社の紹介を省略)

執筆者: ニック・ピーターズ (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

299. 南部アフリカ 柑橘類の輸出は地域内の需要と貿易上の課題で減少

[FreshPlaza 2024年11月14日](#)

2024年の輸出シーズンに、南部アフリカの柑橘類生産者は、世界市場に出荷する1億6,450万箱(15kg/箱(以下同じ))を梱包した。これは昨年より60万箱少ないが、生産者が直面した実に特異的な厳しい状況を見ると、このわずかな減少で済んだことは依然としてこのセクターとしての力強い実績である。

いくつかの予期せぬ要因により、南部アフリカ柑橘類生産者協会(CGA)は、年間を通じて繰り返し輸出見通しを調整することを余儀なくされた。当初の輸出見込みは1億8,170万箱であった。最終的な数字はこれより9%少ない。

輸出量に影響を与えた最も顕著な要因の1つは、国内で加工するオレンジに高い価格が提示されたことであった。CGAのビジネス情報・データマネージャーであるプレシャス・クノタ氏は、「果汁業界の情報筋は、2023年シーズンと比較して、搾汁施設で処理されたオレンジの量が60~80%大幅に増加したと報告している。これはオレンジ約600万箱に当たると推定される」と述べた。

2024年の最終的な梱包数量

- 今年は1,430万箱のグレープフルーツが輸出用に梱包された。これは2023年シーズンよりも30万箱少なく、2024年4月の当初の見通しより14%少ない。
- 4,160万箱のマンダリンが梱包され、前シーズンに比べて360万箱増加した。ただし、当初の見通しよりは3%少ない。
- レモンは前シーズン及び当初見通しの両方と比較して減少を示した。2024年には3,470万箱のレモンが梱包され、当初の推定値より9%少なく、2023年に比べて110万箱減少した。
- 輸出用に梱包されたネーブルオレンジは、2023年と比較して40万箱の増加を示した。今年は2,510万箱のネーブルが梱包され、当初の見通しから2%減少した。
- 今年は合計4,870万箱のバレンシアオレンジが梱包された。これは2023年シーズンよりも470万箱少なく、当初の見通しに対し16%も大幅に不足していることが注目される。

港湾の効率は、昨シーズン中、柑橘類業界にとって深刻な懸念事項であった。柑橘類の輸出量が予想を下回ったため、港湾のピーク時の取扱量は大幅に減少し、コンテナターミナルへの圧力が緩和された。しかし、これは稼働状況の良くない港湾への圧力が猶予されたに過ぎず、それが長続きしないことをすべての状況が示している。今後数シーズンで出荷量は増加し、もし港湾の状態が改善されず、貨物を処理できなければ、柑橘類の輸出と経済全体に大きな打撃となるだろう。

また、欧州連合(EU)のカンキツ黒星病(CBS)とフォールスコドリグモス(FCM)に対する非科学的で不必要に制限的な貿易措置が、引き続き輸出抑制効果をもたらしたことにも留意する必要がある。これらの措置は、国内の生産者にとって合計37億ランド(約320億円)の機会費用に相当する。世界貿易機関(WTO)におけるこれらの措置に対する南アフリカの歴史的な訴訟は進展しており、12月中旬に紛争プロセスの次の段階に入る予定である。

訳注: 南部アフリカ柑橘類生産者協会(The Citrus Growers Association of Southern Africa)は、南アフリカ共和国のほかジンバブエ、エスワティニを含む南部アフリカ地域の柑橘類生産者を代表する組織です。なお、南アフリカ柑橘類生産者協会(The Citrus Growers Association of South Africa)は、南アフリカ共和国の柑橘類生産者を代表する団体です。

300. フィリピン パナマ病対策でバナナ産業への支援を強化

[FreshPlaza](#) 2024年11月14日

フィリピン農業省(DA)は、国内のバナナ産業に対する支援メカニズムを強化しており、パナマ病や国際市場からの競争圧力などの課題に取り組んでいる。シェリル・マリー・ナティビダッドカバレロ農務次官は、ミンダナオ島、ビサヤ諸島、ルソン島など様々な地域では場試験が進行中のパナマ病抵抗性バナナ品種の開発に向けた研究に対する農務省の取組みを強調した。

バナナ生産の重大な脅威であるパナマ病は、約1万7千ヘクタールに影響を及ぼし、フィリピン産バナナの競争力を脅かしている。これを受けて、DAは農場の回復と新しいバナナ農場の設置のための信用支援を提供しており、1ヘクタール当たり少なくとも45万ペソ(約120万円)の信用支援を提供することを目指している。また、作物栄養学や総合的病害虫管理などの分野での研究の革新も推進している。

小規模バナナ農家へのさらなる支援には、フィリピン版GAP証明書の取得や、蔓延を防ぐための生物学的防除の提供が含まれている。DAは、高価値作物事業への予算配分を増やすことを計画しており、高品質なバナナ繁殖材料の生産のために組織培養センターに資金を提供する。同省はさらに、フザリウム萎凋病の影響を受けた生産者が、栽培品目にハスアボカドやドリアンを含めて多様化するよう支援している。

また、フィリピンのバナナ輸出に対する関税を引き下げて、競争の場を競合国と平等にするため自由貿易協定の強化にも取り組んでいる。日本、韓国、中国などの主要市場では、競争が激化し、市場シェアが減少する中、輸出ステータスを維持することが課題として認識されている。フィリピンは世界のバナナ市場での地位を回復することを目指しており、昨年のバナナ輸出量は235万トンとわずかに増加した。

出典: [philstar Global](#)

301. 米国カリフォルニア州 生食用ブドウの生産量が力強く回復

[The Grape Reporter](#) 2024年11月15日

カリフォルニア州の生食用ブドウは、2023年シーズンに嵐に見舞われた後、生産量が力強く回復

カリフォルニア州は、2023-24年度シーズンに困難に直面した後、生食用ブドウ業界の力強いカムバックシーズンを経験している。米国農務省のデータによると、同州は11月初旬までに昨シーズンの同時期より1,200万箱多い7,100万箱を出荷した。

すべての生食用ブドウはサンホアキンバレー地域から来ており、通常6月から1月の間に出荷される。11月8日だけで、同州は70万5千箱強の生食用ブドウを出荷した。収穫は進行中であり、業界は9千万箱以上の収穫を予想し、出荷は12月まで続くものと見込んでいる。

エスピノーザ氏(フロニス社)は「シーズンの終わりに向かって、晩生品種、特にアリソンの出荷量が回復した。これは非常に実が締まっており、優れた品質である」と Freshfruitportal.com(本サイトの関連サイト)に語った。

ほとんどの果樹園は、果実を雨から守り、その品質を維持するためにプラスチックフィルムで覆われているが、今シーズンは確かな品質で安定していると同氏は述べた。

同氏はまた、「弊社の取引先の小売業者は、店舗や年末の販促に提供するため、引き続き毎週発注している」と述べた。

米国農務省のデータによると、昨シーズンは8月の熱帯暴風雨ヒラリーの影響を大きく受け、カリフォルニア州の出荷量は合計6,970万箱で終わった。

過去4年間、シーズン中この時期までのカリフォルニア州の出荷量は少なく、4年間の内で最も多かった2022年でも7,060万箱であった。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

302. 中国の生鮮ナシ輸出

[FreshPlaza 2024年11月18日](#)

インドネシアは中国産生鮮ナシの輸入枠を導入する可能性

河北省の青果用のナシの収穫は完了しており、全体の出荷量は昨年比べて約5%減少した。また、好ましくない天候条件のため、高品質な果実の割合は著しく低くなっている。一部の取引業者は、2023年シーズンの市場価格の変動により損失を被ったため、2024年産生鮮ナシの仕入れを減らした。

生鮮ナシの大手生産・調製・輸出業者である河北雄瀚農産物会社が、現在の輸出市場に関する考察を提供した。以下は同社の李販売部長の話である。

「最近の輸出量は比較的安定している。これは主に、取引先からの注文が回復してきているのとクリスマスの準備によるものである。前年同期比で大きな変化はないが、今年はヨーロッパとアメリカの市場からの注文が増えており、出荷が速く進み、在庫がはけるペースが速い。」

李氏は、輸出の潜在的な課題として輸送コストを強調した。「輸出の最盛期に入中、海外の輸入業者からのクリスマス関連の出荷に対する要請が急増したことで、アジア、ヨーロッパ向けルートをはじめとして輸送コストが上昇している。東南アジア向けは90%~100%の上昇が見込まれ、ヨーロッパ向けは約30%上昇する可能性がある。一方、南米向けの輸送コストは安定しており、北米向けのコストはわずかに低下したため、これらの地域では影響が少ない。」

輸送コストの上昇の影響について、同氏は次のように指摘する。「現在、北米及び南米市場向けの注文を履行するために残業で対応している。ヨーロッパ向けの輸出はやや影響を受けているが、取引先はこの季節には高い価格を受け入れることを余儀なくされている。価格に敏感な東南アジア市場では、注文を減らした取引先がある一方、さらなる運賃高騰をヘッジするために注文を増やした取引先もある。全体としての出荷量は安定しており、この市場を注意深く見守っている。」

李氏はまた、来年1月に発効すると見られるインドネシアの生鮮ナシ輸入割当制度の可能性についても言及した。「この政策は、販売に熱心な業者の間で懸念を引き起こし、その結果、収穫以来、国内の価格は比較的安定している。インドネシアの取引先によると、割り当て(クォータ)制度により、輸出業者はグローバルGAP認証を取得する必要がある、クォータは認証を受けた面積に基づいて割り当てられる。これまでと異なり、輸入業者は自由に輸入することができず、その年の割当を計画する必要がある。」

「一部の生鮮ナシ輸出業者は認証を取得しているが、要件を満たしていない業者はインドネシア市場に関して悲観的である。この状況を緩和するために、一部の業者は、輸入業者が新しい制限に対抗して在庫を積み上げることを予想しており、12月中に大量の生鮮ナシを輸出する可能性がある。弊社は16年連続でグローバルGAPの認証を受けており、これらの変更の当社の業務への影響は最小限に抑えられている。」李氏は、今後、来年上半期の生鮮ナシ市場の形成には在庫水準が重要な役割を果たすと述べた。

同社は香港で開催されたアジアフルーツロジスティカにも参加した。李氏は、「今年は、残留農薬を厳しく制限した高品質の生鮮ナシを求めるヨーロッパとアメリカの取引先に合わせた受注ベースの植栽を導入した。植栽管理計画で協力することにより、これらの厳しい要件を満たすナシを供給し、その独占的な提供を確実に行うことができる」と締めくくった。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

303. ペルーと香港が自由貿易協定に調印

[FreshPlaza 2024年11月18日](#)

ペルー政府は金曜日、貿易関係を強化するための自由貿易協定(FTA)を香港特別行政区と正式に締結した。調印式ではディナ・ボルアルテ同国大統領と香港のジョン・リー・カーチウ行政長官の主導の下、ペルーのデシル・レオン通商観光大臣と香港のアルジャーノン・ヤウ商務経済発展局長官が署名した。

ボルアルテ大統領は、この合意を香港との関係を強化するためのひとつの節目として強調し、安定した予測可能な貿易ルールに基づいていることを強調した。同大統領はまた、FTAはペルーの包摂的かつ持続可能な成長への取組みを強化するとともに、ペルーの輸出業者に新たな機会を提供することでアジア太平洋地域における地位を高めるための一歩であると指摘した。

2023年のペルーから香港への輸出額は前年比微増の2億6,600万米ドルと報告され、ブルーベリー、ブドウ、魚粉、金属等が主要な輸出品であった。今回の合意は、香港の投資家や起業家に中南米での事業の実施と拡大のための安定した戦略的位置付けの市場を提供し、この輸出額を拡大するものと期待されている。

(最近開港した)チャンカイ港や(拡張工事中の)ホルヘ・チャベス国際空港等の重要なプロジェクトは、国内海上輸送の開かれた規制枠組みとともに、中南米における香港にとって極めて重要な接続拠点としてペルーを位置付けている。FTAは一带一路構想と連携し、世界規模での接続性と統合を強化するものである。

この貿易協定には、国境を越えたサービス貿易に関する規定が含まれており、ペルーの企業が香港に拠点を置かずにサービスを提供できるようになり、デザインやビジネスサービスなどの分野に利益をもたらす。また、金融サービスへのコミットメントや、ペルーの輸出品に対する無制限の無関税輸入の保証も含まれており、農産物等ペルーの非伝統的な輸出品に競争力を与えている。

出典: [andina](#)

304. 韓国 済州島のマンダリン業界は亜熱帯作物で気候問題に適応

[FreshPlaza 2024年11月18日](#)

済州島のマンダリン業界は、栽培方法を混乱させる気候変動由来の課題に取り組んでいる。今年は、気温の上昇と熱帯夜の長期化により、収穫が遅れ、果実の品質に影響が出たため、生産者達は農業技術を適応させざるを得なくなった。

ナムウォン農産物センターのヒョン・ジョンホ氏は、「マンダリンは、夜間の気温が摂氏20度を下回ると黄色く色付く。今年は暑さが長引き、すぐに収穫できるマンダリンの量が減った」と説明する。韓国気象庁は、7月から9月の間に、熱帯夜が前年のほぼ2倍の63回発生し、熱波の日が21.4日あったと報告している。

これを受けて、済州島の当局は規制を改め、サイズと品質基準を調整するとともに、一定の甘さの基準を満たすグリーンマンダリンの販売を許可した。この措置により、収穫量はわずかに増加すると予想され、露地栽培の生産量は2023年の39万8千トンから40万8千トンに増加すると推定される。

こうした調整にもかかわらず、異常な天候は引き続き、果実の小玉化や着色の遅延などの問題を引き起こしている。これらの課題を緩和するため、気候変動適応農業研究所では58種類の亜熱帯作物を導入し、マンゴー、パッションフルーツ、ドラゴンフルーツなど17種類の有望な品種を特定した。ハン・ヒョンヒ研究員は、伝統的作物の栽培面積減少への対応として、新品種の開発と亜熱帯農業技術の拡大の必要性を強調した。

亜熱帯果実への移行には、高価な温室の必要性や、従来のマンダリンの栽培法からの脱却などの課題がある。「生産者は、初期投資の増加と不慣れた農法のため、切り替えを躊躇している」と同研究員は指摘する。

マンダリンは2023年に約13億2千万ドルを生み出し、済州島の総農業収入の55.8%を占めて、島の経済に大きく貢献している。12年目を迎える2024年の済州柑橘類博覧会(11月13~19日)は、マンダリン産業の発展とグローバルな協力の促進を目的としており、博覧会のコ・ビョンギ会長が述べたように、済州島の伝統と(困難からの)復元力におけるマンダリンの役割を強調している。

出典: [The Korea Herald](#)

305. ゼスプリのキウイは北半球産に移行

[FreshPlaza 2024年11月18日](#)

季節補完的な「ゼスプリ世界供給(ZGS)プログラム」が動き出しており、競争が激化するキウイフルーツ分野において、主要市場の主要取引先への周年供給を確保し、ゼスプリのブランドを構築し、生産者に確実に持続可能な収益を提供する同社の取り組みを助けている。今年、ゼスプリは、フランス、イタリア、ギリシャ、韓国、日本の果樹園から2,600万箱以上、すなわち9万3千トン以上のキウイフルーツを販売する予定である。

ゼスプリの北半球供給担当執行役員であるニック・キルトン氏は、ニュージーランド産サンゴールドの販売終了後、ヨーロッパでZGSのシーズンが始まったとしつつ、「日本と韓国の市場も今後数週間でZGSサンゴールドに移行し、米国と中国では12月に移行する予定である」と述べている。(以下「」は同氏の話)

「ゼスプリグリーンキウイについては、今シーズン、イタリアとギリシャから700万箱以上を販売する予定で、今後数週間でニュージーランド産の販売が終わり次第、それらの販売を開始する。ゼスプリブランドのキウイフルーツがニュージーランド産から北半球産に移行するに当たり、取引先や消費者に高品質でおいしいキウイフルーツを提供できることを心待ちにしている。」

「ZGSは、ニュージーランド産のシーズンが再開するまで棚のスペースを維持し、年間を通じて取引先と消費者にプレミアムなゼスプリキウイフルーツを提供するとともに、ニュージーランド及び海外の生産者の収益をサポートするという当社の取り組みにおいて重要な役割を果たしている。」ゼスプリの世界供給プログラムは約25年前に設立され、海外の約1,500人のゼスプリ生産者と協力している。

需要の増加と競争の激化に対応するため、ゼスプリは現在、ニュージーランドのキウイフルーツ生産者に対し、生産者投票を通じてZGS事業の拡大を支持するよう求めている。

投票は11月11日に開始されており、12月5日(木)の正午まで行われ、イタリア、フランス、日本、韓国、ギリシャで、6年間にわたってサンゴールドキウイフルーツの栽培を毎年最大420ヘクタール追加で割り当ててることを支持するよう、ニュージーランド国内の生産者に求めている。その際、ゼスプリの取締役会による毎年のレビューにより需要予測が供給を上回っていることを確認するとともに、生産者に年次報告を行うことを条件としている。この提案は、広範な協議プロセスを経て、業界関係者と共同で作成された。

306. フィリピン 日本のアボカド市場へのアクセス拡大に成功

[FreshFruitPortal 2024年11月19日](#)

ハスアボカドの輸出が承認され、フィリピンは収益性の高い日本市場へのアクセスの拡大に成功した。これは、同国の農産物輸出の拡大における重要な節目であり、国内産農産物の品質を浮き彫りにしている。

フランシスコ・P・ティウ・ローレル・ジュニア農務長官は、「これは、農産物輸出拡大へのフィリピンの取り組みと高品質な製品の証しである」と述べ、「日本に承認されたこのアクセスが、他の国際市場でもフィリピン産ハスアボカドのチャンスにつながると楽観視している」と付け加えた。

同長官はまた、この国際貿易の節目を達成するために農業省植物産業局(BPI)、東京駐在農務官事務所、及びドールスタンフィルコ社が行なった協力的な取り組みを称賛した。

ハス種は、その大きさと、熟すと黒紫色に変わるゴツゴツした果皮で好まれ、特に日本人の好みによく合う。

日本はハスアボカドの主要な輸入国であり、2023年の輸入額は1億6千万ドル(6万1千トン)で、主な供給国は、メキシコ、ペルー、オーストラリア、ニュージーランド、米国等であった。

(参考) [農林水産省告示](#)

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

307. 世界柑橘類機関の北半球年間生産量予測は約9%減少

[FreshFruitPortal](#) 2024年11月19日

世界柑橘類機関(WCO)は、来たる2024-25年度柑橘類シーズンの北半球柑橘類年間予測を発表した。

この暫定的な予測は、地中海地域と米国の業界団体のデータに基づいており、エジプト、ギリシャ、イスラエル、イタリア、モロッコ、スペイン、チュニジア、トルコのほか、初めてポルトガルのデータが含まれている。

報告された数字ではこれらの国々の柑橘類の生産量が2,729万7,216トンと推定され、前シーズンと比較して8.73%の減少を示している。また、過去4シーズンの平均よりも5.88%少なくなっている。

柑橘類の輸出量も同様の傾向をたどり、総輸出量は昨シーズンより9%、過去4シーズンの平均より9.7%少ない837万9,831トンと予想されている。

WCOのフィリップ・ビナール事務局長は、市場の見通しは豊作だった昨年からの減少を示していると述べ、「これは主に、トルコが昨シーズンの記録的な数字から通常のプロダクション水準に戻ったことと、エジプトで減少が予想されるためである。遅霜、干ばつ、熱波などの天候上の問題や新たな病害虫は、生産物の品質、色付き、収穫時期に影響する恒常的な脅威である。市場は依然として地政学的不安定性の影響を受けており、一方で消費者需要は購買力の制約とインフレにより圧迫されている」と語った。

EUの主要生産国の国別の数値を見ると、スペインの柑橘類の生産量は、レモンが過去最高だった昨シーズンから21%減少したため、全体として前シーズンより3.3%少ない610万トンと見込まれる。スペインの(最近の)劇的な気象現象は供給量全体に大きな影響を与えるとは考えられておらず、供給量の予測は変わらない。イタリアはオレンジが17.5%減少し、柑橘類全体では12.3%減の270万トンと予測され、他方、ギリシャは109万トンの横ばいである。

他の地中海諸国では、トルコが昨シーズンの記録的な生産量から17%減となる495万トンと予測される。エジプトの435万トンは、2023-24年度から19%の減少となる。一方、モロッコの生産量は210万トンに増加(+12%)すると予想される。イスラエルの生産量も50万6千トン(+18.5%)に回復すると推定される。

今回初めて予測に貢献したポルトガルは、来シーズン3.3%の減少(合計38万トン)を予測している。

米国の生産量は455万トンに減少(-4%)すると予想され、近年の平均(-11%)と同じく減少が続いている。

ビナール氏は、「WCOは、来シーズンの柑橘類の仕向量についてもある傾向を想定している」と述べた。北半球の柑橘類の輸出量は昨シーズンと比較して9%近くの減となる838万トンと見られ、加工仕向量は516万トンに減少(-4%)、国内販売量は残りの1,376万トン(-10%)と見込まれる。

WCOは南半球の2025年の生産量と輸出量の予測を、来年4月に発表する予定である。

出典：世界柑橘類機関

308. ペルー チャンカイの巨大港が操業を開始

[FreshPlaza 2024年11月19日](#)

2024年11月14日のチャンカイ港の正式開港は、国際海運貿易の転換点となった。この港は、リマの北80キロでペルーと中国が共同で開発した野心的なプロジェクトであり、南米とアジアの間の貿易ルートを変革し、2つの地域間の経済的及び物流上の関係を強化する戦略的結節点として浮上している。

ペルーのディナ・ボルアルテ大統領と中国の習近平国家主席は、二国間協力の象徴として、また中南米からアジア市場への輸出の玄関口としてのこの港の重要性を強調した。36億ドル以上の投資によって推進されたこのメガプロジェクトは、取扱量の大きいコンテナターミナル、自動化された倉庫、最適化された陸上アクセスなど、最先端のインフラを備えている。

チャンカイ港は、大量の貨物を取り扱うように設計されており、当初の年間取扱能力は100万TEU(20フィートコンテナ相当)に達すると予想されている。この開発は、ペルーをこの地域の模範的物流拠点として位置付け、中国、日本、韓国等の主要なアジア市場への海上輸送の時間とコストを削減することを目指している。

しかし、このプロジェクトには論争がないわけではない。同港は中国国営のコスコ SHIPPING 社と提携しており、同社が同港の運営を担当するコンソーシアムを率いているため、米国では懸念が生じている。一部のアナリストは、このインフラが南米における中国の影響力を強固にする地政学的な意味合いを持つ可能性があると考えている。

疑問はあるものの、チャンカイ港は、ペルーの生産部門、特に鉱物、農産物、水産物の輸出において、特別なチャンス进行している。さらに、このプロジェクトは、何千もの直接的及び間接的な雇用を生み出し、地域経済を後押しすることを約束している。

今回の開港により、ペルーは港湾インフラの近代化に向けて確固たる一歩を踏み出し、世界貿易の主要プレーヤーとしての地位を確固たるものとし、南米とアジアの架け橋としての役割を強化する。チャンカイ港は、地域の物流を再定義するだけでなく、経済成長と国際統合の新たな展望を開くものである。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

309. ペルー ベトナム向けマンダリン輸出にゴーサイン

[FreshFruitPortal 2024年11月20日](#)

ペルー政府は、農業開発灌漑省を通じ、ベトナム向け生鮮マンダリンの輸出に関する植物検疫プロトコルが確立されたと発表した。

この貿易上の新しい決定は、ペルーとベトナムの植物検疫当局間の技術的会合の結果として行われた。この会合では、SENASA(ペルー税関管理局)の技術代表団が、ブルーベリーへのベトナムへのアクセス獲得に向けた取り組みの進捗状況についても説明した。ブルーベリーの輸出は現在、病害虫リスク分析の段階にある。

ベトナム代表団は、マンダリンの要件が確定すれば、ブルーベリーの手続きは速くなるだろうと述べた。

植物検疫プロトコル

この合意に基づき、ベトナムの植物検疫当局は合意された要件を公表し、SENASAは要件のリストをベトナムへのマンダリン輸出を開始することを許可される予定の農場と梱包施設に伝達する。

2023年の出荷シーズンには、ペルー産柑橘類は40カ国以上に輸出された。中でも米国が主要市場であり、総輸出の41%を占めた。

最も需要の高い柑橘類はマンダリンで、19万トン以上が輸出され、主な市場は米国、オランダ、中国であった。

310. 米国カリフォルニア州 クレメンタインの供給が増加

[FreshPlaza 2024年11月20日](#)

カリフォルニア州のクレメンタインの作柄は、今年は平均的になりそうだ。サンパシフィックシッパーズ社のアルベイツ社長は、「クレメンタインの出荷業者は、マーコットやタンゴの業者ほど多くはない。出荷量の大部分は、おそらく3つの最大手の出荷業者によるものだ」と述べ、出荷シーズンは1月の第2週または第3週まで続くと付け加えた。(以下「」は同社長の話)

一方、クレメンタインは今の時期、供給量が増加し始めている。「弊社では果実の色、内部の糖度及び酸度を見ながら出荷の時期を待っていたが、今は出荷量を増やし始めている。果実の品質は良好で、需要にかなり応えられると思う。」過去数週間のクレメンタインの引き合いは良好であった。

これは、出荷シーズンの開始がずっと遅かった昨年のこの時期とは異なって見える。昨シーズンは春の開花が遅く、出荷の開始が11月まで遅れた。(今年の開花はほぼ予定どおりで、その結果、出荷シーズンの開始も予定どおりか、または少し早いくらいであった。) 昨年はまた、この時期には輸入品が多かった。

感謝祭のタイミングが助けに

クレメンタインの動きはまた、今年の感謝祭のタイミングが遅いことに少し助けられた。「我々としては、11月の準備期間が長くなったのでよかった。出荷のスタートが遅れて感謝祭の時期に果実が手に入らないと、多くの需要を逃すことになるだろう。」(訳注: 米国の感謝祭は11月22日から28日の間の木曜日。今年は28日)

現在の需要については、クレメンタインの供給に応じてピークに達しており、それは維持されると見込まれるが、感謝祭の週には多くの商品と同様に荷動きが鈍化すると予想される。「その後、感謝祭からクリスマスまでの3週間は、引き合いがかなり強くなる。」クリスマスから新年にかけての需要は、年によって異なることが多い。また、収穫が終盤に入り、適切に管理されていない果実は品質が低下することもあるため、供給がやや減少する時期でもある。その後は、タンゴマンダリンとマーコットの出荷シーズンに移行する。

では、価格はどうなっているかというと、昨年よりも低い。「昨年のこの時期よりも量が増えているが、全体的な価格設定はそれほど悪くない。これは、おそらく過去10年間の平均と同程度で、農業投入資材、包装費、人件費の上昇には追いついていない。」

今後について、年明けのマンダリンの見通しは楽観的である。「今年はシーズン序盤の果実の食味が大変良い。通常、シーズン序盤の食味は最高とは言えないが、今年は良かった。それはリピート顧客への販売と需要の増加に大きく関係すると思う。これが出荷シーズンの残りの期間も続くことを願っている。」

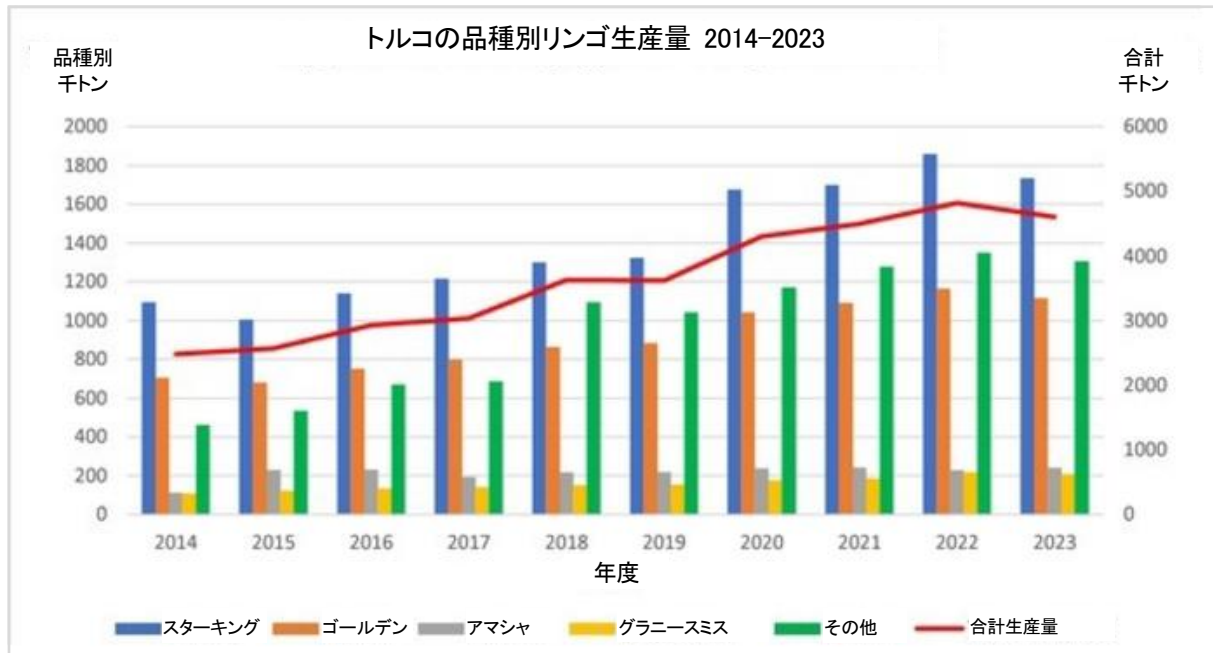
執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

311. トルコ リンゴの生産量が異常気象で5年ぶりの低水準

FreshPlaza 2024年11月20日

トルコの2024/25年度の商業的リンゴ生産量は、異常に乾燥した温暖な気象条件により、5年ぶりの低水準に落ち込むと予測されており、生産者らは気候変動が原因だと主張している。生産量は減少するものの、リンゴの輸出量は前年比で増加し、記録上3番目に多くなると予想されている。リンゴとは対照的に、商業的なナシの生産量は、主要なナシ産地で天候条件が良好であったため、史上最高を記録すると予測されている。生産量の増加に伴い、ナシの消費量と輸出量も同様に増加すると予測されている。商業的なブドウ生産量は昨年より多いと予測されているが、カビ病による損失のため、依然として長期的な平均を下回っている。



生産 2024/25年度シーズンの商業的なリンゴ生産量は、主要産地における好ましくない生育条件のため400万トンと予測されており、これは昨年度の改訂推計値に比べて13%少ない。一部の業界関係者は生産量はさらに減少すると予測しているが、トルコ統計局(TUIK)の予測は、業界や当事務所(米国農務省アンカラ事務所)よりも楽観的である。一方、2023/24年度の実績は、最新の公式データに基づき下方修正した。

生産者らは、生産量の減少は気候変動のためだとしている。気温の上昇、乾燥した気象条件、及び灌漑用水の不足が主な原因として挙げられた。この生産量の減少と果実の品質低下に起因する経済的損失は、水利費、人件費、病害虫防除資材といった投入コストの上昇に引き続き取り組んでいる多くの生産者にとって大きな打撃になると見られる。

国内有数のリンゴ産地であり、全国の実産量の4分の1を占めるウスパルタ県では、2024年の冬の間を通じて気温が氷点下(摂氏0度以下)にならず、冬の発芽や収穫期の果実が少なくなった。さらに、乾燥した天候と灌漑用水の不足が生産に悪影響を及ぼした。この地域の主要な灌漑用水源であるエグリディール湖の水位は、過去数年間の降雨量が不十分だったため、警報級のレベルに低下した。これを受けて、州政府はこの湖から引いた灌漑用水の使用を制限した。この制限の結果、湖から遠く離れた場所にある一部の果樹園では十分な水を得ることができず、リンゴのサイズが国内や国際市場で販売するには小さくなり過ぎた。また、ウスパルタ県のリンゴの一部は降雹の被害も受けた。これらの小さく、場合によっては雹害で損傷したリンゴは、果汁の製造に仕向けられる。

報告書(米国農務省アンカラ事務所GAINレポート)全文は[こちら](#)

312. スペインの洪水と減収で柑橘類とオレンジ果汁の供給が混乱

[FreshPlaza](#) 2024年11月22日

バレンシア州では、スペインの他の地域と同様、10月29日に深刻な洪水に見舞われ、柑橘類産業も含めて甚大な被害が発生した。州の農業者協会(AVA-ASAJA)は、柑橘類部門が1億9,200万ユーロ(2億500万米ドル)を超える損害を被ったと報告した。この出来事は、青果と飲料の両方で柑橘類をスペインに依存しているヨーロッパ市場に混乱をもたらした。

柑橘類管理委員会は、バレンシア州内の梱包施設は引き続き稼働しているとしている。しかし、世界の供給チェーンはオレンジ果汁の主要生産国であるブラジルと米国の収穫量の減少により圧迫されている。ブラジルは干ばつとカンキツグリーンング病により収穫量が過去30年で最低になっており、フロリダ州も同様の課題に直面している。英国果汁協会は、オレンジ果汁が過去50年以上で最も手に入りやすくなっていると指摘しており、この不足が続く可能性があるとして予想している。

ミンテック社ベンチマーク価格が前年比で130%上昇したオレンジ果汁の価格高騰を受けて、関連企業は代替の原料を模索している。英国のコールドプレス社では、高圧加工技術を活用したマンダリン果汁を導入した。同社の創業者であるアンドリュー・ギブ氏は、マンダリンを栄養価の高いオレンジの代替品として推奨している。同様に、米国のアングルマツ社は、有機オレンジ果汁、ココナッツウォーター、生姜を取り入れたお茶や健康飲料(ショット)に製品の品揃えを拡大している。

スペイン産柑橘類の供給の減少を受けて、地中海諸国と南米諸国はヨーロッパの需要を満たすための調整を行っている。ギリシャ、モロッコ、エジプトは輸出を増やしており、アルゼンチンとペルーはEUの規格に合わせて輸出戦略を見直している。環境関連の災害から農業上の病害まで、オレンジ果汁業界が直面する課題は世界の果汁の生産と流通に影響を及ぼし続けており、流通量の制約と価格の高騰につながっている。

出典: [Food&Drink](#) (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

313. タイ ニュージーランド産リンゴとキウイフルーツの需要の高まり

[FreshPlaza](#) 2024年11月22日

タイには多様な熱帯果実があるにもかかわらず、ニュージーランド産のリンゴとキウイフルーツに対する嗜好が高まっており、T&Gグローバル社では、これらの果実、特にリンゴブランドのジャズとエンヴィイに対する需要が着実に増加している。同社のアジア担当統括マネージャーであるジェームズ・ゴードン氏は、タイが世界へのエンヴィイ輸出量の15.5%を占めて大きく貢献しており、輸出拡大計画において重要であると強調した。

タイは、ベトナム、台湾とともに、ニュージーランドのリンゴ輸出市場のかなりの部分を担っており、これらの国を合わせると総輸出の約3分の1を占めている。中国と欧州連合も注目すべき市場である。同社は、2016年以降、タイでのリンゴとキウイフルーツの販売で年率2桁の成長を遂げており、ゼスプリとのパートナーシップを通じてゼスプリブランドのキウイフルーツを販売している。2023-24年度シーズンには、同社はタイでゼスプリサンゴールドとグリーンキウイフルーツを大量に販売した。

市場の嗜好に関しては、タイの消費者はプレミアムで高品質な果実にお金を払う意欲を示しており、エンヴィイはプレミアム市場をリードしている。この市場は、価格重視の果実市場と比較すると小さいが、アジア市場の文脈では重要である。独特の甘酸っぱい風味で知られるジャズも、エンヴィイほどではないものの好調である。

キウイフルーツに関しては供給が重要な課題であり、需要は常に供給を上回っている。ブランド認知度とプレミアムな位置づけにより、リンゴとキウイフルーツの両方で好調な売上を維持している。同社はさらに、プレミアムリンゴを補完する新ブランドであるジョリを導入し、2028年に商業的にリリースする予定である。

旺盛な需要に応えるため、同社はニュージーランド国内の様々な地域の生産者と協力して、エンヴィイとジャズの取扱量を増やしている。同社は、東南アジア市場での存在感と消費者の忠誠度を維持するため、果実の周年供給の確保を目指しており、それはこの地域での生鮮果実部門の果てしない可能性を強調している。

出典: [Farmers Weekly](#) (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

314. ゼスプリはゴールド/レッドキウイの強い需要を予測

FreshPlaza 2024年11月27日

ゼスプリが最近発表した5カ年見通しレポートでは、このセクターの2030年末に向けた軌道を分析し、チャンスと課題の両方に焦点を当てている。このレポートは、供給を上回るサンゴールドの堅調な需要を強調しており、ブランド製品に対して高い対価を支払う市場の意欲について、同社は楽観的である。ゼスプリのキウイフルーツは、15市場中10市場でトップ3の果実にランクインしており、ニュージーランド国内産と国際的に調達されたゼスプリブランド果実の両方に対する強い需要を示している。

レポートの予測は、サンゴールドが引き続き需要をリードし、2030年までに供給量が1億3千万箱から1億5,300万箱に増加すると見込んでいる。一方、従来からのグリーン品種については、生産者が他の品種に移行し、同じ期間に6千万箱から5千万箱に減少すると予想している。このグリーンキウイの供給量減少により、2030年までに1箱当たりの価格が28%上昇して9ドルになると予想している。また、サンゴールドとルビーレッドの価格は、1箱当たりそれぞれ19%上昇の12.50ドル及び32%上昇の16.50ドルと予測している。

一方、この報告書は、ニュージーランド国内の栽培面積を上回る推定8,387ヘクタールに拡大した中国でのサンゴールドの無許可栽培の問題を看過していない。違法な栽培により約4千万箱が生産されており、その一部がゼスプリブランドの偽造品として販売され大きな問題となっている。法的手段を通じてこの問題と闘う努力にもかかわらず、無許可の栽培品及び他の国際的な供給源との競争は依然として懸念事項である。

同報告書はまた、世界の中流階級の拡大、高齢者層における果実消費量の増加、及びCOVID-19パンデミック後の健康と栄養への関心の高まりに関連する主要な好機を見出している。供給の観点からは、ゼスプリは今後数年間、サンゴールドの追加のライセンスをリリースする意向であり、北半球での拡大についてはニュージーランド国内の生産者の投票待ちである。ルビーレッド品種は、現在は数量的に少ないが、2030年までに大幅な成長が見込まれる。(一部省略。「ドル」はNZドル(1NZドル=約89円)) 出典: [Farmers Weekly](#)

315. ふじリンゴのゲノムマッピングでスパータイプの鍵遺伝子が明らかに

FreshPlaza 2024年11月27日

リンゴは100カ国以上で栽培されており、世界で最も広く生産されている果実の1つとなっている。その中でも、コンパクトなサイズと生産性の高さで知られるスパータイプのリンゴの木が注目されている。しかし、この望ましい形質の遺伝的基盤は、最近まで完全には分かっていなかった。

国際的な研究グループがふじリンゴの全てのゲノムのマッピングに成功し、その過程で両方の親から受け継いだ遺伝物質を区別することに成功した。これにより、研究チームは74種類のふじのクローン品種を調べることができ、スパータイプの成長の仕方などのユニークな形質に寄与する体細胞変異の特定につながった。

研究の筆頭著者であるボイス・トンプソン研究所(コーネル大学内)のフェイ・ジャンジュン教授は、「生産者達はスパータイプのリンゴの木を賞賛する。それらは、密集した花芽を形成し、果実の収量が高い一方で、剪定が少なく済む。これにより、現代的な果樹園、特に栽培条件の困難な果樹園に最適である」と述べている。

レッドデリシャスとロールスジャネット(国光)のハイブリッドであるふじは、その甘い味とさわやかな食感でよく知られている。ふじのクローンがリンゴ品種の70%以上を占めている中国では、スパータイプの品種が農業にとって理想的とは言えない条件下でも耐性を示し、生産性を向上させた。

この研究は、成長の調節因子として作用する遺伝子MdTCP11を特定した。コンパクトなリンゴの木ではDNAのこの遺伝子の近くに顕著な欠損があり、それがこの遺伝子の活性を高め、より凝縮された果樹の構造を形成する。この研究ではさらに、スパータイプの品種はDNAのメチル化レベルが低いためにこの遺伝子の活性が高くなり、それによってスパータイプの形質が促進されることがわかった。

この発見は、コンパクトで耐病性があり、より持続可能な新しいリンゴ品種の開発に役立つかも知れない知見を提供しており、リンゴ育種の未来の可能性を秘めている。これらの発見は、農業の効率と持続可能性を高める上での遺伝子研究の重要性を浮き彫りにしている。 出典: [BTI](#)

316. 米国フロリダ大学 カンキツグリーニング病抵抗性品種を発表

[FreshPlaza](#) 2024年11月28日

フロリダ大学食品農業科学研究所(UF/IFAS)は、フロリダ州フォートピアス市のインディアンリバー研究教育センター(IRREC)で開催されたミレニアムブロックの公開日に、カンキツグリーニング病(HLB)に対する回復力を示し、高い果実収量と果汁品質を維持する2つの柑橘類品種を展示した。20エーカー(8ヘクタール)のミレニアムブロック(IRRECの柑橘類試験ほ場)は、生鮮果実の品種と台木の評価に取り組んでいる。

IRRECで園芸生産を担当するUF/IFASのフラヴィア・ザンボン助教授は、トライアンフ(Triumph)と命名されたグレープフルーツとオレンジのハイブリッドと、UF-914と呼ばれるポメロハイブリッドの重要性を強調した。これらの品種は、そのHLB耐性で注目に値する。同助教授は、「ポメロの特徴である厚い外皮は別にして、UF/IFASのフレッド・グミッター教授が交配したUF-914の赤い果肉はグレープフルーツに似ている。すぐに市場に出せる果実が生産できる」と述べ、さらに、トライアンフがカンキツグリーニング病に対して並外れた耐性を示し、堅牢な濃緑色の樹冠を備え、果汁の品質と歩留りに関して業界の基準を満たしていると説明した。世界の高級品市場に対応するため、トライアンフを種無し品種に育種する計画が進んでいる。

この公開日には、参加者が果実を試食する機会が提供され、UF-914はその風味と全体的な品質が好まれた。参加者は、柑橘類業界の関係者、UF/IFASの研究者、及び様々な柑橘類研究機関の代表者等であった。

フロリダ州農業・消費者サービス局のトレバー・スミス植物産業課長は、耐病性果樹の開発、キジラミの駆除、共同研究の取り組み等、カンキツグリーニング病に対抗するための包括的な戦略の重要性を強調した。同課長は、ミレニアムブロックを、現在の課題の下で高品質な果実を生産する品種を特定するための協力的な取り組みの代表例として賞賛した。

出典: [Citrus Industry](#)

(関連記事)ブラジル 新産地のグリーニング病対策に殺虫剤が有効

[FreshFruitPortal](#) 2024年11月20日

試験では、柑橘類の生産が拡大している地域におけるHLBに対する殺虫剤の有効性が示された

ブラジルでは、サンパウロ州北西部に隣接するトリアングロミネイロ地域(ミナスジェライス州)やマットグロッソドスル州など、新たな地域に柑橘栽培が広がっている。この産地の移動は、カンキツグリーニング病(HLB)の原因となるキジラミの効果的な制御を維持し、罹患した植物を排除することの重要性を際立たせている。

この問題に対処するため、Fundecitrus(柑橘類栽培防衛財団)はこれらの地域で殺虫剤の試験を開始し、初期の評価では、キジラミが耐性を持つ一部の薬剤も有望な結果が観察された。Fundecitrusの研究者であるマルセロ・ミランダ氏は、この発見を非常に有望なものであると表現している。(以下「」は同氏の話)

「これらの地域の商業的果樹園ではキジラミの個体数が少ないため、非商業的果樹園や近くのギンバイカ(銀梅花)の木からサンプルを収集した。一般的に、他の地域で既に良好な効果が見られる系統の殺虫剤は、殺虫率が高いことが観察された。良い知らせは、ピレスロイド系とネオニコチノイド系の薬剤も有効性を示したことである。」

Fundecitrusは、これらの結果は、新しい産地の柑橘類生産者達がローテーションで使用できる殺虫剤の範囲が広がることを意味するとしている。

また、ミランダ氏は、作用機序の異なる少なくとも4種類の薬剤を使用し、園地で使用する前にその有効性をテストすることの重要性を強調した。「専門家は、ウェブ上にある当財団のキジラミ評価サイト(Avalia Psilideo)を通じて情報にアクセスできる。もちろん、各地域の当財団の農業専門家に相談することもできる。」

317. ペルー ブドウ輸出シーズン序盤の状況と見通し

[FreshPlaza 2024年11月29日](#)

ペルーの2024-25年度の生食用ブドウ出荷シーズンは、通常の時期に戻って予想通り開始された。

輸出業者セフコペルー社の統括マネージャーであるベンハミン・シヨニス氏は、「ペルーの昨年の出荷シーズンは予定より4週間早く始まり、特に国の北部で総出荷量が大幅に減少した。したがって、今シーズンを昨年と比較すると誤解を招く恐れがある。数字だけ見れば(これまでの出荷量は昨年同期に比べて)相対的に少ないが、これは昨年の出荷が早く始まったためである」と話す。(以下「」は同氏の話)

同氏は、今シーズンのお荷量は前シーズンと異なり6,400万箱を超えると予想している。「ほぼ確実だ。11月25日にダウンロードしたデータによると、これまでに出荷された2,100万箱のうち大部分は予想通り北部から来ている。大きな疑問は、北部が2022-23年度シーズンと同じ3,300万箱を再び達成できるかどうか、さらにその大量のお荷がいつまで続くかである。」

イカ県(中部地域)を見ると、今後数週間で大幅な増加が予想されるとシヨニス氏は説明する。「イカ県のお荷は始まったばかりで、第50週(12月上中旬)からは週に100万箱を超えるはずである。この地域は出荷のピークが拡大してきており、約8週間にわたって週に300万箱を超える可能性がある。今年、400万箱を超える週があるかも知れない。ペルー全体で週に500万箱を超えたことがあるのは1週間だけで、これは2022-23年度の第52週(年末)であった。」

輸出市場については、同氏は特にヨーロッパと米国での旺盛な需要に注目している。「ヨーロッパは昨年よりも好調で、それは現在のヨーロッパ向けのお荷量に反映されている。一方、中国市場は、昨シーズンの不調と、今年、1億2千万箱(昨シーズンは約8千万箱)がお荷される可能性のあるチリ産のサクランボとの激しい競争により、予想どおり軟調である。」しかし、同氏は米国が依然としてペルー産ブドウの主要市場であると明言する。

「毎週のお荷量の分布とペルーのブドウを特徴づける高い品質により、市場で妥当な価格を維持することができており、これは非常に重要なことである。ペルー生食用ブドウ生産者輸出業者協会(Provid)が発表した推定では、今シーズンの輸出量として7,800万箱が示唆されている。約30週間続くシーズンが始まってまだ約12週間であり、北部の干ばつが今シーズンの果実に与える影響については不確実な部分がある。あと3週間ほど待てば、より明確な状況が分かる。」

物事の無常 今年、水不足がイカ県よりもピウラ県(北部地域)に影響を及ぼした。「ピウラ県は主に天水に依存しており、イカ県は短期的にはそれほど変動しない地下水に依存している。イカ県の帯水層は長期的な課題に直面しており、解決策はすぐそこにあるのに、不可解なことにまだ実施されていない。」

シヨニス氏にとって、この地域の水資源管理の遅れは「業界全体の大失敗」を意味している。農産業の専門家である同氏は、イカ県の可能性を強調する。「イカ県は、生食用ブドウ、そしておそらく他の作物についても、世界で一番生産に適した場所であると言っても間違いではない。北部の水危機は、沿岸地域の様々な流域で水をより適切に管理するための警鐘としなければならない。」

同氏は、水の問題に加えて、物流の問題を指摘する。「冷蔵コンテナの潜在的な不足は大きな問題である。物流チェーンを理解するのは簡単ではないが、今日では以前はなかった複数の港があり、一方ペルーの輸出量に対して利用できるコンテナの数は十分でない。」

これらの課題にもかかわらず、同氏はペルーの農業部門のイノベーションの能力に自信を持っている。「ペルーは生食用ブドウの管理に新たな歴史を刻んだ。我々の条件は近隣諸国と異なり、特有の適応が必要である。これから起こるイノベーションは、SF映画から飛び出してきたようなものかも知れないし、必ずしもブドウ業界から生まれたものではないかも知れない。」(以下省略)

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

318. イタリア ブドウ品種の権利侵害に対する法的勝利

[FreshPlaza 2024年11月27日](#)

果樹育種のブルームフレッシュ社は、同社が権利を有する品種の侵害に関してイタリアで法的勝利を収めた。バーリ市(プーリア州)の裁判所は、権利を侵害している生産者に対し、第一審の判決が下される前でさえ、すべての違法なブドウの木を自費で取り除くよう命じていた。さらに、損害賠償の判決待ちの民事訴訟に加え、裁判所が任命した管理者が設置した封印の不遵守や産業所有権の侵害に対する刑事訴訟も何件か進行中である。

問題の農場の所有者は長い間、育種者に対する公の敵対者であると見なされてきた。彼らは、メディアを利用してイタリアの他の生産者に知的財産法を無視し、広範な違反を支持するよう促す一方で、違法な栽培と合法的な生産者と同等の支払いの回避によって生み出した多額の利益を誇示していたことでよく知られている。

裁判所は最終的な決定として、この生産者がブルームフレッシュ社の許可なしに植えたすべての違法な IFG ELEVEN (シュガークリスプ) の植物を取り除かなければならないと裁定した。これは、イタリアの農業界における知的財産権の尊重を回復するための重要なステップである。

本件は、この生産者がイタリアの裁判所で植物育種家に敗訴した2番目のケースであり、以前の試みでは独占禁止法を用いて知的財産権の基盤を損ない、育種家の権利を行使する能力に疑問を投げかけようとしたが、無駄に終わっていた。

ブルームフレッシュ社のホセップ・エステアルテCEOは、「この決定的な裁判所の判決と課せられた罰金により、弊社の品種の違法な栽培を目論んでいる人々に強力なメッセージが送られた。弊社の知的財産の侵害は重大な犯罪であり、これらの規制を無視する者に対しては断固とした法的措置を取り、彼らは今回と同様の結果に直面することとなる」と述べている。

すでに植物が撤去され、一連の処理が2024年12月に完了することになっており、これはイタリアの歴史上、果樹品種の無許可栽培に対して取られた最も重要な措置の1つである。

エステアルテCEOは続けて、「弊社のブランドが傷つけられることなく、正当な生産者達が我々に寄せる信頼と信用を維持することが最も重要である。弊社の知的財産権を守ることは、弊社だけでなく、正当な慣行の遵守によって品質の向上とイノベーションを推進する農業コミュニティ全体にとって非常に重要である」と語った。

同社は引き続き、潜在的な侵害がないか世界市場を監視するための警戒を怠らない。同社は、独占的な品種と商標を保護するため、法務チームを雇用し、定期的な評価を実施するなどの積極的なアプローチをとっている。

世界育種家連盟の創設メンバーである同社は、農産物業界における知的財産権の侵害を特定し、対処するための専門家のネットワークと協力している。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

319. ペルー 道路封鎖が生食用ブドウの輸出に影響

[FreshFruitPortal 2024年12月2日](#)

ペルーでは現在、非合法的な鉱山の労働者グループによる抗議活動により、主にアレキパ、ラリベルタ、イカの各県で何か所もの道路封鎖が発生しており、輸出用の生食用ブドウの輸送に影響を与えている。

ペルーのメディアによると、アレキパ、イカ両県の非合法的な鉱山の労働者達は、エネルギー鉱山委員会が鉱業合法化統合登録(Reinfo)制度の延長を承認しなかったため、「抗議行動を過激化する」と示唆した。さらに、アレキパ県の非合法的な鉱山の労働者達は、南米縦断高速道路での抗議活動休止の拒否を検討している。

ペルーの農産物輸出への影響を知るために、本サイト(Freshfruitportal.com)はペルー農業生産者協会(AGAP)のガブリエル・アマロ会長に話を聞いた。同会長は、この状況は一部の輸出用の出荷だけでなく、国内市場にも影響を与えていると述べ、影響を受けている主な品目は「生食用ブドウ、牛乳、ニンニク、タマネギ、ジャガイモである。このようなことは、既に2023年の輸出シーズンの最盛期に発生しており、深刻な結果をもたらした」と説明した。(以下「」は同氏の話)

同氏は、同協会としては今後数日の内に状況が解決することを望んでいるとして、「我々の商品が輸出できるよう、安全の確保を当局に要請している」と述べた。「我々は、国内市場向けと輸出用の両方の生鮮食品を通過させるように調整している。また、当局と共に代替ルートも探している。政府は直ちに道路の封鎖を解除させるべきであった。」同氏はさらに、大企業や中堅企業だけでなく、農産物輸出チェーンの一部である小規模生産者も影響を受けていると述べた。

同氏は当局に「自由な通行ができるよう憲法と法律の下で権限と機能を行使する」よう求めた。同氏は、ペルーには通行の自由と自由な企業があると付け加えた。「残念ながら、この種の振る舞いは他人の権利を尊重しておらず、道路を封鎖することで人々は物流や収穫の場で働くことができなくなるため、何百もの家庭にも影響を与えている。彼らはまた、輸出によって国に外貨を引き付けられず、経済発展を後押しできないことで、国全体に害を及ぼしている。」同氏は、「国内市場で品不足が発生し、価格が上昇し始めるため」これは消費者や家庭にも影響を与えていると結論付けた。

320. 中国山西省 シャインマスカットの品質は安定、供給は過剰

[FreshPlaza 2024年12月3日](#)

山西省運城宇鳳苑協同組合のレイ氏は、「シャインマスカットは、国内の様々な産地で栽培されており、それぞれに独自の特徴がある。中国山西省運城市では、シャインマスカットは8月末に成熟し出荷されるが、これは雲南省の産地とは時期が異なる。山西省のブドウは、比較的安定した味と糖度で知られている」と説明する。(以下「」は同氏の話)

「緑色ブドウの出荷期間は約1カ月続き、その後冷蔵保管される。これらのブドウは、貯蔵庫で良好な色と硬さを維持し、旧正月までに販売される予定だ。今年は、好天と果樹の成長により、生産量が10%増加した。ブドウのサイズ、品質、味は素晴らしく、重量が15グラムを超え、ブリックスが17に達する果粒が増えている。」

「シャインマスカットの栽培面積は拡大し続けているが、販売量はそれに比例した増加をしていない。市場は過剰な供給を吸収できず、多くの生産者が大きな損失を被っている。今年の産地価格は約4~6元/kgで、昨年半額に近い。また、売れ行きが鈍いことが、前年に比べて業者の熱意を弱めている。」(1元=約21円)

輸出について、レイ氏は今年の輸出価格は昨年よりも低いと指摘した。輸出の取引先はより慎重で、スポット買いの注文は量が減少している。「現在、緑色ブドウは新疆のホルゴス陸港を通じて陸路でロシアに輸出されている。弊社では輸出市場を拡大し、より多くの顧客を引き付けようと取り組んでいる。在庫量は十分で、いつでも注文に応じることができる。」(以下省略)

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

321. 世界の柑橘類主要輸出国の概要(2023年)

FreshFruitPortal 2024年12月5日

東南アジア原産の柑橘類の果実は、その豊かな風味、用途の多様性、さらに栄養的な価値のおかげで世界中に広まった。柑橘類は、文化や地域をつなぐ最初の交易ルートの主役であっただけでなく、今日では世界貿易の重要な柱となっている。柑橘類の輸出は地域経済を牽引し、世界中で高まる新鮮で健康的で持続可能な食品に対する需要に応えている。柑橘類は、ビタミンC含有量の高さ、食品業界での使用、及び持続可能な製品を求める市場の注目度の高まりにより、世界貿易において重要な役割を果たしている。

主要な輸出業者は、しっかりしたサプライチェーンを開発し、市場を多様化し、製品の品質と見せ方を改善する技術を採用している。柑橘類は単なる果物ではなく、多くの国において経済的な原動力であり、何千もの雇用を生み出し、地域全体を有力な産地として強化している。その影響は国境を越え、(柑橘類の生産や取引は)世界のアグリビジネスにおける技術革新、競争力、及び発展を表している。

スペイン: 生鮮柑橘類の輸出で世界をリード

主な品目: オレンジ、マンダリン、レモン

主要輸出先市場: ヨーロッパ、特にドイツ、フランス、英国

競争上の優位性: 高度な収穫後処理技術、欧州の主要市場への近さ、品質と持続可能性の認証
スペインは、世界の生鮮柑橘類輸出量の約25%を占めている。

南アフリカ

主な品目: オレンジ、レモン、マンダリン

主要輸出先市場: ヨーロッパ、中東、アジア

競争上の優位性: 北半球市場への季節補完性(季節が逆)、効率的な生産、高い品質

中国: 生産と輸出の巨人

主な品目: マンダリン、グレープフルーツ(ボメロ及びザボンを含む)、オレンジ、レモン。特にマンダリンとその種なし品種は、国際貿易で非常に需要がある。

主要輸出先市場: 東南アジア、ヨーロッパ、米国

競争上の優位性: 世界最大の柑橘類生産国であり国内消費と輸出の両方をカバー、その高度なインフラは世界市場での輸送と販売を促進、品種の開発と現代的な農法の進展

トルコ

主な品目: マンダリン、レモン、オレンジ

主要輸出先市場: ヨーロッパ、ロシア、中東

競争上の優位性: 競争力のある価格、ウンシュウミカン等の品目の生産量の増加

課題: 経済と気候の不安定性

エジプト

主な品目: オレンジ、レモン

主要輸出先市場: ヨーロッパ、ロシア、中東

競争上の優位性: 競争力のある価格、ヨーロッパへの地理的な近さ、農業技術の進歩

米国

主な品目: レモン、オレンジ、グレープフルーツ

主要輸出先市場: カナダ、韓国、日本

競争上の優位性: 認知された高品質ブランド(カリフォルニア州及びフロリダ州)、よく発達した輸出物流

課題: 高い生産コストと新興国との競争

メキシコ

主な品目: レモン(特にペルシャレモン(タヒチライム)とメキシカンレモン(メキシコライム))、オレンジ、マンダリン

主要輸出先市場：米国、カナダ、ヨーロッパ、アジア

競争上の優位性：最大の柑橘類消費国の一つである米国への地理的な近さ、国際市場で価値が高い品種の大規模生産、他の生産国からの出荷が難しい時期に世界市場へ供給できる収穫期

課題：南半球諸国(アルゼンチン、南アフリカ等)との競争、世界的な供給による価格変動

モロッコ

主な品目：マンダリン、クレメンタイン、オレンジ、レモン

主要輸出先市場：北米とヨーロッパ

競争上の優位性：ヨーロッパへの地理的な近さ、種無し品種の生産の急成長

課題：地中海地域での競争の激化

出典：[Fluctuante](#)

322. スペイン カキのシーズン終盤の供給が減少の予想

[FreshPlaza 2024年12月5日](#)

「暴風雨と洪水のため、シーズン終盤のカキの供給が減少すると予想している」

10月29日にスペイン東部を襲った激しい嵐は、バレンシア州に莫大な経済的損失をもたらし、カキの出荷シーズンはこの破壊的な気象現象によって最も影響を受けた。

バレンシア州の企業であるモロンド社のフェルナンド・マルティ氏は、「残念ながら、バレンシア州のカキ生産の大部分を担うアリベラ地域は、60～80%の損失という最も深刻な影響を受けており、これは11月中を通してカキの価格に影響を与えた。しかし、嵐は生産量の減少を引き起こしただけでなく、果実をより厳格に選別する必要があるため、収穫と選別に余分なコストを生み出していることも考慮に入れる必要がある」と言う。(以下「」は同氏の話)

「このため、11月のカキの市場価格は例年のように下がっておらず、12月の最後の2週間には価格が上昇すると予想される。」

「弊社の場合、カキの専門業者として、バレンシア州内の数カ所に生産が分散しているため、嵐の影響は限定的であり、12月から1月にかけてロホブリランテ品種のカキを取引先に提供できることを保証する。しかし、生産量が大幅に減少したため、ほとんどの業者は出荷シーズンが例年よりも早く終了すると予想している。」

「実際、11月の引き合いが非常に好調であり、一部の輸出業者が品不足のために12月中旬に出荷を終える可能性が高いことを考えると、今後数週間もまだ引き合いが強いだらう。」

当局が発表したデータは、バレンシア州を襲った嵐の並外れた強さを明らかにしている。実際、トゥリスの町の近くにある気象観測所では、わずか1時間で185ミリの雨が記録され、これはスペイン国家気象局により集中豪雨と定義されている60ミリの3倍であった。この数字は6時間で621ミリに達した。

「今シーズンの果樹作がひどく影響を受けたことには注意する必要があり、確かに一部の果樹園では樹体が被害を受けたが、それは例外的である。そのため、今シーズンの被害は主に非常に限定された地域の生産に影響を与えており、何か特別なことが起こらない限り、来シーズンは平常に戻るはずであることを市場に伝えることが重要だと考えている。」

「不幸な嵐にもかかわらず、当面の間、弊社では主力商品であるカキの事業を続ける。弊社では何年もの間、バレンシア州産のカキをヨーロッパや海外の消費者に届け、その消費を促進してきた。それらの消費者には、1月末までカキが出荷できることを知ってもらいたい。」

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

323. チリ 生食用ブドウのシーズンが始まる

FreshFruitPortal 2024年12月6日

チリ産の生食用ブドウの輸出が始まっており、業界の現状を知ることが重要である。Freshfruitportal.com (本サイト)が、農学者であり、コンサルタントであり、ウバノヴァ社の社長であるラファエル・ロドリゲス氏の話聞いたところ、同氏は「果実は全般的に順調で健全である」と述べた。アタカマ州では既に収穫が始まっており、同氏は「全体的に見て、産地は自然の秩序に従っている」と付け加えた。(以下「」は同氏の話)

チリは今年、生食用ブドウをシステムアプローチの下で米国市場に輸出する承認を得ており、この新しいプロトコルの下でアタカマ州から8千箱以上のブドウを出荷する。このプロトコルにより、果実の燻蒸処理が産地での検査に置き換えられ、チリの果実輸出に競争上の優位性がもたらされる。ロドリゲス氏は、「(このプロセスは)進展しており、機能している」と述べた。

国内の他の地域の現状について同氏は、バルパライソ州から南部にかけての出荷量が少なく、特に従来品種でそれが目立っていると言う。

業界が経験しているもう一つの肯定的な側面は水資源に関連している。「全国の水供給は十分であり、水が不足していた地域でも今シーズンは足りている。生育条件は全般的に、また特に果実の将来の状態を決定する開花期において、良好である。中南部地域では春が涼しく植物に良い影響を与えているため葉の状態が良好で、果実の状態も良くなると自信を持っている。」

市場 ロドリゲス氏は市場を分析し、米国市場に期待していると明確に述べた。これは、米国カリフォルニア州では今年の生産量が回復したものの、6月に熱波の影響を受けたため果実の生育が前進し、最終的な出荷量が予測よりもやや少なくなったためである。「(同州の出荷量は)おそらく9千万箱弱ではないか。」

同氏はさらに、これまでの在庫量について、昨年の同時期と非常に似ているとして、「市場は供給が不足して非常に引きが強く、ペルー北部の果実が米国産の在庫を補完する良い機会である」と述べた。チリについては、「需要の高い時期に市場に入荷し、これは我々の出荷シーズンの始まりとして良いことだ」と指摘した。

一方、ヨーロッパでも域内産果実の在庫が少なく、「そのため、市場は引き合いが強く、価格は従来よりも高くなっている。ペルーのほかブラジルと南アフリカもこの機会をある程度利用しており、チリにとっても良い機会になる。」

ロドリゲス氏は、年末には、米国とヨーロッパは生食用ブドウの消費が非常に良好に維持され、価格も改善するだろうと付け加えた。「イカ県(ペルー)のブドウからチリ産への移行を期待している。イカ県は昨年よりも出荷量が多いため、品質の良い果実が市場の需要を維持し、両国産の価格が保たれることを願っている。」

「果実の品質が安定的に高く、収穫と収穫後処理の取組みが改善している重要な供給国として、チリを強化する良い機会である。これは、米国、メキシコ両国のシステムアプローチの下で実施できることに加えて、果実の状態を改善し、果実の販売量と価格の両方を改善するのに役立つ。」

同氏は、今シーズンはチリのブドウの3分の2以上がライセンス制の品種であり、「取引先にとってチリの果実を扱うことがはるかに魅力的になっている」と説明した。

チリの生食用ブドウの課題 同社長は、「(第1に)栽培されるエコゾーンと品種が異なり、輸送時間も異なる果実が、それぞれ最適な熟度を見出し、良好な着荷状態と良い消費体験を保証するためには、」より良い成熟度指数を開発することが重要であると述べ、また、「(第2に)チリは収穫とポストハーベストの技術とプロセスの改善に引き続き取り組まなければならない」と説明した。

同氏は、「第3に、各市場が期待する相応しい品質の果実を出荷するという点で方針をしっかりと定めること、出荷量の見積もりをうまく行うこと、そして、うまく行っているかも知れない市場に過剰な供給を行うことで台無しにすることが無いよう取引先に常に情報を提供し続けることが重要である」と結論付けた。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

324. 中国 パートナーシップが合法的ブドウ栽培を支援し知的財産を保護

[FreshPlaza 2024年12月6日](#)

ブルームフレッシュ™社は、世界中の生食用ブドウ生産者に同社の品種のライセンスを供与し、技術、販売、品質及び法的な側面での支援を提供している。2024年の6月と8月には、中国の雲南省と四川省で初の農場見学会を開催し、中国のライセンス供与先(ランセンシー)候補者達に生食用ブドウの品揃えを紹介した。

同社は現在、中国での新たな主要ランセンシーとして、煜謙(上海)農業科技発展有限公司、深圳百果園種業有限公司(パゴダ社)、川高(広州)農業有限公司及び果雲科技有限公司(フルッタクラウド社)を関係者に紹介している。これらの組織は、中国全土のより多くの生産者が保護された植物品種のライセンスを取得する機会を開く。

ブルームフレッシュチャイナ社の総経理(執行役員)であるデビッド・スミス氏は、「弊社は新しい主要ライセンスと協力することで、弊社だけでなく、生産者や弊社が営業するコミュニティにも利益をもたらすトリプルウィンが実現することを目指している。それにより、中国全土の生産者が、弊社の世界中のライセンスが長年にわたって享受してきたのと同じ利益にアクセスできるようになる」と述べている。

スミス氏は権利侵害に関しても確固たる姿勢を示し、「弊社はライセンスとともに、侵害に対して断固たる措置を講じ、合法的に弊社の品種を植える人々の権利を保護することに引き続き取り組む」と述べた。

同社の知的財産とライセンスの利益を保護するために、同社は権利を有する品種や商標を無断で使用している苗木業者や生産者に対して法的措置を講じており、行政措置、家宅捜索、民事訴訟、インターネット上の削除手続き等を開始している。過去2年間に、雲南省、江蘇省、陝西省、河北省、広東省で、違反者に罰金が科され、違法なブドウの木が除去が命じられる等の執行手続きを成功裏に完了した。

同社は、権利を有するブドウ品種「IFG Six」(商標名「スイートサファイア」)の植物品種育成者権を特に重視しており、ライセンス無しでこの品種を栽培している生産者や種苗業者を引き続き取り締まっている。侵害者は、盗んだ知的財産を通じて不法に利益を得、知的財産権の使用に対して支払いを行った正当なライセンスに対して不公正な競争を引き起こす。

権利を侵害した質の悪い果実は、認可された高品質な果実の市場に悪影響を及ぼし、合法的な生産者が得る価格に影響を与える。侵害者は、認定された植物材料や、技術サポート及び品質保証システムの利益を享受できない。権利侵害の果実の品質は、同社が定めるライセンスを得た果実の仕様と一致しないため、消費者を欺くことにもなる。

ブルームフレッシュ社は中国で、16の生食用ブドウ品種の育成者権と多くの登録商標を獲得している。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

325. 米国ワシントン州 リンゴのシーズン後半は一部の品種で増収

FreshPlaza 2024年12月6日

ハニークリスピーやガラなど、ワシントン州の早生品種のリンゴの供給量は、昨シーズンに比べて少ない。暑い夏は収穫量と品質に影響を与え、出荷率を低下させた。2023/24年度シーズンは供給過剰と低価格の状況にあったため、出荷量の減少は生産者に安堵感を与えた。しかし、生育期間終盤の良好な天候条件により、一部の品種では状況が変わり、当初の予想よりも出荷量が多くなった。L&M社のダン・デイス氏は、「素晴らしい天候条件のおかげで、グラニースミス、ふじ、ピンクレディー、コズミッククリスピーなどの晩生品種が樹上に長く留まって肥大を続け、色付きも大変良くなった」と話す。これらの品種はすべて堅調な作柄で、今後数カ月の間、絶好の小売の機会を提供する。(以下「」は同氏の発言)

価格

懸念されるのは、晩生品種がワシントン州のリンゴの総出荷量の約60%を占めていることである。その収量が高くなると、全体の生産量に大きな影響を与える。現時点では、生産者は幸運に恵まれ早生品種のリンゴの価格が昨シーズンよりも高くなっている。これらの価格は収量の低下を埋め合わせるほどには高くないが、一部の荷動きを阻害する水準にあるという懸念がある。「我々は、リンゴの荷動きが止まらないようにするため、適切な価格設定について小売業者と話し合っている。店頭で他の農産物ではなくリンゴを手取るよう人々にインセンティブを与えることが重要である。」

需要

感謝祭の需要増加はリンゴ業界を後押ししたか? 「荷動きは良かったが、もっと活発でもよかった。今年の感謝祭は11月の末と遅かったので、売上が少し停滞する週があった。今週は通常に戻ることを願っている。」

国内の停滞の一部を輸出で補うことができたが、今後の潜在的な関税を考慮すると懸念があるのも無理はない。「以前の追加関税の一部が撤廃され、インドなどの特定の市場へのアクセスが回復したため、業界は現在、輸出量を再度積み上げている。」レッドデリシャスなどの一部の品種は、国内市場ではあまり好まれないが、世界の別の地域の消費者には人気がある。「大きな可能性を提供してくれるので、これらの輸出市場の存在は非常に重要である。」

しかし、トランプ次期大統領が就任する1月に何が起こるかは不透明である。関税が(再)導入された場合、それは大きな損害を与える可能性がある。アジアへの輸出が米国の産業にとって重要であるだけでなく、中南米も主要な市場である。「メキシコは弊社の主要な貿易相手の1つであり、現在はこの市場への良好なアクセスを享受している。」(以下、デイス氏の着任について省略)

執筆者: マリーケ・ヘムズ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

326. 世界のブルーベリー生産量は増加するも輸出量は12%減少

FreshPlaza 2024年12月6日

2023年の世界のブルーベリー産業の栽培面積は26万7千ヘクタールに拡大し、前年の24万9千ヘクタールから7.23%の増加となった。この成長傾向は過去数年間一貫しており、国際ブルーベリー機関(IBO)のデータに基づくFluctuante(情報サイト)のレポートによると、2021年には23万7千ヘクタール、2020年には21万9千ヘクタール、2019年には20万1千ヘクタールの栽培面積が記録されている。中南米諸国がブルーベリー栽培の主要地域として浮上り、2023年には世界の総栽培面積の42.32%に当たる11万3千ヘクタールを占め、次いでアジア・太平洋地域、ヨーロッパ、中東、アフリカとなっている。

2023年はまた、世界中で合計177万9,545トンという大きな生産量を記録した。中国、米国、ペルーが上位3カ国で、上位10カ国が世界のブルーベリー生産量の88%を占めた。中国だけで総生産量の32%を占め、次いで米国が16%、ペルーが13%であった。(下線部は出典に基づき訳者が補足)

しかし、世界のブルーベリー輸出は、主要輸出国に影響を与えた気候変動の問題等により、2023年には前年の85万トンから12%減の74万8千トンへと低下した。この減少にもかかわらず、ペルーは世界の総輸出量の28%を占めて世界最大のブルーベリー輸出国としての地位を維持し、チリ、カナダ、スペインがそれに続いた。

輸入では、2023年の総輸入量は82万2,917トンに達した。米国とオランダが合わせて総輸入量の48%を占め、最大の輸入国であった。米国への主な供給国はペルー、カナダ、メキシコ、チリ等で、欧州連合(EU)への主な供給国はペルー、スペイン、モロッコ、オランダであった。

出典: [Blueberries Consulting](#)

327. フィリピン パイナップル輸出が急増

FreshPlaza 2024年12月9日

フィリピンのパイナップル輸出は中国をトップ市場として急増

フィリピンではパイナップル産業が好転しており、特に最大の市場である中国への輸出が好調である。フィリピンは2023年に20万トンのパイナップルを中国に輸出し、中国のパイナップル輸入市場で支配的な地位を確保した。この拡大は、業界の輸出能力を強化することを目的とした政府の強力な政策によるものである。

フィリピンのパイナップル輸出額は、2023年に2億5,500万米ドルに達した。2024年上半期の輸出額はすでに1億9,300万米ドル近くに達しており、健康的な食品に対する世界的な需要が高まる中、継続的な増加傾向を示している。中国が最大の輸出先で総輸出額の40%以上を占めており、日本、韓国、アラブ首長国連邦、スーダン、ニュージーランドも主要な市場である。フィリピン産パイナップルの主な輸入業者は、伊藤忠商事、ドール(上海)果実野菜貿易、ライオンキングサプライチェーンマネジメント社等である。

ほとんどの輸出は産地の生産者によって行われており、フィルパック社、ドールフィリピン社、マウントキタンガラド農業開発会社が主要な輸出業者である。フィリピンは、独特の地理的優位性と生産コストの低さの恩恵を受けており、これらがパイナップル輸出の継続的な成長と成功を支えることが期待されている。

出典: [Tradecouncil](#)

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

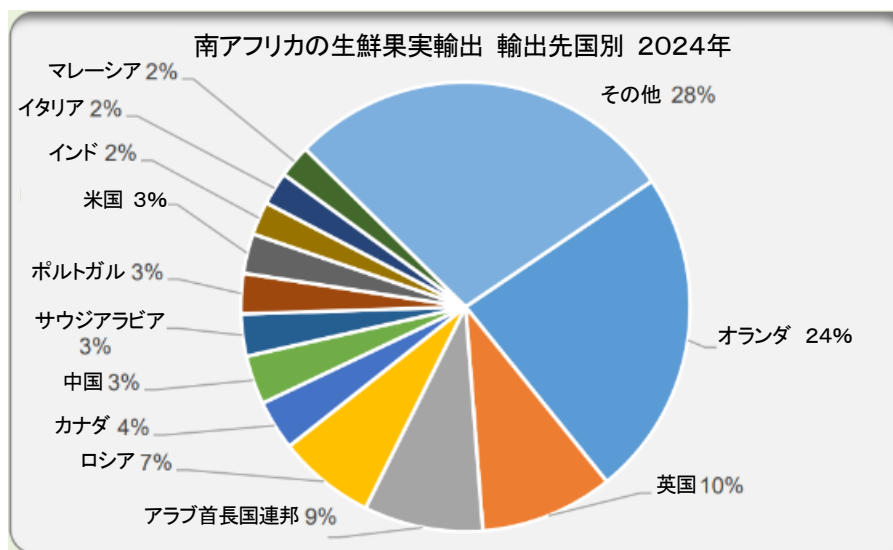
328. 南アフリカの果実輸出が回復

Fruit and Vegetable Facts 2024年12月9日

1/3がEU向け、1/4がオランダ向け 南アフリカの果実輸出は、2023年に減少した後、今年はわずかに回復した。今年の輸出量は417万トンで、2023年より2%多いものの、過去最高であった2022年の425万トンよりも2%少ない。南アフリカの果実輸出の3分の1はEU27カ国向けであり、オランダは群を抜いて最大の買い手である。EUとオランダへの輸出は今年、史上最高の水準に達すると見られる。通常年間輸出量全体の95%以上が実現する10月までの数字は、今年98万5千トンの南アフリカ産果実がオランダに輸出されたことを示している。

オランダへの記録的輸出 オランダは、南アフリカの果実の最も重要な買い手である。前述のように、2024年には98万5千トンが輸出されたが、2023年は92万8千トン、2022年には94万5千トンであった。2019年には64万2千トンであった。南アフリカの果実総輸出量の4分の1はオランダ向けである。英国は、2024年に40万トンと大きく引き離されて2番目の買い手である。この数字は2023年とほぼ同じであるが、近年に比べると少ない。アラブ首長国連邦(UAE)とロシアがこれに続き、それぞれ35万7千トンと29万2千トンが輸出された。UAEへの輸出は2023年に比べてやや減少したが、ロシアへの輸出は史上最高を記録した。

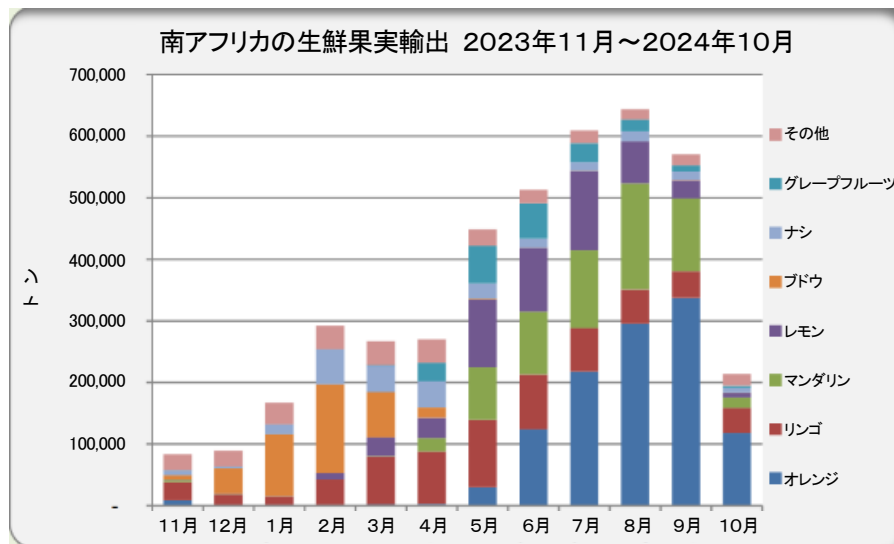
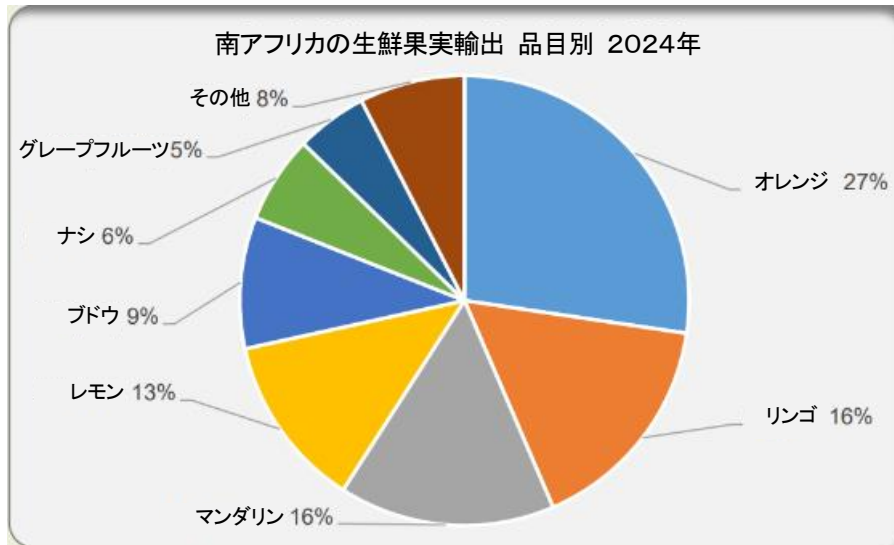
カナダは2024年に史上最高の15万トンの輸出でこれに続く。一方、中国向け輸出は大幅に減少した。サウジアラビアへの輸出は2024年に一部回復し、12万6千トンに達した。ポルトガルへの輸出は12万1千トンとわずかに減少し、米国が11万9千トン、インドが10万トンでそれに続いた。



東南アジアへの顕著な輸出 地域別では、EU27カ国が依然として最も重要な輸出先であり、2024年には全体の3分の1にあたる140万トンが輸出され、過去最高の数字となっている。2019年には、この数字は100万トン未満であった。東南アジアは僅差で2位の輸出先地域であったが、2024年の輸出は6%減の66万5千トンとなった。対照的に、中東への輸出は過去最高の66万2千トンに成長した。

オレンジは主要品目だが輸出は減少 オレンジは依然として南アフリカの最も重要な果実輸出品である。しかし、輸出量は2020年と2021年の約130万トンから2024年には114万トンに減少した。リンゴは2番目に多い品目で、2024年には67万6千トンが輸出され、2023年に比べ10%以上増加した。南アフリカ産リンゴのオランダ向け輸出は少なく、2024年には3万トン未満であった。約8万トンを入力する英国が主要市場であり、次いでアラブ首長国連邦が4万3千トンで、そのほかインド、バングラデシュ、ナイジェリアが輸入している。

マンダリンは3位にランクされ、大幅な成長を遂げている。2024年には約65万トンが輸出された。レモンがそれに続くが、2024年の輸出量は52万トンで以前よりも少ない。南アフリカのブドウ輸出は、2023年に落ち込み、その後急激に増加したが、それでも2022年の数字には達していない。その他の成長している輸出品目は、アボカド、ブルーベリー、マンゴー等である。



アボカドの70%がオランダ向け 南アフリカのアボカド輸出のうち、70%がオランダ向けである。オランダへの輸出の割合が高いその他の品目は、ブドウ(全体の50%)、スモモ及びアンズ(45%)、モモ、キウイ(35%)等である。

輸出シーズンのピークは5月から9月 5月から9月にかけて、南アフリカは毎月40万トン以上の生鮮果実を輸出し、7月と8月には60万トン以上でピークに達する。5月の輸出品目は、リンゴ、レモン、グレープフルーツが中心である。この時期には、大量のマンダリンも輸出される。6月にはオレンジの出荷シーズンが始まり、10月まで続く。1月と2月の輸出はブドウが中心である。

輸出の3分の2以上がケープタウン港経由 主要バイヤーへの輸出の大部分はケープタウン港を経由している。2024年に南アフリカが輸出した生鮮果実420万トンのうち、288万トンがケープタウン港経由で出荷された。ポートエリザベス港が53万トン、ダーバン港が45万トンでこれに続いた。オランダへの輸出の80%、英国への輸出の90%はケープタウン港経由である。アラブ首長国連邦への輸出の半分もケープタウンを経由する。

執筆者: ヤン・ケース・ボーン

データ表(英語)は [Fruit and Vegetable Facts](#) を参照

原文(オランダ語)の翻訳に当たっては [FreshPlaza](#) の英文記事を参考にしました。

この記事の転載には [Fruit and Vegetable Facts](#) の事前承認が必要です。

329. ゼスプリ生産者はゴールドキウイの北半球での拡大を「圧倒的に」支持

FreshFruitPortal 2024年12月10日

ニュージーランドのキウイフルーツ生産者は、ゼスプリ世界供給計画(ZGS)の拡大を圧倒的に支持し、イタリア、フランス、日本、韓国、ギリシャで今後6年間、毎年最大420ヘクタールのゼスプリ™・サンゴールド™・キウイフルーツを追加で割り当ててを支持したと、同社はリリースで発表した。

生産者投票の結果は、今回生産者が支持した決議案を策定するためのゼスプリと業界の間での長期間にわたる議論を受けたものであり、これにより、競争の激化とこの分野の活発化が進む中で、ゼスプリが需要予測に沿って供給量を増やすことが可能となる。

ゼスプリのジェイソン・テ・ブレイクCEOは、この結果について次のようにコメントしている。

「我々をここまで導いてきた過程と今回の投票の結果は、生産者に十分な収益を提供するとともにこの競争の激しい分野でゼスプリのリーダーとしての地位を維持することに焦点を当てつつ、差し迫った問題に団結して取り組む我々の業界の能力を反映している。」

「ゼスプリ・キウイフルーツの見通しは明るい。私は2024年に取引先とともに多くの時間を市場で過ごしたが、彼らは我々の果実をもっと多く、そして一年中欲しがっている。この投票の結果は、主要市場の主な取引先への周年供給に向けて引き続き取り組み、より多くの需要を満たし、将来に向けてニュージーランドの生産者の収益確保を支援する上で極めて重要である。」

キウイフルーツ輸出規則の下では、生産者投票は、投票者の少なくとも75%の支持(投票者数及び出荷量割合による)を得る必要がある。この決議は、投票した生産者の90.6%、出荷量割合で93.29%が支持した。

「生産者投票が成功するための基準が高いため、最終的な集計結果はZGSに対する生産者の支持の強さを示す心強い兆候である。投票率は事業体数で約72%、出荷量で約85%に達しており、このプロセスに生産者がいかに関与しているかを示している。」

この結果は、ゼスプリにとって好調なシーズンの終盤に向かう中で発表された。今シーズンは、史上最高の1億9千万箱の収穫物が出荷され、11月の園地渡しの収益(OGR)が8月の予測と比較してほぼすべての品目で増加した。グリーンキウイと有機グリーンキウイのヘクタール当たりの予測収益は、収穫量の向上と力強い市場価値の維持を背景に、史上最高の水準にある。

サンゴールドの追加の栽培面積の割り当てと植栽は、2025年初頭に開始される。

決 議	投票者数	出荷量割合
生産者は、予測される需要が供給量を上回ることをゼスプリの理事会が毎年確認し、生産者に毎年報告することを条件に、イタリア、フランス、日本、韓国及びギリシャの合計で、今後6年間にわたり、サンゴールドキウイフルーツの栽培面積を毎年最大420ヘクタール追加で割り当ててを支持する。	賛成 90.6% (1,803票)	賛成 93.29%
	反対 9.40% (187票)	反対 6.71%
投票率	72.21%	84.36%

出典: ゼスプリ

330. 米国フロリダ州 オレンジ出荷量が33%減少の予測

FreshPlaza 2024年12月11日

米国農務省農業統計局が本日発表した2024-25年度のフロリダ州全オレンジ出荷量予測は1,200万箱で、10月の予測から20%減少した。このとおりになれば、昨シーズンの最終出荷量よりも33%少なくなる。

予測は、バレンシア種以外のオレンジ(早生、中生、ネーブル種)500万箱とバレンシア種のオレンジ700万箱で構成されている。比較のために8年間の回帰が用いられている。発表の中で、「平均」、「最小」、「最大」という用語は、ハリケーン「イルマ」の影響を受けた2017-18年度と、ハリケーン「イアン」及び「ニコレ」の影響を受けた2022-23年度を除く、過去10シーズンの数値を指す。

柑橘類の品目別出荷量及び予測出荷量 - 州別及び米国計

品目及び州	出荷量 ¹		2024-2025 予測出荷量 ¹	
	2022-2023 (1,000 箱)	2023-2024 (1,000 箱)	10月予測 (1,000 箱)	12月予測 (1,000 箱)
バレンシア種以外のオレンジ²				
フロリダ州	6,150	6,760	6,000	5,000
カリフォルニア州 ³	36,000	38,200	39,000	39,000
テキサス州 ³	570	690	400	400
米国計	42,720	45,650	45,400	44,400
バレンシア種のオレンジ				
フロリダ州	9,670	11,200	9,000	7,000
カリフォルニア州 ³	8,600	9,300	8,700	8,700
テキサス州 ³	560	490	450	450
米国計	18,830	20,990	18,150	16,150
オレンジ合計				
フロリダ州	15,820	17,960	15,000	12,000
カリフォルニア州 ³	44,600	47,500	47,700	47,700
テキサス州 ³	1,130	1,180	850	850
米国計	61,550	66,640	63,550	60,550
グレープフルーツ				
フロリダ州合計	1,810	1,790	1,400	1,200
赤肉系	1,560	1,550	1,200	1,050
白肉系	250	240	200	150
カリフォルニア州 ^{3,4}	4,500	4,300	4,200	4,200
テキサス州 ³	2,250	2,400	1,900	1,900
米国計	8,560	8,490	7,500	7,300
レモン³				
フロリダ州 ⁵	(NA)	(NA)	500	500
アリゾナ州	1,400	950	900	900
カリフォルニア州	25,800	24,600	26,000	26,000
米国計	27,200	25,550	27,400	27,400
タンジェリン及びマンダリン⁶				
フロリダ州	480	450	400	350
カリフォルニア州 ³	23,500	27,400	25,000	25,000
米国計	23,980	27,850	25,400	25,350

(NA)はデータなし

¹ 1箱当たりの正味重量(ポンド) オレンジ: カリフォルニア州 80、フロリダ州 90、テキサス州 85。グレープフルーツ: カリフォルニア州及びテキサス州 80、フロリダ州 85。レモン: アリゾナ州及びカリフォルニア州 80、フロリダ州 90。タンジェリン及びマンダリン: カリフォルニア州 80、フロリダ州 95。

² フロリダ州ではバレンシア種以外の早生品種(ネーブル種を含む)及びバレンシア種以外の中生品種。カリフォルニア州ではネーブル種及びその他の品種。テキサス州では早生品種及び中生品種。

³ 10月の予測を持ち越した。

⁴ カリフォルニア州ではボメロを含む。

⁵ 2024-25年度産から推計を実施。

⁶ タンジェロを含む。

バレンシア種以外のオレンジ： 500万箱

バレンシア種以外の予測出荷量は500万箱で、10月の予測から100万箱減少した。収穫時の最終的な果実のサイズは平均を下回ると予測される。現在の落果率は最大値を上回っており、収穫時にも最大値を上回ると予測される。バレンシア種以外の予測に含まれるネーブル種の予測出荷量は15万箱で、バレンシア種以外のうちの3%を占めている。

バレンシア種のオレンジ： 700万箱

バレンシア種の出荷量は700万箱と予測されており、10月の予測から200万箱減少した。現在の果実のサイズは平均的であり、収穫時にも平均的であると予測される。収穫時の落果率は、最大値を超えると予測される。

グレープフルーツ合計： 120万箱

全グレープフルーツの予測出荷量は120万箱で、10月の予測から20万箱減少した。このとおりになれば、昨シーズンの最終出荷量よりも33%少なくなる。

赤肉系グレープフルーツ：

赤肉系グレープフルーツの予測出荷量は105万箱で、10月の予測から15万箱引き下げられた。赤肉系グレープフルーツの収穫時の果実サイズは平均以上で、落果率は最大を超えると予測される。

白肉系グレープフルーツ：

白肉系グレープフルーツの予測出荷量は5万箱減の15万箱である。白肉系グレープフルーツの収穫時の果実サイズは平均を上回り、落果率も平均を上回ると予測される。

レモン： 50万箱

レモンの予測出荷量は10月の予測を持ち越し、50万箱とする。

タンジェリン及びマンダリン： 35万箱

タンジェリン及びマンダリンの予測出荷量は35万箱で、10月の予測から5万箱減少した。この予測数量には、タンジェリン及びマンダリンの認定されたすべての品種が含まれる。

信頼性

ユーザーが12月1日のフロリダ州の生産予測の信頼性を評価するのを助けるため、過去の実績に基づく統計的尺度である「二乗平均平方根誤差」(RMSE)が計算される。12月1日の生産予測と最終推計値の偏差を最終推計値に対するパーセンテージで表し、直近20年間の偏差の二乗の平均を計算すると、その平均の平方根が統計的な「二乗平均平方根誤差」となる。

レポート全文は[こちら](#)

331. ブラジル 2024-25年度オレンジ出荷量の最新予測は2億2,300万箱

[FreshFruitPortal 2024年12月12日](#)

ブラジルの柑橘類栽培防衛財団(Fundecitrus)は、サンパウロ州並びにミナスジェライス州の「三角地帯」(西部)及び南東部の柑橘類地帯(柑橘類ベルト)における2024-25年度のオレンジ収穫量(40.8kg/箱)を合計2億2,314万箱と予測する第2回改訂予測を発表した。

この数字は、9月に発表された第1回改訂予測(2億1,578万箱)より3.4%多いが、5月の最初の予測値(2億3,238万箱)より4.0%少ない。

Fundecitrusが集めたコメントの中で、農学技術者で同財団の事務局長であるジュリアーノ・アイレス氏は、この出荷シーズンは「完全に異例」であり、過去9回の作柄推計調査(EEC)のすべてと異なると強調した。同氏は、4回目の開花が非常に多く、2億2,314万箱のうち2,023万箱、すなわち総生産量の9.1%を占めた(当初の推定では7.1%)と述べた。

報告されているとおり、この4回目の開花の果実の多くは2025年1月から4月のオフシーズンに収穫され、最初の3回の開花による果実よりも重量が軽くなる(それぞれ161グラム及び126グラム)。

3月14日から4月26日にかけて2,560本のオレンジの木の葉を除去して実施された最初の調査では、4回目の開花で果樹1本当たり32個の果実が着果すると推定された。しかし、9月23日から10月25日の期間に追加の520本の果樹で実施された2回目の調査では、果樹1本当たりの着果数は54となることが示された。

遅い降雨が収穫に与える影響

4回目の開花の影響に加えて、10月と11月の大雨(過去の平均より85ミリ多い)が、すべての品種で果実の成長に貢献した。

しかし、この雨は遅すぎた。この地域では、11カ月連続で降雨量が平均を下回っていた。その結果、予想される平均果実重量は5月の169グラムから9月には155グラムに減少し、最新の推定では156グラムにわずかに増加した。

すべて(1回目~4回目)の開花による果実を対象に品種別に分析すると、9月の予測と比較して重量の増加を示した唯一の品種はペラオレンジ(Pera orange)であった。

アイレス氏によると、オレンジの総出荷箱数の第2回改訂予測は、主に落果率が18.50%から19%に増加したことにより、5月の予測を下回った。これは主に、カンキツグリーンング病や機械化された作業、特に剪定に起因するものとされている。

この落果率の増加に影響を与えるもう一つの要因は、4回目の開花による生産量が予想以上に多かったことである。これにより、収穫期間が例年に比べて長くなり、落果による損失が悪化する可能性があると考えられる。

レポート全文は [こちら](#)

332. 南アフリカ 生食用ブドウの出荷開始が遅れ、輸出は微増の予測

[The Grape Reporter](#) 2024年12月12日

南アフリカの2024-25年度の生食用ブドウシーズンが始まり、生産者は高品質な果実を期待しており、また新世代の品種の出荷が本格化することから輸出量は昨シーズンに比べて1%増加すると予測されている。

Freshfruitportal.com(本サイトの親サイト)が、南アフリカ生食用ブドウ協会(SATI)の販売開発・コミュニケーション担当マネージャーであるデネーン・エラスマス氏に話を聞いたところ、同氏はすべての兆候が平年並みのシーズンになることを示していると述べた。(以下「」は同氏の話)

「全国の出荷量は7,640万箱を中心に、最大で約7,870万箱、最小で約7,410万箱と予想される。この数字は、5年間の平均より6%多く、南アフリカが世界市場に十分な品質の果実を供給できる状況にあることを示している。」

SATIは、第48週(11月末)までに合計432万箱の輸出検査が行われたと12月6日までの週に報告した。これは昨年と同時期より30%少なく、シーズンの開始が遅れたことが原因である。また、第48週までに188万箱が輸出され、これは前シーズンの同時期に比べて29%少なかった。

輸出市場について、エラスマス氏は「2023/24年度シーズンの生食用ブドウの総輸出の77%を占めた主要市場である英国とEUにおいて、好ましい供給国としての南アフリカの地位を維持することがかねてより最優先事項の1つであり、現在もそうである」と述べた。

南アフリカは現在、世界の生食用ブドウ輸入国トップ20のうち16カ国にアクセスがあり、エラスマス氏によると、「引き続きこれらの市場に一貫した高品質の果実を供給することが最優先事項である。」

業界の課題

世界中の他の多くの生産者と同様に、南アフリカの生食用ブドウ生産者は、季節外れで変動する天候パターンに適応しなければならなかった。「SATIの中核的な機能の1つは、生産者が生産効率を改善し、季節外れの天候に適応するのに役立つ研究を主導することである。」

同氏はさらに、投入コストの上昇の影響を指摘し、「そのため、農場レベルの効率を常に改善する必要がある」と述べた。

「南アフリカの果実輸出業者が経験した物流上の課題は、広く認識されている。SATIは、トランスネット(運輸公社)の港湾ターミナルや国及び西ケープ州政府などの関係者とより緊密な関係を築くなど、これに対して積極的なアプローチを取っている。」その結果、業界とこれらの関係機関とのコミュニケーションに改善が見られ、同協会と関係機関は港湾の課題を解決するために進行中の取り組みを支援していると同氏は述べた。

SATIの最新の報告書によると、ケープタウン港は直近の時点で9基のSTS(荷降ろし用)クレーンのうち7基、30基のゴムタイヤ付きガントリー(RTG)クレーンのうち24基を稼働させていた。他の2基のSTSクレーンは今週中に稼働する予定であり、稼働できるRTGは2024年12月6日以降、28基に増加した。

同報告書は、1時間当たりの総クレーン稼働数(GCH)で計測した生産性は、昨年と同時期と比較して著しく増加し、第48週に計測されたGCHは、昨年同週の12に対して17であったと記述している。

業界の成長

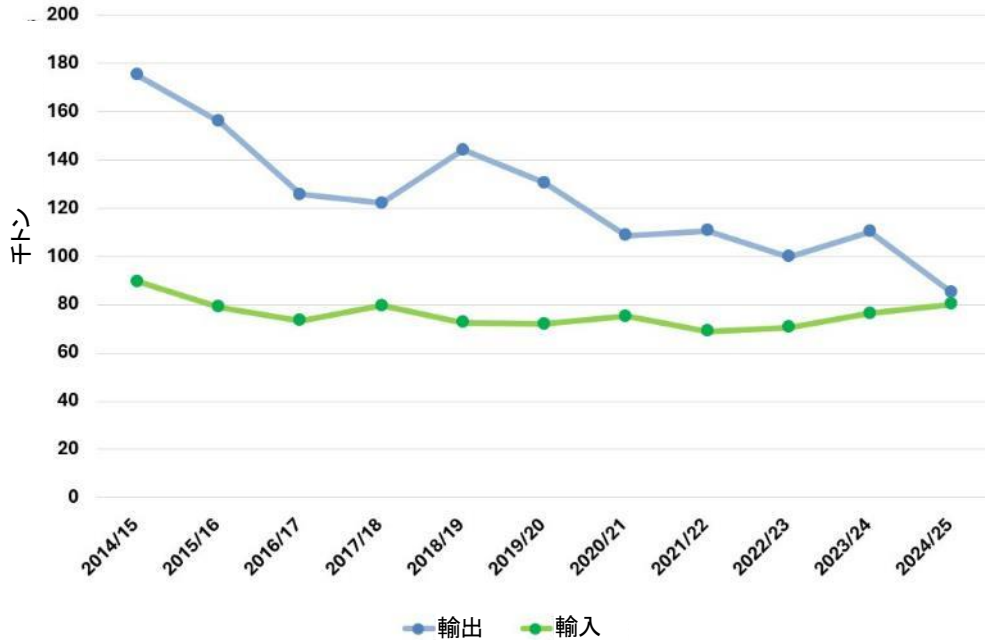
新たな市場機会についてエラスマス氏は、SATIにとって、市場の維持と同様に市場の開拓も重要であると指摘した。「我々は現在、南アフリカ産生食用ブドウの輸出を東南アジア、米国、カナダに拡大する機会を模索している。」

2023-24年度の出荷シーズンに南アフリカが輸出した上位5品種は、クリムゾンシードレス、スイートグローブ、スイートセレブレーション、プライム及びオータムクリスプであった。

333. 世界の落葉果実事情と市場動向(リンゴ、ブドウ、ナシ)

米国農務省海外農業局 2024年12月12日

米国の生鮮ナシ輸出は収穫量の低下により減少



米国の生鮮ナシの2024/25販売年度(2024年7月～2025年6月)の生産量は20%以上減少すると予測され、輸出量は1980年代以来の最低水準に落ち込むと予測される。米国のナシの生産量は、3つの生産州すべてで前年より減少したため、1967/68年度以来の最低である47万トンと予測される。米国は、過去10年間の大部分で世界第3位のナシ生産国にランクされた後、前年には第4位であったが、2024/25年には第6位に転落すると予想される。この歴史的に低い収穫量に制約され、米国の生鮮ナシの輸出量は8万5千トンと予測され、これは10年前の輸出量の半分に満たず、生鮮ナシの輸入量とほぼ同じ水準である。

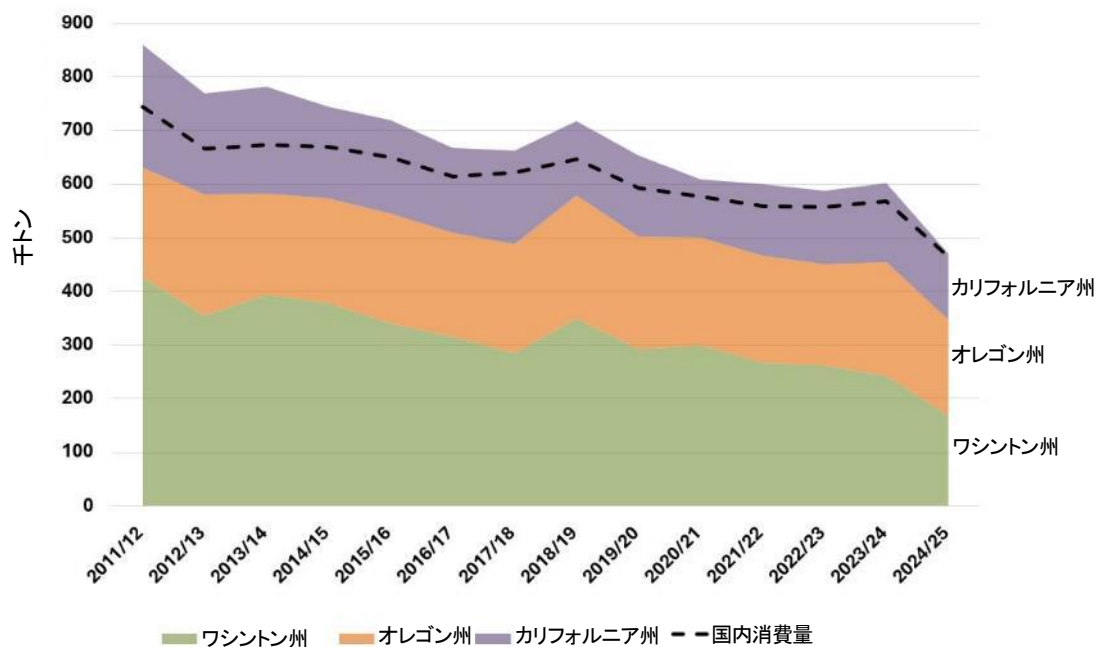
通常ナシの生産量が最も多いワシントン州の生産量は30%以上減少し、オレゴン州よりも少なくなると予想される。1月の低温によりナシの果樹が損傷し、さらに春の開花期まで寒さが続いたため、収穫量はさらに制約された。この悪天候は、10年にわたるワシントン州の栽培面積の減少傾向を悪化させた。オレゴン州の生産量は15%減少し、カリフォルニア州は17%減少すると予測されるが、これらも天候被害によるものである。

輸出可能な供給量の不足により、米国の生鮮ナシの輸出量は2万5千トン減の8万5千トンと予測され、これは1988/89年度以来の最低水準となる。販売年度の最初の3カ月間の輸出量は、2023/24年度の同時期と比較して40%以上減少した。ナシは繊細で長距離輸送が難しいため、通常米国のナシの輸出量の90%はカナダとメキシコに出荷される。米国は、これらの市場への最大の輸出国であり、メキシコでは約90%、カナダでは約50%の市場シェアを占めている。米国は2024/25年度に市場シェアを一部失う可能性があるが、他の供給国がその不足分を埋めることができるかどうかは不明である。

国内供給量が急激に減少しているにもかかわらず、他の国が輸出を大幅に増やすと予測されていないため、米国の輸入量は微増の8万トンと予測される。米国の高い価格は、通常は他の市場(欧州連合(EU)、ロシア等)に向けられる南半球からの供給を引き寄せる可能性があるが、過去10年間の米国の輸入量は、同様の供給ショックにもかかわらず、かなり安定している。中国は輸出可能な供給量を増やすと予測されるが、供給量の大部分がアジア品種のナシであり、ボスク、グリーンアンジュー等の米国で生産量が最も減少したナシ品種に容易に取って代わることができないため、米国への出荷量が大幅に増加する可能性は低い。昨年は、国内供給量の約30%が加工に割り当てられた。生鮮市場の価格が高く、ナシ缶詰の在庫が多いため、今年は生鮮市場で販売されるナシが増え、加工用の輸入は増えないものと見られる。輸入の伸びが限られ

る中、国産ナシの消費量は少なくとも過去40年間で最低水準になると予想され、加工仕向量を含むナシ消費量の長期的な減少傾向を加速させている。

米国のナシの生産・消費の見通しは引き続き減少傾向



<リンゴ>

世界の2024/25年度のリンゴ生産量は、EU、米国、トルコ、ロシアでの減少が中国の増加を上回ったため、約35万トン減の8,400万トンと予測される。輸出量は、米国とイランからの輸出量の減少が中国の輸出量の増加を上回ったため、10万トン弱の減少となる610万トンと予測される。

中国の生産量は、平年並みの生育条件により150万トン増の4,800万トンと予測される。引き続き多収性品種が古い品種に取って代わり、栽培面積の減少を埋め合わせている。輸出量は、輸出可能な供給量の多さと低い国内価格に牽引され、インドネシア、フィリピン、タイへの出荷が増加し、約10万増の100万トンと予測される。輸入量は、ニュージーランドの生産の回復により、2万トン近く増加となる10万5千トンと予測される。

EUの生産量は、最大の生産国であるポーランドの受粉不良と春の降霜被害により、110万トン減の1,100万トンと予測される。輸出量は、エジプトへの出荷量が昨年の6年ぶりの低水準から回復したため、生産量が減少したにもかかわらず95万トンの横ばいと予測される。輸入量は、生産量の減少を補うため、40%近く増加となる35万トンと予測される。

米国の生産量は、昨年の豊作から15万トン近く減少するものの、過去10年平均を上回る490万トンと予測される。米国農務省(USDA)農業統計局(NASS)は業界を調査し、2024年8月の作物生産レポートで米国のリンゴの生産量予測を発表した。生産量の減少により、輸出量は10%近くの減となる82万トンと予測される。輸入量は、40年間で2番目に低い水準である9万トンに微増すると予測され、これは冷蔵貯蔵されているリンゴの量が依然として通常よりも多いためである。

トルコの生産量は、冬の低温時間の不足、乾燥した天候及び灌漑用水の不足により、60万トン減の420万トンと予測される。これは、2022/23年度に記録的な水準に達した後、生産量が減少する2年目である。輸出量は、輸出志向の生産者が悪天候の影響をあまり受けなかったことから、微増の33万トンと予測される。

インドの生産量は、冬が短く、降雨に敏感な開花期と着果期の降雨量が少なかったことから収穫量が増大し、10万トン以上の増加となる260万トンと予測される。輸入量は、米国からの好調なスタートを含め、入荷量が引き続き昨年の記録を上回っているため、10%増の60万トンと予測される。国内消費量は、生産量の増加と大量の輸入に牽引されて300万トンと予測され、3年連続で記録的な水準となる。

南アフリカの生産量は、生産者が栽培面積を拡大する代わりに、信頼性の低い電力網を補うための代替エネルギー源と防電ネットへの投資を続けているため、ほぼ横ばいの130万トンと予測される。輸出量は、従来からのアフリカ市場及びヨーロッパ市場に加えて、インドへの出荷の増加により、3万トン増の71万トンと予測される。

チリの生産量は、冬の降雨量と低温積算時間が十分であったことから収量の増加が栽培面積の減少を埋め合わせ、ほぼ横ばいの92万トンと予測される。生産量に呼応し、輸出量は微増の53万5千トンと予測される。昨年、ブラジルは初めてチリ産リンゴの最大の輸出市場としてコロンビアを上回った。

ニュージーランドの生産量は、果樹園が2023年2月のサイクロン・ガブリエルの被害から完全に回復し、季節的な労働力の増加が収穫を助けると予想されることから、3万5千トン増で5年ぶりの高水準となる56万3千トンと予測される。輸出は12%増の38万トンと予測される。

<生食用ブドウ>

世界の2024/25年度の生食用ブドウの生産量は、中国、インド、米国での増収がEUの減収を上回ったため、約100万トン増の2,890万トンと予測される。輸出量は、ペルーと中国からの出荷の増加により、約40万トン増の390万トンと予測される。

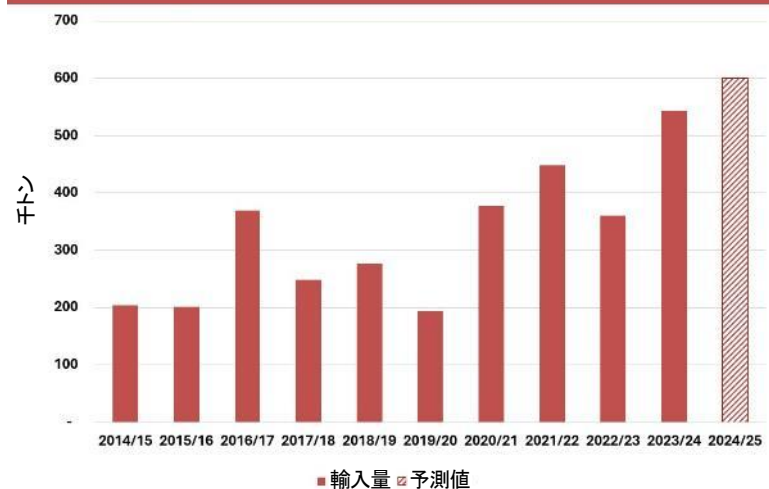
中国の生産量は、新品種の導入と良好な天候条件が収量の増加につながり、70万トン増の1,420万トンと予測される。輸出量は、輸出可能な供給量の増加に品質の向上と価格の低下が加わり、10万トン増の60万トンと予測される。輸入量は、南半球からの供給量の増加により微増の12万5千トンと予測される。

インドの生産量は、モンスーンによる適切な土壌水分と農業技術の向上により、10万トン以上の増加となる310万トンと予測される。輸出量は、インドルピーの下落により、近隣諸国やEUへの出荷量の増加が促進されるため、2万トン以上の増加となる33万5千トンと予測される。

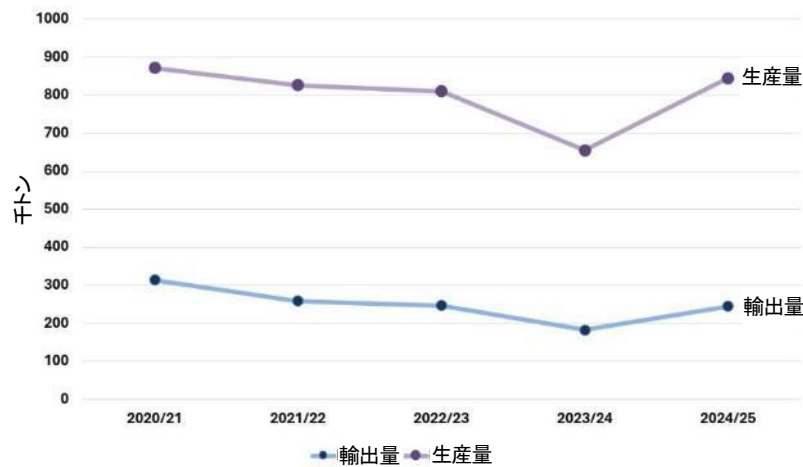
トルコの生産量は10万トン近くの増加となる200万トンと予測されるが、引き続きべと病が生産に悪影響を及ぼしているため、5年間の平均を下回っている。輸出量は、生産の部分的な回復により、微増の15万トンと予測される。

EUの生産量は20万トン以上の減少となる110万トンと予測され、これは少なくとも過去20年間で最低の水準である。イタリアでは、気温の変動と大雨によって作物が被害を受け、ギリシャでは夏の収穫期に干ばつが発生した。輸入量は63万トンに増加すると予測されるが、域内消費量は10%減の160万トンと予測される。輸出量は、輸出可能な供給量の不足によりわずかに減少し、2015/16年度以来の最低水準となる11万5千トンと予測される。

インドのリンゴ輸入量は2年連続で記録更新の予測



米国の生食用ブドウの生産と輸出は昨年の悪天候から回復



米国の生産量は、カリフォルニア州が昨年のハリケーン・ヒラリーによる被害から完全に回復するのに伴い、約20万トン増の84万5千トンと予測される。NASSは業界を調査し、2024年8月の作物生産レポートで米国の生食用ブドウの生産量予測を発表した。供給量の増加により、輸出量は35%増の24万5千トンと予測される。輸入量は、国内生産量の増加により3万トン以上の減少となる76万トンと予測されるが、米国は依然として生食用ブドウの最大の輸入国になると予想される。米国農務省は2024年7月に、チリの3つの地域が、臭化メチル燻蒸に替えてシステムアプローチにより生食用ブドウを米国に輸出することを承認した。これによって、より高品質なブドウが米国市場に輸出できるようになると見られる。

ペルーの生産量は、エルニーニョ現象により昨年の業界の成長が抑制された後、ペルー北部での生産が回復したことから、1万5千トン増の79万トンと予測される。供給量の増加により、輸出量は20%近くの増加となる62万トンと予測され、これは2022/23年度に見られた記録的な水準にほぼ匹敵する。

チリの生産量は、好天による収量の増加が栽培面積の減少による減収を上回り、4万5千トン増の72万8千トンと予測される。輸出量も同じだけ増加し、57万トンに達すると見込まれる。

南アフリカの生産量は、栽培面積の減少とより効率的な品種の成木化が釣り合うため、ほぼ横ばいの36万5千トンと予測される。生産量と同様、生産者らが引き続きケープタウン港での物流問題に直面しているため、輸出量は33万5千トンの横ばいと予測される。

オーストラリアの生産量は3万5千トン増の23万トンと予測されており、これは記録上2番目に多く、旺盛な発芽と良好な天候条件によるものである。輸出量は輸出可能な供給量の増加により26%増の13万5千トンと予測されるが、中国からの需要の減少により、2019/20年度に達成したピークを大きく下回る水準に留まる。

<ナシ>

世界の2024/25年度のナシの生産量は、中国での増収が米国の天候関連の減収を上回ったため、約40万トン増の2,590万トンと予測される。輸出量は、中国とトルコからの出荷の増加により、6万トン以上の増加となる190万トンと予測される。

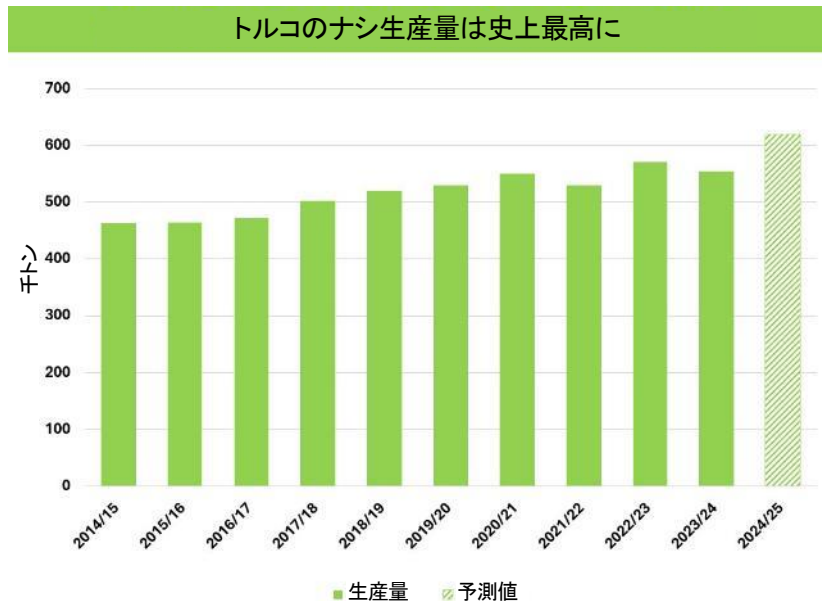
中国の生産量は、最大の産地である河北省の豊作が他の省の高温による減収を上回るため、35万トン増の2,020万トンと予測される。これは、収支の赤字、生産者の高齢化、果樹園から穀物生産への転換を目指す政府の政策による栽培面積の減少にもかかわらず、6年連続での生産量の増加となる。輸出量は、史上最高の国内生産量により、約10%増の66万トンと予測される。輸入量は微増の1万5千トンと予測される。

EUの生産量は、イタリアの回復による増収が、ベルギー、オランダ、スペインの天候や病気に関連する減収を上回るため、約6万トン増の190万トンと予測されるものの、これは過去5年間の平均を下回っている。輸出量は、輸出市場の重要品目であるオランダとベルギーのコンフェレンスナシの減少により、微減の29万トンと予測される。輸入量は、特にイタリアでの生産の回復により輸入ナシの需要が減少するため、12%減の16万トンと予測される。

アルゼンチンの生産量は、生産者が栽培面積を拡大できず、生産コストの上昇により業界の統合が続いているため、65万5千トンでほぼ横ばいと予測される。輸出量は微減の33万トンと予測されるが、これは5年平均を上回っている。

トルコの生産量は、良好な天候条件が記録的な生産につながり、6万5千トン増の62万トンと予測される。輸出量は、国内生産の回復により2万トン増の8万トンと見込まれる。しかし、業界は依然として国内市場に焦点を当てており、輸出されるのは生産量の13%に過ぎない。

南アフリカの実産量は、寒い冬と十分な灌漑用水が収量を改善する可能性が高いため、微増の54万トンと予測される。輸出可能な供給量の増加により、輸出量は1万トン増の28万トンと予測される。



米国の生産量は、3つの生産州すべてで劣悪な生育条件により60年近くで最小の収穫量となり、10万トン以上の減少となる47万トンと予測される。NASSは業界を調査し、2024年8月の作物生産レポートで米国のナシの生産量予測を発表した。歴史的に見ても少ない生産量であるため、国内消費量は46万5千トン、輸出量は8万5千トンに減少すると予測される。輸入は微増の8万トンと予測される。

チリの生産量は、良好な天候条件による収量の改善が栽培面積の減少を埋合せ、10年にわたる生産量の減少傾向を止める微増の20万7千トンと予測される。輸出量は、輸出可能な供給量の緩やかな増加により、5%増の11万トンと予測される。

<利用上の留意事項>

欧州連合の定義: 関税同盟の27カ国(国名省略)

HSコード: 貿易データは次のHSコードによる。

生食用ブドウ 080610、リンゴ 080810、ナシ 080830

販売年度:

- **リンゴ** 米国とメキシコの販売年度は8月から翌年7月。その他のすべての北半球の国は7月から翌年6月。南半球の国は分割表示の2年目として示される暦年。
- **ブドウ** 米国とメキシコの販売年度は5月から翌年4月。その他のすべての北半球の国は6月から翌年5月。南半球のアルゼンチン、オーストラリア、チリ、ペルー、南アフリカは、10月から翌年9月。ブラジルは、分割表示の2年目として示される暦年。一部の国は干しブドウ用と生食用を含むことがある。
- **ナシ** 北半球の国の販売年度は7月から翌年6月。南半球の国は、分割表示の2年目として示される暦年。

リンゴ(生鮮) 主要国の生産需給統計(千トン)

	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25 12月推計
生産量						
中国	42,425	44,066	45,973	44,500	46,500	48,000
欧州連合	11,480	11,935	12,266	12,728	12,090	11,009
米国	4,852	4,511	4,438	4,394	5,030	4,888
トルコ	3,620	4,300	4,493	4,968	4,750	4,150
インド	2,370	2,300	2,300	2,400	2,410	2,550
イラン	2,241	2,768	1,990	1,990	1,990	1,990
ロシア	1,779	1,540	1,641	1,742	1,844	1,600
南アフリカ	991	1,164	1,250	1,200	1,300	1,320
ウクライナ	1,115	1,279	1,129	1,129	1,129	1,129
ブラジル	983	1,297	1,047	1,047	1,047	1,047
その他	6,811	6,540	6,107	6,210	6,231	6,294
合計	78,666	81,700	82,634	82,307	84,321	83,976
国内消費量						
中国	41,487	43,033	45,051	43,821	45,677	47,105
欧州連合	10,659	11,175	11,448	11,931	11,396	10,409
米国	4,098	3,844	3,822	3,883	4,210	4,158
トルコ	3,412	4,013	4,096	4,572	4,432	3,821
インド	2,250	2,400	2,577	2,550	2,796	2,979
ロシア	2,455	2,259	2,216	2,094	2,150	1,910
イラン	1,423	1,812	1,083	1,444	1,081	1,305
ブラジル	1,028	1,250	1,142	1,165	1,277	1,187
メキシコ	1,017	973	899	1,042	1,161	1,117
ウクライナ	1,114	1,273	1,081	1,098	1,085	1,086
その他	9,189	9,097	8,994	8,497	8,609	8,495
合計	78,133	81,131	82,410	82,096	83,874	83,570
輸入量						
インド	194	377	448	360	544	600
イラク	405	406	455	341	452	370
欧州連合	378	325	331	238	256	350
ロシア	763	796	587	362	316	320
英国	320	330	328	278	328	310
ベトナム	233	278	299	302	315	305
メキシコ	257	260	266	232	345	300
サウジアラビア	195	174	179	199	214	220
アラブ首長国連邦	171	175	211	190	219	205
タイ	172	194	190	176	164	180
その他	3,338	3,061	3,206	2,718	2,759	2,713
合計	6,425	6,375	6,502	5,397	5,913	5,873
輸出量						
中国	1,042	1,102	997	774	911	1,000
欧州連合	1,199	1,084	1,149	1,035	950	950
米国	861	775	721	611	898	820
南アフリカ	509	589	625	607	680	710
イラン	818	956	907	546	908	685
チリ	660	644	603	469	530	535
ニュージーランド	400	356	341	309	340	380
トルコ	209	288	398	396	319	330
セルビア	206	185	165	110	157	160
モルドバ	217	150	253	123	127	130
その他	476	506	428	470	403	433
合計	6,596	6,634	6,587	5,450	6,224	6,133

注: 米国とメキシコの販売年度は8月から翌年7月。その他のすべての北半球の国は7月から翌年6月。南半球の国は分割表示の2年目として示される暦年。

ブドウ(生食用、生鮮) 主要国の生産需給統計(千トン)

	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25 12月推計
生産量						
中国	10,800	11,450	11,980	12,750	13,500	14,200
インド	2,280	2,300	2,900	2,850	2,950	3,068
トルコ	2,050	2,220	1,857	2,220	1,919	1,995
ウズベキスタン	1,607	1,695	1,761	1,761	1,761	1,761
エジプト	1,385	1,170	1,470	1,560	1,573	1,593
ブラジル	1,436	1,748	1,451	1,451	1,451	1,451
欧州連合	1,548	1,374	1,422	1,543	1,311	1,090
米国	905	871	826	811	655	845
ペルー	645	685	713	766	775	790
チリ	785	665	793	656	683	728
その他	1,302	1,293	1,294	1,305	1,327	1,347
合計	24,743	25,471	26,467	27,673	27,904	28,867
国内生鮮消費量						
中国	10,677	11,215	11,810	12,537	13,120	13,725
インド	1,803	1,830	2,285	2,254	2,326	2,413
トルコ	1,845	2,006	1,595	1,997	1,778	1,846
ウズベキスタン	1,487	1,566	1,537	1,523	1,642	1,611
欧州連合	1,872	1,766	1,854	1,945	1,784	1,605
エジプト	1,248	1,027	1,328	1,392	1,400	1,410
ブラジル	1,394	1,677	1,406	1,385	1,409	1,398
米国	1,252	1,227	1,281	1,310	1,265	1,360
ロシア	308	369	405	549	330	429
メキシコ	273	272	266	304	260	296
その他	2,159	2,212	2,202	2,083	2,150	2,235
合計	24,318	25,166	25,969	27,279	27,464	28,328
輸入量						
米国	672	670	713	746	793	760
欧州連合	501	572	604	574	599	630
ロシア	288	351	380	518	302	400
英国	275	269	271	258	267	265
カナダ	189	191	184	178	176	190
タイ	131	140	103	136	134	160
ベトナム	113	147	99	140	136	160
インドネシア	94	101	100	105	117	150
メキシコ	91	98	103	130	111	130
バングラデシュ	60	106	130	97	104	125
その他	1,006	931	905	795	682	722
合計	3,418	3,577	3,592	3,676	3,422	3,692
輸出量						
ペルー	400	468	540	622	529	620
中国	362	428	351	389	499	600
チリ	605	526	608	496	529	570
インド	185	267	275	283	313	335
南アフリカ	284	322	336	283	333	335
米国	325	314	258	247	182	245
メキシコ	224	207	196	209	238	220
エジプト	150	155	150	170	175	185
トルコ	205	215	264	227	142	150
ウズベキスタン	120	129	224	238	119	150
その他	680	639	540	581	475	482
合計	3,540	3,669	3,741	3,745	3,532	3,892

注: 米国とメキシコの販売年度は5月から翌年4月。その他のすべての北半球の国は6月から翌年5月。南半球のアルゼンチン、オーストラリア、チリ、ペルー、南アフリカは、10月から翌年9月。ブラジルは、分割表示の2年目として示される暦年。一部の国は干しブドウ用と生食用を含むことがある。

ナシ(生鮮) 主要国の生産需給統計(千トン)

	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25 12月推計
生産量						
中国	17,314	17,815	18,876	19,260	19,850	20,200
欧州連合	2,059	2,373	1,847	2,092	1,807	1,868
アルゼンチン	640	615	557	654	658	655
トルコ	530	550	530	571	555	620
南アフリカ	438	461	540	508	530	540
米国	653	610	601	587	602	470
インド	310	308	310	300	313	313
ロシア	290	247	240	235	230	230
日本	198	206	223	223	223	223
チリ	222	233	223	212	202	207
その他	586	483	563	575	508	526
合計	23,241	23,902	24,509	25,217	25,478	25,852
国内消費量						
中国	16,707	17,345	18,404	18,867	19,257	19,555
欧州連合	1,823	2,172	1,684	1,848	1,693	1,738
トルコ	479	477	436	482	495	540
米国	594	577	559	558	569	465
ロシア	436	446	422	455	425	430
インド	327	330	338	328	342	348
アルゼンチン	300	301	283	339	323	325
南アフリカ	212	214	253	267	260	260
日本	197	205	222	222	222	222
インドネシア	236	196	215	151	200	215
その他	1,754	1,527	1,628	1,649	1,610	1,662
合計	23,067	23,789	24,445	25,164	25,394	25,760
輸入量						
インドネシア	236	196	215	151	200	215
ロシア	194	241	183	220	195	200
ブラジル	138	121	133	159	165	160
欧州連合	172	175	186	140	182	160
ベトナム	133	97	101	96	131	140
英国	100	105	103	112	100	105
香港	76	81	77	80	90	85
ベラルーシ	119	112	78	108	75	80
メキシコ	84	73	72	80	82	80
米国	72	75	69	71	76	80
その他	509	473	503	481	477	521
合計	1,832	1,749	1,719	1,696	1,772	1,826
輸出量						
中国	619	480	482	410	605	660
アルゼンチン	340	315	275	315	335	330
欧州連合	407	377	349	384	297	290
南アフリカ	227	247	287	241	270	280
チリ	114	127	116	105	105	110
米国	130	109	110	100	110	85
トルコ	51	73	94	89	60	80
ベラルーシ	16	54	27	56	38	40
韓国	31	19	24	30	19	25
香港	7	6	4	9	6	7
その他	16	15	15	12	11	12
合計	1,959	1,821	1,784	1,749	1,856	1,919

注: 北半球の国の販売年度は7月から翌年6月。南半球の国は、分割表示の2年目として示される暦年。

334. 米国ワシントン州 2024年のリンゴとサクランボは正常化

[FreshPlaza 2024年12月12日](#)

ナシとコスト上昇の課題があるもののワシントン州の2024年の果実の収穫は正常化

ワシントン州果樹協会(WSTFA)は、悪天候の影響を受けた2年間の困難な年を経て、2024年のリンゴとサクランボの収穫が正常化したと報告した。WSTFAのジョン・デバニー会長は、サクランボの収量が前年比で12%増加したことを指摘し、生育条件が回復したことを強調した。この回復の前には、米国農務省(USDA)がワシントン州とカリフォルニア州のサクランボ生産者に災害救援を認めるほど収穫に深刻な影響を受けていた。2024年のWSTFA年次総会のテーマである「Navigating Adversity(逆境を乗り越える)」は、こうした困難の中でのこのセクターの回復力を反映したものである。

逆に、ナシの生産者は、1月の低温によりナシ収穫量の3分の1が失われたため、大きな後退を強いられた。一方、リンゴ生産は、約1億2,400万箱(40ポンド/箱)が収穫され、ほぼ平年並みの水準に戻った。これは、2022年の収穫量が著しく少なく、その後2023年に大豊作となったことに続くものである。これらの数量的な状況にもかかわらず、デバニー会長は、営農コストの上昇が生産者の収益の上昇を上回っていることに懸念を表明した。これらのコストには、燃料費、人件費、農薬費、消耗品等が含まれる。

一方、以前は関税によって制限されていたインド市場の再開は、リンゴの輸出を著しく押し上げた。さらに、ガラが引き続き同州で最も多く栽培されているリンゴ品種であり、グラニースミス、レッドデリシャス、ハニークリップ、ふじがそれに続く中、有機リンゴと新品種の生産が増加した。

出典: [Columbia Basin Herald](#)

335. 米国カリフォルニア州 カンキツグリーニング病検疫規制地域を拡大

[米国農務省動植物検疫局通知 DA-2024-48 2024年12月13日\(16日送信\)](#)

件名: APHISはカリフォルニア州のカンキツグリーニング病(HLB)検疫規制地域を拡大

宛先: 州、部族及び準州の農業規制当局担当官

以下は直ちに発効する。米国農務省動植物検疫局(APHIS)は、カリフォルニア州食品農業局(CDFA)と協力し、*Candidatus Liberibacter asiaticus* によって引き起こされるカンキツグリーニング病(黄龍病; HLB)の同州内の検疫規制地域を拡大する。拡大される地域は、オレンジ郡ミッションビエホ地域の約85平方マイルである。APHISは、ロサンゼルス郡の住宅地から採取された植物組織のサンプルからカンキツグリーニング病が検出されたためにこの措置を講じるものである。この拡大の影響を受ける商業的柑橘類園地は約0.4エーカーである。

APHISは、カリフォルニア州の検疫規制地域からの規制対象物品の州間移動に安全対策を適用している。これらの措置は、CDFAが2024年11月27日に定めた州内の検疫と並行して行われる。この措置は、HLBが米国内の非感染地域に広がるのを防ぐために必要なものである。

カリフォルニア州の検疫規制地域の具体的な変更内容は、[APHISカンキツグリーニング病ウェブサイト](#)に掲載されている。APHISは、おってこの変更を連邦官報に掲載する。(連絡先等省略)

(訳注: 1平方マイル=約2.59平方キロメートル、1エーカー=約0.405ヘクタール)

336. チリ ブドウ輸出に占める新品種のシェアが増加

[FreshPlaza 2024年12月16日](#)

フルタスデチリ*ブドウ委員会の2024-25年度シーズンの第2回輸出見通しは、予想輸出量を6,600万箱に維持し、新品種が当初の推定よりも2%多い総輸出の67%を占めて重要性が著しく高まると予想している。この改定予測では、出荷量は10月の予測よりも0.1%ポイント低いものの前年比で2.2%増加し、合計6,590万箱を超えることを示唆している。(*: チリ果実輸出業者協会(ASOEX)のブランド。対外的に組織名としても使用)

ブドウ委員会のイグナシオ・カバレロ事務局長は、この調整は、主要な輸出市場である米国をはじめとする国際的な消費者の好みに合った品種に焦点を当て、品種を更新するという業界の取り組みを反映していると指摘した。新品種の輸出は4,390万箱以上に達すると予想されており、これは前シーズンより10%多い。対照的に、従来からの品種は10%減少し、合計で2,190万箱強と予想されている。

輸出は、白(緑)ブドウと赤ブドウの新品種がそれぞれ2,110万箱及び1,860万箱を占め、初めて白ブドウの数量が赤ブドウを上回る。黒ブドウの新品種は、410万箱と予想されている。主な新品種は、赤ブドウのキャンディハート、ジャックサルート、アリソン等、緑色ブドウではスイートグローブ、オータムクリスプ、アッラ15、黒ブドウではセーブルシードレス、スイートフェイバーズ、スイートサファイア等である。

地域別では、アタカマ、コキンボ、メロポリターナ及びマウレの各州からの出荷が増加すると予想されており、マウレ州では72%の大幅な増加が見込まれる。対照的に、バルパライソ州とオイギンス州からの輸出は減少すると予想される。北米・中南米市場向けの輸出は微増、アジア・欧州向けは減少が見込まれる。

チリのブドウ委員会は、特にシステムアプローチの下でのパイロット事業が実施されている米国とメキシコで消費を促進し、最初の出荷を最適化することを目的として、販売促進戦略の最終的な検討を行っている。

出典: simfruit.cl

337. 南アフリカ 2024年のリンゴ、ナシの輸出見込み

[FreshPlaza 2024年12月18日](#)

2024年のリンゴの総輸出量は、前年比11%増の4,842万箱(12.5kg/箱換算)と予測される。ナシの輸出量は前年同期比8%増の2,006万箱(同)と予測される。これは、悪天候によってマイナスの影響を受けた2023年シーズンからの回復を示している。

ふじ品種は前年比2%減少した。ピンクレディーの出荷量は、着色不良の影響で10%減少した。EGVV(西ケープ州のエルギン、グラボウ、ヴィーブーム、ヴィリアスドープの各地域の頭文字)地域とセレス地域の年初来の検査件数は、前シーズンと比較して2%及び38%増加した(セレス地域については、昨年の雹の被害を踏まえるとこれは2022年度の水準に回復したことを示している)。極東・アジア地域は33%の市場シェアを占めており、依然として最大のリンゴの輸出市場である。特にインドでは、年初来のリンゴ輸出量が昨年の190万箱に対し300万箱(前年比55%増)となっている。その他の地域の市場シェアは、アフリカが23%、英国が15%で、中東が12%とこれに続く。年初来のヨーロッパとロシアへの輸出量は、前シーズンに比べて顕著な増加を見せている。

ナシ市場は、全体として引き続き前向きである。ヨーロッパは南アフリカの全輸出量の34%を占め、依然として最大の輸出市場である。前年同期比でも25%増加した。極東アジアと中東はそれぞれ20%と17%の市場シェアである。パッカムズライアンフ品種は収穫量が少なかったほか、春の雨の影響で赤みがかかった斑点やざらつきが生じた。フォレル品種とアバテフェテル品種の出荷量はそれぞれ19%及び26%増加した。夏のナシの輸出も昨年よりも好調で、ローズマリー、チーキー、セリーナ、コミスの各品種が大幅に増加した。

(以下、アンズについて省略)

Hortgroのレポート全文は[こちら](#)

338. チリの柑橘類事情(レモン)

米国農務省GAINレポート 2024年12月17日

これは米国農務省海外農業局サンチャゴ事務所(チリ)が作成した「柑橘類年次報告書」の概要及びレモンの項(他の品目は生産需給統計表のみ)を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

概要

当事務所はチリの2024/25販売年度(年度)のレモンの生産量を、栽培面積の増加と平年並みの収量を前提に、2.6%増の19万7千トンと予測する。レモン輸出量は3.3%増の合計9万3千トンと見込む。2024/25年度のオレンジ生産量は、栽培面積の増加と平年並みの収量を前提に、2.2%増の合計19万トンと予測する。これに伴いオレンジの輸出は3.0%増の10万3千トンと見込む。2024/25年度のマンダリン生産量は、栽培面積の増加により13.1%増の合計25万トンと見込む。同様に、マンダリンの輸出量は前年比14.1%増の21万8千トンと見込む。

<レモン>(レモンには貿易統計上レモンと同一区分のライムを含みます。)

表1 チリのレモン及びライムの生産需給統計

レモン/ライム(生鮮) 販売年度の始まり チリ	2022/2023 2023年4月		2023/2024 2024年4月		2024/2025 2025年4月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	8,081	9,310	8,150	9,926	0	10,400
収穫面積(ヘクタール)	8,000	8,500	8,050	8,800	0	9,000
結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
未結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計(千本)	0	0	0	0	0	0
生産量(千トン)	164	164	175	192	0	197
輸入量(千トン)	13	13	10	8	0	8
総供給量(千トン)	177	177	185	200	0	205
輸出量(千トン)	68	68	74	90	0	93
生鮮国内消費量(千トン)	99	99	100	100	0	101
加工仕向量(千トン)	10	10	11	10	0	11
総仕向量(千トン)	177	177	185	200	0	205

公式データは [PSDOnlineAdvancedQuery](#) からアクセスできる。

出典: 当事務所推計

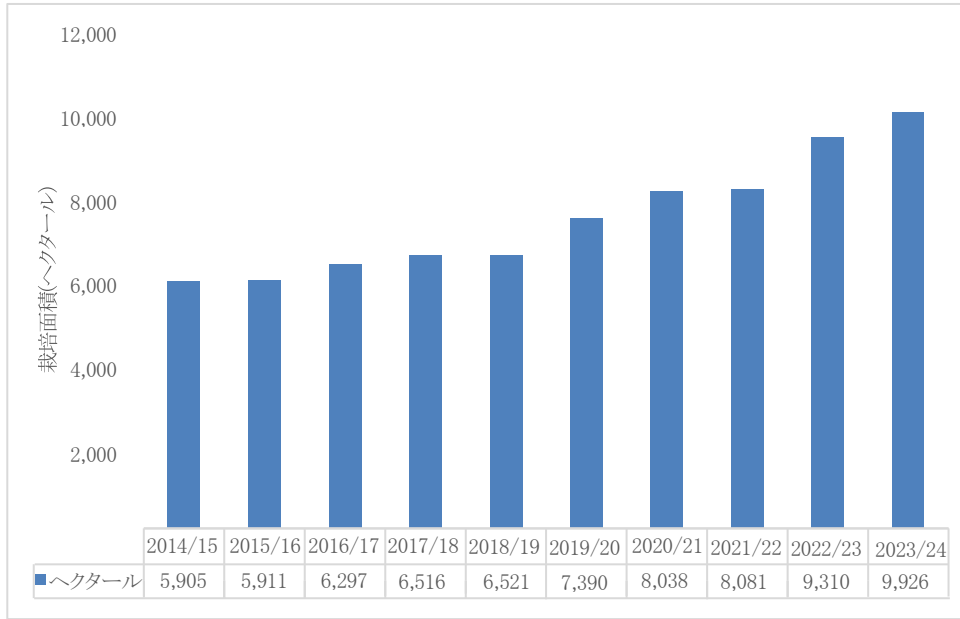
生産

当事務所は、2024/25年度のレモンの生産量を、栽培面積の増加と平年並みの収量を前提に、前年比2.6%増の19万7千トンと予測する。レモンの2024/25年度の栽培面積は、前年比4.8%増の10,400ヘクタールと予測する(図1)。生産者らは、レモンは価格が高く栽培に必要な水の量が少ないため、その生産と輸出がアボカドなど他の作物に代わる収益性の高い代替手段であることを見出しており、チリのレモン栽培面積は、過去10年間、一貫して増加してきた。

レモンの生産は、国の北部のコキンボ州から中南部のオイギンス州にまで及ぶ(地図1)。しかし、栽培面積の40%以上は、チリ中央部のメロポリターナ州にある(表2)。レモンの栽培面積は、2.1パーセント減少したオイギンス州以外のすべての生産州で増加した。

チリのレモンの収穫は4月に始まる。6月から9月にかけてのチリの冬には、国際価格が国内価格を上回るため、チリの生産者の大部分はレモンを北米、ヨーロッパ、アジアに輸出する。出荷量が減少し、国内価格が高い12月から3月までの夏季には、チリ産レモンは国内市場で販売される。

図1 レモンの栽培面積(ヘクタール)



出典: ODEPA(農業省調査政策局) 2024年

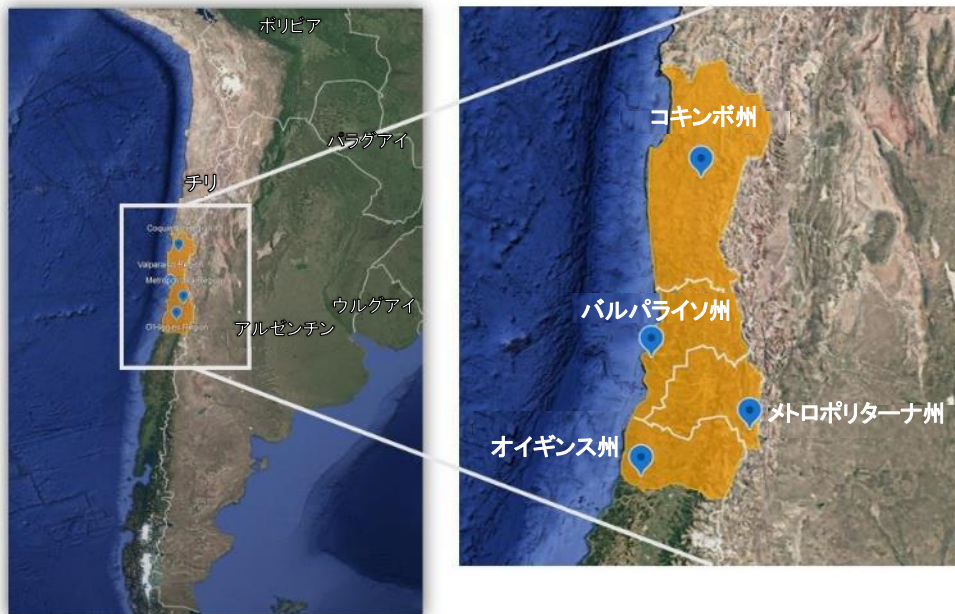
表2 州別レモン栽培面積 2023/24 年度(ヘクタール)

州	植栽面積(ha)	増減率*(%)	シェア(%)
コキンボ州	2,145	31.7%	21.6%
バルパライソ州	2,543	25.8%	25.6%
メロポリターナ州	4,010	21.4%	40.4%
オイギンス州	962	-2.1%	9.7%
その他の州	266	-	2.7%
合計	9,926	23.5%	100.0%

*栽培面積の増減は3年ごとに測定される。表示されたデータは最新の入手可能なものである。

出典: ODEPAのデータに基づく

地図1 柑橘類の産地



出典: Google Earth を用いて当事務所が作成

消費

当事務所は、2024/25年度のレモンの国内消費量を、人口の増加により1%増の10万1千トンと予測する。国内のレモン消費量は、商業的生産量の51%を占めている。生鮮レモンの消費量は、生のレモンを使用したサラダや飲料の消費量が増えるチリの夏の期間(12月～3月)にピークに達する。この期間には国内供給量が減少するため、レモンの消費需要をカバーする目的で輸入量が増加する。

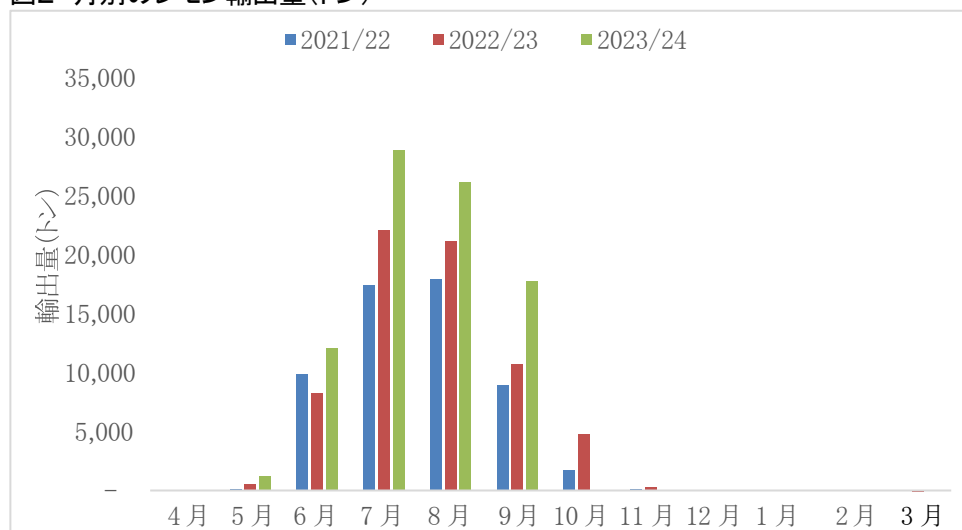
2024/25年度の加工用レモンの消費量は前年比10%増の1万1千トンと予測される。この加工量の増加は、生産量の増加によるものである。加工用のレモンは、果汁、エッセンシャルオイル、菓子用の濃縮物の製造に使用される。

貿易

当事務所は、2024/25年度の輸出量を、生産量の増加に伴い3.3%増の9万3千トンと予測する。チリ産レモンの最大の市場は米国である。2023/24年度(9月までのデータ)には、チリはレモン輸出量の65%を米国に出荷した(表3)。2023/24年度のチリ産レモンのその他の上位市場は、日本、韓国、オランダ等であった。2023/24年度(9月までのデータ)の輸出量は、メロポリターナ州とバルパライソ州で良好な天候条件により生産量が増加したため、前年比37.4%増加した。

チリでは、レモンの販売年度は収穫が開始される4月に始まる。輸出の大部分は毎年6月から9月の間に行われ、天候や市場の状況に応じて7月または8月にピークに達する(図2)。

図2 月別のレモン輸出量(トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC

表3 レモン及びライムの世界への輸出量(トン)

輸出先国	商品コード: 080550、レモン及びライム、生鮮または乾燥			年度初めから最新データまで(4月～9月)		
	2021/22(トン)	2022/23(トン)	変動率(%)	2023(トン)	2024(トン)	変動率(%)
世界	56,217	67,794	20.6%	62,709	86,173	37.4%
米国	31,222	41,672	33.5%	37,736	55,979	48.3%
日本	15,578	17,076	9.6%	16,656	18,420	10.6%
韓国	4,423	5,593	26.5%	4,978	7,439	49.4%
オランダ	901	1,634	81.4%	1,634	1,707	4.5%
イタリア	209	576	175.6%	576	432	-25.0%
スペイン	689	432	-37.3%	432	480	11.1%
オーストリア	0	288		288	599	108.0%
中国	1,558	124	-92.0%	99	74	-25.3%
ドミニカ共和国	54	97	79.6%	62	33	-46.8%
コロンビア	58	93	60.3%	74	65	-12.2%
その他	1,525	209	-86.3%	174	945	443.1%

出典: Trade Data Monitor, LLC

チリは2022/23年度に、1万3,200トンのレモンを輸入した。レモンの最大の供給先国はペルーで、ブラジル、コロンビア、米国がそれに続いた(表4)。ブラジルからのレモン輸入は、2020/21年度以降一貫して増加しており、2022/23年度の輸入量の30.6%を占めた。

表4 レモン及びライムの世界からの輸入量(トン)

輸入先国	商品コード: 080550、レモン及びライム、生鮮または乾燥					
	販売年度			年度初めから最新データまで(4月～9月)		
	2021/22(トン)	2022/23(トン)	変動率(%)	2023(トン)	2024(トン)	変動率(%)
世界	12,267	13,200	7.6%	5,645	5,798	2.7%
ペルー	8,567	7,837	-8.5%	3,575	4,040	13.0%
ブラジル	3,057	4,035	32.0%	1,264	1,182	-6.5%
コロンビア	500	1,177	135.4%	804	575	-28.5%
米国	142	149	4.9%	0	0	
その他	1	2	100.0%	2	1	-50.0%

出典: Trade Data Monitor, LLC

<オレンジ>

表5 チリのオレンジの生産需給統計

オレンジ(生鮮)	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2023年4月		2024年4月		2025年4月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
販売年度の始まり						
チリ						
栽培面積(ヘクタール)	6,362	6,702	6,300	7,198	0	7,300
収穫面積(ヘクタール)	6,200	6,200	6,150	6,500	0	6,800
結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
未結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計(千本)	0	0	0	0	0	0
生産量(千トン)	180	180	177	186	0	190
輸入量(千トン)	1	1	2	1	0	1
総供給量(千トン)	181	181	179	187	0	191
輸出量(千トン)	95	95	92	100	0	103
生鮮国内消費量(千トン)	75	75	76	76	0	77
加工仕向量(千トン)	11	11	11	11	0	11
総仕向量(千トン)	181	181	179	187	0	191

公式データは [PSDOnlineAdvancedQuery](#) からアクセスできる。

出典: 当事務所推計

<タンジェリン/マンダリン>

表9 チリのタンジェリン/マンダリンの生産需給統計

マンダリン/タンジェリン(生鮮)	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2023年4月		2024年4月		2025年4月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
販売年度の始まり						
チリ						
栽培面積(ヘクタール)	11,184	11,835	12,000	12,404	0	12,700
収穫面積(ヘクタール)	11,000	11,000	11,800	11,800	0	12,200
結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
未結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計(千本)	0	0	0	0	0	0
生産量(千トン)	268	268	242	221	0	250
輸入量(千トン)	1	1	1	1	0	1
総供給量(千トン)	269	269	243	222	0	251
輸出量(千トン)	236	236	211	191	0	218
生鮮国内消費量(千トン)	30	30	29	28	0	30
加工仕向量(千トン)	3	3	3	3	0	3
総仕向量(千トン)	269	269	243	222	0	251

公式データは [PSDOnlineAdvancedQuery](#) からアクセスできる。

出典: 当事務所推計

339. ペルーの柑橘類事情(マンダリン、タンジェリン)

米国農務省GAINレポート 2024年12月18日

これは米国農務省海外農業局のリマ事務所(ペルー)が作成した「柑橘類年次報告書」を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

概要

ペルーの2024/25年度(2025年4月～2026年3月)のマンダリン/タンジェリンの生産量と輸出量は、それぞれ2%及び4%増加し、生産量は57万トン、輸出量は22万5千トンと予測される。ラニーニャ現象の影響により気温が平均を下回り、生産性が向上する。2024/25年度の生鮮マンダリン/タンジェリンの国内消費量は、前年比1%増の32万トンと予測される。米国は、引き続きペルーの最大の輸出相手国である可能性が高い。

表1 ペルーのマンダリン/タンジェリンの生産需給統計

ペルー	推計値	推計値	予測値
表示年	2022	2023	2024
分割表示(販売年度)	2022/2023	2023/2024	2024/2025
販売年度の始まり	2023年4月	2024年4月	2025年4月
栽培面積(ヘクタール)	23,000	23,000	23,000
収穫面積(ヘクタール)	23,000	23,000	23,000
結果樹本数(千本)	9,200	9,200	9,200
未結果樹本数(千本)	0	0	0
果樹本数合計(千本)	9,200	9,200	9,200
生産量(千トン)	550	560	570
輸入量(千トン)	0	0	0
総供給量(千トン)	550	560	570
輸出量(千トン)	207	216	225
生鮮国内消費量(千トン)	313	314	315
加工仕向量(千トン)	30	30	30
総仕向量(千トン)	550	560	570

*注: ペルーの販売年度と米国の販売年度の間には1年のずれがある。例えば、ペルーの2025/26販売年度は米国の2024/25販売年度に相当する。データの継続性を確保するため、ペルーの2025/26販売年度は、このレポート全体を通して2024/25年度と記述する。

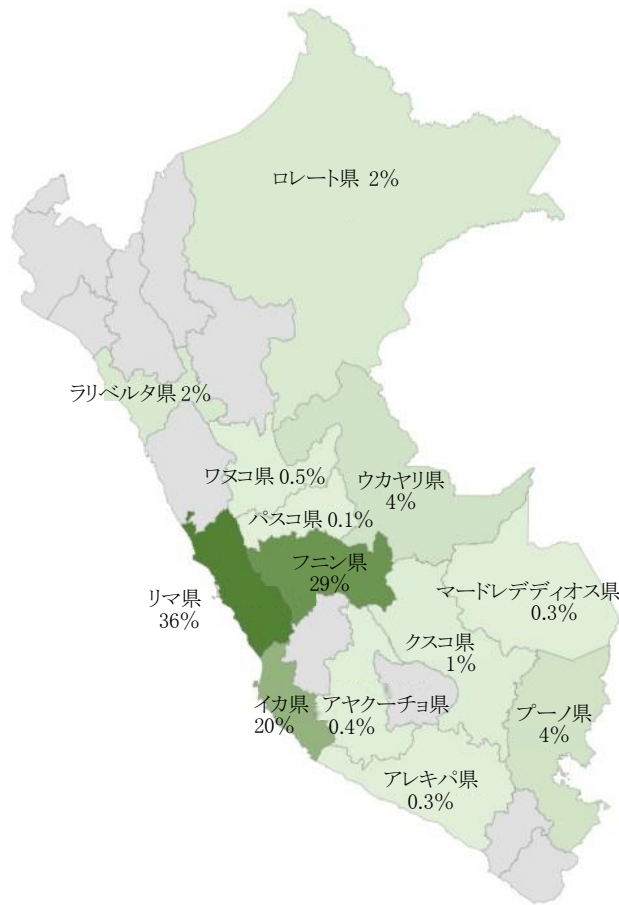
生産

2024/25販売年度(年度)(2025年4月～2026年3月)のマンダリン/タンジェリンの生産量は、前年比2%増の57万トンと予測される。ラニーニャ現象により、2024年12月まで涼しい天候条件が続き、2025年3月まで良好な生育条件が促進される。最低気温が華氏50度(摂氏10度)以下の涼しい天候は開花に良い影響を与え、最終的には3月の収量が増加する。悪天候の影響がなければ、生産量は増加すると予想される。

通常、ペルーの夏(2024年12月～2025年3月)は雨季であるが、沿岸地域(マンダリン/タンジェリンの主要産地)の降雨量は少ないと予想される。マンダリン/タンジェリンの生産量は増加傾向が続くと見られる。

公式データによると、マンダリン/タンジェリンの生産は主に13県(25県のうち)で行なわれている。沿岸地域は、亜熱帯気候と水利用の可能性(灌漑)により、総生産量の60%を占めている。ペルーの主なマンダリン/タンジェリン生産県はリマ(総生産量の36%を占める)、フニン(29%)及びイカ(20%)の各県である。

図1 ペルーのマンダリン/タンジェリン産地



ペルーではマンダリン/タンジェリンの生産が盛んで、世界市場に追いついて行くために新しいロイヤルティ品種を振興しようとしている。過去8年間で、マンダリン/タンジェリンの早生品種は、収益性と需要のより高いアボカド及びブドウ等の作物に置き換えられた。

ペルーのアマゾン盆地と高地での生産は主に国内市場向けであり、リマ県とイカ県の川の流域での生産は輸出志向である。リマ、イカ両県での生産は、砂漠的な条件(低い病虫害リスク、日較差の大きい気温)に加えて、主要港であるカヤオ港(リマ県)またはピスコ港(イカ県)へのアクセスの近さの恩恵を受けている。

出典: PROCITRUSのデータに基づき当事務所が作成

ペルーの品種は次のとおり。

ウンシュウミカン (Citrus unshiu)：三保早生、クラウゼリーナ、興津、尾張、プリモゾーレ

クレメンタイン (Citrus reticulata)：クレメンタイン及びクレメヌール

交雑種：フォルチューナ、カラ、ピクシー、ノヴァ

Citrus reticulata と Citrus paradise の交雑種のタンジェリン：マーコット、オルタニック、タンゴ

その他：ダンシー及びナドルコット。マルバセオ及びリオデオロもペルーで長い歴史があり、人気が高い。

図2 イカ県のマンダリン農園(2024年10月上旬撮影)



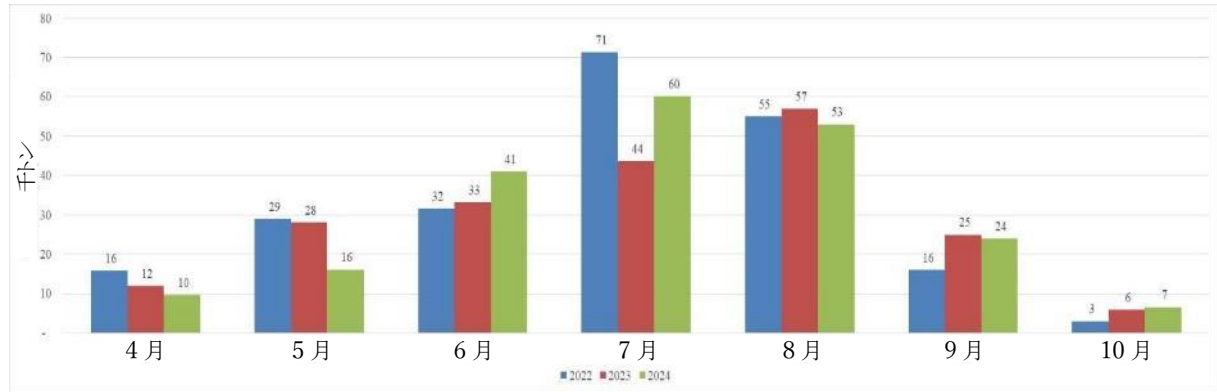
出典: 当事務所

輸出市場は、マーコット、タンゴ、プリモソール、クレメンタイン、オッリ等の皮を剥くのが容易な品種や種無し品種が大部分を占めている。ウンシュウミカン、プリモソール、クレメンタインは早生の品種と見なされ、マーコット、タンゴ、オッリはそれより遅い時期に収穫される。ウンシュウミカンは国内市場向けであり、プリモソールとクレメンタインは輸出されている。

2024/25年度の収穫面積は、前年と同水準の2万3千ヘクタールと予測される。業界関係者によると、マンダリンの栽培面積は、投資の不足、不透明な政治的見通し及び利益率の低さにより、前年と変わっていない。

ペルーでは年間を通じてマンダリン/タンジェリンが出荷されているが、主な収穫期は4月から10月までで、最盛期は6月から8月までである。公式データによると、タンジェリンの栽培面積は4,500ヘクタールと推定され、マンダリン及びその他の交雑種は1万8,500ヘクタールを占めている。タンジェリン(前回の半期報告書では「タンジェロ」)は、ペルーのマンダリン/タンジェリンの総栽培面積の15%を占めている。クレメンティーナ、ダブルマーコット、ウンシュウミカンはペルーで最も人気のある品種である。

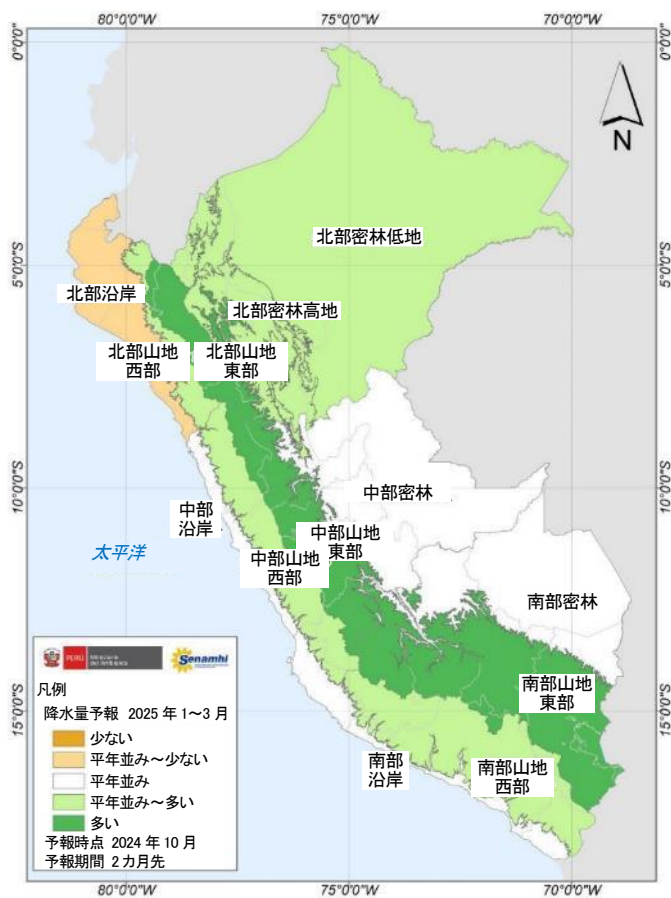
図3 ペルーの月別マンダリン/タンジェリン輸出量



出典: ペルー税関(SUNAT)

マンダリンは、地代と農場の運営費を別にして、年間6千〜7千ドルの投資を必要とする。これは、小規模生産者にとっては大きな財政支出である。公式データによると、ペルーには平均3ヘクタールで、主として国内市場にとどまっている小規模生産者が3千以上いる。収量は1ヘクタール当たり12〜20トンの範囲である。

図4 降雨予報 2025年1月〜3月



ペルー国立気象水文局 (SENAMHI) は、2025年1月から3月までの季節降水量が平均を下回ると予報している(図4)。ペルーの北部沿岸地域では降雨量が少ないと予想され(図ではベージュ色)、高地では平均以上の降雨が予想されている。白で表示されている地域は平均的な降水量を表している。

SENAMHIの2025年1月から3月までの季節予報によると、ペルーの沿岸地域では平均以下の気温が見込まれる。アンデス地域とアマゾン地域では、気温が平年並みまたは平年を上回ると予想されている。高地では、冬季にかけて霜の頻度と強度が増すものと予想されている。主に影響を受ける地域は、イカ、アンカシュ、ラリベルタ、ランバイエケ及びリマの各県である。この予報は、3月中旬に始まる秋の期間に(産地では)通常の範囲内で気温が下がることを示しており、柑橘類の生産に恩恵をもたらす。

出典: [SENAMHI](https://www.senamhi.gob.pe/)

消費

当事務所は、2024/25年度の生鮮マンダリン/タンジェリンの国内消費量を32万トンと予測する。

ペルーでは、マンダリンは昼食の弁当や間食として好まれている。ペルーの年間1人当たりのマンダリン/タンジェリン消費量は11kgと推定される。マンダリンジュース、ジャム、エッセンシャルオイル、ヨーグルト、粉末及びアルコール飲料は、消費を促進する画期的な手法として、スーパーマーケットやコンビニエンスストアで人気の商品となった。4オンス(約113グラム)容器入りの果汁漬けカットマンダリンの輸出量は、2017年の2千トンから2023年には1万2千トンと年平均34%で増加し、2024年1月から8月にかけては14%の増加を示した。

ウンシュウミカンとタンジェリンは、国内市場に年間を通じて供給されている。他のすべての品種には季節性がある。2023暦年の国内市場の価格は、平均で前年比20%高かった(表2)。リオデオロ品種は国内市場で最も価格が高く、ウンシュウミカンとタンゴがそれに続いた。

表2 マンダリン/タンジェリンの平均価格 2024年1月～10月(米ドル/kg)

クレメンタイン	コリ	マルバセア	マーコット	ピクシー	プリモソーレ	リオデオロ	ウンシュウ	タンジェリン	タンゴ
0.19	0.62	0.21	0.66	0.22	0.79	0.22	0.78	0.09	1.49

出典: ペルー農業省価格システム

(訳注: 表2は2024年のデータであり、本文中の2023年の記述と一致しません。)

図5 スーパーマーケットでのマンダリンの販売の様子(2024年12月撮影)

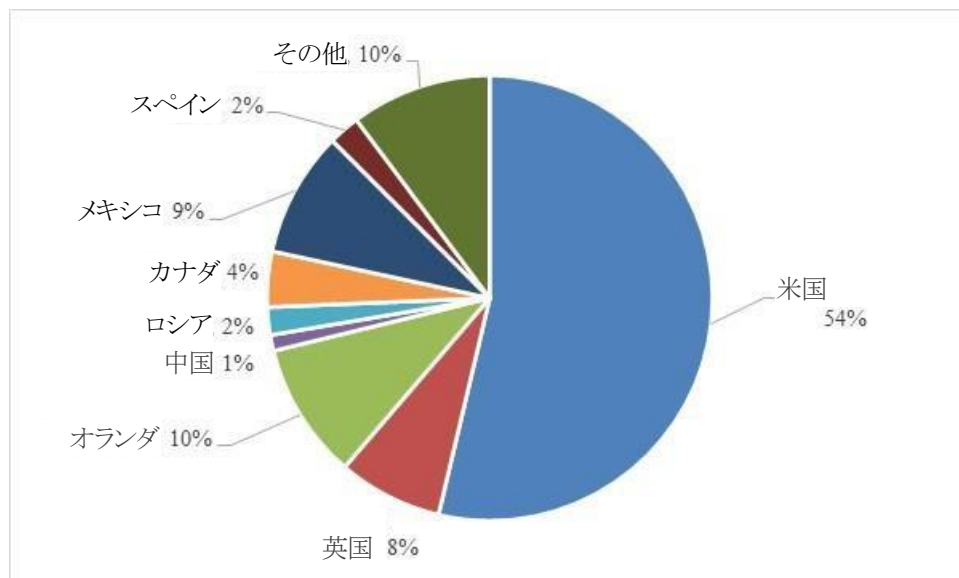


出典: 当事務所

貿易

当事務所は、ペルーの2024/25年度のマンダリン/タンジェリン輸出量が22万5千トンに増加するものと予測する。2024年4月から10月までのペルーの生鮮マンダリン/タンジェリンの主な輸出先は、米国(54%)、オランダ(10%)、英国(8%)であった。ペルーの輸出先は世界の36市場に及んだ。

図6 ペルーの輸出先国別マンダリン輸出(2023/24年度)

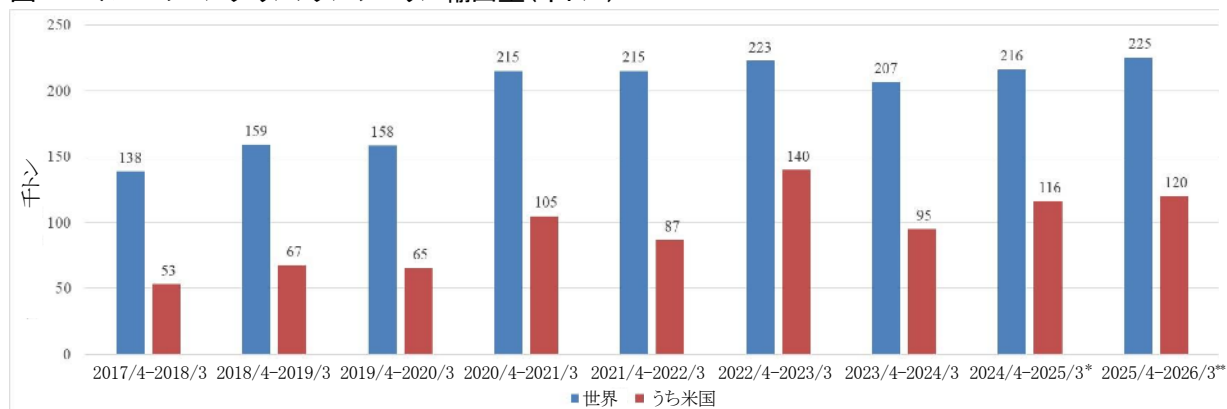


出典: ペルー税関(SUNAT)

2023/24年度の生鮮輸出量は前年比4%増で、20万7千トンから21万6千トンに増加した。2017/18年度のペルーの輸出量は13万8千トン(図7)で、その後一貫した成長を見せ、ほぼ倍増した。

米国向けの輸出は、ここ数年一貫して増加している。中でも2023/24年度には、9万5千トンから11万6千トンに22%回復した。また、米国への輸出は過去7年間、年率12%の成長を記録している。これに関連して、オランダはペルー産マンダリン/タンジェリンの2番目に大きな市場である。

図7 ペルーのマンダリン/タンジェリン輸出量(千トン)



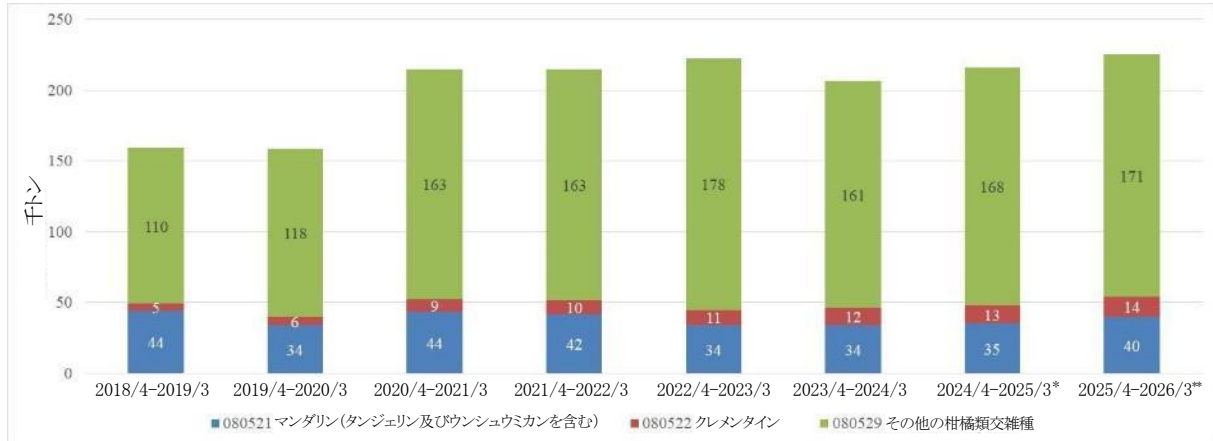
データの出典: Trade Data Monitor

*: 推計値

** : 予測値

ペルーの2024/25年度のマンダリン/タンジェリン総輸出量は、早生品種と晩生品種の好調な業績により回復すると予想される。交雑種は通常、総輸出量の77%を占める。

図8 ペルーのマンダリン/タンジェリン輸出量 HSコード別世界計(千トン)



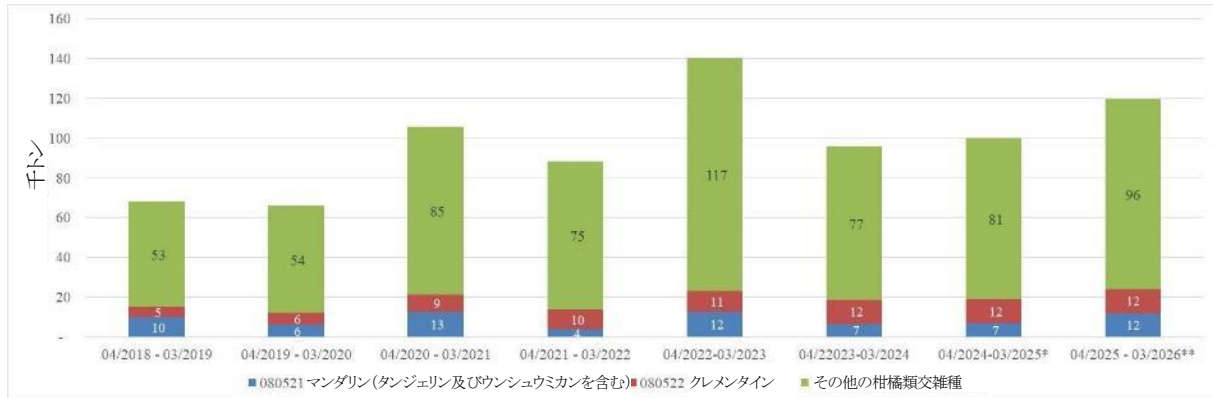
データの出典: Trade Data Monitor

*: 推計値

** : 予測値

2023/24年度の「その他の柑橘類交雑種」の各国の平均輸入価格は米国1,196ドル/トン、オランダ1,170ドル/トン、メキシコ1,475ドル/トンで、これは2022/23年度と比較して全体的に価格が高いことを反映している。2023年4月から2024年3月までの平均輸出価格は、前年度の1,073ドル/トンに対し、1,175ドル/トンであった。

図9 ペルーの米国向けマンダリン/タンジェリン輸出量 HSコード別(千トン)



データの出典: Trade Data Monitor

*: 推計値

** : 予測値

クレメンタインの輸出量は2018/19年度から4倍に増加し、主に米国市場向けである。当事務所は、ペルーのクレメンタイン輸出量は今後数年間、堅調な成長を維持すると予想する。2024/25年度の米国向けのマンダリン/タンジェリン輸出量は11万1千トンに増加すると予測される。

ペルーの輸出向けマンダリン/タンジェリン生産は、大部分が50ヘクタール以上の産業規模の農場で行われている。それらの農場では最先端の点滴灌漑システムを使用し、生産量を最大化するため正確な量の水と栄養分を供給している。これらの農場の収量は平均70~90トン/ヘクタールである。品種は多収で品質の高いものが選択されている。

政策

ペルーのマンダリン/タンジェリンの輸出は、米国、EU、中国等との22の自由貿易協定の恩恵を受けている。2009年2月1日に発効した米ペルー貿易促進協定(PTPA)は、ペルー産マンダリン/タンジェリンに対し米国への無税のアクセスを提供している。

ペルー政府は、港湾開発を経済発展の戦略的優先事項と考えている。最近開港したチャンカイ港(リマの北60km)はメガポートであり、ペルーの当局者らによると、南米とアジア(主に中国)との間の貿易を促進するために革命的であると見なされている。中国の国有企業であるコスコ SHIPPING 社(Cosco、中運海運)が建設・運営するこの港は、南米の貿易力学を変えようとしている。当局者らは、この港は最先端であって、中国やアジアの他の港への輸送時間を大幅に短縮することを約束しており、操業開始の1年目に農産物や工業製品を中心に全輸出品の25%を扱うと主張している。しかし、同港の完全運用までのタイムラインと有効性は、ビジネスリーダーや物流の専門家から疑問視されている。

さらに、カヤオ地域(リマ県)の二つの港が改修され、イカ県のサンフアンデマルコナ鉱石港の操業については最近、中国企業に30年間の運営権が与えられた。ペルーはこれらの投資により、ブラジルとアルゼンチンからの輸出の地域ハブとしての役割を果たし、南米における、またアジア市場との、戦略的及びビジネス上のつながりを強化することを目指している。

ペルー政府は、開発と繁栄の戦略軸として農産物輸出を支援している。PROMPERU(ペルーの輸出促進機関)とその海外事務所は、ペルーの代表的輸出農産物の一つであると認識されているマンダリン/タンジェリンを積極的に売り込んでいる。近年、ペルーは果実と野菜のトップクラスの生産国として世界的なブランドを構築することに成功し、国際的な食品見本市や展示会で強い存在感を示している。

ペルー政府と産業界は、業界を前向きにし、社会的対立を減らす手段として、小規模農家を農産物輸出チェーンに組み入れることに取り組んでいる。また、政府は生産的農村農業開発プログラム(AGRORURAL)を通じて、生鮮品の代替として、マンダリンを果汁、粉末、乾燥スナックに加工することを奨励している。

2000年から2020年まで、ペルーの農産物輸出業者は農業振興法の恩恵を受けており、この分野の多くの関係者は、これがペルーの農産物輸出の成功に寄与したと考えている。この法律は農産物の輸出に対する税金を軽減し、投資と正規雇用を促進した。2020年に法律が改正され、ペルーの柑橘類とその他の生鮮果実産業の関係者によると、税金と労働者への補償要件の複雑な役所仕事が発生した。業界関係者らは、この変更が生産者と労働者の両方に負担となり、非正規雇用を増やし、投資を減少させたと主張している。

PROCITRUSはペルーの柑橘類貿易団体であり、柑橘類輸出産業全体の80%を代表している。同団体は1998年に設立され、研究、開発及び官民連携に向けた業界の公式な取り組みを主導している。

ペルー農業検疫局(SENASA)は、輸出用生鮮果実の監視と管理において主導的な役割を果たしている。SENASAは、登録された果樹園と加工場のリストを収穫期ごとに更新する。

登録果樹園: [マンダリン生産農場](http://senasa.gob.pe) (senasa.gob.pe)

登録梱包処理施設: [マンダリン梱包施設](http://senasa.gob.pe) (senasa.gob.pe)

マンダリン/タンジェリンの規格は、高度な品質要件と柑橘類業界の基準の統一を促進する2014年の技術基準(NTP 011.023 2014)で規定されている。

ペルー税関によると、2024年1月から10月までの間に、ペルーは21カ国にマンダリンを輸出した。ペルーのマンダリン全輸出量の56%は、カヤオ港(リマ県)のDPワールド社のターミナルから出荷された。そのほかカヤオ港APMターミナル(34%)、サンマルティン港総合ターミナル(イカ県パラカス町、7%)及びユーロアンディーンノス港ターミナル(ピウラ県パイタ市)からも出荷された。

340. 南アフリカの柑橘類事情(オレンジ、グレープフルーツ、ソフト柑橘、果汁)

米国農務省GAINレポート 2024年12月18日

これは米国農務省海外農業局のプレトリア事務所(南アフリカ)が作成した「柑橘類年次報告書」(一部省略)を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

概要

2024/25販売年度(年度)には、価格が高騰している果汁用の出荷が低リスクの代替手段となるため、南アフリカの生産者はより多くの柑橘類を加工に振り向けると予測される。2024/25年度のオレンジ、グレープフルーツ、タンジェリン/マンダリン、レモンの生産量は、平年並みの天候条件、新植された果樹の成木化、灌漑用水の確保を前提に、増加するものと予測される。2024/25年度のグレープフルーツ、レモン、タンジェリン/マンダリンは、輸出品質の果実の生産量が増加し、輸出量も増加すると予測される。オレンジ果汁の国内消費量は、価格の上昇によりやや減少すると予測される。南アフリカは、2023/24年度に過去最大の量のグレープフルーツを米国に輸出したと推定される。

要約

オレンジ: 2024/25年度のオレンジの栽培面積は、果汁用原料価格が通常よりも高く、バレンシア種の苗木の発注が増加したことから、1%増の4万4,500ヘクタールと予測される。2024/25年度のオレンジは、悪天候の影響を受けた2023/24年度と比較して品質が向上し、生産量は1%増の169万トンと予測される。果汁価格の高騰により、生産者が輸出品質の果実の一部を加工用に転用することが予想される。このため、当事務所は、2024/25年度の輸出量は1%減の110万トンと予測する。

グレープフルーツ: グレープフルーツの栽培面積は縮小してきており、2022/23年度の果樹センサスによると、世界的な消費量の減少傾向を反映して苗木の販売が最低水準となっている。当事務所は、2024/25年度の栽培面積を、2023/24年度に比べて1%減の7,900ヘクタールと予測する。2024/25年度の実産量は、平年並みの天候条件を前提に1%増の42万5千トンと予測される。生産量の微増は、輸出量の増加につながると予想される。加工原料価格が通常よりも高いことから、生産者は加工用の供給量を増やすことが予想される。南アフリカの米国向けグレープフルーツの輸出量は、2023/24年度の年度初めからこれまで(2024年2月～10月)に23%急増しており、年度合計では記録的な量を米国に輸出するものと推定される。

タンジェリン/マンダリン: 当事務所は、2024/25年度のタンジェリン/マンダリン(南アフリカでは「ソフト柑橘類」に分類される)の生産量を、平年並みの天候条件と若い果樹の成木化により3%増の79万トンと予測する。2024/25年度の国内消費量は、生産量の増加と国内需要量の増加により、2%増の4万8千トンと予測される。輸出量は、生産量の増加に伴い3%増の67万4千トンと予測される。

レモン: 2024/25年度のレモンの生産量は、平年並みの天候条件と灌漑用水の確保を前提に、2023/24年度に比べて7%増の78万トンと予測される。生産量の増加と収穫物の品質の向上により、2024/25年度の輸出量は11%増の59万トンと予測される。加工用レモンの価格は下落し、採算が取れないと見込まれる。したがって、2024/25年度の加工仕向量は、2023/24年度から3%減少すると予測される。

オレンジ果汁: 当事務所は、果汁価格が通常よりも高いことから、2024/25年度のオレンジ果汁の製造量を2023/24年度に比べて4%増の5万7,100トンと予測する。生産者は、輸出用の果実を加工用に転用し、包装と輸送のコストを削減しつつ、良好な収益を得るものと見込まれる。2024/25年度のオレンジ果汁の国内消費量は、小売価格の上昇により、2023/24年度から1%減少すると予測される。2024/25年度のオレンジ果汁の輸出量は、製造量の増加により1%増の4万1,500トンと予測される。

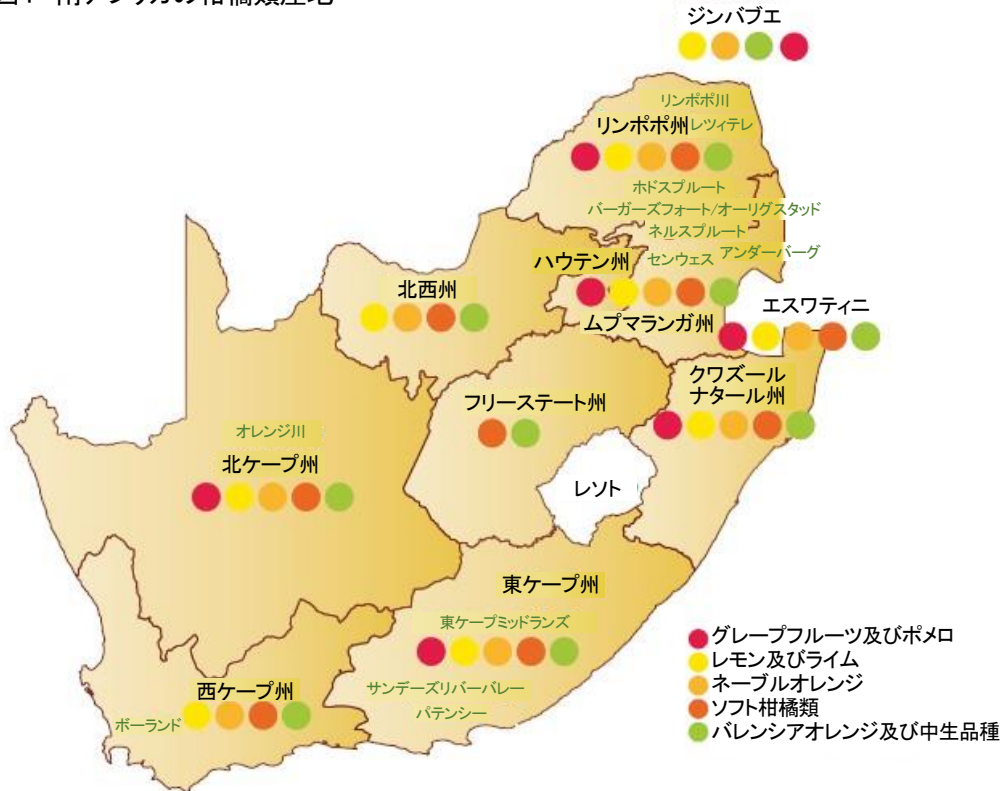
報告書注

グレープフルーツとレモンの販売年度(年度)は1月～12月、オレンジとタンジェリン/マンダリンの販売年度は2月～翌年1月、オレンジ果汁の販売年度は4月～翌年3月である。この報告書で使用されている為替レート(2024年12月2日現在)は、1米ドル(USD) = 18.16南アフリカランド(ZAR)である。

背景

南アフリカの柑橘類は、主にリンポポ、東ケープ、西ケープ、ムプマランガの各州で生産されている(図1)。西ケープ州と東ケープ州は比較的冷涼で、ネーブルオレンジ、レモン及びクレメンタイン、ウンシュウミカン等ソフト柑橘類の生産に適している。ムプマランガ、リンポポ、クワズールナタール(KZN)の各州は比較的温暖で、グレープフルーツ及びバレンシアオレンジの栽培により適している。南アフリカの柑橘類の合計栽培面積は、2021/22年度の9万6,277ヘクタールから2022/23年度には9万5,980ヘクタールと0.3%減少した。

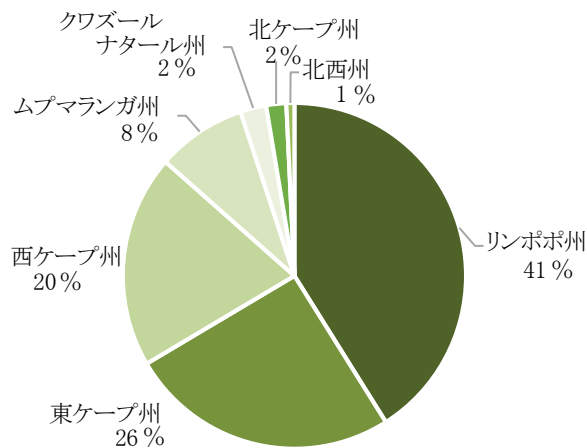
図1 南アフリカの柑橘類産地



出典: 柑橘類生産者協会 (CGA)

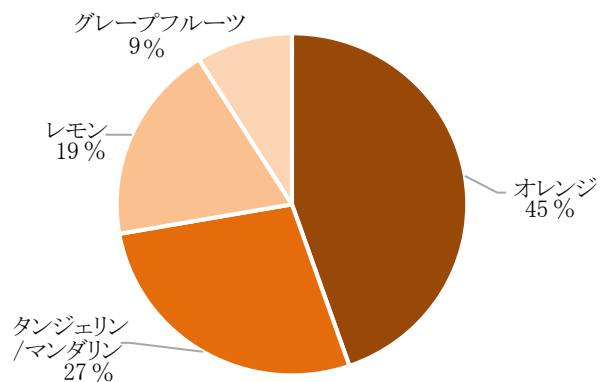
注: 本報告書では、ネーブル種、バレンシア種及び中生品種はオレンジに分類され、タンジェリン/マンダリンはソフト柑橘類に含まれる。

図2 柑橘類の地域別栽培面積シェア



出典: CGAのデータを使用して当事務所が作成

図3 柑橘類の種類別栽培面積シェア



出典: CGAのデータを使用して当事務所が作成

図3は、オレンジが南アフリカで最も多く栽培されている柑橘類であり、2022/23年度の柑橘類総栽培面積の45%を占めていることを示している。一方、タンジェリン/マンダリンは、柑橘類の総栽培面積に占める割合の増加が最も大きく、2015/16年度のシェアは約16%であったが、2022/23年度には27%に増加した。

南アフリカでは、少なくとも210の商業用柑橘類品種が栽培されている。表1は、南アフリカで栽培されている最も一般的な柑橘類の品種を示している。スタールビーは最も栽培面積が大きいグレープフルーツ品種であるが、最近の苗木の販売状況はグレープフルーツへの関心が大幅に低下していることを示している。生産者は、ネーブル種よりも貯蔵寿命が長く、収量が多いバレンシア種のオレンジを好む。ナドルコットは、南アフリカで最も人気のあるソフト柑橘類品種の1つである。

表1 柑橘類の品種

柑橘類の種類	品 種 名
グレープフルーツ	スタールビー、マーシュ、ジャクソン、ポメリット、ローズ、レッドハート
オレンジ	バレンシア種/中生品種: ミッドナイト、バレンシアレイト、デルタ、ターキー、ベニー、デュロワ、グソコラ、ジャシー
	ネーブル種: カンプリア、パーマー、バイアニーニャ、ワシントン、ウイトクラン、カラカラ、ナベリーナ、ロビン、レーンレイト、オータムゴールド、ニューホール
タンジェリン/ マンダリン	ウンシュウミカン: 三保早生、クイーン、尾張、ベラベラ、宮川早生
	クレメンタイン: ミュール、アンデス-1、オクトゥブリーナ、エスバル、マリソル
	マンダリン: ナドルコット、ナドルコットLs、タンゴ、ノヴァ、リーンリ、オツリ、ラム、モル、パレーゴールド、タンバー、シーガル
レモン/ライム	ユーレカ、リスボン、2Phシードレス、リモネイラ8A、ジェノア、ユーレカシードレス、レモネリア

出典: CGA

表2 南アフリカの柑橘類の収穫期

柑橘類の種類	収穫期
マーシュグレープフルーツ	3月～6月
スタールビーグレープフルーツ	3月～9月
ネーブルオレンジ	3月～7月
バレンシアオレンジ	5月～9月
タンジェリン/マンダリン	3月～8月
レモン/ライム	1月～8月

出典: CGA

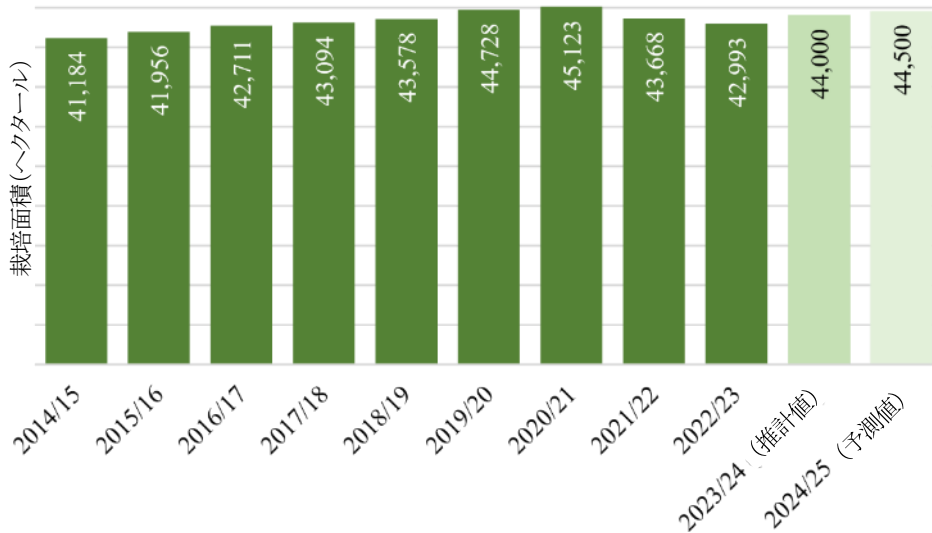
<オレンジ(生鮮)>

栽培面積

当事務所は、南アフリカの2024/25年度のオレンジ栽培面積を、2023/24年度に比べて1%増となる4万4,500ヘクタールと予測する。オレンジの苗木の注文状況は、ブラジルのオレンジ生産量の減少による果汁価格の上昇を受けて上向いた。当事務所の情報提供者らによると、2023/24年度のバレンシア種の苗木は完売し、注文はベニー、ジャシー、ターキー及びミッドナイトバレンシアの各品種の合計が大半を占めた。したがって、当事務所は、2024/25年度の苗木の発注もバレンシア品種が優勢であると予想する。当事務所の情報提供者らの報告によると、果汁価格は短期的には通常よりも高止まるとの楽観があり、生産者は、輸送費や梱包費用なしに出荷できるリスクの低い代替市場である果汁用により多くの果実を出荷するものと見込まれる。生産者らはまた、市場の需要動向に合わせて、一部の早生のネーブル種を晩生のネーブル種に転換しているようである。

図4はオレンジの栽培面積の推移を示しており、2020/21年度にピークを迎えている。2023/24年度の栽培面積は、主に果汁用原料価格が高いため、2%増の4万4千ヘクタールと推計される。

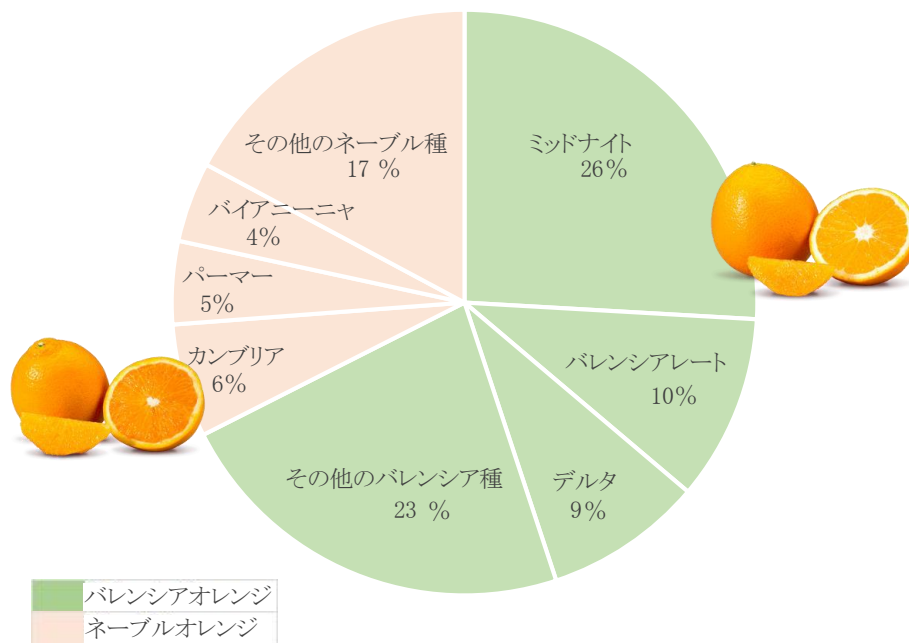
図4 南アフリカのオレンジ栽培面積



出典: CGAのデータを使用して当事務所が作成

リンポポ州は南アフリカで最大のオレンジ産地であり、総栽培面積の50%を占め、東ケープ州(24%)と西ケープ州(15%)がこれに次いでいる。

図5 南アフリカで栽培されるオレンジ品種



出典: CGAのデータを使用して当事務所が作成

バレンシア種はオレンジの全栽培面積の3分の2を占め、ネーブル種が残りの3分の1を占めている。栽培されている主な品種はミッドナイトが総栽培面積の26%を占め、次いでバレンシアレート(10%)、デルタ(9%)、ベニー(7%)、ターキー(7%)となっている。南アフリカで栽培されているその他の品種は、カンブリア、パーマー、バイアニーニャ、ワシントン等である。

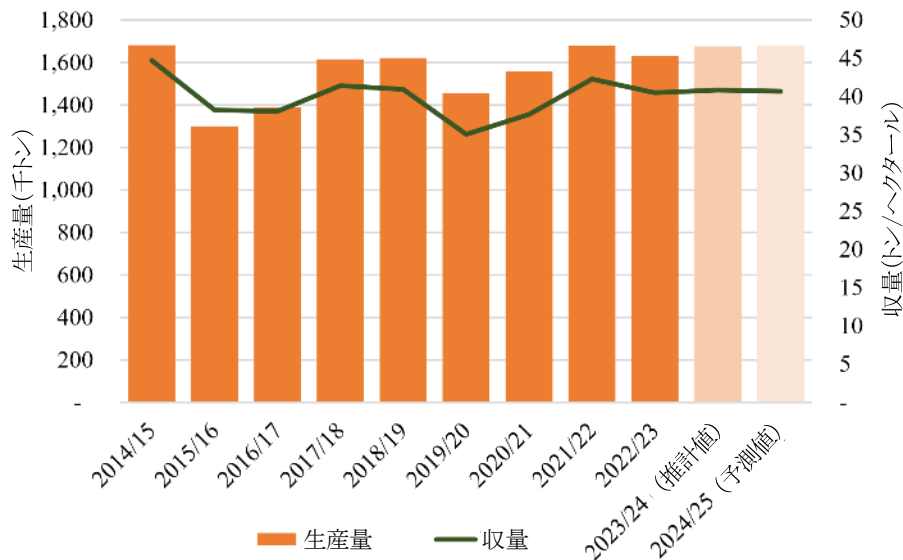
生産

当事務所は、平年並みの天候条件と灌漑用水の確保を前提に、2024/25年度のオレンジ生産量を前年比1%増の169万トンと予測する。当事務所はまた、2023/24年度産と比較して、果実の品質と収量が改善すると予想する。

2023/24年度は悪天候が果実の損失につながったため、当事務所はオレンジ生産量の推計値を168万トンに引き下げた。悪条件はまた、果実の着色の問題と小玉化を通じて果実の品質を低下させた。北部地域では、2023年12月に約10日間非常に暑い日が続く中で出荷シーズンが始まり、その結果、果実のサイズが小さくなったと生産者らは報告している。西ケープ州での季節外れの雨と洪水、センウェス地域での降霜、東ケープ州の強風により、一部の果実が失われた。悪天候はさらに、着色の問題や果実の品質の低下にもつながった。しかし、2023/24年度の実生産量は、灌漑用水の確保により、2022/23年度と比較して7%多かったと推定される。

2022/23年度の実生産量は、リンポポ州、西ケープ州、東ケープ州の産地で発生した大雨と雹を伴う嵐により、前年度から3%減少して163万トンとなった。図6は、2014/15年度以降の南アフリカのオレンジ生産量の推移を示している。

図6 南アフリカのオレンジ生産量の推移



出典：農業・土地改革・農村開発省(DALRRD)のデータを使用して当事務所が作成

輸出

2024/25年度は加工用オレンジの価格が通常よりも高く、輸出用オレンジが加工用に振り替えられるため、当事務所はオレンジ輸出量を2023/24年度から1%減となる110万トンと予想する。南アフリカのオレンジ輸出では通常、ダーバン港(54%)及びケープタウン港(21%)から出荷される。重要な機器の故障により、輸出市場への果実のタイムリーな輸送が妨げられており、業界関係者らは港湾の稼働状況について今も懸念を抱いている。南アフリカの果実業界は、輸出のリスクを管理するため、港湾当局と引き続き連携している。

当事務所は、南アフリカの2023/24年度のオレンジ輸出量の推計値を、2022/23年度から10%減となる111万トンに引き下げる。当事務所の情報提供者らの報告によると、2023/24年産のオレンジはサイズが小さかったため、1箱を満たすために必要な果実数は2022/23年度と比較して4%多くなった。悪天候も輸出品質の果実の減少につながり、生産者は輸出用の十分な量を得るのに苦労した。さらに、2023/24年度の果汁用果実の価格が通常よりも高かったため、生産者は輸出用の果実を加工用に出荷した。

2022/23年度の輸出量は、前年比5%減の123万トンであった。生産者は、カンキツ黒星病(CBS)やフォールスコドリグモス(FCM)の検疫を懸念して、晩生のバレンシアオレンジのEUへの輸出を控えた。

南アフリカは世界100カ国以上にオレンジを輸出しているが、EUは依然として南アフリカにとって最大の輸出市場であり、オレンジ輸出量の約36%を占めている。柑橘類の輸出品に免税アクセスを認めているEUとの自由貿易協定にもかかわらず、南アフリカは、CBSとFCMのために引き続き市場での植物検疫の課題に直面している。2023/24年度の2月から9月までのEUへのオレンジ輸出量は、2022/23年度の同期に比べて9%減少した。南アフリカの輸出量が全体的に減少したことに加え、CBSの発生により一部の果樹園はEUへの輸出が禁止された。

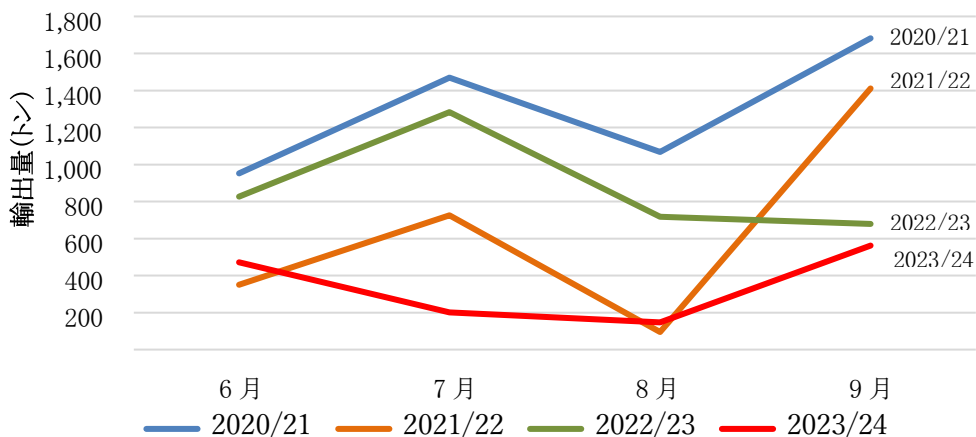
南アフリカの2024/25年度9月までの米国への輸出量は、2023/24年度の同時期と比較して26%減少した。西ケープ州では季節外れの雨のため、米国向けの果実の収穫と梱包に支障をきたした。

南アフリカは米国の夏の期間に、主としてミッドナイトオレンジを輸出している。2023/24年度の米国向け南アフリカ産オレンジの最初の荷は6月の第1週に米国に到着し、毎週の輸出は10月まで続いた。南アフリカは、米国のアフリカ成長機会法(AGOA)の下で免税アクセスの恩恵を受けている。

南アフリカは、2024年3月に発表された新しい二国間議定書の締結を受けて、2023/24年度に約890トンのオレンジをベトナムに輸出した。

南アフリカは、7千トン弱のオレンジをボツワナに輸出している。しかし、2024年には、ボツワナは出荷最盛期の国内の生産者を支援するため、6月の第3週から8月末まで南アフリカ産オレンジの輸入を一時的に禁止し、これはその後2025年まで延長された。禁止措置の結果、2024年6月から8月までの南アフリカからボツワナへの輸出量は、2022/23年度の同時期に比べて71%減少した(図8)。

図8 南アフリカのボツワナ向けオレンジ輸出量 6月～9月



出所: Trade Data Monitor, LLC.のデータを使用して当事務所が作成

表3 南アフリカの生鮮オレンジ輸出量

順位	輸出先国	暦年 千トン				2月～9月 千トン		
		2021/22	2022/23	シェア%	増減率%	2022/23	2023/24	増減率%
1	オランダ	265	281	23%	6%	257	239	-7%
2	アラブ首長国連邦	109	141	11%	29%	122	106	-12%
3	ロシア	85	96	8%	13%	87	69	-21%
4	中国	97	84	7%	-13%	82	63	-23%
5	ポルトガル	59	65	5%	9%	63	56	-12%
6	米国	59	58	5%	-3%	54	40	-26%
7	英国	74	54	4%	-26%	49	47	-3%
8	香港	48	48	4%	1%	46	25	-45%
9	サウジアラビア	66	47	4%	-30%	41	49	20%
10	カナダ	43	44	4%	4%	42	41	-2%
	その他	394	314	26%	-20%	286	277	-3%
	合計	1,298	1,232	100%	-5%	1,129	1,011	-10%

出所: Trade Data Monitor, LLC.のデータを使用して当事務所が作成

2021年に開始されたモザンビークのマプト港からの南アフリカ産柑橘類の輸出は、アジア及び中東への輸送時間とコストを削減する画期的な取組みである。

南アフリカのオレンジのかなりの量は国の北東部で生産されており、ダーバン港よりもマプト港にかなり近い。昨シーズン、マプト港経由で出荷されたオレンジはわずか0.6%であったが、2024/25年度にはマプト経由で輸出される割合が高くなると予想される。

表5 南アフリカのオレンジの生産需給統計

オレンジ(生鮮) 販売年度の始まり 南アフリカ	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2023年2月		2024年2月		2025年2月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	42,993	42,993	42,990	44,000	0	44,500
収穫面積(ヘクタール)	40,250	40,250	41,000	41,000	0	41,300
結果樹本数(千本)	39,281	39,281	39,280	39,280	0	39,150
未結果樹本数(千本)	4,276	4,276	4,274	4,800	0	5,100
合計果樹本数(千本)	43,557	43,557	43,554	44,080	0	44,250
生産量(千トン)	1,630	1,630	1,687	1,675	0	1,690
輸入量(千トン)	3	3	3	5	0	3
総供給量(千トン)	1,633	1,633	1,690	1,680	0	1,693
輸出量(千トン)	1,232	1,232	1,080	1,111	0	1,100
生鮮国内消費量(千トン)	32	32	22	22	0	22
加工仕向量(千トン)	369	369	588	547	0	571
総仕向量(千トン)	1,633	1,633	1,690	1,680	0	1,693

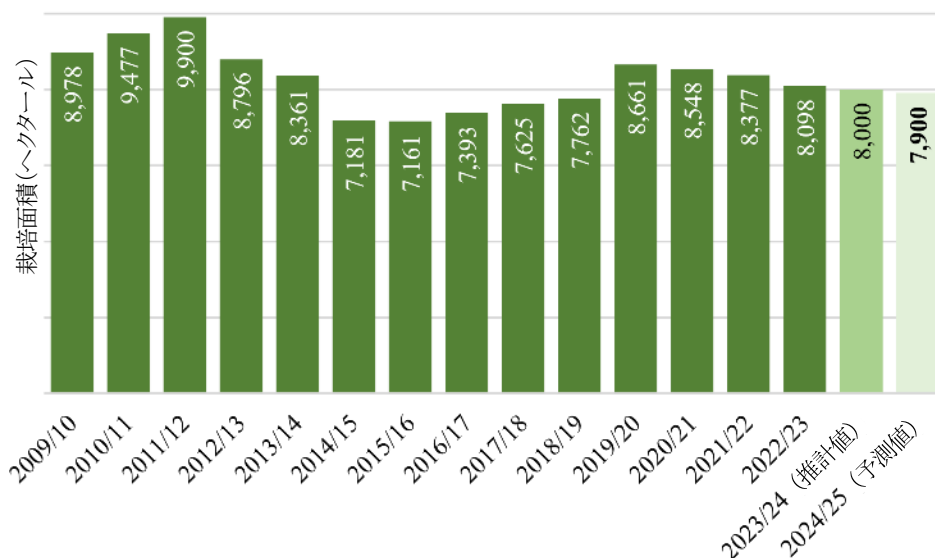
公式データは [PSD Online Advanced Query](#) から入手できる。

<グレープフルーツ>

栽培面積

グレープフルーツの栽培面積は、生産者が新植を制限し、古い果樹を伐根しているため、2020/21年度以降減少している。この減少は、世界のグレープフルーツ消費量が一貫して減少傾向にあることを反映している。2022/23年度の苗木の販売は、2016/17年度以来の低水準となり、生産者が他の種類の柑橘類に移行していることを示唆している。したがって、当事務所は、2024/25年度のグレープフルーツの栽培面積を、2023/24年度の推定8千ヘクタールからさらに1%減となる7,900ヘクタールと予測する。

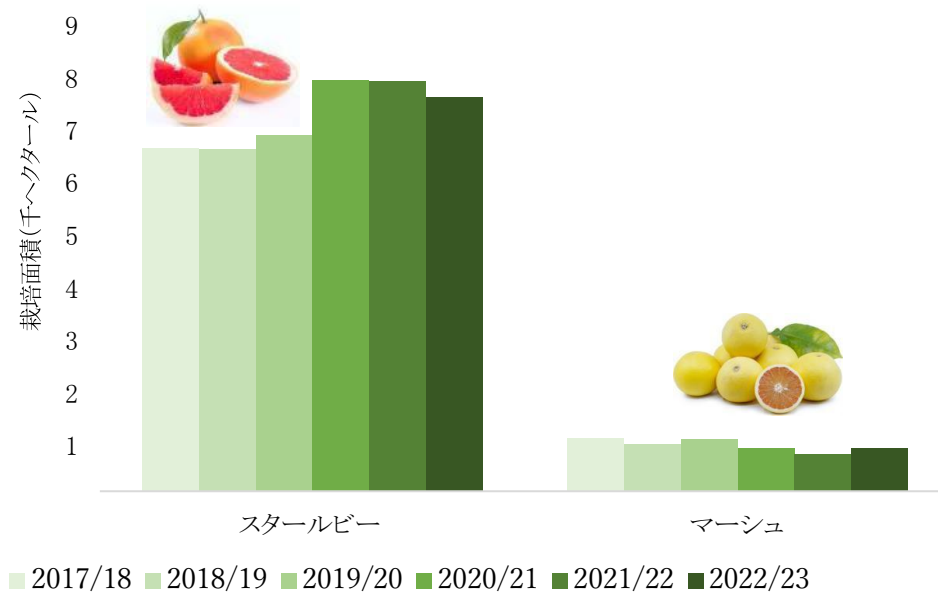
図9 南アフリカのグレープフルーツ栽培面積



出典: CGAのデータを使用して当事務所が作成

リンポポ州は南アフリカ最大のグレープフルーツ産地であり、総栽培面積の56%を占め、ムプマランガ州(20%)、クワズールナタール州(10%)、北ケープ州(6%)がこれに続く。スタールビーは、総栽培面積の88%を占める主要栽培品種である。南アフリカで栽培されているその他のグレープフルーツ品種には、マーシュ、Fe1(ジャクソン)、ポメリット、ローズ、レッドハート等がある。

図10 南アフリカの品種別グレープフルーツ栽培面積

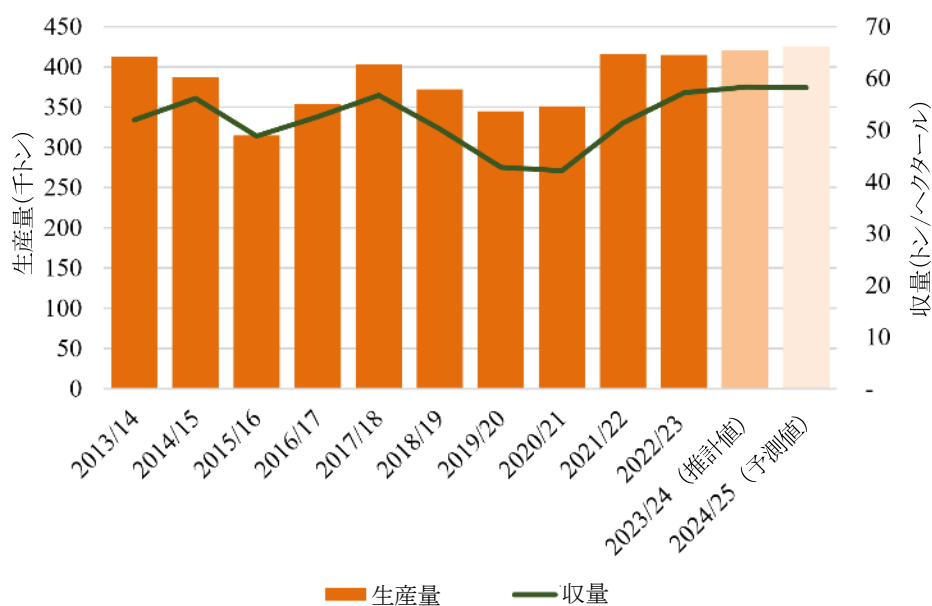


出典: CGAのデータを使用して当事務所が作成

生産

当事務所は、平年並みの天候条件と灌漑用水の確保を前提に、2024/25年度のグレープフルーツ生産量を1%増の42万5千トンと予測する。

図11 南アフリカのグレープフルーツ生産量



出典: 農業農地改革農村開発省(DALRRD)のデータを用いて当事務所が作成

2023年11月と12月に総じて十分な降雨があり、灌漑用水が十分に確保されたため、当事務所は2023/24年度のグレープフルーツ生産量の推定値を前年比1%増の42万トンに維持する。ただし、当事務所の情報提供者らは、12月に乾燥した期間が10日間続いたため、特に北部地域では果実の平均サイズが小さくなったと報告している。

当事務所は、2022/23年度のグレープフルーツ生産量を、主要なグレープフルーツ産地で十分な降雨量があったことに基づき、41万5千トンと推計する。図11は、2013/14年度(原文は09/10年度)以降の南アフリカのグレープフルーツの生産量と収量を示している。

輸出

グレープフルーツの輸出シーズンは通常、第10週(3月)に始まり、第16週から第22週(4月～6月)が最盛期で、第42週(10月)頃に終了する。輸出されるグレープフルーツの大部分はクラス1であり、加工用とクラス2の果実は限られている。最も多い品種は、南アフリカで主に栽培されていることからスタールビーである。グレープフルーツの約82%はダーバン港から輸出され、14%はケープタウン港を経由して輸出される。

当事務所は、2024/25年度の輸出量を、生産量の微増により2023/24年度に比べ1%増の21万5千トンと予測する。なお、加工用果実の価格が通常よりも高い状態が続いているため、生産者が輸出品質の果実の一部を国内の加工用に振り向けるものと予想される。

当事務所は、EUと英国の需要が2022/23年度と比較して減少したため、2023/24年度のグレープフルーツ輸出量の推定値を21万4千トンに引き下げた(表6)。この輸出量の推定値は、2022/23年度に比べて1%減となる。これは、果実が小玉化したため、段ボール箱1箱当たりの果実の入数が増え、輸出市場向けの総箱数が減少したためである。さらに、加工用果実の価格が通常よりも高いため、生産者は当初輸出する予定であった果実の一部を加工に転用した。ほとんどの市場でグレープフルーツの需要が縮小していることを反映し、全体的な輸出量は成長が減速していると見られる。

表6 南アフリカの生鮮グレープフルーツ輸出量

順位	輸出先国	暦年 千トン				1月～9月 千トン		
		2021/22	2022/23	シェア%	増減率%	2022/23	2023/24	増減率%
1	オランダ	63.4	72.9	34%	15%	72.5	59.7	-18%
2	中国	63.5	31.4	14%	-51%	30.9	33.2	7%
3	ロシア	19.4	21.6	10%	11%	21.1	21.2	1%
4	日本	22.9	17.4	8%	-24%	17.3	20.4	18%
5	英国	9.0	9.3	4%	4%	9.1	8.0	-12%
6	米国	6.2	9.0	4%	45%	9.0	11.1	23%
7	イタリア	4.9	7.2	3%	48%	7.2	7.6	7%
8	カナダ	7.2	6.9	3%	-4%	6.8	6.4	-6%
9	香港	6.9	6.4	3%	-7%	6.3	4.5	-29%
10	ポルトガル	4.5	5.4	2%	20%	5.4	5.8	9%
	その他	30.1	29.2	13%	-3%	28.4	32.1	13%
	合計	237.8	216.6	100%	-9%	214.0	210.1	-2%

出所: Trade Data Monitor, LLC.のデータを使用して当事務所が作成

2023/24年度の2024年9月までの中国向け輸出量は7%の増加を示しているが、中国では輸入グレープフルーツが生食用のほか加工に使用される。しかし、生産者が加工用グレープフルーツの輸出を制限しているため、出荷量は2021/22年度と比較してほぼ50%減少した。当事務所の情報提供者らの報告によると、南アフリカから2023/24年度に加工用品質のグレープフルーツを輸入したのは中国だけであった。

2022/23年度には、一部のグレープフルーツ産地で輸出用のクラス2の果実の梱包を減らし、代わりに国内での加工と消費に振り向けたことから、輸出量は前年比9%減の21万6,569トンと推定される。

総量はまだ少ないものの、米国へのグレープフルーツの輸出量は、2010/11年度の275トンから2022/23年度の8,990トンへと、年平均68%の割合で増加してきている。南アフリカの2023/24年度9月までの米国向け輸出量は1万1,061トンで、2022/23年度の同時期と比較して23%増加しており、2023/24年度の

米国向け輸出量は史上最高となると推定される。輸出量の増加は、米国フロリダ州の生産量が減少したことにより一部起因している。北ケープ州で生産されるスタールビー品種は、米国の夏の間、同国向けの人気のある輸出品となっている。

表8 南アフリカのグレープフルーツの生産需給統計

グレープフルーツ(生鮮) 販売年度の始まり 南アフリカ	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2023年1月		2024年1月		2025年1月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	8,097	8,097	8,000	8,000	0	7,900
収穫面積(ヘクタール)	7,530	7,530	7,650	7,200	0	7,300
結果樹本数(千本)	8,250	8,250	8,200	8,200	0	8,150
未結果樹本数(千本)	900	900	850	850	0	830
合計果樹本数(千本)	9,150	9,150	9,050	9,050	0	8,980
生産量(千トン)	415	415	420	420	0	425
輸入量(千トン)	8	8	5	3	0	3
総供給量(千トン)	423	423	425	423	0	428
輸出量(千トン)	217	217	218	214	0	215
生鮮国内消費量(千トン)	5	5	5	2	0	2
加工仕向量(千トン)	201	201	202	207	0	211
総仕向量(千トン)	423	423	425	423	0	428

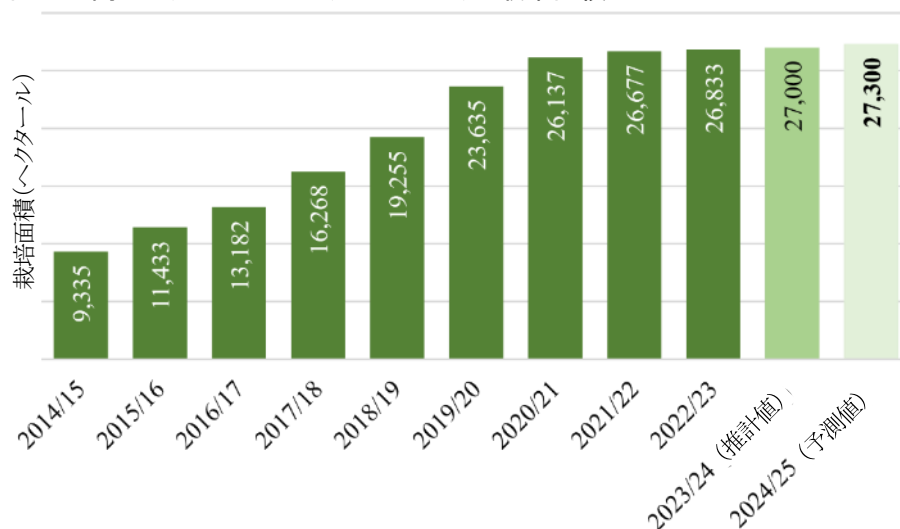
公式データは [PSD Online Advanced Query](#) から入手できる。

<タンジェリン/マンダリン>

栽培面積

当事務所は、2024/25年度のタンジェリン/マンダリン(「ソフト柑橘類」としても知られる)の栽培面積を、1%増の2万7,300ヘクタールと予測する。このわずかな増加は、輸出市場でのソフト柑橘類の需要が比較的高いことから、グレープフルーツ等の他の柑橘類からソフト柑橘類に移行したことを反映している。

図12 南アフリカのタンジェリン/マンダリン栽培面積



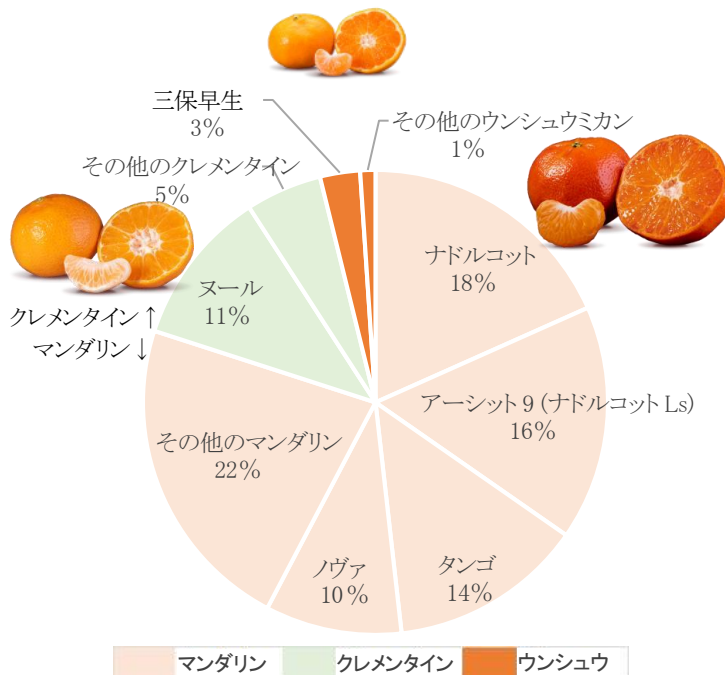
出典: CGAのデータを使用して当事務所が作成

南アフリカのタンジェリン/マンダリンの栽培面積の拡大は減速しており、当事務所の推定では2023/24年度の増加は1%であった。種無しソフト柑橘類に対する世界的な需要の高まりと、他の柑橘類と比較して高い利益率に牽引され、生産者は2010年代後半に多くの新植を行った(図12)。その後、生産者は、害虫をより適切に防除し、より良い水管理手法を可能にし、強風、降雹、または日光による損傷から果実を保護するための防護ネット下での栽培面積を拡大してきた。さらなる投資は、電力と水の喪失リスクを管理するための代替エネルギーの供給源に焦点を当てている。しかし、効率の悪い港湾運営、業績が低調な鉄道システム、劣

化が進む道路網等、より広範なインフラの非効率性により収益性が低下し、継続的な投資が制約されている。2022/23年度には、苗木の販売率が低下し、タンジェリン/マンダリンの栽培面積の増加は再び1%であった。西ケープ州、リンポポ州、クワズールナタール州の産地では、栽培面積の微増が見られた。

西ケープ州はソフト柑橘類の主要産地であり、2022/23年度から2%ポイント増加して南アフリカの総生産量の38%を占め、リンポポ州(28%)と東ケープ州(24%)がこれに次いでいる。樹齢4年以下の果樹園は、南アフリカのソフト柑橘類栽培面積の約18%を占めており、これは今後数年間にわたって市場に入荷するソフト柑橘類の量が増えることを意味している。

図13 南アフリカで生産されるタンジェリン/マンダリン品種



出典: CGAのデータを使用して当事務所が作成

栽培されている主な品種はナドルコットで、総栽培面積の約18%を占めている。ナドルコットに続いて、アーシット9(16%)、タンゴ(14%)、ヌール(11%)、ノヴァ(10%)、リーナリ(7%)、オッリ(7%)となっている。

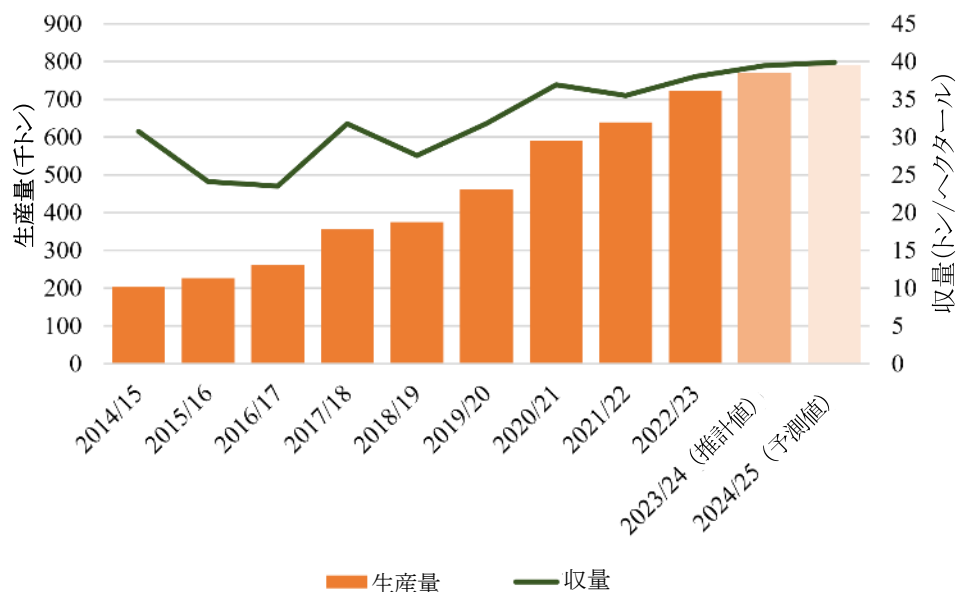
生産

当事務所は、2024/25年度の生産量を、平年並みの天候条件、若い果樹の成木化、灌漑用水の確保を前提に、2023/24年度に比べて3%増となる79万トンと予測する(図14)。生産者は防電ネットを張っていることが観察されており、これは収量と果実の品質の両方を改善することが期待されている。

当事務所は、産地の悪天候により、2023/24年度の実績推計値を77万トンに引き下げた。東ケープ州は強風に、西ケープ州は洪水にそれぞれ見舞われ、果実が失われた。これらの条件であっても、若い果樹の成木化と収穫面積の拡大により、2023/24年度の実績推計値は2022/23年度と比較して7%増加したと推定される。

2022/23年度の実績推計値は、果樹の成木化と、かなりの量の降雨が主要産地の灌漑用水を補充したことにより、13%急増して72万3千トンとなった。

図14 タンジェリン/マンダリンの生産量



出典：農業・土地改革・農村開発省 (DALRRD) のデータを使用して当事務所が作成

輸出

タンジェリン/マンダリンの輸出シーズンは通常、第11週(3月)頃に始まり第44週(11月)まで続く。輸出には通常、第19～23週(5月～6月)と第27～34週(7月～8月)の2つのピークがある。ほとんどのマンダリンは、産地に近いケープタウン港(48%)及びダーバン港(34%)から輸出される。ナドルコットとタンゴが最も輸出量が多いマンダリン品種で、クレメンタインとノヴァがそれに続いている。ウンシュウミカンとクレメンタインは早生の輸出用品種であり、ナドルコットとタンゴは輸出シーズンの半ばから後半にかけて大半を占める。

当事務所は、品質改善への投資により輸出品質の果実の生産が増加することから、2024/25年度のタンジェリン/マンダリンの輸出量は3%増の67万4千トンと見込む。輸出の成長は、特にEU、英国、中東、アジア、北米等の主要市場をはじめとする世界的な需要の高まりによっても推進されると見られる。

当事務所は、2023/24年度のタンジェリン/マンダリンの輸出量が、生産量の増加により2022/23年度から5%増加したと推定する。2023/24年度の輸出量が前回の予測から下方修正されたのは、悪天候により輸出品質の果実が失われたことによるものである。2022/23年度のタンジェリン/マンダリンの輸出量は、生産量の増加と輸送費の適正化を背景に19%増加した(表9)。

表9 南アフリカの生鮮タンジェリン/マンダリンの輸出量

順位	輸出先国	暦年 千トン				1月～9月 千トン		
		2021/22	2022/23	シェア%	増減率%	2022/23	2023/24	増減率%
1	オランダ	102.0	134.2	22%	32%	127.4	141.2	11%
2	英国	87.8	97.4	16%	11%	90.9	84.4	-7%
3	アラブ首長国連邦	40.0	57.4	9%	44%	52.6	49.2	-6%
4	ロシア	51.3	52.0	8%	1%	49.8	66.1	33%
5	米国	53.5	49.6	8%	-7%	49.0	38.8	-21%
6	中国	23.1	30.9	5%	33%	30.7	25.7	-16%
7	カナダ	22.9	29.3	5%	28%	26.9	33.1	23%
8	バングラデシュ	21.8	22.2	4%	2%	21.5	18.2	-15%
9	ポルトガル	10.9	17.3	3%	59%	17.1	18.2	6%
10	香港	9.5	11.4	2%	21%	11.2	9.7	-13%
11	サウジアラビア	9.4	10.3	2%	9%	10.0	10.4	5%
12	インド	5.2	9.0	1%	75%	8.7	13.6	57%
	その他	83.3	101.0	16%	21%	94.9	119.1	25%
	合計	520.6	622.0	100%	19%	590.7	628.0	6%

出所：Trade Data Monitor, LLC.のデータを使用して当事務所が作成

南アフリカのソフト柑橘類の最大の海外市場はEUと英国で、合わせて総輸出量の45%を占め、次いでアラブ首長国連邦(9%)、ロシア(8%)、米国(8%)、中国(4%)、カナダ(5%)となっている(表9)。AGOA(米国のアフリカ成長機会法)に基づく南アフリカから米国へのソフト柑橘類輸出は、2017/18年度の1万3,695トンから2021/22年度には5万3,489トンと年平均42%で増加した。2023/24年度の米国への輸出量は減少したと推定されるものの、当事務所は、「皮が剥きやすい」品種(ソフト柑橘類)に対する米国の消費者の嗜好の高まりにより、増加傾向が続くものと予想する。

表11 南アフリカのタンジェリン/マンダリンの生産需給統計

タンジェリン/マンダリン(生鮮) 販売年度の始まり 南アフリカ	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2023年2月		2024年2月		2025年2月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	26,833	26,833	27,000	27,000	0	27,300
収穫面積(ヘクタール)	1,900	1,900	19,500	19,450	0	19,800
結果樹本数(千本)	10,405	10,405	10,470	10,470	0	10,550
未結果樹本数(千本)	3,850	3,850	3,870	3,870	0	3,910
合計果樹本数(千本)	14,255	14,255	14,340	14,340	0	14,460
生産量(千トン)	723	723	780	770	0	790
輸入量(千トン)	4	4	3	3	0	3
総供給量(千トン)	727	727	783	773	0	793
輸出量(千トン)	622	622	670	655	0	674
生鮮国内消費量(千トン)	36	36	43	47	0	48
加工仕向量(千トン)	69	69	70	71	0	71
総仕向量(千トン)	727	727	783	773	0	793

公式データは [PSD Online Advanced Query](#) から入手できる。

<オレンジ果汁>

生産

南アフリカの生産者は従来から、主に生鮮輸出市場向けにオレンジを生産しているが、一部の生産者、特に降雹被害やその他の品質を低下させる気象の影響を受けやすい地域の生産者は、主に加工施設に供給するためにオレンジを生産している。

2023/24年度以降、国内の搾汁業者は、果実生産者が輸出品質の果実を加工用に出荷することを検討するほどの非常に高い価格を支払っていると報告されている。このオレンジ果汁価格の高騰は、ブラジルのオレンジ生産が悪天候とカンキツグリーニング病により減少傾向にあることに起因している。当事務所の情報提供者らの報告によると、果汁価格は短期的には高止まりすると予想され、生産者は加工業者への出荷を増やすものと予想される。果汁製造が(果実生産者にとって)有望でリスクの低い代替出荷先となっていることから、当事務所は、2024/25年度のオレンジ果汁製造量を、2023/24年度に比べて4%増の5万7,100トンと予測する。果汁の価格は高止まりしており、果実生産者は輸出用の果実を加工に転用し、包装と輸送のコストを削減しつつ、良好な収益を得るものと予想される。

2023/24年度のオレンジ果汁製造量は、主要産地での果実の損失により5万4,700トンに下方修正するが、この製造量は2022/23年度に比べて48%増に当たるものと推定される。また、悪天候により果実が小玉化し、加工用に出荷される果実が増加した。当事務所の情報提供者らは、通常は国内市場で生鮮果実として販売される早生のオレンジ品種が加工用に出荷されたと報告している。一部の生産者は、海外市場と国内の果汁業者の価格差が最小限であるため、シーズン終了時の収益が減少する可能性はあるものの、港湾や輸送の課題に起因するリスクと不確実性が軽減することから出荷計画を再考したと報告している。

2022/23年度のオレンジ果汁の製造量は、加工仕向量の増加と生産者にとっての価格の改善により、4%増加した。業界では、年間を通じて供給可能性を確保するため、前シーズンからの繰越し在庫を保持している。濃縮オレンジ果汁は、南アフリカで生産されるオレンジ果汁全体の少なくとも90%を占めている。

南アフリカでは、オレンジ果汁の業務統計はほとんど入手できない。生産量、消費量及び在庫水準は、

様々な情報源や協力者からの情報、及び加工用に仕向けられた生鮮オレンジに関するデータから算出した搾汁量に基づく当事務所の推計及び予測を表している。

輸出

当事務所は、2024/25年度のオレンジ果汁の輸出量を、製造量の増加により1%増の4万1,500トンと予測する。当事務所は、2023/24年度のオレンジ果汁輸出量の推計値を4万1千トンに引き下げたが、これは、2023/24年度の4月から9月までの輸出ペースが2022/23年度の同時期に比べて減速したことを反映している。2022/23年度のオレンジ果汁の輸出量は、世界的な需要の改善と有利な価格水準により、32%増加したものと推定される。

当事務所は、すべてのオレンジ果汁の輸出データを、以下に示すそれぞれの換算係数に基づいて、ブリックス値65相当に調整した。HS(貿易品目コード)200919のオレンジ果汁の輸出量は係数1.02で変換し、HS200912のオレンジ果汁の輸出量は係数0.18で変換した。HS200911のオレンジ果汁の輸出量は、既にブリックス値65に相当するため調整していない。ブリックス値は、糖度に基づく果汁の濃度を表す。したがって、ブリックス値65は、オレンジ果汁が果汁100グラム当たり少なくとも65グラムのショ糖を含有していることを意味する(原文のまま)。

南アフリカは、エスワティニ、ボツワナ、ナミビア、レソト、ジンバブエ等、主に南部アフリカの国々にオレンジ果汁を輸出している(表15)。ヨーロッパも南アフリカのオレンジ果汁の重要な市場である。米国は南アフリカのオレンジ果汁輸出で6番目に大きな市場であり、2022/23年度の輸出先シェアは4%を占めている。2023/24年度の4月から9月までの米国向け輸出量は46%減少したが、当事務所は、販売年度末までの輸出量が1千トンをわずかに超える程度に回復すると予想する。

表15: 南アフリカのオレンジ果汁輸出(HS200919、HS200911、HS200912)

順位	輸出先国	年度(4月~3月) トン(換算量)				4月~9月		
		2021/22	2022/23	シェア%	増減率%	2022/23	2023/24	増減率%
1	オランダ	9,275	13,040	32%	41%	7,066	8,448	20
2	ボツワナ	3,860	9,067	22%	135%	3,387	2,891	-15
3	エスワティニ	2,924	2,899	7%	-1%	1,278	1,466	15%
4	ナミビア	2,014	2,669	6%	33%	1,124	1,066	-5%
5	イスラエル	1,959	1,722	4%	-12%	700	675	-4%
6	米国	1,871	1,540	4%	-18%	618	334	-46%
7	スペイン	928	1,523	4%	64%	797	95	-88%
8	イタリア	930	1,230	3%	32%	997	178	-82%
9	レソト	1,005	1,132	3%	13%	327	370	13%
10	エチオピア	803	880	2%	10%	443	504	14%
11	ジンバブエ	896	828	2%	-8%	314	220	-30%
12	ザンビア	677	631	2%	-7%	365	108	-70%
	その他	4,033	3,902	10%	-3%	1,798	1,331	-26%
	合計	31,175	41,063	100%	32%	19,214	17,686	-8%

出所: Trade Data Monitor, LLC.のデータを使用して当事務所が作成

表16 南アフリカのオレンジ果汁の生産需給統計

オレンジ果汁	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2023年4月		2024年4月		2025年4月	
販売年度の始まり	2023年4月		2024年4月		2025年4月	
南アフリカ	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
原料の加工仕向量(トン)	369,000	369,000	588,000	547,000	0	571,000
期首在庫(トン)	13,240	13,240	6,989	6,989	0	20,113
製造量(トン)	36,900	36,900	58,800	54,700	0	57,100
輸入量(トン)	1,112	1,112	800	2,574	0	1,500
総供給量(トン)	51,252	51,252	66,589	64,263	0	78,713
輸出量(トン)	41,063	41,063	47,000	41,000	0	41,500
国内消費量(トン)	3,200	3,200	3,200	3,150	0	3,120
期末在庫(トン)	6,989	6,989	16,389	20,113	0	34,093
総仕向量(トン)	51,252	51,252	66,589	64,263	0	78,713

公式データは [PSD Online Advanced Query](#) から入手できる。

341. 南米産ブドウ 米国市場がリード、アジア市場は軟調

FreshPlaza 2024年12月18日

南米産ブドウは変化する需要に対応

ペルーのブドウシーズンは順調に進んでおり、同国のブドウは北米、アジア等世界中の多くの地域で高く評価されている。一方、チリ産のシーズンも明るい見通しでスタートした。南米産のブドウは北米からの需要が高い一方で、アジアからの需要は近年軟化している。

米国市場

ペルー産ブドウに対する米国の需要は過去数年間堅調に推移しており、価格も安定し、流通も円滑である。IPG社(米国の青果物商社)のダルトン・ドボリス氏は、「この成長を維持するためには、品質を保つことが依然として重要である」と述べている(以下「」は同氏の話)。ペルーでは、ピウラ県等北部地域の干ばつが品質と出荷量の両方に影響を与え、水使用の制限がこれらの課題をさらに悪化させた。その結果、ペルー北部では出荷量が総じて20~30%減少すると見られ、出荷が遅れるとともに、イカ県等南部地域での収穫が始まるとその需要が高まった。「イカ県の緑と赤の種無し品種は品質が大変優れており、黒の種無しブドウとレッドグローブ品種も同様で、北米市場とアジア市場の両方での成功を約束している。」。同社は、ペルー産では、スイートグローブ™、オータムクリスプ®、クリムゾン、スイートセレブレーション™、ジャックサルート™、アリソン、ティムコ™、スカーロッタ、レッドグローブ等の品種を取り扱っている。

アジアへの輸出

ペルー北部の問題により、今シーズンのペルー産ブドウは、アジアに出荷される割合が大幅に減少した。減少の要因となった状況はほかにもある。「今シーズンは、米国の旺盛な需要と海上輸送費の高騰により価格が高く、ペルー産のブドウをアジア市場から遠ざけている。」これに加え、高い航空運賃(最大5ドル/kg)と、ペルーからベトナム等の市場への航空輸送における手続き上の制約により、南アフリカ等の他のブドウ生産国と比較した競争力がさらに制限されている。「それでも、価格圧力に関係なく一流の農産物には常に市場があるため、アジアでは、最高品質のペルー産ブドウに対する安定した需要がある。」同氏は、ペルーのイカ県にはアジアと米国の両方の市場の高い規格基準を満たす能力があると確信している。「結局のところ、ペルー産は米国産と並んで、引き続き品質と視覚的な訴求力の基準であり、高級ブドウの『王様』と見なされることも多い。」

チリ産ブドウの近況

一方、チリ産ブドウの出荷シーズンもコピアポバレー地域(アタカマ州)で進行中であり、第51週と第52週(12月の後半)には、ビクーニャオバリエ地域(コキンボ州)で収穫が始まると見込まれている。これに続いてアコンカグア(バルパライソ州)とスピスの両地域では、1月の第1週または第2週頃から収穫が始まるが、これは平年並みである。チリのブドウ業界では、6,500万箱の出荷が見込まれており、スイートグローブやオータムクリスプなどの緑色ブドウ品種が増加し、赤ブドウ品種を上回る。レッドグローブは第3週または第4週に収穫が始まり、約900万箱が見込まれている。チリからの最初の船は第51週に米国に到着する予定である。今年は、チリ北部のブドウに新たなシステムアプローチが初めて適用される。このプロトコルにより、燻蒸が不要になり、品質が向上し、コストが削減される。IPG社はほとんどのチリ産ブドウを米国に出荷しているが、一部のプレミアム品は韓国、日本、ベトナム、その他のアジアの国々にも出荷されている。

同社は全体として、同社が扱う南米産のブドウの約60%を米国に、約40%をアジアに出荷している。アジアの主な出荷先は、ベトナム、タイ、台湾、香港、韓国、日本、シンガポールである。「アジアと米国ではブドウの品質に対する好み異なるが、弊社は基本的に品質の高い製品ラインを導入し、アジアで求められるのと同レベルの品質の品物を米国市場に提供することを目指している。」

アジア市場の需要は出足が遅い

アジア市場は厳しい品質基準で知られており、最大の果粒と最適な果房のサイズ、色、歯ごたえ、味が求められる。南米の産地はこれらの基準を満たすことができるにもかかわらず、近年、アジアからの需要が軟化

している。これは主に、コロナ禍後の経済回復の遅れと、産地におけるコストの上昇とインフレによるものである。現在、多くの市場では、中国産や南アフリカ産など、特に経済的に厳しい家庭にとって価格が手ごろで流通しやすい、低コストの選択肢が好まれている。「その結果、南アフリカがアジア市場の価格優先の客層を引き続き支配している。」この展開は、インフレ、人件費の増加、及び全体的な価格設定の課題と相まって、米国産やペルー産のブドウのアジア市場での競争力を低下させている。

中国産との競争

「残念ながら、中国産は過去4～5年の間にアジアの多くの国で大きな市場シェアを獲得した。」かつて米国産ブドウの主要な顧客であった中国は、次第に競争相手へと移行し、特別に育種され、元々は米国の生産者が独占していた品種を多く栽培している。この変化により、米国産ブドウの需要が減少し、競争が激化した。「弊社では、かつて米国、ペルー、チリがアジアで持っていた市場シェアの一部を取り戻すことに取り組み、変化する市場環境に対応するための革新的な戦略を通じて生産者を支援している。」

同社は1年のうち、米国産の出荷シーズンには輸出及び国内供給のために約150万箱の米国産ブドウを取り扱っている。米国のオフシーズンには、南米、特にペルー産とチリ産の150万箱のブドウの輸出入事業を行っている。

執筆者： マリーケ・ヘムズ （翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

342. 韓国 気候変動対策として東北部でのリンゴ栽培の拡大を計画

[FreshPlaza 2024年12月18日](#)

韓国政府は、気候変動への戦略的な対応として、^{カンフウォンド}江原道に新たなリンゴ産地を開発する計画を発表した。この取り組みは、農業の持続可能性を高め、農業を将来の成長産業に変えることを目的とした、より広範な農業・農村革新戦略の一環である。リンゴの栽培面積は、2023年の931ヘクタールから2030年までに2千ヘクタールに拡大する予定である。この戦略には、スマート果樹園専用団地の設置や、生産性を最大化し労力を削減する自動化システムの活用が含まれている。

頻発する夏の熱波や寒波被害など、気候変動の影響を緩和するため、政府は生産インフラや災害予防施設を増強する。作物被害対応マニュアルを配布し、迅速な災害対応のための支援を行う。他方、夏キャベツのパイロットプロジェクトでは、通常の栽培面積の約20%に生産団地を設置することを目指して、新たな産地を模索する。

出典： [Chosun Biz](#)

343. ニュージーランド 2024年のキウイ輸出額は史上最高の35億NZドル

[FreshPlaza 2024年12月20日](#)

ニュージーランド統計庁(Stats NZ)によると、2024年シーズンのニュージーランドのキウイフルーツ輸出額は35億NZドルで、2023年シーズンに比べて10億ドル(44%)増加した。キウイフルーツの収穫期は3月から11月までで、ゴールドキウイフルーツは通常、グリーンキウイフルーツよりも単価が高い。国際会計に関する広報担当であるヴィキ・ウォード氏は、キウイフルーツの価格は安定しており、輸出額の急増は主に数量の増加によるものだと指摘した。

ウォード氏は、「これは、昨年気象災害の後の業界にとっての大きな回復であり、歴史的な高水準に戻った」と述べた。2024年11月までの1年間のニュージーランドの果実輸出額の73%(34億5,600万NZドル)をキウイフルーツが占め、一方リンゴは21%(9億7,900万NZドル)であった。また、リンゴとアボカドの輸出額は、それぞれ1億1,800万NZドル及び3,300万NZドル増加し、アボカドの輸出の大部分がオーストラリア向けであったことも示された。2024年11月までの1年間の果実輸出総額は47億NZドルと報告された。

出典： [SunLive](#) （1NZドル=約88円）

344. エジプト産柑橘類の需要は強いが供給は減少

FreshPlaza 2024年12月20日

青果物輸出業者であるエジプト・エミレーツ輸出入会社のライアン・エル・サウィ会長は、エジプト産柑橘類のシーズンは様々な様相を呈しつつ始まったとして、「その競争力のある価格と高い品質によりエジプト産柑橘類に対する世界的な需要は依然として堅調であるが、シーズン初期の課題としては不安定な天候条件があり、果実のサイズと収量にわずかな影響を与えた。しかし、初回の出荷に対する市場の反応は特にヨーロッパと中東で良好であり、今年の輸出シーズンも好調なことを示している」と述べた。(以下「」は同会長の発言)

同会長によると、エジプトの生産量の減少はかなり大きく、これは暑さと不規則な降雨を伴う気象条件によるものである。「弊社の出荷量は昨年に比べてやや少なく、柑橘類の生産量が19.5%減少するという全国的な傾向と一致している。生育期の重要な時期の熱波と不規則な降雨は、収量に影響を与えた。これらの課題にもかかわらず、ヌバリア地域とサダト地域にある弊社の農場では、灌漑施設と農業技術の改善により損失を軽減し、安定した品質を維持することができた。」

この輸出業者は柑橘類を主にヨーロッパとアジアに送っているが、同会長は物流コストの削減のため、アフリカ大陸の市場も探索したいと考えている。「弊社では主にドイツ、オランダ、英国等に輸出している。それらの国はエジプトの価格優位性と長い供給シーズンにより、主要な買い手となっている。もう一つの主要な輸出先は中東で、特にサウジアラビアとアラブ首長国連邦は、エジプト産オレンジの信頼できる市場であるロシアと並んで、エジプト産生鮮柑橘類の主要な市場である。弊社はアジアに進出したいと考えており、インド、中国、日本は生鮮柑橘類の需要が高まっている潜在的な市場である。さらに、物流コストが安いアフリカで、より身近なチャンスを模索し、市場拡大の新たな可能性を創出したいと考えている。」

エジプトは、スペイン及びトルコとの激しい競争に対処しなければならない。しかし、同会長は、これらの競合国との間にも協力の余地があると考えている。「スペインは、特にヨーロッパ市場において、その近さ、確立された評判、シーズン序盤の入手可能性により、依然として重要な競争相手である。しかし、エジプトの方が生育期間が長いことと、競争力のある価格が、特にシーズン後半の輸出において有利に働いている。また、エジプトとスペインの協力の余地もある。農法の研究と革新や物流の改善などの分野では相互の利益を強化できる可能性がある。」

供給量の減少と輸送コストの上昇が相まって、柑橘類の価格は2024年と比較して緩やかに上昇している。「高品質な柑橘類のプレミアム価格は、ヨーロッパと中東からの強い需要に支えられている。しかし、気候変動、物流の遅延、スペインやトルコとの競争などの課題は依然として深刻である。弊社は、効率的な輸出業務を確保するため物流プロバイダーとの関係を強化し、競争の激しい地域への依存を減らすために市場を多様化した。」

今後について、同会長は2025年シーズンの有望な結末を予想している。「出荷量の減少にもかかわらず、持続可能な成長と市場の拡大を見込み、引き続き品質と収益を重視していく。協力の機会を引き続き、効率を高め、市場を拡大するための鍵である。」

執筆者: ニック・ピーターズ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

345. ブラジルの柑橘類事情(オレンジ、オレンジ果汁)修正版

[米国農務省GAINレポート 2023年12月20日\(2024年2月6日修正\)](#)

これは米国農務省海外農業局ブラジリア(ブラジル)農務事務所(OAA)が作成した「柑橘類年次報告書」の修正版(一部省略)を翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。「ブラジル年度」等と特記した場合を除き、この報告書の2024/25年度(販売年度)は2025年7月～2026年6月を指し、これは2025/26ブラジル年度に該当します。

概要

これは柑橘類年次報告書を修正するものであり、元の報告書中の生産、消費、輸出に関する当事務所の推計値が更新・修正されている。

2024/25年度のブラジル産オレンジの出荷量は、3億2千万箱と予測され、これは1,300万トンに相当し、当事務所の2023/24年度の推計値(3億箱、すなわち1,230万トン)に比べて5.4%多い。ブラジルの2024/25年度の実産量は、1988年以来最低だった今シーズンからわずかに回復すると予想される。当事務所はまた、現在の収穫期の加工用オレンジの入手困難がやや解消することから、2024/25年度のブラジルのオレンジ果汁(ブリックス値66の冷凍濃縮オレンジ果汁(FCOJ)換算)の製造量を、2023/24年度の製造量の当事務所の推計値(93万トン)に対して8%の増加となる100万トンと予測する。

<生鮮オレンジ>

生産需給統計表

次の表は、ブラジルの2023/24、2024/25の各年度(7月～翌年6月)における生鮮オレンジの生産、供給、流通の改訂データと、2025/26年度の予測を示している。上記のブラジルの年度は、それぞれ米国の2022/23、2023/24及び2024/25年度に相当する。(翻訳に当たり、表に合わせて文章を整理しました。)

表1 ブラジルの生鮮オレンジの生産需給統計

オレンジ(生鮮) 販売年度の始まり ブラジル	2022/2023		2023/2024		2024/2025
	2023年7月		2024年7月		2025年7月
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	600,000	600,000	590,000	590,000	590,000
収穫面積(ヘクタール)	575,000	575,000	570,000	570,000	570,000
結果樹本数(千本)	198,070	198,070	197,194	197,194	200,000
未結果樹本数(千本)	39,302	39,302	41,176	41,176	42,000
果樹本数合計(千本)	237,372	237,372	238,370	238,370	242,000
生産量(千トン)	15,469	15,469	12,300	12,300	13,000
輸入量(千トン)	40	40	32	32	40
総供給量(千トン)	15,509	15,509	12,332	12,338	13,040
輸出量(千トン)	0	0	0	0	0
生鮮国内消費量(千トン)	4,500	4,500	2,594	2,600	2,500
加工仕向量(千トン)	11,009	11,009	9,738	9,738	10,540
総仕向量(千トン)	15,509	15,509	12,332	12,338	13,040

公式データは、[PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

注: ブラジルの販売年度と米国の販売年度の間には1年のずれがある。例えば、2024/25ブラジル販売年度は、2023/24米国販売年度に相当する。データの継続性を確保するため、本レポートでは2025/26ブラジル販売年度を2024/25年度と表記する。

総論

当事務所は、2024/25年度(7月～6月)のブラジル産オレンジの総出荷量を3億2千万箱(40.8kg/箱(以下同))、すなわち1,300万トンと予測する。これは2023/24年度に関する当事務所の推定値(3億箱、すなわち1,230万トン)と比較して5.4%の増加となる。ブラジルは1988年以来最低だった今シーズンの大幅な減少にも拘わらず、次年度にはやや回復すると予想される。ラニーニャ現象により降雨が平常化し、気温が下がると予想されるため、次の収穫(2024/25年度)は、今シーズン(2023/24年度)からの改善が見られるものと予想される。

2023/24年度のブラジルのオレンジ収穫量は、過去35年間で最少となる見込みである。当事務所の情報提供者らは、オレンジがサンパウロ州の歴史上最も早い未熟な開花に直面したことを肯定した。雨が降り始

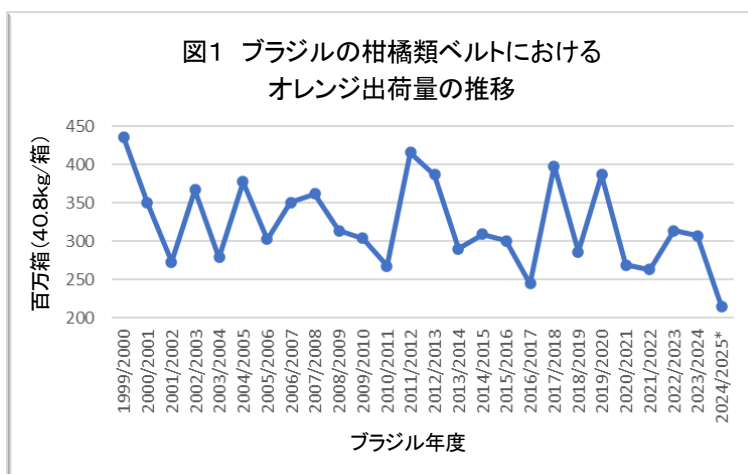
めた後、非常に暑く乾燥した夏があり、乾燥した冬が続いた。このため、9月の開花による果実はうまく肥大しなかった。複数回の開花があったが、品質が低かったため、収穫量は予想をはるかに下回った。サンパウロ州がこのような干ばつに直面したのは、2014年以來である。さらに、理想より平均2〜3℃高い気温も収穫量に悪影響を与えた。しっかりした灌漑システムがない園地では、生産に大きな影響が出た。灌漑された地域では影響が少なかったが、今シーズンは井戸水の減少により灌漑された地域でも苦戦した。

乾燥した天候により、サンパウロ州の北西部とミナスジェライス州西部の「トリアングロミネイロ」(ミナスジェライス州の三角地帯)から成る柑橘類ベルト(柑橘類地帯)では、5シーズン連続で果実の生産量が減少した。当事務所の情報提供者らによると、柑橘類ベルトではより多くの灌漑が必要である。

2024年の10月以降、雨はより定期的に降り、開花が改善された。オレンジの木は、収穫ごとに生産量が変動する多年生植物である。言い換えれば、収穫量が少ない年の翌年は通常収穫量が回復し、その逆もまた然りである。このことにより、当事務所は2024/25年度の生産の回復を予想している。

柑橘類栽培保護財団(Fundecitrus)が2024年12月に発表した最新データによると、2023/24年度の柑橘類ベルトの生産量は、2億2,314万箱、すなわち合計880万トンと推定される。これは前年(3億700万箱)に比べて8,400万箱の大幅な減少であり、342万トンの減少に相当する。同財団は、トリアングロミネイロ地域の生産量を1,479万箱、サンパウロ州の生産量を2億830万箱と推定している。

ブラジルでは、オレンジ生産量の約20%が生鮮果実として市場に出回り、80%が果汁の製造に使用される。ブラジルで生産される主なオレンジ品種は、ハムリン、ウェスティン、ルビー、バレンシアアメリカーナ、セレタ、パイナップル、BRSアルボラーダ、ペラリオ(ペアオレンジ)、バレンシア、「フォリヤムルチャ」バレンシア、ナタールである。ブラジルの柑橘類産業は高度に工業化されている。



出典: Fundecitrusのデータにより当事務所が作図
2024/2025*(ブラジル年度)は予測値

上のグラフ(図1)は、ブラジルの柑橘類ベルトにおけるオレンジ生産量の推移を示しており、25年間にわたる大きな変動を映し出している。生産量は、1999/2000ブラジル年度の4億5千万箱(1,836万トン)から、前年度(2022/23ブラジル年度)から27.3%の減少が予測される2023/24ブラジル年度の推定2億2,314万箱(880万トン)までの開きがある。

柑橘類ベルトは収穫量の多い時、特に2011/12、2012/13、2017/18、2019/20各ブラジル年度においては平均4億箱(1,632万トン)を出荷した。現在のFundecitrusの予測は、ピークから50%減少し、1988/89ブラジル年度の2億1,400万箱以来の低さである。Fundecitrusによると、現在の減少の主な理由は依然として暑く乾燥した天候のため、果実が例年より少なく小さいことである。2024年5月の降雨量は予想よりも悪く(31%少ない)、秋と冬の高い気温により蒸発散が増え、果実の成熟と収穫のペースが加速した。

当事務所は、2024/25年度のオレンジの果重を、天候回復のため当事務所の2023/24年度の推計値で

ある160グラムよりも1.25%重い162グラムと予測する。Fundecitrusは、2023/24年度に40.8kg入りの箱を満たすには261個の果実が必要になると予測しており、これは2024年5月の推定値よりも23個多く、2024年9月の推定値と比較すると3個少ない。Fundecitrusの2023/24年度の予想果重は平均156グラムで、当初の予測である169グラムを下回っている。もし、予想されている果重が公式数値になると、2023/24年度の平均果重は過去10年の平均(163グラム)よりも軽くなる。

生産



ブラジルの果樹園で集められたオレンジの袋

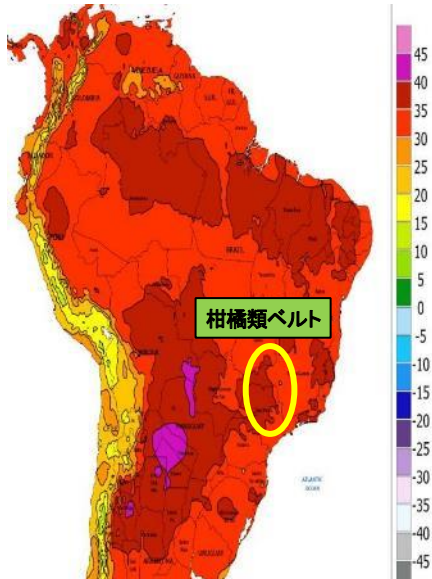
ブラジルは世界最大のオレンジ生産国の一つである。2024年11月のビジネス誌「Exame」によると、ブラジルは世界のオレンジ生産量の34%と世界のオレンジ果汁市場の75%を占めている。

ブラジル地理統計院(IBGE)のデータによると、柑橘類ベルトは2023年現在、ブラジルのオレンジ果樹園面積の約84%を占めている。

柑橘類ベルトは、カンキツグリーンング病(黄龍病=HLB)の症状が見られる植物の発生率がブラジルで最も高い地域である。Fundecitrusが発表したデータによると、その深刻度は様々であるものの、柑橘類ベルトのオレンジの木の44%がカンキツグリーンング病の影響を受けている。

気候予測センター(CPC)は、2024年11月から2025年1月までにラニーニャ現象が発生する確率は75%で、中立的な気象パターンとなる確率が25%であると推定している。

図2 ブラジルの極端な最高気温(°C)
2024年11月24日~30日



出典: NOAA/CPC

左の図2の地図は、2024年11月24日~30日のブラジルの高温の様子を示している。柑橘類ベルトの赤い影の部分は、華氏86~104度(摂氏30~40度)の地域を示している。

エルニーニョ現象の影響で、乾季は予想よりも早く始まり、例年よりも深刻であった。その結果、今シーズン(2023/24年度)は河川の水位が低かった。

ブラジル国立自然災害監視警報センターは2024年8月に、柑橘類ベルトの市町村の6%が深刻な、76%が中程度の、18%が軽度の干ばつ状態にあることを指摘した。

ラニーニャ現象は、降雨と気温を変え、ブラジルを含む地球上の様々な地域に通常の気象条件を取り戻すと予想される。

栽培面積

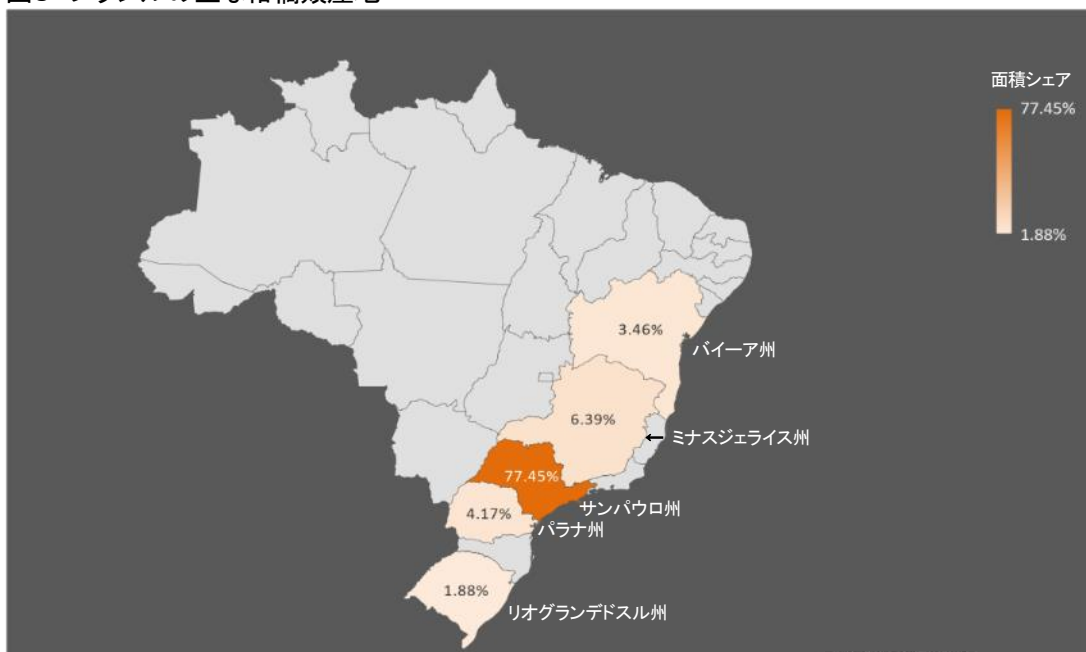
当事務所はIBGEが発表したオレンジの公式数値に基づき、2024/25年度のオレンジの栽培面積を、前年度の推定値と同じ59万ヘクタールと予測する。マツグロツドスル州、ミナスジェライス州、パイア州等での栽培面積の拡大が、柑橘類ベルトでの面積の減少を埋合せるものと予想される。

サンパウロ州は、植栽本数と果樹の登録データを取りまとめている唯一の州である。2024年12月に発表されたFundecitrusの作物データによると、サンパウロ州の2023/24年度の結果樹本数は2024年5月の推定値と同じ合計1億6,854万本で、柑橘類ベルトの栽培面積は40万6,266ヘクタールと推定される。

生産者はカンキツグリーンング病の発生率の低い地域を求めため、一部の生産は柑橘類ベルトの区域を超えて拡大している。バイーア州はブラジルで4番目に大きなオレンジ生産州であり、IBGEによると2023年の生産量は61万トンである。バイーア州が位置する北東部では、年間を通じて暑い気候と不規則な降雨のため、オレンジの出荷は8月から10月にわたって分散している。

下図3は、IBGE (2023) のデータに基づく主な柑橘類産地を示す。それによると、柑橘類ベルトのサンパウロ州が77.45%、ミナスジェライス州が6.39%を占め、その他パラナ州が4.17%、バイーア州が3.46%、リオグランデドスル州が1.88%を占めている。

図3 ブラジルの主な柑橘類産地



出典：IBGE 2023 (2024年9月12日更新)、当事務所による作図

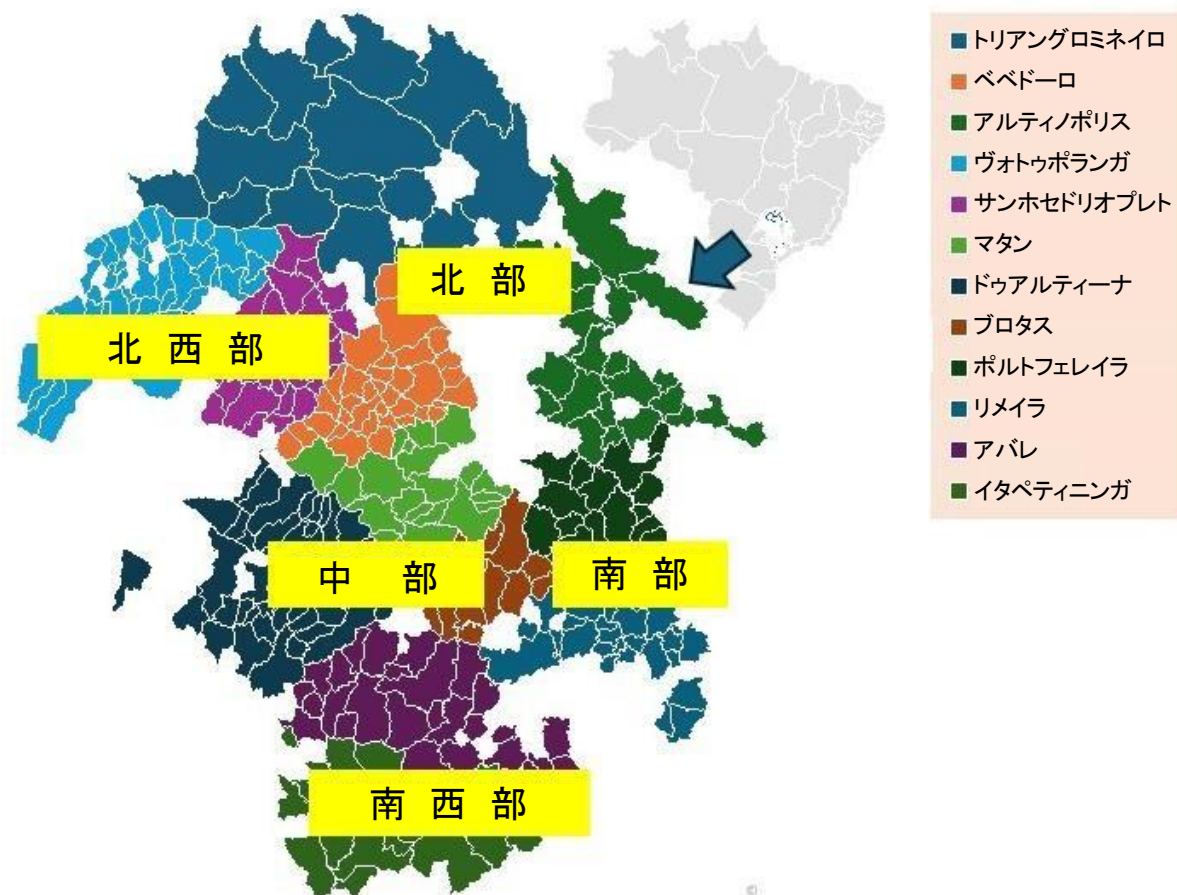
ブラジルの柑橘類ベルトは、北部、北西部、中部、南部、南西部の5つの地域で構成されている。ブラジルには約5千のオレンジ農場があり、そのほとんどが生産性の高い大規模生産者である。病虫害のほか、生産コストの高さと労働力の不足により、多くの小規模生産者がこの業界から遠ざかった。

当事務所の情報提供者らが2023年に報告したところによれば、1つの柑橘類農場への投資には約4千万リアル(744万米ドル)の費用がかかる。

図4の地図は、柑橘類ベルトの5つの地域区分(北部、北西部、中部、南部、南西部)それぞれのオレンジ栽培地域を示している。オレンジの栽培が最も集中しているのは6万1,031ヘクタールのドゥアルティーナ地域と6万566ヘクタールのアバレ地域である。

一方、栽培面積が最小のプロタス地域は1万13ヘクタールである。トリアングロミネイロ地域には2万9,296ヘクタールがあり、地図上では北部に紺色で示されている。果樹園の密度は、同じ地域の中でも非常に不均一なことがある。

図4 ブラジルの柑橘類ベルト(地域区分)



出典: Fundecitrusのデータにより当事務所が作図

当事務所の情報提供者らは、現在の灌漑施設が不十分であるため、実施中のプロジェクトの中で灌漑への投資がブラジル北部の農業戦略の1つであることを明らかにした。

オレンジの生産量は、ミナスジェライス州とマツグロツドスル州で増加している。マツグロツドスル州での柑橘類栽培の拡大を促進するため、地元州政府は2024年12月3日に政令第16527号を公布し、加工用オレンジにかかる複数の州にまたがる事業の税負担を軽減した。

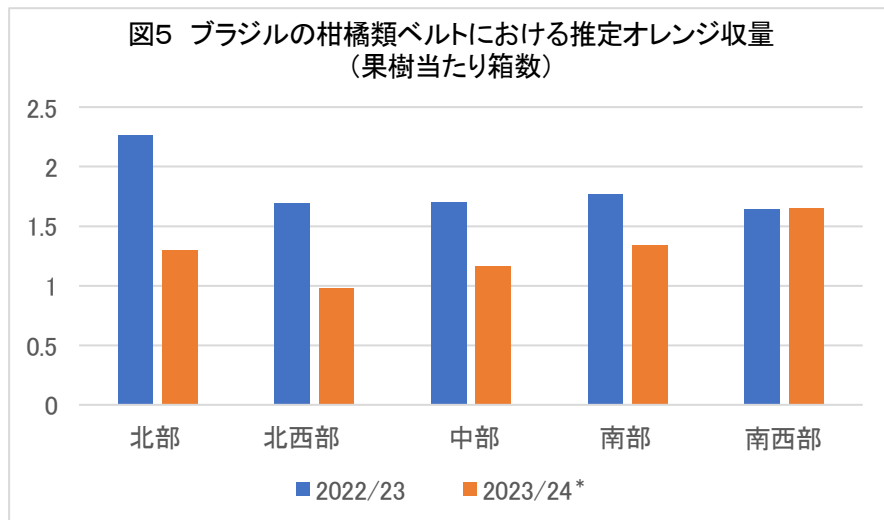
当事務所の情報提供者らは、今後4～5年以内に、柑橘類ベルトの外での柑橘類の生産拡大の一環として、4万ヘクタールの増加があると予想している。マツグロツドスル州の通信社は2024年11月に、ある企業が同州で5億レアル(8,300万米ドル)のプロジェクトに投資し、灌漑施設を備えたオレンジ農場を整備し、可能であれば果実を搾汁する工場を建設することを明らかにした。マツグロツドスル州の灌漑の取組みは、柑橘類ベルトにおける生産量の減少を埋合せる可能性がある。

当事務所の情報提供者らによると、柑橘類農場の新設に伴う課題は、電力の引き込みとインフラへの投資等である。マツグロツ州(マツグロツ州はマツグロツドスル州とは別の州)では、柑橘類の栽培面積は2023年時点では485ヘクタールであったが、2025年までに2万5千ヘクタールに達すると見込まれている。

果樹台帳と収量

当事務所は、2024/25年度のブラジルのオレンジ果樹登録総本数を、2023/24年度の推定総本数2億3,870万本と比較して1.36%多い2億4,200万本、そのうち2億本が結果樹、4,200万本が未結果樹であると予測する。

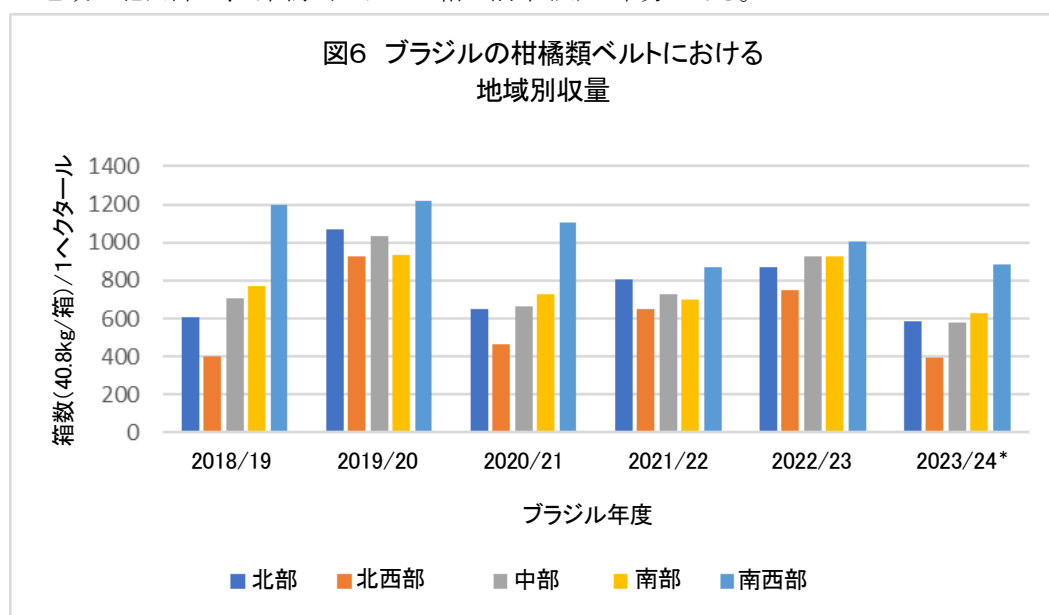
2024/25年度の収量について当事務所は、課題のある今シーズン(2023/24年度)の生産量からの回復を考慮し、2023/24年度の推計値(果樹1本当たり1.4箱)より5%多い、果樹1本当たり1.5箱と予測する。



出典: Fundecitrus 当事務所が作図

* 2023/24 は Fundecitrus による推計値

上の図5のグラフは柑橘類ベルトについて、前回の収量とFundecitrusによる今回(2023/24年度)の予測収量を示しており、今回は平均1.32箱となっている(前年の予測は1.81箱)。南西部は1果樹当たり1.65箱で、最も生産性の高い地域として際立っているものの前年(の全体平均)に比べて8%少なく、最も生産性が低い地域は北西部で、1果樹当たり0.98箱で前年(同)の半分である。



出典: Fundecitrus 当事務所が作図

*推計値

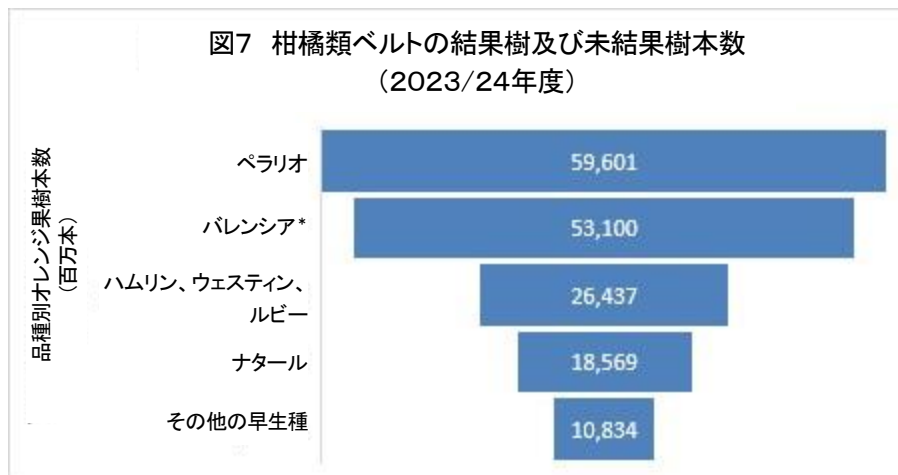
上の図6のグラフは、ブラジルの柑橘類ベルト(サンパウロ州とトリアングロミネイロ地域)における1ヘクタール当たりの生産性を、過去5シーズン及び現在の2023/24年度(2024/25ブラジル年度)のFundecitrusの推計値について、地域別に表したものである。

このグラフは、南西部の生産性が14.4%低下した(Fundecitrusの2023/24年度の推計値と前年度の比較)にもかかわらず、1ヘクタール当たり883箱と際立っていることを強調している。最も生産性の低い地域は北西部で、1ヘクタール当たり392箱と前回の収穫量を358箱下回ると予測される。南部、北部、中部地域で

は、それぞれ1ヘクタール当たり627箱、588箱及び575箱が生産されると予測される。

当事務所の情報提供者らによると、柑橘類ベルトの果樹の生産寿命は15年である。このため、15年で全てが更新されるよう、果樹の7%を毎年改植する必要がある。

下の図7は、どの品種が柑橘類ベルトで最も多く栽培されているかを示している



バレンシア*はバレンシア及び「フォリヤムルチャ」バレンシア

その他の早生品種はバレンシアアメリカーナ、セレタ、パイナップル及びアルボラーダ

出典: Fundecitrus 当事務所が作図

Fundecitrusは、2023/24年度の柑橘類ベルトの果樹本数の推計値を1,685億4,267万本に据え置いた。ペラリオ品種は柑橘類ベルトの果樹本数の35%を占めると見られ、2023/24年度の前回の予想から1ポイント減少する。バレンシアは31%、ハムリン、ウェスティン、ルビーはそれぞれ16%を占めると推定される。



ブラジルの果樹園のナタールオレンジの木

柑橘類の生産者は、収量を最適化し生産量を高めるため様々な戦略を採用している。一般的な方法の1つは、果樹園の周縁部に樹勢の弱い果樹を植えることである。これにより害虫の密度を管理できる可能性が有るが、昆虫が樹勢の強い果樹を求めて果樹園の内部に侵入し、意図した成果を得られないこともあるため、常に効果的であるとは限らない。限界はあるものの、これは、柑橘類ベルトの様々な地域の生産者が採用してきた戦略である。

収穫に関しては、生産者は収穫の際、特に高さ4メートルにも成長する可能性のある樹齢20年の古い果樹から果実を摘むために、左の写真に示すようなはしごの使用に替わる方法を探している。手作業による収穫を容易にするために、柑橘類生産者は果樹の樹体を小さくしたり、技術を改善したりしている。

2024年末に十分な降雨量があったため、2024年後半から2025年前半にかけて果実の出荷量が増加すると予想される。

バレンシア、ナタール等の晩生のオレンジは果実がフルサイズに肥大する可能性があるが、他のオレンジでは前作のサイズに達しない可能性がある。

カンキツグリーニング病

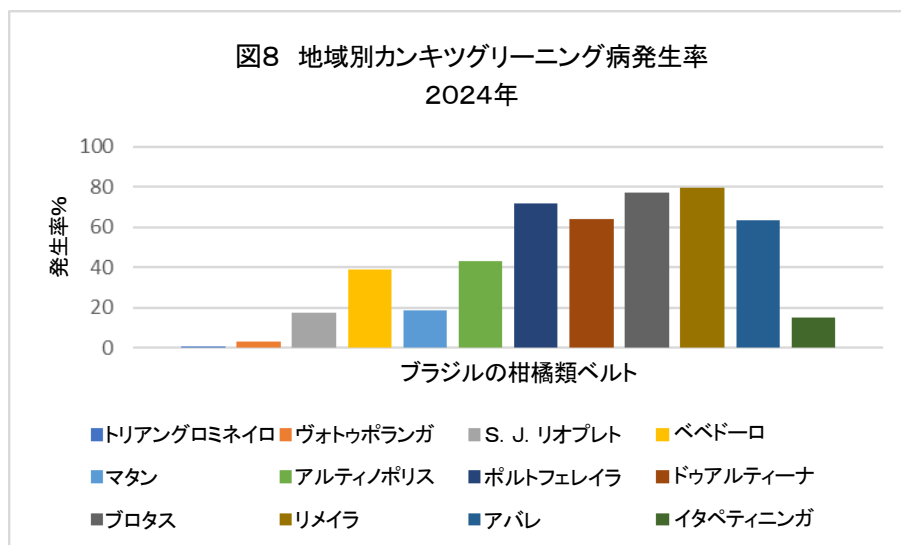
黄龍病(HLB)すなわちカンキツグリーニング病は、罹患性の植物内で急速に増殖し高い個体数に達する細菌による病害である。影響は果実の減少、小玉化、奇形、苦味である。未熟果が落果し、最終的には樹勢が弱まり、他の病害による被害を受けやすくなる。ブラジルでは、柑橘類ベルトにおいて被害がより顕著である。Fundecitrusによると、2024年には、サンパウロ州とトリアングロミネイロ地域南東部の果樹園のカンキツグリーニング病発症率が44.35%に達した。カンキツグリーニング病を撲滅する上での主な課題の1つは、媒介昆虫が変異を起こし、それを駆除するための有効成分に対して免疫を持つようになることである。

当事務所の情報提供者らは、カリオフィレンと呼ばれる天然の忌避剤、カオリンと呼ばれる非化学的技術、活力のある台木の使用等、カンキツグリーニング病と戦うための新しい化学物質や農法が開発されていることを確認している。

2024年9月のFundecitrusのデータによると、柑橘類ベルトにおけるカンキツグリーニング病の平均発生率は44.35%で、これは約9,036万本の果樹に相当する。この割合は、2023年の推定38.06%の1.165倍である。再度推定された発生率は、2023年の42.55%に対し、2024年には48.64%で、1.143倍であった。

Fundecitrusによると、短期的には、カンキツグリーニング病の発生率は増加すると予想されるが、従来に比べて増加速度が遅くなる可能性がある。これは主に、2024年のミカンキジラミの個体数が前年に比べて減少したことと、病害のリスクが低い柑橘類ベルトの周辺地域に新しい果樹園が設置されたためである。これらの地域では、この病害がブラジルで初めて発見されて以来、過去20年間に蓄積された知識と経験を活かし、カンキツグリーニング病対策は予防を優先する。

中長期的には、柑橘類ベルトの拡大だけでなく、総合的病害虫管理や最新の技術を用いた育種等、より効果的な解決策の開発・実施により、カンキツグリーニング病の発生率は減少することが予想される。現在進行中の研究は引き続き、ミカンキジラミを管理・駆除し、感染した果樹の損失を軽減するための、より効率的で持続可能な方法を模索している。さらに、バイオテクノロジーを駆使したプロジェクトは、革新的な解決策を推進し、遺伝子編集技術を応用して柑橘類の防御力を強化することに焦点を当てている。これらのアプローチは、柑橘類生産をカンキツグリーニング病から保護するための多面的な戦略を意味している。



出典: Fundecitrusのデータにより当事務所が作図

上のグラフ(図8)に反映されているFundecitrusの疾病調査では、柑橘類ベルトでカンキツグリーニング病の発生率が最も高い地域は、リメイラ(発生率が2023年の73.87%から2024年には79.38%に上昇)、プロタス(68.53%から77.06%)、ポルトフェレイラ(59.65%から71.77%)、ドウアルティーナ(55.66%から63.93%)及びアパレ(54.79%から63.41%)であることが示されている。

消費

当事務所は、2024/25年度のブラジルのオレンジ消費量を、当事務所の2023/24年度の推計値(260万トン)と比較して3.8%減となる250万トンと予測する。国内需要を満たすため、輸入が増加する。

なお、国内市場向けの「非濃縮(NFC)」オレンジ果汁の製造のために加工業者に仕向けられる果実は、生鮮オレンジの消費量としてではなく、「NFC製造のための加工業者への納入」として計上される。生鮮国内消費量の推計値は、オレンジ生産量の推計値と加工仕向量(国内消費用及び輸出用に製造される冷凍濃縮オレンジ果汁(FCOJ)及びNFCの原料として加工業者に出荷されたオレンジの量)の差として計算される。

目に見える消費量を捉えたオレンジの消費に関する公式データはない。当事務所の情報提供者らによると、生鮮オレンジの消費量の減少は、価格がこれまでに観測された中で最高の水準に達したためである。

貿易

長年にわたり、ブラジルの生鮮オレンジの貿易量は少ない。(輸出量は実質的にゼロ)

<オレンジ果汁>

生産需給統計表

次の表は、2023/24、2024/25各ブラジル年度におけるオレンジ果汁の製造、供給、流通の改訂データと、2025/26ブラジル年度の最新の予測を示している。上記のブラジル年度は、それぞれ2022/23、2023/24及び2024/25の各米国年度に相当する。

この表には、ブリックス値66の冷凍濃縮オレンジ果汁(FCOJ)に換算された輸出用の非濃縮果汁(NFC)が含まれている。

換算係数：ブリックス値66のFCOJの1トンは、ブリックス値11.6のNFC5.4～5.6トンに相当する。

表2 ブラジルのオレンジ果汁の生産需給統計

オレンジ果汁 販売年度の始まり ブラジル	2022/2023		2023/2024		2024/2025
	2023年7月		2024年7月		2025年7月
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	今回推計値
原料果実の加工仕向量(トン)	11,009,000	11,009,000	9,738,000	9,738,000	10,540,000
期初在庫量(トン)	9,000	9,000	8,170	8,170	4,000
製造量(トン)	1,080,337	1,080,337	930,000	930,000	1,011,840
輸入量(トン)	0	0	0	0	0
総供給量(トン)	1,089,337	1,089,337	938,170	938,170	1,015,840
輸出量(トン)	1,006,167	1,006,167	874,170	874,170	953,840
国内消費量(トン)	75,000	75,000	60,000	60,000	58,000
期末在庫(トン)	8,170	8,170	4,000	4,000	4,000
総仕向量(トン)	1,089,337	1,089,337	938,170	938,170	1,015,840

*注：ブラジルの販売年度と米国の販売年度の間には1年のずれがある。例えば、2024/25ブラジル販売年度は2023/24米国販売年度に相当する。データの継続性を確保するため、本レポートでは2025/26ブラジル販売年度を2024/25年度と表記する。

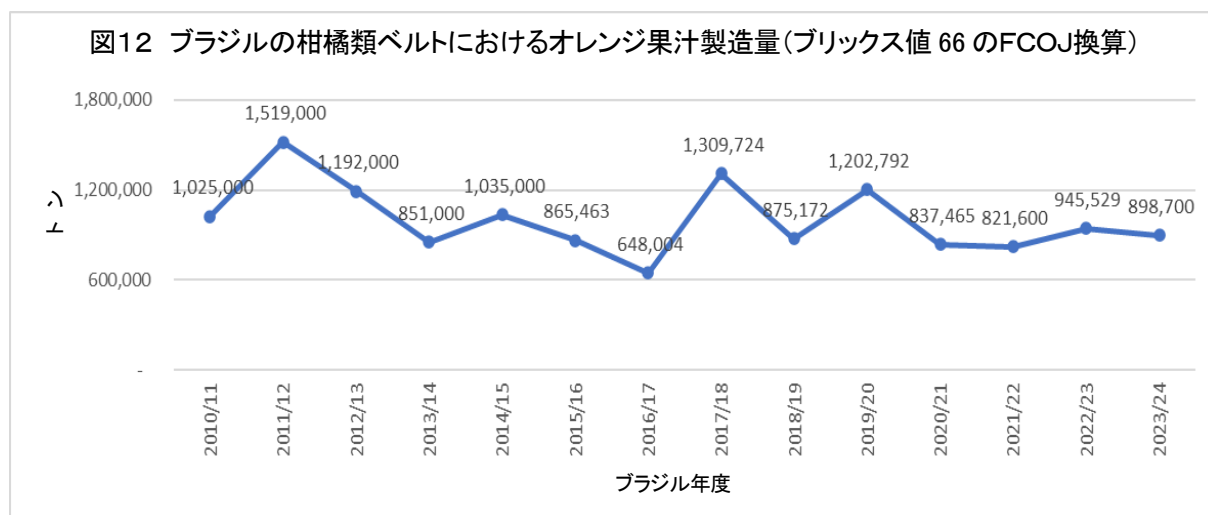
製造

当事務所は、天候の回復とカンキツグリーニング病の抑制の改善を見込み、2024/25年度のブラジルのオレンジ果汁製造量(ブリックス値66のFCOJ換算)を、当事務所の2023/24年度の推計値(93万トン)より8%多い100万トンと予測する。今年度(2023/24年度)の収穫では、干ばつ、極端な高温、及びカンキツグリーニング病の発生の増加によって、加工用果実の入手が難しくなった。

産業的な加工では、2種類の果汁が製造される。1つ目は濃縮冷凍果汁(FCOJ)で、蒸発プロセスを経て体積が6分の1になり、糖度の尺度であるブリックス値が66に達する。2番目のタイプは非濃縮果汁で、低温殺菌のみを経てブリックス値12の天然の濃度で輸出される。

オレンジ果汁製造業はサンパウロ州に集中しており、ミナスジェライス州がそれに続く。果汁のほとんどがCitrusBRの会員であるシトロスコ社、クラーレ社及びブレイドレフュス社によって製造されている。2024年の干ばつの間、果汁業界は早期の収穫を余儀なくされた。その結果、オレンジは小さく、理想的なブレンドを実現するためにはより多くの果実が必要であった。

ブリックス値66に標準化された濃縮果汁は、加工業者によって水分と香りを追加される。FCOJを1トン製造するごとに、6トンの全果汁が必要である。



出典: CitrusBRのデータにより当事務所が作図

上のグラフ(図12)は、ブラジルの柑橘類ベルトにおけるFCOJ製造量(ブリックス値66換算)の推移を示している。過去10年の間に2010/11年度(2011/12ブラジル年度)の約160万トンのピークに達したが、2021/22年度(2022/23ブラジル年度)から2022/23年度(2023/24ブラジル年度)にかけては5%減少した。

消費

当事務所は、2024/25年度の国内のオレンジ果汁消費量(ブリックス値66のFCOJ換算)を、価格の上昇により2023/24年度の推計値(6万トン)よりも3.3%少ない5万8千トンと予測する。

オレンジの不足により、果汁業界はミックス風味の果汁を発売するようになった。オレンジの入手の難しさと価格の上昇が相まって、企業はマンゴー果汁とオレンジ果汁を混合して最終消費者に混合果汁として販売するなど、2つ以上の果実の組み合わせを品揃えに組み込むようになった。他の企業では、ビジネス雑誌「Exame」が注目しているように、水を加えてネクターにしたり、ボトルのサイズを1リットルから700ミリリットルに縮小したりしている。アグリビジネス誌「Revista Globo Rural」によると、一部の企業は従来はオレンジ果汁のみだった飲料にリンゴ果汁を加え始めた。

柑橘類セクターに迫っている脅威の1つは、世界的なオレンジ果汁の消費量の減少である。国際果実野菜果汁協会(IFU)によると、ヨーロッパではボトル入り果汁の価格上昇が消費者に転嫁されたことを反映し、オレンジ果汁の2023年の消費量が15~20%減少した。当事務所の情報提供者らによると、FCJ(冷凍濃縮果汁)の需要は約25%減少し、NFCの需要はわずかに増加した。

柑橘類関係者にとって現在懸念されるのは、消費者基盤の先細りであり、長期的には他の代替品への切り替えにつながる可能性がある。この消費量の減少は、オレンジ果汁の幅広い消費者基盤を脅かしている。現在、オレンジ果汁の最大の競争相手は、ネクター等の希釈オレンジ果汁である。

ブラジルでは、NFCの消費量が前回の収穫以来大幅に増加しており、一部の大企業は、現在の消費者の好みに合わせながら、需要を満たすために生産を増やしている。NFCはより劣化しやすく、より困難でコストのかかる物流を必要とする。NFCの賞味期限は35日間であるが、他のフレーバーと混ぜると最大45日まで

延長できる。対照的に、濃縮果汁は賞味期限が2年で、ブレンドすることができる。さらに、生鮮果汁は、その風味の保証を自然に頼っているが、輸送中に味が失われないようにする技術にも依存している。

Globo Rural 誌の分析によると、果汁ブランドやプライベートブランドは、2025年初頭に先進国市場で価格を引き上げることが必要となり、その結果、消費量がさらに減少する可能性がある。

なお、オレンジ果汁の消費量には、NFC消費量をFCOJ相当に換算したものが含まれている。

貿易

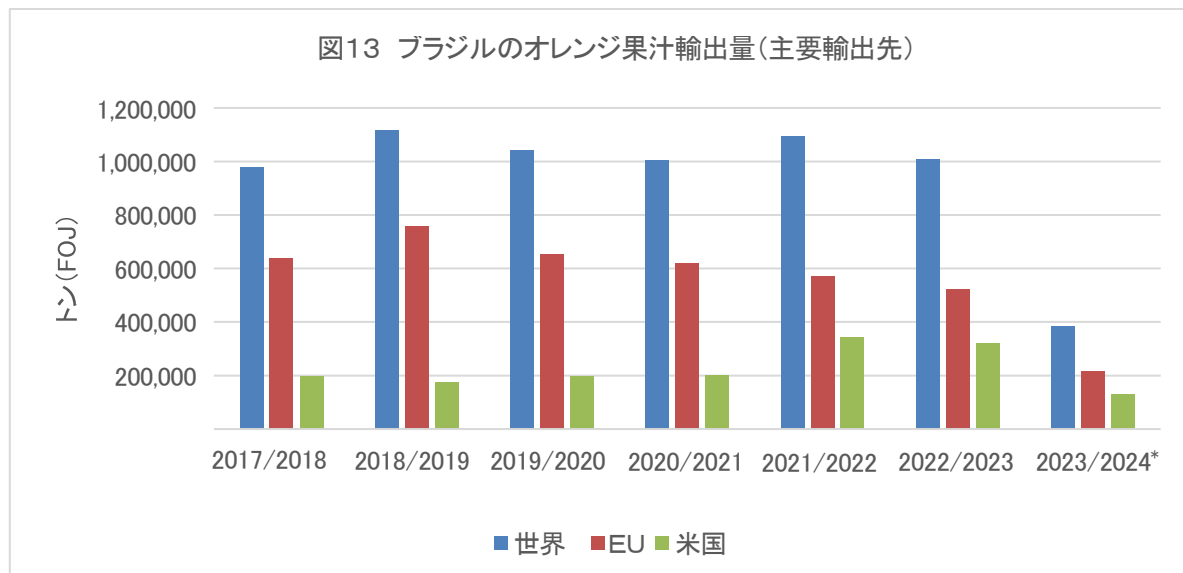
ブラジルでは、オレンジ果汁は濃縮果汁と非濃縮果汁に加工され、世界中に流通している。ブラジルは世界最大のオレンジ果汁輸出国であり、世界で販売されているオレンジ果汁の75%を占めている。オレンジジュースの10杯に7杯はブラジルで製造されたものである。

最大の輸出市場は欧州連合(EU)で、米国がそれに続く。これらの市場ではオレンジ果汁の消費量がわずかに減少しているが、供給はさらに速いペースで減少しており、これはブラジルの果汁工場の在庫が少なく、次の収穫に向けてカンキツグリーンング病が増えると予測されているためである。一方、軟調な見通しに対抗するため、ブラジルは最近、オレンジパルプ(果実繊維)等他のオレンジ製品を、特にアジア市場に輸出しようとしている。

輸出

当事務所は、2024/25年度のブラジルの輸出量(ブリックス値66のFCOJ換算)を、当事務所の前年の推計値(87万4,170トン)に比べ8.5%多い95万3,840トンと予測する。これは、生産量の増加に繋がる天候の回復見込みによるものである。2023/24年度については、ブラジルは2024年7月から10月までの期間に30万5,898トンのFCOJを世界に輸出し、そのうち9万2,660トンが米国に、7万6,912トンがEUに輸出された。

2024年の柑橘類栽培の収益は、オレンジ果汁の抑制的な供給、価格の上昇、及び海外の需要により増加した。2023/24年度の第1四半期の収穫に該当する2024年7月から9月までの期間のオレンジ果汁の輸出額は、合計8億5,040万米ドルであった。これは輸出額が5億9,370万米ドルで終了した前年同期と比較して43.23%の増加となる。一方、輸出量(ブリックス値66のFCOJ換算)は前年比で27%減少した。



出典: TDM 当事務所が作図

FOJは、冷凍濃縮オレンジ果汁(ブリックス値66)への換算を示す

2023/24*年度: 2024年7月~2024年11月

ブラジルのオレンジ果汁の主要市場は引き続きヨーロッパであり、2024年7月から9月までの出荷量は12万1,502トンで、2023年の同時期の17万825トンから30%減少した。オレンジ果汁の世界への総輸出額は

5億1,120万米ドルで、前シーズン第1四半期の3億5,940万米ドルから42.51%増加した。米国への出荷量は、2022/23年度の同時期に輸出された8万3,667トンに対し、19%減の6万7,323トンとなった。

Exame誌によると、果汁の供給を保証し、輸出を維持するために、一部の業者、特にサンパウロ州(2023年のオレンジ生産量が2.22%減少)の業者は、果汁に加工するためバイーア州からオレンジを購入した。

輸入

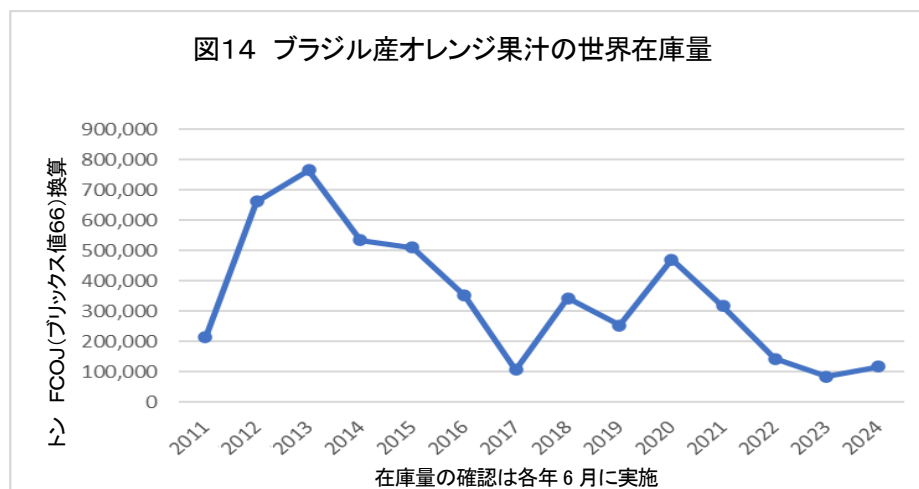
ブラジルはオレンジ果汁を輸入していない。

在庫

当事務所は、2024/25年度のオレンジ果汁(ブリックス値66換算)の期末在庫量を、当事務所の情報提供者らの在庫量は低位に留まるとの情報に基づき、昨年の推計値と同じ4千トンと予測する。在庫量には、ブラジル国内のオレンジ果汁施設(加工場、港湾ターミナル等)の貯蔵タンク内の在庫のみが含まれる。当事務所の情報提供者らによると、オレンジ果汁の在庫は需要に応じて放出される。

CitrusBRの世界在庫量には、ブラジル国内の加工場や港湾ターミナルの貯蔵タンクにあるオレンジ果汁と海外(世界中の船舶や港湾施設)の在庫が含まれる。10年前には、オレンジ果汁の在庫は100万トンを超えていた。

業界誌「Hortifruti Magazine」によると、入庫量が少なく、2023/24年度の製造量が限られているため、来シーズンの果汁在庫の回復は難しい可能性が高い。



出典: CitrusBRのデータを使用して当事務所が作図

上の図に示すとおり、2024年6月30日に確認されたCitrusBR会員企業が保有するオレンジ果汁の世界在庫量(FCOJ換算)は、前年同期の8万4,745トンから37.7%回復し、合計11万6,710トンとなったが、これは史上3番目に低い値であった。

CitrusBRによると、前シーズンと比較して3万1,900トン回復したものの、現在の在庫水準は依然として低い。このセクターは、過去30年間で最小の収穫期を迎えており、シーズンを通して供給の混乱が起こる可能性がある。

2023/24年度の需給予測を考慮すると、在庫量はもう1年間は歴史的な低水準にとどまると予想され、これにより2025年前半の国際価格は高水準で推移すると予想される。

346. ペルー ブルーベリー輸出量は当初の予測より4.1%増加

[FreshPlaza](#) 2024年12月20日

ペルーの2024-25年度のブルーベリー輸出量は32万4千トンに達する勢い

ペルー産ブルーベリーの2024-25年度の輸出総量が、当初の予測を4.1%上回る32万3,928トンに達すると予想され、ペルーは世界最大の輸出国としての地位を確固たるものにする。ペルー・ブルーベリー生産者輸出業者協会(Proarándanos)の統括マネージャーであるルイス・ミゲル・ベガス氏によると、この成果は、市場の多様化、品質の向上、消費者の期待への対応等の戦略によるものである。

米国は従来からペルー産ブルーベリーの最大の輸入国であり、輸出の53%を占めている。しかしながら、ペルーは20カ国以上に輸出先を拡大しており、ヨーロッパと中国が重要な市場として台頭してきている。この多角化戦略は米国市場への依存度を低下させ、現在、輸出の25%を欧州が、14%を中国が、5%を英国が吸収している。

ベガス氏は、ブルーベリーの97%が海上輸送されており、物流が世界市場におけるペルーの存在感にとって重要であると指摘している。産地と国際港を効率的に接続することは、製品の品質を維持する上で不可欠である。

ブルーベリーの主力栽培品種がビロクシからベンチュラやセコヤポップ等のより新しい品種へと変化したことは、市場の需要に応じたペルーの適応力と革新を反映している。この変化は、市場におけるペルーの競争力にも貢献している。

ペルーのブルーベリー輸出のうち有機栽培品は現在11%で、成長を続けており、持続可能な栽培方法への取り組みと、有機農産物に対する消費者の嗜好への対応を示している。

これらの進歩にもかかわらず、業界は競争的な価格圧力や気候変動の影響などの課題に直面している。品質を犠牲にすることなく競争力を維持するには、技術革新と持続可能な栽培方法が必要であるとベガス氏は指摘している。

ブルーベリーセクターは、主要産地であるラリベルタ、ランバイケ、イカの各県等の地域に多くの雇用を提供し、地域経済を支えることで大きな影響を与えた。同氏は、ペルーの何千もの家族に収入とチャンスを生み出すこの業界の重要性を強調している。

出典: [Blueberries Consulting](#)

347. 南アフリカ 生食用ブドウ輸出が23%増加

FreshPlaza 2024年12月20日

南アフリカ産生食用ブドウの輸出検査数量は12.6%減少したものの輸出量は23%増加

南アフリカの生食用ブドウ業界は、2024/25年度シーズンについて、2024年第50週(12月の第2週)までの輸出検査数量と実際の輸出量の傾向が一致していないと報告している。輸出のために検査された箱数は合計1,099万箱で、昨年と比較して12.6%少なく、これは北部諸州とオレンジ川流域での早生品種の収量が減少したためであった。しかし、輸出量は前シーズンに比べて23%多い751万箱に達し、これは物流の改善と在庫量の減少によるものだとされている。

5つの主要産地のうち3つ(北部諸州、オレンジ川流域、オリファンツ川流域)は積極的に梱包を行っており、一方ベルク川流域とヘックス川流域は出荷開始の準備段階にある。検査数量では、プライム(127万箱)、アーリースイート(34万9,685箱)、ミッドナイトビューティー(25万4,317箱)等が特に注目される。輸出量も同様の傾向で、これと同じ3品種が多い。ヘックス川流域では第51週に梱包を開始する予定であり、ベルク川流域の生産者の大部分は第52週に開始すると見られる。すべての地域で好天に恵まれたことは、中生品種の収穫に関して良い兆候であり、生産者は品質の高い作物を期待している。

輸出先は引き続きEUと英国が主体で、出荷量の87%を受け取り、7%が北米に送られる。ケープタウン港のコンテナターミナル(CTCT)の改善により効率が上がり、1時間当たりのクレーンの総稼働回数は前年の11回から18回に増加した。CTCTは、生産性の向上と関係機関間のコミュニケーションの強化のために、強風時の対応の改善やリーファーコンテナの管理の改善など、いくつかの対策を講じた。

地域別に見ると、北部諸州では早生品種の収穫が遅れたため11%減の292万箱が梱包された。オレンジ川流域では昨年より12%少ない803万箱が梱包されたが、中生品種は好調である。オリファンツ川流域では、収穫の遅れによる71%の減収を反映して、梱包箱数はわずかに4万4,099箱と大幅に減少した。ナミビアは、シーズン序盤の業績が好調で、前年比10%増の758万箱が検査を受けたと報告している。

世界的には、ペルーとチリによる輸出市場の拡大が続いている。チリは、北米市場及び中南米市場の成長に牽引されており、輸出量は2%増の1億2千万箱と予想される。ペルーは当初、25%増の1億4,200万箱と予測されていたが、主要産地での水不足により予測を修正した。両国は、変化する市場の需要に対応するため、オータムクリスプ、ティンプソン等の新しいブドウ品種に投資している。

南アフリカのブドウ産業は、好天と物流の改善により、早生品種の収量の低さや世界市場で見られる水の制約という課題にもかかわらず、今シーズンを成功に導くための好位置につけている。品質を維持し、国際的な需要に効率的に対応することが、引き続き取り組みの中心となる。

南アフリカ生食用ブドウ協会のレポート全文は [こちら](#)

348. ブラジル チリと日本へのハスアボカド輸出に向け準備中

[FreshPlaza 2024年12月23日](#)

ブラジルはチリと日本への2025年のハスアボカド輸出に向けて植物検疫措置を準備

サンパウロ州政府の農業・供給局(SAA)農業保護調整部(CDA)は、傘下の植物防疫センター(CDSV)を通じ、2025年から検疫措置を実施する計画を発表した。この措置は、中央政府の農牧省(MAPA)国家植物検疫保護庁と輸入国の担当機関との合意に基づき、ハス種のアボカドのチリ及び日本への輸出を促進することを目的としている。

農業技師であり、州の植物検疫証明及び植物製品輸出事業の責任者であるクリスティーナ・アビ・ラチェドロスト氏は、2025年にハスアボカドの輸出が増加することを予想していると述べた。サンパウロ州がブラジルの主要産地であることから、輸出の急増は地域の総産出額を押し上げるものと期待される。

輸入国の基準を遵守するため、それぞれの国に存在しない害虫の侵入を抑制するための植物検疫措置が実施される。予定される取り組みは、チリ向けの輸出におけるアボカドシードモス(*Stenoma catenifer*)のリスク管理、日本へのチチュウカイミバエ(*Ceratitis capitata*)の流入を防ぐための果実の成熟段階のモニタリング等である。

同氏は、「これらはほ場でのモニタリングが必要な継続的な措置であるため、原産地における植物検疫証明書が要件遵守の基礎となる。CDAは、認証に基づく出荷を可能にするため、課せられた要件が遵守されていることを確保する責任がある」と述べた。

チリ向けの査察手続きは終了し、定められた期限に間に合わせるため、地域の農業保護事務所への登録が進行中である。必要な書類と手続きはCDAのウェブサイトからアクセスできる。日本向けについては、輸出手続きが策定の見込最終段階にあり、1月にはこれを確定して関係者に共有することとなっている。

出典: [Abrafrutas](#)

349. 南アフリカ産リンゴがタイへのアクセスを回復し、輸出機会を拡大

[FreshPlaza 2024年12月23日](#)

南アフリカ・トゥルーケープ果実販売会社は、クリスマス直前に市場アクセスが許可されたことを受けて、リンゴを再びタイに輸出できるようになったというニュースを歓迎している。

同社の執行責任者であるロールフ・ピーナール氏は、これについての熱意を表明した。(以下「」は同氏の話)

「南アフリカが長年失っていたタイの市場に再びリンゴを輸出できるのは素晴らしいことだ。タイが極東におけるリンゴの新たな輸出先となることは、弊社の販路を大幅に強化するものである。」

ふじ、ジョヤ、ロイヤルガラなどの品種が、このタイ市場へのアクセスの恩恵を受けることとなっている。同氏はまた、ピンクレディー品種のリンゴについて将来的に良い結果を期待していると述べた。園芸業界団体のHortgroによると、南アフリカのリンゴ輸出は過去10年間で40%急増し、これは主に極東とアジアへの輸出に牽引されており、同国のリンゴ輸出全体の約35%がこの地域に向けられている。

南アフリカの業界がタイの取引業者や消費者にあらためてリンゴを紹介することを目的とした市場開拓キャンペーンを開始する準備を進める中、同氏は、中国市場と同様に、新しい市場の開拓には時間がかかることを認めている。「ニュージーランド産のリンゴは長年にわたりタイで確固たる地位を築いてきた。そのため、我々の成功を最大化するために利用できる市場機会について十分に理解する必要がある。我々は、この挑戦と、それによりタイの消費者に弊社のリンゴを提供することを心待ちにしている。」同社は現在、世界の105以上の市場にリンゴとナシを輸出している。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

350. メキシコ ベリー類の生産と輸出が減速

[Blueberries Consulting 2024年12月23日](#)

全国ベリー類輸出業者協会(Aneberries)のファン・ホセ・フローレス会長は、市場規模が量的に約11%の縮小を記録したことに言及した上で、メキシコのベリー類の生産と輸出は近年、労働力不足、投入コストの上昇、為替市場の変動などの要因により課題に直面していると述べた。同会長は、ベリー類(イチゴ、ブラックベリー、ラズベリー及びブルーベリー)の輸出量は、2023年の54万1千トンに対して2024年には約52万9千トン(前後の記述と一致しないが原文のまま)になると推定している。

メキシコ農業メディア・ジャーナリスト協会(AMEXMA)と国際農業ジャーナリスト連盟(IFAJ)が主催した第2回農業ジャーナリズム・プレストアーの中のインタビューで、同会長は、これと同様の輸出と生産量が減少するシナリオは来年も予想されると述べ、「減速は、マクロ経済の問題によって説明される。ドルに対するペソの上昇は助けにならず(有害であり)、投入コストの増加や気候変動も同様だ」と強調した。

輸出のリーダー しかし同会長は、メキシコが米国・カナダ向けベリー類の主要な輸出国になったことを強調した。2021-22年度の収穫期までは、数量の増加は好調であった。しかし、2022-23年度及び2023-24年度からは、「我々は約17%の輸出減少について話している」と同会長は述べた。同会長は、このセクターはメキシコシティにおける重要な雇用創出者であると強調した。6万3千ヘクタールでの栽培は50万~60万の職を創出している。その労働者は主に女性であり、最低賃金の3倍から4倍を稼いでいる。毎週約250万ペソ(約2千万円)が賃金として支払われ、産地の経済を後押ししている。

生産動向 メキシコ農業省と米国農務省(USDA)のデータによると、メキシコの2023年のベリー類の生産量は、合計54万980トンであった。種類別の内訳は次のとおりである。ブルーベリー 7万4,067.40トン、ラズベリー 12万1,842.40トン、イチゴ 26万7,587.90トン、ブラックベリー 7万7,482.50トン

公式の情報に基づく同協会統計部の計算では、2024年のメキシコのベリー類の生産量は約48万6,881トンとなる可能性がある。種類別の推定値は次のとおりである。ブルーベリー 6万317トン、ラズベリー 10万5,133トン、イチゴ 24万9,116トン、ブラックベリー 7万2,314トン

新たな市場を開拓 同会長は、これらの課題にもかかわらず、同協会は市場の多様化と新しい地域での存在感の向上に引き続き注力していると説明した。これは、アラブ首長国連邦やサウジアラビア等の国々への輸出を強化する現在の取組に示されている。同会長は、「28カ国に輸出するほか、引き続き政府と協力して韓国、インド、タイなどの国々にも働きかける。多様化は我々にとって非常に重要である」と述べた。輸出に関しては、メキシコ産ベリー類の95%が北米の米国・カナダ向けであり、残りの5%はヨーロッパ、アジア等の市場に向けられ、オランダ、英国、日本等が主な輸出先となっている。

輸出の重要性にもかかわらず、同会長は、同国の国内需要を増やす大きな可能性があることから、メキシコ人のベリー類の消費を促進する必要性を強調した。これに関連して、国内消費を奨励するキャンペーンを推進するため、労働省、農業農村開発省(Sader)、同省農業食品衛生安全品質局(SENASICA)、及び関係州政府との一層の協力が求められている。

これらの戦略的提携を通じて、より強固な消費習慣を創出し、ひいては国内の生産者の利益になるよう、同協会はメキシコ市場でのベリー類の販売促進を強化することを目指している。同会長は、「メキシコの人口を再びベリー類の大消費者にしたいのであれば、マーケティングに尽力する必要がある。我々メキシコ人は、もっとベリー類を消費しなければならない。研究、マーケティング、及び大規模な国際センターでのプレゼンスに力を入れる必要があるが、それには多くのリソースが必要である」と述べた。

同会長は、長期にわたる持続可能な生産のための中心軸としての持続可能性についても語った。同会長は、特定の灌漑技術により、ハリスコ州の一部のベリー類生産者達が生産における水の消費量を30%削減し、また肥料への依存も減らすことに成功したことを強調した。

351. トルコの柑橘類事情(タンジェリン/マンダリン)

米国農務省GAINレポート 2024年12月23日

これは米国農務省海外農業局のアンカラ事務所(トルコ)が作成した「柑橘類年次報告書」の背景及びタンジェリン/マンダリンの項を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

背景

2023/24年度の過剰生産とは対照的に、2024/25年度の柑橘類の総生産量は、開花期の過度の暑さと収穫期の干ばつにより、36%減の約500万トンと予測される。これらの気象条件は、トルコ農林省(MinAF)の取組みにもかかわらず、有害な病害虫(特にチチュウカイミバエ)の蔓延を悪化させた。昨年度の過度の生産量と、その結果多くの生産者が果実を収穫せずに樹上に残すという決定を行なったことも、今年の実産に悪影響を及ぼした。2023/24年度のトルコの柑橘類の生産量は、前年比90%増の780万トンであった。

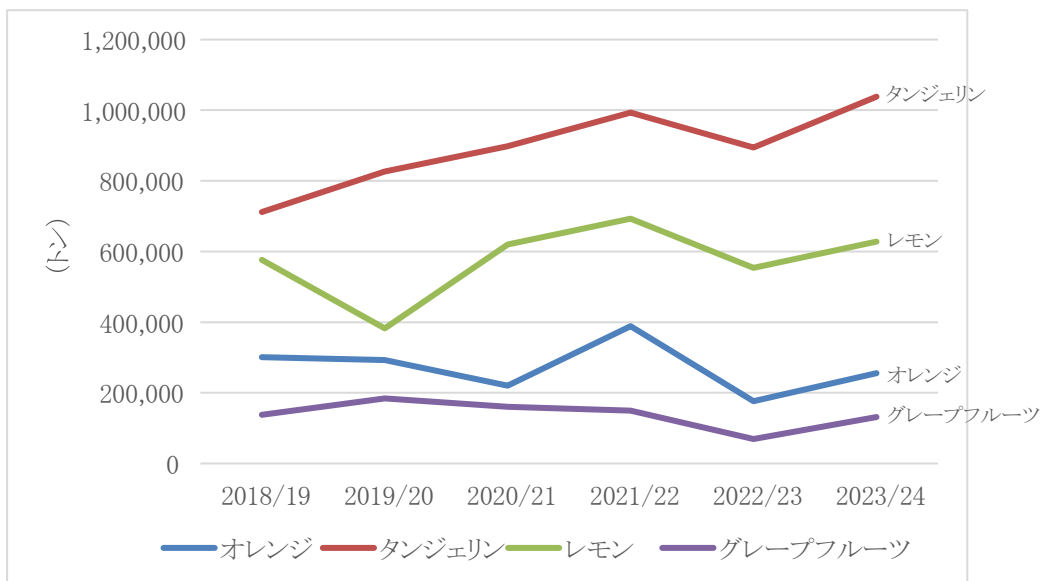
トルコの柑橘類生産者は、今シーズンの果実の品質に懸念を抱いており、高い投入コストと低い農場価格に引き続き苦勞している。さらに、トルコでは柑橘類は気候変動の影響を大きく受けている。生産量の減少が見込まれることから、スーパーマーケットでの柑橘類の価格上昇が予想される。当事務所への情報提供者らによると、一人当たりの年間消費量は28~31kgで、最近の暖冬のために減少傾向にある。

「農業生産計画」と題された政府の新政策は、2025年に発効する。この計画では、水の浪費を防ぐことを目的として、土壌の傾斜が6%未満の果樹園では柑橘類を含む果樹の植栽が許可されない。情報提供者らによると、新しい政策は、特にほとんどの果樹園が平坦な低地にある地中海地域での柑橘類の生産をさらに減少させると見られる。

トルコの柑橘類輸出業者らによると、2024/25年度の輸出量は前シーズンよりも少ないものと予想されるが、彼らは、競合国の生産量の減少により輸出額が増加するものと期待している。

トルコでは、柑橘類の総生産量の40%が輸出され、その半分がロシア向けである。ロシア、イラク、ウクライナ、サウジアラビア及びブルーマニアが最大の輸出市場である。トルコの業界がターゲットとする成長市場は、日本、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴビナ及びポーランドである。トルコの柑橘類輸出業者らは、低い輸出単価(468ドル/トン)、高い投入コスト、及び物流の問題に関連して大きな逆風に直面している。2024年にはさらに、クロルピリホス等の残留レベルが高いことにより、柑橘類(特にオレンジ、グレープフルーツ、レモン)の輸入拒否が増加した。

図1 トルコの品目別柑橘類輸出量



出典: Trade Data Monitor, LLC

貿易業者らは、不安定な為替レート、国内の高いインフレ率、及び生産者物価の上昇により、彼らの輸出能力と利益率が低下し続けていると指摘している。また、情報筋は、余剰生産を克服し、競合国と競争し、上昇する輸出コストを管理するためにトルコ政府(GoT)からの輸出補助金が必要であると強調した。生産者と輸出業者はまた、支持価格安定化基金(DFIF)が将来の収益性にとって重要であることも指摘している。DFIFは、1980年に予算の枠組みの中で設立された基金であり、国の経済、生産、雇用の面で重要と見なされるセクターを支援するとともに、農業投入資材に補助金を提供することを目的としている。輸出業者らも、もし柑橘類のすべての品目にDFIFが提供されれば、梱包出荷施設から中国等の遠方の輸出市場に果実を送ることができるようになるかと述べている。

<タンジェリン/マンダリン>

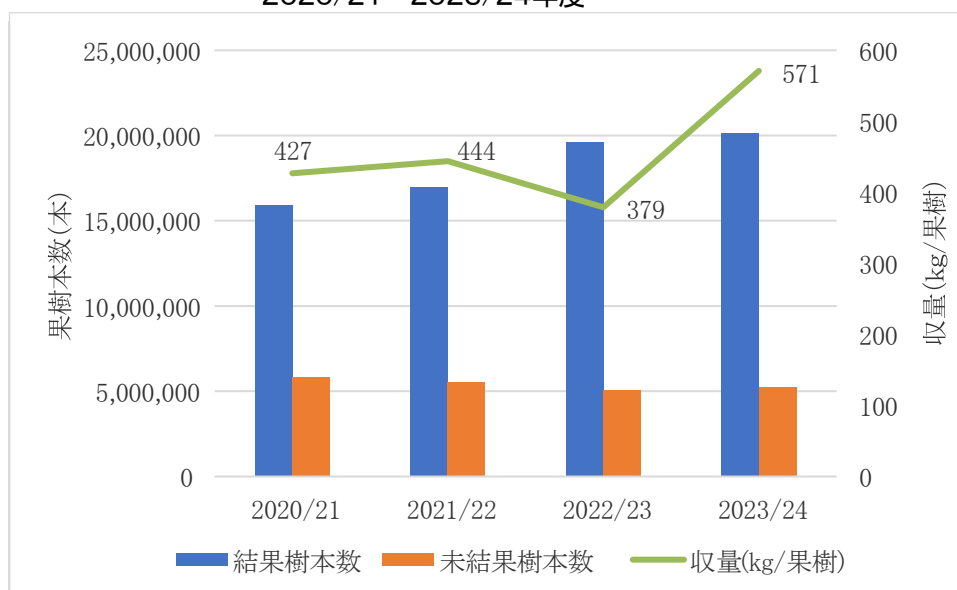
生産

2024/25年度のタンジェリン生産量は、2024年春の過度の暑さにより開花期の花が損傷を受けたため、35%減の188万トンと予測される。暑い天候条件にもかかわらず、果実の品質は引き続き安定していると見られる。早生品種のプリマソール、エアリーN、興津早生及び三保早生の収穫期は9月に始まった。収穫量の減少により農場出荷価格が高くなることが予想されるが、生産者は燃料、電気、肥料、作物保護資材等の高い投入コストを補うことができない。タンジェリン生産者の問題をさらに悪化させているのが、労働力不足である。

2023/24年度のタンジェリン生産量は290万トンで、2022/23年度(186万トン)より55%多い。この増加は、2023年3月の開花期の春雨と気温条件が良好だったためである。しかし、2023/24年度にはタンジェリンの生産量の3分の1が樹上に残され、2024/25年度の収量の低下につながった。

ウンシュウミカン(のタンジェリン/マンダリンの中)で最も広く生産されており、国内消費と輸出の両方において重要である。ウンシュウミカンの総生産量の80%が輸出される。伝統的に農地であったエーゲ海に近い土地で建設投資と観光投資が増加しているため、将来の生産量は不確実である。タンジェリンはトルコで最も多く生産される柑橘類で、その84%が地中海地域で生産されている。

図6 トルコのタンジェリンの結果樹本数、未結果樹本数及び1果樹当たり収量
2020/21～2023/24年度



出典: トルコ統計庁、2024

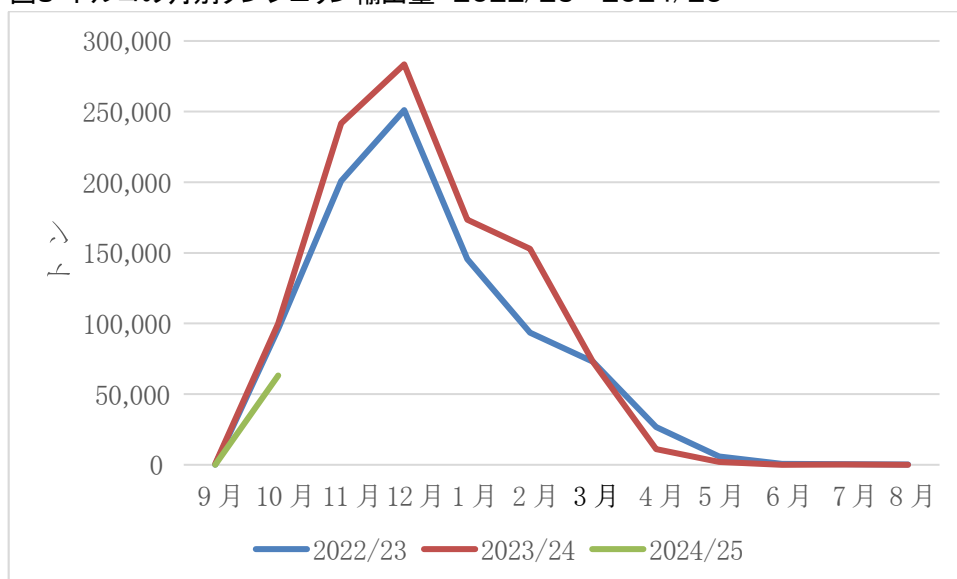
消費

トルコの2024/25年度のタンジェリン国内消費量は、生産量の減少と高い小売価格により100万トンに減少すると推定される。2024/25年度のタンジェリンの小売価格は、前年度に比べて80%上昇した(図7省略)。2023/24年度の消費量は、高い市場価格、輸出を増やすための継続的な努力、さらに遅い冬の始まり(トルコ人は冬により多くのタンジェリンを食べる傾向がある)にもかかわらず、生産量の増加により185万トンに増加した。2022/23年度の消費量は102万トンであった。

貿易

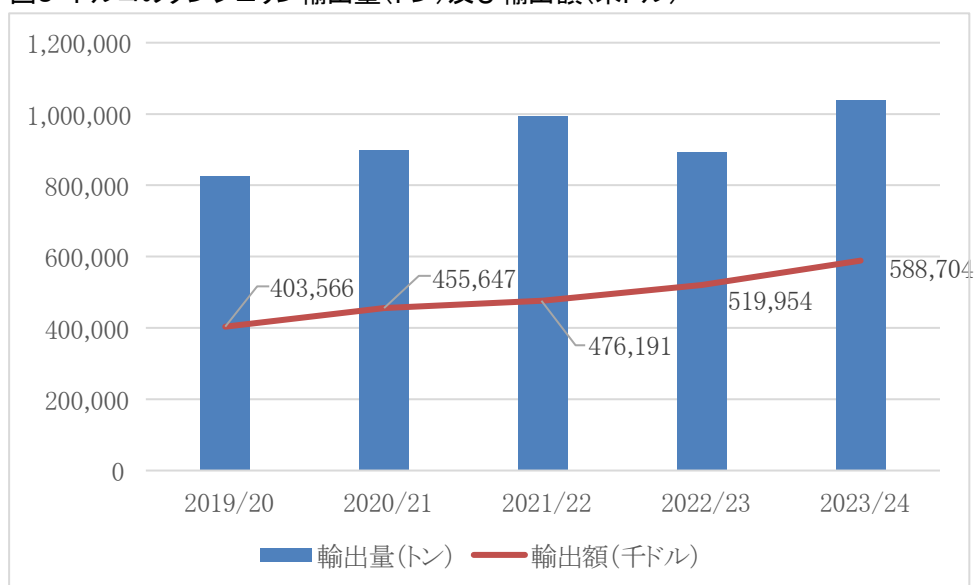
2024/25年度のタンジェリン輸出量は、生産量が少ないため20%減の83万トンと予測されるが、品質は良好であると見込まれる。今シーズンのロシアへのタンジェリン輸出の需要は低い。イラクへの輸出は、同国が果実と野菜の輸入を抑制すると前年度に決定したことを受け、2024/25年度の初めに85%減少した。トルコのタンジェリン輸出シーズンは9月に始まった。

図8 トルコの月別タンジェリン輸出量 2022/23~2024/25



出所: Trade Data Monitor, LLC.

図9 トルコのタンジェリン輸出量(トン)及び輸出額(米ドル)

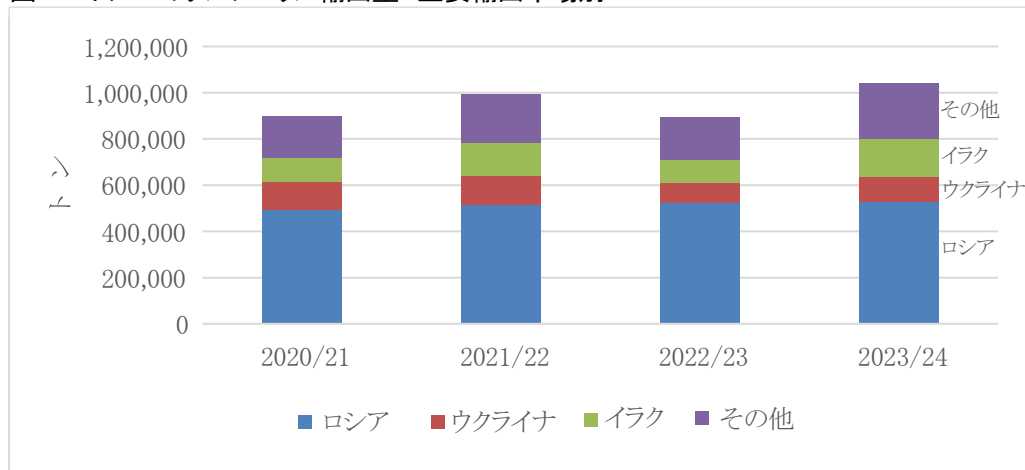


出典: Trade Data Monitor, LLC

2023/24年度のタンジェリン輸出量は、収量と品質の向上により、前シーズンより16%多く、100万トン達成した。2023/24年度のトルコの柑橘類の総輸出量の52%がタンジェリンであった。ロシア、ウクライナ、イラクが、トルコのタンジェリンの最大の輸出市場である。

トルコの輸出業者らは、為替レート(外貨)の高騰に対応するため、梱包と輸送のコストに関して、引き続きトルコ政府からの支援を求めている。彼らはまた、支持価格安定化基金(DFIF)も利用している。

図10 トルコのタンジェリン輸出量 主要輸出市場別



出典: Trade Data Monitor, LLC

オレンジと同様に、EU諸国へのタンジェリンの輸出には(残留農薬の)適合証明書が必要である。さらに、2022年1月現在、トルコ産タンジェリンの英国への輸出では、到着時の残留農薬検査が強化されている。検査の抽出率は現在50%である。

輸入

2024/25年度のタンジェリンの輸入量は、国内生産量の減少により微増の1万トンと予測される。2023/24年度には、トルコは8,106トンのタンジェリンを輸入したが、そのほとんどが北キプロストルコ共和国(TRNC)からであった。2022/23年度のタンジェリン輸入量は5万6千トンであった。トルコのタンジェリン輸入量は国内生産量に依存するが、TRNCからの輸入は、トルコがTRNCを経済的・政治的に支援する手段でもある。

表2 トルコのタンジェリンの生産需給統計

タンジェリン/マンダリン(生鮮) 販売年度の始まり トルコ	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	67,853	67,853	69,000	69,000	0	68,000
収穫面積(ヘクタール)	67,853	67,853	69,000	69,000	0	68,000
結果樹本数(千本)	19,620	19,620	21,000	21,000	0	20,000
未結果樹本数(千本)	5,053	5,053	5,000	5,000	0	5,000
果樹本数合計(千本)	24,673	24,673	26,000	26,000	0	25,000
生産量(千トン)	1,860	1,860	2,883	2,883	0	1,880
輸入量(千トン)	56	56	9	8	0	10
総供給量(千トン)	1,916	1,916	2,892	2,891	0	1,890
輸出量(千トン)	894	894	1,045	1,038	0	830
生鮮国内消費量(千トン)	1,021	1,021	1,846	1,852	0	1,059
加工仕向量(千トン)	1	1	1	1	0	1
総仕向量(千トン)	1,916	1,916	2,892	2,891	0	1,890

公式データには、[PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

352. トルコ 柑橘類とザクロの良好な年

[FreshPlaza 2024年12月24日](#)

トルコの青果物輸出業者アクスン社の販売部長であるアキン・ソイレレン氏は、今年は柑橘類とザクロが大変良好であったとして、「トルコに拠点を置く柑橘類輸出業者として、今シーズンの柑橘類事業の成功とザクロの優れた品質を報告できることを誇りに思う。トルコ産の柑橘類は、国際市場で引き続き信頼される選択肢となっている。今年はまた、鮮やかな色、優れたサイズ、さらに大変際立つ香りを備えたザクロの収穫も良好であった」と述べた。(以下「」は同氏の話)

同氏は、同社の事業のうち包装と物流の面をさらに改善するために投資を行ったと説明する。「我々の事業は、果樹園から梱包施設まで、地元の資源に深く根ざしている。今年は、世界の取引先の進化するニーズを満たすために、プレミアムな包装と最適化された物流への取組みをさらに強化した。一貫性と革新性を優先することで、弊社はトルコの製品の品質を重視するバイヤーとの関係を強化している。」

物流上の課題を受けて、同社はアジア以外の市場に注力することを選択した。「トルコリラが強い(原文のまま)ため、輸出事業を着実かつ戦略的に進めることにした。効率を高め、一定の輸出戦略を維持し、事業の安定性を確保するため、投資的を絞っている。スエズ運河の封鎖など、現在の世界的な課題を踏まえ、極東アジアへの輸送時間の長さや遅延の可能性を考慮し、この地域への出荷を最小限に抑えることで対応した。この調整により、我々は最善の鮮度と信頼性で農産物を提供できる市場に集中することが可能になる。」

2024年は同社にとって総じて良い年であり、彼らは2025年に進むことに期待を持っている。「今シーズンの成果は、競争の激しい世界的な状況におけるレジリエンス(困難に対する回復力)と戦略的思考の重要性を強調している。取組みの結果を報告できることを嬉しく思い、今後のシーズンもこの勢いに乗っていきたい。」

執筆者: ニック・ピーターズ (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

353. ニュージーランド リンゴの収穫開始はやや早くなる予想

[FreshPlaza 2024年12月24日](#)

「特にギズボーンとホークスベイで収穫がやや早くなると予想される」

2024年はニュージーランド産のリンゴに関して素晴らしいシーズンであったとして、ファーンリッジフレッシュ社の輸出販売担当役員であるカート・リビングストン氏は、ほとんどの品種がすべての市場で好調だったと述べた(以下「」は同氏の話)。「2024年は品質が良かった。2年続きで悪天候に見舞われた後、『普通のシーズン』を迎えることができて良かった。リンゴはすべての市場で好調で、生産者により収益をもたらした。」

同社は、2024年8月までにリンゴを売り切った。「中国はニュージーランド産のリンゴ、特にロイヤルガラとNZクイーンにとって最も重要であった。他のアジア諸国でも好調であったが、米国と南アフリカからの供給が増加したため、明らかに圧力がかかった。」

KORU®の再ブランド化 同社は2024年にKORUリンゴのリブランディングを行い、同氏によると市場での反応は大変良かった。「新しいブランディングはプロモーション活動の増加と相まって、KORU®ブランドが好調なベトナムで特に効果的であった。」

2025年のリンゴの作柄 「ニュージーランドの今シーズンの収穫は大変良さそうだ。見た目がきれいで、果実は早くから良いサイズになっている。これまでのところ春から夏にかけて気温が高く、最近の良い時期に雨が降った。新しいシーズンが始まるのが楽しみである。気象被害はなく、春は暖かく穏やかで、素晴らしい夏の始まりを迎えた。収穫は、特にギズボーン、ホークスベイ両地域でやや早くなると予想している。市場について語るのはまだ早いですが、今シーズンのニュージーランド産リンゴはアジア市場が好調だと予想している。ニュージーランドでは優れた品質を提供することを重視しており、市場は常にそれに報いてくれる。」

執筆者: ニコラ・マクレガー (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

354. 韓国の柑橘類事情(タンジェリン/マンダリン)

米国農務省GAINレポート 2024年12月27日

これは米国農務省海外農業局ソウル事務所(韓国)が作成した「柑橘類年次報告書」の概要とタンジェリン/マンダリンの項を翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

概要

韓国の2024/25販売年度(年度)の柑橘類生産量は、減少傾向の栽培面積と悪天候により、2.6%減の56万5千トンと10年ぶりの低水準になることが予測される。韓国の柑橘類のほぼ全てが栽培されている済州島では、9月中旬までの長期にわたる夏の熱波と、その後の秋の多雨により裂果や腐敗果を生じた。2023/24年度には、他の国産果実(リンゴ、ナシ、カキ)が不足したため、消費者が十分に供給された国産ミカンと輸入オレンジで代用するようになり、消費量がそれぞれ4.3%及び11.5%増加し、柑橘類全体の消費量が増加した。2024/25年度には、輸入果実の緊急関税割当が更新されないと予想されるため、主に米国からである生鮮オレンジの輸入は減少すると予想される。米国は2024年6月にテキサス州産グレープフルーツの市場アクセスを獲得し、最初の荷は12月に韓国に到着する予定である。

<タンジェリン/マンダリン>

表1 韓国のタンジェリン/マンダリンの生産需給統計

タンジェリン/マンダリン(生鮮)	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2022年10月		2023年10月		2024年10月	
販売年度の始まり	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
韓国						
栽培面積(ヘクタール)	19,871	19,871	19,720	19,726	0	19,514
収穫面積(ヘクタール)	18,679	18,679	18,537	18,537	0	18,343
結果樹本数(千本)	23,348	23,348	23,171	23,171	0	22,929
未結果樹本数(千本)	6,458	6,458	6,409	6,409	0	6,342
果樹本数合計(千本)	29,806	29,806	29,580	29,580	0	29,271
生産量(千トン)	582	582	570	580	0	565
輸入量(千トン)	1	1	3	3	0	4
総供給量(千トン)	583	583	573	583	0	569
輸出量(千トン)	3	3	4	4	0	3
生鮮国内消費量(千トン)	514	514	514	536	0	526
加工仕向量(千トン)	66	66	55	43	0	40
総仕向量(千トン)	583	583	573	583	0	569

公式データは [PSD Online Advanced Query](https://psd.fas.usda.gov/) からアクセスできる。

生産

韓国の2024/25年度(2024年10月～2025年9月)のタンジェリン/マンダリン(ミカン類)の生産量は、前年の58万トンに比べて2.6%(1万5千トン)の減となる56万5千トンと予測される。これは5年間の平均生産量である61万2千トンよりも約8%少なく、柑橘類生産量が過去10年間で最低であることを示している。この減少の主な理由は、韓国の柑橘類総生産量の約70%を占める露地のウンシュウミカンの収穫量が、減少傾向の栽培面積、悪天候、及び隔年結果により減少したことである。

韓国の柑橘類のほぼ全てが栽培されている済州島では、2024年に夏の猛暑と収穫期(9月～10月)直前の頻繁な雨に見舞われたため、裂果、落果、腐敗果の割合が増加した。その結果、2024/25年度の市場性のある生鮮果実の生産量は減少すると予想される。秋の雨は特に極早生品種と早生品種の品質に影響を及ぼし、収穫を妨げた。レッドヒヤン等の一部の晩柑類でも深刻な裂果が生じた。

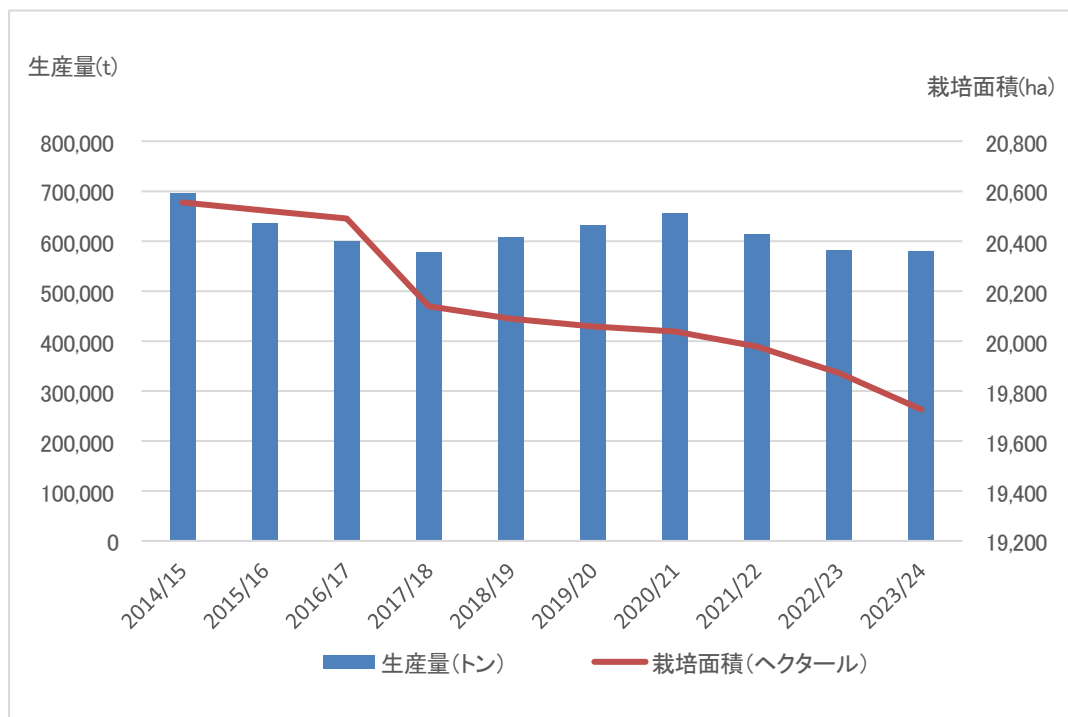
さらに、済州島の柑橘類生産の約65%を占める済州島南部のソギポ地域は、隔年結果の裏年に当たり、柑橘類生産量の全体的な減少にさらに拍車をかけた。済州島北部は通常、隔年結果のサイクルが逆であるため、2024年には表年となり、ソギポ地域の減少を部分的に埋め合わせた。

表2 韓国の柑橘類の生産量と栽培面積

	2019	2020	2021	2022	2023	5年平均
面積(ha)	20,059	20,038	19,978	19,871	19,726	19,934
収量(kg/10a)	3,147	3,268	3,069	2,938	2,937	3,072
生産量(トン)	631,310	654,864	613,118	581,858	579,432	612,116

出典: 済州特別自治道・農林畜産食品部(MAFRA)

図1 韓国の柑橘類の生産量と栽培面積



出典: 済州特別自治道

2024年9月に済州の柑橘類業界が実施した作物調査では、今シーズンの露地ミカンの生産量は前年(40万6千トン)と同程度の約40万トンと予測された。しかし、その後、頻繁な降雨により裂果や腐敗果が増加したため、予測を2万トン下方修正して38万トンとした。

柑橘類の総生産量の減少が予想されるにもかかわらず、済州産ミカンの全般的な品質は高いと評価されている。初期の品質テストでは、糖度が前シーズンと同等か、それよりわずかに高いことが示されている。さらに、ミカンの価格は、市場性のある果実の生産量の減少と果実の品質の高さの組合せにより、前シーズンに見られた高い価格水準に匹敵する堅調な状態が続くと予想される。

・悪天候が柑橘類の生産に影響

今年度の露地ミカンの生産量の減少は、主に夏の猛暑(裂果や落果に繋がった)による被害が大きかったことによる。韓国本土と同様に、済州島も夏の期間に記録的な熱帯夜(最低気温が摂氏25度を超える)を経験し、それは9月中旬まで続いた。済州の柑橘類業界によると、裂果率は例年の5%、昨年の8.2%に対し今年度は23.3%に急増した。今年度の裂果率は過去最高になると予想される。裂果や落果といった熱波の被害に加え、10月上旬の収穫期の長引く高温と頻繁な降雨により、収穫計画の混乱や腐敗果が発生し、事態が悪化した。その結果、今シーズンは市場性のあるミカンの生産量が大幅に減少した。

・栽培面積

韓国の2024/25年度の柑橘類栽培面積は、前年の1万9,726ヘクタールから約1%減となる1万9,514ヘクタールと推定される。柑橘類の栽培面積が徐々に減少するとともに、生産者がより収益性の高い品種に転換するにつれて温室栽培に移行するという最近の傾向が続いている。

2023/24年度の柑橘類の栽培面積は1万9,726ヘクタールで、前シーズンから0.7%減少した。柑橘類の総栽培面積のうち、露地ミカンの面積は1.1%減少し、晩柑類等の価値の高い品目の面積は1.2%増加した。済州の柑橘類業界は、近い将来の総栽培面積を約1万9千ヘクタールの横ばいと予測している。

栽培面積が減少する主な要因は、韓国の農業人口の高齢化と済州島の柑橘類農園周辺の不動産開発の問題であり、どちらも農場の閉鎖につながっている。この栽培面積の減少は、主に露地ミカン(高品質の晩柑類やその他の施設栽培品種と比較して、生産者の収入が低い傾向がある)が栽培されている地域で発生している。一方、露地ミカンの栽培面積の減少は、晩柑類や夏の温室ミカン等を生産する施設(温室)の面積の増加によって埋め合わされている。その結果、柑橘類の栽培面積全体は、それらが無い場合に比べてゆっくりとしたペースで減少している。

済州柑橘栽培者協同組合のデータによると、2000年の露地ミカンの栽培面積と生産量は2万4,261ヘクタール及び約52万トンであったが、これらのデータは徐々に減少し、2023/24年度には41%減の1万4,242ヘクタール及び21%減の約41万トンとなった。一方、主に施設(温室)で栽培される晩柑類の栽培面積と生産量は、2000年の665ヘクタール、1万617トンから、2023/24年度には4,172ヘクタール(527%増)、11万6,559トン(998%増)となり、過去20年間で生産量が10倍以上増加した。

・晩柑類

2024/25年度には、晩柑類の生産量は、前シーズンの11万7千トンよりも約11.5%多い13万トンに達すると予測されており、特に新設される温室の継続的な増加を反映している。この増加は、主要な露地ミカン(ウンシュウ)と比べて晩柑類生産者の収入が比較的高いことと、高品質な果実に対する消費者の需要が高まっていることによって推進されている。晩柑類の生産の大部分は、天候被害のリスクを軽減するために施設内で行われているが、一部の生産者はハルラボンのような晩柑類を露地で栽培でき、生産コストを削減できることを発見した。

2023/24年度には、主要な晩柑類であるハルラボンが、晩柑類の総生産量の33%を占め、チョンヒェヒャンとレッドヒャンは、それぞれ26%及び22%を占めた。さらに、他の晩柑類の生産は着実に増加しており、多様化の傾向を反映している。

・夏の温室ミカン

2024/25年度の夏の温室ミカンの生産量は、主に生産コストの増加、特に暖房費の上昇により新植の終了が予想されるため、前年と同様の約2万6千トンにとどまると予想される。この極早生品種は、春の数カ月の生育期間中に加温する必要がある。過去2~3年で、夏の温室ミカンの栽培面積は、国際的な石油価格の安定と消費者の需要の高まりに牽引されて徐々に増加した。しかし、昨今の国際原油価格の高騰に伴う暖房費関連のコスト負担の増加により、夏の温室ミカンの栽培面積は停滞することが予想される。

表3 韓国の夏の温室柑橘類の生産状況

年	栽培面積(ha)	生産量(トン)	販売額(百万ウォン)	生産世帯数	出荷単価(ウォン/kg)
2015	250	20,401	63,021	659	3,089
2016	284	21,660	76,087	697	3,513
2017	301	22,637	80,771	737	3,568
2018	321	22,898	81,046	783	3,539
2019	339	27,543	90,703	842	3,293
2020	363	25,358	100,603	887	3,999
2021	373	27,009	91,814	917	3,399
2022	415	25,775	99,506	961	3,861
2023	443	26,824	112,407	996	4,191
2024 ¹	445	27,000	該当なし	該当なし	該当なし

¹ 当事務所による暫定値

資料: 済州道政府、韓国農村経済院

・加工用ミカン

2024/25年度の柑橘類の加工(ミカン果汁濃縮物)用の利用は、前年(4万3千トン)に比べて約7%減の約4万トンと予想される。この減少は主に、露地ミカンの供給の減少と、国内のミカン価格の上昇期待が、生産者が生鮮市場に販売することの動機づけとなっているためである。さらに、2024年10月には、極早生ミカンに大きな被害が発生し、国内の濃縮物製造業者らは、今シーズンの加工用ミカンの買入量が目標である5万トンを下回ると予想している。

国内のミカンの価格を安定させるため、通常、柑橘類の総生産量の約13～15%(約6万～7万トン)が、濃縮物の製造に使用されてきた。しかし、近年、露地ミカンの生産量が継続的に減少しているため、濃縮物の製造に使用されるミカンの量も減少した。昨年は、柑橘類全体の生産量が減少し、生鮮果実の価格が高騰したため、柑橘類の総生産量の7.4%にあたる4万3千トンしか加工に使用されなかった。柑橘類濃縮物の生産量が全体的に減少したことで、日本への輸出も減少すると予想される。

加工用柑橘類の買入量が減少したため、済州の柑橘類業界は今年の買入価格を前年より30ウォン/kg高い210ウォン/kgに改定した。買入価格のうち、140ウォンは濃縮物製造業者の負担で、70ウォンが済州道政府からの補助金である。

韓国の果汁市場でも、加工用に買入れるミカンの量が減少し、濃縮オレンジ果汁の輸入が減少したため、柑橘類果汁製品の生産量が減少した。その結果、柑橘類の果汁と他の果汁を組み合わせた製品が増えている。

消費

2024/25年度の韓国の柑橘類の消費量は、国産露地ミカンの供給が減少するため、前年の53万6千トンから推定52万6千トンに約2%減少すると予想される。今年の生産上の課題により、通常1月下旬または2月上旬まで続くミカンの出荷シーズンは、1月中旬頃に終了すると予想される。生産量は減少するものの、高い品質(糖度)は維持されている。さらに、他の果実に比べて比較的手頃な価格であることから、ミカンは高い消費者需要を享受している。

過去5年間、韓国の一人当たりの柑橘類の年間消費量は約12kgの横ばいであった。韓国の2024/25年度の一人当たりの柑橘類消費量は、前年(11.8kg)と同程度の約11.7kgと予測される。

表4 韓国の果実と柑橘類の一人当たり消費量

年	全果実(kg)	ミカン合計(kg)
2015	59.8	12.5
2016	60.6	11.9
2017	61.2	11.6
2018	57.5	12.0
2019	56.6	12.1
2020	51.5	12.6
2021	54.4	12.2
2022	55.0	11.8
2023	該当なし	該当なし

出典: 農林畜産食品部

貿易

韓国の2024/25年度の生鮮柑橘類輸出は主に早生ミカンで、前年比25%減の3千トンと予測される。韓国の2023/24年度の柑橘類の輸出量は、ロシア市場での需要拡大に牽引され、前年比22%増の3,997トンに達した。今年度の減少は、主に輸出可能な露地ミカンの減少と、国内市場価格の堅調さによるものである。主な輸出先は、2023/24年度の柑橘類総輸出量の56%(2,234トン)を占めたロシアであると見込まれる。次に大きな市場はカナダと米国で、それぞれ12.3%(493トン)及び9.5%(379トン)を占めている。通常、韓国ではあまり人気のない大玉のミカンは、輸出用にとっておかれる。

韓国のミカン果皮が薄く、長距離輸送中に簡単に損傷を受けるため、輸出はいくつかの課題に直面している。さらに、生産コスト、特に人件費の上昇は、韓国の柑橘類のコスト競争力に影響を与える可能性があり、最近是国内の果実価格の上昇が果実を輸出市場から遠ざけている。その結果、近い将来、輸出量が急増する可能性は低い。

近年、韓国ではミカン類の輸入が増加している。特に、マンダリン(HSコード0805.21/22/29)は、2022/23年度には740トンに過ぎなかったが、2023/24年度には3,100トンに増加した。この増加は、特に韓国の消費者需要が米韓自由貿易協定(KORUS)に基づく関税の段階的撤廃に適応するのに伴って、今後も続く予想される。2024年に19.2%であるタンジェリン/マンダリンの関税は、2026年にはゼロになる。

表5 韓国のタンジェリン/マンダリン輸出

輸出貿易マトリックス				
国名: 韓国				
商品: タンジェリン/マンダリン(HS 0805.21/22/29) 単位: トン、千米ドル				
輸出先国	2022/23		2023/24	
	輸出量	輸出額	輸出量	輸出額
米国	399	808	379	904
その他				
ロシア	1,607	1,151	2,234	1,923
カナダ	522	516	493	503
香港	251	504	181	359
グアム	73	175	54	120
マレーシア	117	175	274	364
モンゴル国	33	69	43	82
シンガポール	216	684	241	819
上記以外	45	96	98	195
その他の合計	2,864	3,370	3,618	4,365
総計	3,263	4,178	3,997	5,269

出所: Trade Data Monitor LLC.

価格

2024/25年度には、生育期と収穫期の悪天候により露地ミカンの生産量が減少し、市場性のある果実が入手し難くなることから、露地ミカンの市場価格が高くなると予想される。この結果、市場価格は、国内の果実価格が堅調であった前年と同程度の水準で推移すると見込まれる。また、柑橘類の生産量が全体的に減少しているため、済州島での柑橘類の出荷は例年より早く終了すると予想される。通常、露地ミカンの出荷は2月まで続くが、昨年は1月末までにはほぼ完了した。今シーズンも早期に終了すると予想されており、その結果、果実市場ではミカンの価格が上昇する可能性がある。

2023/24年度の1月と2月のウンシュウミカン(10玉)の平均消費者価格は、小玉が4,301ウォン、中玉が5,208ウォンで、前年(2,829ウォン及び3,427ウォン)と比較して52%及び26%の上昇となった。この価格上昇の主な理由は、2023年に他の主要な国産果実(リンゴ、ナシ、カキ)の生産量が20~30%減少したため、ミカンの代替需要が増加し、果実市場でより高い価格を得ることができたことである。(1ウォン=約0.11円)

355. EUの柑橘類事情(オレンジ、オレンジ果汁)

米国農務省GAINレポート 2024年12月27日

これは米国農務省海外農業局のマドリード事務所(スペイン)が域内関係事務所の協力を得て作成した「柑橘類年次報告書」のエグゼクティブサマリー及びオレンジとオレンジ果汁の項を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要約

欧州連合(EU)の2024/25販売年度(年度)の柑橘類の総生産量は、前年度の1,050万トンより少ない1,010万トンと予測される。EUの2024/25年度のオレンジ、マンダリン、レモンの生産量は、2023/24年度に比べて減少した。グレープフルーツは唯一の例外で、2024/25年度の実績の増加が予測される。EUの柑橘類の生産は地中海地域に集中している。スペインとイタリアがEUの主要な柑橘類生産国であり、ギリシャ、ポルトガル、キプロスがそれに続く。

EUのレモンとグレープフルーツの栽培面積は増加傾向にあるが、オレンジの栽培面積は比較的安定しており、マンダリン及びタンジェリンの栽培面積は減少傾向にある。面積の減少は、収益性の低い果樹園の放棄、及び場合によっては世代交代できないことによって説明できる。EUの柑橘類は、面積だけでなく需要の面でも、アボカドやマンゴー等の代替となる亜熱帯果樹と競合していることがある。

極端な暑さから、灌漑用水の制限につながる干ばつ、降雹、降霜、洪水、集中豪雨に至るまでの気象の変化は、EUの主要な柑橘類産地の収量に悪影響を与え、品質面(果実のサイズや色)にも影響した。これらの状況の変化が、新たな病害虫の急増を引き起こすこともあった。同様に、一部の産地では、昼夜の温度差の減少に対する柑橘類の反応として、果実の糖度や風味には影響がないものの外果皮の緑化の増加が報告されている。その結果、商業的に販売できない品質の果実があり、生産されたもの(総生産量)と市場に出荷されるもの(純生産量)との間に差が生じている。

EUの柑橘類生産者は、植物保護剤の有効成分の入手がますます難しくなっている中で、EUの柑橘類生産に損害を与える可能性のある第三国からの病害虫の侵入を警戒している。

柑橘類の農学的な回復力だけでなく、柑橘類栽培の経済性も試されている。2024/25年度には、EU全域の生産者は引き続き、エネルギー(燃料、電気)から労働力及び植物保護剤に至るまで、コストの増加に直面している。同様に、世代交代の難しさも、営農活動の継続における課題となっている。これらの課題に対処するためには、水管理システムの改善、農作業の機械化、気候変動や害虫に強い品種へのアクセス、及び農業投入資材の使用の最適化が鍵であると考えられている。

EUは柑橘類の純輸入者であり、輸入が輸出を大幅に上回っている。オレンジとそれに次いでレモンが最大の輸入柑橘類である。EU域内の生産国から非生産国に向けて、大量の貿易が行われている。アジア向け輸送路の困難性が高まるのに伴い、貿易の地域化が進んでいる。

EU近隣の地中海沿岸の柑橘類生産国(エジプト、トルコ等)は、EU向けに輸出努力を集中している。メルコスール加盟国が特にオフシーズンの柑橘類及び冷凍濃縮オレンジ果汁(FCOJ)等柑橘類ベースの加工品の供給国として目立った地位を占めていることから、EUの柑橘類生産者はEUとメルコスールの協定に関する動向を注視している。

2024/25年度のEUの生鮮柑橘類輸出は、EU域内の収穫量の減少に伴い縮小すると予想される。

パンデミック時に記録的な量を記録した後、生鮮柑橘類の消費量はパンデミック前の水準に戻った。しかし、東欧のEU加盟国では消費の増加が予想されており、またフランス等のより成熟した市場でも、その程度は小さいものの消費の増加が予想されている。

<オレンジ>

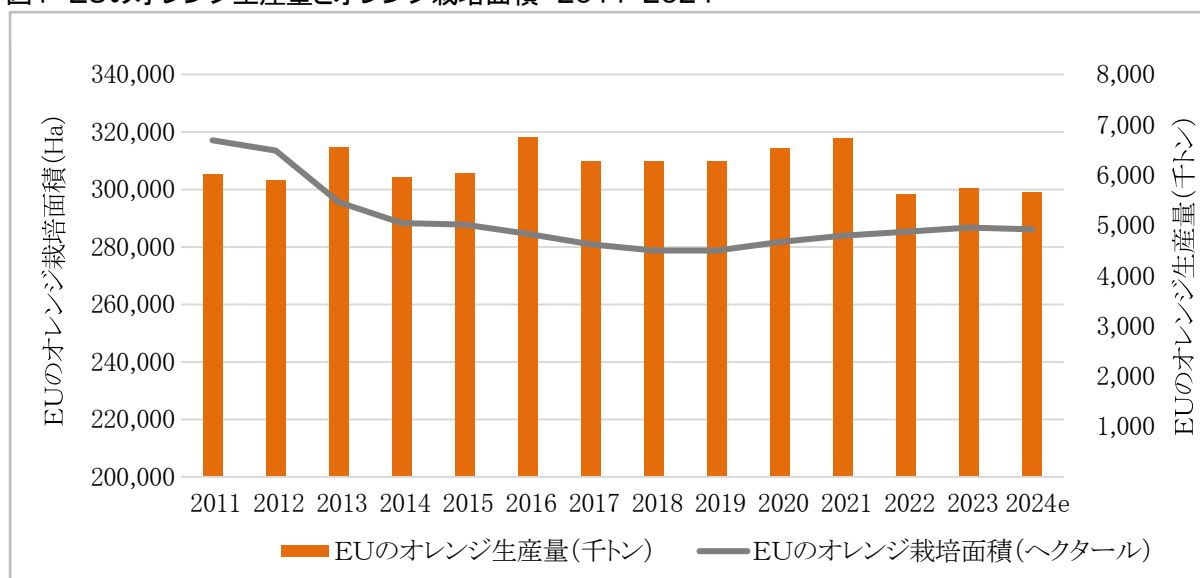
表1 EUの生鮮オレンジの生産需給統計

オレンジ(生鮮) 販売年度の始まり	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2022年10月		2023年10月		2024年10月	
欧州連合(EU)	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	285,348	285,224	286,863	286,755		286,131
収穫面積(ヘクタール)	264,632	264,352	265,831	264,387		263,565
生産量(千トン)	5,580	5,610	5,475	5,728		5,658
輸入量(千トン)	1,047	1,046	1,090	938		950
総供給量(千トン)	6,627	6,656	6,565	6,666		6,608
輸出量(千トン)	343	343	300	307		325
生鮮域内消費量(千トン)	5,660	5,640	5,625	5,660		5,635
加工仕向量(千トン)	624	673	640	699		648
総仕向量(千トン)	6,627	6,656	6,565	6,666		6,608

これは米国農務省の公式データではない。

出典：2022/23年度及び2023/24年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM)、その他は海外農業局EU各事務所

図1 EUのオレンジ生産量とオレンジ栽培面積 2011-2024



出典：海外農業局EU各事務所

EUの2024/25年度のオレンジ生産量は、2023/24年度の570万トンから560万トン強に減少すると予測される。オレンジの生産はEU内で最大の柑橘類部門であり、スペインがEUの生産量の50%を占めている。

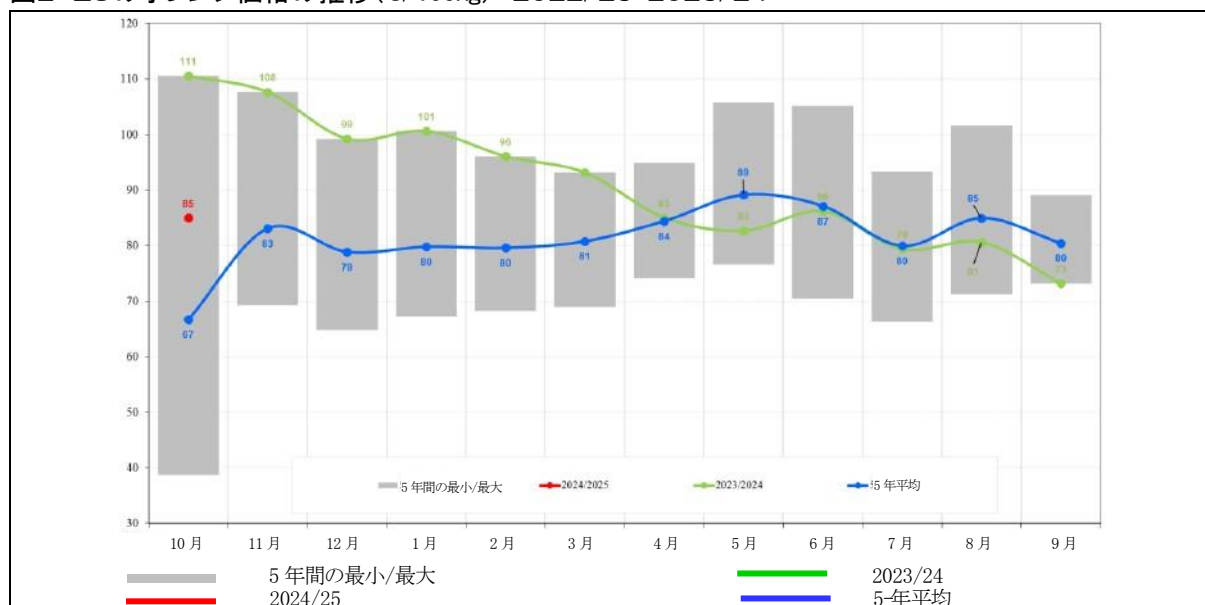
干ばつが生産性を押し下げ果実のサイズに悪影響を及ぼしたイタリアで収穫量の減少が予測され、スペインとポルトガルの推定生産量の増加はこれを埋合せできなかった。2024/25年度のギリシャのオレンジ生産量も減少すると予測される。ペロポネソス半島(ギリシャ南部)とエトリアカルナニア地域(ギリシャ西部)がオレンジの主要産地であるが、エトリアカルナニアでは降雨量が多かったものの、ペロポネソス半島では干ばつにより収量が減少した。

スペインでは、生育期間全体を通じて豊富な降水量が土壌水分を回復し、ダムが満水になったため、アンダルシア州ではオレンジ生産に十分な水供給が確保され、この地域での生産期待が高まった。アンダルシア州はスペイン最大のオレンジ産地であるが、過去2回の販売年度には厳しい水配分制限に苦しんだ。DANA(スペイン語の「高層孤立低気圧」の頭文字)により2024年10月29日に発生した集中豪雨と洪水は、スペインのバレンシア地方の特定の地域に壊滅的な影響を及ぼした。被災地の生産者は、過度の湿気、果実への雹害、または裂果及び落果による今シーズンの収穫の喪失を報告している。この地域の果樹は、水の方で根こそぎにされたり、損傷を受けた樹体が最終的に枯死に至る可能性があり、恒久的な被害が記録された。ただし、EU全体のオレンジ生産量への影響は限定的であると予想される。

ポルトガルの柑橘類生産はアルガルヴェ地方に集中しており、オレンジ生産が主体である。2024/25年度には、灌漑用水の制限により収量が抑制され、面積の拡大が妨げられた。主なオレンジ産地と品種については、それぞれ付録I及びII(省略)を参照願いたい。

[EU Citrus Dashboard](#)によると、2024/25年度の価格は、果実のサイズが大きく、北半球の販売年度の初めに南半球産オレンジが少なかったこともあり、5年平均を上回って始まった。しかし、2023/24年度の初めに生産者が受け取った価格に比べればまだはるかに下回っていた。

図2 EUのオレンジ価格の推移(€/100kg) 2022/23-2023/24



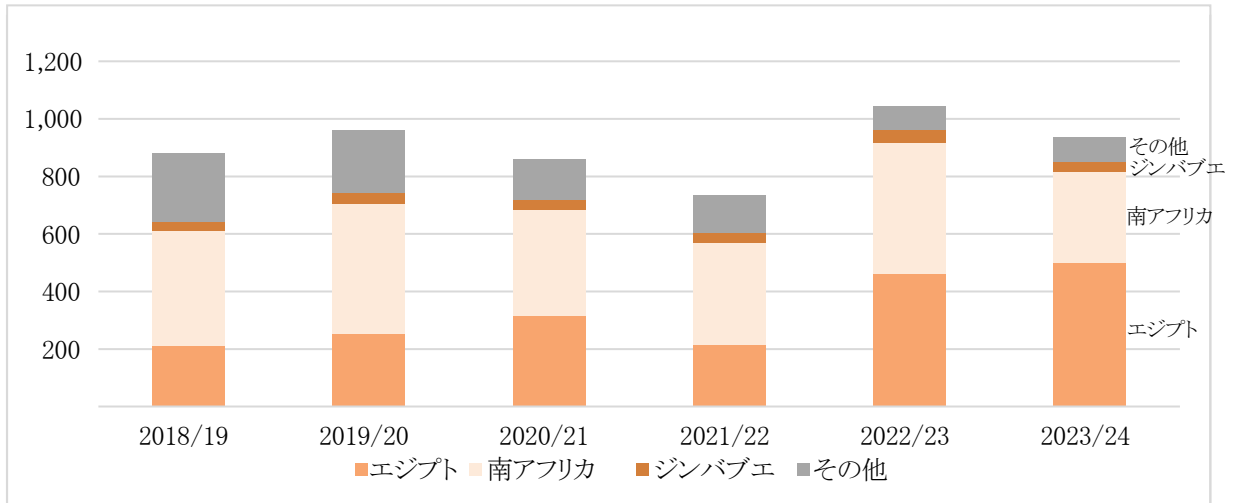
出典: DG AGRI Dashboard: Citrus Fruit

2024/25年度には、生鮮オレンジの消費量は前シーズンに比べて減少すると予想される。これは、2023/24年度にオレンジが豊作を記録し主に生鮮消費に充てられたイタリアで、生産量の急激な減少が予測されるためである。柑橘類の需要は、学校の新年度の始まりに当たる9月に回復し始める。晩生品種の品質が高いことによるオレンジ販売シーズンの延長は、店頭で絞るオレンジ果汁の販売の増加と相まって、EUの生鮮オレンジの需要をパンデミック前よりもわずかに高い水準で維持することに貢献している。2024/25年度には、加工用途の割合が大きいスペインで果実が入手しやすくなったが、果実のサイズが改善したと言われていることから、オレンジの加工仕向量は減少するものと予測される。詳細については、以下のオレンジ果汁の章を参照されたい。

2024/25年度には、生鮮消費と加工の両方の最終用途のために、安定した量のオレンジがEUに輸入されると予想される。域内生産量が減少したにもかかわらず、北半球の販売年度の序盤には南アフリカ産のオレンジはEU市場にそれほど存在していなかった。現在は、EUと出荷シーズンが重なるエジプトからのオレンジ輸入のペースに注目が集まっている。地中海沿岸の非EUオレンジ生産国が、より困難でコストのかかるアジア向けよりもEUでの販売を優先していることを考慮すると、これは特に重要である。

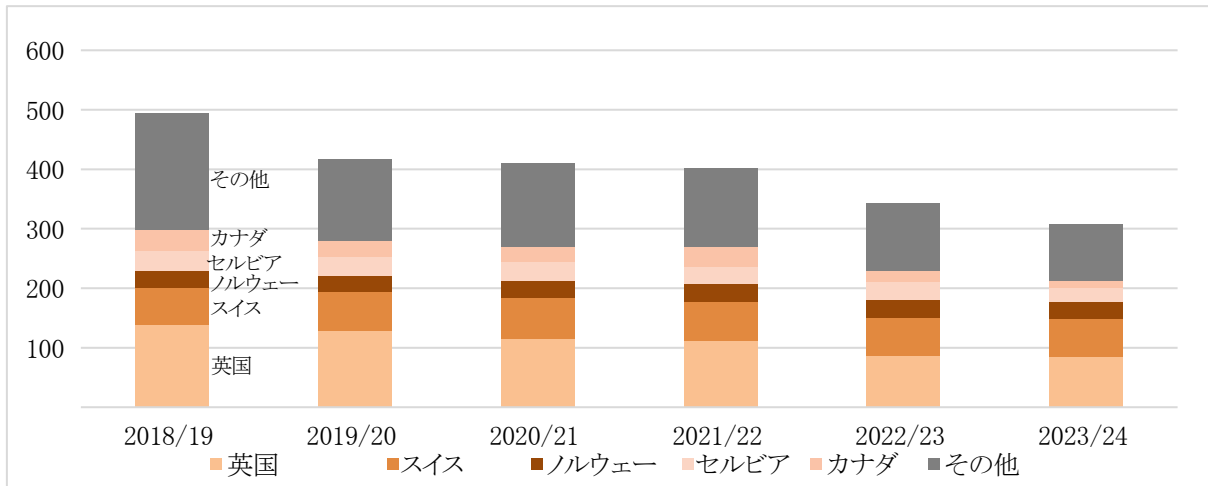
EU域外の地中海沿岸オレンジ生産国との競争が減少したことや、EU最大のオレンジ生産・輸出国であるスペインの供給量が増えたこと等を踏まえ、EUのオレンジ輸出量は2023/24年度に底を打った後、2024/25年度には回復するものと予想される。EU産オレンジは主にスペインから輸出され、主な輸出先は、英国、スイス、セルビア、ノルウェー、カナダ等である。

図3 EUの原産地別オレンジ輸入量(千トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC のデータに基づき当事務所が作図

図4 EUの輸出先別オレンジ輸出量(千トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC のデータに基づき当事務所が作図

<オレンジ果汁>

表2 EUのオレンジ果汁(ブリックス値65)の生産需給統計

オレンジ果汁 販売年度の始まり 欧州連合(EU)	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2022年10月		2023年10月		2024年10月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
原料の加工仕向け量(トン)	624,000	673,000	640,000	699,000		648,000
期初在庫量(トン)	15,000	15,000	15,000	15,000		15,000
製造量(トン)	48,374	52,172	49,614	54,188		50,234
輸入量(トン)	525,090	530,846	528,000	479,104		527,000
総供給量(トン)	588,464	598,018	592,614	548,292		592,234
輸出量(トン)	110,798	111,158	116,000	114,123		111,000
域内消費量(トン)	462,666	471,860	461,614	419,169		466,234
期末在庫量(トン)	15,000	15,000	15,000	15,000		15,000
総仕向け量(トン)	588,464	598,018	592,614	548,292		592,234

これは米国農務省の公式データではない。

出典: 2022/23年度及び2023/24年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM)、その他は海外農業局EU各事務所

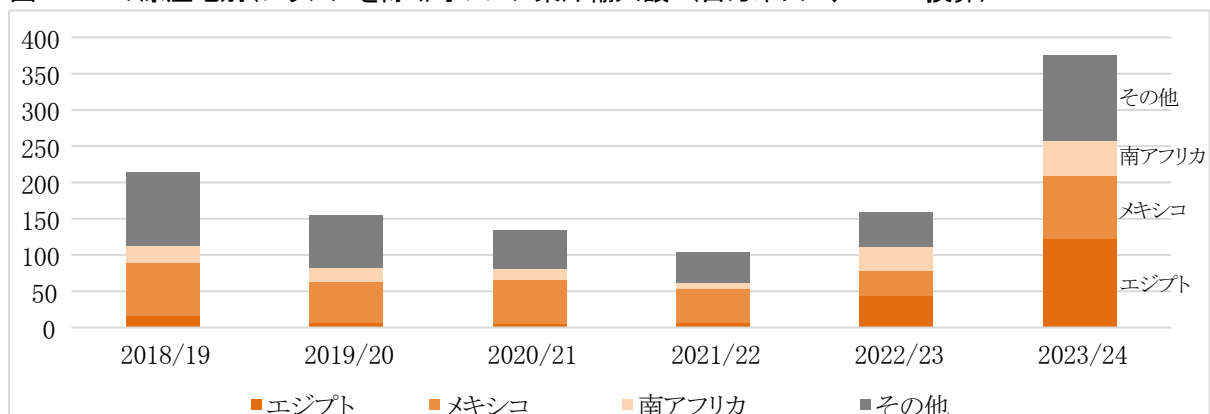
2024/25年度のスペイン産オレンジのサイズが前シーズンに比べて改善した結果、加工仕向け量が減少することが予想され、このためEUのオレンジ果汁生産量は、前シーズンの水準から減少すると予想される。柑橘類の生産が主に生鮮消費を目的としているイタリアでも、オレンジ果汁に使用されるオレンジの数量が少なくなると予想される。

2024/25年度のオレンジ果汁輸入量は、世界市場のバランスが逼迫し、価格の高騰が輸入を押し下げた前シーズンと比較して増加すると予想される。エジプトはEUにとって、EUの輸入市場の85%以上を占めるブラジルに次ぐ第2位のオレンジ果汁供給国である。

2024/25年度のEUのオレンジ果汁輸出量は、域内供給量の減少に伴い減少すると予想される。英国は依然としてEUのオレンジ果汁の突出して最大の輸出先であり、EUの輸出量の半分以上を占める。

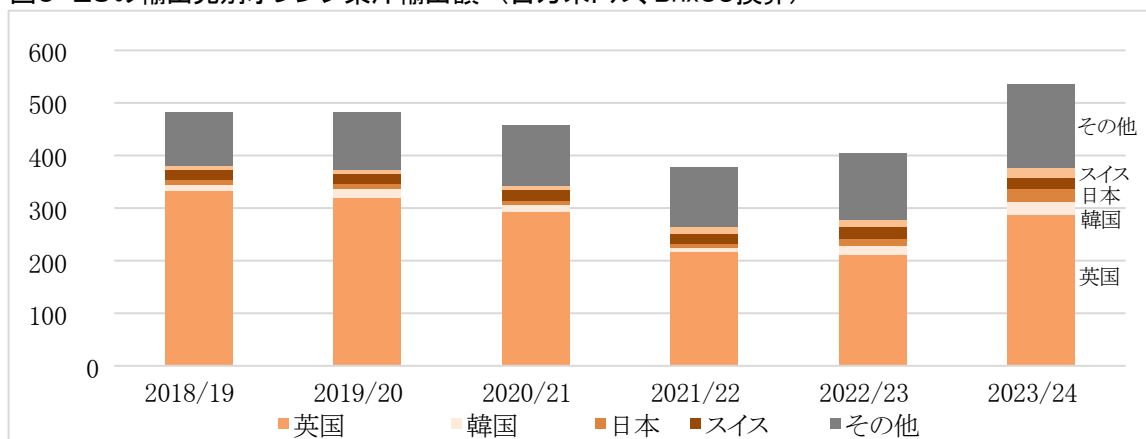
前シーズンに低い水準に落ち込んだオレンジ果汁の消費量は、2024/25年度には平均的な水準に戻ると予想される。

図5 EUの原産地別(ブラジルを除く)オレンジ果汁輸入額 (百万米ドル、Brix65換算)



出典: Trade Data Monitor, LLC のデータに基づき当事務所が作図

図6 EUの輸出先別オレンジ果汁輸出額 (百万米ドル、Brix65換算)



出典: Trade Data Monitor, LLC のデータに基づき当事務所が作図

356. オーストラリアの柑橘類事情(オレンジ、ソフト柑橘類)

米国農務省GAINレポート 2025年1月2日

これは米国農務省海外農業局のキャンベラ事務所(オーストラリア)が作成した「柑橘類年次報告書」の一部を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要約

オーストラリアの2024/25年度のオレンジ生産量は、2023/24年度の推定52万トンから54万5千トンに増加すると予測される。これが実現すれば、過去20年間で最高の生産水準を記録することとなる。この増加は、2024/25年度の生育期間前半の良好な条件と栽培面積の拡大に起因している。着果までの過程では、主要なオレンジ産地で比較的乾燥した天候の恩恵を受け、その後は平均以上の降雨量が堅調な果実の成長を支えた。さらに、通常よりも風が弱かったため、果実の傷が最小限に抑えられた。全体として、予測対象年度の初期の生産見通しは、量と質の両面で非常に前向きである。

柑橘類の生産者にとっては投入資材、特に肥料と作物保護剤のコストも安定している。さらに、主要な灌漑用水の貯水量は依然として比較的高く、2023/24年度と同様に合理的な水利費で利用できる水が十分に確保されている。

オレンジの輸出量は、生産量の増加により、2023/24年度の推計値を1万トン上回る19万トンに達すると予測される。これが達成されれば、オーストラリアの輸出量としては史上第3位となる。また、2024/25年度の国内消費量は、前年度の推定15万トンから17万トンに増加すると予測される。一方、生鮮果実の品質向上を反映して、加工仕向量は約3%減の19万5千トンと予測される。これは、それ以前に続いた通常より雨が多くの生産量と果実の品質が損なわれた数年間の後、乾燥した天候条件の恩恵を受けた2023/24年度に引き続く改善を示している。

マンダリンの生産は、オレンジよりも大きな産地の広がり種なし品種への注目に支えられ、ネーブルオレンジよりもさらに急速な拡大が続いている。過去10年間で、マンダリンの栽培面積は64%増加し、多くの新植園地がまもなく成園化すると予想される。2024/25年度のマンダリン生産量は史上最高の22万5千トンに達すると予測されており、輸出も史上最高の10万5千トンと予測される。国内消費量は、主に最近の人口増加に牽引されて、過去最高に近い11万8千トンに増加すると予測される。

オーストラリアの2024/25年度のオレンジ果汁の生産量は、主に生鮮オレンジの品質向上により加工仕向量が減少したため、2%減の1万5千トンと予想される。一方、オレンジ果汁の輸入量は、2023/24年度の1万2千トンから1万3千トンに増加すると予測される。2023/24年度の輸入量が少ないのは、オーストラリアのオレンジ果汁輸入の主要な供給源であるブラジルでの深刻な干ばつにより、同国からの供給量が減少したためである。オレンジ果汁の輸出量は4千トンで横ばいと予測されるが、国内消費量は主に人口増加に牽引されて2%増の2万4,500トンと予測される。

<生鮮オレンジ>

背景

・地域の概況

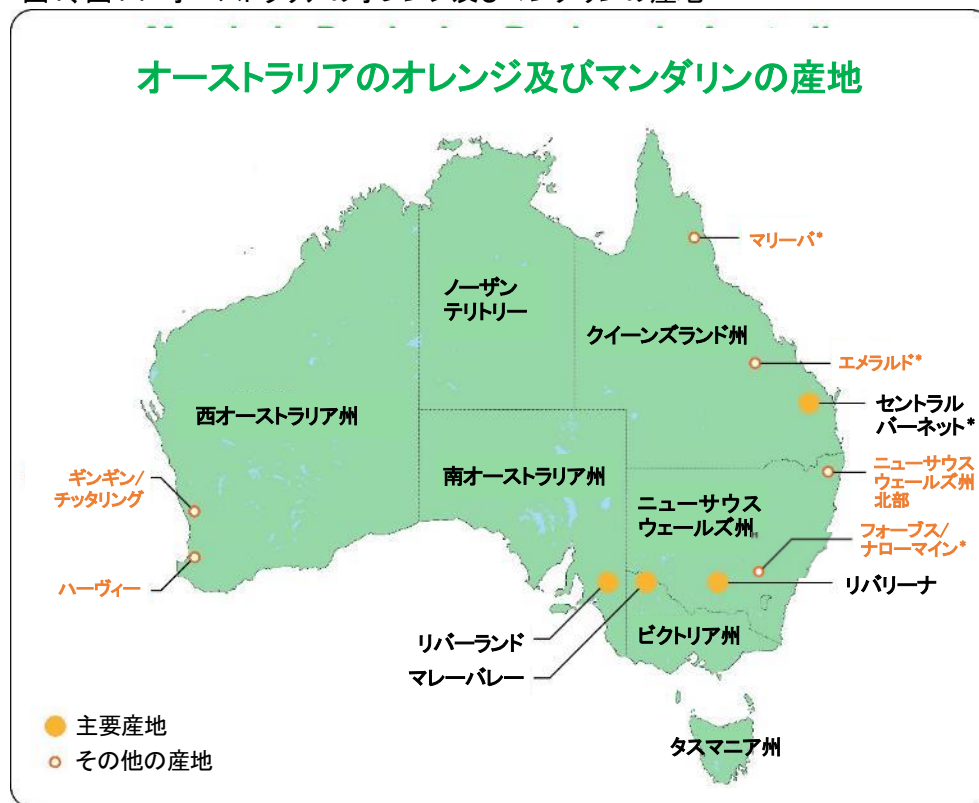
オーストラリアの主要なオレンジ産地は、信頼できる水源があり灌漑水を確保しやすい南部の温帯気候地域に位置する(図1)。これらの産地は、以下のとおりである。

リバーナ地域 - ニューサウスウェールズ州南部のグリフィス市及びリートン町の周辺

マレーバレー地域 - ビクトリア州北西部のマレー川沿いの主にミルドゥーラ市とスワンヒル市の間

リバーランド地域 - 南オーストラリア州南東部*のマレー川沿い(原文では誤って北西部と記載)

図1、図14 オーストラリアのオレンジ及びマンダリンの産地*



出典：オーストラリア柑橘類協会/オーストラリア統計局センサス/当事務所

*訳注：この図は原文中のオレンジの産地図とマンダリンの産地図を訳者が合成したものです。オレンジの産地図ではセントラルバーネットは「その他の産地」とされており、マリールバ及びエメラルドは記載がありません。マンダリンの産地図ではフォース/ナローメインは記載がありません。

これらの地域の特徴は、土壌が水はけのよい砂壤土で、温帯気候であり、年間降水量が約300mmと少なく、そのほとんどが収穫期から次期作の生育初期に当たる5月から10月の間に降ることである。冬は穏やかだが、果樹が必要とする十分な低温期間がある。これらの地域では、果樹が求める水分量を灌漑に依存している。こうした条件は、発芽を促進して潜在的な収量を高め、春から秋までの降水量の少なさと暖かい気温は降霜、湿気、降雹のリスクを最小限に抑え、よく管理された点滴灌漑と計画的な施肥により果実の生育が最適化されている。

これら3大産地のオレンジ栽培面積は、1万7,014ヘクタールで、全国の栽培面積の90%を占めている。オーストラリア柑橘類協会のオーストラリア柑橘類センサス2023によると、全国の合計ではネーブルオレンジが1万2,625ヘクタール、バレンシアオレンジが6,379ヘクタールである。リバーリーナ地域は最大のオレンジ産地であり、総栽培面積の約53%がバレンシアオレンジで、国内の果汁用オレンジ栽培面積の66%を占めている。ニューサウスウェールズ州北部、クイーンズランド州及び西オーストラリア州にも小規模な産地がある。

・収穫期

3大産地の収穫期は、ネーブルオレンジが通常6月から10月であり、バレンシアオレンジが通常11月から3月である。最高品質のバレンシアオレンジの一部は、(果汁用としてではなく)生鮮市場で販売され、国内産生鮮オレンジを消費者に提供できる期間を引き延ばしている。

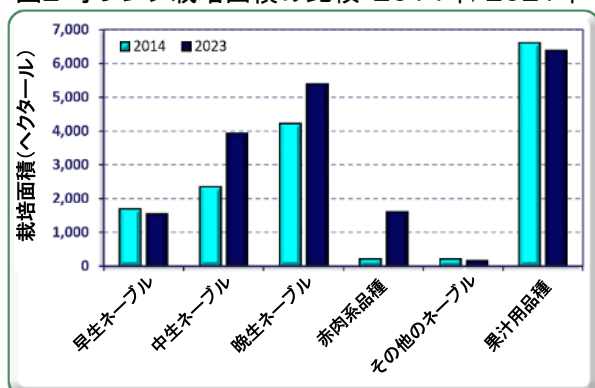
・栽培面積の動向

2014年に開始されたオーストラリア柑橘類協会の年次センサスは、植栽の傾向に大きな変化があることを明らかにした。2014年から2023年の間に、オーストラリアの主要産地全体で、ネーブル種と赤肉オレンジの栽培が顕著に増加した。これらの果樹の未結果樹から結果樹への移行は、全体的な生産量に大きな影響を与え始めている。

果汁用でないオレンジ品種の約87%はネーブル種であり、この報告書では果汁用でないオレンジをすべてネーブルオレンジとしている。また、果汁用品種の大半(85%)はバレンシア種の品種であり、この報告書ではすべての果汁用品種をバレンシアオレンジとしている。

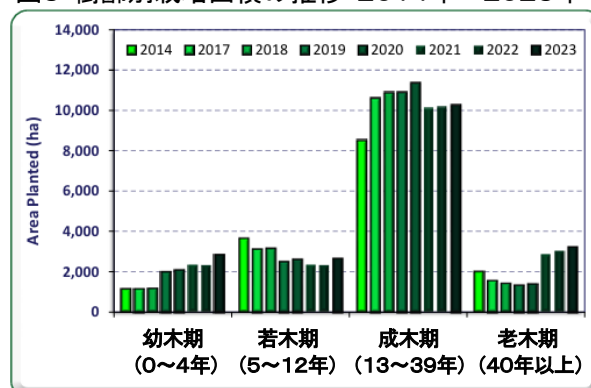
ネーブルオレンジとバレンシアオレンジを合わせた総栽培面積は、2014年の1万5,307ヘクタールから2023年には1万9,004ヘクタールへと24%増加した。この間、バレンシアオレンジの面積は4%減少し、ネーブルオレンジの面積は45%増加した。ネーブルオレンジの栽培面積の増加のうち、中生品種(67%に当たる1,571ヘクタール増)及び赤肉系品種(65%に当たる1,394ヘクタール増)はそれぞれ最大の増加を示した(図2)。

図2 オレンジ栽培面積の比較 2014年/2021年



出典: オーストラリア柑橘類協会/ Horticulture Innovation Australia

図3 樹齢別栽培面積の推移 2014年~2023年



出典: オーストラリア柑橘類協会/ Horticulture Innovation Australia

・将来の生産見通し

オレンジ生産の長期的な傾向は、栽培面積の拡大に牽引されて緩やかな成長を示している。この見通しには、いくつかの要因が寄与している(図3)。

- 1. 新植の増加:** 2019年より前の新植面積は、年間平均1,200ヘクタールであった。その後、年間新植面積は2千ヘクタールを超えて3千ヘクタールに近づいており、成木化する果樹の増加につながっている。
- 2. 結果面積の増加:** オレンジの果樹の結果面積は、何年間もの横ばいの後、2022年から2023年にかけて600ヘクタール(4%)以上増加した。2019年以降に新植した果樹の成木化が続くため、今後も同様の拡大が予想される。
- 3. 老木:** 栽培面積のうち、特に搾汁用品種で「老木期(樹齢40年以上)」の果樹の割合が増加しており、全体的な生産量の増加を和らげる可能性がある。

生産

・2024/25年度

当事務所は、2024/25年度(2025年4月~2026年3月)の生鮮オレンジの生産量を54万5千トンと予測する。これは過去20年間で最も高い生産量であり、2023/24年度の推定値である52万トンから5%の増加となる。この増加は、生育期間前半の良好な条件と栽培面積の拡大によるものである。

着果期及びそれ以前の期間はこの時期に典型的な比較的乾燥した天候で、最近の通常よりも雨が多かった年に比べて柑橘類にとって好ましい状況であった。着果期の後の主要産地での平均以上の降雨量は、良好な果実の肥大を促している。最終的な生理落果は、今後数週間で12月中に完了すると見られ、その後、オレンジの潜在的な生産量をより正確に決定することができる。さらに、生産者らは、9月頃によく発生する強風がなかったと報告しており、予測対象果実の果皮の品質に影響を与える擦り傷はほとんどない。一方、2024年9月に一部の果樹園で霜害が発生し、何らかの悪影響が出たとの報告がある。全体として、これまでの状況から、2024/25年度の予想収穫量と品質は非常に良好であると予想される。

また、2019年以降に植栽された果樹も成木化し始めており、生産量の増加に貢献している。オーストラリア柑橘類協会のセンサスデータによると、結果樹面積は2022年から2023年にかけて4%増加し、2024年にはさらに増加すると予想される。特に、搾汁用オレンジの栽培面積は過去5年間変動が無く、これは結果樹の増加は主に生鮮市場を対象としたネーブルオレンジの増加によるものであることを意味している。

生育条件が早い時期から良好であることに加えて、主要な投入材である肥料と農薬のコストが比較的安定しており、全般的にCOVID-19の影響を受ける以前と同じかそれを少し上回る水準である。また、灌漑用水の供給も十分にあり、業界関係者らは、これにより灌漑用水のコストが対応可能な水準に保たれているとしている。このような全般的な状況は、2024/25年度のオレンジの収穫量を最適化し、高い価格での販売量を増やそうとする生産者の取組みを後押しすることが期待される。(以下、詳細説明を省略。)

・2023/24年度

当事務所は、2023/24年度のオレンジ生産量の推計値を12カ月前の予測から1万トン下方修正し、2022/23年度の実績である51万5千トンを超えると52万トンと予測する。一部の生産者は、過去数年間の平均以上の降雨量の影響が積み重なり、オレンジの果樹に悪影響を及ぼした結果、2023/24年度の実績が予想を下回ったと指摘している。

2023/24年度の収穫期(2024年5月～2024年10月)には、主要なオレンジ産地の降水量は平均または平均以下であった。これにより、病害圧力が軽減され、果実の品質が維持された。十分な灌漑用水があったことにより、生産者は収穫に向けて果実の品質を最適化することができた。生産者は、この期間中の乾燥した天候がこの時期に予想される典型的な条件に近く、オレンジの果樹の状態が2024/25年度の生産シーズンに向けて改善されたとしている。

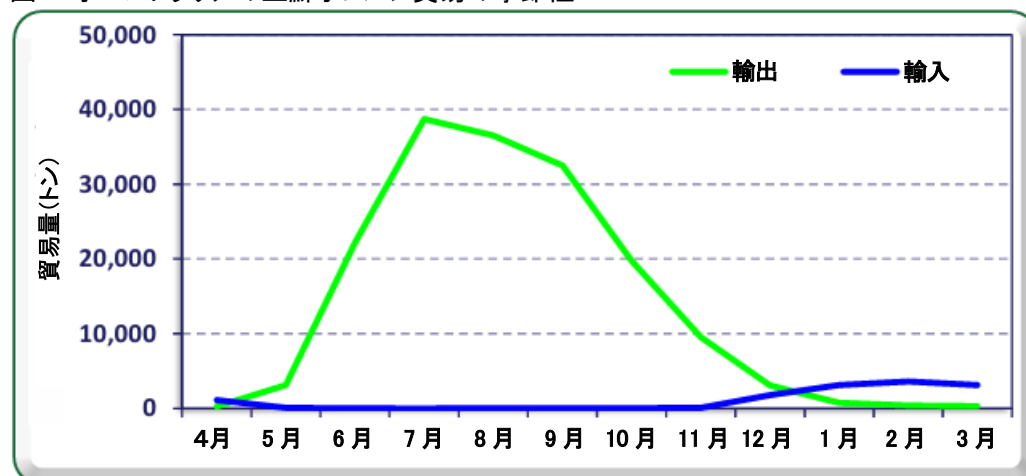
輸出

・2024/25年度

当事務所は、2024/25年度の生鮮オレンジの輸出量を、2023/24年度の推計値を1万トン上回る19万トンと予測する。これは、2016/17年度から2019/20年度の間には達成された18万1千トン～19万8千トンの範囲への回復となる。この期間中は、通常よりも雨の多い年に比べて季節的な条件が良好であったため、結果的に生産量や品質に良い影響を与えた。この予測が実現すれば、史上3番目に多い輸出量となる。予想される増加は、生産量の増加に加えて輸出適性を高めるとされる高品質な果実の復活への期待を支えるものである。

輸出は生産量と品質に大きく影響される。全体的な品質が高いシーズンには、輸出市場に適した生鮮オレンジの割合が高くなり、搾汁に向けられる低規格品は減少する。

図8 オーストラリアの生鮮オレンジ貿易の季節性



出典: オーストラリア統計局

オーストラリアの生鮮オレンジ輸出は季節性が高い。北部の産地からの少量の輸出は5月に始まるが、大量の輸出は3大産地の収穫が開始される6月に始まる(図8)。7月から9月までが最盛期で、その後12月にかけて輸出量が減少する。この収穫のタイミングにより、オーストラリアは生産量が少ない近隣のアジア諸国及び季節が逆になる北半球諸国にネーブルオレンジを輸出することができる。

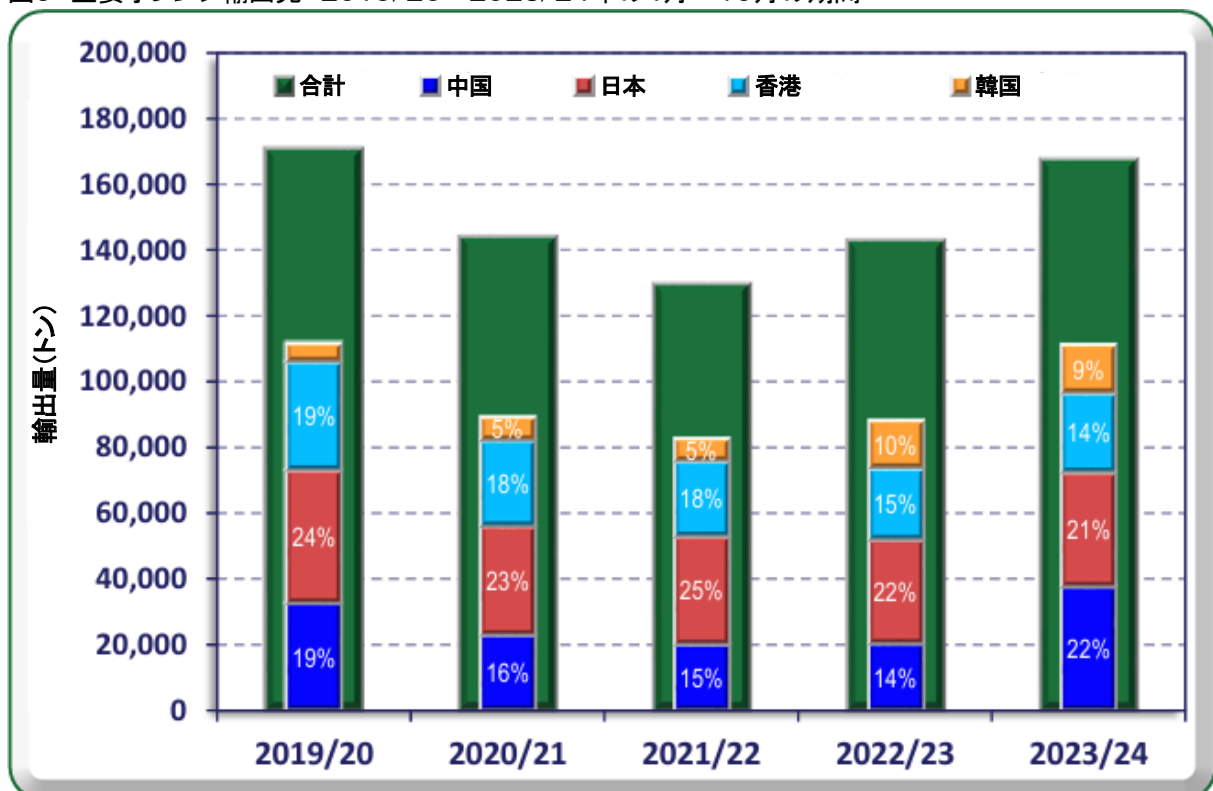
・2023/24年度

当事務所は2023/24年度の輸出量の推計値を18万トンで据え置き、これは12カ月前に発表した予測と一致している。2023/24年度の(2024年)4月から10月までの輸出量は16万8千トンであった。従来から、販売年度の後半5カ月が年間輸出量の平均8%を占めており、この傾向は現在の予測を裏付けている。

近年のオーストラリア産オレンジの主な輸出先は、日本、中国、香港であり、2022/23年度には韓国が重要な輸出先として浮上した。これら4カ国は、通常、輸出量全体の60%以上を占めている(図9)。全体として、オーストラリアは40カ国以上に生鮮オレンジを輸出しており、主要輸出先のほとんどがアジアの国々である。

中国向け輸出は2023/24年度に急増して総輸出量の22%を占め、2019/20年度よりも前に5年連続で保持していたオーストラリアの最大の輸出先としての地位を回復した。業界関係者は、中国は高品質で大玉のオレンジを好むと指摘している。3年間にわたって平均以上の降雨量が続き、果実の品質と生産量に悪影響を及ぼした後、2023/24年度の収穫物は2019/20年度以来の高品質となった。2024/25年度には、果実のサイズと品質がさらに向上すると予想されており、中国への輸出がさらに増加する可能性がある。2016/17年度から2018/19年度までの中国への輸出量は5万トンから6万トンで、オーストラリアのオレンジ総輸出量の28~35%を占めていた。

図9 主要オレンジ輸出先 2019/20~2023/24年の4月~10月の期間



出典：オーストラリア統計局

表1 オーストラリアの生鮮オレンジの生産需給統計

オレンジ(生鮮) 販売年度の始まり オーストラリア	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2023年4月		2024年4月		2025年4月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	17,800	17,800	17,900	19,000	0	19,500
収穫面積(ヘクタール)	15,400	15,500	15,500	16,200	0	16,600
生産量(千トン)	505	515	530	520	0	545
輸入量(千トン)	10	10	10	10	0	10
総供給量(千トン)	515	525	540	530	0	555
輸出量(千トン)	160	153	180	180	0	190
生鮮国内消費量(千トン)	145	162	160	150	0	170
加工仕向量(千トン)	210	210	200	200	0	195
総仕向量(千トン)	515	525	540	530	0	555

公式データには、[PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

<タンジェリン/マンダリン>

背景

オーストラリアのマンダリン及びタンジェリンの産地は、オレンジの3大産地よりもはるかに広がり大きい。オーストラリアではタンジェリンも生産されているがその面積は非常に小さいため、タンジェリン/マンダリンの生産量のほぼ全量がマンダリン品種であり、アフォーラ、インペリアル、マーコット(及びこれらの派生品種)が栽培面積全体の77%を占めている(出典: オーストラリア柑橘類協会 柑橘類センサス2023)。

オーストラリアのマンダリンの主な収穫時期は5月から9月である。しかし、産地は多様であり、マンダリンの収穫期間は3月から10月までの幅がある。

クイーンズランド州のマンダリン栽培面積は4,635ヘクタールと突出して多く、国内の栽培面積の52%を占めている。次に栽培面積が多い地域はビクトリア州マレーバレー地域(1,598ヘクタール、18%)と南オーストラリア州リバーランド地域(1,392ヘクタール、16%)である。クイーンズランド州最大のマンダリン産地は、同州南東部のガインダ町とムンドゥッペラ町の周辺のセントラルバーネット地域であるが、エメラルド地域(同州中部)とマリーバ地域(同州最北部)でも生産されている。ニューサウスウェールズ州北部、北部準州、西オーストラリア州にも小規模なマンダリン産地がある。

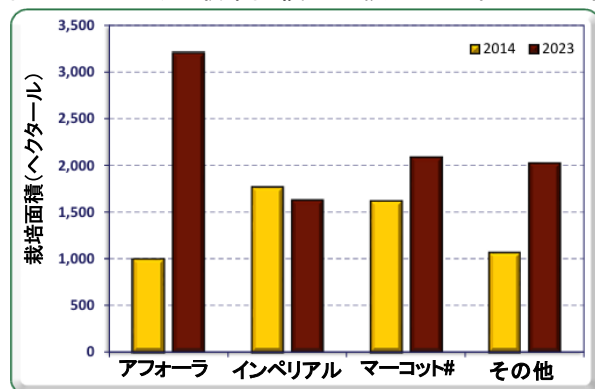
果樹センサスのデータ収集が開始された2014年から2023年までの間に、マンダリンの栽培面積は5,451ヘクタールから8,948ヘクタールへと64%増加した。これは、成長率と拡大実面積において同じ期間のオレンジの増加を上回っている。また、この拡大はオーストラリアのすべての産地で広く起こっている。

アフォーラ品種(アモレット及びタンゴを含む)は、2014年から2023年の期間に、その栽培面積が998ヘクタールから3,202ヘクタールへと最大の拡大を示し、現在では明らかに支配的な品種となっている(図15)。マーコット品種(種子の少ないハニービー及びロイヤルハニーを含む)の面積も同じ期間に29%拡大した一方、古い品種であるインペリアル(ゴールドアップ及びアバナを含む)は8%減少した。「その他」にはタンジェロ等29品種が含まれ、その総栽培面積は90%(959ヘクタール)増加した。「その他」の品種の中で栽培面積が最も増加したのは、デイジー、フェニックス、タンゴで、すべて比較的新しく、種子が無いかまたは少ない品種である。

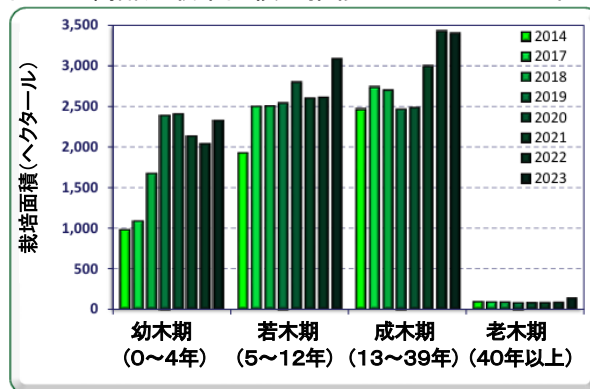
2014年から2023年にかけてのマンダリンの栽培面積の拡大は、未結果樹(樹齢0~4年)の栽培面積が1,348ヘクタール以上(138%)増えて2,326ヘクタールに達したことも明白に表れている(図16)。しかし、新植の率は過去2年間で低下した。生産が始まる若木期(樹齢5~12年)の果樹の栽培面積は、2023年に522ヘクタール(20%)急増するまでほぼ横ばいであった。この生産が始まる樹齢の果樹は、果樹総本数の

3分の1以上を占めている。同じ期間に成木(樹齢13～39年)の面積は940ヘクタール(38%)増加し、2021年と2022年の増加が最も大きかった。2023年のマンダリンの樹齢分布の4分の1が未結果樹であり、老木(樹齢40年以上)の面積が非常に少ない。現在の未結果樹が結果し始めるため、業界は今後数年間、生産量の急速な増加を期待できる。

図15 マンダリン栽培面積の比較 2014年/2023年 図16 樹齢別栽培面積の推移 2014～2022年



出典：オーストラリア柑橘類協会/ Horticulture Innovation Australia
種子の少ない品種を含む



出典：オーストラリア柑橘類協会/ Horticulture Innovation Australia

生産

・2024/25年度

当事務所は、2024/25年度のタンジェリン/マンダリン生産量が史上最高の22万5千トンになると予測しており、これは2023/24年度の21万トンから7%の増加となる。この増加は、主にマンダリンの栽培面積の増加によるものである。

先に概説したとおり、オーストラリアのマンダリンの栽培面積は、過去10年間で急速に成長した。注目すべき点は、2017年から新植(4年間結果しない)が大幅に増加し、2019年からは高い水準を維持していることである。生産が始まる若木期の面積が2023年に大幅に増加しただけでなく、2021年と2022年には成木の面積が急増したため、これは現在大きな影響を及ぼし始めている。生産が始まる樹齢5～12年の果樹の面積は、樹齢13～39年の成熟した果樹の面積とほぼ同じである(図16)。

栽培面積がこれ以上拡大しなくても、成熟して最大の生産能力に達する若い果樹が増えていることから、数年間は毎年のマンダリン生産量が増加すると予想される。この傾向は、2024/25年度の記録的な予測を裏打ちしており、その後の数年間でさらに記録が期待される。しかし、条件の悪いシーズンがあると、対前年比での毎年の記録更新が妨げられる可能性がある。

オレンジの生産者と同様に、マンダリン生産者も予測対象年における十分な灌漑水の確保と肥料・農薬のコスト低下の恩恵を受けることを期待している。

・2023/24年度

2023/24年度のマンダリン生産量は21万トンと推定され、12カ月前の予測を3万トン上回っている。この増加は、隔年結果の裏年であることから当初は予想されていなかった。しかし、結果樹面積の約8%の増加は、この隔年結果を埋合せる以上のものである。さらに、主要な産地での良好な生育条件が、このシーズンの優れた品質に貢献している。

輸出

・2024/25年度

当事務所は、2024/25年度のマンダリン輸出量が2023/24年度の9万7千トンを上回り、10万5千トンの新記録に達すると予測する。マンダリンの栽培面積の継続的な拡大と最大の生産量に達する果樹の成木化により、今後、生産量と輸出量が記録破りの水準に押し上げられると予想される。

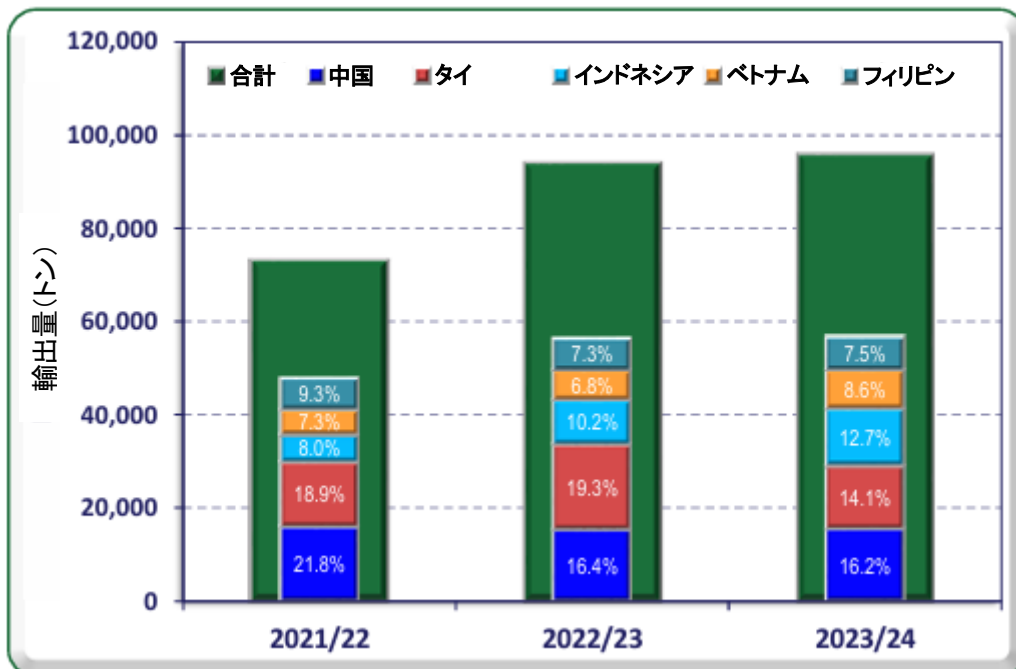
オーストラリアのマンダリン輸出は非常に多様化しており、約40の輸出先に出荷されている。上位10市場を合わせると、過去3年間の総輸出量の約85%を占めている。輸出先は均等に分散しており、単独で支配的な国はない。

・2023/24年度

2023/24年度のマンダリンの推計輸出量は、12カ月前の当初予測の8万5千トンから9万7千トンに上方修正された。この修正は、予想を大幅に上回る生産量を反映している。2024年4月から10月の期間の輸出量は合計9万6千トンで、この期間だけで平均年間輸出量の99%近くに達している。この実績は既に、前年の年間輸入量の9万5千トンを上回っている。

近年、中国とタイが一貫して主要な輸出先である。2023/24年度にはインドネシアへの輸出が急速に増加し、中国やタイに迫る重要な地位を占めた(図17)。ベトナムとフィリピンも主要な市場であり、近年は総輸出量の7~10%を占めている。輸出先上位10カ国に含まれる残りの5カ国は、それぞれ総輸出額の約5%を占めており、オーストラリア産マンダリンの多様化した市場基盤を際立たせている。

図17 マンダリンの主要輸出先 2020/21年度~2022/23年度 4月~10月



出典：オーストラリア統計局

表3 オーストラリアの生鮮タンジェリン/マンダリンの生産需給統計

タンジェリン/マンダリン(生鮮)	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2023年4月		2024年4月		2025年4月	
販売年度の始まり	2023年4月		2024年4月		2025年4月	
オーストラリア	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	7,900	8,200	8,000	8,900	0	9,500
収穫面積(ヘクタール)	5,800	6,100	5,900	6,600	0	7,000
生産量(千トン)	190	215	180	210	0	225
輸入量(千トン)	2	1	2	2	0	2
総供給量(千トン)	192	216	182	212	0	227
輸出量(千トン)	95	95	85	97	0	105
生鮮国内消費量(千トン)	94	117	94	111	0	118
加工仕向量(千トン)	3	4	3	4	0	4
総仕向量(千トン)	192	216	182	212	0	227

公式データには、[PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

357. 中国の柑橘類事情(タンジェリン/マンダリン)

米国農務省GAINレポート2025年1月2日

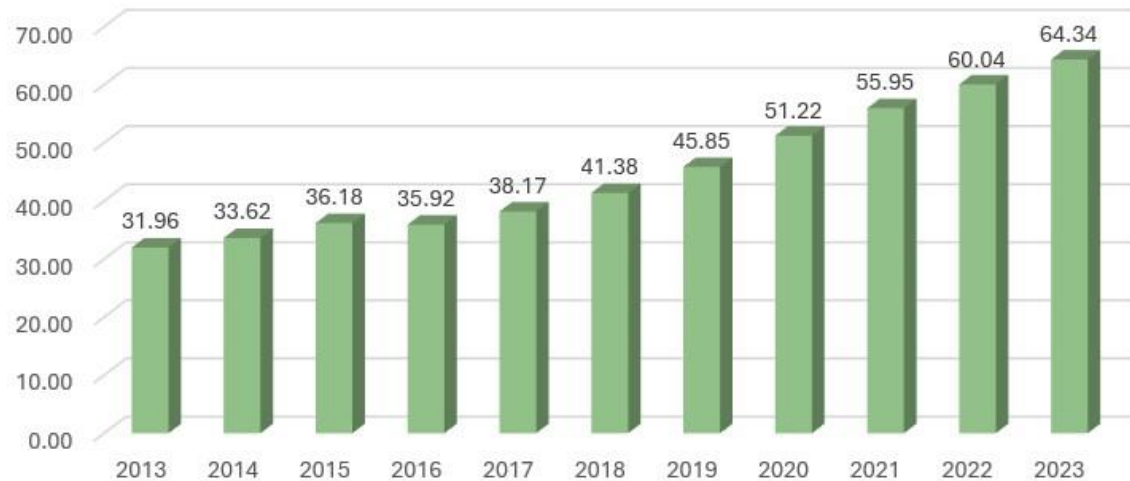
これは米国農務省海外農業局の広州農業貿易事務所(中国)が作成した「柑橘類年次報告書」の一部を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要旨

当事務所は、2024/25年度の中国の柑橘類全体の生産量は、天候関連の課題はあるものの、2023/24年度よりも増加すると予測する。オレンジの生産量は、ネーブル種が裏年のためわずかに減少するが、タンジェリン/マンダリン及びザボン/グレープフルーツの生産量は引き続き増加する。中国の供給量が多く、東南アジア諸国からの需要が増加していることから、当事務所は2024/25年度も柑橘類の輸出が引き続き増加するものと予測する。

柑橘類生産の概要

図1 中国の柑橘類生産量(2013~2023暦年) 百万トン



出典：中国統計年鑑 2024年

中国は依然として世界最大の柑橘類生産国であり、オレンジ、タンジェリン、マンダリン、ザボン及びグレープフルーツの生産量が圧倒的に多い。中国は2023年に、柑橘類の生産量がさらに7%増加し、正味合計で6,400万トン以上に達したと報告している。地域別にグループ化すると、柑橘類の最大の産地は中国南部の広西チワン族自治区と広東省で、国全体の約38%を占めている。中国中部の湖南省と湖北省は、柑橘類の総収穫量の20%を生産している。江西省と福建省は、柑橘類全体の生産量の16%を占めている。西部では、重慶市と四川省がほぼ16%を占めている。雲南省と貴州省での柑橘類の生産量も増加している。残りの省は、中国の柑橘類収穫量のわずか4パーセントに過ぎない。

中国の各省は、その柑橘類の特産品によって東南アジア全体で知られている。広西チワン族自治区は依然として、沃柑と砂糖橘の最大の産地である。晴見と不知火は柑橘類の交雑種で、主に四川省と重慶市で栽培されている。浙江省産の紅美人は品質が優れていると考えられており、江西省は南豊蜜桔で有名である。雲南省は気候的及び地理的に恵まれ、南豊蜜桔、愛媛、不知火、明日見、春見等、多様な柑橘類を生産している。広東省は生産量の多さで知られており、引き続き大量の砂糖橘を出荷している。福建省と江西省の柑橘類は、晩生のオレンジ品種と交雑種のタンジェリンが特徴である。

当事務所は2024/25年度産について、課題はあるものの、柑橘類の生産量はわずかに増加すると予測する。春先の寒さは着果に影響を与えた可能性がある。さらに、カンキツグリーンング病は複数の産地で影響を与えた。広西チワン族自治区の砂糖橘の収穫量は15~20%減少する可能性がある。生産上の課題は、生産者の総数の増加によって埋合せされ、その中には柑橘類栽培に不慣れな者もいる。

図2 中国の柑橘類生産省 - 2023年(生産量に占める割合)



出典: 中国統計年鑑 2024 年

凡例: ■ 茶色 = 38% (広西チワン族自治区及び広東省) ■ オレンジ色 = 20%(湖南省及び湖北省)
■ 黄色 = 16%(江西省及び福建省) ■ 濃い黄色 = 16% (四川省及び重慶市) ■ 緑 = 6%(雲南省及び貴州省)

<タンジェリン及びマンダリン>

表3 中国のタンジェリン/マンダリンの生産需給統計

タンジェリン/マンダリン(生鮮)	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2022年10月		2023年10月		2024年10月	
販売年度の始まり	農務省公式		農務省公式		農務省公式	
中国	今回推計値	今回推計値	今回推計値	今回推計値	今回推計値	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	890,000	890,000	890,050	890,050	0	890,080
収穫面積(ヘクタール)	0	0	0	0	0	0
結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
未結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
合計果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
生産量(千トン)	26,500	26,500	26,900	26,900	0	27,000
輸入量(千トン)	67	67	65	43	0	50
総供給量(千トン)	26,567	26,567	26,965	26,943	0	27,050
輸出量(千トン)	752	752	1,050	1,097	0	1,200
生鮮国内消費量(千トン)	25,235	25,235	25,315	25,246	0	25,250
加工仕向量(千トン)	580	580	600	600	0	600
総仕向量(千トン)	26,567	26,567	26,965	26,943	0	27,050

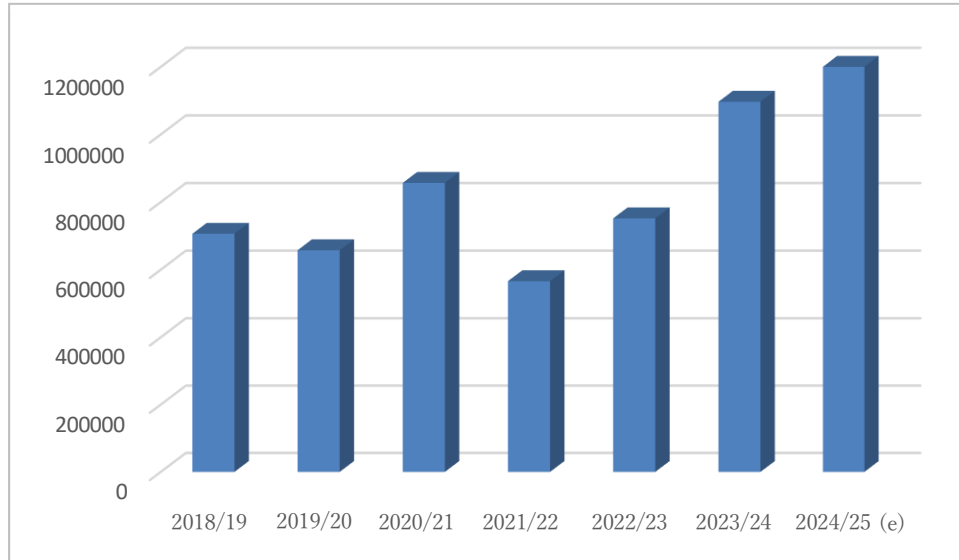
生産

中国の2024/25年度のタンジェリンとマンダリンの生産量は、2023/24年度よりもわずかに多い2,700万トンと予測される。複数の地域での生産量の増加は、広東省と広西チワン族自治区のカンキツグリーニング病、開花期の過度の降雨、及び四川省、湖北省、湖南省の熱波による果実への悪影響を上回ると予想される。

輸出

中国の2023/24年度のタンジェリン及びマンダリンの輸出量は、実際のデータを反映して197万トンに修正された。輸出先国のトップ5は、ベトナム、キルギスタン、ロシア、インドネシア、タイである。中国の総輸出量の3分の1以上を占めているベトナムは、輸入量が18%増加した。

図5 中国の販売年度(10月～9月)別タンジェリン/マンダリン輸出量



単位: トン 出典: Trade Data Monitor, LLC、当事務所

<オレンジ>

表1 中国のオレンジの生産需給統計

オレンジ(生鮮) 販売年度の始まり 中国	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2022年11月		2023年11月		2024年11月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	816,530	816,530	816,530	816,530	0	816,500
生産量(千トン)	7,600	7,600	7,630	7,630	0	7,620
輸入量(千トン)	213	213	190	160	0	150
総供給量(千トン)	7,813	7,813	7,820	7,790	0	7,770
輸出量(千トン)	49	49	140	155	0	160
生鮮国内消費量(千トン)	7,544	7,544	7,455	7,410	0	7,338
加工仕向量(千トン)	220	220	225	225	0	230
総仕向量(千トン)	7,813	7,813	7,820	7,790	0	7,770

<グレープフルーツ/ザボン>

表 中国のグレープフルーツ/ザボンの生産需給統計

グレープフルーツ/ザボン(生鮮) 販売年度の始まり 中国	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2022年10月		2023年10月		2024年10月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
生産量(千トン)	5,150	5,150	5,200	5,200	0	5,250
輸入量(千トン)	76	76	85	89	0	90
総供給量(千トン)	5,226	5,226	5,285	5,289	0	5,340
輸出量(千トン)	152	152	195	204	0	230
生鮮国内消費量(千トン)	5,029	5,029	5,044	5,039	0	5,050
加工仕向量(千トン)	45	45	46	46	0	60
総仕向量(千トン)	5,226	5,226	5,285	5,289	0	5,340

358. オーストラリア 多様な生鮮果実の世界的需要が拡大

[FreshPlaza 2025年1月3日](#)

オーストラリアの多様な果実トップ10は世界的な需要が拡大

オーストラリアの果実産業は、クイーンズランド州の熱帯果実からビクトリア州やタスマニア州の温帯果実まで多様である。アボカド、マンゴー、ベリー類等の果実は主要輸出品目であり、経済に大きく貢献している。

アボカドは栄養価が高く、オーストラリアのほか、中国、日本等の国際市場でも需要がある。この需要は、アボカドの健康上の利点を強調する販売上の取組に支えられ、2025年も続くと予想される。クイーンズランド州とニューサウスウェールズ州が主要産地であり、水効率の高い農業の進歩により持続可能性が向上した。

マンゴーはオーストラリアの夏を象徴し、その優れた品質により、特に中東やアジアで旺盛な需要が見込まれる。北部準州とクイーンズランド州が主要産地であり、熟成・輸送段階の改善により、配送時の鮮度が最高に保たれている。

ベリー類は抗酸化作用が認められて世界的に人気を集めており、特に中国と日本で顕著である。包装とコールドチェーン物流の技術革新がこの成長を促進しており、ビクトリア州とタスマニア州が主要産地である。

柑橘類(オレンジ、マンダリン、レモン等)は、ビタミンC含有量のおかげで需要が急増している。リベリーナ、サンレイシアの両地域は、柑橘類の栽培で有名である。貯蔵寿命を延ばし、輸出の可能性を高める新たな技術が開発されている。

生食用ブドウは、歯ごたえの良い食感と自然な甘さが評価され、中国、韓国、日本等で関心が高まっている。ビクトリア州と南オーストラリア州が生産をリードしており、収量を増やすため病害虫に強いブドウ品種に力を入れている。

リンゴは食物繊維が豊富なことから好まれており、タスマニア州とビクトリア州が生産をリードしている。有機栽培品とプレミアム品種の導入は、より健康的な選択肢を求める消費者の需要に応じており、東南アジアへの輸出拡大に重点を置いている。

バナナは依然としてオーストラリアの食生活の定番であり、クイーンズランド州の熱帯地域が主な産地である。生産効率と病害管理を改善するための取組みは、国内需要と輸出需要の両方を満たす鍵である。

核果類(モモ、スモモ、ネクタリン等)は、ジューシーな風味で人気がある。ビクトリア州とニューサウスウェールズ州が主要産地であり、包装の改善により輸出時の鮮度が確保されている。

パイナップルはトロピカルな風味で知られ、生食用と加工用の両方の需要がある。クイーンズランド州沿岸地域の持続可能な農法は、この需要を満たす鍵である。

サクランボは高級果実と見なされ、中国、日本、韓国等の国際市場で大変人気がある。タスマニア州とビクトリア州が生産をリードしており、コールドチェーンの進歩により最適な鮮度が保証されている。

出典: [Editorialge](#)

359. 中国重慶市 東南アジアへの柑橘類の輸出を拡大

[FreshPlaza 2025年1月3日](#)

重慶市は農業の成長を背景に東南アジアへの柑橘類の輸出を拡大

東南アジア諸国からのバイヤー達は最近、重慶市秀山県獅地鎮(町)を訪れ、柑橘類の発注を行った。これは、重慶の農産物に対する国際的な需要を反映している。獅地町の柑橘類は海外で人気急上昇しており、2023年にはASEAN諸国への輸出が初めて標準的なコンテナで100個となった。この成果には、独自ブランドの原産地証明の取得と直接出荷が含まれる。

2024年については同町の柑橘類輸出は標準コンテナで200個に達すると予想される。取引額は1,200万元(164万ドル)と見込まれ、輸出額の大幅な増加を目指している。地方政府は、同町の柑橘類の世界的な拡大を強調し、この成長を支援するために柑橘類輸出センターを設立した。

柑橘類に加えて、重慶の輸出農産物のひとつにキクの花があり、シンガポール市場で顕著な存在感を示している。重慶市内の様々な地域から出荷される花は、その品質で注目を集め、地元の農家の生活を向上させる農村活性化の取り組みに貢献している。

重慶市の輸出戦略は、新国際陸海貿易回廊(国際陸海貿易新通道)の恩恵を受けて、地域の輸出入能力を強化している。この戦略的な開発により、この地域の輸出入額は2年で4倍に増加した。キクや涪陵区のザーサイなど、重慶市の農産物輸出の成功は、国際市場での同市の影響力の高まりを例示しており、農産物の輸出は前年比で大幅に増加した。

重慶市が農産物の輸出を拡大し続ける中、外に開いた経済を支えるため、引き続き物流インフラ、市場チャネル、企業サービスの改善に焦点が当てられている。その独特な農産物を振興する同市の取り組みは、世界の舞台での同市の評価に貢献しており、地域の経済発展と農村の活性化に良い影響を与えている。

出典: [Chong qing\(重慶\)](#)

360. 中国 ブルーベリー品種の知的財産保護の取り組みを開始

[FreshFruitPortal 2025年1月6日](#)

中国では、権利侵害事件がより顕著になり、同国の育種と技術の進歩を損なっているため、ブルーベリー品種の知的財産保護の取り組みを開始した。

中国の食品輸出入商工会、在来農畜産物副産物協会(CFNA)、及び中国ブルーベリー委員会のメンバーによって発信されたプレスリリースは、中国のブルーベリー産業が「急速に拡大/増大する栽培面積、収量、貿易量」によって驚異的に進歩しており、品種保護が業界の健全で持続可能な発展の基礎であるとしている。

この取り組みは、すべての業界関係者に対し、中国のブルーベリー品種を保護、優先、振興し、他の公的機関と協力して侵害行為を調査し、取り締まるよう呼びかけている。

署名者には、ドリスコル社のグローバル担当副会長兼アジア担当副社長・総括マネージャーであるチョン・ジェムン氏、アグロビジョンチャイナ社の商務ディレクターであるラルフ・ジョウ(周)氏、カンボソル社中国部門の総括マネージャーであるルイス・バーナンテ氏、ユナイテッドエクスポートチャイナ社の事業マネージャーであるショーン・リー(李)氏、その他の人々が名を連ねている。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

361. ブラジル オレンジの価格は2024年に史上最高を記録

[Cepea 2025年1月6日](#)

生産量が少なく、需要が堅調なため、オレンジの価格は2024年に史上最高を記録

セペア、2025年1月6日 - オレンジの価格は2024年に史上最高を記録した。1箱(40.8kg/箱 以下同じ)の価格は青果物市場で100ブラジルリアル(BRL)を超えた。この高値は、業界の一部からの堅調な需要(オレンジ果汁業者の在庫が少ないため)と、生産量が限られたことによるオレンジ供給の制約によって説明される。

柑橘類地帯(柑橘類ベルト)の天候は、作物の生育期間中に雨が少なく高温であった。価格は柑橘類生産者に良い利益をもたらしたが、生産性の低さはコスト(カンキツグリーンング病のためにすでに高くなっていた)を押し上げた。果実の記録的な価格にもかかわらず、生産量が大幅に減少した地域では利潤が減少する可能性がある。タヒチライムの価格については、前期は低水準で推移し、後半はオフシーズンのため上昇するという典型的な動きであった。

オレンジの供給が限られ、業界からの需要が高かった結果として、実質ベース(IGP-DI(ブラジルの物価指数デフレーター)で調整済み)の価格は記録的な水準で推移した。10月には、業界平均価格が1箱当たり90BRLを超えた。2023/24年度シーズンには取引が通常より早く1月初旬に開始され、1箱当たりの見積価格が約38BRLであったことは注目に値する。この業界では在庫が限られていたためスポット市場の需要が高まり、11月には100BRL/箱を超え、実質ベースで史上最高を記録した。

サンパウロ州とミナスジェライス州のトリアングロ地域では、2024/25年度シーズンに2億2,314万箱のオレンジが収穫される見込みで、これは9月に発表された前回の予測よりも736万箱(+3.4%)多いが、それでも最初の予測(2024年5月)と比較して924万箱(-4%)少ない。したがって、今シーズンは、3億722万箱が収穫された前回(2023/24年度)よりも27.4%少ない可能性がある(Fundecitrus のデータによる)。

悪天候とカンキツグリーンング病のため、2024/25年度の生産量の減少はすでに予想されていた。

現在のシナリオは、ブラジルのオレンジ果汁の在庫が非常に限られているため、世界のオレンジ果汁の供給を保証するためには、翌年産(2025/26年度産)はブラジルと米国フロリダ州の両方で増加する必要があるというものである。

メルコスールと欧州連合との間の協定については、ライム、レモン、オレンジ果汁の輸出に優遇を受けられる可能性が有るが、スペインからこれらの果実を直接受け入れるチャンネルが開かれる可能性もある。それでも、この協定は非常に重要であり、中長期的には良い見通しをもたらすものである。

セペア/Cepea(サンパウロ大学応用経済高等研究センター)

362. 米国フロリダ州 大手農業企業が柑橘類事業の閉鎖を発表

[FreshFruitPortal](#) 2025年1月7日

アリコ社は、カンキツグリーンニング病と悪天候により数シーズンにわたって財政的困難が拡大していることから、フロリダ州の柑橘類事業部門を閉鎖すると発表した。

フロリダ州フォートマイヤーズ市に本拠を置き、州内の8つの郡に約5万3,371エーカーの土地を所有し、州内の約4万8,700エーカーに石油、ガス、鉱物の権利を有する同社は、すべての土地で農業事業を多様化し、一部の区画は商業開発や住宅開発に利用する計画である。この動きは、投資家の資本に対しより大きな収益を提供するための取り組みである。(1エーカー=約0.4ヘクタール)

同社はプレスリリースで、2025年産作物が収穫された後は、それ以上の資本を投入しないとしている。それどころか、同社は「収益性の高い成長のための新たな機会を創出すると同時に、株主を代表して慎重に行動する」ことに引き続きリソースを集中させる。

アリコ社の社長兼最高経営責任者(CEO)であるジョン・キアナン氏は、同社の柑橘類生産量は過去10年間で約73%減少したと述べ、「2017年のイルマ、2022年のイアン、2024年のミルトンの3つのハリケーンが、長年のカンキツグリーンニング病で既に弱体化していた弊社の果樹に影響を与え、弊社はフロリダ州での柑橘類栽培はもはや経済的に見合わない」と結論付けた」と付け加えた。

アリコ社は、柑橘類生産のための労働力の大部分を直ちに削減し、2026年までのもう1シーズンは、第三者によって約3,460エーカーが管理される見通しである。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

363. タイ パイナップルはより良い睡眠の自然な助け

[FreshPlaza](#) 2025年1月7日

タイの複数の大学がパイナップルをより良い睡眠と総合的な健康のための自然な助けとして特定

人気の熱帯果実であるパイナップルが、睡眠の質を高めるための自然療法として浮上した。抗酸化作用と抗炎症作用で良く知られるこの果実は、体内のメラトニンレベルを最大240%と大幅に上昇させることが確認された。メラトニンは、概日リズム(体内時計)を調節するための重要なホルモンであり、暗闇に反応して脳に信号を送り、安らかな睡眠を促進する。

タイの複数の大学が主導して15種類の熱帯果実を精査した研究では、乾燥重量で果実1グラム当たり6万8,092ナノグラム(1ナノグラムは10億分の1グラム)の濃度を記録したパイナップルをメラトニンの主要な供給源であると特定した。なお、この果実に含まれるセロトニンとトリプトファンも、気分と睡眠に影響を与え、この果実が不眠症に対する天然の対抗手段として働く可能性に寄与している。

パイナップルは睡眠を促進する性質で際立っているが、メラトニンレベルを自然に高める能力はパイナップルだけのものではない。動物性食品では卵や魚があり、植物性食品ではクルミ、一部のキノコ類、全粒穀物やマメ科植物がある。これらの代替品は、睡眠の改善を促進するだけでなく、全般的な健康に不可欠な栄養素を提供する。

パイナップルに含まれる栄養素は、ビタミンC、マンガン、ブロメライン等である。これらの成分は、免疫系をサポートし、細胞の酸化ストレスに対する抗酸化作用を有し、抗炎症作用と治癒作用がある。さらに、グリセミック指数(GI)と繊維含有量の低さから、パイナップルは低カロリーを維持しながら消化を促進する健康志向の選択肢である。したがって、パイナップルを食事に取り入れることは、睡眠の質を改善し総合的な健康を高めるためのシンプルで栄養価の高い戦略として役立つ可能性がある。

出典: [GloucestershireLive](#)

364. 米国 リンゴ産地は増大する気候変動の課題に直面

[FreshFruitPortal 2025年1月8日](#)

ワシントン州立大学(WSU)の調査によると、気候変動は、米国で最も重要ないくつかのリンゴ産地に大きな課題をもたらしている。

WSU Insider(同大学の学内サイト)は、研究者グループが、発芽、開花から果実の肥大、成熟、着色まで、リンゴの生育サイクルに影響を与えた40年以上(1979年~2022年)の気象条件を分析したと伝えた。

多くの産地が気候リスクの増大に直面しているが、ワシントン州ヤキマ、ミシガン州ケント、ニューヨーク州ウエインの3つの地域が最も影響を受けている。

同大学の気候学者でこの研究の著者であるディプティ・シン氏は、「我々が愛して止まないおいしいリンゴを当たり前だと思っはいけない」と述べている。

同氏は、WSU Insider が報じた声明の中で、「生育期間中の複数の時期に気象条件が変化すると、リンゴの生産量と品質に脅威を及ぼす可能性がある。今後は、リンゴの生育の様々な段階で、全体的な悪影響を最小限に抑える適応について考えることが有用だろう」とコメントしている。

具体的には、研究者たちは、リンゴの成長に影響を与える6つのパラメーターを調査した。そのうち2つは極端で、日焼けやその他の問題を引き起こす可能性のある非常に暑い日(34°C以上)と、リンゴの着色に悪影響を与える可能性のある暖かい夜(15°C以上)というものである。

考慮されたその他の要因は、寒い日の数、休眠打破に必要な低温量、春の降霜の最終日、及び成長温度日数(リンゴの成長を助長する一定の温度を超える日数)であった。

これらのパラメーターが変化すると、開花の時期が変わったり、日焼けのリスクが高まったり、またリンゴの外観と品質に影響を与えたりすることにより、リンゴの生産に悪影響を与える可能性がある。

共著者であり、同大学の樹木生理学者で、ウェナチー果樹研究普及センターでプログラミングを主導するリー・カルクシッツ氏は、リンゴの木が多年生植物であることもあって課題は複雑であると指摘する。

同氏は、「様々な季節に起こることは、果樹の長期的な健康のほか、その特定の季節のリンゴの収量と生産性に影響を与える可能性がある。つまり、冬に起こることが春に起こることに影響を与え、それが今度は夏に影響を与え、そしてこのサイクルが続く」と説明した。

気候リスクの増大が予想される中、研究者らは果樹業界が適応するのを助けるための取組みを行っている。カルクシッツ氏は、異常気象がリンゴとナシの作柄に与える影響を軽減することを目的とした、米国農務省の675万ドルの助成金によるプロジェクトを率いている。この複数機関の連携による取組みは、ワシントン州のリンゴ産地を始めとして全米で展開されている。

この研究は、学術誌 Environmental Research Letters に掲載された。

365. 米国フロリダ州 シーズン後半のバレンシアオレンジへ移行開始

[FreshPlaza 2025年1月8日](#)

フロリダ州のオレンジの出荷は、早生及び中生の品種からシーズン後半のバレンシアオレンジに移行し始めている。ダンディー地区柑橘類生産者協会のスティーブン・キャラハム氏は、「現時点では出荷量はやや少ないが、今後数週間のうちに量が増え始めるだろう」と話す。

2024年の秋に2つのハリケーン - 9月下旬のハリケーン「ヘレン」と10月上旬のハリケーン「ミルトン」 - がフロリダ州を通過した後、業界の供給量は前年に比べて全体的に減少している。キャラハム氏はまた、今年の出荷は約1週間半遅れて始まったが、ハリケーン・ミルトンはシーズンの序盤にほぼ2週間にわたって供給に影響を与えたと付け加えた。

しかし、果汁産業と生鮮果実産業の両方を有する同州は、果実の一部を生鮮市場の側に振り向けると見られる。キャラハム氏は、「生鮮果実業界は5月末までオレンジの安定した供給を維持し、一部の出荷業者はそれ以降も冷蔵倉庫から出したものを梱包・出荷するかも知れない」と言う。

サイズの大玉化 果実の品質についてキャラハム氏は、梱包されている果実を見ると内部の品質が非常に良いと述べている。晩生品種への移行に伴い、昨年の晩生品種よりもサイズが良く、また早生の果実よりもサイズが優れている。キャラハム氏は「全体として、取引先に提供できるサイズの幅が広がるだろう」と述べた。

一方、オレンジの需要は好調で、現在カリフォルニア州からも出荷され、テキサス州からもある程度の量が出ているため、今のところ市場は落ち着いており、価格も安定している。

ただし、この先は、晩生品種に切り替わると価格が変わる可能性がある。同氏は、「晩生品種の価格は早生品種よりも高いため、これらの価格はある程度堅調に推移するだろう」と言う。

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

366. 英国 ナドルコット・プロテクションが別の大手小売業者に法的措置

[FreshPlaza 2025年1月9日](#)

ナドルコット・プロテクションが英国の別の大手スーパーマーケットに対して法的措置

ナドルコット・プロテクション(NCP)は、英国の前回とは別の大手小売業者に対して法的措置を取った。これは、NCPがタンゴ/タンゴールドマンダリンの無許可使用に対して英国の裁判所に提起した2番目の訴訟となる。

これに先立ち、NCPは2024年1月にセインズベリー社に対する訴訟を開始した。NCPとセインズベリー社は2024年10月に、セインズベリー社が商品の仕様を変更し、タンゴールド及び/またはナドルコットに関する他の複数の訴訟の結果が出るまでタンゴールドを販売から外したことで和解した。

今回の新しい権利侵害訴訟は、特にタンゴ/タンゴールドマンダリンの無断使用に関して、ナドルコット品種の権利を保護するためのNCPの取り組みの強化を表している。

NCPは、ナドルコットに関する独占的権利を引き続き擁護し、関連するすべての法域において、その知的財産の不正使用を防止するためにあらゆる適切な措置を講じる権利を留保している。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

367. 米国フロリダ州 カンキツグリーニング病と戦う新しいアプローチ

[FreshPlaza 2025年1月9日](#)

研究者達はカンキツグリーニング病と戦うための新しいアプローチを探求

フロリダ大学の科学者たちは、カンキツグリーニング病に関与する小さな昆虫を撃退できる新しいタイプの柑橘類の果樹をテストしている。

このアプローチでは、ミカンキジラミの幼虫を殺せるタンパク質を生成する遺伝子を、柑橘類の木に挿入する。ミカンキジラミは、カンキツグリーニング病を媒介する。この遺伝子は通常、バチルス・チューリンゲンシス (*Bacillus thuringiensis* (以下Bt))と呼ばれる土壌伝染性細菌で見られる。

この遺伝子は、新しい柑橘類の木にこのタンパク質の作り方の指示を出す。したがって、遺伝子が木に組み込まれると、植物はミカンキジラミを殺すタンパク質を生成する。このアプローチではミカンキジラミの幼虫を殺すことができるが、フロリダ大学食品農業科学研究所 (UF/IFAS) の科学者達は、害虫の成虫を防除するための解決策の発見に近づいている。

UF/IFASの柑橘類研究教育センター (CREC) で昆虫学を担当するウーカシュ・ステリンスキー教授は、「我々は、持続可能で、生産者が簡単に利用でき、殺虫剤散布の必要性に代わるバイオテクノロジーによる解決法を展開しようとしている。Btの遺伝子を接種した現在の果樹では、それを完全に行うことはできないので、成虫には、例えば少量ながら殺虫剤の散布が追加で必要になるかも知れない」と述べている。

これまでのところ、科学者たちは実験室と温室で改変された果樹を開発してきた。今や彼らはこの方法が果樹園で機能することを証明しなければならない - 1年程度以内に果樹のテストを開始することを望んでおり、結論に達するのはおそらくまだ数年先である。

同大学は、カンキツグリーニング病の研究のために米国農務省から資金提供を受けており、これはブレークスルーの推進と加速に重要な役割を果たしている。

ステリンスキー教授は、科学者たちは新しい研究を通じて、果樹を食害するミカンキジラミの幼虫を全滅させることで木が保護されることを発見したと話す。

UF/IFASの科学者達がこの研究を始める前は、特定のBtタンパク質が樹液を吸う他の昆虫を殺すことができると分かっていたが、ミカンキジラミを殺すことは知られていなかった。

このタンパク質はミカンキジラミを殺す。このタンパク質は昆虫の腸壁の特定の受容体に結合し、小さな穴を形成する。これにより、昆虫の腸壁の細胞が破壊され、最終的に昆虫が死ぬ。

CRECの科学者達は実験で、Btから採取した遺伝子を柑橘類の木に挿入した。この遺伝子は、師部 (ミカンキジラミが栄養を接種する葉の維管束部分) でタンパク質を生成する。最終的に、そのタンパク質はミカンキジラミから木を守り、したがってカンキツグリーニング病から果樹を保護する。

ゲインズビル市にある同大学のメインキャンパスの学者で昆虫学の教授であるブライオニー・ボニング氏は、ミカンキジラミを殺す細菌タンパク質を特定する研究を主導した。

最近発表された研究では、UF/IFASの研究者達は、Btに由来するタンパク質が、最も初期の段階でミカンキジラミの大部分を殺すことができ、さらにその場合新しい成虫が樹上に出現することはできないことを発見した。

368. 世界のオレンジ市場(抜粋)

FreshPlaza 2025年1月10日

寒くなるにつれて、特にヨーロッパで需要の増加が見られる。フランスでは需要が良好で、市場は活発である。ドイツでも、需要が増加しており、多くの供給国からオレンジが入荷している。イタリアの2024/25年度のオレンジ出荷シーズンは、多くの生産上の課題に直面している。スペイン産オレンジは生鮮市場も加工用も良い値が付いている。

今シーズン、エジプトの生産者は過剰生産の罅を回避した。南アフリカは、現在のオフシーズンにかなりの雨が降ったことを歓迎している。北米ではオレンジの入手のしやすさは地域により異なっている。

スペイン：スペイン産オレンジの価格は生鮮市場、加工用ともに良い

スペインのオレンジの出荷シーズンは、ちょうど中間点を過ぎたところである。総出荷量の53%以上を占めるアンダルシア州で前年比22%以上の生産量の増加が見込まれるなど、主要産地で降雨量が大幅に増加したことで満足のいく結果が得られている。

最適とは言えないまでも灌漑用水の割り当て量が増加し、果樹園の植生の状況が大幅に改善したことも注目される。

12月の末は祝祭日の期間に当たり、ネーブルオレンジは例年どおり価格が下った。しかし、1月中旬には、生産者価格と出荷業者の出庫価格の両方で、過去5回の出荷シーズンの平均を上回り、この時期としては直近10年間で、昨年を除いて最高価格となった。

出荷シーズンの前半では、業界関係者によれば、ネーブルオレンジの小玉が多いにもかかわらず、生鮮市場と加工用の両方で前向きな結果となった。

「ナベリーナ品種に関しては、加工業者はかなり良い価格を支払っている。価格は約23ユーロセント/kgで、果実のサイズが小さい(サイズ5、6、7が多い)ことを踏まえると、今年はオレンジを海外に持っていきよりも加工業界に高い関心を寄せる生産者がいると言われている。実際、従来からの生食用果実市場では、大きなサイズが不足し、通常よりも出荷量が少ないことが注目されている。」

シーズン後半のオレンジは、雨がサイズに与えた恩恵が注目されており、状況ははるかに良くなると見られる。「弊社の場合、非常に良い品質とサイズが期待される葉付きのネーブレート品種の輸出が開始できるのを待っている。」

エジプト：生産者は過剰生産の罅を回避

エジプトのネーブルオレンジの出荷シーズンは12月初旬に始まった。生産者は、前シーズンに大量の出荷量にまったく適さない状況、すなわち紅海の危機の中で見られた過剰生産の罅を今年は回避した。振り返って見ると、エジプトは昨シーズン、オレンジ193万トンを含む230万トンの記録的な柑橘類輸出量を達成することができたが、価格は低かった。ある生産者は、「今シーズンは全国レベルで過剰な供給を避けることができたので、大変安心している。出荷量は、世界の市場ニーズをカバーするのにちょうど良い。樹上の着果密度が低いと、果実のサイズ分布が改善され、選別と品質管理の条件が改善した」と話す。

出荷シーズンの序盤は、この段階ではいつもそうであるように低迷しているが、トルコとモロッコのライバル業者は、有利な物流条件を利用して販売量をこなしている。ある輸出業者は、「エジプトのオレンジ市場はこれまでのところ、良好ではあるが荷足が遅い。これは珍しいことではない。例年のように、1月末までに出荷量が増加し、通常のペースに達すると予想している」と述べた。

この出荷シーズンの開始に先立ち、エジプト政府が輸出補助金の削減を決定した。農業部門では、販売額の8~10%であった補助金が2.4~3%に削減された。この措置の受け止め方は、オレンジ輸出業者によって異なる。輸出量の減少、価格の上昇、輸出業者間の価格差の縮小に直ちにつながる可能性はある。しかし、ある輸出業者は、「農産物輸出業界への好ましくない参入者達は、今シーズンに撤退するか、良い慣行

を採用するだろう。彼らは業界にとって有害なので、それは良いニュースだ」と要約しており、その影響は最終的にはプラスになると見られる。(中略)

エジプトの輸出業者は、紅海危機の影響としてアジア市場への供給の難しさに引き続き苦しんでいる。ある輸出業者は、「極東市場には慎重にアプローチしている」と述べている。別の輸出業者は、「紅海の危機はまだ続いており、エジプトの輸出業者がどれだけうまくそれに適応するかで違いが生じる。例えば、保険会社の選択に関連することや、出荷ルートの変更について対処することができる」と言う。

最後に、現在の出荷シーズンに変化を与える別のパラメーターは、グローバルGAP認証の改訂である。これにより、ヨーロッパで競争できる輸出業者の数が減少する。

上記のすべてのことが価格を押し上げている。ネーブルオレンジの農場出荷価格は、前シーズンの初めの8~9エジプトポンド(EGP)/kgから、今シーズンの初めには16EGP/kgに上昇した。(1EGP=約3円)

南アフリカ: オフシーズンにかなりの降水量

南アフリカの柑橘類農場では、今は一年のうちで静かな時期である。12月初旬にはまだ非常に乾燥していた北部のリンポポ州とムプマランガ州では、その後かなりの雨が降った。オレンジの収穫は5月頃に始まる。

2024年も引き続き、オランダが南アフリカ産ネーブルとバレンシアの最大の輸出先であった。南アフリカ柑橘類生産者協会は、「輸出用に梱包されたネーブルオレンジは、2023年と比較して40万箱多いものの、予想より2%少ない2,510万箱であった。バレンシアオレンジは合計4,870万箱を梱包した。これは2023年シーズンよりも470万箱も少なく、当初の予想に比べて16%の大幅な減少である」としている。

2024年に見られたオレンジ果汁価格の高騰は、今後2~3年続く可能性が高く、6年続くとも言われている。いくつかの要因は、搾汁用オレンジの生産量が30年間で最低になった結果として、高値が続いていることを示している。しかし、オレンジ果汁価格の高騰は、消費者の抵抗を招き、他の飲料へのシフトにつながる恐れがあり、一方、果汁メーカーはオレンジ果汁の代替品を探している。

南アフリカ柑橘類生産者協会は、「今、100万ドルの価値のある質問は、短期、中期、さらに長期的に何が起こるかということだ。これを確実に知っている人は、オレンジ果汁の先物取引で大金を稼ぐことができる」としている。

北米: オレンジの入手しやすさは地域によって異なっている

フロリダ州のオレンジは、シーズン後半のバレンシア種に移行している。供給量はやや少ないが、今後数週間のうちに増加すると見られる。

同州には果汁産業と生鮮果実産業の両方があり、果実の一部が生鮮市場の側に振り向けられることが見込まれる。生鮮果実業界は5月末まで安定した供給を維持し、一部の出荷業者はそれ以降も冷蔵倉庫から出したものを梱包・出荷する可能性がある。一方、オレンジの需要が旺盛なため、市場は落ち着いており、価格も安定している。晩生品種は価値が高いため、価格はある程度堅調に推移する可能性がある。

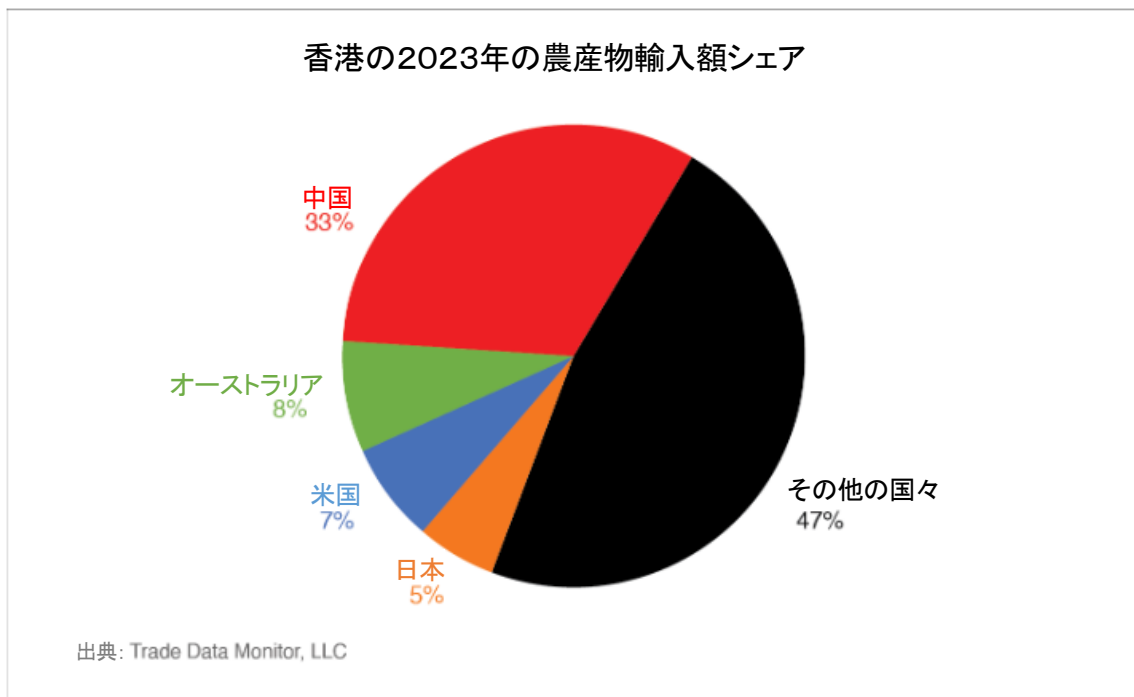
テキサス州にも一定程度の量のオレンジがあり、カリフォルニア州からの供給も安定している。カリフォルニア州中部からの供給については、生産者が糖度の上昇を待っていたため、出荷シーズンは約1週間遅れて始まった。ただし、中級品の果実や小玉の果実は供給量が不足している。価格は昨年と同程度である。

369. 香港 米国産農産物の輸出機会を開拓

[米国農務省国際農産物貿易レポート 2024年1月13日](#)

要約

2023年に香港は米国の農産物にとって世界で17番目に大きな市場であった。同年、米国は15億ドルの農産物を輸出し、香港への消費者向け食品の供給国として中国とオーストラリアに次いで第3位であった。香港は、牛肉、鶏肉、ナッツ類、その他の米国産農産物の輸出にとって重要な市場である。香港の農産物総輸入額は197億ドルで、2023年の経済成長率は3.3%であった。観光業の深刻な不振、金融サービスをはじめとするグローバルビジネスの香港からシンガポール等へのシフト、香港の人々が買い物や食事のために中国本土に旅行する傾向の高まりにより、香港の経済はパンデミック前の水準に完全には戻っていない。しかし、香港の経済は安定を取り戻して成長路線に戻り、香港政府は観光と投資を促進するための取組みを行っている。食品や飲料の免税輸入、裕福な消費者基盤、他のアジア市場との主要な貿易ハブとしての香港の地位、及び米国の農産物が高品質であるという認識により、輸出機会は存在する。



マクロ経済的視点

2023年の香港の人口は750万人で、一人当たりの総生産額(GDP)は5万500ドルを超え、アジアで最も高い部類に入る。香港は活気に満ちた国際都市で、年齢の中央値が47.2歳の洗練された消費者がいる。香港は人口が密集した都市で、耕作地は3.2%であり、食料供給の95%を輸入に依存しており、蒸留酒を除いてすべての飲食料品の輸入は免税である。蒸留酒の関税は2024年に1リットル当たり200香港ドル(HKD)(25.64米ドル)以上から10%に引き下げられた。米ドルに固定された香港ドルは、香港の輸入業者と米国の農産物輸出業者の両方に外国為替の安定性を提供している。

2018年から2019年にかけての米国と中国との貿易紛争とそれに続く世界的なコロナ禍が相まって、米国から香港への農産物輸出は大幅に減少した。米国から香港への農産物輸出額は、2017年に42億ドルのピークに達し、米国の市場シェアは17%であったが、2023年には15億ドルに減少し、市場シェアは7%となった。この減少の大部分は、牛肉、ナッツ類、生鮮果実、鶏肉等の消費者向け食料品であり、コロナ禍による観光の低迷に起因している。しかし、香港の観光業は2024年に回復し始め、輸入食品の需要も回復すると予想されており、米国の農産物輸出業者にチャンスを提供している。

米国産農産物輸出の見通し

香港は引き続き、米国の農産物及び食品の輸出にとって重要な市場であると見られる。マクロ経済状況が改善し、消費者の購買力が上昇し、観光産業が回復すると予測されるため、今後数年間は消費者向け輸入農産物に対する需要が堅調に推移すると見られる。米国の農産物輸出はパンデミック前の2017年の高い水準から大幅に減少しているが、米国製品、特に消費者向け商品は、強制力のある米国の食品安全基準と、有機食品、自然食品、健康食品、グルメ食品等の米国製品の一貫した品質により、香港の顧客によく知られ、高い評価を得ている。香港では、米国農務省(USDA)の有機ラベルの使用も受け入れられている。今後有望と見られる米国産輸出農産物は、牛肉及び牛肉製品、家禽及び家禽製品、豚肉及び豚肉製品、アルコール飲料、ナッツ類、生鮮果実(サクランボ、リンゴ、柑橘類、ブルーベリー)、調味料及びソース、キャンディー/菓子、食品調製品(スープ、ベーキングミックス等)、及び魚介類等である。

(品目別記述)

生鮮果実

米国は2023年に1億2,200万ドルの生鮮果実を香港に輸出し、2022年の1億500万ドルより16%多かったものの、過去最高であった2017年の2億9,100万ドルより少なかった。主な米国産生鮮果実輸出品は、リンゴ、ブルーベリー、サクランボ、柑橘類であった。米国から香港への生鮮果実輸出の市場ポテンシャルは、高品質な輸入品と健康志向の食生活に対する消費者の嗜好に牽引されて堅調である。消費者は、米国産のリンゴ、柑橘類、サクランボ、ブドウ、イチゴ等の果実を、その品質、味、及び食品安全基準で高く評価している。健康志向の顧客は、リンゴ、柑橘類、ベリー類等、彼らがビタミンや抗酸化物質の天然の供給源だと認識している生鮮果実をより一層求めている。さらに、香港の消費者は、軽食・間食、食事、デザートで毎日大量の生鮮果実を消費している。旧正月等の季節の行事や祝祭日には、リンゴ、ブドウ等の米国産果実は特別な贈答品と見なされる。米国の生鮮果実輸出の市場ポテンシャルは、旺盛な消費者需要、高品質であるとの評判、及び食生活の健康志向の高まりに支えられ、引き続き大いに有望であると見られる。

(他の品目は省略)

通商政策

香港は世界貿易機関(WTO)の設立メンバーであり、アジア太平洋経済協力(APEC)のメンバーである。香港は、中国、ニュージーランド、欧州自由貿易連合、チリ、マカオ、東南アジア諸国連合(ASEAN)、グルジア、オーストラリアとの間に8つの自由貿易協定を結んでいる。香港は中華人民共和国の特別行政区であるが、別個の関税地域であり、WTOに加盟している。香港は商品や資本の自由な流れが可能な自由港であり、関税や税金がかからず、ほぼすべての飲食料品の関税が無税である。

結論

コロナ禍後の回復の遅れによる経済成長の鈍化にもかかわらず、香港は家計所得の増加、消費者の購買力と支出の増加、観光セクターの回復により、米国の輸出業者にさらなる成長機会を提供している。消費者は引き続き、米国産農産物を高品質で信頼性が高く、安全であると認識している。米国の事業者は香港を訪れ、貿易ミッションや展示会に参加し、業界に特有の知識と情報を収集し、香港及び地域の輸入業者との関係を構築するべきである。

370. 米国カリフォルニア州 ネーブルオレンジの収穫が最盛期

[FreshPlaza 2025年1月14日](#)

オレンジがほぼ周年供給されるカリフォルニア州で、供給が最盛期に達している。8世代にわたる家族経営の生産・梱包・出荷事業者であるキングスリバーパッキング社のジェシー・シルバ氏は、「弊社は現在、カリフォルニア州でネーブルオレンジの収穫の最盛期を迎えている」と述べ、ネーブルは7月上旬まで収穫を続ける」と付言した(以下「」は同氏の話)。カリフォルニア州では4月には果汁用バレンシアオレンジの収穫が始まり、9月下旬ないしは10月上旬まで続く。

今シーズンは、果樹当たりの着果数がかかなり多いため、収穫量は昨年よりも多くなっている。「課題はサイズである。オレンジのサイズがこれまで非常に小さかったが、シーズンが晩生の果実に移行するにつれて、これは変わってくる。また、企業として成長するにつれて、引き続き販路を開拓し新しい関係を発展させていく。弊社ではこれまで取引先のニーズを満たすことに非常に成功しているので、これを継続し、それらのニーズの変化に応じて進化することを目指したいと考えている。」

カリフォルニア州内の同社向けのオレンジ生産は、主にD1地域、すなわちセントラルバレーで行われている。ただし、晩生の果実は他の柑橘類品種も栽培されている海岸に近いD2地域で栽培されている。「今年は早めのスタートであった。これは、いつになく高い夏の気温と、限られた降雨量により、果樹のストレスが高まったためである可能性が高い。」

その他の特産柑橘類

ネーブルとバレンシアに加え、同社はシーズンを通して、エアルームネーブルオレンジ(「オールドラインワシントンネーブル」というブランドがある)、カラカラネーブルオレンジ(果肉がピンクのネーブルオレンジ)、ラズベリーオレンジ(果肉が暗赤色の自社ブランドのブラッドオレンジ)、さらに有機ネーブルオレンジも栽培している。

出荷シーズンに向けて多くの販促活動が事前に設定されており、需要に関しては一貫して安定している。「需要は販促によって増進されており、安定的に継続すると予想している。果実が食べ頃の時期には、価格が高くなり過ぎない限り、需要が増加する。」

これらすべては、オレンジの価格が良好であることを意味している。「今シーズンは、世界的なオレンジ果汁の不足により果汁価格の底値が高くなっているため、梱包して出荷する生食用果実にも底値が形成されている。昨年は、生育期間中の雨天により全体的に病虫害が増え、収穫物の品質が悪かった。しかし、今年の果実は非常に高品質で、見た目も大変きれいである。これにより小売業者からの十分な安定的需要が生まれ、果実の味が非常に良いため消費者はそれに反応している。」

今後については、ミネオラタンジェロも出荷が始まったばかりで、ゴールドナゲットマンダリンの出荷もまもなく開始される。シルバ氏は、「弊社の出荷シーズンは夏の輸入果実にスムーズに橋渡しされるので、柑橘類の供給に切れ目が生じることはない」と述べ、同社はレモン、マンダリン、グレープフルーツ、その他の特産柑橘類も梱包・出荷すると付け加えた。

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

371. 米国 リンゴの貯蔵量が減少

[FreshFruitPortal](#) 2025年1月14日

米国の最新のリンゴ貯蔵量に関する米国リンゴ協会のデータ(USApple Tracker)によると、2025年1月時点で貯蔵中のリンゴの総数は1億5,200万ブッシェルで、昨年1月の1億5,600万ブッシェルと比較して4%減少した。(米国リンゴ協会のデータでは1ブッシェル=42ポンド(約19.05kg))

リンゴの総貯蔵量は5年間の平均よりも11%多く、生鮮市場向けリンゴの貯蔵量は昨年の1月よりは4%少ないものの、それでも1月の5年平均より13%多くなっている。

貯蔵量の多い主な品種は、ガラが合計1,867万2,260ブッシェル、レッドデリシャスが1,604万5,947ブッシェル、グラニースミスが1,308万9,656ブッシェルで、ハニークリスポ、ふじ、コズミッククリスポが続いている。

また、同協会は加工用リンゴの貯蔵量を4,300万ブッシェルと報告しており、これは昨年に比べて2%少なく、1月の5年平均よりも7%少ない。

ワシントン州はリンゴの貯蔵量が最も多く、通常大気での冷蔵貯蔵庫で合計2,259万5,579ブッシェルの生鮮市場向けリンゴと、581万2,824ブッシェルの加工用リンゴを貯蔵している。また、同州は合計9,474万8,740ブッシェルのリンゴをCA貯蔵庫で保管している。ワシントン州、ニューヨーク州、ミシガン州等、リンゴの生産量が上位の州すべてで、この期間の貯蔵量が減少したと報告されている。

372. フィリピン TR4と天候の影響でバナナ輸出4位に転落

[FreshPlaza](#) 2025年1月15日

国連食糧農業機関(FAO)の報告によると、フィリピンは2024年に世界のバナナ輸出国として、第3位から第4位に転落した。この変化は、悪天候と病害の影響を受けて、バナナの出荷量が3%減少したことに起因している。この後退にもかかわらず、フィリピンはアジア最大のバナナ輸出国としての地位を維持した。

同国の2024年のバナナの輸出量は前年の235万トンから227万8千トン減少した。FAOは、フィリピンの主要なバナナ産地であるミンダナオ島の生産可能面積を大幅に減少させたバナナの新病(TR4)の影響を強調した。フィリピンバナナ生産者・輸出業者協会は、TR4の蔓延により、当初の栽培面積8万9千ヘクタールのうち、生産を維持できたのはわずか5万1千ヘクタールであったと報告した。

バナナセクターの課題は、南シナ海の地政学的な緊張によってさらに悪化し、一部の輸出に影響を及ぼした。フィリピン農業食品会議所のダニーロ・ファウスト会長は、降雨、洪水、干ばつ、ハリケーン、高い投入コスト、物流の問題など、それ以外の課題を列挙した。同会長は、これらの課題に対処するための科学的解決策と改善された技術的アプローチの必要性を強調し、このセクターの回復に対する懸念を表明した。

真菌性病害であるTR4は、バナナ生産に重大な脅威をもたらし、世界のバナナ供給の大部分を占めるキャンベディッシュバナナに影響を及ぼしている。FAOは、悪天候や植物の病虫害が要因となって2024年の世界のバナナ取引が1%減少したと指摘している。

報告書はまた、いくつかの国での悪天候や熱帯暴風雨による供給量の減少とは対照的に、コロンビア、インド、ベトナムでは生産が増加したことについても言及している。TR4がフィリピンだけでなく、ベネズエラやペルーにも広がり、生産量の減少や病害予防の努力に伴う財政負担につながっていることが懸念材料として浮き彫りになっている。

出典: [Inquirer](#)

373. 中国山西省 税関の合理化と市場開拓で果実輸出を拡大

[FreshPlaza](#) 2025年1月15日

山西省は、税関業務の合理化と新しい市場の開拓で78カ国への果実輸出を拡大

中国北部の山西省は、米国、オーストラリア、ロシア等主要市場を含む78の国と地域への到達を達成した。太原税関は、同省が73品目の果実を輸出し、この地域にとって重要な成果を示したことを強調した。同省は、2024年の生鮮果実の輸出が9.3%増の合計16万7,500トンであったと報告した。特に、今年はロシアとアラブ首長国連邦に生鮮アンズ、バーレーンに冬ナツメ、ソマリアにリンゴを初めて出荷した。

中国の春節に至るまでの期間に、果実の輸出が急増した。通関手続きを効率化するため、太原税関は雲南省の税関と提携して新たな検査モデルを導入し、タイへの果実輸出を促進した。この取り組みにより、通関時間が60%短縮され、タイへの果実輸出が468%増加した。山西省永済市の青果物会社の経営者である范国強氏は、「税関の支援により、果実は陸路でわずか6日でタイ市場に到着できるようになった。海路で13日かかるのに比べて、鮮度がかなり良くなった」と述べた。

山西省の南西部に位置する運城市は、有名な果樹産地である。16万4,700ヘクタールの果樹園と年間600万トンの生産量を誇る同市は、肥沃な黄土と最適な緯度の恩恵を受けている。「运城リンゴ」は、中国農業ブランドセンターの最近のレポートで9億5,600万米ドル相当と評価され、大きなブランド価値を確立した。

出典: [Ecns](#)

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

374. アジア域内コンテナ指数は6%下落するも前年同期比では56%の上昇

[FreshPlaza](#) 2025年1月16日

ドリューリー社のアジア域内コンテナ指数(IACI)は、地域のスポットコンテナ運賃の加重平均であり、2025年1月15日までの2週間で6%下落し、40フィートコンテナ当たり828米ドルとなった。

一方、IACIは前年同期比で56%上昇しており、アジア域内貿易が引き続き好調であることを示している。運賃は今後若干低下するものの、今後数週間は安定した範囲内にとどまると予想される。

ドリューリー社のアジア域内コンテナ指数(IACI)は、アジア域内の主要な貿易ルートのスポットコンテナ運賃を提供しており、地域の海運の市場動向をより明確に示している。この指数は隔週で更新され、個々の航路を示す18のルート固有の指数と、複合指数から成っている。運賃には発地及び着地のターミナル取扱手数料は含まれておらず、すべての運賃は40フィートコンテナ当たりの米ドルで報告される。

この指数は、上海と主要な貿易ハブ(釜山(韓国)、ホーチミン(ベトナム)、ジャカルタ(インドネシア)、ジャワハルラールネルー港(インド)、高雄(台湾)、レムチャバン(タイ)、マニラ(フィリピン)、シンガポール、タンジュンペレパス(マレーシア)、横浜等)との間のルートをはじめとするアジアの主要港間の運賃を追跡している。また、これらの場所から上海に戻る復路や、上海からジェベルアリ(ドバイ)への接続もカバーしている。

ドリューリー社のこの新しい指数は、アジア域内の変動する運賃動向に透明性と洞察を与え、企業や海運業者による情報に基いた意思決定の支援を目的としている。このデータはリアルタイムの市場変動を反映しており、海運・物流業界の関係者にとって重要な参考値を提供する。

出典: www.drewry.co.uk

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

375. 米国カリフォルニア州 南部の山火事と風で農場に被害

[FreshPlaza](#) 2025年1月16日

ロサンゼルス郡とその周辺の南カリフォルニア地域では現在、山火事に苦しんでおり、住民だけでなく農業部門にも直接的な脅威をもたらしている。

カリフォルニア州アルタデナ地域に長年住み、ゾーシアン農場を営むジュリア・ゾーシアン氏は、「イートン火災」により40エーカー(約16ヘクタール)の農場がほぼすべて焼き尽くされ、生計手段と受け継いできたものの両方が大幅に失われたと報告している。1940年代に設立されたこの農場は、農業教育を提供し、柑橘類やナッツ類を生産するなど、コミュニティの基盤であった。この破壊によって、80年にわたる努力と創造の集積を失ったゾーシアン家は再建について慎重に検討している。

ロサンゼルス食品政策評議会のアルバ・ベラスケス事務局長は、現在、約24の農場がイートン火災による課題に直面しており、状況は日々悪化していることを強調した。これらの課題には、炎や煙の直接的な影響だけでなく、地域の食料システムの根幹を脅かす経済的影響や大気質に関わる懸念も含まれている。

カリフォルニア州農業者協会のピーター・アンセル氏は、煙が人間や動物の健康だけでなく、ワイン産地のブドウ園の収穫量が大きく影響を受けた過去の例を挙げ、作物自体にも脅威を及ぼすことを強調した。

同様に、カリフォルニア州ムーアパークのアンダーウッド農場のクレイグ・アンダーウッド氏は、ロサンゼルス郡のファーマーズマーケットの空気質の悪さと危険な状況が売上の減少につながったことによる経済的負担を指摘した。また、この農場は停電に見舞われたほか強風によりレモンの果実に傷がつく可能性が有るため、経済的な影響も強調している。

サンディエゴ郡では、大規模な火災はないものの、強風が農場にかなりの被害をもたらしている。パウマバレー地域で柑橘類とアボカドを栽培する4代目生産者のアンディ・ライアル氏は、強い「サンタアナ風」によりアボカドの収穫量の約50%を失ったと報告している。この損失は、同郡にとって重要な作物であるアボカドの今後の春と夏のシーズンの供給に影響を与えると予想されている。

これらの出来事は、農業部門が、地域の生産者のサプライチェーンと経済的安定の両方に影響を及ぼす自然災害に対して脆弱であることを強調している。

出典: [ABC News](#)

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

376. 南半球の柑橘類は2024年の出荷が減少

FreshFruitPortal 2025年1月16日

南半球の柑橘類出荷シーズンは数年にわたる輸出の成長に成功した後、2024年はその傾向に追随できなかった。南半球からの柑橘類の総輸出は減少し、これには南アフリカからの供給の減少が主に影響した。

南アフリカは、南半球の合計輸出货量(223万トン)の3分の2を占め、この地域で突出して最大の生鮮柑橘類輸出国である。

この国は伝統的に南半球におけるオレンジとグレープフルーツの主要な輸出国である。近年では、出荷量の大幅な拡大により、マンダリンとレモンでも優勢である。一部の栽培面積がまだ最大生産量に達していないため、この成長傾向は依然として有望である。

しかし、今シーズンに対する当初の高い期待は満たされなかった。天候、物流、市場、コストの問題により、予測された輸出水準を達成することは不可能であった。天候の課題は強風のほか、熱波と降霜、干ばつと洪水といった相反する条件を含んでいた。

同時に、収穫された柑橘類は、港への輸送の問題や、保管と船積みの遅延に直面した。

主要市場である欧州連合(EU)では、輸出業者は地中海地域の生産国の製品との競争の激化に直面した。特にオレンジに対する植物検疫要件の厳格化は、南半球の輸出業者にさらなる課題をもたらした。

アジア市場の反応は遅く、予想よりも柑橘類の需要が少なかった。米国向けについては、出荷できる産地の制限と厳格な植物検疫プロトコルにより、南アフリカ産柑橘類の輸出はわずかしかない。

一方、オレンジ果汁業界は昨年、非常に魅力的な価格を提供した。その結果、以前は輸出に向けられていた数量が果汁生産に振り向けられた。

他の生鮮柑橘類輸出国は、近年比較的安定した状況を示している。

チリは総出荷量35万~40万トンで、南半球で2番目に大きな柑橘類輸出国である。2024年シーズンの成果は、果実の種類によって異なった。最も輸出された柑橘類は、マンダリン、クレメンタイン及びそれより晩生の品種である。しかし、悪天候により出荷量は18万3千トンと21%減少し、2023年の記録を維持することができなかった。

レモンは状況が異なり、2年間の困難な年月を経て回復した。オレンジも近年と比較して輸出がわずかに増加した。

ペルーは柑橘類の輸出国の中で南半球の第3位にランクされ、2024年には前年を上回って輸出記録を達成した。柑橘類の総輸出货量は21万9千トンに達し、その約80%はマンダリンである。ライム、オレンジ等の他の柑橘類も記録を打ち立てた。

アルゼンチンは同第4位で、主にレモンの輸出国である。しかし、レモンは世界的な供給過剰により、深刻な危機に直面しており、その結果、生鮮輸出が継続的に減少している。

さらに、アルゼンチンの柑橘類生産量の70%を占めるレモン産業は危機的な状態にある。スイート系柑橘類(オレンジ、マンダリン等)は二次的な役割を果たしており、輸出が回復しているものの、レモンの輸出の減少を補うことはできなかった。

オーストラリアは、約20~25万トンのスイート系柑橘類をアジアに輸出している。今年は悪天候により、輸出可能量が近年に比べて減少した。

執筆者: ベティナ・エルンスト(Top Info 社*社長) *アルゼンチンの果実市場コンサルタント会社

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

377. ブラジル オレンジは2025-26年度も供給不足の可能性

[FreshFruitPortal](#) 2025年1月20日

ブラジルの柑橘類ベルト(サンパウロ州及びトリアングロミネイロ地域)で2024年10月以降雨が戻ったとはいえ、2025-26年度シーズンのシナリオは依然として不透明である。Cepea(サンパウロ大学応用経済高等研究センター)は、雨が降った後に開いた花は満足のものと思われると解説した。しかし、作物の生育は依然としてシーズン中の気象条件に左右される。2024-25年度のオレンジの収穫量は、2億2,314万箱(40.8kg/箱)と推計されており、これは2023/24年度シーズンに比べて27.4%の減少となる。

同センターによると、悪天候により5シーズン連続で原料果実の生産が妨げられ、果汁の在庫が逼迫している。同センターの推定では、ブラジルのオレンジ果汁の在庫量が2024-25年度の収穫期間中に回復せず、今シーズンを実質的にゼロで終了する可能性がある。したがって、少しでも回復させるためには、2025-26年度シーズンは非常に良好である必要がある。

同センターは、2024-25年度シーズンの輸出を減少させても加工用果実の不足を補うことができないため、加工業界の需要は高止まりするだろうと強調した。

米国フロリダ州の状況の影響 フロリダ州では在庫が減少しており、国内市場価格を維持する一助として、ブラジルからより多く輸入する必要がある可能性がある。ブラジルで生産と在庫が限られているという上記のシナリオに加えて、米国農務省が12月10日に発表したデータは、フロリダ州の2024-25年度のオレンジ収穫量が合計1,200万箱(40.8kg/箱)で、10月に発表された数値(1,500万箱)と比較して20%(300万箱)減少する可能性があることを示している。フロリダ州の生産量の減少に影響を与えた2つの要因は、カンキツグリーニング病と2024年10月上旬のハリケーンミルトンである。

2025年までは、ブラジルの柑橘類栽培で起こる状況が、年間を通して価格を支える可能性がある。

378. 南アフリカ リンゴとナシの輸出シーズンは前向きな予報

[FreshFruitPortal](#) 2025年1月23日

業界団体のHortgroは最近のリリースで、昨年の南アフリカの仁果類の出荷量はリンゴとナシの両方で増加したと明らかにした。

同協会によると、リンゴの輸出量は合計4,860万箱で、前年比で12%増加した。2025年の輸出シーズンに関する当初予測では、2024年の数値に対してさらに5%の成長が示唆されている。Hortgroは、昨年の輸出量のこの肯定的な傾向は、いくつかの要因に帰することができるかと詳しく説明している。統計を押し上げた条件の一部を挙げると、若い果樹園の成園化による生産量の増加、多収性リンゴ品種の栽培、2023年の降雪や洪水の悪影響からの回復、そして概ね良好な気象条件であった。

今年の輸出量は5%増と予測される。ロイヤルガラ/ガラ(+6%)、クリップスピンク/ピンクレディー(+7%)、ビッグボックス/フラッシュガラ(+24%)等の品種がこの成長を牽引すると予想される。さらにクリップスレッド/ジヨヤの見通しは有望で、主に栽培面積の拡大と高い果実品質の保持により、9%の増加が予測されている。

同様に、ナシの輸出量も前年に比べて緩やかな増加が予想される。夜間の気温の低さは果実の肥大と着色に有利であり、全般的な品質に貢献する。日焼けは最小限で、穏やかな気象条件は全般的に有益である。現在、出荷の始まりは昨年より7~10日遅いが、これはまだ正常と見なされている。

ナシの推定輸出量は2,110万箱に達し、2024年に比べて4%増加する。フォレット品種とアバテフェテル品種の輸出量はそれぞれ7%増加すると予測されるが、パッカムズトライアンフは2%の緩やかな成長が見込まれている。チーキー、セリーナ、ローズマリー、サンプル等の夏のナシの輸出量は、すべて昨年に比べて増加すると予測されている。ボンクレティアン、ローズマリー、セリーナの早期の収穫が始まり、風による擦り傷は最小限で、果実の品質は素晴らしいと報告されている。(翻訳に当たり、構成の一部を変更しました。)

379. ニュージーランド産リンゴ、オーストラリア産ブドウ等のアジア向け輸出

[FreshPlaza 2025年1月24日](#)

テマタエクスポート社は、ヨーロッパ、北米、中東、インドに青果物を供給しており、北東アジアと東南アジアに重点を置いている。中国、日本、台湾等の主要市場での長年にわたる関係により、同社は信頼できるサプライヤーとしての地位を確立している。同社は、ニュージーランドとオーストラリアのほか、南米、北米、その他の国からも農産物を調達している。

テマタ社の契約生産者達は今週、通常より7~10日早く最初の果実を収穫し、ニュージーランドのリンゴの収穫期が始まった。

その品種の中に、ニュージーランド国内では有名な生産者であるケビン・ベイリー氏が開発し、テマタ社が独占するニュージーランド産リンゴ品種「a1」がある。果実全体を包む鮮やかな赤色と歯触りの良い甘い果肉で、シーズン初めの代表的なリンゴとして知られている。

テマタ社のCEOであるサラ・マコーマック氏は、「a1は、最も収穫が早い輸出品種の1つになる。ホークスベイ地方の優れた栽培条件により、色の良いきれいな果実が多く収穫された。弊社では数年前からa1リンゴを商業規模で輸出してきたが、栽培面積が増えるにつれて輸出量も増加している。弊社は、植栽面積の上限を100ヘクタールとすることを決定し、2026年までにすべての果樹を植栽する予定である。今後5年間、生産量は毎年増加し、年間約30万箱に達する」と述べている。(以下「」は同氏の話)

テマタ社のその他の品種はアジア、北米、ヨーロッパに出荷されているが、a1リンゴの主な輸出市場はベトナム、中国、日本である。

ブドウ

テマタ社はまた、オーストラリアとペルーから様々なブドウを輸出している。現在オーストラリアでの収穫が進行中であり、季節の移り変わりに合わせて、供給元をペルー産からオーストラリア産に移行する過程にある。

「日本への全面的な市場参入(オーストラリア産ブドウの品種の限定解除)が承認され、弊社は今年初めて幅広いブドウ品種を日本に提供できることを嬉しく思う。」

同社は独占的なブドウ品種は栽培していないが、主要な栽培パートナーは、品質の高い品種を幅広く提供している。今シーズン、サンレイシア地区の良好な生育条件により、果実のサイズと外観が優れており、当たり年が期待されている。

「収穫中の果実の品質は並外れており、今シーズンの全体的な味と品質には自信を持っている。地域全体の出荷量は昨年に比べて増加しており、昨シーズンの厳しい状況の後で、業界から歓迎されるだろう。」

テマタ社はアジア全域のいくつかの市場にブドウを出荷しており、日本が最大の市場である。

物流

過去数年間、輸送と物流は、主に輸送の遅延と機材の不足による課題に直面していた。改善が進められている一方で、今年に入っても一部の課題が残ると予想されている。

「すべての主要な輸送パートナーがこれらの問題に対処するため懸命に取り組んでいることを弊社は承知している。一部の輸送業者は遅延を減らすためにスケジュールを調整しているが、その結果、一部の目的地への輸送手段の選択肢が限られ、費用が上昇している。」

「障害はあるものの、弊社のチームは世界中の取引先に高品質な農産物を提供することに引き続き取り組む。今後も輸送パートナーとの強力な関係を活用して、タイムリーで信頼性の高い輸送を確保する。」

執筆者: ニコラ・マクレガー

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

380. 世界のリンゴ市場(抜粋)

FreshPlaza 2025年1月24日

世界のリンゴ市場は大きな変化を遂げつつあり、それは様々な生産レベル、変化する消費者の嗜好、及び変動する貿易力学によって特徴付けられている。(中略)

ヨーロッパのリンゴ市場は、独自の課題とチャンスに対応している。ポーランドでは、激しい霜と雹を伴う嵐により生産量が13.1%減少したが、貿易環境の改善によりエジプトへの輸出は回復している。イタリアの生産量は、有機リンゴの生産量の13%の復活に支えられて、8%増加した。逆に、オーストリアのシュタイアーマルク州では収穫量の最大60%の損失に直面しており、スイスでは有機リンゴの売上が12%減少したと報告されている。地域差はあるものの、安定した価格と旺盛な需要がドイツ、フランス、スペインの市場を支えている。世界のリンゴ産業の生産動向と貿易ルートの変化は、環境要因、消費者動向、経済の変化の相互作用を反映している。

中国：販売が低迷、輸出規模が縮小

中国の旧正月が近づくと、中国のリンゴ市場は販売が減速し、価格が下落している。甘粛省の^{ジンニン}静寧県や^{チンアン}秦安県など主要なリンゴ産地の生産者や商人は、厳しい経済環境の中で在庫を一掃するため熱心に取り組んでいる。静寧県では、人気の高い赤いふじリンゴは安定した品質と15~18度の糖度が評価され、依然として高い需要がある。商人達は、^{フアニウ}価格がより競争力のあるレベルで安定したことから、急速な荷動きを報告している。同様に、^{フアニウ}秦安県の花牛リンゴは、地元の需要による若干の価格上昇の恩恵を受けて、貯蔵在庫量の90%を成功裏に出荷した。

中国産リンゴの輸出市場では、特にネパール、インドネシア、ベトナム、タイで、小玉の果実を好む傾向が強まっている。たとえば、ネパールでは、サイズ60、65、70などの需要が著しく増加している。さらに、赤リンゴの「^{ルイシユン}瑞雪」、「^{ルイシユン}瑞香」等の新品種は供給が限られており、独特の特性があるため、価格が高くなっている。しかし、「^{ホウオン}黄元帥」等の古い品種は魅力を失っており、国内外で消費者の嗜好が変化していることを示している。

南アフリカ：好天がアフリカとアジアへの輸出を後押し

フリーステート州とムプマランガ州のリンゴ農場では、昨年7月の異常に急激で厳しい寒波、遅く始まり長引いた開花期、9月末の大雪を経て、現在、従来品種の収穫が始まっている。

しかし、落葉果樹農業の業界団体であるHortgroは、南アフリカの主要なリンゴ産地全体では、天候条件はより良好で、涼しい夜は果実の肥大と着色を促進しているとしている。同団体は、今シーズンこれまでのところ日焼けがほとんどなく、これからのシーズンのリンゴの輸出箱数は5,130万箱(12.5kg/箱)と予測しており、これは前年に比べて12%多かった2024年の輸出量よりもさらに5%多い。

Hortgroは最近のプレスリリースで、「輸出量の増加は、若い果樹園の成園化、多収性品種の導入、及び2023年の降雪と洪水の影響からの回復による生産量の増加に起因している」としている。

南アフリカで育成された果実全体が赤いガラの栽培品種であるビッグボックス/フラッシュガラは、引き続き果樹生産者の間で人気を獲得しており、その栽培面積は24%増加した。ロイヤルガラやクリップスピンク/ピンクレディーの園地も面積が増加している。プレスリリースは「クリップスレッド/ジョヤ®の出荷量についても9%の増加が見込まれ、見通しは前向きである」としている。

輸出業者達は、主に英国の需要がピンクレディーとブレイバーンに限定されていることから、ヨーロッパでの南アフリカ産リンゴの販売機会が減少しているとの見方で一致している。南アフリカのリンゴ輸出の将来は、アフリカとアジアにある。南アフリカ産リンゴの半分は、様々なアフリカ諸国(フランス産が市場を支配している北アフリカを除く)のバイヤーによって購入されている。また、アフリカ大陸の中でも東西で品種の好みに顕著な違いがある。生産者達は、アフリカはグラニースミス、トップレッド、ゴールドデンデリシャス等の古い品種にとって重要な市場であるが、東アフリカではピンクレディーも大変好まれていると報告している。

インド、バングラデシュ、ベトナムは南アフリカ産リンゴの輸出で重要な役割を果たしており、タイは最近、南

アフリカ産リンゴに市場を再解放した。ただし、インドネシア等の人口の多い国では、南アフリカ産のナシの輸入は認められているが、リンゴの輸入は許可されていない。

リンゴはCA貯蔵庫で次のシーズンまで貯蔵される。国内では、リンゴは町や村の市場で14.58ランド(0.76ユーロ)/kgで取引されている。食料価格のインフレ傾向を反映して、リンゴはより高価になってきている。シーズン後半のCA貯蔵リンゴは、過去2シーズンには、2021年、2022年の同様の期間に比べて4～6ランド(0.2～0.3ユーロ)/kg高く取引された。

北米：ワシントン州の豊作と有機リンゴの増加

米国最大のリンゴ生産州であるワシントン州のリンゴの総収穫量は、当初の予測である1億2,500万箱より8%多い約1億3,500万箱と推定されている。収穫量の多い上位5品種は、ガラ、レッドデリシャス、グラニースミス、ふじ、ハニークリスピーである。ワシントン州で栽培されるすべての品種の中で、約32%減少したハニークリスピーだけが今シーズン大幅に減少した。その結果、ハニークリスピーの価格は昨シーズンの平均のほぼ2倍になっている。生産量が最も増加したのは、広く栽培されている最新の品種であるコズミッククリスピーで、現在6位にランクインしている。有機リンゴの視点から見ると、この品種はワシントン州の総収穫量の約16%、国内で栽培されているすべての有機リンゴの90%を占めている。有機リンゴの全体的な需要は強く、その増加のペースは有機リンゴの植栽のペースを上回っている。平均して、価格は昨シーズンよりも上昇している。

中西部と東部は小規模な産地であるが、同様にハニークリスピーの収穫量が少なく、価格が上昇している。ミシガン州では、シーズン序盤の強い加工需要により、ゴールデンデリシャスの出荷量が大幅に減少した。

一般的に、業界は関税の可能性について懸念している。レッドデリシャス等の一部の品種は、国内市場ではあまり好まれていないが、世界の他の地域の消費者には人気がある。関税が(再び)課された場合、それは重大な損害を引き起こす可能性がある。米国の産業にとってアジアへの輸出が重要なだけでなく、中南米も重要な市場である。

ニュージーランド：回復と早期収穫がアジア市場を狙う

ニュージーランドには、北島のホークスベイ地方と南島のネルソン地方という2つの主要なリンゴ産地があり、合わせて生産量の約88%を占めている。残りはオタゴ、ギズボーン、ワイカト、ワイララパの各地方・地域に広がっている。

ニュージーランドのリンゴ産業は、2023年のリンゴシーズンの序盤に大被害をもたらしたサイクロン・ガブリエルやその他の悪天候による過去数年の厳しい年から十分に回復したようである。春の温暖で良好な生育条件は、収穫が昨シーズンより5～7日早くなることを示している。夏の間に着色に最適な涼しい夜が何度かあり、適度な降雨量があれば果実の良好なサイズが確保されるはずで、これは生産面からの吉報である。

多くの生産者は、アジア市場、特に中国を対象とした独占的な品種に注力している。それらは果実全体が赤色で糖度が高い傾向があるが、アジアでは一部の黄色の品種も人気を集めている。ライセンス制の品種に加えて、ニュージーランドはすべての従来品種を生産している。

2024年11月に発表された米国農務省の報告書によると、同省海外農業局のウェリントン事務所は、2024/25年度のリンゴ生産量を56万トンと予測している。同事務所はまた、2024/25年度の輸出量を強気の38万トンと予測しており、これが実現すれば2020年以来の高水準となる。近い将来の輸出はベトナム、中国等のアジア市場に注力するほか、米国や英国にも力を入れると見込まれている。インドは、人口増加とより健康的な食品への需要の増加に伴いリンゴの消費量が増加し続けており、ニュージーランドの輸出業者にとって成長市場になると予測されている。

ニュージーランド・リンゴ・ナシ協会の今シーズンの予測はまだ発表されていないが、ニュージーランドは昨年、1,890万箱相当(TCE)を輸出した。これはシーズン開始時の予測より11%少なく、この減少は果実のサイズが予想よりも小さかったことに起因している。

執筆者：ステファン・ヤンセン・ファン ニューエンハウゼン

381. ペルー 今シーズン8千万箱のブドウを輸出する可能性

[FreshPlaza](#) 2025年1月24日

第3週までのデータによると、ペルーは今シーズン(2024年10月~)これまでに6,400万箱のブドウを輸出し、これは2023-24年度シーズンの総出荷量に匹敵する。今シーズンは、イカ地方でまだ出荷の最盛期が3週間残っており、その後約10週間にわたって出荷量が減少するため、すべての状況が予測出荷量の7,800万箱が達成されることを示唆している。輸出業者サフコペルー社のディレクターであるベンハミン・シジョニス氏は、生産量は8千万箱に達する可能性さえあると述べている。(以下「」は同氏の話)

今シーズンの最大の懸念は、コンテナの不足とカヤオ港の操業の破綻である。「もし昨年、ピスコ港に投資していなかったら、大変なことになっていただろう。ピスコ港とチャンカイ港をさらに発展させることによって、カヤオ港の混雑解消に引き続き取り組まなければならない。」

2024年にピスコ港からバラ積み船による米国への直接輸送が開始されたことは注目に値する展開であった。これは重要なステップであるが、この方法では、今シーズンに発生した問題を回避するために、より多くの計画と協力が必要であるとシジョニス氏は述べている。「海運会社が輸入業者と交渉すればいいと考えているなら、それは誤解である。大規模な総合輸出業者がペルーの輸出の原動力である。彼らは必要な規模の果実を提供し、冷蔵倉庫、輸送、検査などの物流上の課題を管理するための専門知識を持っている。」

輸出業者はコンテナ船の航路にピスコ港を含めさせ、彼らはまたバラ積み輸送の実行可能性と持続可能性も確保する。シジョニス氏は、コンテナへの依存度や物流チェーンでのストライキなどのリスクを減らすためには、バルク輸送が不可欠であると強調した。

出典: [agraria.pe](#)

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

382. マレーシア 旧正月を前にマンダリンの残留農薬を検査

[FreshPlaza](#) 2025年1月27日

マレーシア保健省(MOH)は、祝祭日シーズンに輸入されるマンダリンが1985年食品規制と1983年食品法に適合していることを確保するため、昨年11月以降、70カ所のすべての輸入通関地点で監視を開始した。マレーシアの食品安全情報システムによって特定されたところによれば、マレーシアへのマンダリンオレンジの主要な輸出国は、中国、南アフリカ、日本、オーストラリア、エジプト等である。

分析された243のオレンジサンプルのうち、9件、すなわち3.7%が許容される最大農薬残留レベルを満たさず、廃棄された。不適合であった貨物の輸入業者は、その後の貨物に対してレベル5の検査を受けることになり、貨物はサンプリングのために留め置かれ、満足のいく分析結果が得られた場合に解放される。

MOHは、消費者の健康を保護するために、輸入通関地点と国内市場での継続的な監視への取り組みを強調し、すべての輸入業者による食品安全規制の遵守の重要性を強調している。これと並行して、1983年食品法に基づく食品の安全性確保を目的とした全国的な活動が、旧正月に合わせて1月19日に開始され、2月1日まで実施される予定である。

出典: [Bernama](#)

383. 米国カリフォルニア州 カーン郡での国境警備隊の強制捜査に懸念

[FreshPlaza 2025年1月27日](#)

1月の実質的な第1週にカリフォルニア州カーン郡で米国税関・国境警備局(CBP)が3日間の強制捜査を行ったことを受けて、柑橘類業界では今後の労働力確保に対する懸念が高まっている。フルーツワールド社の創業者でCEOのビアンカ・カプリエリアン氏は、「捜査の日には人々が怖がっていたため、仕事に行きたいと思ってもらうのが本当に難しかった。既にひどい状況にあり、今や人々は強制送還されたり、米国に来ること自体を恐れている。我々の業界は、これからどうなるのかを模索している」と述べた。

カリフォルニア州の柑橘類生産者を代表する自主的な非営利業界団体であるカリフォルニア州柑橘類協会のケイシー・クリーマー会長兼CEOは、強制捜査は当初、対象を絞った取り締まりだとされていたが、生産者や出荷業者は、この捜査がより広い範囲に及んだと報告しているとして、「国境警備隊がそのような活動を行うことは、特に国境から遠く離れた場所では非常に珍しいことであり、我々は大変懸念している。我々は収穫の真っ最中なので、捜査に対する恐怖が労働力不足を引き起こした。場所や業務の種類によっても異なるが、人々が家に閉じこもっていたため、多くの作業が中止された。今は元通りになっているようだ」と話す。

カリフォルニア州の柑橘類の収穫期が最盛期を迎える中、この捜査の影響は業界にとって既に困難な状況、つまり一般的な労働力不足に上乘せとなる。カプリエリアン氏は、「我々は今、かなり心配している。熟練労働者の確保が年々難しくなっている。そうした作業を行うのに十分な人がおらず、それが我々に影響を与えている」と述べ、フルーツワールド社では、十分な労働力がないために、適切な時間の枠内に果実を収穫するのに苦労したことがあるとして、「収穫するのに十分な労働力を確保できないために、野菜畑を放置した生産者達と話したことがある。状況は毎年悪化しているように感じる」と付け加えた。

新政権の優先事項 今回の捜査は米国の前政権下で行われたが、新たに選出されたドナルド・トランプ大統領は、就任1週間目で既に移民の取り締まりをエスカレートさせている。

では、この業界はどうなるのか? 国際青果物協会(IFPA)等の組織は、外国人を一時的な農業雇用に就かせるH-2Aプログラムの改革の分野で引き続き活動している。クリーマー氏は、「我々は以前から農業労働力近代化法に関わってきた。業界関係者、議会の代表者、団体の長やその他の人々は、修正が必要であることに同意している。我々はただ、最終的な修正を行うことができないでいる」と言う。

その間に、何か労働力の確保を妨げることについての懸念がある。カプリエリアン氏は、「食品の収穫・梱包により多くの費用がかかるため、小売価格が上昇する可能性がある。生産者は今後、労働者により多く支払う必要があるが、十分な収穫が得られないため、十分な資金が無い。最終的には、生産者の廃業を避けるため、消費者に転嫁することになる」と話す。

選ばれる雇用主 一方、労働力へのアクセスにおける競争力を維持するために、例えばフルーツワールド社は最近、公平な食品イニシアティブ(Equitable Food Initiative)の認定を受けた。カプリエリアン氏は、これが同社を選ばれる雇用主として位置付けるのに役立つと考えており、「労働市場が逼迫している中で、それは弊社が従業員に投資し、彼らを大切に、気遣っていることを示している」と述べた。

カリフォルニア州柑橘類協会は、農業労働力近代化法に引き続き注力する一方で、生産者の教育にも取り組んでいる。クリーマー氏は、「当協会は、生産者の権利が何であるか、米国移民税関執行局(ICE)が事業所に来た場合の合法性、書類手続きの確認等についてウェビナーを行った。それは、法律の範囲内の事柄について、教育を受け、準備するということだ。強制捜査は前政権下で起こったが、現在、新政権は新しい政策を実施しているため、大統領令に細心の注意を払い、何が起きているかを注視している。彼らは、ターゲットを絞った強制執行 - つまり暴力犯罪に関わった人々が対象で、それらの人々の居所を大まかに把握している - について話していたが、農業従事者が彼らの優先リストの上位にいるとは思っていない」と語った。

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

384. 米国フロリダ州産オレンジ グリーニング病と気候問題で低い収穫量

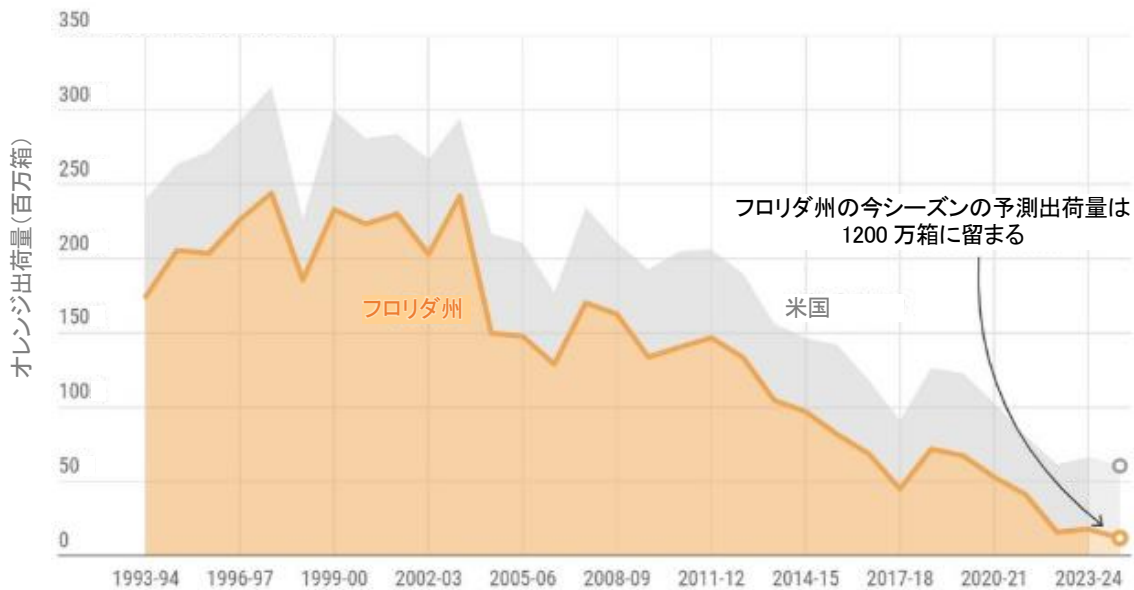
FreshPlaza 2025年1月28日

フロリダ州のオレンジ生産者達は、カンキツグリーニング病と気候問題で記録的に低い収穫量に直面

フロリダ州のオレンジ生産者達は、気候問題と果樹の病害の影響の中で、記録的に低い収穫量に備えており、かつて繁栄した産業は衰退を続けている。米国農務省の1月の予測では、生産量が30年前と比較して90%減少すると予測されている。この低迷は、主要な労働者団体の運営停止と、州内最大の生産事業者の1つが経済的な継続不能を理由に柑橘類セクターから撤退したことに続くものである。

フロリダ州のオレンジ生産者はもう1年記録的な不作に見舞われる見込み

カンキツグリーニング病と度重なるハリケーンが、かつては活気のあったフロリダ州の柑橘類産業を弱体化



2024-2025の合計は予測値。最新のオレンジ出荷量予測は1月10日公表。

不治の病であるカンキツグリーニング病との闘いは10年以上続いており、遺伝子組み換え果樹の研究が有望視されている。しかし、フロリダ大学のマイケル・ロジャース氏によると、業界は回復への長い道のりに直面しており、科学は病害の蔓延に追いつくのに苦労している。

4代目の生産者であるカイル・ストーリー氏は、回復の努力を妨げているカンキツグリーニング病や異常気象がもたらす課題を目の当たりにしてきた。キジラミによって広がるこの病害は、果樹の維管束を損ない、果実の生産量を減らし、最終的には果樹を枯死させる。嵐や洪水から果樹園を守るための取組みが実施されてきたが、成果は限られている。

最近のハリケーンは、果樹園の被害を悪化させており、回復には数シーズンの時間と多額の投資が必要である。ストーリー氏のような生産者は、防護スクリーンや抗菌剤など、様々な戦略を採用することで適応してきたが、収穫量が減少する中、これらの対策にはコストが伴う。

業界では柑橘類の果樹園が減少しており、2012年以降、栽培面積の半分以上が失われた。この傾向は、グリーニング病との闘いの末に柑橘類の事業から撤退したアリコ社の決定と、ガルフ柑橘類生産者協会の運営停止によって際だったものとなった。

これらの挫折にもかかわらず、柑橘類業界の未来のために取り組んでいる中核的な生産者グループが残っている。将来のために果樹を植え直し、農業用地の指定を維持していることは、抵抗性果樹の開発を目的とした継続的な研究とともに、この献身な取組みを裏付けるものである。フロリダ州政府柑橘局は、回復を果た

し、将来の需要に対応する業界の能力について楽観的な見方をしている。

業界としてこれらの課題を乗り越えようと、解決策を見つけ出してフロリダ州の柑橘類の遺産を維持するために、生産者や研究者が取り組んでいることは明らかである。回復への道のりは長いかわからないが、関係者の回復力は、フロリダ州の代表的な作物の未来に希望を与えてくれる。

出典: [Tampa Bay Times](#)

(関連記事) 米国 柑橘類出荷予測 1月

[米国農務省農業統計局 2025年1月10日](#)

フロリダ州農業消費者サービス局との共同発表

柑橘類の品目別出荷量及び予測出荷量 - 州別及び米国計

品目及び州	出荷量 ¹		2024-2025 予測出荷量 ¹	
	2022-2023 (1,000 箱)	2023-2024 (1,000 箱)	12 月予測 (1,000 箱)	1 月予測 (1,000 箱)
バレンシア種以外のオレンジ²				
フロリダ州	6,150	6,760	5,000	5,000
カリフォルニア州 ³	36,000	38,200	39,000	39,000
テキサス州 ³	570	690	400	600
米国計	42,720	45,650	44,400	44,600
バレンシア種のオレンジ				
フロリダ州	9,670	11,200	7,000	7,000
カリフォルニア州 ³	8,600	9,300	8,700	8,400
テキサス州 ³	560	490	450	300
米国計	18,830	20,990	16,150	15,700
オレンジ合計				
フロリダ州	15,820	17,960	12,000	12,000
カリフォルニア州 ³	44,600	47,500	47,700	47,400
テキサス州 ³	1,130	1,180	850	900
米国計	61,550	66,640	60,550	60,300
グレープフルーツ				
フロリダ州合計	1,810	1,790	1,200	1,200
赤肉系	1,560	1,550	1,050	1,050
白肉系	250	240	150	150
カリフォルニア州 ³	4,500	4,300	4,200	3,700
テキサス州	2,250	2,400	1,900	2,500
米国計	8,560	8,490	7,300	7,400
レモン				
フロリダ州 ⁴	(NA)	(NA)	500	600
アリゾナ州	1,400	950	900	900
カリフォルニア州	25,800	24,600	26,000	26,000
米国計	27,200	25,550	27,400	27,500
タンジェリン及びマンダリン⁵				
フロリダ州	480	450	350	300
カリフォルニア州 ³	23,500	27,400	25,000	25,000
米国計	23,980	27,850	25,350	25,300

(NA)はデータなし

¹ 1箱当たりの正味重量(ポンド) オレンジ: カリフォルニア州 80、フロリダ州 90、テキサス州 85。グレープフルーツ: カリフォルニア州及びテキサス州 80、フロリダ州 85。レモン: アリゾナ州及びカリフォルニア州 80、フロリダ州 90。タンジェリン及びマンダリン: カリフォルニア州 80、フロリダ州 95。

² フロリダ州ではバレンシア種以外の早生品種(ネーブル種を含む)及びバレンシア種以外の中生品種。カリフォルニア州ではネーブル種及びその他の品種。テキサス州では早生品種及び中生品種。

³ カリフォルニア州ではボメロを含む。

⁴ 2024-25 年度産から推計を実施。

⁵ タンジェロを含む。

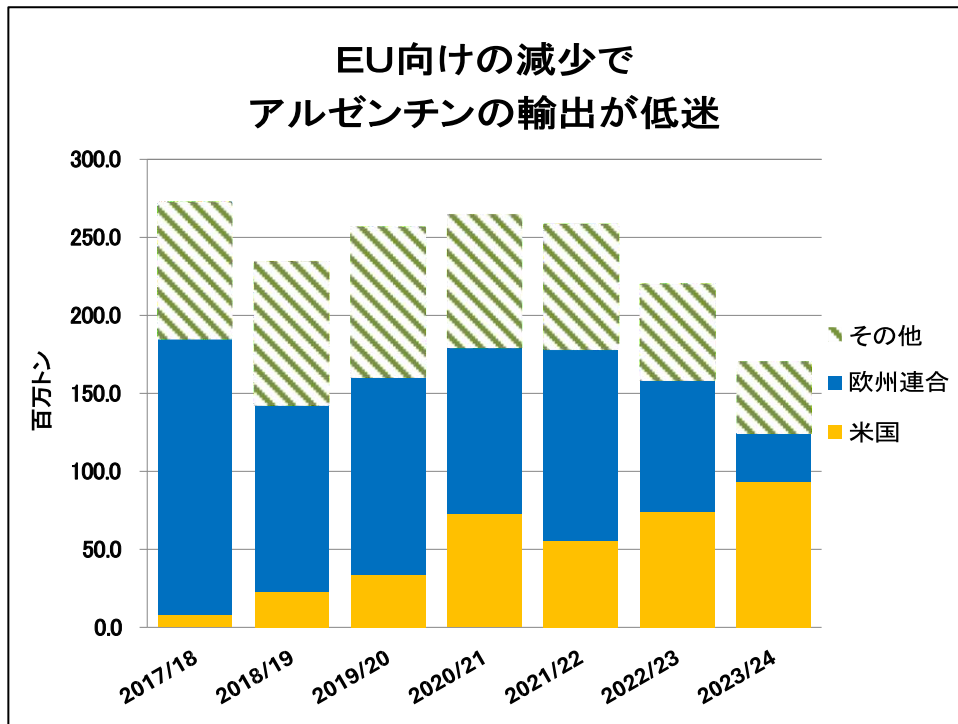
385. 世界の柑橘類事情と市場動向

米国農務省海外農業局 2025年1月30日

アルゼンチンのレモン/ライム輸出は減少が続く

アルゼンチンの2024/25年度のレモン/ライムの生産量は、開花中の好ましくない降雨が果実の品質に影響を与えると予想されるため、7万トン減の140万トンと予測される。アルゼンチンは、レモン/ライムの生産国及び輸出国として、世界第4位である。過去4年間、悪天候が収穫量や果実の品質及びサイズに影響を与え、2024/25年度には収穫面積が前年の4万5千ヘクタールから4万1千ヘクタールに減少したことにより、輸出は減少傾向にある。

2024/25年度の生鮮レモン/ライムの輸出量は16万5千トンと予測される。アルゼンチンが2017/18年度に米国市場へのアクセスを取り戻した後、米国はレモン/ライムの最大の輸出先である。アルゼンチンは、過去4年間、メキシコに次いで、米国にとって2番目に大きな供給国であった。欧州連合(EU)は現在、アルゼンチンにとって2番目に大きな市場である。南アフリカは、過去5年間にわたりEUへの最大の供給国であるため、EUにおけるアルゼンチンの主要な競争相手となっている。



1ヘクタール当たりの果樹本数は、過去4年間減少傾向にある。一部の生産者は、アボカド、サトウキビ、穀物等の商品作物を含むように品目を多様化している。栽培面積の減少は、人件費、光熱費、内陸・海上輸送費等の生産コストの増加やコンテナ不足による収益性の低下に帰することができる。ただし、一部の大規模な生産者は収量を高めるため、生産性の低い果樹を積極的に改植し、改良品種に投資している。アルゼンチンのレモン/ライムは、主に北西部のトゥクマン、サルタ、フワイの各州で栽培されている。

2024/2025年度の国内消費量は、生産量の減少により、12万6千トンに減少すると予想される。レモン/ライムは、そのビタミンC含有量によって高く評価されている。

<レモン/ライム>

世界の2024/25年度の世界生産量は、悪天候と低収量の結果としてEUとトルコでの生産が減少したため、65万1千トン減の1,020万トンと予測される。出荷量の減少に伴い消費量は減少すると予測されるが、南アフリカで生産量の増加と記録的な輸出量が見込まれることから、輸出量は増加が予想される。

トルコの生産量は、開花期の好ましくない高温により収量が低下するため、30%以上の減となる160万トンと予測される。出荷量の減少に伴い、消費量と輸出量は減少すると予測される。

南アフリカ生産量は、好天に恵まれ7%増の78万トンと予測される。出荷量の増加に伴い、記録的な輸出が見込まれる。EUは引き続き輸出量の3分の1以上を占めると予想される。

メキシコ生産量は、開花期と着果期の好天により、8%増の350万トンと予測される。供給量の増加に伴い、消費量と輸出量が増加する。米国は引き続き、輸出量の90%以上を占める最大の市場であると予想される。

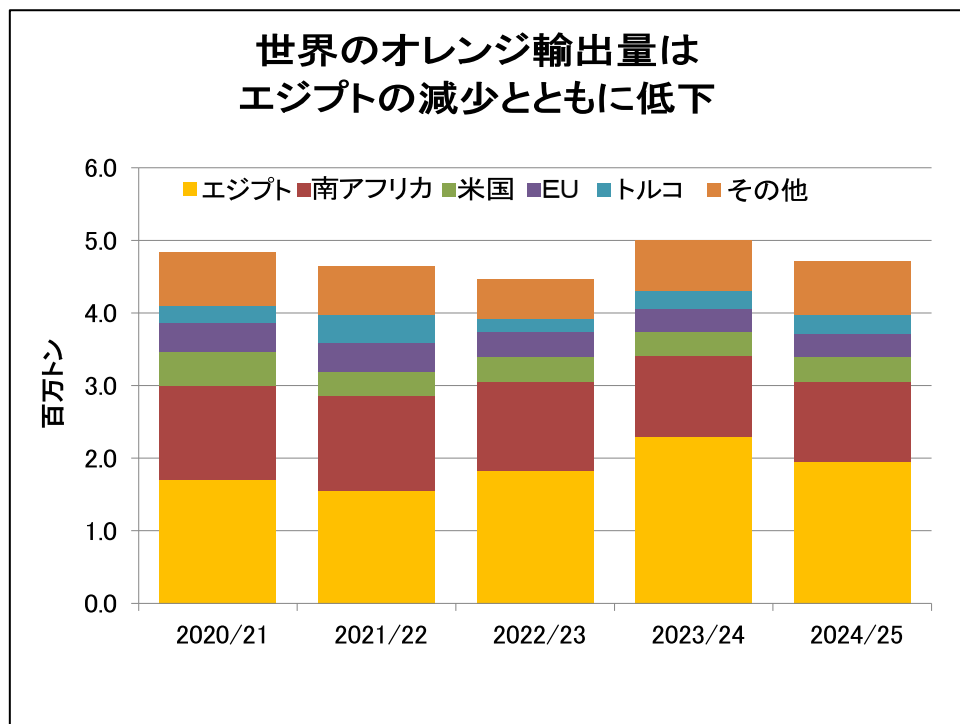
EU生産量は、スペインでの収量低下により生産量が平均に近い水準に戻ると予想されるため、14%減の150万トンと予測される。生産量の減少に伴い、消費量と加工仕向量は減少する。輸出量は横ばいで、輸入量は増加する。

米国の生産量は、カリフォルニア州の好天による生産量の増加で、8%増の100万トンと予測される。生産量の増加に伴い、加工用と輸出用の果実が増加すると予測される。国内の需要を満たすため、輸入量は増加すると予想される。

チリの生産量は、好天と収穫面積の増加により、3%増の19万7千トンと予測される。出荷量の増加に伴い、消費量と輸出量は増加すると予測される。米国は、引き続き最大の輸出市場であると予想される。

<オレンジ>

世界の2024/25年度のオレンジ生産量は、エジプト、トルコ、米国での収穫量の減少がブラジルでの増産を上回ったため、66万2千トン減の4,520万トンと予測される。生産量の減少に伴い消費量と輸出量は減少するが、ブラジルでの生産量の増加により加工仕向量は増加する。



ブラジルの生産量は、降雨と気温がより安定する好ましい天候により、70万トン増の1,300万トンと予測される。生産量は昨年よりは増加するものの、好ましくない暑さと柑橘類ベルトにおけるカンキツグリーンング病の増加により、一昨年の水準を250万トン下回る。出荷量の増加と搾汁用果実の収益性の向上により、加工に仕向けられる果実の増加が予想されるため、生鮮消費量は減少すると予測される。

中国の生産量はほぼ横ばいの760万トンと予測される。加工と輸出に仕向けられる果実が微増し、消費量は減少するものと予測される。

エジプトの生産量は、開花期と着果期の悪天候により、12%減の370万トンと予測される。供給量が減少する結果、消費量と輸出量はともに減少する。世界のオレンジ果汁の需要に合わせて加工することで付加価値を高めるため、加工仕向量は倍増するものと予測される。

EUの生産量は、干ばつによる収穫量の減少とイタリア産の小玉化により、7万トン減の570万トンと予測される。生産量の減少に伴い生鮮消費量と加工仕向量は減少すると予測される。生産量の減少にも拘わらず、オレンジの品質が高いため輸出量は増加すると予想される。輸入量は供給量の減少に伴い増加すると予測される。主要な供給国は引き続きエジプト及び南アフリカであると予想される。

メキシコの生産量は、10万8千トン増の510万トンと予測される。これは、遅い降雨によって大玉化すると予想されるためである。生産量の増加に伴い消費量は増加すると予測されるが、加工用及び輸出用の果実は横ばいと予想される。

米国の生産量は、悪天候と継続的な病害、特にフロリダ州のカンキツグリーニング病のため、10%減の220万トン(88年間で最低の水準)と予測される。フロリダ州の生産量は33%減少し、カリフォルニア州の生産量は1%減少すると予測される。供給量の減少により、加工仕向量と生鮮消費量は減少する。輸出量が横ばいである一方、輸入量は生産量の減少に伴い増加する。

南アフリカの生産量は、好天と収穫面積の微増により、1%増の170万トンと予測される。需要が高い加工用に仕向けられる果実が増えると予想され、消費量は横ばいで、輸出量は減少する。EUが、引き続き最大の輸出市場であると予想される。

トルコの生産量は、開花期の悪天候により収量が低下し、3分の1近くの減少となる160万トンと予測される。生産量の減少に伴い、消費量は減少すると予測されるが、輸出量は横ばいである。

モロッコの生産量は、開花期の良好な天候条件と点滴灌漑の採用の増加により、1万7千トン増の96万トンと予測される。生産量の増加に伴い、生鮮消費量、加工仕向量、輸出量はそれぞれ増加すると予測される。EUが引き続き最大の輸出市場であると予想される。

オーストラリアの生産量は、好天と収穫面積の増加により、2万5千トン増の54万5千トンと予測される。供給量の増加に伴い、生鮮消費量と輸出量は増加する。

<オレンジ果汁>

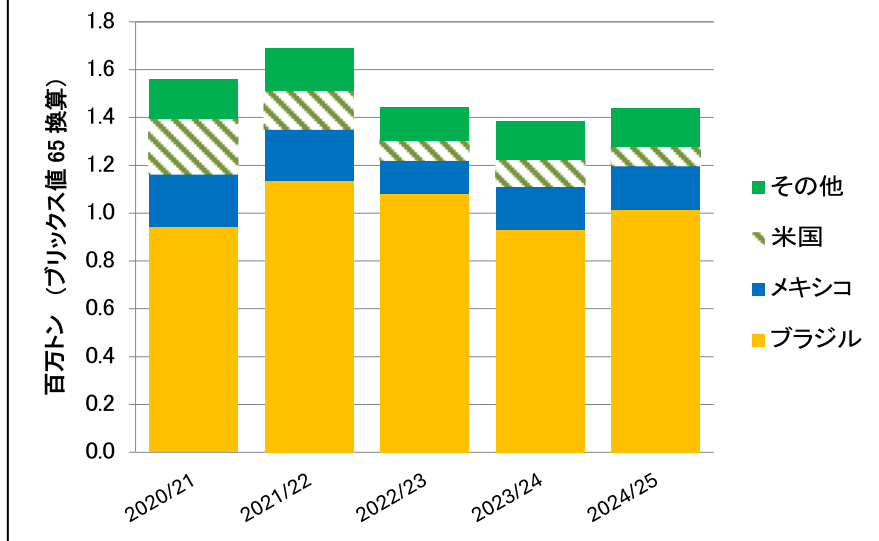
世界の2024/25年度のオレンジ果汁製造量は、ブラジルとメキシコでの増産が米国での減産を上回るため、4%増の140万トン(ブリックス値65換算)と予測される。消費量は減少するが、供給量の増加により輸出量は増加すると予測される。

ブラジルの製造量は、加工に仕向けられるオレンジの増加により、9%増の100万トンと予測される。供給量の増加に伴い輸出量は増加する一方、在庫量は横ばいと予測される。ブラジルは圧倒的に最大の製造国であり、世界のオレンジ果汁輸出量の4分の3を占めると予測される。

メキシコの製造量は、予想される果実のサイズと果汁含有量の改善により、4%増の18万7千トンと予測される。供給量の増加に伴い輸出量は増加するが、国内消費量は減少する。米国は引き続き最大の輸出市場であると予想される。

米国の製造量は、28%減で史上最低の8万トンと予測される。これは、加工に仕向けられるオレンジが特にフロリダ州で減少するためである。フロリダ州では、カンキツグリーニング病による落果やハリケーン、寒波等の天候上の問題のため、原料果実の収量は減少し続けている。消費量は横ばいと予測されるが、製造量の減少に伴い、輸入量はわずかに増加し、在庫量は減少すると予想される。

世界のオレンジ果汁製造量は ブラジルの増加とともに上昇



南アフリカの製造量は、加工に仕向けられるオレンジの増加により、4%増の5万7,100トンと予測される。消費量は価格の上昇により減少すると予測されるが、製造量の増加と世界的な需要の増加に伴い輸出量は増加すると予測される。

EUの製造量は、より多くのオレンジが輸出されると予想され、加工用の果実が減少するため、7%減の5万トンと予測される。ブラジルからの輸入量の増加見込みにより消費量は増加し、生産量の減少に伴い輸出量は減少すると予測される。

<タンジェリン/マンダリン>

世界の2024/25年度の生産量は、主にトルコの悪天候と収量の低下により、99万6千トン減の3,750万トンと予測される。輸出量は微増するが、供給量の減少に伴い、消費量と加工仕向量はどちらも減少する。

トルコの実産量は、開花期の悪天候と収量の低下により、3分の1以上の減となる190万トンと予測される。供給量の減少に伴い消費量と輸出量は減少すると予測される。

中国の実産量は、天候に恵まれ10万トン増の2,700万トンと予測される。消費量は横ばいだが、生産量の増加に伴い輸出量は増加する。ベトナム、キルギスタン、ベトナムは引き続き最大の市場であると予想される。

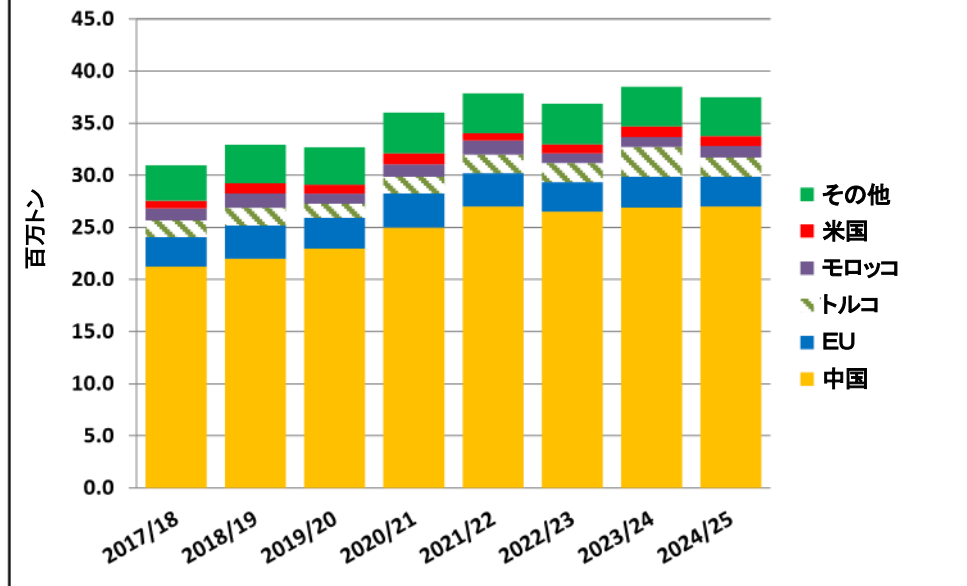
EUの実産量は、イタリアの夏の干ばつ等の悪天候により、4%減の280万トンと予測される。生産量の減少に伴い消費量、加工仕向量、輸出量が減少すると予想され、トルコ(通常は2番目に大きな供給国)の供給量の減少により、輸入量もわずかに減少すると予想される。トルコ国内の供給量が少ないため、モロッコと南アフリカが主要な供給国になると予想される。

モロッコの実産量は、主に収穫面積の増加と灌漑方法の改善により、16%増の110万トンと予測される。生産量の増加に伴い、消費量と輸出量は増加すると予測される。

米国の実産量は、カリフォルニア州とフロリダ州の悪天候と収穫量の減少により、9%減の92万トンと予測される。供給量の減少に伴い、消費量と加工仕向量は減少し、輸入量は増加すると予測される。

南アフリカの実産量は、好天と収穫面積の増加により、3%増の79万トンと予測される。生産量の増加と需要の高まりに伴い、消費量は増加する。生産量の増加、防雹ネット(収量と果実の品質の両方を改善すると期待される)等への投資及び輸出に適した供給量の増加により、輸出量は増加するものと予測される。

世界のタンジェリン/マンダリン生産量はトルコの減少とともに低下



ペルーの生産量は、好天が予想されるため2%増の57万トンと予測される。供給量の増加に伴い消費量と輸出量はどちらも増加すると予測される。米国は引き続き最大の輸出市場であると予想される。

チリの生産量は、好天と収穫面積の拡大により、13%増の25万トンと推定される。出荷量の増加に伴い消費量と輸出量は増加すると予測される。米国は引き続き最大の輸出市場であると予想される。

グレープフルーツ

世界の2024/25年度の生産量は、トルコと米国の減少が中国の増産を上回ったため、微減の690万トンと予測される。消費量はわずかに減少し、輸出量と加工仕向量はそれぞれわずかに増加する。

中国の生産量は、好天と高品質な果実に対する強い需要により、5万トン増の530万トンと予測される。生産量の増加に伴い、消費量、輸出量、加工仕向量はすべて増加する。

メキシコの生産量は微増の48万9千トンと予測される。消費量はやや減少すると予測されるが、生産量の緩やかな増加に伴い輸出量は増加すると予想される。

南アフリカの生産量は、好天と収穫面積の増加により、1%増の42万5千トンと予測される。供給量の増加に伴い消費量と輸出量はどちらも増加すると予測されるが、加工仕向量は変わらない。中国とEUが最大の輸出市場であると予想される。

米国の生産量は、カリフォルニア州とフロリダ州での面積と生産量の減少により、4万1千トン減の27万1千トンと予測される。供給量の減少に伴い、消費量、加工仕向量及び輸出量は、すべて減少する。輸入量は、南アフリカからの出荷量の減少とこれまでの輸入のペースに基づいて横ばいと予測される。

トルコの生産量は、開花期の好ましくない暑さが収量を低下させると予想されるため、3分の1以上の減となる18万トンと予測される。供給量の減少に伴い、消費量と輸出量は減少すると予測される。

EUの生産量は、収穫面積がわずかに増えるため、微増の11万1千トンと予測される。加工に仕向けられる果実は減少すると予想され、消費量と輸出量は増加する。生産量の増加に伴い輸入量は横ばいとなる。

オレンジ(生鮮) 主要国の生産需給統計(千トン)

	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25 1月推計		2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25 1月推計
	生産量								輸出量				
ブラジル	14,870	14,676	16,932	15,469	12,300	13,000	エジプト	1,493	1,701	1,556	1,819	2,300	1,950
中国	7,400	7,500	7,550	7,600	7,630	7,620	南アフリカ	1,260	1,296	1,298	1,232	1,111	1,100
EU	6,268	6,531	6,728	5,610	5,728	5,658	米国	507	467	335	345	339	340
メキシコ	2,530	4,649	4,595	4,854	4,942	5,050	EU	417	410	403	343	307	325
エジプト	3,200	3,570	3,000	3,600	4,200	3,700	トルコ	293	223	390	177	256	260
米国	4,766	3,980	3,108	2,312	2,502	2,245	オーストラリア	181	160	144	153	180	190
南アフリカ	1,457	1,558	1,680	1,630	1,675	1,690	中国	52	100	64	49	158	160
トルコ	1,700	1,300	1,750	1,320	2,311	1,600	チリ	90	105	81	95	105	105
ベトナム	1,017	1,161	1,583	1,583	1,583	1,583	モロッコ	117	92	130	39	60	90
モロッコ	806	1,039	1,150	783	820	960	メキシコ	65	69	76	63	53	54
アルゼンチン	700	750	726	700	760	620	アルゼンチン	83	88	63	35	62	52
オーストラリア	485	505	535	515	520	545	香港	117	87	68	71	49	50
コスタリカ	285	290	300	305	225	250	サウジアラビア	12	11	13	15	16	16
チリ	135	200	164	180	186	190	マレーシア	3	5	6	9	4	5
グアテマラ	170	167	168	168	168	168	シンガポール	4	3	5	6	4	5
その他	289	297	350	354	336	345	その他	55	18	17	7	6	6
合計	46,078	48,173	50,319	46,983	45,886	45,224	合計	4,749	4,835	4,649	4,458	5,010	4,708
生鮮国内消費量							輸入量						
中国	7,240	7,291	7,460	7,544	7,408	7,380	EU	960	860	735	1,046	938	950
EU	5,963	5,955	5,949	5,640	5,660	5,635	ロシア	432	453	494	461	485	485
メキシコ	1,596	2,416	2,391	2,443	2,606	2,717	サウジアラビ	381	439	429	431	430	430
ブラジル	4,967	4,582	4,669	4,500	2,594	2,497	イラク	259	221	291	246	280	280
ベトナム	1,062	1,236	1,639	1,618	1,623	1,623	UAE	234	190	223	277	275	275
トルコ	1,348	1,018	1,283	1,082	1,935	1,260	米国	200	218	236	214	234	260
米国	1,409	1,233	1,170	1,197	1,094	1,255	英国	256	242	250	215	221	225
エジプト	1,372	1,519	1,144	1,481	1,600	1,150	カナダ	198	186	187	178	183	185
モロッコ	654	897	965	704	710	815	バングラデシ	218	294	254	188	160	160
ロシア	426	446	488	459	483	483	中国	292	241	223	213	161	150
イラク	393	364	449	404	438	438	香港	270	208	191	167	123	125
サウジアラビ	369	428	416	416	414	414	マレーシア	87	104	120	100	105	105
アルゼンチン	428	478	549	500	470	350	韓国	116	110	78	87	97	95
UAE	233	187	218	276	273	273	ウクライナ	89	88	75	60	74	75
英国	219	238	250	215	220	225	スイス	73	74	71	70	68	70
その他	1,754	1,855	1,840	1,685	1,624	1,662	日本	91	86	72	68	69	65
合計	29,433	30,143	30,880	30,164	29,152	28,177	コスタリカ	71	68	52	60	53	55
加工仕向量							シンガポール	42	41	42	43	49	50
ブラジル	9,915	10,118	12,291	11,009	9,738	10,540	ベトナム	45	75	56	35	40	40
メキシコ	900	2,200	2,150	2,385	2,304	2,300	ブラジル	21	24	28	40	32	37
米国	3,050	2,498	1,839	984	1,303	910	ノルウェー	30	32	33	33	33	33
EU	848	1,026	1,111	673	699	648	グアテマラ	38	49	45	32	32	32
エジプト	335	350	300	300	300	600	トルコ	51	46	45	32	1	30
南アフリカ	180	240	355	369	547	571	メキシコ	31	36	22	37	21	21
中国	400	350	249	220	225	230	オーストラリア	16	11	10	10	10	10
アルゼンチン	190	186	116	168	231	220	その他	11	14	17	15	16	13
オーストラリア	195	226	215	210	200	195	合計	4,512	4,410	4,279	4,358	4,190	4,256
コスタリカ	213	215	212	218	157	174	UAEはアラブ首長国連邦						
その他	182	196	231	183	210	207							
合計	16,408	17,605	19,069	16,719	15,914	16,595							

分割年表示は収穫販売年度を表し、北半球では概ね第1年次の11月から第2年次の10月の期間に該当する。
 南半球では、収穫はほぼすべてが第2年次に行われ、収穫販売年度は第2年次に始まる次の期間である。
 アルゼンチン 1月から12月、南アフリカ 2月から翌年1月、オーストラリア 4月から翌年3月、ブラジル 7月から翌年6月
 輸入量の合計と輸出量の合計は、上記の販売年度の相違等により一致しないことがある。

オレンジ果汁 主要国の生産需給統計
(ブリックス値 65 換算、千トン)

	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25 1月推計
製造量						
ブラジル	938	944	1,135	1,080	930	1,012
メキシコ	90	220	215	140	180	187
米国	297	230	159	85	111	80
南アフリカ	18	24	36	37	55	57
EU	66	80	86	52	54	50
中国	31	27	19	17	18	18
オーストラリア	14	17	17	16	15	15
その他	16	17	22	17	20	20
合計	1,470	1,559	1,688	1,444	1,382	1,438
国内消費量						
米国	556	542	526	497	486	486
EU	589	585	541	472	419	466
中国	89	108	129	133	122	122
ブラジル	63	70	73	75	60	58
カナダ	70	59	66	57	66	57
日本	60	68	65	63	56	56
オーストラリア	32	27	26	23	24	24
その他	230	202	179	152	155	35
合計	1,689	1,660	1,606	1,472	1,389	1,304
期末在庫量						
米国	293	240	156	126	121	90
南アフリカ	11	11	13	7	20	34
EU	15	15	15	15	15	15
日本	40	22	15	9	12	13
ブラジル	151	15	9	8	4	4
その他	5	4	5	5	4	4
合計	515	308	213	170	176	160
輸出量						
ブラジル	1,036	1,010	1,068	1,006	874	954
メキシコ	105	217	210	137	174	182
EU	162	132	112	111	114	111
南アフリカ	30	22	31	41	41	42
米国	34	31	31	24	26	25
その他	54	50	42	45	36	34
合計	1,421	1,463	1,494	1,365	1,266	1,347
輸入量						
EU	685	637	567	531	479	527
米国	210	290	314	406	396	400
中国	60	83	112	119	111	111
カナダ	84	78	80	77	76	65
日本	76	50	58	57	59	57
オーストラリア	20	13	14	10	12	13
韓国	13	11	11	12	11	10
その他	231	195	161	137	134	14
合計	1,379	1,356	1,317	1,349	1,278	1,197

ブリックス値65の1トン(メートル法)はブリックス値42の344.8ガロン及び天然果汁の1.392.6ガロンに相当する。
分割年表示は収穫販売年度を表し、北半球では概ね第1年次の10月から第2年次の9月の期間に該当する。
南半球では、収穫はほぼすべてが第2年次に行われ、収穫販売年度は第2年次に始まる次の期間である。
南アフリカ 2月～翌年1月、オーストラリア 4月～同3月、ブラジル 7月～同6月
輸入量の合計と輸出量の合計は、上記の販売年度の相違等により一致しないことがある。

タンジェリン/マンダリン(生鮮) 主要国の生産需給統計
(千トン)

	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25 1月推計
生産量						
中国	23,000	25,000	27,000	26,500	26,900	27,000
EU	2,889	3,245	3,190	2,821	2,955	2,845
トルコ	1,400	1,600	1,810	1,860	2,883	1,880
モロッコ	926	1,205	1,360	927	950	1,100
米国	856	1,083	668	875	1,013	920
日本	962	976	954	878	871	830
南アフリカ	461	591	639	723	770	790
ペルー	526	540	570	550	560	570
韓国	631	655	613	582	580	565
チリ	210	230	158	268	221	250
その他	850	901	890	861	799	756
合計	32,711	36,026	37,852	36,845	38,502	37,506
生鮮国内消費量						
中国	21,768	23,577	25,889	25,235	25,247	25,250
EU	2,694	3,041	3,051	2,711	2,711	2,700
米国	1,004	1,046	929	1,010	1,077	1,062
トルコ	614	740	879	1,021	1,852	1,059
ロシア	816	943	879	851	781	924
日本	902	930	895	827	814	775
モロッコ	515	739	735	474	558	600
その他	2,680	3,077	2,853	2,789	2,913	2,819
合計	30,993	34,093	36,110	34,918	35,953	35,189
加工仕向量						
中国	620	630	600	580	600	600
EU	272	277	247	296	384	295
米国	198	357	193	271	336	293
南アフリカ	47	44	76	69	71	71
日本	80	68	71	67	69	69
アルゼンチン	76	60	70	50	50	40
韓国	77	78	66	66	43	40
その他	70	61	61	76	59	64
合計	1,440	1,575	1,384	1,475	1,612	1,472
輸出量						
中国	657	857	566	752	1,097	1,200
トルコ	827	898	983	894	1,038	830
南アフリカ	389	507	521	622	655	674
モロッコ	411	466	625	453	392	500
EU	330	350	322	296	314	300
ペルー	214	215	224	206	225	225
チリ	182	194	131	237	191	218
その他	255	300	236	282	265	265
合計	3,265	3,787	3,608	3,742	4,177	4,212
輸入量						
ロシア	824	955	884	852	782	925
米国	391	375	484	458	460	490
EU	407	423	430	482	454	450
ベトナム	204	321	220	317	373	375
英国	289	296	287	290	307	307
カナダ	159	162	166	158	175	175
ウクライナ	184	201	173	134	155	155
インドネシア	69	98	112	118	115	115
フィリピン	112	174	114	102	107	107
タイ	73	135	90	62	92	92
その他	275	289	290	317	220	176
合計	2,987	3,429	3,250	3,290	3,240	3,367

分割年表示は収穫販売年度を表し、北半球では概ね第1年次の10月から第2年次の9月の期間、南半球では概ね第2年次の4月から翌年の3月の期間に該当する。
南半球では、収穫はほぼすべてが第2年次に行われる。
輸入量の合計と輸出量の合計は、上記の販売年度の相違等により一致しないことがある。

グレープフルーツ(生鮮) 主要国の生産需給統計 (千トン)

	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25 1月推計
生産量						
中国	4,930	4,950	5,200	5,150	5,200	5,250
メキシコ	491	491	453	489	488	489
南アフリカ	345	351	416	415	420	425
米国	517	397	339	308	312	271
トルコ	249	238	249	198	285	180
イスラエル	143	121	175	155	144	155
EU	95	106	106	98	110	111
その他	27	27	27	25	25	25
合計	6,797	6,681	6,965	6,838	6,984	6,906
生鮮国内消費量						
中国	4,797	4,867	5,134	5,029	5,039	5,050
メキシコ	376	472	440	484	481	480
EU	374	362	300	277	288	290
米国	250	231	152	193	204	175
ロシア	119	75	66	106	118	119
トルコ	65	77	103	102	153	74
日本	86	79	70	56	58	56
カナダ	37	37	31	28	30	30
ウクライナ	39	37	23	17	24	24
英国	28	28	26	24	22	23
その他	28	25	35	33	27	34
合計	6,199	6,290	6,380	6,349	6,444	6,355
加工仕向量						
南アフリカ	94	59	179	201	207	211
米国	226	138	177	116	121	114
イスラエル	78	60	97	96	98	98
中国	0	50	60	45	46	60
EU	14	13	13	10	18	12
その他	98	3	3	3	3	3
合計	510	323	529	471	493	498
輸出量						
中国	209	158	117	152	204	230
南アフリカ	244	290	238	217	214	215
トルコ	184	161	149	96	132	106
イスラエル	59	54	62	44	33	37
EU	27	26	17	20	19	23
米国	56	48	34	22	24	19
メキシコ	21	21	15	9	9	10
その他	29	30	17	11	7	7
合計	829	788	649	571	642	647
輸入量						
EU	320	295	224	209	215	214
ロシア	121	76	69	107	119	120
中国	76	125	111	76	89	90
米国	15	20	24	23	37	37
日本	61	54	45	33	35	33
カナダ	37	37	31	28	30	30
ウクライナ	39	37	23	17	24	24
英国	31	31	26	24	22	23
香港	31	34	23	17	12	12
スイス	7	7	6	6	6	6
その他	3	4	11	13	6	5
合計	741	720	593	553	595	594

分割年表示は収穫販売年度を表し、北半球では概ね第1年次の10月から第2年次の9月の期間、南半球では概ね第2年次の4月から翌年の3月の期間に該当する。

南半球では、収穫はほぼすべてが第2年次に行われる。
輸入量の合計と輸出量の合計は、上記の販売年度の相違等により一致しないことがある。

レモン/ライム(生鮮) 主要国の生産需給統計 (千トン)

	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25 1月推計
生産量						
メキシコ	2,851	2,870	2,954	3,101	3,240	3,500
トルコ	950	1,100	1,500	1,320	2,325	1,600
EU	1,481	1,733	1,635	1,444	1,773	1,517
アルゼンチン	1,491	1,800	1,930	1,700	1,450	1,380
米国	983	804	960	994	927	1,001
南アフリカ	620	627	748	760	730	780
チリ	204	200	136	164	192	197
その他	226	228	231	224	225	236
合計	8,806	9,362	10,094	9,707	10,862	10,211
生鮮国内消費量						
メキシコ	1,549	1,757	1,885	1,942	2,105	2,255
EU	1,514	1,837	1,830	1,605	1,696	1,625
米国	1,407	1,426	1,383	1,433	1,515	1,506
トルコ	520	434	807	721	1,649	933
サウジアラビア	188	183	193	218	207	212
ロシア	221	265	244	254	204	205
アルゼンチン	160	150	273	76	149	126
カナダ	109	108	112	106	117	117
UAE	101	102	107	108	107	107
チリ	109	100	83	99	100	101
その他	423	427	423	398	417	231
合計	6,301	6,789	7,340	6,960	8,266	7,418
加工仕向量						
アルゼンチン	1,078	1,388	1,401	1,405	1,132	1,090
メキシコ	507	350	398	420	430	500
米国	301	158	337	353	257	375
EU	314	292	293	298	438	302
南アフリカ	138	103	159	158	159	153
トルコ	51	50	50	50	50	50
日本	28	28	30	29	29	29
その他	18	16	12	12	12	13
合計	2,435	2,385	2,680	2,725	2,507	2,512
輸出量						
メキシコ	798	769	680	744	710	750
トルコ	382	620	648	554	628	620
南アフリカ	458	499	557	565	530	590
アルゼンチン	256	264	258	220	170	165
EU	174	155	142	123	141	140
米国	93	81	87	80	79	95
チリ	97	102	56	68	90	93
その他	43	29	17	21	24	23
合計	2,301	2,519	2,445	2,375	2,372	2,476
輸入量						
米国	818	861	847	872	924	975
EU	521	551	630	582	502	550
ロシア	225	266	245	254	205	205
サウジアラビア	144	130	134	162	155	160
カナダ	109	108	112	106	117	117
UAE	93	94	98	99	98	98
日本	48	44	46	45	45	46
香港	31	37	29	24	25	25
チリ	11	13	12	13	8	8
メキシコ	3	6	9	5	5	5
その他	228	221	209	191	199	6
合計	2,231	2,331	2,371	2,353	2,283	2,195

分割年表示は収穫販売年度を表し、北半球では概ね第1年次の10月から第2年次の9月の期間である。

南半球では、収穫は第2年の1月から12月に行われる。
輸入量の合計と輸出量の合計は、上記の販売年度の相違等により一致しないことがある

386. 中国 ゼスプリが偽装キウイフルーツの取り締まりを強化

[FreshPlaza 2025年2月4日](#)

中国で違法生産が増加する中、ゼスプリは偽装キウイフルーツの取り締まりを強化

ゼスプリは、海外で違法に栽培されたキウイフルーツの流通量の増加に伴いラベルの偽造が増えると予想されるため、偽装果実ブランドに対抗する取り組みを強化している。最近、業界関係者がインドネシアを訪れた際、ゼスプリブランドによく似たラベルが貼られた品質の低いZhouzhi(周至)キウイフルーツがスーパーマーケットの棚に並んでいることが明らかになった。この同じ偽造ブランドは2019年3月にFarmers Weekly誌が中国を訪れた際にも見られた。(訳注: 周至県は中国陝西省のキウイフルーツ産地)

ゼスプリの戦略責任者であるティム・クラークソン氏は、中国発祥で、中国国内と東南アジアで販売されている周至ブランドについて同社が十分に認識していることを認めた。同氏は、ゼスプリはそのようなブランドを積極的に監視し、ブランドの完全性を保護するために必要に応じて法的措置を取るための対策を講じていると述べた。

違法栽培されたゼスプリ・サンゴールド・キウイフルーツの量が増加していることは大きな課題であり、中国では約9千ヘクタールの無許可栽培が行われていて、ニュージーランド国内の栽培面積8,600ヘクタールを上回っている。これに対し、ゼスプリは中国当局と協力して、大規模な模倣品取引に関与した個人を標的にしている。

2024年の前半にはゼスプリが収集した情報をもとに、電子商取引プラットフォームを通じてゼスプリの偽造ラベルを使って国内産のキウイフルーツを販売していた販売者に対し、中国の地元警察が強制捜査を行った。この捜査により3人の起訴に成功したが、オンラインでの売上高は約42万8千ドルに上った。違反者は、拘束なし(執行猶予等)の6カ月から1年の刑を受け、約7万6,500ドルの罰金が科せられた。さらに、同じ偽造ネットワークに関与した他の9人が、900万個以上の偽造のゼスプリラベルを製造・配布した罪で11月に有罪判決を受けた。拘禁刑を受けた者もいれば、拘束の無い刑罰と罰金刑を受けた者もいた。

クラークソン氏は、法を執行する取り組みの重要性が高まっていることを強調し、今後は不正なG3キウイ(ゴールドキウイ)の生産が拡大するにつれて、偽装事件が増加すると予想されると指摘した。同氏は、中国当局の支援に感謝の意を表し、ゼスプリが彼らとの協力を継続することを再確認した。

ゼスプリは2020年から、ゼスプリブランドの果実がどこで栽培されているかを追跡する検証監査プログラムを実施している。この取り組みにより、中国産の果実がゼスプリの正規小売店のパッケージの中に見つかった場合、商業的な対応が可能となる。

偽造ラベルはゼスプリにとって依然として大きな懸念事項であるが、他の食品も詐欺の被害に遭いやすい状況にある。世界的には、オリーブオイル、蜂蜜、スパイス、アルコール飲料等は、最も偽造が多い商品である。ヨーロッパでは、遺伝子を組換えた細菌を使用して糖分の性質を変更する製造方法が食品の真正性に対する懸念を引き起こしたため、当局は偽造蜂蜜に対する長期の取締りを開始した。

不正な食品製造方法が進歩する中、ゼスプリはブランドを保護し、消費者が本物の高品質なキウイフルーツを確実に手にすることができるように、法的な取り組みと監視を引き続き強化する。

出典: [Farmers Weekly](#)

387. ニュージーランド 早生リンゴがアジア向けに輸出開始

[FreshPlaza 2025年2月5日](#)

北島の東海岸で早生リンゴの収穫が始まり、リンゴの輸出シーズンの始まりを告げている。スケールズ社傘下の大手生産事業者であるミスターアップル社は、ホークスベイ地方でリンゴを栽培し、約40の国際市場に輸出している。

営業販売部長のベン・マクロード氏は、収穫の開始について「ちょうど始まったところだ」と言う。同社が権利を有するポージー (Posy) 等の早生品種が収穫、梱包されている。同氏は、「先週の時点で既に船積みされており、それはすべてアジア市場向けである」と述べた。

ネーピア市近郊の同社のミーニー果樹園では、輸出用のリンゴの調製を行っている。フェイスブック上で更新されたネーピア港の投稿では、リンゴの入荷と輸出が確認され、中国に向けて出航する船には同社のリンゴ5コンテナが積まれているとしている。投稿は、「まだ出荷シーズンの早い段階ではあるが、早生品種がサプライチェーンに流れ始めており、このタイミングは例年どおりである」としている。

マクロード氏は、暖かく雨の少ない11月がシーズンを加速させ、12月と1月上旬は気温が低く、生育条件は良好であったと報告した。同氏は、「皆が思っていたほどは早くはない」としつつ、果実の品質は並外れて良いと指摘し、「おそらく2018年以降で最高の部類の果実である」と述べた。

マクロード氏は、認定雇用主制度に基づく太平洋諸島の収穫労働者の貢献を強調した。(以下省略)

出典: [RNZ](#)

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

388. ニュージーランド ルビーレッド・キウイの輸出が2倍に

[FreshPlaza 2025年2月5日](#)

今シーズンは、300万箱以上、すなわち1万800トン以上のゼスプリ・ルビーレッド™・キウイフルーツが出荷され、多くの市場でそのベリーのような味わいの果実が初めて入手できるようになる。

ルビーレッドの収穫は、今後数週間の内にニュージーランド国内で開始され、中国本土への出荷量は100万箱(3,500トン)を超え、さらに100万箱を日本へ出荷する。また、フィリピン、インドネシア、タイ及び太平洋諸島では、今シーズン初めてルビーレッドが入手できるようになる。

ジェイソン・テ・ブレイクCEOは、昨シーズンに比べて出荷量が倍増するキウイフルーツにとってエキサイティングな時であり、これはベリーのような甘い味、鮮やかな赤い果肉の色、高い抗酸化物質含有量による健康上の利点を好む消費者にとって素晴らしいニュースであると述べている。(以下「」は同氏の話)

「2月中旬に収穫が始まる予定のゼスプリ・ルビーレッド・キウイフルーツは、まもなくアジア太平洋地域の多くのスーパーや青果店で販売される。中核市場である中国本土、台湾、日本、韓国では入荷量が増え、ニュージーランド、香港、シンガポール、マレーシアの市場にも戻って来るほか、新市場にも投入される。」

ルビーレッドは、国立植物・食品研究所と提携したゼスプリのキウイフルーツ育種プログラムにより生まれた最新の品種で、2025年は商業生産の4年目を迎える。天然のビタミンCが豊富で、果実中の天然色素のアントシアニンが果実に赤い色を与えている。

テ・ブレイク氏によると、ルビーレッドはゼスプリのグリーンキウイフルーツとサンゴールドキウイフルーツを補完する人気品種で、キウイフルーツに新規の消費者や若い消費者を引き付けるのに役立っている。

「ルビーレッドは、グリーンやサンゴールドよりも季節性が強く、強い需要が見られる。毎シーズン最初に市場に入荷するニュージーランド産品種であり、一旦スーパーや青果店の店頭に並べば最長8週間しか手に入らない。出荷量が増加しているのは素晴らしいことであり、我々は引き続き同品種に関する知識を蓄積している。生産量の増加は、需要をさらに拡大し、生産者に還元できる価値を最大化するチャンスにもなる。」

389. 南アフリカ リンゴとナシの生産者は今シーズンについて楽観的

[FreshFruitPortal](#) 2025年2月5日

トゥルーケープ社の契約生産者達は、すべての産地の良好な生育条件のおかげで良い収量が約束されているため、リンゴとナシの収穫について楽観的である。ナシの出荷シーズンは1月の前半に始まり、リンゴのシーズンは今が最盛期である。

西ケープ州のリンゴとナシの産地は、遅いながらも寒い冬を過ごし、降雨量も十分であった。開花期の条件は良好で、果実の肥大も満足のいくものであった。

同社の調達マネージャーであり、ヴィッツェンベルクバレー地区でリンゴとナシを生産するカラ・デュトワ氏は、「最近の暖かい日を除けば、夏は涼しかった。ヴィッツェンベルクバレー出身の故ロバート・ズルチ氏は、涼しい夏はリンゴの季節が良いことを示しているとよく言っていたが、現在、それは果実の大きさに表れている。灼熱の気温になると、果樹はストレスを感じ始め、果実が小さくなる。涼しいコンディションでは果樹は幸せそうに見え、毎週3~4mmの肥大が見られる」と話す。(以下「」は同氏の話)

これまでのところ、過度の風害は記録されておらず、果実はすべての産地できれいな外観をしている。11月にみぞれが少し降ったことが、これまでのところ唯一の悪条件である。「今年は風や洪水の大きな被害がなかったので、大いに感謝している。」

リンゴの出荷シーズンは例年より約1週間遅れているが、同氏は晩生の品種は追いつくと予想している。「ふじ系の品種、ロイヤルガラ、ピンクレディーの着果数が少ないため、この段階で豊作は期待できないが、収量が平均的で品質が素晴らしい良いシーズンになると、慎重ながらも楽観視している。」

すべての兆候は、ヨーロッパ・英国向けのロイヤルガラの出荷を早期に開始できることを示している。「弊社が提供するロイヤルガラ系のリンゴは、特にビッグボックス・ガラとフラッシュ・ガラを追加したおかげで、ここ数年で急速に成長しているおり、大変喜んでいる。」

ブラッシュドペア(ナシ)への新たな関心

今シーズン、商業的な量のケープブラッシュ品種が農場で収穫され、同社の新しい章の始まりとなる。「成長を続けるブラッシュドペア(黄または緑の果皮に赤みが刺した洋ナシ)は、新たなチャンスを提供してくれる。」

「ケープブラッシュは、生産者の利益になる素晴らしい色とサイズの果実を提供する早生品種である。弊社の試験では、黄色に変色しやすいローズマリー品種よりも優れた貯蔵適性が示されている。今や、早生のブラッシュドペアを用いてより遠く離れた市場に供給するチャンスがある。また、カナダやベトナムなど、大玉の果実の需要がある市場に供給することもできる。中国市場ではブラッシュドペアの魅力が認められ、年間を通じてベトナムと中国に供給することができる。ケープブラッシュは、前シーズンの最後のフォルル品種に続く。」

同社は、今年初めてQTeeブランドでセリーナ品種も販売している。

ケープタウン港の改善

リンゴとナシの業界は、物流が過去数年ほど難しくないことを引き続き期待している。同社のマネージングディレクターであるロールフ・ピナール氏によると、ケープタウン港は12月に大幅な改善を示した。これは正しい方向への一歩であるが、同氏は、さらなる進歩の余地がまだあることを強調した。(以下「」は同氏の話)

「果実の輸出シーズンが遅れて始まったため、港湾当局は従来のピーク期間中に準備を整えプレッシャーを軽減するための時間を増やすことができた。12月は天候も良好で、風の影響も例年より少なかった。」

港の全体的な生産性はあまり向上しなかったが、運用が安定したことは確かである。

「機器はより簡単に入手できるようになり、運用プロセスは確実に改善された。我々は、危機への対応を支援するための団体(Hortgro)や他の関係機関の優れた仕事に感謝している。」

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

390. 南アフリカ タイのリンゴ市場へのアクセスを取り戻す

[FreshPlaza 2025年2月5日](#)

南アフリカ共和国のジョン・ステーンハイゼン農業大臣は、南アフリカからタイ王国への生鮮リンゴの輸出市場アクセスを取り戻したと発表した。この市場は、取引相手国の要件の変更により、約16年間(2008年1月から2024年12月まで)閉鎖されていた。

同大臣は、「リンゴは、その外貨収益と雇用創出を考えると、南アフリカで栽培されている最も重要な落葉果実の1つである。南アフリカのリンゴ産業は輸出志向で、生産されたリンゴの約半分が輸出市場に吸収される」と述べている。園芸業界団体のHortgroによると、南アフリカのリンゴ輸出は過去10年間で40%急増したが、これは主に、現在、南アフリカのリンゴ輸出全体の約35%を占めている極東とアジアへの輸出によるものである。2023年には、合計3万2,397人の労働者が農場で雇用され、12万9,590人の扶養家族が恩恵を受けた。同大臣は、「輸出需要を満たすために生産量を増やすことは、特に果実や野菜などの労働集約的なセクターでより多くの雇用につながるほか、農産物加工、梱包、物流でも雇用の機会を増やすことができる」と付け加えた。

南アフリカ共和国からタイ王国に輸出されるすべての生鮮リンゴは、合意により適用されるすべての植物検疫要件を満たす必要がある。また、果実には、タイが懸念する検疫害虫 - 南アフリカからタイへの生鮮リンゴの輸出に関する最終的な植物検疫輸入条件に列記されている - がいてはならない。タイにリンゴを輸出することを希望する商業的果樹園、梱包施設、及び輸出事業者は、農業・土地改革・農村開発省(DALRRD)によって承認・登録されなければならない。これらの登録果樹園は、効果的な総合的病害虫管理及び果樹園の衛生管理を含む農業生産工程管理を実施する必要がある。

南アフリカ共和国からタイ王国への生鮮リンゴの輸出に関する最終的な植物検疫輸入条件は公表されており、DALRRDの[ウェブサイト](#)からアクセスできる。

391. 台湾 マレーシア等にポンカンを輸出

[FreshPlaza 2025年2月5日](#)

台湾の台中市政府は、ポンカンを国際的に売り込んでいる。台湾は最近、1本のコンテナで15トンのポンカンを買取先国に輸出した。クアラルンプールでの販促イベントでは、これらのポンカンがマレーシアの市場関係者に紹介された。

代表団には、駐マレーシア台北経済文化弁事処の章遠智氏と石岡区農民協会の傅裕欽氏らが参加した。ポンカンは台中市の主要な輸出品で、収穫期は11月から2月であり、1,388ヘクタールで年間2万5,045トンが生産される。主な産地は、東勢、石岡、豊原、后里、新社、北屯の各区である。

台中市の気候と土壌条件は、鮮やかな外皮とバランスの取れた味など、ポンカンの特徴に寄与している。市の農業局は、高品質果実の栽培と多様な販売戦略を促進するために、コンテストを開催している。同局のホアン・ユーチュン氏は、農業団体や農家との協力により台中市のポンカンが認知されていることを強調した。

今年の輸出先は、シンガポール、マレーシア、ブルネイ、香港、日本、カナダである。ポンカンは、ポンカンジュリンプ(極柑蝦)などの料理やポンカンチーズケーキ、ポンカンプリン等のデザートで台湾の食卓に溶け込んでいる。果実の丸い形は繁栄を象徴し、世界の中華系市場にアピールしている。

マレーシアの中国人コミュニティを引き付けるため、農業局は地元の複数の団体と協力し、「台中市政府農業局優質農特産品商標」のラベルが付されたギフトボックスでポンカンを輸出している。このギフトボックスは、主要なスーパーマーケットで入手できる。さらに、RTパストリー社は限定商品のマンダリンパン(極柑麵包)を製造した。

出典: [The Star](#) (参考サイト: [台中市政府農業局](#))

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

392. チリ 2024年の柑橘類輸出量は約40万トン

[FreshPlaza 2025年2月5日](#)

チリ柑橘類委員会は、同国が昨年、2023年の39万9,824トンをわずかに下回る39万7,417トンの柑橘類を輸出したと発表した。

米国は引き続き、チリの柑橘類の最大の輸入国であり、2024年にはクレメンタイン5万353トン、レモン6万467トン、マンダリン12万8,958トン、オレンジ9万7,602トンを入力した。もう一つの重要な輸出先は日本で、2024年シーズンのレモン輸出の重要な市場として位置付けられた。

チリ柑橘類委員会のモンセラート・バレンズエラ事務局長は、「2024年シーズンの始まりは、特に第IV州(コキンボ州)での柑橘類への干ばつの影響が特徴的であった。雨が降ったのはクレメンタインの収穫の開始後で、収量に影響を与えた」と述べた。(以下「」は同氏の話)

「チリには4千ヘクタールのクレメンタイン農場があり、天然資源情報センター(CIREN)によると、その70%が第IV州にある。レモンは2022年の霜害から回復し、輸出の増加につながっている。」

「米国はチリ産柑橘類の主要な輸出市場である。2024年シーズンには、チリが輸出するクレメンタインの98%、マンダリンの95%、オレンジの93%、レモンの63%を米国が輸入した。レモンは日本と韓国にも市場があり、それぞれ2万1千トン及び1万200トンを入力した。」

「我々の主な競争相手は、南アフリカ、オーストラリア、アルゼンチン、ペルー、ウルグアイなどの南半球の生産国である。南アフリカとオーストラリアは高品質のオレンジを供給している。アルゼンチンと南アフリカは、レモン市場の強力なプレーヤーである。ペルーは、ソフト柑橘類市場で確固たる地位を築いている。米国市場に依存しないよう、我々は新しい市場を開拓する必要がある。」

同委員会は、様々な市場で販促活動を実施しており、近年では消費動向に添ったキャンペーンを展開している。「需要と供給のプロファイルは大きく変わった。柑橘類は365日入手可能で、チリ産柑橘類は北半球が夏の間、増大する需要に向けて供給している。」

「今シーズンは、強力なデジタル販促キャンペーンを開始した。インスタグラム、TikTok、フェイスブックへの投稿等を行い、消費を奨励するためのコンペも実施した。また、チリ産柑橘類を使用した創造的で健康的なレシピのビデオや、チリの柑橘類の生産輸出段階のビデオも共有した。これらすべてのコンテンツは、柑橘類業界が持続可能性、技術、革新に取り組んでいることを強調し、チリを柑橘類の信頼できる供給者として取り上げている。」

出典: simfruit.cl

393. タイ 2024年の果実・果実加工品輸出実績は83億ドルを見込む

[FreshPlaza 2025年2月10日](#)

タイは果実輸出の9,700万ドルの増加を確保し、2024年の売上高は83億ドルを見込む

商務省は、タイの輸出業者と国際的なバイヤーとの間のビジネスマッチングイベントと覚書(MoU)の調印式を開催した。これらの取り組みにより、輸出額は約9,700万ドル増加すると見込まれている。

ナピントン・スリスンパン商務副大臣は、96のタイの果実輸出企業と、中国、ヨーロッパ、米国、日本、オーストラリア、中東、南アジア、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム等19の地域の65の輸入業者、バイヤー及び流通業者が参加したと述べた。

ビジネスマッチング活動はオンラインとオンサイト(現地)の両方で行われ、500を超える会合が予定された。同副大臣は、商談により4,200万ドルを超える発注につながる可能性があると指摘した。人気の高い商品は、ドリアン、リュウガン、マンゴスチン、ココナッツ、各種フルーツ加工品等であった。

タイの輸出業者と中国、日本、韓国、台湾、インドネシアの貿易パートナーとの間で8つの覚書が締結され、その生鮮果実販売額は合わせて5,500万ドル以上になると予想されている。

その他の取組みとしては、タイの果実の特徴を宣伝するキャラクターの紹介、様々な果実や農産物の展示、調理の実演等が行なわれた。同副大臣は、果実輸出におけるタイの世界的な市場シェアを拡大し、貿易競争力を向上させ、次の収穫期に先立って生鮮果実と果実加工品を国際市場に紹介することが目標であると述べた。

タイは2024年に400万トン以上の生鮮果実と果実加工品を輸出し、総額は前年比2%増の83億ドルを超えると予想されている。

国際貿易振興局(商務省)は、国際モールでの販売促進や世界の見本市での商談など、タイの果実製品を海外市場で宣伝するために30以上のプロジェクトを計画している。

通商政策戦略室(同)によると、タイは2024年に前年比7.5%増となる288億ドル相当の農産物を輸出し、4年連続で増加した。

生鮮、冷蔵、冷凍の果実及びドライフルーツが65億1千万ドルの輸出額で、農産物総輸出額の22.6%を占める最大の輸出品としてランクされ、米、ゴム、鶏肉、キャッサバ製品がそれに続いた。

出典: [Bangkok Post](#)

394. ニュージーランド リンゴ・ナシ産業が初めて10億NZドルを突破

[FreshPlaza 2025年2月10日](#)

本日発表された新しい経済効果のデータによると、ニュージーランドのリンゴ・ナシ産業は、果樹園の出荷価格(OGR)が初めて10億NZドルを超えた。(1NZドル=約86円)

この産業がサイクロン「ガブリエル」による大きな打撃を受けてから約2年が経ち、ニュージーランド・リンゴ・ナシ協会(NZAPI)は、2024年の経済効果データを発表し、年間の農場出荷額が10億NZドルを超え、ニュージーランド経済に合計25億NZドルの経済効果をもたらしたことを明らかにした。

これは、2023年の経済効果の19億NZドルから27%の増加となる。この業界では現在、1万3,500人以上が雇用されている。

さらに、同協会の年間収穫予測では、2025年の収穫量は2024年の1,910万箱から2025年には2,100万箱に10%増加するとされていることから、この上昇軌道は続くと思込まれる。

同じく本日発表された年次別収穫量推定データは、2025年には価値の高い健全で高品質な果実が優れた収穫をもたらすと予測している。

教科書通りの冬と春の生育条件により、ニュージーランドのリンゴとナシの収穫物は、色、食味、風味が素晴らしいことが保証されている。果実は驚くほど健全で、貯蔵性はこれまでになく良好であると予想される。

NZAPIのカレン・モリッシュCEOは、今シーズンの収穫は、業界にとって困難な数年間の時を経て元の形に戻り、また価値のより高い品種への移行を反映していると述べている。(以下「」は同氏の発言)

「ニュージーランド産のリンゴとナシはプレミアム製品としてよく知られている。我が国は世界最大のリンゴ供給国ではないが、世界的にその評価は高い。当協会の生産者達は、健全、清潔で、持続可能な果実を生産することに誇りを持っており、今年の収穫はまさにそれに値する。」

業界の主要な輸出市場での需要は旺盛で、消費者は常にニュージーランド産果実を求めているとモリッシュ氏は言う。

「ニュージーランドや我々が生活し働く地域に対するこの業界の経済的な貢献に、我々は大きな誇りを持っている。また、経済効果に関する統計は、この業界の仕事の価値を浮き彫りにしている。」

「栽培面積にほとんど変化がなく、コストが増加しているにもかかわらず、我々の経済的貢献は拡大しており、これは生産性の向上、価値の高いライセンス品種への投資、及び国際市場の多様化によるものだと確信できる。我々の業界は持続可能な手段によってその貢献を拡大しており、当協会は繁栄の継続を助長する健全な運営環境をしっかりと維持したいと考えている。」

地方レベルでの成長傾向が続いている。ホークスベイ地方では、全国のリンゴとナシの収穫量の65%が生産されており、業界は合計13億NZドルの経済効果に貢献した。GDPへの貢献度は37パーセント増の5億8,300万NZドルである。現在、7千人以上を雇用している。

タスマン地方では、全国の収穫量の23%が生産されており、業界は合計3億8,300万NZドルの経済効果に貢献した。GDP貢献度は8%増の1億7,900万NZドルで、現在、3,300人以上を雇用している。

タイラフィティ地域(主にギズボーン地方)では、全国の収穫量の5%が生産されており、業界は合計7,500万NZドルの経済効果をもたらし、GDP貢献度は2023年の2,500万NZドルから3,500万NZドルへと38%増加した。約100人を雇用している。

セントラル・オタゴ地区(オタゴ地方)では、全国の収穫量の4%が生産されており、この産業は6,500万NZドルの経済効果を有し、GDPへの貢献度は8%増の3千万NZドルとなった。

395. 果実・野菜の摂取量の不足が生物学的老化を加速

FreshPlaza 2025年2月10日

果実や野菜の摂取量の不足がエピジェネティック(遺伝子の構成を変えずに発現を制御するしくみ)な変化を通じて生物学的老化を加速

最近の研究では、高度なエピジェネティッククロック(暦年齢ではなく生物学的年齢を評価する技術)を使用して、食事の質と生物学的老化との関係を調査した。826人の若年成人を対象としたこの研究は、ファーストフード、加工された赤身の肉及び炭酸飲料が豊富で、果実や野菜が少ない食事が生物学的老化を加速する可能性があることを示している。逆に、果実や野菜を豊富に含み、加工された赤身の肉や炭酸飲料を最小限に抑えた食事は、生物学的老化の遅さと相関している可能性がある。

生物学的年齢は、単に出生からの年数である暦年齢とは異なり、その人の老化がどの程度進んでいるかを評価する。この研究では、GrimAgeとDunedinPACEの2つの方法が採用された。GrimAgeは、暦年齢と生物学的年齢の差を推定して寿命を予測し、一方、DunedinPACEは老化のペースを測定し、1暦年ごとの生物学的年齢の進行を推定する。どちらの方法も、遺伝子の活性に影響を与えるDNAのメチル化を解析するエピジェネティッククロックを利用している。

エピジェネティックな変化、特にDNAのメチル化は、食事などの要因により、生涯にわたって蓄積される。その違いにより、遺伝子コードを変更することなく、遺伝子を「オフ」または「オン」にすることができる。メチル化は最も一般的なエピジェネティックな変化であり、一般的に遺伝子を「オフ」にする。特定の細胞や組織のメチル化を調べることで、エピジェネティッククロックは生物学的な年齢を推定する。

Journal of Clinical Nutrition(米国の臨床栄養学の学術雑誌)に掲載されたこの研究は、食事のパターンが生物学的老化に大きな影響を与えることを強調している。著者らは、「一般的に、果実や野菜の摂取量が多く、肉、ファーストフード、砂糖入り飲料の摂取量が少ない食事は、生物学的老化の遅れと関連していた」と指摘している。対照的に、果実や野菜が少なく、肉、ファーストフード、砂糖入り飲料を多く含む食事は、生物学的老化の加速に関連していた。

追加の分析では、BMI、エネルギー摂取量、身体活動、アルコール摂取量、喫煙などの変数が考慮され、食事と生物学的老化との関係が明らかになった。定期的な運動は、貧しい食生活の影響を部分的に埋め合わせする可能性がある。研究者達は、これらの発見が食事とエピジェネティックな修飾に関する以前の研究と一致していることを示唆し、食事の選択の永続的な影響を強調している。

エピジェネティッククロックは有望ではあるが、限界がある。それは特定の集団に合わせて調整されており、メチル化パターンは民族によって異なる場合がある。様々な集団に合わせたモデルを用いた再現研究は、精度を向上させる可能性がある。限界はあるものの、現在のエピジェネティッククロックは、集団レベルでの生物学的老化の傾向を特定するための貴重なツールである。

出典: [Medical News Today](#)

396. 南半球のリンゴ・ナシ年間収穫量予測

FreshPlaza 2025年2月12日

世界リンゴ・ナシ協会(WAPA)は、南半球のリンゴ生産量を前年比5.5%増と予想

フルーツロジスティカ(果実展示会)の開催に合わせて2025年2月7日にベルリンで開かれた総会で、世界リンゴ・ナシ協会(WAPA)は南半球の来シーズンのリンゴとナシの収穫予測を発表した。南半球の主要6カ国(アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、チリ、ニュージーランド、南アフリカ)のデータを統合した予測によると、リンゴの生産量は2024年と比較して5.5%増加すると見込まれる一方、ナシの収穫量は3.3%減少すると予想される。(原文の重複箇所を統合しました。)

リンゴに関しては、南半球の2025年の収穫予測として、昨年(449万9,328トン)と比較して5.5%増となる合計474万6,639トンが示唆されている。南アフリカは147万4,767トン(2024年から+3.4%)で最大の生産国としての地位を維持すると予想され、次いでブラジルが95万トン(+14.2%)、チリが92万トン(+0.7%)、ニュージーランドが54万4,949トン(+5.6%)、アルゼンチンが53万7千トン(+5.8%)、オーストラリアが31万9,923トン(+5.5%)と予想されている。

品種別では156万4,499トンのガラが群を抜いて最も人気があり、その量は2024年より6.8%多いが、過去3年間の平均を2.3%下回っている。

輸出も165万3,976トンに増加(+5.3%)すると予想されている。南半球の2大輸出国である南アフリカとチリはどちらも輸出量を増やし、それぞれ64万1,488トン(+5.5%)及び50万7千トン(+1%)に達すると予想されている。ニュージーランドの輸出量は9.7%増加する(合計376万106トン)と予想され、アルゼンチン(9万トン、+8.2%)及びブラジル(3万6,547トン、+14.6%)も輸出量が増加すると予測されている。

ナシに関しては、南半球の生産者達は、収穫量を微減(-3.3%)の合計144万6,970トンと予測している。南半球最大の生産国であるアルゼンチン(61万6千トン)は、10.9%の減と予想される。一方、南アフリカ(55万1,642トン)、チリ(20万8,025トン)、オーストラリア(6万2,467トン)は、それぞれ2.9%、3%、及び4.2%の生産量の増加が見込まれている。

パッカムズトライアンフは依然として最も多く生産された品種(60万1,322トン、2024年と比較して2.7%減少)であり、ウィリアムズボンクレティアン(28万8,729トン)がそれに続く。

輸出量も2024年からの減少となる合計68万9,155トン(-4.4%)と予想される。

プログノスフルーツ2024(2024年8月に開催されたヨーロッパのリンゴ・ナシ産業のイベント)で最初に発表されたEUの生産予測は、リンゴが1,038万8,550トン(2023年から9.7%減少)、ナシが179万2,839トン(+5.1%)に修正された。ヨーロッパの2025年1月1日時点のリンゴ在庫量は368万7,100トンで、2024年より4.3%少ない。一方、ナシの在庫量は合計60万8,544トンで、前年の数値を4.5%上回っている。

2024年の米国の予測生産量は、リンゴが537万6,986トン(2023年から-2.3%)、ナシが39万128トン(-21.5%)に更新された。米国の在庫量は、リンゴ(205万3,915トン)が2024年より3.9%少なく、ナシ(10万6,100トン)は26%減少した。

最後に、年次総会では、次回のプログノスフルーツは2025年8月6日から8日までフランスのアンジェ市で開催されることが確認された。イベントの詳細については、まもなくウェブサイト(www.prognosfruit.EU)で発表される。

397. 米国フロリダ州 2024-25年度の柑橘類生産量は減少の予測

FreshFruitPortal 2025年2月13日

米国農務省の2月の柑橘類出荷予測は、フロリダ州の柑橘類業界が引き続き苦戦していることを示している。全品目の生産量は前年同期比で減少すると予測されている。

農務省農業統計局が発表した同州の全オレンジの出荷量予測は1,150万箱で、1月の予測から50万箱減少した。これは、昨シーズンの最終生産量から36%の減少に相当する。

予測は、バレンシア種以外のオレンジ(早生、中生、ネーブル種)が450万箱、バレンシア種のオレンジが700万箱となっている。

報告書によると、バレンシア種のオレンジの果実のサイズは現在平均を下回っており、収穫時にも平均を下回ると予想されている。

バレンシア種以外のオレンジについては、2025年1月28日から29日に実施された現地実測調査で、ネーブル種を除く早生品種と中生品種の樹列の95%が収穫されていることが示された。

グレープフルーツの見通し

グレープフルーツの樹列の62%が収穫されており、報告書によると、フロリダ州のグレープフルーツ全体の出荷量は1月の予測から10万箱減少し、昨シーズンの178万箱から110万箱に減少すると予想されている。ただし、白肉系と赤肉系の最終的なサイズは平均を上回っている。

レモンの総出荷量は1月の予測から繰り越され、60万箱と予測されている。

タンジェリン及びマンダリン

タンジェリンとタンジェロの予測出荷量は、1月の予測から5万箱増加したが、今シーズンの予想総出荷量は、前シーズンの45万箱よりもまだ22%低くなっている。

フロリダ州の柑橘類業界の反応

フロリダ州柑橘類協会の執行副会長兼CEOであるマット・ジョイナー氏はリリースで、農務省の予測は、フロリダ州の柑橘類生産者が20年にわたって直面し続けているカンキツグリーニング病と壊滅的なハリケーンによる途方もない逆境を反映しているとして、次のように述べている。

「数字が反映していないのは、何世代も続いてきた多くの柑橘類生産者がフロリダ州の柑橘類産業の将来に対して持っている回復力と希望である。我々は、フロリダ州の代表的な作物を強化するための長期的な解決策を見出すことに引き続き注力している。それには、研究者、立法者、業界リーダー、その他の人々の集団的な努力が必要になる。」

州当局は、20年にわたるカンキツグリーニング病と最近の大規模なハリケーンから州の代表的な作物を回復させるための行動を既に起こしている。

ロン・デサンティス知事は今年の立法議会に先立ち、2025年2月3日(月)に2025-26年度の財政責任予算案を発表した。これには、柑橘類防疫対応プログラムやその他の柑橘類の研究に2千万ドル以上が計上されている。

2千万ドルのうち、700万ドルは、フロリダ州柑橘類局を通じた広報と追加研究に充てられ、果樹の生産量を増やし、カンキツグリーニング病に強い果樹を生み出す技術を進歩させる。

さらに、フロリダ大学食品農業研究所の研究者達は、カンキツグリーニング病の蔓延の原因であるミカンキジラミに対抗するように新しく開発された柑橘類の木を使用して、カンキツグリーニング病との戦いで前進を見せている。

(関連記事)米国 柑橘類出荷予測 2月

米国農務省農業統計局 2025年2月11日

フロリダ州農業消費者サービス局との共同発表

柑橘類の品目別出荷量及び予測出荷量 - 州別及び米国計

品目及び州	出荷量 ¹		2024-2025 予測出荷量 ¹	
	2022-2023 (1,000 箱)	2023-2024 (1,000 箱)	1 月予測 (1,000 箱)	2 月予測 (1,000 箱)
バレンシア種以外のオレンジ²				
フロリダ州	6,150	6,760	5,000	4,500
カリフォルニア州 ³	36,000	38,200	39,000	39,000
テキサス州 ³	570	690	600	600
米国計	42,720	45,650	44,600	44,100
バレンシア種のオレンジ				
フロリダ州	9,670	11,200	7,000	7,000
カリフォルニア州 ³	8,600	9,300	8,400	8,400
テキサス州 ³	560	490	300	300
米国計	18,830	20,990	15,700	15,700
オレンジ合計				
フロリダ州	15,820	17,960	12,000	11,500
カリフォルニア州 ³	44,600	47,500	47,400	47,400
テキサス州 ³	1,130	1,180	900	900
米国計	61,550	66,640	60,300	59,800
グレープフルーツ				
フロリダ州合計	1,810	1,790	1,200	1,100
赤肉系	1,560	1,550	1,050	1,000
白肉系	250	240	150	100
カリフォルニア州 ³	4,500	4,300	3,700	3,700
テキサス州 ³	2,250	2,400	2,500	2,500
米国計	8,560	8,490	7,400	7,300
レモン³				
フロリダ州 ⁴	(NA)	(NA)	600	600
アリゾナ州	1,400	950	900	900
カリフォルニア州	25,800	24,600	26,000	26,000
米国計	27,200	25,550	27,500	27,500
タンジェリン及びマンダリン⁵				
フロリダ州	480	450	300	350
カリフォルニア州 ³	23,500	27,400	25,000	25,000
米国計	23,980	27,850	25,300	25,350

¹ 1箱当たりの正味重量(ポンド) オレンジ: カリフォルニア 80、フロリダ 90、テキサス 85。グレープフルーツ: カリフォルニア及びテキサス 80、フロリダ 85。レモン: アリゾナ及びカリフォルニア 80、フロリダ 90。タンジェリン及びマンダリン: カリフォルニア 80、フロリダ 95。

² カリフォルニア州ではネーブル種及びその他の品種。フロリダ州とテキサス州では早生品種(ネーブル種を含む)及び中生品種。

³ 1月の推計値を繰り越し。

⁴ 2024-25 年度産から推計を実施。(NA)はデータなし。

⁵ タンジェロ及びタンゴールを含む。

398. ニュージーランド キウイフルーツの収穫が始まる

[FreshPlaza 2025年2月13日](#)

ニュージーランドの2025年のキウイフルーツの収穫は、ベイオブプレントゥ地方のエッジカンベ町近郊で摘み取られた最初の果実で始まり、史上最も早い収穫となった。

生産者のマーク・ライター、ジョシー・ライターの両氏と果樹園管理者のサラ・デビッドソン氏は、ニュージーランドで今年最初のキウイフルーツを自分達の果樹園で収穫することに胸を躍らせた。幸運な生産者のキウイフルーツは赤肉品種であった。ゼスプリの甘く、ベリーのような味わいのルビーレッド™は、最初に収穫されてニュージーランドや一部の海外市場のスーパーマーケットの棚に並ぶ品種であり、その後すぐにゴールドキウイとグリーンキウイの品種が続く。

今シーズンのキウイフルーツをめぐる興奮は、高品質な果実が多く生産される理想的な栽培条件を享受しているニュージーランドのほとんどの生産者に共有されている。現在の分析では、今後数カ月のうちに史上最高の数量のキウイフルーツが収穫され、今年中に業界の節目である2億箱を超える可能性があるると予測されている。これは、昨年の1億9千万箱以上という記録破りの実績からの控えめな増加となる。各箱には平均して約30個のキウイフルーツが入っている。収穫は従来から4月中旬にピークに達し、6月まで続く。

ニュージーランド・キウイフルーツ生産者協会のコリン・ボンドCEOは、今シーズンの生産者の熱意を共有している。同氏は、「昨年12月末に甚大な雹害を被ったタスマン地方とファカタネ地域の生産者に思いを馳せつつ、全体としては、理想的な日照があり風が少ない素晴らしい状態が収穫前に続き、生産者は優れたキウイフルーツを生産することができた。我々の業界は過去数年間、輸出量の増加に対応し、世界中の消費者に高品質の果実を届けられるよう、強固なサプライチェーンの確立に協力して取り組んできた」と述べた。

ゼスプリのジェイソン・テ・ブレイクCEOは、概ね良好な生育期間を経て収穫を迎えるのは素晴らしいことだと述べ、「サンゴールドとグリーンキウイフルーツの出荷量が緩やかに増加し、ルビーレッド™の出荷量が倍増するなど、再び記録破りの収穫を達成するこのシーズンに大いに期待している。我々の果実に対する需要は依然として強く、シーズンを通じて早期にかつ安定的に高品質な果実を提供し、生産者の利益を最大化することに注力している。好調な2024年シーズンを終えた我々の取引先と市場の販売チームは、より多くの果実を求めており、今後数カ月間の強力な販売を開始する準備が整っている」と語った。

ニュージーランドのキウイフルーツの収穫の成功は、業界だけでなく、より広くキウイフルーツが栽培されている地域にとっても重要である。2023/24年度シーズンにキウイフルーツ生産者は地域経済に約22億NZドルの貢献を行った。ニュージーランドのキウイフルーツ産業は、ケリケリ町(北島北部)からモトゥエカ町(南島北部)まで2,800以上の生産者がいる園芸部門最大の輸出産業である。(1NZドル=約87円)

399. EU 果実と野菜のプラスチック包装禁止について議論

[FreshPlaza 2025年2月13日](#)

EUの1.5kg未満の果実と野菜のプラスチック包装禁止についてパネルディスカッションで議論

フルーツロジスティカ(2月4日~6日にベルリンで開催された果実展示会)でプロフード(食品流通等に係る企業グループ)とフレッシュフェルヨーロッパ(青果物物流に関する非営利団体)が主催したパネルディスカッションは、包装及び包装廃棄物規制(PPWR)と、それが欧州単一市場に与える影響を取り上げた。焦点は、1.5kg未満の果実と野菜のプラスチック包装の禁止で、製品の品質、食品の廃棄、及び市場の断片化に関し、支障が生じる可能性について懸念が示された。

プロフード代表のロベルト・ザニケリ氏が議論の口火を切り、合理的なPPWRの実施に向けて現在進めている提唱活動の重要性を強調した。同氏は、トリノ大学の農林食品科学部が実施した「果実・野菜製品と一次包装: 農場から食卓までの環境影響に関する予備的研究」に言及した。この研究では、ライフサイクルアセスメント(LCA)法を使用し、再生PET包装は、CO₂排出量、土地利用、水資源、及び食品廃棄物の削減の点で、段ボールよりも環境的に優れていることが示唆された。

ザニケリ氏は「製品のライフサイクル全体を考慮せずにサステナビリティに取り組むことはできない」と指摘し、実用可能な代替品なしにプラスチック包装を排除するリスクを強調した。

フレッシュフェルヨーロッパのジョアンナ・ナサンソン氏は、PPWRのプロセスについて、「適切な投資を可能にするためには、欧州市場全体の調和と規制の確実性を確保する必要がある」と述べた。同氏は、プラスチック製から紙ベースの生産ラインに移行する際に企業が直面する財務上の課題を指摘した。

オルトフルッタイタリア(果実と野菜の分野で国内外の活動を行う組織)のマッシミリアーノ・デルコーレ氏は、バリューチェーン全体における規制の影響に関するデータを提示し、バランスの取れたアプローチを提唱した。一方、COPA-COGECA(農業生産者及び農業協同組合を代表する団体)のリュック・ヴァノールバーク氏は、加盟国による様々な免除リストが市場を断片化することに警告を發し、「我々は27の加盟国にサービスを提供する市場について話している。もし各国が独自の免除を設ければ、単一市場が損なわれるだろう」と述べた。

カナダ農産物マーケティング協会のダニエル・デュゲイ氏は、同様の制限が見直されたカナダの洞察を共有した。同氏は「カナダでは、これらの対策が想定している理論上の利点に疑問が投げかけられ始めている」と説明し、材料の組成よりもパッケージの機能が重要であると強調した。

また、小売業者の役割についても議論され、パッケージは製品の保存と戦略的な販売管理の上で重要な要素であるとされた。プロフードのメンバーは昨年、バランスの取れた視点を強調しつつ、PPWRに対する「非イデオロギー的でデータに基づく」アプローチを提唱した。

出典: [Packaging Europe](#)

400. 新興国で知的財産の尊重意識が高まる

FreshPlaza 2025年2月13日

中国、インド、トルコ等の新興国では、知的財産に対する尊重意識が次第に高まっている

新しい果樹品種の開発、商品化、販売促進のため、国際苗木生産者連合 (Associated International Group of Nurseries (AIGN®)) が1980年代に設立された。AIGN®の北米メンバーであるブランドズ果樹会社のケビン・ブランド氏は、「世界中にメンバーがおり、消費者のすばらしい体験を創造し、品種の所有者や関係者に最高の長期的利益をもたらしたいと考えている」と述べた。(以下「」は同氏の話)

新興国

AIGNのメンバーは、世界の様々な気候帯に散らばっており、柑橘類を扱う者もいれば、ナッツ類を扱う者やリンゴ、ナシ、核果類、サクランボを扱う者もいる。この組織は、アルゼンチン、チリ、北米(米国、カナダ、メキシコ)、EU、南アフリカ、韓国、ニュージーランド、オーストラリアに拠点を置く12のメンバーによって代表されている。中国、インド、トルコのメンバーが極最近加わった。「我々は、これらの新興国での機会を活用し、育成者に代わって品種を保護する役割を果たしたいと考えている。」

トルコを例にとると、AIGNはイスラム教徒のコミュニティとの確立されたつながりを持っていない。しかし、それは重要であり成長しているコミュニティである。「トルコのパートナーを迎えることで、イスラム教徒コミュニティの生産者や消費者にアクセスできるだけでなく、我々のポートフォリオに新たな品種が追加される。トルコのパートナーは独自の育種プログラムを持っており、現在、火傷病に耐性のあるナシを育種している。我々はこれを世界中で共有することができる。」ナシに加えて、サクランボとリンゴが提供されている。また、カナダのヴァインランド研究イノベーションセンターからアンズの新しいライセンスを取得した。「これは、トルコのAIGNメンバーが追求したいチャンスの一つである。」

中国では主な焦点はサクランボとリンゴだが、インドではすべてのものが少しずつある。インドには多様な産地があり、現在、様々な地区でどの果樹品種が最も良い成績を発揮するか調査する過程にある。「インドでの果樹生産には大きなチャンスがあり、我々は様々な品種を試している。」

知的財産の尊重

潜在的な新メンバーと出会う機会は常に存在している。先週ベルリンで開催されたフルーツロジスティカ(果実展示会)で、AIGNはアゼルバイジャンの企業と会合を持った。「我々はこの地域での活動経験は無いが、世界中のあらゆる可能性に目を向けたいと考えている。彼らは権利関係のある品種に大変高い関心を持ち、知的財産を非常に尊重していて、これらは我々にとって非常に重要なことであるので、最初の会話は肯定的であった。我々は、育成された品種を保護するために努力し、正しいことを行うパートナーを探している。」

知的財産や商標の保護と品種への敬意の表し方は、AIGNが40年前に設立されて以来変化している。「AIGNは知的財産の保護の専門家であり、メンバーが投資を安全に保つための複雑なプロセスを切り抜けるよう支援している。」つい最近、中国のAIGNメンバーが、商標を無効にするための訴訟を裁判所に起こさなければならなかった。他者が商標を登録し所有してしまったためだ。「幸いなことに、我々は成功し、訴訟に勝ったが、非常に時間がかかる。しかし、ポジティブな面としては、知的財産を尊重する考え方は、中国のような新興国でも変化しつつある。他人の財産権を侵害していることが判明し、生産者が果樹を引き抜かなければならないいくつかの事例があった。」

執筆者: マリーケ・ヘメス

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

401. メキシコ 2025年のブルーベリーの生産量は9%減少

FreshFruitPortal 2025年2月14日

メキシコはブルーベリーの主要生産国の1つであり、世界第6位にランクされている。2025暦年の年末までの生産量は7万3,500トンと予測されており、2024年から9%の減少となる。

米国農務省(USDA)のブルーベリーに関する最新の報告書では、輸出量は7万トンで、2万トンを輸入することが示されている。

生産量の減少にもかかわらず、メキシコの生産者は、より良い農法と新しい栽培技術に取り組み、高度な生産技術を適用して新しい品種を栽培し、この果実の利点を活用して消費を増やしている。

国内のブルーベリー消費量 メキシコの年間一人当たりのブルーベリー消費量は、米国をはじめとする世界の主要な果実消費国を大きく下回っているが、人々がブルーベリーの健康効果を次第に意識するようになったため、2023年から2024年の間にブルーベリーへの関心は倍増した。

2023年には一人当たり70gだった消費量が、2024年には146g(前年比+109%)に跳ね上がり、この果実の利点を強調して消費量を増やそうとする生産者の取組みを反映している。

報告書によると、ブルーベリーはほとんどの人々の間で高級食材と見なされており、国内市場では比較的高い値段が付けられている。ブルーベリーの大半は、ゼリー、ジャム、生鮮、スムージーで消費される。

生産と貿易 報告書によると、メキシコのブルーベリー部門は、良好な栽培条件、容易に利用できる労働力、主要輸出市場である米国への近さ、及びヨーロッパ、アジア、中東の一部の国への市場アクセスの恩恵を受けている。

生産者は、高度な生産技術、新品種及び新しい栽培技術を適用して、干ばつ等の天候上の課題に対処し、果実の品質と風味を向上させている。

同等の品質のベリーを低価格で提供するペルーとチリからの競争圧力に対応するため、メキシコの生産者は、従来10月だった収穫と出荷の開始を、南米の収穫が減速する2月まで戦略的に遅らせた。

収穫の開始を遅らせて収穫期間全体を短縮することで、生産者は人件費を削減し、競合国の出荷量が少ない時期にブルーベリーを輸出し、全体の出荷量の減少を2月から5月までの収益の増加で補うことを目指している。

生産者が改良されたより多収性の品種にシフトするため、2025年の栽培面積は若干減少すると予想される。ハリスコ州とシナロア州が、引き続き主要な生産州になると予想される。シナロア州では、水への適切なアクセス等の良好な生産条件のおかげで、生産量の増加が予想されると報告書は述べている。

輸出入 輸出量は7万トンで、前年の7万4千トンをわずかに下回る。米国が、メキシコのブルーベリー輸出の96%を占めている。

メキシコは近年、欧州連合(EU)のほかアラブ首長国連邦などの新興市場にチャンスを見出し、輸出を新たな地平線に拡大している。

米国は引き続き、メキシコのブルーベリーの主要な輸出市場であるとともに供給国でもあると予想される。

輸入量は2024年より7%多い2万トンと予測されており、これはメキシコが生産量が少ない時期に米国、ペルー、カナダが国内需要の増加の一部を補うためである。

米国は引き続きメキシコへの主要なブルーベリー供給国であるが、ペルーもメキシコへのブルーベリー輸出を増やし始めている。

402. 米国 来るべき関税への備え方

FreshPlaza 2025年2月18日

ドナルド・トランプ米大統領が隣国のカナダとメキシコに対して課す可能性がある25%の関税が30日間一時停止される中(輸入されるアルミニウムと鉄鋼に先週課された25%の関税は別として)、北米全体の生産者と出荷業者にとって不確実性が高まる可能性がある。ピアソン・フェルディナンド法律事務所の創設パートナーであり国際業務・紛争部門の共同責任者であるティファニー・コンプレス氏が、企業が今後の状況をどのように乗り切ることができるかについて見解を述べている。(以下「」は同氏の話)

既に導入された鉄鋼とアルミニウムに対する関税は、より間接的ではあるが農産物業界に影響を与えることは間違いないだろう。「我々はエネルギーに依存しているため、エネルギーに影響を与える品目への関税は、我々に影響があるだろう。たとえ食品が関税を免除されても、農産物に影響を与える他の品目に関税がかかれば我々はその影響を受けるだろう。これは重大な問題である。」我々の業界にとって最も直接的な懸念は、トランプ大統領が提示した10%または20%の『ユニバーサル・ベースライン関税』と、同氏が提案した『相互関税』である。

予防的措置

コンプレス氏は、企業は徴収されている関税に既に反応し始めており、例えば、先手を打って採用や事業の拡大を一時的に停止している企業もあると話す。とはいえ、今は別の方法での事業拡大を再考する時かも知れない。「私はクライアントに、創造的に先手を打って市場を多様化することを提案している。」あるいは、栽培する作物を多様化するかだ。「関税が発動されれば、報復関税がかかることが予想される。農産物を生産していて輸出ができなくなった場合は、国内市場に目を向けるとともに、リンゴのように収穫までに5年もかかるもの以外の作物を検討するのがよい。国内で販売でき、より早く収益を得るためには、何を植えることができるだろうか?」

同氏はまた、価格の過少申告から原産国の改ざんまで、関税詐欺についても懸念を抱いている。「これは犯罪になるので、関税を回避できると言う会社には気を付けるべきだ。彼らが何をしているかわからないかも知れないが、それは違法だ。」特に脆弱なのは、おそらく小規模な企業で、それらは家族経営の企業であったり新興企業であったりするだろう。「彼らは市場に不慣れであったり、情報や助言にアクセスできなかったりするかも知れず、気づかないうちにうっかり危険な状況に陥る可能性がある。」

よりマクロな視点から見て、また不確実な今後を考慮すると、他の国々が関税に異議を唱えているという事実は重要である。カナダは、中国も同様だが、関税の導入が一時停止される前には世界貿易機関(WTO)に不服を申し立てるつもりであった。ただし、世界貿易機関の紛争解決プロセスは、控訴を審査する上級機関の委員の任命を米国が阻止したため行き詰まっている。各国はまた、対抗措置として関税を課すとの脅しも行っている。例えば、カナダは当初、オレンジ果汁、メロン、モモ等に関税を課す計画を立てていた。

また、米国の国内法上も考慮すべき事項がある。大統領に国家緊急事態に対処する広範な権限を与える1977年の国際緊急経済権限法(IEEPA)を政権が使用するのは異例である - この法律はこれまで関税に使用されたことはなく、関税や税金を特別に承認している訳でもない。IEEPAは手続き上のハードルがほとんどなく、すなわち通商法の下では数カ月または数年かかる関税の発効を数日で行うことができるため、非常に魅力的な代替手段となっている。関税を課すことは憲法が議会に明示的に与えている権限であり、大統領が課すことを法律が認めていると裁判所が同意するかどうかはまだわからない。ただし、米国の裁判所は、国際貿易や緊急事態に関して、大統領に次第に大きな裁量を与えるようになってきている。

この関税は、米国・メキシコ・カナダ協定(USMCA)等の他の貿易協定にも違反する可能性があるが、そのことが近い将来に関税を妨げることはないだろう。不服を申し立てる国は、WTOの紛争解決手続きと同様の、条約に規定された紛争解決手続きを経なければならない。

前進

では、どのように先に進むのか?「業界の人々には、注意を払うように言いたい。慌てず、慎重に進めること

だ。関税による負担を軽減できる方法について、法律顧問に相談すること。例えば、米国で製造された梱包資材を(国外の)生産者に送り、製品を梱包した後で米国に輸入する場合、関税の対象となる価格からそれ(梱包資材)を差し引くことができる場合がある。塵も積もれば山となる。」

また、商品の輸送に使用されるFOB等のインコタームズ(貿易用語の国際規則)も考慮する必要がある。「それらのインコタームズは、誰が関税を支払うかに実際の影響を与える。来シーズンの契約を設定するときは、留意してほしい。どちらかの側が用語を変更しようとしている場合、それはあなたにとって何を意味するのか考えてほしい。しかし、最終的には、その関税が輸入業者または輸出業者のどちらによって支払われるのかにかかわらず、それは価格を上昇させ、消費者に転嫁されるだけである。」

同氏は最後に、業界が議会の代表者と話したり、IFPA(国際青果物協会)等の業界団体に参加したりして、声を上げることを奨励している。「ロビー活動や議会の代表者との対話のためには、数が非常に重要である。今こそ、業界として声を上げることが最も大事な時である。」

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

(関連記事) 米国カリフォルニア州 提案された関税の州農業への影響

[FreshFruitPortal](#) 2025年2月17日

「(関税の直接効果だけでなく)不安定性もコスト高の要因」提案された関税とカリフォルニア州農業への影響

カリフォルニア大学デービス校農業・資源経済学科の教授であるコリン・カーター氏は、ドナルド・トランプ大統領が選出される前、同大統領の保護主義的な政策と、それがカリフォルニア州の農産物貿易の将来にもたらす危険性について語った。州の輸出の9%弱が中国に向かっており、同氏の予想では、この州はますますこのアジアの国に依存するようになる」と述べていた。中国に関税を課すという超党派の思いは、州の生産者、農業経営者及び輸出業者に打撃を与える可能性がある。

トランプ氏が大統領に返り咲いた今、関税が迫っている。まだ我々が取り組むべき具体的な問題にはなっていないが、カーター氏は、不確実性と迫り来る関税に直面しているカリフォルニア州の生産者の心情について、Freshfruitportal.com(本サイト)に語った。

予測について同氏は、この問題をよく理解しているものの、大統領の突然の決定変更のために、業界で何が起こるかを予測できないと述べた。しかし、同氏はこれらの突然の変化が、市場と農業に不安定さを引き起こしていると考えている。

同氏は、「そのため、生産者は意思決定や投資を控えている」と説明し、「最も基本的な例を挙げると、生産者は今、何が起こるかかわからないので、事業に多額のお金を使わないようにしている。そのため、農機を買わない農業経営者が増え、加工業者は設備に投資しなくなる。不確実性の視点はあまり語られていない事柄だが、それは極めて重要だと思う。関税の引き上げは価格の上昇につながり、不確実性の高まりもまた価格の上昇につながる」と述べた。

生産者にとっては、カナダが関税で報復すればカリフォルニア州の生産者に打撃を与え、メキシコが報復すれば消費者が最も苦しむことになる」と同氏は説明する。「カリフォルニア州はその生産物の40%を輸出しているが、人々がこうした貿易戦争について語る時、よく言われるのはカナダとメキシコは平均して米国よりも貿易に依存しているということである。それは事実だが、個々のセクターを見ると、打撃を受けるのは貿易が生産に大きな部分を占めているセクターだろう。」

カーター氏は、規制は保護主義に傾いていると言う。しかし、生産者は国内の消費に頼るのではなく、新しい市場を求めている。「国内消費に向けた再調整よりも重要なのは、貿易面での再調整であり、それを行うにはコストがかかるが、それこそが関税を回避する方法である。」

403. ベトナム 果実・野菜の輸入は中国産と米国産に牽引されて24%増加

[FreshPlaza 2025年2月18日](#)

最新の税関データによると、ベトナムは昨年、中国と米国から15億米ドル相当の果実と野菜を輸入し、これは総輸入額の約3分の2を占めた。中国からの輸入額は10億ドル近くで、輸入量は25%増加した。米国からの輸入は64%増加し、ベトナムの16の輸入先の中で最も高い増加率を記録した。

オーストラリアは、輸入額が1億5,100万ドルで3番目に大きな供給国にランクされた。税関の報告によると、ベトナムの果実と野菜の輸入額は全体として24%増加し、24億ドルに達した。主な輸入品は、リンゴ、ブドウ、ピスタチオ、アーモンド等であった。

業界筋によると、地域的な包括的経済連携(RCEP)やベトナム・米国二国間貿易協定(TPA)等、減税や技術的障壁の引き下げを含む貿易協定が、中国と米国からの輸入の増加を促進している。

ベトナム果実野菜協会のダン・フック・グエン書記長は、「輸入品は通常、品質が高く価格競争力がある」と指摘した。近年中国は、以前は日本や韓国から輸入されていた高品質な農産物を、これらの国に比べてごくわずかなコストで生産している。

アメリカ産のリンゴは、ニュージーランド産やオーストラリア産のリンゴよりも手頃な価格で、ベトナムでの人気を獲得した。一方、韓国、インド、ニュージーランドからの輸入は、2023年に比べて12~17%減少した。

出典: [VNExpress](#)

404. オーストラリア ブドウは好天が続けば良い年に

[FreshPlaza 2025年2月18日](#)

オーストラリア生食用ブドウ協会のジェフ・スコットCEOは、同国のブドウ生産者達は今シーズン、素晴らしい豊作と品質の良いブドウを目の当たりにしているとしつつ、「収穫は12月中旬に始まった。今シーズンは多くの新品種がフル生産されており、収穫は5月まで続く」と述べている。(以下「」は同氏の話)

「昨年末の雨は地域が限られ、ブドウの木に十分な水を与えた。これまでの天候は素晴らしく、このまま行けばオーストラリア産のブドウにとって良い年になるだろう。」

昨年のブドウの収量は例年に比べて25%少なかったが、今年は例年より25%多くなりそうである。

「今年は量が多くなると見られ、品質も非常に良好である。通常の種類はすべて揃っており、人気のある多くの新品種がフル生産されている。生産者は一貫してより多くの新品種を植えている。国内のほか、輸出市場でも需要がある。国内市場向けに栽培する生産者もいれば、海外市場をターゲットにする生産者もいる。ここオーストラリアの価格が高く、輸出する必要がないことも多い。」

昨年7月には、オーストラリアはクリムゾンシードレス、レッドグローブ、トンプソンシードレスに限って輸出が許可されていた日本に他の品種を輸出できるようになった。今では150種類の品種を輸出することができる。

「このことは大きな反響を呼び、今年は多くのブドウが日本に輸出されるだろう。ブドウの品質が良い時に始められるのは素晴らしいことだ。また、ニュージーランド、韓国、インドネシアからも強い需要が見られる。」

執筆者: ニコラ・マクレガー

405. チリ 90年以上にわたる果実輸出の将来の課題

FreshPlaza 2025年2月21日

90年以上にわたる果実輸出：チリは将来の課題にどのように向き合っているか

フルタス・デ・チリ(チリ果実輸出業者協会)のイバン・マランビオ会長は、「チリは世界最大の生鮮果実輸出国の1つであり、南半球で卓越した地位にある。その品揃えは、生食用ブドウ、リンゴ、サクランボ、スモモ、キウイ、ブルーベリー等である。チリの気象条件は、色と風味の良い高品質果実の生産を可能にする。この自然の利点は、国際市場での我が国の地位獲得に貢献しているが、これらの市場へのアクセスを得ることに困難が無かった訳ではない」と述べている。(以下「」は同氏の話)

チリ産果実の輸出先は、アジア(30%)、北米(30%)、ヨーロッパ(20%)、中南米(20%)に分散している。しかし、中国等の主要市場までの距離が課題となっている。「中国は優先的な輸出先であるが、輸送時間が果実の品質に影響を与える可能性がある。」

この輸送時間を短縮するために、通常の30日ではなく21日でサクランボを輸送するチェリーエクスプレス等の解決方法が開発された。それでも、1,300コンテナの果実に影響を与えた最近の貨物船の座礁事故のような出来事は、このセクターの脆弱性を映し出している。「これは、多くの生産者に影響を与える難しい状況である。保険の適用範囲と補償が不明確なことは、損失を軽減し、セクターの財務の安定性を維持するためにそのようなメカニズムに依存している輸出業者への余分な圧力となっている。」

長引く干ばつにより、生産者は水効率化対策の実施を余儀なくされている。「責任ある水の使用は、降霜や熱波から作物を保護する技術とともに不可欠である。」

もう一つの重要な側面は、均一な品質を保証するための果実の選別・梱包プロセスの改善である。「サクランボの一箱一箱が国際基準を満たすように、高度な技術が実践されている。」

果実セクターは、地域経済に大きく貢献している。推定によると、それは同国のGDPの2~3%を占めている。「新しい市場の開拓と商業的な安定性が、このセクターの成長の決定要因となるだろう。」

消費動向としては、より甘く歯ごたえのある品種に対する需要が高まっている。さらに、廃棄される果実は最小限である。

300社以上の企業を結集し、90年の経験を持つ同協会は、主要市場でのチリ産果実の存在感を強化し、業界の課題に対応するための戦略を引き続き模索している。「重要な課題は、果実が最適な状態で消費者に届くことを確保し続けることである。」

執筆者：ダイアナ・サジャミ

406. ペルー ブドウのシーズンは力強く回復し過去最高の輸出で終了へ

[The Grape Reporter 2025年2月18日](#)

ペルー北部の2024-25年度の生食用ブドウの出荷シーズンは、気候変動の問題にもかかわらず、目覚ましい成長を遂げている。エコサック社の総括マネージャーであるホアキン・バラレゾ氏は、同国が近年のシーズンを上回る8千万箱の記録的な輸出量に達すると推定している。水不足が続いていることは生産者にとって依然として課題であるが、ピウラ県での年2回の収穫は、この地域が新技術を導入し、世界市場での競争力を保つ能力を浮き彫りにしている。

LinkedIn(ビジネス用SNS)では、リマ市南方のイカ県に拠点を置くサフコペルー輸出会社の総括マネージャーであるベンハミン・シジョニス氏等の出荷業者が、現在終了間近のペルーの2024-25年度産ブドウの出荷シーズンについて、心強い数字を共有している。

バラレゾ氏は、出荷シーズンが順調に進んでいると考えている。同氏は、「今年はペルーの生食用ブドウの輸出にとって好ましい年であった。弊社では、昨シーズンの約490万箱に対して、今年は630万箱強を輸出した。全国では、昨シーズンの約6,300万箱に対し、今年は約8千万箱に達すると推定している」と述べ、「この出荷シーズンには、出荷数量と国際価格という2つの重要な側面がある。一部の国からの供給が減少したため、様々な市場の価格が堅調に推移している」と付け加えた。(以下「」は同氏の話)

ペルーのブドウ作の主な課題は、国内の他の作物と同様に、気候変動である。「2022-23年度の出荷シーズンには、エルニーニョ現象が収穫に影響を与え、生産性と品質が低下した。北部の2023-24年度出荷シーズンは、これまでに経験したことのない灌漑用水の不足から始まり、ようやく回復が見え始めている。」

ピウラ県の生産者達は長年にわたり、灌漑用水の極端な不足に悩まされてきた。場合によっては、水文年度の最初の3カ月(9月、10月、11月)に農業が深刻な影響を受け、作物の損失をもたらした。

「1月以降、ポエチョス貯水池の主な流入河川であるチラ川の水量は改善しており、現在もそれが続いている。しかし、今日までの流入量を積み上げると、最終的な水量はまだ「普通に水不足の年」に分類される。ピウラ川の状況もよく似ている。ピウラ高地で雨が降ると予報されたのはようやく今月になってからであり、それはすぐにその流量に反映されるはずであるが、現時点ではまだ乾燥している。」

北部では年2回収穫

同氏は、ピウラ県の農業では、より信頼性の高い灌漑用水の供給を確保するために、イカ県で使用されているものと同様の筒井戸を準備する必要があると強調した。「州のインフラもさらに多く必要であり、既存の資源を適切に管理し、追加の貯水池を整備するべきである。」

ペルーが生食用ブドウに関してチリや南アフリカからまだ学べるかどうかについて、同氏は「我々は常に他の生食用ブドウ生産国から学ぶことができる。我々は協力者であり、経験を共有することにオープンである」と述べた。

ペルーの気候では新品種の迅速な試験が可能であり、これは他の国よりも有利な点である。「我が国では気候が多様であり、多くの品種を開発することができる。北部の気候は(南部の)イカ県とは大きく異なり、同じ年に植え付けと収穫を行うことができる。これにより、試験の結果をより迅速に取得できる。例えば、シュガークリスプ、アツラ15、エスカロタなどの一部の品種では、以前は不可能と考えられていた年2回の収穫が行われている。」

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

407. 米国カリフォルニア州 柑橘類の輸出シーズンは低調

[FreshPlaza](#) 2025年2月18日

カリフォルニア州からのネーブルオレンジ、マンダリン、グレープフルーツの供給は、昨年この時期とほぼ同じようである。ジョンストン農場のデレク・ヴォーン氏は、「ただ、昨年に比べてサイズがかなり小さくなっている。昨シーズンの約半分のサイズだ。在庫は豊富にあるが、サイズはほとんどが入数72(中玉)か、それより小さい」と言う。(以下「」は同氏の話)

出荷シーズンは予定通りに始まったが、2024年7月にこの地域で発生した熱波が果実の成長に影響を与えたと考えられている。

現在のところジョンストン農場では、ネーブルオレンジについてはワシントンネーブルをもう1週間出荷する予定である。グレープフルーツではカリフォルニアレッドを、マンダリンではマーコットとゴールドナゲットを出荷している。

国内需要が拡大

需要については、今年は国内の需要が賑わい、堅調に推移している。「輸出は全体的に低調である。モロッコやエジプトなどとの競争があり、輸送の遅延も見られるため、国内でより創造的に取り組み、袋詰め販売やラベルの使い分け、様々な市場の利用などの対応を行っている。」

果実の小玉化は価格に影響を与えており、昨年この時期よりも安くなっている。「しかし、今年は果汁価格が歴史的に高く、誰にでも良い底値が示されているので、生鮮市場が安ければ果汁用に出荷することもできる。」

今後、ジョンストン農場はオータムゴールドとその他の晩生ネーブルの出荷シーズンに入るため、シーズンはあと約6週間残っている。

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

408. 米国 リンゴの貯蔵量が前年比5%減少

[FreshFruitPortal](#) 2025年2月21日

米国リンゴ協会のデータ(USApple Tracker)によると、今年2月の米国のリンゴ貯蔵量は1億3千万ブッシェルで、そのうち9,270万ブッシェルが生鮮市場向けである。これは、昨年の同時期に報告された在庫より5%少なく、2月の貯蔵量の5年平均よりも12%多い。(米国リンゴ協会の1リンゴブッシェル=42ポンド(約19.05kg))

この調査では、米国の加工用リンゴの貯蔵量が前年同期比5%減の合計3,750万ブッシェルであったことも示されている。この在庫量は、昨年2月に報告されたものより5%少なく、2月の5年平均より8%多い。

品種別では、ガラの生鮮及び加工用の貯蔵量が合計1,939万6,774ブッシェルで最も多く、次いでレッドデリシャスが1,706万8,616ブッシェル、グラニースミスが1,533万1,791ブッシェル貯蔵されていた。

州別では、ワシントン州が依然としてトップで1億739万5,238ブッシェルのリンゴを貯蔵しており、昨年よりわずかに少ないが、5年間の平均より多くなっている。

これにニューヨーク州が続き、昨年よりも多い1,028万2,460ブッシェルのリンゴを貯蔵している。ミシガン州が第3位で、614万3千ブッシェルのリンゴを貯蔵しており、昨年及び5年間の平均よりも少なくなっている。

409. 米国 有機農産物と慣行栽培品の価格差が縮小

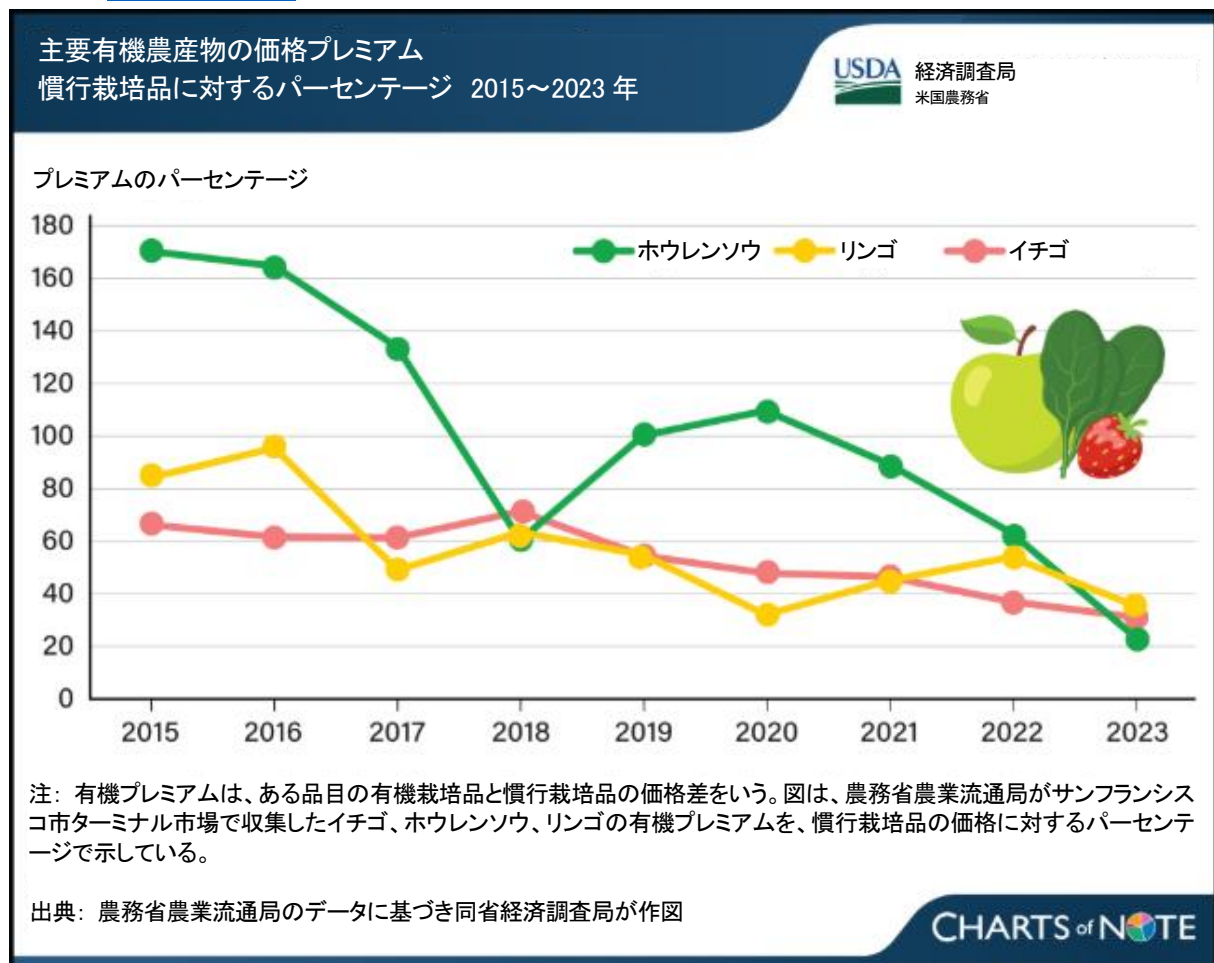
FreshFruitPortal 2025年2月20日

有機農産物の生産者は通常、商品に対して慣行栽培品よりも高い対価を受け取る。これが有機農業に関連するコストを賄うのに役立つ価格プレミアムである。しかし、[米国農務省によると](#)、リンゴやイチゴなどの主要な有機果実の場合、こうしたプレミアムは2015年以降次第に減少している。

2022年の食品価格のインフレは1979年以来最高となり、消費者は有機農産物と慣行栽培農産物の両方で食品価格の上昇を経験した。有機栽培品と慣行栽培品の両方の価格が上昇する中で、慣行栽培品の価格はより急激に上昇し、有機栽培品と慣行栽培品の価格差が縮小した。その結果、有機リンゴと有機イチゴの生産者達はプレミアムの縮小に直面し、より高い生産コストを正当化することが一層難しくなった。

COVID-19のパンデミックの間、有機農産物取引協会(OTA)は、コストの上昇にもかかわらず、有機生産者達がさらなる価格の引き上げを躊躇していることに注目した。この消極的な動きは、価格差が大きくなりすぎると、既に食品価格の高騰に直面している消費者が有機農産物から離れて行くかも知れないという懸念に起因している。極最近も、プレミアムの減少傾向は続いている。サプライチェーンの混乱と消費者の購買習慣の変化は価格競争をより激化させ、有機生産者が獲得できるプレミアムがさらに抑制されている。

(参考) [米国農務省資料](#)から図のみ抜粋



410. 米国の研究 ブドウの摂取が筋肉の遺伝子発現の改善等に関連

[FreshPlaza 2025年2月21日](#)

ブドウの摂取が筋肉の遺伝子の発現の改善と劣化の減少に関連していることが研究で判明

ウェスタン・ニューイングランド大学(WNE)の新しい研究により、ブドウの長期摂取と筋肉の健康の改善との間に有意な関連性があることが明らかになった。オンライン学術雑誌Foodsに最近掲載されたこの研究では、ブドウを日常的に食べると筋肉の遺伝子発現にプラスの影響を与える可能性があり、特に女性に強い影響を与えることが示唆されている。

画期的な発見

この研究では、毎日のブドウの摂取が遺伝子の発現を変化させ、除脂肪筋肉量を増やし、筋肉の劣化のマーカーを減らすことがわかった。興味深いことに、これらの変化により、男性と女性の筋肉特性が代謝レベルでより類似するようになった。高齢者の10～16%がサルコペニア(加齢に伴う筋肉の減少)を経験していることを踏まえると、この発見は、人々の加齢に合わせて筋肉の健康をサポートする栄養戦略の有望な道筋を提示している。

この研究の主任研究者であり、WNE薬学・健康学部の教授兼学部長であるジョン・ペズート博士は、「この研究は、ブドウが筋肉の健康を遺伝子レベルで増進する可能性があるという説得力のある証拠を提供している。(ブドウの)安全性と幅広い入手のしやすさを考えると、ヒト試験でどれだけ迅速にこれらの変化を観察できるかを探ることは大変興味深い」と述べた。

栄養遺伝学の役割

食事が遺伝子発現にどのように影響するかを調べる栄養遺伝学は、この研究で中心的な役割を果たした。植物性化学物質と呼ばれる天然化合物が豊富なブドウは、心臓や腎臓の機能から皮膚や目の健康まで、健康の様々な側面に影響を与えることが示されている。研究者はこの研究で、1日当たり2単位(サービング)のブドウの摂取が筋肉の遺伝子発現パターンに及ぼす影響を調べた。その結果、ブドウの摂取は2万以上の遺伝子を変化させ、筋肉の代謝に大きな影響を与えることが示された。

この研究では、除脂肪筋肉量に関連する遺伝子等、筋肉の良好な健康に関連する遺伝子が活性化し、筋肉の劣化に関連する遺伝子が抑制されることも明らかになった。これらの知見は、食事にブドウを加えるなどの食事介入が、運動やタンパク質を多く含む食事などの従来の筋肉維持戦略の補完的アプローチとして役立つ可能性があることを示唆している。

今後の研究の方向性

WNEの研究チームは、これらの遺伝的変化の背後にあるメカニズムをさらに調査し、それらがヒト被験者にどの程度の速さで発生するかを決定することを目指している。栄養遺伝学の分野が進化し続ける中、この研究は、様々な年齢層にわたる筋肉の健康に対する新しい食事療法アプローチの扉を開くものである。

411. オーストラリア 輸出の伸びが園芸生産額の記録更新を後押し

FreshPlaza 2025年2月21日

「これは、オーストラリア製品のより高い品質と価値が市場に受け入れられていることを裏付けている。」

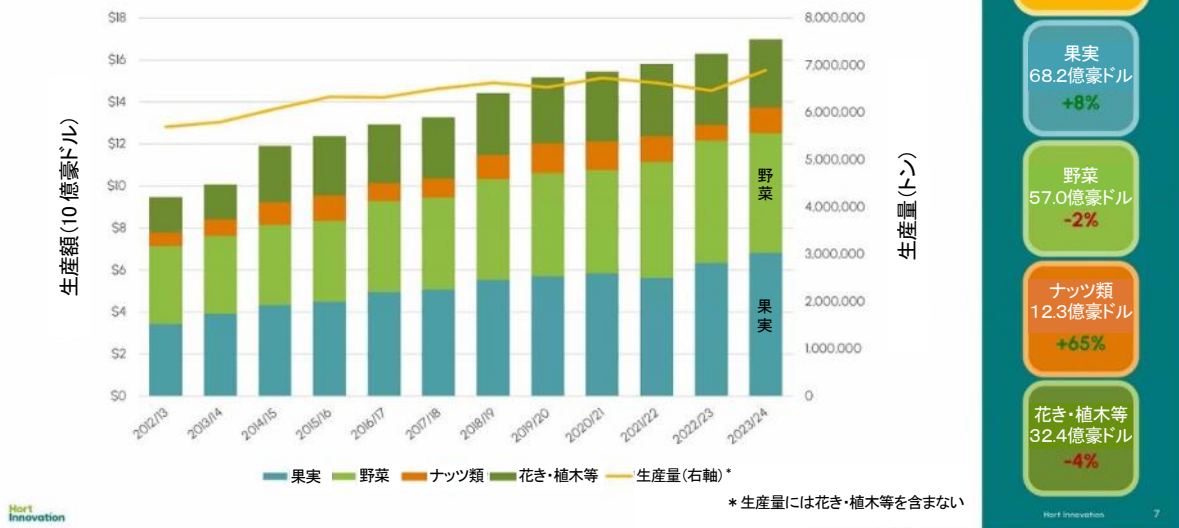
厳しい環境の中、輸出の伸びがオーストラリアの史上最高の園芸生産額を後押し

オーストラリアの園芸部門は、2023-24会計年度(7月~6月)に170億豪ドルを超える史上最高の生産額を達成した。Hort Innovation(園芸産業のための非営利研究開発法人)の年次統計ハンドブックによると、これは前年比4.3%の増加であり、輸出が大きな役割を果たした。(1豪ドル=約95円)

オーストラリア園芸統計ハンドブックの第11版は、全国の75以上の様々な園芸作物をカバーしている。Hort InnovationのCEOであるブレット・フィーフィールド氏は、オーストラリアの生産者は引き続き過去最高の投入コストに苛まれており、最近では病害虫の侵入や全国的災害の影響を感じているにもかかわらず、この数字を出していると語る。

フィーフィールド氏はハンドブックのオンライン発表に当たり、「我々のビジョンは、技術革新を基盤とする、収益性が高く持続可能なセクターである」と述べ、「今日のニュースは前向きである。オーストラリアの園芸は、2030年までに200億豪ドルのセクターとなる道を順調に進んでいる。果実部門は成長をリードしており、生産額は約5億豪ドル(7.8%)増加し、68億2千万豪ドルに達した。これは、ベリー類、柑橘類、バナナの好調な業績によるものである。このセクターの存続にとって輸出の伸びは重要な要素であり、輸出額は過去最高の約30億豪ドルに達した。これは、果実、特にアボカドと柑橘類の輸出によって推進された。我が国の野菜部門は強化を続けているが、その生産量は増加したものの総生産額は2.4%減少した」と語った。

生産額



Hort Innovationの業界見通しの責任者であるルーシー・ノーブル氏は、園芸セクターは真の成長軌道に乗っており、課題があるにもかかわらず170億豪ドルという驚異的な生産額の数字に達したことは、このセクターが持つ困難からの回復力の証であると付け加えた。

同氏は、「年間平均成長率は、複利で計算すると年5.5%であり、これは大きな成果である」と述べ、「今年は、農場出荷額が伸び、昨年より約7億豪ドル増えた。これは果実の大幅な増加によるもので、その生産額は5億豪ドル(8%)近く増加し、68億豪ドルに達した。園芸セクターの生産額は、ナッツ類の回復にも支えら

れており、2022-23年度の厳しいシーズンから回復し、生産量はこちらも5億豪ドル近く増加して12億3千万豪ドルに達した。」

しかし、ノーブル氏は、それはすべてに当てはまる話ではなく、果実やナッツ類の全般的な成長が業界全体の生産額を押し上げた一方で、野菜部門の生産額は2.4%の微減となり、57億豪ドルに戻ったと指摘している。

果実 生産額上位8品目



果実	2024年度 増加率 %
生食用ブドウ	-18.2
バナナ	19.6
リンゴ	5.1
アボカド	5.1
イチゴ	18.2
ブルーベリー	19.6
オレンジ	9.7
マンダリン	18.2

全体として、昨年の生産量は7%増加し、ハンドブックにデータを提供したフレッシュロジック社(青果物データ会社)の経営責任者であるマーチン・ニーボーン氏は、いくつかの品目で回復が見られたと説明している。

同氏は、「生産量の増加は生産額の増加に繋がり、それは下落した品目の悪影響よりも大きかった」と言い、「原動力となったのはトマト、アボカド、夏果実、ベリー類であり、それらは生産額が減少した品目を補う以上のものであった。この数年に起こったことを要約すると次のとおりだ。75の様々な品目グループの一部が増えたり減ったりすることがあるが、全てにあてはまる傾向はない。我々を取り巻く条件は様々であり、輸出市場の状況も様々である。そうしたことが長期にわたる成長の回復を支えているようであり、特に過去1年の間には、生産量の回復と販売量の増加により、それが起こった」と述べた。

ハンドブックによると、柑橘類とアボカドをはじめとする果実の輸出が好調であったため、生鮮園芸作物の輸出も増加し、史上最高の27億5千万豪ドルを記録した。これは、この業界が過去数年間に経験した力強い輸出の成長軌道を維持している。生鮮園芸作物の輸出額は全体的に増加したが、いくつかの例外があり、生食用ブドウは輸出量で19%減少し、輸出額では14%減少した。

ニーボーン氏は、「量的に大きい品目を見ると、輸出量が年間4万トンを超えるものが7つある」と述べ、「これらの品目のうち6つでは輸出量が増加し、価格が維持されたか、または価格が高くなった。これはポジティブなことであり、収量の減少により生産量に影響を受けたブドウのネガティブなシーズンを補って余りある。アボカド、メロン、夏果実を筆頭に、輸出量を生み出す第2層の品目があり、心強いことにこれらは進歩し、より高いレベルに向かっている。一部例外はあるものの、ほとんどの品目で輸出量が増加しても価格は維持されている。これは、オーストラリア産品のより高い品質と価値が市場に受け入れられていることを裏付けており、励みになる。この結論は十分に幅広い品目から導き出すことができ、それは一層の輸出拡大のための重要な基盤となっている。」

輸出



ニーボーン氏によると、オーストラリアの輸出販売力はこれまでも実際の強みであり、成長の原動力となっている。一方、国内で生み出される価値も、少量の販売単位や廃棄物管理、買い物頻度の増加などを通じて、依然として増加している。同氏は、これは果実や野菜がより多くの世帯で購入可能になったことを意味し、それがより大きな販売額につながったことに加えて、人口の増加が需要への大きな刺激となっていると言う。人口が1%増加すると、年間3万5千トン以上の需要と1億2千万豪ドル以上の卸売販売額が発生するが、このセクターはその2倍の速さで成長している。

オーストラリア園芸統計ハンドブックは[こちら](#)

執筆者： マット・ラッセル

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

412. カナダ 農産物に対する米国の関税

[FreshPlaza 2025年2月24日](#)

「最悪に備え、最善を期待する」

米国がカナダとメキシコから輸入する製品に課す可能性のある関税について、人々は概ね否定的な反応を示した。3月12日以降、米国に輸入されるすべての鉄鋼とアルミニウムに25%の輸入税が適用される。現時点では、カナダとメキシコからの輸入品に対する関税の実施が、国境警備、違法薬物及び移民に関する措置と引き換えに3月4日まで一時停止されているため、青果物への影響は不明である。

ケベック州モントリオール市に拠点を置くクルシェーヌ・ラローズ社(青果物卸売)のギイ・ミレット氏は、「我々は中立を保ち、積極的に行動しようとしている。2週間前にわかったことの1つは、トランプ氏が我々がまだ遊び方を知らない新しいゲームを見せてくれたということである。最終決定が保留された今、ゲームをよりよく理解するための追加の時間を得たので、3月4日までにより良い準備が整うだろう」と話す。(以下「」は同氏の話)

消費者にとってのチャンス

「結局のところ、皆が立場を決めようとしているが、我々は卸売業者として(生産者、輸入業者と消費者の)中間に

おり、より中立的な立場にある。消費者がどのように反応したいのか決めてもらう必要があるが、信じ難いことに、関税は消費者にとってもチャンスを生む可能性がある。」タマネギのような輸出品は、今は簡単に米国との国境を越えることができる。関税が輸出にマイナスの影響を与え、より多くの国内産品をカナダ人が利用できるよくなれば価格が下がる可能性がある。

関税が課せられた場合、カナダの生産者全員が同じように影響を受けるわけではない。「ケベック州では、温室栽培の農産物は主に国内市場にとどまるが、オンタリオ州の温室栽培生産者は非常に大規模な輸出業者である。」全体的に見て、関税の影響は甚大であるが、報復関税は米国からカナダに輸出されるすべての農産物に課税されるため、これも大きな影響を及ぼす。

ボイコット

カナダの消費者が対応できる1つの方法は、米国の農産物をボイコットすることである。「経験則に照らして、消費者の3分の1は米国の農産物を断固としてボイコットし、3分の1はそうしたいと思いつつ結局米国産の果実や野菜を購入し続ける。3分の1は、単にその製品が必要だから気にしない。」特に外食産業は、一定の農産物を顧客に提供し続ける必要があり、ボイコットを実施する余裕はない。「米国産農産物の購入を当面拒否する購入者は、その製品を常に代替できる訳ではないことを認識することが重要である。弊社は国際的な企業であり、世界中の様々な地域や国から調達しているが、一夜にして調達先を切り替えることはできない。」他の地域や国から調達できる時期は、大自然によって決められている。今後、調達戦略は関税によって部分的に影響される可能性があるが、産地を切り替えるには時間が必要だ。消費者がカリフォルニア州産の柑橘類からスペイン産の柑橘類に切り替えたいと想像してみよう。「我々が海上輸送に依存していることもあり、変更には約10～14日かかる。」

関税には値札(対象物の価格)が関係するが、他の様々な調達先地域の値札はさらに高い可能性がある。「供給過剰のズッキーニ市場に対する25%の関税は、米国から別の生産国に切り替えるよりもはるかに安い可能性が高い。単に関税を払って持ち込む方が良いかも知れない。」

実施

不確実性にもかかわらず、カナダ政府は、カナダに輸入される農産物とそれに伴う税金を管理するシステムの導入に力を入れている。カナダ国境管理庁(CBSA)は、同庁の評価・歳入管理(CARM)システムを使用して、カナダに輸入される商品に対する関税と税金の評価と徴収を担当する。ミレット氏は、カナダ政府が関税を査定し徴収するシステムを導入できると確信している一方で、そのようなシステムが農産物の品質の変化を考慮できるかどうかを疑問に思っている。カナダの買い手と米国の売り手が、農産物を1箱当たり30ドルで販売することに合意したとする。製品には25%の関税が課せられ、これは7.50ドルの税金に相当する。品質に問題があり製品が品質仕様を満たさなくなった場合に、最終的に販売者の受取額を15ドルとすることで決着したとする。「この場合、関税はどのように計算されるだろうか。関税は実現しなかった価値に基づいて計算されたことになる。弊社では、週に500件以上の通関を行っており、そのうち150台のトラックが米国から来て、さらにそのうち約75台が関税の対象となる可能性がある。後で価値が下がる製品に関税を支払うことは持続可能ではないため、価格の変更に対処する必要がある。」これは青果物業界の特徴である。

「最悪の事態に備える一方で、3月4日に何も起こらないことを願おう。農産物業界の動向は関税がなければはるかに簡単になるが、関税がかかって最も損をするのは消費者だろう。」

執筆者: マリーケ・ヘムズ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

413. ニュージーランド キウイフルーツの記録的な収穫量を確信

FreshFruitPortal 2025年2月25日

ニュージーランドの2025年産キウイフルーツの収穫は、2月初旬に始まった。今年は、史上最も早い収穫開始と2億箱の大台を超える史上最大の収穫予測によって、生産者にとって歴史的な年とされている。

国内で最初に摘まれたキウイフルーツはゼスプリ・ルビーレッド品種で、2月上旬にベイオブプレンティ地方のエッジカンベ村の近くで収穫された。

この赤肉のキウイフルーツはニュージーランド国内のスーパーマーケットで販売されるが、一部は海外市場向けである。今後、ゴールド品種とグリーン品種のキウイフルーツの収穫がこれに続く。

この実り多い年は、主に高品質なキウイフルーツの栽培に理想的な良好な気象条件と、栽培面積の増加に帰することができる。ニュージーランド・キウイフルーツ生産者協会CEOのコリン・ボンド氏が、同協会の今シーズンの展望について Freshfruitportal.com(本サイト)に語った。

ボンド氏は、2024年は史上最高の1億9,300万箱を記録し、非常に好調だったと述べた。今年は、2億箱以上が見込まれている。(以下「」は同氏の話)

「重要なのは我々の栽培面積のヘクタール数であり、ニュージーランドでは過去数年間、着実に増加している。我々は過去3年間でより多くのゴールドキウイを植え、また赤肉系品種を商品化した。」

ボンド氏は、栽培面積の増加とレッドキウイの商品化に加えて、業界は素晴らしい生育期間を迎えていると述べた。「十分な冬の寒さと素晴らしい春を経験し、国内でいくつかの悪天候はあったものの全体としては素晴らしい生育期間であり、記録的な収穫量になると確信している。」

同氏は、サンゴールド・キウイフルーツ、すなわちゴールド品種は、過去10年間で最も大きな伸びを示しており、同協会は今年少なくとも1億9千万箱を見込んでいると言う。

ゴールド品種に続くのが、6千万箱を見込むグリーンキウイのヘイウッド品種であり、同氏は「我々の産業の基盤」と呼ぶ。そして最後になったが同じく重要なのは、過去3シーズン間に商品化された赤い品種のルビーレッドで、他の品種よりも早く成熟し、ニュージーランド産キウイフルーツのシーズン序盤を支えてきた。同協会では今シーズン、300万箱のルビーレッドを見込んでいる。

輸出

輸出に関してボンドは、ニュージーランド産キウイフルーツのほとんどが輸出されていると指摘した。「我々の果実の95%以上はニュージーランド国外に輸出されている。単に、我々が生産するキウイフルーツを食べるだけの人口基盤がニュージーランドにはない。さらに、我々の生産物には世界的に大きな需要がある。」

ニュージーランドは依然として世界最大のキウイフルーツ輸出国である。ニュージーランド統計局が発表したデータによると、2024年シーズンのキウイフルーツの輸出額は35億NZドルと評価され、2023年と比較して44%増に当たる10億ドル増加した。同国の果実のほとんどはアジア諸国と欧州連合に出荷されている。(1NZドル=約86円)

今年は業界にとって歴史的な年であるが、これがこの国の最後の歓声ではない。ボンド氏は、サンゴールド品種の生産を拡大するチャンスはまだ多くあり、ルビーレッド品種には将来のチャンスがあると述べている。

「今年は2億箱の記録を達成したいと考えているが、それが業界として樹立する最後の記録にはならないと確信している。」

414. 米国フロリダ州 柑橘類産業を守る新しい非営利団体が発足

[FreshFruitPortal](#) 2025年2月25日

フロリダ州の柑橘類の危機に対応して、フロリダ州柑橘園救済財団 (Save Florida Citrus Groves Foundation) がその設立を発表した。この組織は自らを、サンシャインステートと呼ばれる同州の象徴であるオレンジを保護し、同州の柑橘類の伝統を保存するため、小規模な柑橘類生産者に助成金と支援を提供することに専念する最初で唯一の非営利団体であるとしている。

同非営利団体はプレスリリースで、その目標は『小規模な柑橘類生産者』に助成金を提供して、放棄された柑橘園を再生するとともに重要な農地を商業開発及び宅地開発から保護することにより、同州の柑橘類の遺産を保存し、活性化することであるとしている。

これは、同州の柑橘類業界がハリケーンの被害とカンキツグリーンング病による生産量の減少に苦しんでいる中で起こったことであり、業界関係者は議員達に助けを求めている。

フロリダ州柑橘類協会によると、フロリダ州はピーク時には2億4,400万箱のオレンジと5千万箱のグレープフルーツを生産していた。2025年1月の米国農務省の予測では、同州はこの生育期間に1,200万箱のオレンジと、120万箱のグレープフルーツを生産すると見込まれている。

415. 米国の研究 柑橘類の摂取がうつ病リスクの20%低下に関連

[FreshPlaza](#) 2025年2月26日

ハーバード大学医学校とマサチューセッツ総合病院に所属するラージ・メータ氏が率いる研究では、柑橘類の摂取がうつ病のリスクを20%低下させることが示唆されている。この研究は、柑橘類が腸内細菌ファエカリバクテリウム・プラウズニッツィ (*Faecalibacterium prausnitzii* (*F. prausnitzii*)) の成長を刺激する可能性があることを示している。この細菌は気分の調節に関連する神経伝達物質であるセロトニンとドーパミンの産生に関係している。この研究では、この関連性を調査するため、10万人以上の女性が参加する「看護師健康研究 II」(NHS2)のデータを利用した。

メータ氏は、「その効果は柑橘類に特有なようだ。被験者の果実や野菜の総消費量、またはリンゴやバナナなどの他の個々の果実を見ると、摂取量とうつ病のリスクとの間に関連性は見られない」と指摘する。NHS2の研究では、便のサンプル分析も行われ、柑橘類の消費量が多く、うつ病の発生率が低い参加者では、*F. prausnitzii* のレベルが高いことが明らかになった。この細菌は、S-アデノシル-L-メチオニン (SAM) サイクルの経路Iを介して神経伝達物質のレベルに影響を与えている可能性がある。

これらの知見を検証するために、「男性の生活習慣検証研究」でも同様の分析が行われ、*F. prausnitzii* のレベルとうつ病リスクとの間に逆相関があることが示された。メータ氏は、柑橘類の消費がうつ病に与える影響をさらに調査するための将来の臨床試験に関心を示し、メンタルヘルスの管理における食事介入の可能性を指摘した。

出典: [The Harvard Gazette](#)

416. 米国農務省 2034年までの果実・ナッツ類の生産見通し

FreshFruitPortal 2025年2月26日

米国農務省は、2023年から2034年までの米国の農産物貿易と国内生産の農業予測を発表した。これは、果実とナッツ類の様々な市場動向を示している。

このレポートは、世界の主要市場のGDP成長予測をカバーしている。まず米国では、2025年から2034年までの予測期間中の実質GDP成長率を、過去10年間(2015年~2024年)の成長率の2.3%よりもかなり低い年平均1.8%と予測している。

報告書は、「ただし、過去10年間の成長率には、パンデミック前の高成長と、パンデミック後の成長率の大幅な回復が含まれている」としている。

全体として、米国の予測成長率は、緩やかで着実な成長を映し出している。

(以下、一部要約: その他の高所得国・地域では米国よりやや成長が鈍く、欧州連合(EU)は過去10年と同様の1.6%、日本は高齢化と労働力不足にインフレと円安が加わった下降傾向が続き0.9%、カナダは過去10年を上回る1.9%と予測。低中所得国・低所得国は着実に成長し、低所得国では過去10年及び高所得国を上回る平均5.0%で、引き続き農産物需要の重要ファクターと予想。成長率は地域間の差が大きく、中国、インド、東南アジアは世界で最も成長率が高く、東アジアと中南米(3.0%)はより保守的な成長を予測。)

果実とナッツ類の予測

果実、ナッツ類、野菜、豆類を合わせた農場出荷額は、2023年の565億ドルから2034年までに688億ドルに達すると予測されている。2034年までに、果実(柑橘類及び非柑橘類)の出荷額は、このカテゴリの合計出荷額の37%を占めるようになると見込まれる。

米国の果実とナッツ類の生産量は、この期間を通じて約500億ポンド(約23百万トン)にとどまると予想されている。これらの出荷額は、2023年の288億ドルから2034年には355億ドルに達すると予想されている。

ブドウ、イチゴ、リンゴの生産量はわずかに増加すると予想される一方、モモ、スモモ、アンズ、ネクタリン等核果類の生産量は緩やかに減少すると予想される。

柑橘類以外のすべての果実の生産量は23%増加し、221億ドルに達すると予想されている。

柑橘類の闘い

オレンジ、グレープフルーツ、レモン、タンジェリン等柑橘類の総生産量は、長期的な減少が予想期間の半ばまで続いた後、安定するものと予想されている。

報告書は、「この傾向は、オレンジとグレープフルーツの生産量が減少し、レモンとタンジェリンの生産量が増加することに起因している」としている。

カリフォルニア州は引き続き、国内最大の柑橘類生産州であると予想される。しかし、グレープフルーツとオレンジの生産量は、他の柑橘類及び非柑橘類の果実に国内市場のシェアを奪われるため、穏やかに縮小すると予想される。この期間中、同州のレモンとタンジェリンの生産は増加する。

一方、フロリダ州の柑橘類生産者にとっては、何十年にもわたる生産量の減少がさらに続くと思われる。同州内の多くの果樹園は、他の用途に転換されることが予想される。同州は何年もの間、カンキツグリーンング病と異常気象に苦しんできた。

全米の柑橘類生産量に占める割合が小さいテキサス州とアリゾナ州でも、その生産量と栽培面積が減少するものと予想される。

報告書は、「米国の柑橘類の総生産額は、価格の上昇により、2023年から34年の間に約40%増加すると予測される」としている。

417. ペルー ブルーベリー輸出額が史上最高を達成

[FreshPlaza 2025年2月26日](#)

ペルーのブルーベリー輸出は出荷量の増加と市場の拡大により史上最高の21億ドルを達成

ペルーの2024/25年度のブルーベリー出荷シーズンは、記録を達成した。2011年の商業的拡大以来、ペルーのブルーベリー部門は課題に取り組んできたが、その結果ブルーベリーは最大の輸出農産物となった。この成長は、気候条件、技術への投資、改良された品種、及び米国・中国等の国々との貿易協定によるものであり、20万人以上の雇用を生み出している。

2025年1月現在、ペルーは21億1,800万米ドルに相当する32万7千トンのブルーベリーを輸出しており、これは輸出量が54%、輸出額が22%増加したことを意味している。しかし、平均価格は6.48米ドル/kgと、21%下落した。この出荷シーズンは、初めて20億米ドルの大台を超え、亜鉛鉱石、鉄鉱石等の主要な鉱物を上回ったことで注目に値する。

この成長は、セコヤ、ユーレカ、マジカ等の新しい品種への置き換えに支えられている。ただし、ベンチュラとブリオクシの両品種を栽培する地域では、まだこうした変更が行なわれていない。品種の更新と剪定作業の遅れは、出荷量の増加にもかかわらず価格を安定させるのに役立った。

市場の多様化は、深刻な価格の下落を伴わずに成長を維持する上で役に立った。米国向けの輸出も増加したが、最も伸びたのは中国向けとヨーロッパ向けであった。ラリベルタ、ランバイエケ、イカの各県が主要な輸出向け産地であった。

米国は依然として最大の輸出先であり、出荷量は、10億4,400万米ドル相当の合計15万8千トンであった。ヨーロッパ向けは6億900万米ドル相当の9万6千トン、中国向けは2億3,700万米ドル相当の3万7千トンであった。2025/26年度の出荷シーズンには、好天を前提として、輸出量で8~13%、輸出額で4~7%の成長が見込まれる。このセクターの成功は、多様化と技術の進歩を促進する。

出典: [Blueberries Consulting](#)

418. チリ ブルーベリー輸出が市場の変化の中で7%増加

[FreshPlaza 2025年2月28日](#)

チリのブルーベリー輸出部門は、2024-25年度シーズンに適応力を見せている。チリのブルーベリー委員会は、今シーズン、2025年の第2週までに5万5,946トンが輸出され、そのうち2025年に入ってから1万1,767トンが出荷されたと報告した。これは、2023-24年度シーズンに比べて7%多いが、2022-23年度シーズンよりは18%少ない。

有機栽培ブルーベリー部門は現在、総輸出量の12%を占めており、2025年第2週までの有機栽培品の輸出量は6,759トンに達し、同週に1,855トンのピークを迎えた。

ヨーロッパ大陸は依然としてチリ産ブルーベリーの主要輸出先であり、輸出の41%を占めている。次いで米国が35%、韓国が8%、英国が7%となっている。

これらの数値は、ブルーベリー委員会の予測とよく一致しており、当初の見通しからわずか2%の差異しかない。これは、業界の戦略的計画立案能力と、世界的な需要変動や物流問題などの課題への対処能力を反映している。

チリのブルーベリー輸出産業は、品種の選択、有機栽培の拡大、及び市場の多様化に牽引され、引き続き好調を維持している。これらの要素により、チリは世界のブルーベリー市場における主要なプレーヤーとして位置付けられている。

出典: [Mintec/Expansa](#)

419. オーストラリア 高温により和ナシはより甘く、シーズンは短くなる

[FreshPlaza 2025年2月28日](#)

南オーストラリア州の和ナシの収穫は2月初旬に始まった。今シーズンは気温が高い天候のため、昨年よりも始まりが少し早い。南オーストラリア州青果物市場の販売・ビジネス開発及び広報担当マネージャーであるペニー・レイディ氏は、「暑さはナシの成熟を早める。ここ南オーストラリア州では極端な暑さに見舞われたため、ナシの成熟が少し早くなった」と述べている。(以下「」は同氏の話)

「また、春から夏を通して雨が少なく、その後、極端に暑い日が続いた。遮光ネットでさえ40度以上の気温がナシに伝わるのを防ぐことはできず、一部の果実は影響を受けた。雨不足は果実のサイズにも影響を与え、収穫されているナシは小玉が多い。」

同氏は、厳しい天候条件にもかかわらず、果実は味が良いと言う。「水やりが制限されると、果実の糖度が高くなる。和ナシはオーストラリア中で栽培されているが、南オーストラリア州産が最高の品質であると思う。」

和ナシにはいくつかの種類があるが、南オーストラリア州では、二十世紀が最も広く栽培されている。

「通常、ナシの収穫は10月まで続くが、生産者達は、2025年は天候条件のため出荷シーズンが1〜2カ月短縮されると予測している。」

和ナシはオーストラリアで人気を得ている。果汁が多いのが特徴で、過熟になる前の果実が固いうちに楽しむのが最適である。

執筆者: ニコラ・マクレガー

420. 世界のマンダリン市場(要約のみ抜粋)

[FreshPlaza 2025年2月28日](#)

世界のマンダリン市場はダイナミックなシーズンを迎えており、様々な国が独自の課題とチャンスに向き合っている。

スペインでは、マンダリンの需要が高いが、輸入品との競争が激化している。オランダでは、モロッコ産ナドルコット品種を中心に、堅調なシーズンが続いている。ベルギーでは秋の雨のためにナドルコットのシーズンが早期に終了し、一方、イタリアは厳しいクレメンタインのシーズンに直面しているが、晩生のマンダリンについては楽観的である。

ドイツでは、スペイン産の柑橘類が依然として優勢だが、価格は下落している。フランスは生産量の減少にもかかわらず、マンダリン市場は安定していると報告されている。ギリシャは、安定した価格と高い品質で良いシーズンを享受している。

北米では、カリフォルニア州の有機マンダリンの供給は、モロッコ、ペルー、チリ、南アフリカからの輸入に支えられ、堅調に推移している。

エジプトとモロッコは、世界のマンダリン貿易における競争の激化に取り組んでいる。南アフリカはマンダリンシーズンの遅れに直面しており、輸入が不足を埋めている。

中国は競争と食品安全上の懸念による耙耙柑(晴見)の販売減少に苦戦している。

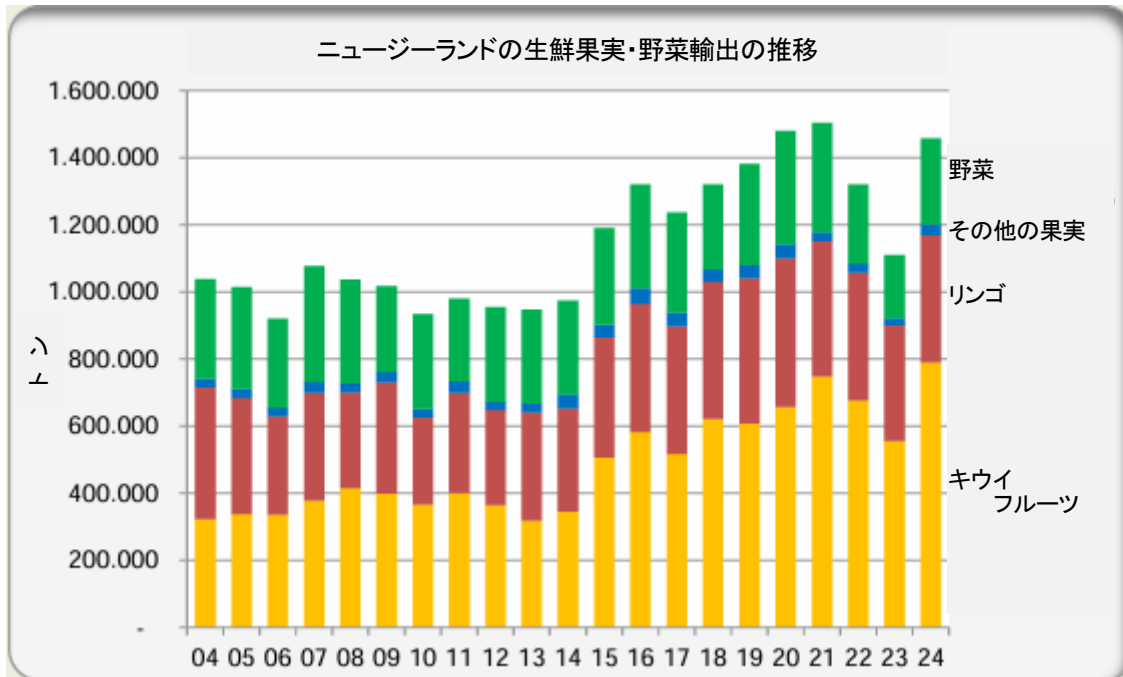
ペルーは、マンダリンの好調な出荷に牽引されて柑橘類の輸出記録を更新し、アルゼンチンは供給の増加と競争の激化に直面している。チリは主要な輸出市場で引き続きリードしており、マンダリンは依然としてその貿易の重要な部分を占めている。最後に、ウルグアイは種なし品種に焦点を当てて輸出を拡大しており、世界の柑橘類分野での地位を強化している。

421. ニュージーランド 果実と野菜の輸出が回復

Fruit & Vegetable Facts 2025年2月

輸出額は30億米ドル

ニュージーランドの果実と野菜の輸出は、過去2年間の減少から回復した。2023年の早い時期(2月)にサイクロンが全国に甚大な被害をもたらし、その結果、同年には輸出が激減した。しかし、昨年(2024年)の輸出量は2021年の記録的な水準をわずかに下回ったに過ぎない。



昨年の果実と野菜の輸出量は合計146万トンで、2023年と比較して30%増加した。2021年の輸出量は150万トン強であった。輸出額では、2024年は記録的な年で、輸出総額は30億米ドル強であった。

3分の2がキウイ

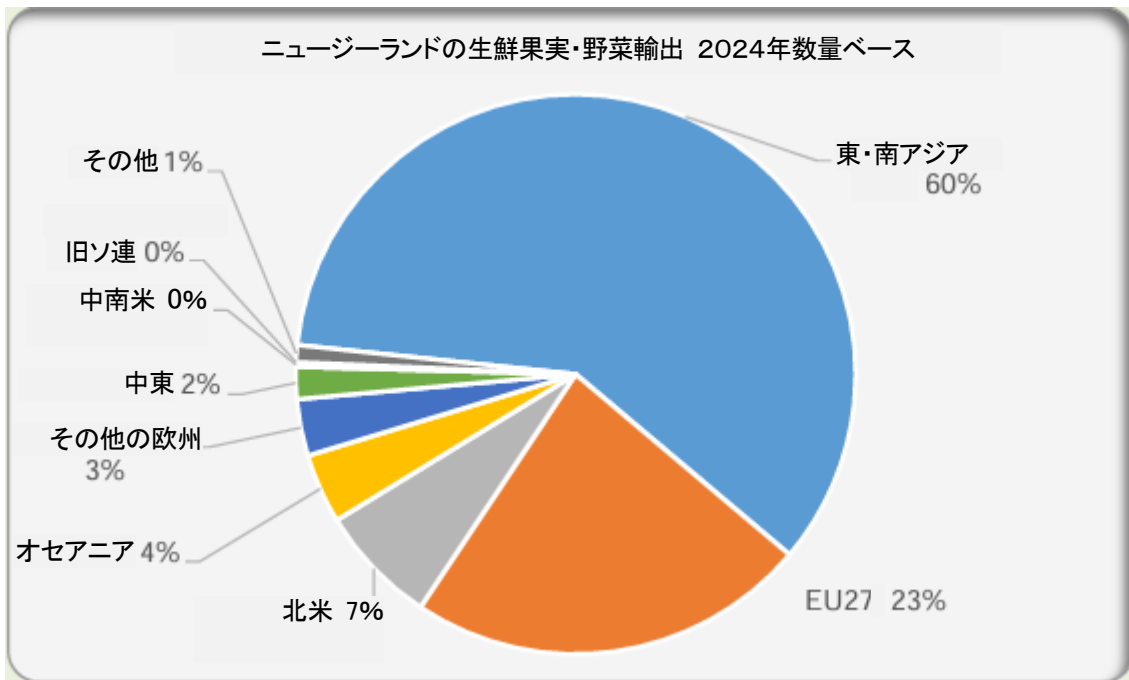
ニュージーランドの果実と野菜の輸出は、主にキウイフルーツによって推進されており、海外で販売されるすべての果実の3分の2を占めている。リンゴがそれに続き、輸出量の30%強を占めている。他の果実の輸出量はこれらと比べて少ない。

昨年は生鮮野菜の輸出も回復し、2023年のわずか19万トンから38万トンに増加した。2021年の生鮮野菜の輸出量は73万トンに達していた(原文のまま)。タマネギが主な輸出野菜で、カボチャとニンジンがそれに続く。

東・南アジアへの輸出が最も多い

東アジア・南アジアはニュージーランドの果実と野菜の輸出の主要市場であり、近年では全体の約60%を占めている。2022年まで、この地域はますます重要性を増し、EUへの輸出は減少した。最近では、輸出の約4分の1がEU向けで、以前と比べて減少している。絶対量で見ると、昨年は東・南アジアに86万7千トン、EU諸国に33万8千トンが輸出された。北米はこれに続き、輸出量は合計10万トンであった。

ニュージーランドの輸出データでは、EUへの出荷の約80%について、個別の国が特定されていない。「EU nes」(その他のEU)の分類は、ニュージーランド産品の主な輸出先と見なされているベルギーを主に指していると考えられる。中国も主要市場であり、日本が少し離れてそれに続き、その後、台湾、米国、ベトナム、韓国、英国、オーストラリア、インドが続く。

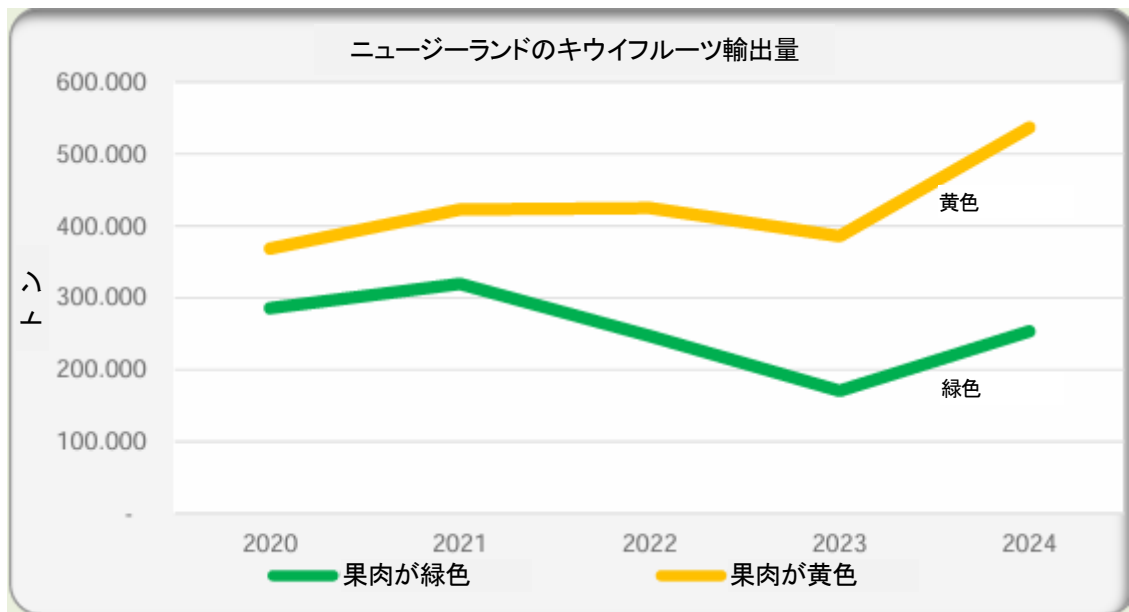


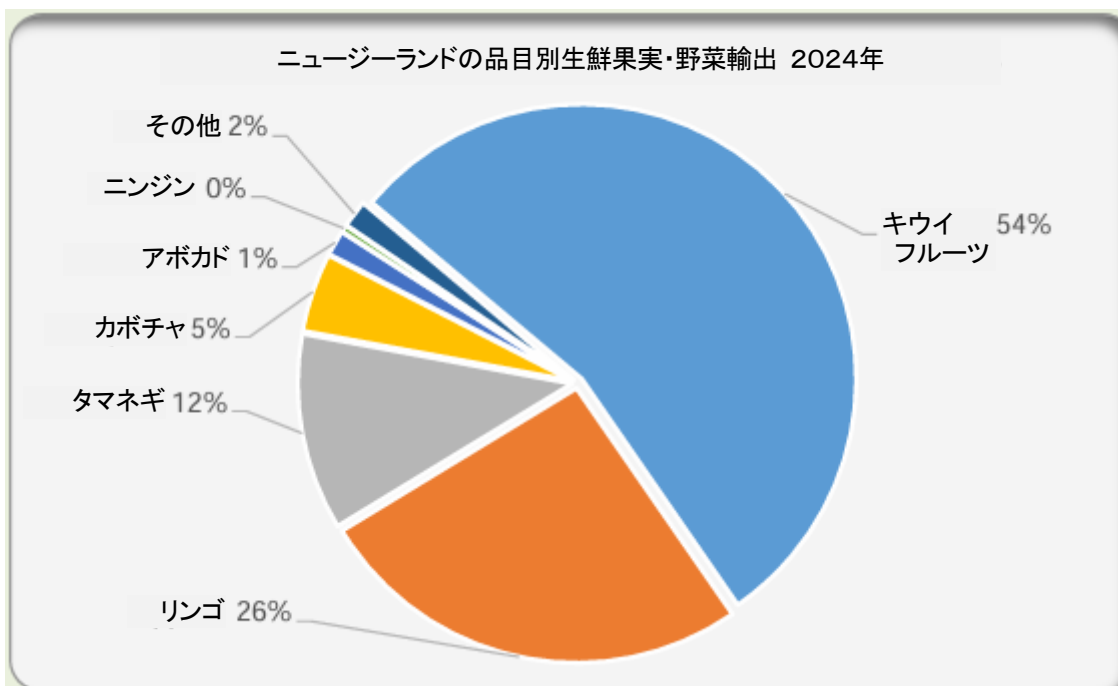
記録的なキウイ輸出

ニュージーランドのキウイフルーツの輸出は、2022年と特に2023年に急激に減少した後、昨年は完全に回復し、2023年と比較して40%以上の増となる79万トンの新記録を樹立した。これまでの記録は74万トン以上が輸出された2021年のものであった。

キウイフルーツについては、多くがEU(主にベルギー)に輸出されており、中国、日本、韓国、米国、台湾、オーストラリアがそれに続く。

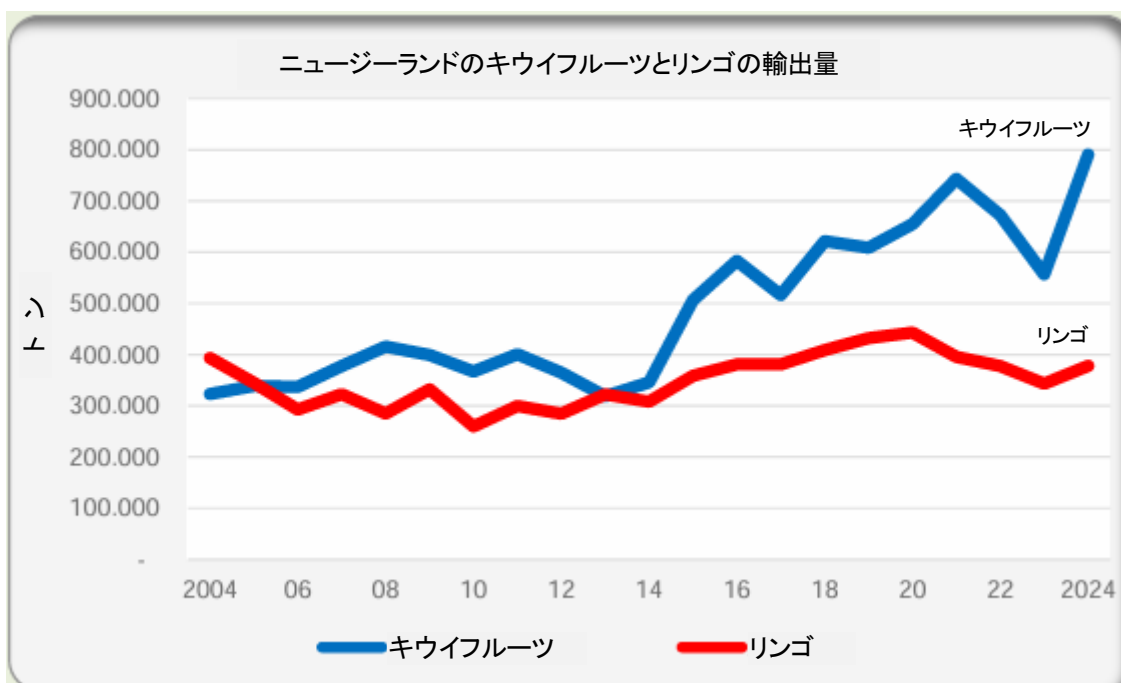
現在、キウイフルーツの輸出の3分の2はゴールド品種である。この果肉の黄色いキウイは、中国(同国への総輸出の91%を占める)と韓国(同81%)で特に人気がある。EUへの輸出では、果肉が黄色いキウイと緑のキウイの比率はほぼ半々である。



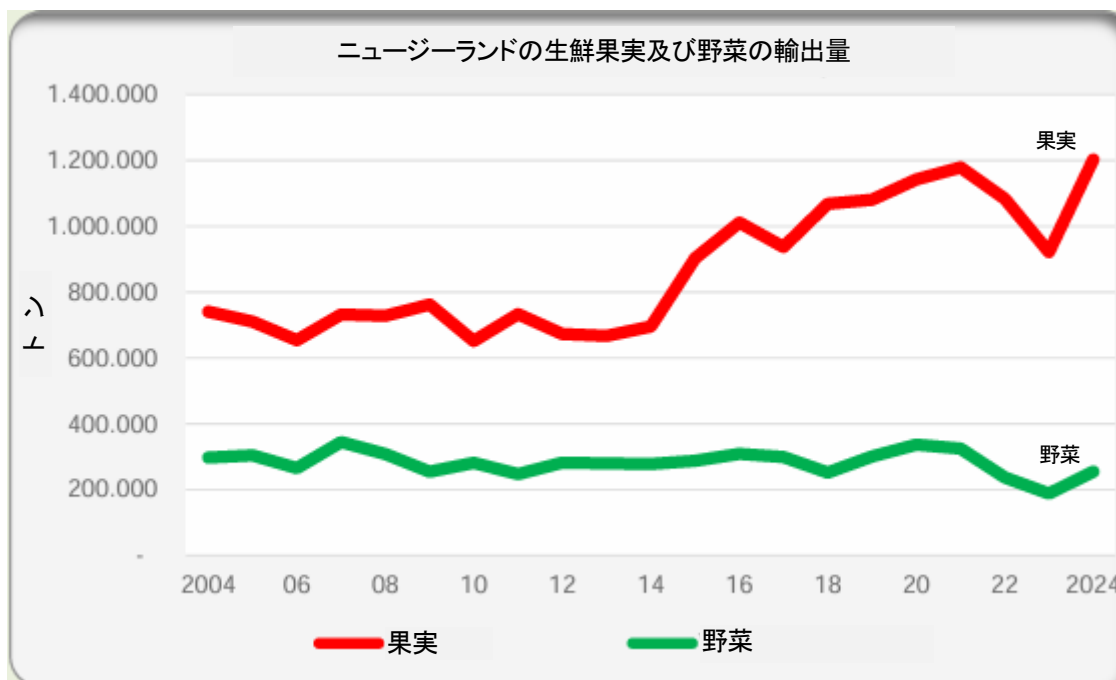


多くのリンゴが中国へ

ニュージーランドのリンゴの栽培面積は、2024/25年度シーズンに1万1千ヘクタール以上に拡大すると予想されている。2023年にはサイクロンにより、ホークスベイ地方やギズボーン地方等、主要産地のリンゴ園に甚大な被害が出た。被害の大部分は復旧されたが、このセクターは依然として債務返済の負担を負っている。2024/25年度のリンゴの収穫量は56万トンと推定されている。



昨年のリンゴの輸出量は2022年の水準に戻り、2023年より10%多い合計38万トン弱となった。特に中国への輸出は増加が続いており、2023年の4万7千トン、2022年の6万トンに続き、昨年は7万トン以上に増加した。ベトナムと台湾がこれに続き、英国は昨年3万2千トンを入力した。インドも大幅な伸びを見せ、輸出量は3万トンを超えた。タイ、米国、香港、オランダ、ドイツがそれに続いた。ニュージーランドは昨年、1万4千トンのリンゴをオランダに輸出し、これは2023年よりは少ないが、その前年よりは多い。



リンゴ品種の輸出拡大

ガラは依然として輸出されるリンゴの主要な品種であり、2023年の落ち込みからは回復したが、以前よりは少なくなった。エンヴィイは第2位で、輸出量は昨年も増加が続いた。第3位のふじもガラと同様で、反発したものの、以前の水準を下回った。ピンクレディーの輸出は比較的安定していた。ニュージーランドクイーンがこれに続き、ダズルの輸出は増加したが、ジャズの輸出は引き続き減少した。一方、ロキットは増加した。

好まれる品種は国によって大きく異なる。中国とベトナムは主要な品種をすべて輸入しているが、台湾はふじを大量に輸入している。英国は、かなりの量のプレバーンとピンクレディーを輸入している。エンヴィイは、米国で高い需要がある。オランダは、ガラに加えてピンクレディー、プレバーン、ジャズを大量に輸入している。

その他の輸出果実は、アボカド(2万トン)、サクランボ(4,500トン)、ナシ(2,100トン)、ブルーベリー(2千トン)等である。(以下、野菜について省略)

ニュージーランドの生鮮果実・野菜輸出(トン)

出典: NZ統計庁	2005	2010	2015	2021	2022	2023	2024	+/- %
世界	1,014,464	933,077	1,190,232	1,503,314	1,320,686	1,109,565	1,456,909	+31%
東・南アジア	368,124	373,846	587,062	824,881	788,502	660,259	866,711	+31%
	36%	40%	49%	55%	60%	60%	59%	
EU27	406,385	336,485	360,995	411,846	326,766	250,611	337,966	+35%
	40%	36%	30%	27%	25%	23%	23%	
北米	62,723	77,618	65,437	89,930	82,487	85,380	100,787	+18%
オセアニア	47,160	49,181	53,763	58,539	51,027	39,171	58,696	+50%
その他のヨーロッパ	115,654	69,601	64,592	52,589	29,044	34,984	47,732	+36%
中東	7,242	11,841	31,939	29,416	24,427	20,583	26,981	+31%
中南米	2,348	4,431	3,422	2,846	2,813	2,702	3,753	+39%
旧ソ連	754	4,286	9,221	20,559	4,843	5,395	55	-99%
その他	4,074	5,788	13,801	12,707	10,776	10,480	14,228	+36%

(他の統計表は省略)

執筆者: ヤン・ケース・ボーン 出典: [Fruit & Vegetable Facts](#) (出典の本文はオランダ語、図表は英語)

※ この記事及びリンク先の記事、データの転載には [Fruit & Vegetable Facts](#) の許可が必要です。
 翻訳に当たっては、[FreshPlaza \(2025年2月25日\)](#) の英文記事を参考にしました。

海外果樹農業情報 刊行物一覧

No.	調査報告書名	発行年月
112	ブラジルにおけるオレンジ及びオレンジ果汁を中心とした生産・流通事情調査報告書	11. 9
113	中国の主要都市における日本産果実の販売可能性及び中国のアウトウ産地調査報告書	11. 10
114	世界の主要果実の生産・貿易概況 2012 年版	12. 3
115	台湾における日本産果実の流通状況等実態調査報告書	12. 6
116	中国におけるブドウの生産・流通・消費調査報告書	12. 10
117	韓国の対米国 FTA 締結による韓国果樹産業への影響等調査報告書	12. 11
118	台湾における東日本大震災後の日本産果実等流通状況実態調査報告書	13. 3
119	中国におけるモモの生産・流通・消費調査報告書	13. 3
120	世界の主要果実の生産概況 2013 年版	13. 10
121	台湾における日本産果実の流通状況及び輸入に関連する規制等に係る調査報告書	14. 3
122	世界の主要果実の貿易概況 2013 年版	14. 3
123	世界の主要果実の生産概況 2014 年版	14. 10
124	世界の主要果実の生産概況 2015 年版	15. 3
125	台湾における日本産果実の流通及び輸入促進に向けた諸課題に係る調査	15. 3
126	ニュージーランドの果樹農業及び香港の日本食品・果実事情調査報告書	15. 8
127	海外の果樹産業ニュース 2015 年度版	16. 3
128	台湾における日本産食品の輸入規制強化にともなう日本産果実の流通への影響に係る調査報告書	16. 3
129	海外の果樹産業ニュース 2016 年度上期版	16. 10
130	世界の主要果実の生産概況 2016 年版	17. 2
131	海外の果樹産業ニュース 2016 年度下期版	17. 3
132	台湾における日本産果実の流通状況及び輸入促進に向けた諸課題に係る調査	17. 3
133	海外の果樹産業ニュース 2017 年度上期版	17. 9
134	世界の主要果実の生産概況 2017 年版	18. 2
135	世界の果樹産業ニュース 2017 年度下期版	18. 3
136	台湾における日本産果実の流通・消費の状況及び輸入促進に向けた諸課題に係る調査	18. 3
137	海外の果樹産業ニュース 2018 年度上期版	18. 10
138	世界の主要果実の生産概況 2018 年版	19. 2
139	海外の果樹産業ニュース 2018 年度下期版	19. 3
140	米国ワシントン州のりんご生産の現状と省力・機械化技術に関する調査報告書	19. 3
141	海外の果樹産業ニュース 2019 年度上期版	19. 10
142	欧州及びイタリアの果樹農業の現状とスマート農業に関する調査報告書	20. 3
143	海外の果樹産業ニュース 2019 年度下期版	20. 3
144	世界の主要果実の生産概況 2019 年版	20. 3
145	海外の果樹産業ニュース 2020 年度上期版	20. 9
146	世界の主要果実の生産概況 2020 年版	21. 3
147	海外の果樹産業ニュース 2020 年度下期版	21. 3
148	世界の醸造用ぶどう栽培の動向 気候変動対応と持続可能性の取組	21. 3
149	世界の主要果実の貿易概況 2021 年版	21. 5
150	海外の果樹産業ニュース 2021 年度上期版	21. 9
151	世界の主要果実の生産概況 2021 年版	22. 3
152	海外の果樹産業ニュース 2021 年度下期版	22. 3
153	世界の生食用ぶどう産業 品種動向と栽培流通技術	22. 3
154	世界の主要果実の貿易概況 2022 年版	22. 5
155	海外の果樹産業ニュース 2022 年度上期版	22. 9
156	海外の果樹産業ニュース 2022 年度下期版	23. 3
157	世界のもも産業 生産・消費動向と栽培流通技術	23. 3
158	世界の主要果実の生産・貿易概況 2022 年版	23. 3
159	日本の果実の貿易概況 2022 年版	23. 4
160	海外の果樹産業ニュース 2023 年度上期版	23. 7
161	海外の果樹産業ニュース 2023 年度中期版	23. 11
162	世界の主要果実の生産・貿易概況 2023 年版	24. 1
163	世界のおとうろ産業 生産・流通の現状と品種・栽培流通技術	24. 3
164	新型コロナウイルス禍の世界の果樹農業 生産流通消費への影響と今後の対応	24. 3
165	海外の果樹産業ニュース 2023 年度下期版	24. 3
166	日本の果実の貿易概況 2023 年版	24. 4
167	海外の果樹産業ニュース 2024 年度上期版	24. 7
168	海外の果樹産業ニュース 2024 年度中期版	24. 11
169	世界の主要果実の生産・貿易概況 2024 年版	25. 1
170	世界のカンキツ産業 生産流通の現状と栽培流通技術	25. 3

